

高等専門学校機関別認証評価

# 自己評価書

平成19年6月

大分工業高等専門学校



## 目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	5
	基準2 教育組織（実施体制）	43
	基準3 教員及び教育支援者	93
	基準4 学生の受入	139
	基準5 教育内容及び方法	163
	基準6 教育の成果	247
	基準7 学生支援等	285
	基準8 施設・設備	329
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	351
	基準10 財務	401
	基準11 管理運営	419



## I 高等専門学校の現況及び特徴

### 1 現況

#### (1) 高等専門学校名

大分工業高等専門学校

#### (2) 所在地

大分県大分市

#### (3) 学科等の構成

学 科：機械工学科，電気電子工学科，  
制御情報工学科，都市システム工学科  
専攻科：機械・環境システム工学専攻，  
電気電子情報工学専攻

#### (4) 学生数及び教員数

(平成19年5月1日現在)

学生数：学 科 8 1 1 人

	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	42	45	38	45	34	204
電気電子工学科	43	38	43	43	39	206
制御情報工学科	42	40	42	38	36	198
都市システム工学科	44	36	41	42		163
土木工学科				1	39	40
計	171	159	164	169	148	811

専攻科 4 2 人

	1年	2年	計
機械・環境システム工学専攻	10	14	24
電気電子情報工学専攻	9	9	18
計	19	23	42

専任教員数：6 2 人

助手数：2 人

	校長	教授	准教授	講師	助教	助手	計
校長	1						1
一般科目		8	10				18
機械工学科		4	6	2			12
電気電子工学科		3	4	2	1	1	11
制御情報工学科		3	5	1	1	1	11
都市システム工学科		4	5		2		11
計	1	22	30	5	4	2	64

### 2 特徴

#### (1) 沿革

本校は、地域産業の振興に寄与する実践的技術者の育

成を目的として昭和38年に大分県における最初の理工系高等教育機関として県庁所在地に設置され、機械工学科、電気工学科の2学科3学級で開校した。その後、昭和42年度に土木工学科を増設し、平成元年度には機械工学科の1学級を制御情報工学科へと改組し、4専門学科体制となった。さらに、平成13年に電気工学科を電気電子工学科に改組し、平成16年に土木工学科を都市システム工学科に改組した。その間、準学士課程卒業後も進学意欲を持つ学生の増加に対応し、平成15年には機械・環境システム工学専攻、電気電子情報工学専攻の2専攻からなる専攻科が設置された。

#### (2) 象徴

校章は、大の字を円形に図案化したものであり、正門近くモニュメントには哲学者カール・ヒルティの言葉 AMOR OMNIA VINCIT (愛はすべてに打ち勝つ) が刻まれている。モニュメント自体がシンボルとなり、刻まれた言葉は教育理念や学習・教育目標へと発展した。

#### (3) 教育課程

準学士課程の低学年(1～3年生)教育は「基礎力養成プログラム」と称し、高等学校に相当する教育に加え技術者教育への導入に必要な基礎学力養成に力点を置いている。準学士課程の高学年(4～5年生)と専攻科課程の教育はJABEE認定を受けており「システムデザイン工学プログラム」と称している。このプログラム前半では、教養基礎教育、科学や工学の基礎教育及び技術者としてのセンスを磨く教育に重点を置き、後半の専攻科教育では、専門工学の知識獲得・継続的研究活動と同時に複合的な工学及び科学分野の知識とその運用力をも修得することを主眼とし、技術者倫理やコミュニケーション能力など、技術者に必要な素養も修得する。

#### (4) 地域連携

本校は会員企業・団体等とともに大分高専テクノフォーラムを設立し、技術交流を深め地域の産業と文化の発展に寄与しているほか、地域交流と共に、子供たちに科学技術を紹介し理科離れの防止に寄与するため「科学と遊ぼう」と開放講座等を実施している。これらは地域連携交流センターを中心に、産学官連携、自治体等連携、地域教育連携の3つを柱とした地域連携活動の一環事業となっており、それらの需要の高さから地域に開かれた高専としての役割がますます重要になっている。

## Ⅱ 目的

### 1. 大分工業高等専門学校の使命 創設時に目的を定め、学則の第1章第1条に以下のように掲げている：

「本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成し、心身ともに健康な技術者を養成することを目的とする。」

その後、教育理念、学習・教育目標等が明文化されたことにより上記目的は本校の使命と言えるものである。

### 2. 教育理念 心身ともに健康な技術者の具体的条件を含め、以下を教育理念としている：

「人間性に溢れ国際感覚を備え、探究心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」

### 3. 育成すべき人材像 教育理念の下、準学士課程及び専攻科課程で育成すべき人材像は以下の通りである：

**準学士課程** ○5年間の一貫教育により、深く専門の学芸を教授し、豊かな教養と高度な専門技術を身につけた技術者の育成 ○対象の本質を理解し分析する能力と、モデル化し総合する能力を備え、グループにあっては強調し互いに高め合うことのできる、専門基礎技術力と教養基礎力に裏打ちされた実践的技術者の育成

**専攻科課程** ○高度情報化社会における先端技術に対応しうる課題探求能力を身につけた独創的かつ創造的研究開発能力を有する人材の育成 ○自ら方向性を定め学習し問題を発見して解析する力と問題を解決し自ら設計して新しいものを生み出す力を備え高度な技術力と豊かな教養力に裏打ちされた創造的技術者の育成

### 4. 学習・教育目標

準学士課程卒業及び専攻科課程修了時に教育理念に沿った人材の輩出のため、学生が身につける素養や成果を学習・教育目標として定めている。標語・目標・サブ目標・達成すべき具体的な目標の4階層からなり、達成すべき具体的な目標は授業科目系統図を通じ個々の教科と対応している。学生はシラバスやポートフォリオで成績を自己管理し、単位修得し学年進行を行うことで目標の達成度が確認できるようになっている。

#### 準学士課程

##### 【標語A 愛の精神】

目標：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける

[サブ目標A-1：自ら考える力を身につける 具体的目標(1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること 具体的目標(2) 論理的に自らの考え方を構築することができること] [サブ目標A-2 技術者としての倫理を身につける 具体的目標(1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること 具体的目標(2) いつくしみの心を持ち、相手の立場に立って考えることができること]

##### 【標語B 科学や工学の基礎】

目標：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける

[サブ目標B-1：数学、自然科学の力を身につける 具体的目標(1) 数学の基本的な問題が解けること 具体的目標(2) 自然科学の基本的な問題が解けること] [サブ目標B-2：情報技術、専門工学の基礎を身につける 具体的目標(1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること]

##### 【標語C コミュニケーション能力】

目標：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける

[サブ目標C-1：表現する力、ディスカッションする力を身につける 具体的目標(1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように表現ができること] [サブ目標C-2：英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける 具体的目標(1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単な作文ができること]

##### 【標語D 技術者としてのセンス】

目標：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける

[サブ目標D-1：探求心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける 具体的目標(1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること 具体的目標(2) 問題を深く掘り下げる努力ができること] [サブ目標D-2：協力して問題を解決する力を身につける 具体的目標(1) チームで問題に取り組む体

験を得ること]

**【標語E 専門工学の活用】**

目標：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける

[サブ目標E-1：専門工学の知識を獲得する] [サブ目標E-2：工学の相互関連性を理解する] [サブ目標E-3：専門分野における研究開発の体験を通じて問題を発見し、解決する力を身につける]

**専攻科課程**

**【標語A 愛の精神】**

目標：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養，自ら考える力，いつくしみの心を身につける

[サブ目標A-1：自ら考える力を身につける 具体的目標(1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること 具体的目標(2) 情報を収集し，論理的に自らの考えを構築することができる 具体的目標(3) 事実と自らの考え，他社の考えと自らの考えとを区別できること] [サブ目標A-2 技術者としての倫理を身につける 具体的目標(1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること 具体的目標(2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること]

**【標語B 科学や工学の基礎】**

目標：科学の粋を極める技術者に必要な数学，自然科学，情報技術，専門工学の基礎を身につける

[サブ目標B-1：数学，自然科学の力を身につける 具体的目標(1) 数学の基本的な問題が解けること 具体的目標(2) 自然現象の本質を問う問題が解けること] [サブ目標B-2：情報技術，専門工学の基礎を身につける 具体的目標(1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること]

**【標語C コミュニケーション能力】**

目標：地域や国際舞台での活躍をめざして，多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける

[サブ目標C-1：表現する力，ディスカッションする力を身につける 具体的目標(1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき，そのテーマについて議論できること] [サブ目標C-2：英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける 具体的目標(1) 英語で表現された文章を理解でき，英語による簡単なコミュニケーションができること]

**【標語D 技術者としてのセンス】**

目標：創造的技術者としてのセンスを磨き，探究心，分析力，イメージ力を身につける

[サブ目標D-1：探求心，分析力，イメージ力，デザイン能力を身につける 具体的目標(1) 技術的対象に対して，計測測定を行い，問題を分析することができること 具体的目標(2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして，その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること 具体的目標(3) 問題を深く掘り下げる努力ができること] [サブ目標D-2：協力して問題を解決する体験を得ること 具体的目標(1) 問題をチームで解決する体験を得ること 具体的目標(2) 問題解決を分担し，自らの分担を見定めて行動できること]

**【標語E 専門工学の活用】**

目標：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し，これを活用する力を身につける

[サブ目標E-1：専門工学の知識を獲得する 具体的目標(1) 自らの専門性に即して，一つの分野を深く掘り下げることで専門工学の知識があること] [サブ目標E-2：工学の相互関連性を理解する 具体的目標(1) 技術が，ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること 具体的目標(2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること] [サブ目標E-3：専門分野における研究開発の体験を通じて問題を発見し，解決する力を身につける 具体的目標(1) 自らの専門分野において，問題の所在と性質を見極め，その対処法あるいは解決法をデザインし，これを実行することができること]





### Ⅲ 基準ごとの自己評価

#### 基準 1 高等専門学校の目的

##### (1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び、養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

(観点到に係る状況)

本校は創設時に教育基本法・学校基本法に則した目的を定め，使命として学則に掲げている(資料 1-1-①-1)。

#### 資料 1-1-①-1

##### 大分工業高等専門学校学則 (抜粋)

制 定 平成 16 年 4 月 1 日  
最終改正 平成 19 年 2 月 20 日

##### 第 1 章 本校の目的

(目的)

第 1 条 本校は，教育基本法にのっとり，及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成し，心身ともに健康な技術者を養成することを目的とする。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

この目的(使命)のもと，開学当時から技術者を生かす愛の精神の必要性が説かれ(資料 1-1-①-2)，校舎竣工記念の若人集成の美と技術を象徴するモニュメントには哲学者カール・ヒルティの言葉 AMOR OMNIA VINCIT (愛はすべてに打ち勝つ)が刻まれ，本校の象徴になっている(資料 1-1-①-3)。

#### 資料 1-1-①-2

120名(機械科80名、電気科40名[内女子4名])の緊張した童顔を前に、諄々と諭すように、校長が静かに語り掛ける。「日本興隆の柱となる技術者はどうゆうものであるかについて考えてみたいと思います。それは、技術そのものが優秀であることは勿論であります、それだけでは足りないと思います。技術を愛の精神が生かさなければなりません。この愛の精神とは自分を愛するように隣人を愛する精神であります。この精神があればおのずから協調性のある誠実な技術者が生まれ、その技術が本当に社会の役に立つようになると信じるのであります。そしてその人自身の技術もこの精神によって更に進歩するに違いないと思います。」いわゆる「黄金律」を引用して「技術と教養と愛の精神を」宣言して堅実な美しい校風の樹立を目指したのであった。

(出典：大分高専三十周年記念誌 5 頁)

#### 資料 1-1-①-3



(出典：システムデザイン工学プログラム履修の手引き)

平成 12～15 年度の校舎改修に際し、将来計画の基礎となる教育環境改善計画・施設長期計画（資料編）の中で、教育研究活動と環境整備の基本方針である教育理念を実現するための教育方針・教育目標が明確に打ち出され、これに沿って本校の教育改善が進められてきた（資料 1-1-①-4, 5）。

資料 1-1-①-4

② 教育研究の方針

教育理念を具現化する教育方針

- |                |           |
|----------------|-----------|
| 基礎学力支援プログラムの実行 | 編入学制度の多様化 |
| 実社会との積極的交流     | 国際性の育成    |
| 自主性及び探求心の育成    | 教育体制の改革   |



少人数教育をベースとして

*Oita National College of Tech.*

③ 教育研究の目標



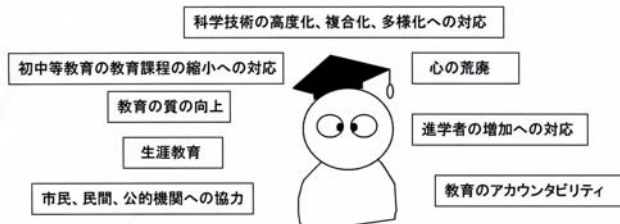
教育システム

*Oita National College of Tech.*

(1) 施設整備の基本方針

① 教育研究の理念

高専が取り組むべき主要事項



未来へむけて

- 大分高専の教育目標
- (1) 高い専門性を育む
  - (2) 相互に関連した高度技術社会における自己実現能力を育む
  - (3) グローバルな視野に立った、発想力、構想力、実現化能力を育む
  - (4) 技術への喜び知への愛を育む

教育理念

人間性に溢れ国際感覚を身につけた、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の育成



(出典：教育環境改善計画・施設長期計画（資料編）)

資料 1-1-①-5

教育環境改善計画の概要



(出典：教育環境改善計画・施設長期計画 (資料編))

それらは、その後専攻科設置と JABEE の受審に向け整理され、使命 (資料 1-1-①-1) のもと、教育研究活動の基本方針である教育理念 (教育目標) と準学士・専攻科課程で育成すべき人材像を明文化した (資料 1-1-①-6)。

資料 1-1-①-6

教育の目的と教育理念

本校の目的は「教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成し、心身ともに健康な技術者を育成すること」であり、教育理念は「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する」技術者を育成することである。

本科においては、対象の本質を理解し分析する能力と、モデル化し総合する能力を備え、グループにあっては協調し、お互いに高めあうことのできる、専門基礎技術力と教養基礎力に裏打ちされた、実践的技術者を育成する。

専攻科においては、高度情報化社会における先端技術に対応しうる課題探求能力・研究開発能力を有し、高度な専門力と豊かな教養力を備える創造的技術者を育成する。また、自ら方向性を定め学習し、問題を発見して解析する力と、問題を解決し自ら設計して新しいものを産み出す力を備え、高度な技術力と豊かな教養力に裏打ちされた、創造的技術者を育成する。

(出典：学校要覧)

準学士課程編入学と専攻科課程受験生に対しては、各々の学生募集要項（資料 1-1-①-7, 8）中に目的や育成すべき人材像を示している。

## 資料 1-1-①-7

## 1. 目的

高等専門学校は、大学と同様の高等教育機関で、5年間の一貫教育により、深く専門の学芸を教授し、豊かな教養と高度な専門技術を身に付けた技術者を育成することを目的としています。

本校の編入学制度は、こうした高等専門学校設立の趣旨にそって、高等学校の卒業生にも等しく門戸を開こうとするものです。

（出典：平成 20 年度編入学生募集要項）

## 資料 1-1-①-8

## 2. 専攻科の目的

本専攻科は、高度情報化社会における先端技術に対応し得る、課題探求能力を身に付けた独創的かつ創造的研究開発能力を有する人材の育成を目的としています。

（出典：平成 20 年度専攻科学生募集要項）

先の将来計画では教育理念の実現を学生の成長と学習経験に則し達成させるため、準学士課程と計画段階の専攻科課程を含め、学年を志学・修学・専学の 3 段階（資料 1-1-①-9）に分けた教育指導を行い、使命達成もこれと整合し段階的に進めるものとした。

専攻科を設置し、4年生以上に日本技術者教育認定機構(JABEE)認定の教育プログラム（システムデザイン工学プログラム）を適用しているが、準学士課程卒業は卒業要件、専攻科課程修了は JABEE 基準の修了要件で判定している。授業時間と授業形態統一により、準学士課程 3 年生までは JABEE 基準とほぼ同等の教育プログラム（基礎力養成プログラム）を適用するため、前述の段階区分は一部変更され、改めて学年進行と教育プログラム構成との対応を定めた（資料 1-1-①-10）。

## 資料 1-1-①-9

## 3. 1 志学段階(低学年)教育

工学の導入教育に力を入れるとともに、人間性、探求心、創造性、基礎表現能力の基盤を与えることを目標とする。人間性の育成には、これまで充実してきた社会・人文教育に加え、礼儀やマナーなどの基本的な生活習慣の教育を改めて行う一方、校外ホームルームの実施、ボランティア活動の推進を行う。探求心や創造性の基盤を与え、基礎表現能力の育成をはかるために、志学段階(低学年)から各個人固有のテーマで自由研究を行い、結果の発表を義務付けるような科目を設ける。また課外活動に力を入れるとともにカリキュラムの面からも志学段階(低学年)における選択授業の導入を行い、学生の自主性を尊重する体制を整える。

## 3. 2 修学段階(中学年)教育

5年間一貫教育としてみた高専教育課程では低学年に位置付けされる 3 年生において学力低下等の中だるみ現象が大きな問題になっている。このことを踏まえ、3、4 年生を修学段階(中学年)として位置付け本校の教育理念を実現するための第 2 段階とする。高度技術者の育成を行うという工業高専の使命から、専門科目の習得には十分な期間が必要であることも考慮すると、3 年生は低学年ではないとするのは適切な考え方である。

## 3. 3 専学段階(高学年)教育

高専 5 年生、専攻科生(計画中)を専学段階(高学年)と位置付け、高専での教育課程の最終段階として、高度情報化社会における先端技術に対応しうる課題探求能力の養成を目標とする。

高専 5 年生、専攻科生は専門教育の基盤の上に専門領域の拡大をはかり、学際領域まで広がる教育を受けることができる。また卒業研究や特別研究に重点を置き、志学段階(低学年)、修学段階(中学年)で培った探求心や創造性、表現能力の実践の場とする。

（出典：教育環境改善計画・施設長期計画（資料編））

## 資料 1-1-①-10

1～3年（志学）	4, 5年（修学）	専攻科（専学）
基礎力養成プログラム	システムデザイン工学プログラム	
準学士課程		専攻科課程

(出典：教育システム委員会資料)

教育理念に基づく人材育成の基本的成果は、連続する2つの教育プログラムに則り設定された学習・教育目標が準学士課程卒業及び専攻科課程を修了時点で全て達成されることである。学習・教育目標は標語・目標・サブ目標・具体的達成目標と階層構造をなし、具体的達成目標から準学士課程と専攻科課程で分離されているが、サブ目標までは教育理念と志・修・専学段階を考慮して設定され、学内外配布資料等はサブ目標まで記載されることが多い。包括的・抽象的な教育理念を学生に分かり易く、具体的教科名と対応させ単位習得で目標の段階的達成が評価できるよう工夫している。学習・教育目標は創立時の精神を尊重し、校歌（資料1-1-①-11）を考慮して作られた。

## 資料 1-1-①-11

<p style="text-align: center;">三</p> <p>工業日本興隆の 柱とならんのだみもて 科学の粋をきわめつつ 愛の心をつちかいて 世界の平和にささげんと 若人われらここに立つ</p>	<p style="text-align: center;">二</p> <p>秀麗九重国東と 海辺山辺のおちこちゆ 青春の夢いだきつつ 心の玉をみがきあい 国土のさちにつくさんと つどいてわれらここにあり</p>	<p style="text-align: center;">一</p> <p style="text-align: center;">校 歌</p> <p>明野台地のあさぼらけ 紺青映ゆる豊の海 姿さやけき由布鶴見 高き技術を身につけて 郷土のさかえきずかんと 若人われらここに立つ</p>
--	---	--

(出典：学生便覧)

準学士課程の学習・教育目標は標語A～Eに対応し（資料1-1-①-12）、具体的目標12項目、評価方法が明記されている（資料1-1-①-13）。この課程は標語Eの達成目標は設定しておらず、A～Dを達成することで卒業時に準学士の称号が授与される。

資料 1 - 1 - ① - 12

教育理念

人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の育成

学習・教育目標 (本科)

- (A) 愛の精神：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いっしょの心を身に付ける
  - (A1) 自ら考える力を身につける
    - (1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること
    - (2) 論理的に自らの考えを構築することができること
  - (A2) 技術者としての倫理を身につける
    - (1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること
    - (2) いっしょの心を持ち、相手の立場に立って考えることができること
- (B) 科学や工学の基礎：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける
  - (B1) 数学、自然科学の力を身につける
    - (1) 数学の基本的な問題が解けること
    - (2) 自然科学の基本的な問題が解けること
  - (B2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける
    - (1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること
- (C) コミュニケーション能力：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける
  - (C1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける
    - (1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように表現できること
  - (C2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける
    - (1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単な作文ができること
- (D) 技術者としてのセンス：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける
  - (D1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける
    - (1) 技術的对象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること
    - (2) 問題を深く掘り下げる努力ができること
  - (D2) 協力して問題を解決する力を身につける
    - (1) チームで問題に取り組む体験を得ること
- (E) 専門工学の活用：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける
  - (E1) 専門工学の知識を獲得する
  - (E2) 工学の相互関連性を理解する
  - (E3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける

シラバスの利用方法について

シラバスは、各科目担当教員が授業開始に先立ち受講者に提示する授業概要のことです。これは本校の教育課程の編成の趣旨に沿って作成されており、当該科目の授業概要、学習（達成）目標と評価方法、詳細な授業内容（計画）、使用する教科書・参考図書・資料、事前に行う準備学習（必要な予備知識）、関連科目、総合評価の方法などが明記してあります。このシラバスを讀めば、受講者は事前に科目担当教員が何を目標として講義するのか、また、学生諸君が何をどこまで、どのような方法で学習するのかも知ることができます。このシラバスの内容や情報を十分に理解して、今後の履修計画の立案や理解度の自己点検などに積極的に活用してください。

シラバス利用に際しての留意点

- (1) 履修計画
 

本校における履修に関しては、「本科の卒業要件」、「専攻科の修了要件」、「学位授与要件」、「技術者教育プログラム（システムデザイン工学プログラム）の修了要件」を考慮に入れた履修計画を立てることが必要です。尚、4、5年及び専攻科の科目の「学年・学期」の欄に「◎科目」などとなるのは、科目の「システムデザイン工学プログラム」上の分類を表しています。◎科目はプログラム上における必須科目になっていなくても必ず修得しなければなりません。また、○科目と◎科目はプログラム上の選択科目です。詳細は「システムデザイン工学プログラム履修の手引き」を見て下さい。
- (2) 単位の認定
 

各科目の単位認定は、本校の学習・教育目標を考慮して、科目ごとに定められた達成目標に達しているか否かによってなされます。評価方法については、当該科目の定める評価として適当な方法を各科目担当者が定め、総合的に評価しています。詳細は各シラバスの「総合評価」欄を参照してください。尚、各科目の合格点は60点以上と定められていますので、学年末の総合評価がこれに達していることが単位要件となります。
- (3) 達成目標と評価方法
 

この欄は社会の要請する水準を考慮して、「何がどの程度できるようになるか」と、その評価を行う方法が具体的に書かれています。例えば、(定期試験)とあるのは、その目標の達成度が定期試験によって評価されることを示しています。また右端の英数字は、この科目が本校およびJABEEの学習・教育目標のどれを達成するための教科であるのかを記号で表しています。
- (4) 回、授業項目、内容
 

毎四半期の授業内容が具体的に書かれています。「回」は何度目の授業であるかを序数で表わしています。例えば、座学などでは1コマ(90分)を1回とし、実験・実習など2コマ(90分×2)連続の場合はこのコマを1回と表記しています。
- (5) 理解度の自己点検、総合達成度
 

授業内容の右の欄は、学生による理解度の自己点検欄になっています。【理解の度合い】、【試験の点数】、【総合評価】などの欄は適宜記入して、自己評価・点検に努め学習計画に役立てましょう。
- (6) 事前準備学習
 

専攻科ではシラバスに「事前準備学習」の欄があります。履修の前提として事前に行う準備学習の内容が指定されていますので、よく読んで各自で対応してください。
- (7) 関連科目
 

シラバス冊子前段の授業科目系統図に示した、この科目と他の科目との関連性を示したものです。履修の際の参考にしてください。

(出典：シラバス)

資料 1 - 1 - ① - 13

標語	目標	サブ目標	[準学士課程において達成すべき(具体的な)目標]	評価方法
A 愛の精神	世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いっしょの心を身につける	A-1 自ら考える力を身につける	(1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 論理的に自らの考えを構築することができること	社会系必修科目を修得
		A-2 技術者としての倫理を身につける	(1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること (2) いっしょの心を持ち、相手の立場に立って考えることができること	特別活動を履修
B 科学や工学の基礎	科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける	B-1 数学、自然科学の力を身につける	(1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然科学の基本的な問題が解けること	数学、自然科学、体育系の必修科目を修得
		B-2 情報技術、専門工学の基礎を身につける	(1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること	情報技術系、専門の必修科目を修得
C コミュニケーション能力	地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける	C-1 表現する力、ディスカッションする力を身につける	(1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように表現できること	国語系の必修科目を修得
		C-2 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける	(1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単な作文ができること	英語系の必修科目を修得
D 技術者としてのセンス	創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける	D-1 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける	(1) 技術的对象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) 問題を深く掘り下げる努力ができること	必修の実験・実習、卒業研究を修得
		D-2 協力して問題を解決する力を身につける	(1) チームで問題に取り組む体験を得ること	PBLに対応する実験・実習、または校外実習単位を修得
E 専門工学の活用	専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける	E-1 専門工学の知識を獲得する		
		E-2 工学の相互関連性を理解する		
		E-3 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける		

(出典：教育システム委員会資料 準学士課程学習・教育目標(志学・修学段階))

専攻科課程の学習・教育目標も標語A～Eに対応し（資料1-1-①-14）、具体的目標は19項目、評価方法が明記され（資料1-1-①-15）、A～Eを達成することで修了時に技術士の1次試験の免除、修習技術者（登録すれば技術士補）と同時に学士の称号が授与されるが、その評価方法はJABEE評価基準に準拠する。

## 資料1-1-①-14

## 教育理念

人間性に溢れ国際感覚を備え、  
探求心、創造性、表現能力を有する技術者を育成

## 学習・教育目標

- (A) **愛の精神**:世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける
- (A 1) 自ら考える力を身につける
- (1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること
  - (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること
  - (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること
- (A 2) 技術者としての倫理を身につける
- (1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること
  - (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること
- (B) **科学や工学の基礎**:科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける
- (B 1) 数学、自然科学の力を身につける
- (1) 数学の基本的な問題が解けること
  - (2) 自然現象の本質を問う問題が解けること
- (B 2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける
- (1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること
- (C) **コミュニケーション能力**:地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける
- (C 1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける
- (1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること
- (C 2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける
- (1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること
- (D) **技術者としてのセンス**:創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける
- (D 1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける
- (1) 技術の対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること
  - (2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること
  - (3) 問題を深く掘り下げる努力ができること
- (D 2) 協力して問題を解決する力を身につける
- (1) 問題をチームで解決する体験を得ること
  - (2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること
- (E) **専門工学の活用**:専門工学の知識を修得してその相互関係性を理解し、これを活用する力を身につける
- (E 1) 専門工学の知識を獲得する
- (1) 自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げることで専門工学の知識があること
- (E 2) 工学の相互関係性を理解する
- (1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること
  - (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること
- (E 3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける
- (1) 自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること

(出典：専攻科シラバス)

資料 1 - 1 - ① - 15

標語	目標	サブ目標	システムデザイン工学プログラムにおいて全員が満たすべき具体的な目標（全員が達成すべき目標）	評価方法
A 愛の精神	世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いっしょくしみの心を身につける	A-1 自ら考える力を身につける	(1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること	◎科目の修得 ○2科目以上修得 ディベート試験合格
		A-2 技術者としての倫理を身につける	(1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること	技術者倫理の修得
B 科学や工学の基礎	科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける	B-1 数学、自然科学の力を身につける	(1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然現象の本質を問う問題が解けること	◎科目の修得 ○2科目以上修得 総合的試験の合格または技術士1次試験
		B-2 情報技術、専門工学の基礎を身につける	(1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること	◎科目の修得 ◎と○科目から10科目以上、15単位以上修得 総合的試験に合格または技術士1次試験
C コミュニケーション能力	地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける	C-1 表現する力、ディスカッションする力を身につける	(1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること	◎と○科目の修得 学外発表
		C-2 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける	(1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること	◎科目の修得 ○1科目以上修得 英語資格試験
D 技術者としてのセンス	創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける	D-1 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける	(1) 技術の対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること (3) 問題を深く掘り下げる努力ができること	◎科目の修得
		D-2 協力で問題を解決する力を身につける	(1) 問題をチームで解決する体験を得ること (2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること	◎科目の修得 インターンシップ PBL関連科目の総合審査会
E 専門工学の活用	専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける	E-1 専門工学の知識を獲得する	(1) 自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げるのできる専門工学の知識があること	○10科目以上修得 小論文試験に合格または学位授与機構小論文審査に合格
		E-2 工学の相互関連性を理解する	(1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること	◎科目を修得 ○科目から2科目以上（専門科目を1科目以上）修得
		E-3 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける	(1) 自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること	特別研究の修得

(出典：教育システム委員会資料 専攻科課程学習・教育目標(専学段階))

準学士課程修学段階は JABEE 対応のシステムデザイン工学プログラムが適用され、卒業時は準学士課程の学習・教育目標達成の評価が行われる。基礎力養成プログラムとシステムデザイン工学プログラムは授業科目系統図（資料 1 - 1 - ① - 16）で低学年から高学年、基礎科目から応用科目の連続性を考慮して設計され、個々の具体的目標が 1 つ以上の教科と対応しているため、学生は、単位修得による学年進行で学習・教育目標を達成し、卒業要件を満たすことができる。一般科目は専門 4 科に共通、専門科目は学科で若干差はあるが、達成すべき学習・教育目標が専門 4 科で共通となるように作られている。

学生は計画的に単位を修得して、試験解説時等にシラバスの理解度の自己点検欄、ポートフォリオの成績表綴り、学習・教育目標達成度チェック表、各種プログラム修了要件チェック表で目的達成度確認と学習成績を自己管理し、クラス担任や専攻主任はそれらを見て適切なアドバイスを行っている（資料 1 - 1 - ① - 17, 18, 19, 20）。











資料 1 - 1 - ① - 17

教科目名 ○○○○ (○○○○○)

学科名・学年 : ○○○○工学科 ○年 (教育プログラム 第○学年 ○○科目)  
 単位数など : 必修 ○単位 (前期○コマ, 後期○コマ, 学習保証時間○○時間)  
 担当教員 : ○○○○

授業の概要			
達成目標と評価方法		大分高専目標( ), JABEE 目標( )( )	
(1) (2) (3) (4)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 2 3 4 5 6 7			【理解の度合い】
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9	前期中間試験の解答と解説		【理解の度合い】
10 11 12 13 14			
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説		
16 17 18 19 20 21 22			【理解の度合い】
23	後期中間試験		【試験の点数】 点
24	後期中間試験の解答と解説		【理解の度合い】
25 26 27 28 29			
30	後期期末試験		【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説		
履 修 上 の 注 意			【総合達成度】
教 科 書			
参 考 図 書			
関 連 科 目			
総 合 評 価			
			【総合評価】 点

(出典：シラバス)

資料 1 - 1 - ① - 18

平成 18 年度成績表綴り

年 4 回（前期中間後・前期期末後・後期中間後・後期期末後）成績表・成績関連プリントが配布されますので、次の頁に綴じて保管しておきましょう。

① 前期中間試験

自己平均点	クラス平均点	Aの数	Bの数	Cの数	Dの数

② 前期末試験

自己平均点	クラス平均点	Aの数	Bの数	Cの数	Dの数	クラス担任印

③ 後期中間試験

自己平均点	クラス平均点	Aの数	Bの数	Cの数	Dの数

④ 後期末試験

自己平均点	クラス平均点	Aの数	Bの数	Cの数	Dの数	クラス担任印

修得単位数

平成 18 年度修得単位数合計数	一般科目	専門科目
	単位	単位

進級・卒業必要修得単位数

	下記の単位数を修得すると、次学年への進級、卒業が認められます。
1 年生修了	2 5 単位以上
2 年生修了	5 9 単位以上
3 年生修了	9 3 単位以上
4 年生修了	1 2 9 単位以上
卒業	1 6 7 単位以上(ただし一般科目 7 5 単位以上、専門科目 8 2 単位以上)

学習・教育目標達成度チェック表

あなたの現時点での学習・教育目標の達成度をチェックしてください。

クラス 番号 氏名 記入日 年 月 日

学習・教育目標(標語)	具体目標	達成度 5段階	根拠	備考
A 愛の精神	A 1 自ら考える力を身につける			
	A 2 技術者としての倫理を身につける			
B 科学や工学の基礎	B 1 数学、自然科学の力を身につける			
	B 2 情報技術、専門工学の基礎を身につける			
C コミュニケーション能力	C 1 表現する力、ディスカッションする力を身につける			
	C 2 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける			
D 技術者としてのセンス	D 1 探求心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける			
	D 2 協力して問題を解決する力を身につける			
E 専門工学の活用	E 1 専門工学の知識を獲得する			
	E 2 工学の相互関連性を理解する			
	E 3 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける			

本人のコメント

担任(指導教員)からのコメント

記入日

(担任(指導教員)はコメントを記入後にコピーして、原物を学生に返却してください)

(出典：ポートフォリオ)



資料 1-1-①-20

学習・教育目標達成度チェック表

あなたの現時点での学習・教育目標の達成度をチェックしてください。

クラス \_\_\_\_\_ 番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 記入日 19年 11月 11日

学習・教育目標 (標語)	具体目標	達成度 5段階	根拠	備考
A 愛の精神	A1 自ら考える力を身につける	3	自ら考えて行動するように 頑張った。	
	A2 技術者としての倫理を身につける	3	もうかしたと思う。	
B 科学や工学の基礎	B1 数学、自然科学の力を身につける	5	テスト結果から、勉強 と努力。	
	B2 情報技術、専門工学の基礎を身につける	5	積極的に授業に くんだりしてがんばった。	
C コミュニケーション能力	C1 表現する力、ディスカッションする力を身につける	3	もっと積極的に とりくむべきだった	
	C2 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける	4	英会話の授業が あった	
D 技術者としてのセンス	D1 探求心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける	3	探求心を身につける	
	D2 協力して問題を解決する力を身につける	4	みんなと仲良く がんばった	
E 専門工学の活用	E1 専門工学の知識を獲得する	4	テスト結果から。	
	E2 工学の相互関連性を理解する	5	理解に努めた	
	E3 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける	1	体験する機会が なかった	

本人のコメント

1年間、いろいろとがんばってきたつもりだけど、  
またまだ不足している部分があると思ったので今年度は身合をよめる

担任 (指導教員) からのコメント

専門の基礎は、できつつありすが、... 専門科目の内容について、授業だけでなく、自分から積極的に図書館などで

(担任 (指導教員) はコメントを記入後にコピーして、原物を学生に返却してください)

調べるといいですね。 (KK)

(出典：ポートフォリオ)



使命・教育理念実現に向け、準学士・専攻科両課程で学習・教育目標を区別した上で各学科、各専攻では、それぞれの教育理念や目標及び人材育成思想を掲げ（資料 1 - 1 - ① - 21）教育を行っている。

## 資料 1 - 1 - ① - 21

## 一般科目

一般科目は、専門科目と連携して優れた技術者を育成するため、幅広い視野に立った社会人として必要な豊かな一般教養を育むとともに、専門教育を習得するための基礎的な能力を養うものである。

一般科目のうち、文科系科目では、内外の伝統的文化に触れ、歴史や社会を学び、言語活動による情報伝達能力の育成および国際感覚の涵養をはかる。また理科系科目では、自然の解明にあたっての科学的思考力を養い、専門工学を習得するための基礎となる能力を培う。さらに人体の構造を知り、その能力を高めて健康的な人生の基礎作りをめざす。

ちなみに一般科目は各学科に共通であり、高専教育の統合性に資するものである。

## 機械工学科

機械工学は科学技術立国日本のものづくりを支える基盤の学問です。生活の回りにあるものは全て機械工学の技術を通して生産されたものといえます。機械工学で学ぶ技術としての学問は大きく分けて5つあります。それは、(1)機械の動きを解析・制御する技術、(2)材料をうまく利用する技術、(3)加工や製作の技術、(4)熱やエネルギーを利用する技術、(5)水や空気の流れを利用する技術、です。これらを統合して社会に役立つものを設計・製作するのが機械工学です。本校の機械工学科では、これらの学問が実習や実験などの体験とともに身に付くように工夫され、頭と体の動くエンジニア育成に努めています。また、技術の発達に対応するため、情報処理技術等の基礎工学に力を注ぐ一方、卒業研究での研究活動で問題解決能力や創造性を養う努力を行っています。

近年の科学技術の発展は目覚しく、学校教育の追従を許さない状況にあります。本校機械工学科では、幅広い学問と豊富な実験実習で、最先端技術を含むどのような分野にも対応できる人材を育成しています。実践的かつ創造性に富み、個性と人間性豊かなオールマイティーな技術者を育てるように心がけています。

## 電気電子工学科

昨今、エレクトロニクスや情報通信技術の進歩は著しく、工場では高度に自動化・省力化された自動機械やファクトリー・オートメーション（FA）が一般化しています。一方、我々の家庭においてもパソコン、ゲーム機から携帯電話に至るまで様々な電子機器に取り囲まれており、それら無くしてはもはや生活ができない状態になっています。このような高度情報化社会や自動化・省力化工業・生産技術を支える基盤技術はエレクトロニクス技術です。

電気電子工学科ではこの「エレクトロニクス」を中心に「エネルギー」、「情報・通信」という分野にわたって、広く基礎知識や技術力を修得すると共に、演習・実験を通して応用力も身に付けることを狙っています。

電気電子工学科では「電気電子分野における創造的な技術者を」といった産業界からのニーズに応えるために、5年間の一貫教育を通して、理論及び実践の両面に優れた卒業生を輩出するよう努力を重ねています。

学生は一般科目と並行して先ず電気的基本的な理論を学び、その後より高度な「エレクトロニクス」や「エネルギー」、「情報・通信」、その他の関連した分野の学習へと進んでいきます。上級生になると、卒業研究や企業、大学、研究機関との共同研究開発や工場見学・実習などを通して、産業界や大学の第一線で十分に活躍できるよう実践的な知識を身に付けていきます。

## 制御情報工学科

近年、内外において情報技術の発達にはめまぐるしいものがあり、その対応のための技術者の不足が言われています。制御情報工学科はこのような社会の要求と時代の流れに即応すべく、幅の広い情報技術を習得し、卒業後にさまざまな分野で活躍できる技術者を養成することを目的としています。情報工学を中心に、その基礎となる工学基礎を学び、資格試験にも力を入れ、技術立国の根本となる「ものづくり教育」に目を向け、卒業後には社会の即戦力となる技術を身につけさせます。このように急速な技術革新の推進力となりうる柔軟な発想に富んだ技術者の育成をめざしています。

### 都市システム工学科

都市システム（土木）工学は、現代文明社会を支えるための生活環境・社会資本の整備及び国土保全を目的とする学問です。土木事業として、交通施設（道路、鉄道、港湾、空港など）、都市施設・環境保全（上下水道、河川、地下鉄、公園など）、防災・資源開発（治水、砂防、水資源など）等、市民の日常生活に関係の深い各種の公共事業が行われています。

「東京湾アクアライン」や「明石海峡大橋」などの例が示すように、日本の土木技術は世界に誇る水準にあります。また県内においても、別府明礬橋で知られる「九州横断自動車道」や「東九州自動車道」、水資源開発のための「大山ダム」のような大規模土木事業や町内の「下水道工事」のような身近な土木事業が実施されて、地域の振興に貢献しています。

本校都市システム工学科においては、行政の立場から事業を企画する技術者、設計を担当する技術者、又は建設工事に従事する技術者など、どのような立場の技術者にもなれるように、コンピュータ教育を含む基礎及び専門の教育を行っています。また卒業後に地域で強度の開発に従事する技術者及び広く国内・海外でも活躍出来る有能な技術者を養成することを目標としています。

### 機械・環境システム工学専攻

21世紀の“環境の時代”を迎えて、環境問題に対応した機械システムや製造技術及び水圏環境、地盤環境、都市環境、防災システム、環境計画論等に関する幅広い知識が不可欠となっています。

機械・環境システム工学専攻は、本科課程で習得した基礎学力を基盤に、地球環境に関わる各種環境問題にも対応可能な学際的・融合的教育を行うとともに、機械システムと環境システムとの相互依存関係や高度な機械生産システムに深く関わる教育を展開することにより、より専門性に富み、相互に関連した高度技術社会における自己表現能力を育み、グローバルな視野に立った、想像力、実現化能力を有した研究・開発型創造的技術者を育成することを目標としています。

また、本科卒業生等を対象とした社会人のためのリカレント教育を推進するとともに、本専攻科の教育研究の成果として創出された様々な技術、新しい知見などを通して、地域社会との連携をより積極的に進めます。同時に、企業及び公的研究機関との研究者・学生の相互交流を図る中で、地域に滞在するシーズやニーズの開拓・掘り起こし等に大胆に取り組むことにより、地域社会に真に貢献する研究開発に努めます。

### 電気電子情報工学専攻

高度に情報化された技術社会が到来し、技術者には複雑なシステムに対応し得る高度な技術力が要求されています。特に、情報技術のわかる電気電子技術者、電気電子技術の分かる情報技術者に対する地域のニーズはますます高くなって来ています。さらにまた、急速な技術の親展と高度化に対応して広範な応用力を發揮することのできる技術者へのニーズも高まっています。

一方、社会の隅々に電気電子情報技術が浸透しているため、この分野の技術者には自然環境に対する深い理解と学際的視野が要求される時代となって来ています。

このような時代背景と社会からの要請を受けて、電気電子情報工学専攻は、本科課程で修得した基礎学力を基盤に、深い教養と広い視野を有し、高度情報化社会に対応し得る研究開発力と解析能力を持った創造的な電気電子技術者、情報技術者の育成を行います。

こうして、確かな基礎力に裏打ちされた質の高い人材を電気電子情報系のさまざまな分野に輩出し、新しい知見や技術の社会への還元を積極的に進めることを通して、安定した高度技術社会の実現に貢献することを目標としています。

（出典：学校要覧 各学科の紹介）

### （分析結果とその根拠理由）

高等専門学校としての目的を学則で規定し、教育理念実現に向け準学士・専攻科両課程の学習・教育目標を定め、両課程を繋ぎ連続する2つの教育プログラム並びに整合した独自の学習段階（志・修・専学）を設定し実践している。教育理念に基づき両課程で育成すべき人材像を区別し、授業科目系統図を通して具体的目標と具体的教科の対応を明確にして両課程を区別し、段階的な学習・教育目標達成を可能にしている。このシステムは学生の成績自己管理とも連動し、理解度を確認し計画的に目標達成ができる。この基盤の上に一般・専門4学科と2専攻は各々の人材育成思想に沿った教育を行っており、目的を明確に定め、準学士・専攻科両課程で個別に達成努力を行っている。

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

学則に規定した目的(資料 1-1-①-1)は「愛の精神」の涵養で達成され、その思想で教育理念や準学士・専攻科両課程の人材育成像と学習・教育目標(資料 1-1-①-6, 12, 13, 14, 15)が作られており、それらを学校教育法第 70 条の 2 に照らすと「深く専門の学芸を教授」と「職業に必要な能力を育成」に大別できる(資料 1-1-②-1)。

これらは授業科目系統図(資料 1-1-①-16)で各教科と対応し、学年進行による単位修得と成績の自己管理を通し、趣旨を学生に周知・理解させている。

資料 1-1-②-1

## 学校教育法第 70 条の 2

	「深く専門の学芸を教授」すること	「職業に必要な能力を育成」すること
準学士課程	「対象の本質を理解し分析する能力と、モデル化し総合する能力を備え」ること	「グループにあっては強調し、お互いに高めあうことのできる、専門技術力と教養基礎力に裏打ちされた、実践的技術者を育成」すること
専攻科課程	「高度情報化社会における先端技術に対応しうる課題探求力・研究開発能力を有し高度な専門力と豊かな教養力を備える」こと	「自ら方向性を定め学習し、問題を発見して解析する力と、問題を解決し自ら設計して新しいものを生み出す力を備え、高度な技術力と豊かな教養力に裏打ちされた創造的技術者を育成」すること
学習・教育目標	A-1 自ら考える力を身につける B-1 数学、自然科学の力を身につける B-2 情報技術、専門工学の基礎を身につける C-1 表現する力、ディスカッションする力を身につける C-2 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける D-1 探求心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける E-1 専門工学の知識を獲得する E-2 工学の相互関連性を理解する	A-2 技術者としての倫理を身につける C-1 表現する力、ディスカッションする力を身につける C-2 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける D-2 協力して問題を解決する力を身につける E-3 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける

(出典：資料 1-1-①-6, 12, 13, 14, 15 より作成)

(分析結果とその根拠理由)

本校目的は教育基本法に則り、学校教育法の目的に基づいて定められ、高等専門学校一般に求められる目的に沿っている。準学士・専攻科両課程で分けて定めた学習・教育目標は、教育理念に基づき、各々「深く専門の学芸を教授」と「職業に必要な能力を育成」の項目に類別され、育成人材像及び卒業・修了時の学力と資質は、学校教育法第 70 条 2 項の目的に合致する。

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

学則に掲げた目的（資料 1-1-①-1）は、校内グループウェアに掲載した規則集から全教職員が閲覧できるほか（資料 1-2-①-1）、ウェブページ（資料 1-2-①-2）、教職員及び新入生に配布する学生便覧（資料 1-2-①-3）にも掲載している。

教育理念と学習・教育目標はウェブページ、学生便覧、専攻科学生便覧、システム工学デザインプログラム履修の手引き、シラバス・専攻科シラバス、ポートフォリオ（資料 1-2-①-4, 5, 6, 7, 1-1-①-12, 14）に掲載し、毎年、学年毎の教務説明会や専攻科説明会等で学生に周知するほか、学生・教職員の目に付くホームルームや事務室等殆どの部屋に掲げている（資料 1-2-①-8）。新入生には入学式当日、学生便覧配布の際に紹介し、直後のホームルームでも学級担任が説明する。

育成人材像については学習・教育目標とともに学校要覧（資料 1-1-①-6）、中期目標（資料 1-2-①-9）、ウェブページにも掲載している。

資料 1-2-①-1

大分工業高等専門学校学則

制□□定□平成16年・4月・1日  
最終改正□平成19年・2月20日

第1章□本校の目的  
(目的) □  
第1条□本校は、教育基本法の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成し、心身ともに健康な技術者を養成することを目的とする。□

第2章□修業年限、学年、学期、休業日及び授業終始の時刻  
(修業年限) □  
第2条□修業年限は、5年とする。□  
(学年) □  
第3条□学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。□  
(学期) □  
第4条□学年を分けて、次の2期とする。□  
前期□□4月1日から9月30日まで□  
後期□□10月1日から3月31日まで□  
(休業日) □  
第5条□休業日は、次のとおりとする。ただし、特別の必要があるときは、校長は、これらの休業日を授業日に振り替えることができる。□  
一□国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日□  
二□日曜日及び土曜日□

（出典：グループウェア）

## 資料 1 - 2 - ① - 2

## 大分工業高等専門学校の目的及び目標

## 1. 目的

## 第1章 本校の目的

(目的)

第1条 本校は、教育基本法の本質にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成し、心身ともに健康な技術者を養成することを目的とする。

出典：大分工業高専門学校学則

## 2. 教育理念（教育目標）

本校の教育目標は「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する」技術者を育成することである。

本科においては、対象の本質を理解し分析する能力と、モデル化し総合する能力を備え、グループにあっては協調し、お互いに高めあうことのできる、専門基礎技術力と教養基礎力に裏打ちされた、実践的技術者を育成する。専攻科においては、高度情報化社会における先端技術に対応しうる課題探求能力・研究開発能力を有し、高度な専門力と豊かな教養力を備える創造的技術者を育成する。また、自ら方向性を定め学習し、問題を発見して解析する力と、問題を解決し自ら設計して新しいものを産み出す力を備え、高度な技術力と豊かな教養力に裏打ちされた、創造的技術者を育成する。

## 3. 学習・教育目標

[学習・教育目標](#)のページをご覧ください。

(出典：Web ページ)

## 資料 1 - 2 - ① - 3

## 教 育 方 針

本校は、中学校の卒業生を受入れ、5か年にわたって一貫した教育課程による教養と専門の教育を行い、豊かな教養と高度の専門技術を持った心身ともに健康な技術者を養成することを目的に、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探究心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」を教育理念とし、これを実現するために以下の学習、教育目標を掲げている。

## 学 習 ・ 教 育 目 標

- (A) 愛の精神：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける
- (A1) 自ら考える力を身につける
- (A2) 技術者としての倫理を身につける
- (B) 科学や工学の基礎：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける
- (B1) 数学、自然科学の力を身につける
- (B2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける
- (C) コミュニケーション能力：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける
- (C1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける
- (C2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける
- (D) 技術者としてのセンス：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける
- (D1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける
- (D2) 協力して問題を解決する力を身につける
- (E) 専門工学の活用：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける
- (E1) 専門工学の知識を獲得する
- (E2) 工学の相互関連性を理解する
- (E3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける

専門教育においては、特にその基礎となる学科の教科を十分理解修得させるとともに実験・実習を通じて技術を体得させることを主眼とし、将来さらに新しい技術を開発する能力の所有者たり得ることを目指している。

高等教育においては、5年間を通じて少人数で徹底した教育が行われるとともに、クラブなどの学生会活動に積極的に参加することによって、人間同士の信頼・友愛・共同の精神を養うことができ、また寮生活により事由と規律の精神を学びとることができる。

このようなすぐれた教育環境のなかで学生が自主的に自己形成に努めることによって、将来の日本を背負って発つ技術者に育つことを期待している。

(出典：学生便覧)

資料 1 - 2 - ① - 4

学習・教育目標

標語	目標	サブ目標	進学士課程において達成すべき具体的な目標	専攻科課程において達成すべき具体的な目標
A 愛の精神	世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける	A-1 自ら考える力を身につける	(1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 論理的に自らの考えを構築することができること	(1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること
		A-2 技術者としての倫理を身につける	(1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること (2) いつくしみの心を持ち、相手の立場に立って考えることができること	(1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること
B 科学や工学の基礎	科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける	B-1 数学、自然科学の力を身につける	(1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然科学の基本的な問題が解けること	(1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然現象の本質を問う問題が解けること
		B-2 情報技術、専門工学の基礎を身につける	専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること	専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること
C コミュニケーション能力	地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける	C-1 表現する力、ディスカッションする力を身につける	自ら表現したいことについて第三者が理解できるように表現できること	自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること
		C-2 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける	英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単な作文ができること	英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること
D 技術者としてのセンス	創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける	D-1 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける	(1) 技術の対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) 問題を深く掘り下げる努力ができること	(1) 技術の対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること (3) 問題を深く掘り下げる努力ができること
		D-2 協力して問題を解決する力を身につける	チームで問題に取り組む体験を得ること	(1) 問題をチームで解決する体験を得ること (2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること
E 専門工学の活用	専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける	E-1 専門工学の知識を獲得する		自らの専門性に即して、一つの方野を深く掘り下げるのできる専門工学の知識があること
		E-2 工学の相互関連性を理解する		(1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること (2) 自らの専門以外の一つ以上の方野について基礎的な知識を有していること
		E-3 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける		自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること

(出典：Webページ)

資料 1-2-①-5

1. はじめに

この便覧を手に入れている皆さんは、既に成人に達しており、社会人として一人前の存在です。本科を卒業して実社会のそれぞれの場で責任を果たしている多くの同級生のことを思えば、引き続き々高専に在籍するとは言え、これまでと同じ気持ちであってはけません。すべてのことに自主的に取り組み、主体性を持って行動することが強く求められます。また、このことが、専攻科における皆さん一人一人の学園生活をより多きものへと繋げてくれることを確信しています。学生の皆さんは、本便覧をよく読み、本校の学習・教育目標に習熟するとともに、専攻科の修了要件、学位授与要件、そして教育プログラムの終了要件すべてを考慮に入れて、漏漏のないように履修計画を立ててください。

2. 学習教育目標と教育方針

(1) 学習・教育目標

本校は、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」を教育理念として掲げております。この教育理念を実現するために、学習・教育目標として以下に示す5つの主目標とそれぞれを具体化した11のサブ目標、19の達成基準を定めた、「システムデザイン工学プログラム」を設定しています。本プログラムを修了するには、これら全ての学習・教育目標を達成する必要があります。

- (A) 「愛の精神」：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける
  - (A1) 自ら考える力を身につける
    - (1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること
    - (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること
    - (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること
  - (A2) 技術者としての倫理を身につける
    - (1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること
    - (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること
- (B) 「科学や工学の基礎」：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける
  - (B1) 数学、自然科学の力を身につける
    - (1) 数学の基本的な問題が解けること
    - (2) 自然現象の本質を問う問題が解けること
  - (B2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける
    - (1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること
- (C) 「コミュニケーション能力」：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける
  - (C1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける
    - (1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること
    - (C2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける
      - (1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること

(D) 「技術者としてのセンス」：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける

- (D1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける
  - (1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること
  - (2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること
  - (3) 問題を深く掘り下げる努力ができること
- (D2) 協力して問題を解決する力を身につける
  - (1) 問題をチームで解決する体験を得ること
  - (2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること

(E) 「専門工学の活用」：専門工学の知識を修得してその相互関係性を理解し、これを活用する力を身につける

- (E1) 専門工学の知識を獲得する
  - (1) 自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げることで専門工学の知識があること
- (E2) 工学の相互関連性を理解する
  - (1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること
  - (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること
- (E3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける
  - (1) 自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること

これらの各学習・教育目標の達成度の評価方法ならびに各学習・教育目標を達成するために必要な科目の流れは、「システムデザイン工学プログラム 履修の手引き(2007年度版)」を参照してください。

なお、これらの学習・教育目標は日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定基準1.(1)の(a)～(h)および分野別要件(工学(融合複合・新領域))を含んでいます。

(2) 教育方針

【機械・環境システム工学専攻】

本科の課程で修得した基礎学力を基盤に、地球環境に関わる各種環境問題にも対応可能な学際的・融合的教育を行います。機械システムと環境システムとの相互依存関係や高度な機械生産システムに深く関わる教育を展開することにより、より専門性に富み、相互に関連した高度技術社会における自己表現能力を育み、グローバルな視野に立った発想力、構想、実現化能力を有した研究・開発型創造的技術者を育成します。

【電気電子情報工学専攻】

電気、電子、情報工学に関連する分野において本科で修得した幅広い専門知識と技術を基盤として、より高度な技術教育を行います。すなわち、電気電子工学・情報工学に関連する新技術の独創的かつ実践的な研究開発能力及び解析能力を持ち、高度情報化された先端技術及び学術技術の研究開発や問題解決に対応でき、視野が広く国際性豊かな学問のできる実践的技術者を育成します。

(出典：専攻科学生便覧)

3. 学習・教育目標

本校は、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」を教育理念として掲げております。この教育理念を実現するため本教育プログラム「システムデザイン工学プログラム」では、学習・教育目標として以下に示す5つの主目標とそれぞれを具体化した11のサブ目標とその細目(19項目)を定めています。この教育プログラムを修了するには、これら全ての学習・教育目標を達成する必要があります。

- (A) 愛の精神：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける
  - (A1) 自ら考える力を身につける
    - (1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること
    - (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること
    - (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること
  - (A2) 技術者としての倫理を身につける
    - (1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること
    - (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること
- (B) 科学や工学の基礎：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける
  - (B1) 数学、自然科学の力を身につける
    - (1) 数学の基本的な問題が解けること
    - (2) 自然現象の本質を問う問題が解けること
  - (B2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける
    - (1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること
- (C) コミュニケーション能力：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける
  - (C1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける
    - (1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること
    - (C2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける
      - (1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること

(D) 技術者としてのセンス：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける

- (D1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける
  - (1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること
  - (2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること
  - (3) 問題を深く掘り下げる努力ができること
- (D2) 協力して問題を解決する力を身につける
  - (1) 問題をチームで解決する体験を得ること
  - (2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること

(E) 専門工学の活用：専門工学の知識を修得してその相互関係性を理解し、これを活用する力を身につける

- (E1) 専門工学の知識を獲得する
  - (1) 自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げることで専門工学の知識があること
- (E2) 工学の相互関連性を理解する
  - (1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること
  - (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること
- (E3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける
  - (1) 自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること

資料 1-2-①-6

(出典：システムデザイン工学プログラム履修の手引き)

資料 1-2-①-7

学習・教育目標

本校は、「人間性に溢れ国際感覚を備えた、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」を教育理念として掲げております。この教育理念を実現するために本教育プログラム「システムデザイン工学プログラム」では、学習・教育目標として以下に示す5つの主目標とそれぞれを具体化した11のサブ目標を定めています。この教育プログラムを修了するには、これら全ての学習・教育目標を達成する必要があります。

- (A) **愛の精神**：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いっくしみの心を身につける
  - (A 1) 自ら考える力を身につける
  - (A 2) 技術者としての倫理を身につける
- (B) **科学や工学の基礎**：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける
  - (B 1) 数学、自然科学の力を身につける
  - (B 2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける
- (C) **コミュニケーション能力**：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける
  - (C 1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける
  - (C 2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける
- (D) **技術者としてのセンス**：創造的技術者としてのセンスを磨き、探求心、分析力、イメージ力を身につける
  - (D 1) 探求心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける
  - (D 2) 協力して問題を解決する力を身につける
- (E) **専門工学の活用**：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける
  - (E 1) 専門工学の知識を獲得する
  - (E 2) 工学の相互関連性を理解する・・・「つながり工学」
  - (E 3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける

(出典：ポートフォリオ)

資料 1-2-①-8



(各教室前方に掲げられた学習・教育目標)

資料 1-2-①-9

独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画の基礎となる  
大分工業高等専門学校における中期計画 (抜粋)

○養成すべき人材像

本校教育目標である「人間性に溢れ国際感覚を備えた、探求心、創造性、表現能力を有する」技術者を育成する。また、日本技術者教育認定機構 (J A B E E) の認定を受け、国際的に通用する技術者を育成する。

本科においては、探求心や創造性の基盤を有し、専門基礎技術力と教養基礎力を備える実践的技術者を育成する。さらに、対象の本質を理解し分析する能力と、モデル化し総合する能力を備え、グループにあっては協調し、お互いに高めあうことのできる、専門基礎技術力と教養基礎力に裏打ちされた、実践的技術者を育成する。

専攻科においては、高度情報化社会における先端技術に対応しうる課題探求能力・研究開発能力を有し、高度な専門力と豊かな教養力を備える創造的技術者を育成する。また、自ら方向性を定め学習し、問題を発見して解析する力と、問題を解決し自ら設計して新しいものを産み出す力を備え、高度な技術力と豊かな教養力に裏打ちされた、創造的技術者を育成する。

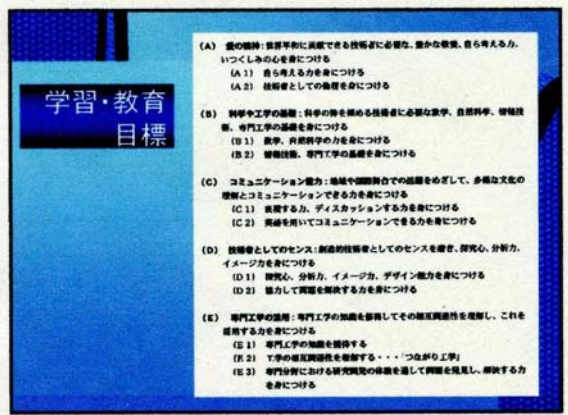
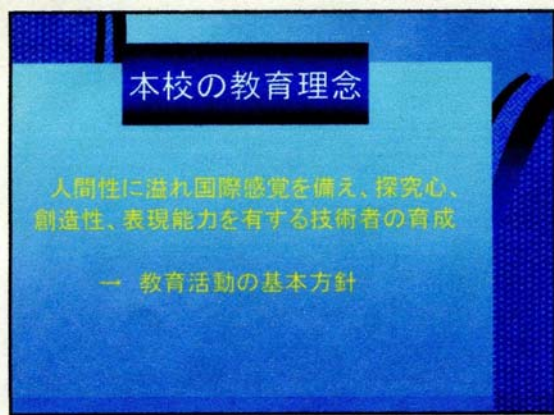
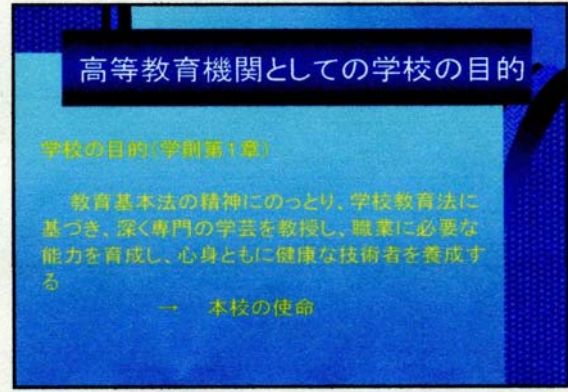
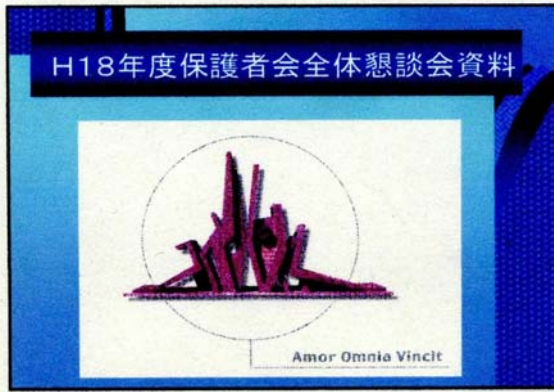
これらを実現するために必要な学生の達成すべき学習目標として以下の5つを掲げる。

- A 世界平和に貢献できる技術者に必要な、豊かな教養、自ら考える力、いっくしみの心を身につける。
- B 科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける。
- C 地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける。
- D 創造的技術者としてのセンスを磨き、探求心、分析力、イメージ力を身につける。
- E 専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける。

(出典：大分工業高等専門学校中期計画)



資料 1-2-①-10



(出典：H18年度保護者会全体懇談会資料)

前後期に開催する後援会総会及び保護者会では、使命、教育理念、学習・教育目標、科目系統図に沿った学習・教育目標達成方法及びシラバスについて説明し(資料1-2-①-10)、学校への意見や要望に関するアンケートも実施して、教育指導に役立てている(資料1-2-①-11)。

学生アンケート結果では、約9割が自分達に適した学習・教育目標と感じており(資料1-2-①-12)、同様に平成6年、11年及び16年に実施した卒業生へのアンケート結果(資料1-2-①-13)でも約9割が学習・教育目標の妥当性を支持している。

資料 1-2-①-11

保護者会アンケート

本日は保護者会にご出席いただきありがとうございます。保護者の皆様からのご意見を今後の学校運営の参考にさせていただきたいと存じます。ご記入の上、回収箱に投函くださるようお願いいたします。

- 問1 ご子息の学年・学科 学年(1 2 3 4 5 専攻科1 専攻科2)  
学科または専攻(M, E, S, C, MC, ES)
- 問2 1～3年生全体懇談会または4年生保護者進路説明会、専攻科懇談会についての感想はいかがでしたか。  
今回参加したのは(1～3年生全体懇談会、4年生保護者進路説明会、専攻科懇談会)  
1. 有意義だった 2. 特にない 3. 問題あり
- 問3 学習指導についてどう思われますか。  
1. 満足 2. ほぼ満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. 不満
- 問4 生活指導についてどう思われますか。  
1. 満足 2. ほぼ満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. 不満
- 問5 本校の学習教育目標(A1～E3)は、全体的に学生にとって良いと思いますか。  
1. 大変良い 2. 良い 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. 不適切
- 問6 学生便覧・履修の手引き・シラバス・ポートフォリオ・ホームページ・オフィシアワー・授業アンケートなど、本校の教育支援システムについて、満足していますか。  
1. 満足 2. ほぼ満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. 不満
- 問7 本校の教育関連施設・設備には、全体的に満足していますか。  
1. 満足 2. ほぼ満足 3. どちらともいえない 4. やや不満 5. 不満
- 問8 上記の問1～7、またはその他の点で本校に対する感想やご意見等がありましたらお書きください。

ご協力ありがとうございました。  
大分工業高等専門学校  
教務主事 吉澤 宣之

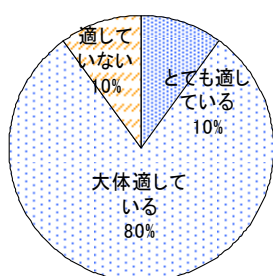
(出典：平成18年度保護者会全体懇談会資料)

目標等は必要に応じ教職員に確認周知し（資料 1-2-①-14），毎年，非常勤講師と新任教職員へは教務説明会で，新任職員へは事務部長から通知（資料 1-2-①-15）を行っている。

資料 1-2-①-12

平成 17 年度学生アンケート結果の概要

アンケート実施 平成 17 年 9 月  
アンケート対象 1 年生～専攻科 2 年生（24 クラス）



学習・教育目標

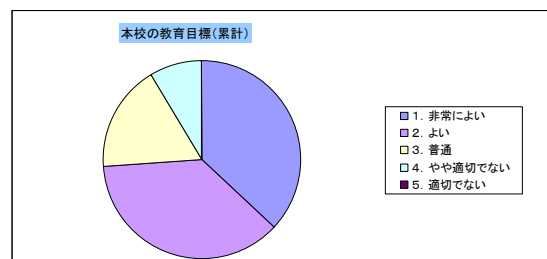
（出典：平成 17 年度学生アンケート結果）

- (1-1) 本校の学習・教育目標には、全般的に満足していますか。
- (1-2) 得に変更すべき学習・教育目標 { ( ) 内は意見数 }  
表現が抽象的でわかりにくい (3)  
愛の精神 (2)  
理想が高い (2)
- (1-3) カリキュラムに対する要望 { ( ) 内は意見数 }  
英語の（会話，演習）授業を増やして欲しい。(5)  
体育の授業を増やして欲しい (3)  
実験実習を増やす (3)  
選択科目を増やす (2)

資料 1-2-①-13

Q9：本校の教育目標について

評価項目	H.07 卒	H.12 卒	H.17 卒	計	評価比率
1. 非常によい	11	1	5	17	37.0
2. よい	7	7	3	17	37.0
3. 普通	3	4	1	8	17.4
4. やや適切でない	1	2	1	4	8.7
5. 適切でない	0	0	0	0	0.0
計	22	14	10	46	100.0



（出典：平成 18 卒業生アンケート結果）

資料 1-2-①-14

ホームページのリニューアルに伴う本校目的等の記載場所について

1 年以上にわたるホームページWGの努力により、本校ホームページが刷新され、非常に見やすいものとなりました。

この機会ですので、教職員の皆様に本校の目的（使命）・教育理念・育成すべき人材像・学習・教育育目標等の掲載場所を以下に示しますので、今一度ご覧になり、再確認し業務にあたって頂くようお願いいたします。

以下をご覧ください。

- ホームページTOPから
- 学校案内 → 大分高専の目的及び目標（1～5）
- 3. 学習・教育目標は該当ページへジャンプします

平成 19 年 6 月 1 日

教務主事 吉澤 宣之  
事務部長 前田 正満

（出典：総務課資料 平成 19 年度ウェブページ刷新通知）

資料 1 - 2 - ① - 15

平成 19 年 4 月 2 日

新規採用事務系職員 各位

大分工業高等専門学校  
事務部長 前田 正 満

教育理念及び学習・教育目標について

本校では、別紙のとおり教育理念及び学習・教育目標を定めています。  
教職員各位は、この教育理念及び教育目標を理解の上、業務を推進すること  
とされておりますので、よろしくお願ひします。

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

目的は、入学式に学生便覧により、また定期試験後解説期間中のシラバスやポートフォリオへの達成度記入等を通し学生に周知し、ウェブページからも閲覧できる。教職員へはウェブページで周知を図るほか、新任教員と非常勤教員に対しては 4 月当初の教務及び教育プログラム説明会で周知し、新任職員には採用の際に事務部長から説明している。

使命に基づく教育理念とその実現のための学習・教育目標についても上記の様々なメディアに公開すると同時に、準学士課程は年度当初の学年毎の教務説明会、専攻科課程は入学者オリエンテーションで、他に次年度「システムデザイン工学プログラム」履修生となる準学士課程 3 年生及び 11 月に行っている 4 年生の進路説明会、専攻科入学希望学生にも教務主事室及び専攻科小委員会により適宜周知している。また、教育理念と学習・教育目標を教室等に掲げ、学生と教職員が身近に目的を意識するよう配慮している。学生はシラバスを通じ、特に準学士課程はポートフォリオで成績の自己管理の際にも学習・教育目標の達成度を確認している。

相対的に教職員への周知の機会が少ないが、学生には多くの説明の機会を設けており、大部分の学生・卒業生は目的等を自分達や本校に相応しいとして受け入れており、目的が学校の構成員に周知されている。

**観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。**

(観点に係る状況)

教育理念に基づく準学士・専攻科両課程で育成すべき人材像，成果となる学習・教育目標，教育理念及び学習・教育目標の5つの標語・目標・サブ目標・具体的目標はウェブページ（資料1-2-①-2，4）に掲載し，学外から閲覧できる。同じ内容を学生募集要項・編入学生募集要項・専攻科学生募集要項（資料1-2-②-1，2，3）に掲載し，目的等を受験生に公表している。編入学生募集要項には専門4学科の紹介に各科で育成する技術者像を，専攻科学生募集要項には各専攻で育成する技術者像を掲載している（資料1-2-②-4，5）。

**資料 1-2-②-1****教 育 理 念**

人間性に溢れ国際感覚を備え、探究心、創造性、表現能力を有する技術者の育成

**学 習 ・ 教 育 目 標**

- (A) 愛の精神：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける
  - (A1) 自ら考える力を身につける
  - (A2) 技術者としての倫理を身につける
- (B) 科学や工学の基礎：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける
  - (B1) 数学、自然科学の力を身につける
  - (B2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける
- (C) コミュニケーション能力：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける
  - (C1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける
  - (C2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける
- (D) 技術者としてのセンス：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける
  - (D1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける
  - (D2) 協力して問題を解決する力を身につける
- (E) 専門工学の活用：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける
  - (E1) 専門工学の知識を獲得する
  - (E2) 工学の相互関連性を理解する
  - (E3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける

(出典：平成 19 年度学生募集要項)

**資料 1-2-②-2****3. 学習・教育目標**

本校は、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」を教育理念として掲げています。この教育理念を実現するために全学科を1つにした教育プログラム（教育プログラム名：システムデザイン工学プログラム）を設定しており、学習・教育目標として以下に示す5つの主目標とそれぞれを具体化した11のサブ目標を定めています。第4学年に編入した場合、本教育プログラムの履修対象者となります。

- (A) 愛の精神：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける
  - (A1) 自ら考える力を身につける
    - (1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること
    - (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること
    - (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること

- (A 2) 技術者としての倫理を身につける
  - (1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること
  - (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること
- (B) 科学や工学の基礎：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける
  - (B 1) 数学、自然科学の力を身につける
    - (1) 数学の基本的な問題が解けること
    - (2) 自然現象の本質を問う問題が解けること
  - (B 2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける
    - (1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること
- (C) コミュニケーション能力：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける
  - (C 1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける
    - (1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること
  - (C 2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける
    - (1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること
- (D) 技術者としてのセンス：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける
  - (D 1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける
    - (1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること
    - (2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること
    - (3) 問題を深く掘り下げる努力ができること
  - (D 2) 協力して問題を解決する力を身につける
    - (1) 問題をチームで解決する体験を得ること
    - (2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること
- (E) 専門工学の活用：専門工学の知識を修得してその相互関係性を理解し、これを活用する力を身につける
  - (E 1) 専門工学の知識を獲得する
    - (1) 自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げることで専門工学の知識があること
  - (E 2) 工学の相互関連性を理解する
    - (1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること
    - (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること
  - (E 3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける
    - (1) 自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること

(出典：平成 20 年度編入学生募集要項)

## 資料 1 - 2 - ② - 3

### 5. 学習・教育目標

本校は、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探究心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」を教育理念として掲げています。この教育理念を実現するために全学科を 1 つにした教育プログラム（教育プログラム名：システムデザイン工学プログラム）を設定しており、学習・教育目標として以下に示す 5 つの主目標とそれぞれを具体化した 11 のサブ目標を定めています。また、専攻科入学生は全員が本教育プログラムの履修生となりますので、これら全ての学習・教育目標を達成する必要があります。

- (A) 愛の精神：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける
  - (A 1) 自ら考える力を身につける
  - (A 2) 技術者としての倫理を身につける
- (B) 科学や工学の基礎：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける
  - (B 1) 数学、自然科学の力を身につける
  - (B 2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける
- (C) コミュニケーション能力：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける
  - (C 1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける
  - (C 2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける
- (D) 技術者としてのセンス：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける

- (D 1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける
- (D 2) 協力して問題を解決する力を身につける
- (E) 専門工学の活用：専門工学の知識を修得してその相互関係性を理解し、これを活用する力を身につける
  - (E 1) 専門工学の知識を獲得する
  - (E 2) 工学の相互関連性を理解する
  - (E 3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける

(出典：平成 20 年度専攻科学生募集要項)

## 資料 1 - 2 - ② - 4

### 4. 学科の概要及び育成すべき人材像

●**機械工学科**……機械工学は技術立国日本のものづくりを支える基盤の学問です。生活の回りにあるものは全て機械工学の技術を通して生産されたものといえます。機械工学で学ぶ技術としての学問は大きく分けて 5 つあります。それは、(1) 機械の動きを解析・制御する技術 (2) 材料をうまく利用する技術 (3) 加工や製作の技術 (4) 熱やエネルギーを利用する技術 (5) 水や空気の流れを利用する技術です。

これらを統合して社会に役立つものを設計・製作するのが機械工学です。本校の機械工学科では、これらの学問が実習や実験などの体験とともに身に付くように工夫され、頭と体の動くエンジニア育成に努めています。

また、技術の発達に対応するため、情報処理技術等の基礎工学に力を注ぐ一方、卒業研究での研究活動で問題解決能力や創造性を養う努力を行っています。近年の科学技術の発展は目覚しく、学校教育の追随を許さない状況にあります。本校機械工学科では、幅広い学問と豊富な実験実習で、最先端技術を含むどのような分野にも対応できる人材を育成しています。実践的かつ創造性に富み、個性と人間性豊かなオールマイティな技術者を育てるように心がけています。

●**電気電子工学科**……本校の教育理念および学習・教育目標に沿って、理解力、整理力、協調力、創造力、実践力などを高め、卒業後には、電力系統、電子、制御、通信、コンピュータなど、それぞれの専門分野で活躍できる専門技術者を育成します。

4 年生では、専門の基礎である電磁気学、電気回路、応用数学、などを深く学ぶとともに、電気機器工学やデジタル回路、コンピュータ、通信工学などの専門教科も学びます。工学実験では、モータなどの性能を調べるグループ実験がある他、製作する喜びや協力する喜びを知ることが目的に、ロボットの個人製作とグループ製作の両方を経験し、製作品の発表会を通して喜びを伝える喜びをも体験します。また、夏期休業中に企業等で現場体験をする実習も準備しています。

5 年生では、パワーエレクトロニクス、制御工学、通信工学、情報理論、ネットワークアーキテクチャ、量子力学などの多くの教科の中から好きな科目を選択受講して、自身の専門性を深めることができます。また教員の指導の下に、1 つの専門テーマについて 1 年間をかけてじっくり取り組む卒業研究があります。

●**制御情報工学科**……制御情報工学科は近年の情報技術の発達に伴い、社会の要望にこたえるべくハード、ソフト両面の情報関連の分野で活躍できる人を育てます。

3 年までに学んだ情報や電気の基礎を基にして 4、5 年での専門科目は情報理論、アルゴリズムとデータ構造、プログラミング、通信プロトコル、ソフトウェア設計、電磁気学、電気回路、電子回路、デジタル回路などを学びます。また、多彩な卒研指導教員のもとで、セキュリティデバイス、画像処理、信号処理、遺伝的アルゴリズム、磁気センサによる疲労評価、形状記憶合金の応用等の研究テーマを選び、卒業後には急速な技術革新の推進力となりうるような技術者の育成を目指します。教科の中には演習としてロボット製作など、ものづくりの要素も取り入れ、コンピュータのみに偏ることなく、技術立国日本の発展に寄与できるような柔軟な発想に富んだ技術者を養成します。

●**都市システム工学科**……土木工学は、最も基礎的な工学分野のひとつですが、人々が豊かに暮らすための基盤づくり、いわゆる社会資本の充実に取り組む学問です。

都市システム工学科においては、材料・構造・施工などを取り扱う「構造工学分野」、河川・水資源・港湾・海洋などを取り扱う「水工学分野」、土質・地盤などを取り扱う「地盤工学分野」、そして計画・環境・衛生・交通などを取り扱う「計画・環境工学分野」があり、幅広い分野の学問を対象としています。

土木工学の幅の広さは、対象とする事業の多様さばかりではなく、原論・計画・設計・施工・管理など、ソフトからハードまで、あるいは文科系から理科系まで、いろんな分野があります。このように、学生の個性に対応し、非常に幅の広い進路の選択が可能なのが都市システム工学科の特徴です。

また、卒業後に地域で郷土の開発に従事する技術者及び広く国内・海外でも活躍できる有能な技術者を養成することを目標としています。

(出典：平成 20 年度編入学生募集要項)

## 資料 1-2-②-5

## 6. 各専攻の教育方針

## (1) 機械・環境システム工学専攻

本科の課程で修得した基礎学力を基盤に、地球環境に関わる各種環境問題にも対応可能な学際的・融合的教育を行います。機械システムと環境システムとの相互依存関係や高度な機械生産システムに深く関わる教育を展開することにより、より専門性に富み、相互に関連した高度技術社会における自己表現能力を育み、グローバルな視野に立った発想力、構想、実現化能力を有した研究・開発型創造的技術者を育成します。

## (2) 電気電子情報工学専攻

電気、電子、情報工学に関連する分野において本科で修得した幅広い専門知識と技術を基礎として、より高度な技術教育を行います。すなわち、電気電子工学・情報工学に関連する新技術の独創的かつ実践的な研究開発能力及び解析能力を持ち、高度情報化された先端技術及び学術技術の研究開発や問題解決に対応でき、視野が広く国際性豊かな学問のできる実践的技術者を育成します。

(出典：平成 20 年度専攻科学生募集要項)

教育理念及び学習・教育目標と 11 のサブ目標は中学生向け冊子「未来へのはばたき」(資料 1-2-②-6)にも掲載している。この冊子は県内及び近県中学校に配布のほか、オープンキャンパス、中学校 PTA の本校見学会、中学生と保護者の個人的な本校訪問の際にも他の資料とともに配布し、教務主事室が対応と説明にあたる。中学 3 年生及び保護者と中学校教員に向け本校紹介のため、県下と近県中学校へ毎年夏期休業前から後期にかけて行う中学校訪問や、10 月に県内主要都市で実施する入試説明会では、学校要覧、未来へのはばたき、学生便覧及び教育内容・就職・進学等の本校の特徴を紹介している中学生向けの受験案内書もしくはそのコピー(資料 1-2-②-7)、高専機構出版物を資料として持参し、入学試験の説明を行うと同時に入学者受入方針と共に使命、教育理念及び学習・教育目標について説明を行っている。

「未来へのはばたき」は入学志願者の増加と目的公表のため、中学生の目に触れる県内及び近県の教育施設(国立阿蘇青少年交流の家・大分県立湯布院青少年の家・大分県立香々地少年自然の家・大分県立九重少年自然の家・大分市立野津原少年自然の家・別府市立少年自然の家・湯布院町立青少年スポーツセンター・(財)大分県マリナルチャーセンター)に置いている。また企業向け冊子「未来を創る」にも専門 4 学科の人材育成構想と 2 専攻の紹介と共に教育目標を記載している(資料 1-2-②-8)。

## 資料 1-2-②-6

## 教育理念

人間性に溢れ国際感覚を備え、  
探究心、創造性、表現能力を有する技術者の育成  
学習・教育目標

## (A) 愛の精神

世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける

- (A1) 自ら考える力を身につける
- (A2) 技術者としての倫理を身につける

## (B) 科学や工学の基礎

科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける

- (B1) 数学、自然科学の力を身につける
- (B2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける

## (C) コミュニケーション能力

地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける

- (C1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける
- (C2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける

## (D) 技術者としてのセンス

創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける

- (D1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける
- (D2) 協力して問題を解決する力を身につける

## (E) 専門工学の活用

専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける

- (E1) 専門工学の知識を獲得する
- (E2) 工学の相互関連性を理解する
- (E3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける

(出典：未来へのはばたき)





卒業生が就職した企業へのアンケートでは、準学士課程卒業生の勤務成績に対して7割以上の企業が満足しており、大卒より優れた点は「誠実さ」が準学士課程卒業生で1位、専攻科修了生は2位に評価されている。学習・教育目標は5項目の重要度がほぼ均等であるが、「愛の精神」が他に勝り、本校の個性が理解されている（資料1-2-②-9）。大学・大学院等に進学する場合、学習・教育目標達成見込みを記した文書（資料1-2-②-10）を同封している。

使命、教育理念、学習・教育目標等については各所に掲載しているが、最近、刷新したウェブページに一括掲載し、分かりやすく社会に公表する努力も行っている（資料1-2-②-11）。

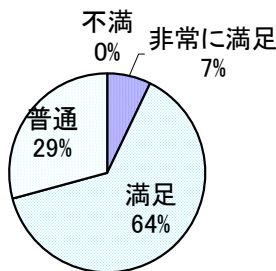
資料 1-2-②-9

企業アンケート項目と結果（抜粋）

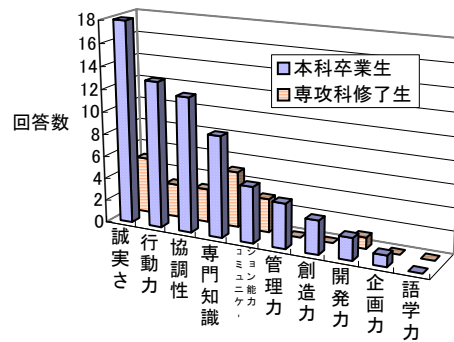
アンケート期間：平成16年8月10日～8月末  
 対象：平成5年度、および10年度卒業生就職先企業

回答：44件

1. 大分高専の本科卒業生に対し、平均的な仕事に対する評価（勤務成績）について、の質問には良い評価をいただきました（図1）。
2. 大学生と比較して高専生の優れていると思われる点を挙げていただきました（図2）。

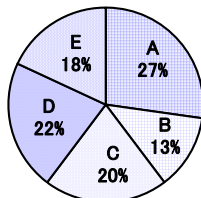


卒業生に対する満足度



高専生が優れている点

3. 大分高専が設定した学習・教育目標について重要度を問う質問に対して、どれも均等に重要であるという良い評価をいただきました。（図3）



本校学習・教育目標で特に重要と思われるもの

- A 自ら考える力・技術者としての倫理を身につける
- B 科学や工学の基礎を身につける
- C コミュニケーション能力を身につける
- D 技術者としてのセンスを身につける
- E 専門工学を活用する力を身につける

（出典：自己点検・評価書）

## 資料 1 - 2 - ② - 10

大学関係者各位

この度、貴大学編入学にご推薦させていただき、以下に示す準学士課程の教育プログラムを修了見込みであることを付記させていただきます。入学後のご指導にお役に立ていただければ幸いです。

大分工業高等専門学校では、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」を教育理念として掲げています。この教育理念を実現するために、準学士課程および専攻科課程の二つの教育プログラムでは、継続性を持つ以下の学習・教育目標を定めています。なお、これらの教育プログラムを跨ぐ、全学科、前専攻の本科4年次から専攻科2年次までを対象とした技術者教育プログラム「システムデザイン工学プログラム」は、J A B E E 認定を受け2005年度より修了生を輩出しております。

大分工業高等専門学校

電気電子工学科学科主任

佐藤 秀則

## [学習・教育目標]

標語	目標	サブ目標	準学士課程において達成すべき具体的な目標	専攻科課程において達成すべき具体的な目標
(A) 愛の精神	世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いっしょの心をつける	(A-1) 自ら考える力を身につける	(1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 論理的に自らの考えを構築することができること	(1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること
		(A-2) 技術者としての倫理を身につける	(1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること (2) いっしょの心を持ち、相手の立場に立って考えることができること	(1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること
(B) 科学や工学の基礎	科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける	(B-1) 数学、自然科学の力を身につける	(1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然科学の基本的な問題が解けること	(1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然現象の本質を問う問題が解けること
		(B-2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける	専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること	専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること
(C) コミュニケーション能力	地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける	(C-1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける	自ら表現したいことについて第三者が理解できるように表現できること	自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること
		(C-2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける	英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単な作文ができること	英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること
技術者としてのセンス	創造的技術者としてのセンスを磨き、探求心、分析力、イメージ力を身につける	(D-1) 探求心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける	(1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) 問題を深く掘り下げる努力ができること	(1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること (3) 問題を深く掘り下げる努力ができること
		(D-2) 協力して問題を解決する力を身につける	チームで問題に取り組む体験を得ること	(1) 問題をチームで解決する体験を得ること (2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること
(E) 専門工学の活用	専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける	(E-1) 専門工学の知識を獲得する		自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げることで専門工学の知識があること
		(E-2) 工学の相互関連性を理解する		(1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること
		(E-3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける		自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること

[Web ページ] 本校教育プログラムの詳細につきましては [www.oita-ct.ac.jp](http://www.oita-ct.ac.jp) をご覧下さい。

大学院関係者各位

この度、貴大学院入学に推薦する学生は、以下の専攻科課程教育プログラムおよび J A B E E 認定を受けた「システムデザイン工学プログラム」を修了見込みであることを付記させていただき、入学後のご指導にお役に立てていただければ幸いです。

大分工業高等専門学校では、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」を教育理念として掲げています。この教育理念を実現するために、準学士課程および専攻科課程の二つの教育プログラムで、継続性を持った学習・教育目標を定めています。さらに、これらの教育プログラムを跨ぐ、全学科、全専攻の準学士課程 4 年次から専攻科 2 年次までを対象とした技術者教育プログラム「システムデザイン工学プログラム」でも、専攻科課程と々以下の学習・教育目標を定めており、J A B E E 認定を受け 2005 年度より修了生を輩出しております。

大分工業高等専門学校  
専攻科長 清水啓一郎

#### [学習・教育目標]

標語	目標	サブ目標	専攻科課程において達成すべき具体的な目標
(A) 愛の精神	世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける	(A-1) 自ら考える力を身につける	(1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること
		(A-2) 技術者としての倫理を身につける	(1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること
(B) 科学や工学の基礎	科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける	(B-1) 数学、自然科学の力を身につける	(1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然現象の本質を問う問題が解けること
		(B-2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける	専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること
(C) コミュニケーション能力	地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける	(C-1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける	自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること
		(C-2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける	英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること
(D) 技術者としてのセンス	創造的技術者としてのセンスを磨き、探求心、分析力、イメージ力を身につける	(D-1) 探求心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける	(1) 技術の対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること (3) 問題を深く掘り下げる努力ができること
		(D-2) 協力して問題を解決する力を身につける	(1) 問題をチームで解決する体験を得ること (2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること
(E) 専門工学の活用	専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける	(E-1) 専門工学の知識を獲得する	自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げることのできる専門工学の知識があること
		(E-2) 工学の相互関連性を理解する	(1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること
		(E-3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける	自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること

[システムデザイン工学プログラムの修了] システムデザイン工学プログラムを修了するためには、次の各号の要件を満たすことになっています。

- 一 本教育プログラムの各学習・教育目標の評価方法に示す基準を全て満たし、学習・教育目標を達成していること。
- 二 本教育プログラムの認める単位を 124 単位以上修得していること。
- 三 本教育プログラムにおいて、総学習保証時間が 1800 時間以上であること。ただしこの中には、250 時間以上の人文・社会科学系の科目（語学教育を含む）の学習保証時間、250 時間以上の数学・自然科学・情報技術系の科目の学習保証時間、900 時間以上の専門技術分野の科目の学習保証時間を含まなければならない。
- 四 情報技術・基礎工学科目群の①～⑤の各科目群からそれぞれ 1 科目以上、合計 6 科目以上修得していること。
- 五 学士取得のための審査に合格していること。

[専攻科課程の修了] 専攻科の修了要件は上記システムデザイン工学プログラムの修了要件を全て満たすことという 1 項が含まれています。

[Web ページ] 本校教育プログラムの詳細につきましては [www.oita-ct.ac.jp](http://www.oita-ct.ac.jp) をご覧ください。

(出典：学生課資料)

受験生の皆様へ

在校生の皆様へ

保護者の皆様へ

地域企業の皆様へ

卒業生の皆様へ

contents

学校案内

学習教育目標

学科

専攻科

産官学連携・研究

JABEE関連情報

学寮・図書館  
各センター

同窓会

[HOME](#) > [学校案内](#) > 目的及び目標

大分工業高等専門学校の目的及び目標

## 1. 目的

### 第1章 本校の目的

(目的)

第1条 本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成し、心身ともに健康な技術者を養成することを目的とする。

出典：大分工業高等専門学校学則

## 2. 教育理念（教育目標）

本校の教育目標は「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する」技術者を育成することである。

本科においては、対象の本質を理解し分析する能力と、モデル化し総合する能力を備え、グループにあっては協調し、お互いに高めあうことのできる、専門基礎技術力と教養基礎力に裏打ちされた、実践的技術者を育成する。専攻科においては、高度情報化社会における先端技術に対応する課題探求能力・研究開発能力を有し、高度な専門力と豊かな教養力を備える創造的技術者を育成する。また、自ら方向性を定め学習し、問題を発見して解析する力と、問題を解決し自ら設計して新しいものを産み出す力を備え、高度な技術力と豊かな教養力に裏打ちされた、創造的技術者を育成する。

出典：学校要覧

## 3. 学習・教育目標

学習・教育目標のページをご覧ください。

## 4. 準学士課程

### 4.1 一般科目

一般科目は、専門科目と連携して優れた技術者を育成するため、幅広い視野に立った社会人として必要な豊かな一般教養を育むとともに、専門教育を習得するための基礎的な能力を養うものである。一般科目のうち、文科系科目では、内外の伝統的文化に触れ、歴史や社会を学び、言語活動による情報伝達能力の育成および国際感覚の涵養をはかる。また理科系科目では、自然の解明にあたっての科学的思考力を養い、専門工学を習得するための基礎となる能力を培う。さらに人体の構造を知り、その能力を高めて健康的な人生の基礎作りをめざす。

ちなみに一般科目は各学科に共通であり、高専教育の統合性に資するものである。

出典：学校要覧

### 4.2 機械工学科

最近の科学技術の進歩はあらゆる産業界にわたって飛躍的な発展を遂げつつある。特に機械工業はこれら産業界の中核をなすものである。また最近の産業界の発展は先端技術の導入、新素材の開発等と相まってますます多様化し、高度の専門知識と技術を持った有能な機械技術者が必要となっている。このような産業界の情勢にかんがみ、本校機械工学科ではこれらに十分対処して行けるような技術者の育成の努力をしている。

以上の観点から本学科では5か年間の一貫教育の特質を生かし、一般科目と専門科目を学生の心身の発達に即応して効果的に実施している。特に本学科の専門教育課程では基礎学力の充実と併せて、実験、実習、設計製図、卒業研究に重点をおき、またふさわしい教育環境のもとで、自主積極的、実践的かつ創造力に富み、個性と人間性豊かな技術者を育てるように心掛けている。

出典：学校要覧

### 4.3 電気電子工学科

昨今、エレクトロニクスや情報通信技術の進歩は著しく、工場では高度に自動化・省力化された自動機械やファクトリー・オートメーション(FA)が一般化しています。一方、我々の家庭においてもパソコン、ゲーム機から携帯電話に至るまで様々な電子機器に取り囲まれており、それら無くしてはもはや生活ができない状態になっています。このような高度情報化社会や自動化・省力化工業・生産技術を支える基盤技術はエレクトロニクス技術です。

電気電子工学科ではこの「エレクトロニクス」を中心に「エネルギー」、「情報・通信」という分野にわたって、広く基礎知識や技術力を修得すると共に、演習・実験を通して応用力も身に付けることを狙っています。

電気電子工学科では「電気電子分野における創造的な技術者を」といった産業界からのニーズに応えるために、5年間の一貫教育を通して、理論及び実践の両面に優れた卒業生を輩出するよう努力を重ねています。

度な「エレクトロニクス」や「エネルギー」、「情報・通信」、その他の関連した分野の学習へと進んでいきます。上級生になると、卒業研究や企業、大学、研究機関との共同研究開発や工場見学・実習などを通して、産業界や大学の第一線で十分に活躍できるよう実践的な知識を身に付けていきます。

出典：学校要覧

### 4.4 制御情報工学科

近年、内外において情報技術の発達にはめぐるしいものがあり、その対応のための技術者の不足が言われています。制御情報工学科はこのような社会の要求と時代の流れに即応すべく、幅広い情報技術を習得し、卒業後にさまざまな分野で活躍できる技術者を養成することを目的としています。情報工学を中心に、その基礎となる工学基礎を学び、資格試験にも力を入れ、技術立国の根本となる「ものづくり教育」に目を向け、卒業後には社会の即戦力となる技術を身につけさせます。このように急速な技術革新の推進力となりうる柔軟な発想に富んだ技術者の育成をめざしています。

出典：学校要覧

## 4.5 都市システム工学科

都市システム(土木)工学は、現代文明社会を支えるための生活環境・社会資本の整備及び国土保全を目的とする学問です。土木事業として、交通施設(道路、鉄道、港湾、空港など)、都市施設・環境保全(上下水道、河川、地下鉄、公園など)、防災・資源開発(治水、砂防、水資源など)等、市民の日常生活に深い関係の深い各種の公共事業が行われています。

「東京湾アクアライン」や「明石海峡大橋」などの例が示すように、日本の土木技術は世界に誇る水準にあります。また県内においても、別府明礬橋で知られる「九州横断自動車道」や「東九州自動車道」、水資源開発のための「大山ダム」のような大規模土木事業や町内の「下水道工事」のような身近な土木事業が実施されて、地域の振興に貢献しています。

本校都市システム工学科においては、行政の立場から事業を企画する技術者、設計を担当する技術者、又は建設工事に従事する技術者など、どのような立場の技術者にもなれるように、コンピュータ教育を含む基礎及び専門の教育を行っています。また卒業後に地域で郷土の開発に従事する技術者及び広く国内・海外でも活躍出来る有能な技術者を養成することを目標としています。

出典:学校要覧

## 4.6 編入学

## 目的

高等専門学校は、大学と同様の高等教育機関で、5年間の一貫教育により、深く専門の学芸を教授し、豊かな教養と高度な専門技術を身に付けた技術者を育成することを目的としています。

本校の編入学制度は、こうした高等専門学校設立の趣旨にそって、高等学校の卒業者に等しく門戸を開こうとするものです。

出典:編入学生募集要項

## 5. 専攻科課程

## 5.1 目的

本専攻科は、高度情報化社会における先端技術に対応し得る、課題探求能力を身に付けた独創的かつ創造的研究開発能力を有する人材の育成を目的としています。

出典:専攻科学生募集要項

## 5.2 機械・環境システム専攻

21世紀の“環境の時代”を迎えて、環境問題に対応した機械システムや製造技術及び水圏環境、地盤環境、都市環境、防災システム、環境計画論等に関する幅広い知識が不可欠となっています。

機械・環境システム工学専攻は、本科課程で修得した基礎学力を基盤に、地球環境に関わる各種環境問題にも対応可能な学際的・融合的教育を行うとともに、機械システムと環境システムとの相互依存関係や高度な機械生産システムに深く関わる教育を展開することにより、より専門性に富み、相互に関連した高度技術社会における自己表現能力を育み、グローバルな視野に立った、構想力、実現化能力を有した研究・開発型創造的技術者を育成することを目標としています。

また、本科卒業生等を対象とした社会人のためのリカレント教育を推進するとともに、本専攻科の教育研究の成果として創出された様々な技術、新しい知見などを通して、地域社会との連携をより積極学生は一般科目と並行して先ず電気的基本的な理論を学び、その後より高的に進めます。同時に、企業及び公的研究機関との研究者・学生の相互交流を図る中で、地域に潜在するシーズやニーズの開拓・掘り起こし等に大胆に取り組むことにより、地域社会に真に貢献する研究開発に努めます。

出典:学校要覧

## 5.3 電気電子情報工学専攻

高度に情報化された技術社会が到来し、技術者には複雑なシステムに対応し得る高度な技術力が要求されています。特に、情報技術のわかる電気電子技術者、電気電子技術の分かる情報技術者に対する地域のニーズはますます高くなって来ています。さらにまた、急速な技術の進展と高度化に対応して広範な応用力を発揮することのできる技術者へのニーズも高まっています。

一方、社会の隅々に電気電子情報技術が浸透しているため、この分野の技術者には自然環境に対する深い理解と学際的視野が要求される時代となって来ています。

このような時代背景と社会からの要請を受けて、電気電子情報工学専攻は、本科課程で修得した基礎学力を基盤に、深い教養と広い視野を有し、高度情報化社会に対応し得る研究開発力と解析能力を持った創造的な電気電子技術者、情報技術者の育成を行います。

こうして、確かな基礎力に裏打ちされた質の高い人材を電気電子情報系のさまざまな分野に輩出し、新しい知見や技術の社会への還元を積極的に進めることを通して、安定した高度技術社会の実現に貢献することを目標としています。

出典:学校要覧

(出典:Webページ)

## (分析結果とその根拠理由)

使命、教育理念、育成人材像及び学習・教育目標と各科・編入学・専攻科の目的をウェブページに集約掲載し、準学士課程・編入学・専攻科課程の生募集要項と入学案内に掲載している。「未来へのはばたき」は中学校に配布するほか、中学校訪問の際にも持参し、オープンキャンパスにおいて来校者全員に配布して、同時開催の学校説明会で紹介している。中学校PTAや個人的に来校する生徒や保護者にも配布し、教務主事室が対応・説明に当たり、県内青少年宿泊施設に置いて受験生確保と目的の公表を図っている。学生の就職先と卒業生が経営する企業へは企業向け冊子を配布、進学先へは学習・教育目標達成見込書を送付している。以上から、使命、理念、学習・教育目標と育成人材像や成果が社会に広く公表されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

即戦力の実践的技術者育成に加え、愛の精神を持つ心身ともに健康な技術者の養成を使命とし、技術者倫理が問われる現代を見据え、時代を先取りした教育を実践してきた。この精神を教育理念と学習・教育目標として明文化し、学生の成長と学習経験に基づく独自の志学・修学・専学段階設定のカリキュラム設計を行い、愛の精神を筆頭に5つの標語と目標、サブ目標を掲げ、達成すべき具体的目標とその評価方法について準学士・専攻科両課程を区別した学習・教育目標を掲げ使命達成に努力している。

### (改善を要する点)

志望学科決定と基礎力養成を主にした準学士課程学生募集要項は、学習・教育目標と学科紹介のみで育成すべき技術者像が示されておらず、現在掲載準備をしている。学校の目的等の教職員への周知もさらに努力が必要である。

## (3) 基準 1 の自己評価の概要

教育基本法と学校教育法に則り、「愛の精神」を培い心身ともに健康な技術者育成を使命としてきた。平成 12 年に明文化した教育理念を5つの標語と目標・サブ目標・具体的目標とその評価方法を定めた学習・教育目標として、各々の目標を教科に対応させ、それを修得することで目標達成を実現している。カリキュラムは準学士課程（志学・修学段階）と専攻科課程（専学段階）で連続した形で設計しており、準学士課程で達成すべき学習・教育目標はサブ目標の階層で全体の7割である。専攻科課程では準学士課程の学習・教育目標を全て達成した上で、残りの3割に当たる学習・教育サブ目標（A2 と E）全てを達成する必要がある。このように学校の使命・教育研究活動実施上の基本方針（教育理念）や育成人材像と卒業及び修了時の成果（学習・教育目標）も両課程で明文化され、学校教育法の規定にはずれるものではない。

使命、教育理念、育成人材像とその成果はウェブページ・学校要覧・両課程の学生便覧とシラバス・各教室の額内・両課程と編入学の学生募集要項・各種入学案内・中学生向けと企業向け冊子・進学先への文書等に公表し、学内と社会に向け広く周知・公開を図ると同時にオープンキャンパス・中学校訪問等を通じ学外へ積極的な説明も実施している。今後、さらに少子化が進む中、入試倍率の増加と優秀な人材確保、学生・教職員の意識向上のため目的の周知・公開に一層努力する。

## 基準2 教育組織（実施体制）

## （1）観点ごとの分析

観点2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

学校の構成は、本校目的（資料1-1-①-1）の下、創立当初は機械工学科（2学級 80名）と電気工学科（1学級 40名）の2学科から出発し、昭和42年に土木工学科を新設、平成元年に「ものづくり教育」に目を向け、卒業後社会の即戦力となる情報技術の習得を目指し制御情報工学科を機械工学科より分離増設し4学科となった。その後の産業構造変化に対応し、平成13年に電気工学科を電気電子工学科、平成16年に土木工学科を都市システム工学科に名称変更した結果、現在の学科・学級数・入学定員は以下のように定められている（資料2-1-①-1）。

教育理念は「人間性に溢れ国際感覚を備え、探究心、創造性、表現能力を有する技術者を育成する」（資料2-1-①-2）ことで、これを達成するため各学科は独自の観点と目的で、教育を実践している（資料2-1-①-3）。

これらはまた、高等専門学校設置基準第4条の規定「高等専門学校の学科は、専攻分野を教育するために組織されるものであって、その規模内容が学科として適当と認められるものとする。」を十分考慮したものとなっている。

## 資料2-1-①-1

## 大分工業高等専門学校学則（抜粋）

制 定 平成16年4月1日  
最終改正 平成19年2月20日

（学科，学級数及び入学定員）  
第7条 学科，学級数及び入学定員は，次のとおりとする。

学 科	学 級 数	入 学 定 員
機械工学科	1	40人
電気電子工学科	1	40人
制御情報工学科	1	40人
都市システム工学科	1	40人

（出典：大分工業高等専門学校規則集）

## 資料 2 - 1 - ① - 2

**教育の目的と教育理念**

本校の目的は「教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成し、心身ともに健康な技術者を育成すること」であり、教育理念は「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する」技術者を育成することである。

本科においては、対象の本質を理解し分析する能力と、モデル化し総合する能力を備え、グループにあっては協調し、お互いに高めあうことのできる、専門基礎技術力と教養基礎力に裏打ちされた、実践的技術者を育成する。

専攻科においては、高度情報化社会における先端技術に対応しうる課題探求能力・研究開発能力を有し、高度な専門力と豊かな教養力を備える創造的技術者を育成する。また、自ら方向性を定め学習し、問題を発見して解析する力と、問題を解決し自ら設計して新しいものを産み出す力を備え、高度な技術力と豊かな教養力に裏打ちされた、創造的技術者を育成する。

(出典：学校要覧)

## 資料 2 - 1 - ① - 3

**機械工学科**

機械工学は科学技術立国日本のものづくりを支える基盤の学問です。生活の回りにあるものは全て機械工学の技術を通して生産されたものといえます。機械工学で学ぶ技術としての学問は大きく分けて 5 つあります。それは、(1)機械の動きを解析・制御する技術、(2)材料をうまく利用する技術、(3)加工や製作の技術、(4)熱やエネルギーを利用する技術、(5)水や空気の流れを利用する技術、です。これらを統合して社会に役立つものを設計・製作するのが機械工学です。本校の機械工学科では、これらの学問が実習や実験などの体験とともに身に付くように工夫され、頭と体の動くエンジニア育成に努めています。また、技術の発達に対応するため、情報処理技術等の基礎工学に力を注ぐ一方、卒業研究での研究活動で問題解決能力や創造性を養う努力を行っています。

近年の科学技術の発展は目覚しく、学校教育の追従を許さない状況にあります。本校機械工学科では、幅広い学問と豊富な実験実習で、最先端技術を含むどのような分野にも対応できる人材を育成しています。実践的かつ創造性に富み、個性と人間性豊かなオールマイティな技術者を育てるように心がけています。

**電気電子工学科**

昨今、エレクトロニクスや情報通信技術の進歩は著しく、工場では高度に自動化・省力化された自動機械やファクトリー・オートメーション (F A) が一般化しています。一方、我々の家庭においてもパソコン、ゲーム機から携帯電話に至るまで様々な電子機器に取り囲まれており、それら無くしてはもはや生活ができない状態になっています。このような高度情報化社会や自動化・省力化工業・生産技術を支える基盤技術はエレクトロニクス技術です。

電気電子工学科ではこの「エレクトロニクス」を中心に「エネルギー」、「情報・通信」という分野にわたって、広く基礎知識や技術力を修得すると共に、演習・実験を通して応用力も身に付けることを狙っています。

電気電子工学科では「電気電子分野における創造的な技術者を」といった産業界からのニーズに応えるために、5 年間の一貫教育を通して、理論及び実践の両面に優れた卒業生を輩出するよう努力を重ねています。

学生は一般科目と並行して先ず電気の基本的な理論を学び、その後より高度な「エレクトロニクス」や「エネルギー」、「情報・通信」、その他の関連した分野の学習へと進んでいきます。上級生になると、卒業研究や企業、大学、研究機関との共同研究開発や工場見学・実習などを通して、産業界や大学の第一線で十分に活躍できるよう実践的な知識を身に付けていきます。



### 制御情報工学科

近年、内外において情報技術の発達にはめまぐるしいものがあり、その対応のための技術者の不足が言われています。制御情報工学科はこのような社会の要求と時代の流れに即応すべく、幅の広い情報技術を習得し、卒業後にさまざまな分野で活躍できる技術者を養成することを目的としています。情報工学を中心に、その基礎となる工学基礎を学び、資格試験にも力を入れ、技術立国の根本となる「ものづくり教育」に目を向け、卒業後には社会の即戦力となる技術を身につけさせます。このように急速な技術革新の推進力となりうる柔軟な発想に富んだ技術者の育成をめざしています。

### 都市システム工学科

都市システム（土木）工学は、現代文明社会を支えるための生活環境・社会資本の整備及び国土保全を目的とする学問です。土木事業として、交通施設（道路、鉄道、港湾、空港など）、都市施設・環境保全（上下水道、河川、地下鉄、公園など）、防災・資源開発（治水、砂防、水資源など）等、市民の日常生活に関係の深い各種の公共事業が行われています。

「東京湾アクアライン」や「明石海峡大橋」などの例が示すように、日本の土木技術は世界に誇る水準にあります。また県内においても、別府明礬橋で知られる「九州横断自動車道」や「東九州自動車道」、水資源開発のための「大山ダム」のような大規模土木事業や町内の「下水道工事」のような身近な土木事業が実施されて、地域の振興に貢献しています。

本校都市システム工学科においては、行政の立場から事業を企画する技術者、設計を担当する技術者、又は建設工事に従事する技術者など、どのような立場の技術者にもなれるように、コンピュータ教育を含む基礎及び専門の教育を行っています。また卒業後に地域で郷土の開発に従事する技術者及び広く国内・海外でも活躍出来る有能な技術者を養成することを目標としています。

（出典：学校要覧 各学科の紹介）

（分析結果とその根拠理由）

本校は、機械・電気電子・制御情報・都市システムの4学科で構成され、一般科目と連携し、教育理念の下に本校の教育目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点 2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

専攻科は、準学士課程の5年一貫教育を基礎に、より高度な実践的・創造的教育により、広く産業の発展に寄与できる研究技術者育成を目的に平成15年に設置され(資料2-1-②-1)、機械工学科と都市システム工学科をベースとした機械・環境システム工学専攻と、電気電子工学科と制御情報工学科をベースとした電気電子情報工学専攻からなり、その構成及び各専攻の教育方針をホームページ上に公開している(資料2-1-②-2)。

専攻科としての教育理念実現のため、準学士課程4年次から専攻科2年次の一貫したJABEE認定を受けた技術者教育プログラム「システムデザイン工学プログラム」を設定し、(資料2-1-②-3)、その学習・教育目標を定めている(資料2-1-②-4)。

### 資料 2-1-②-1

#### 大分工業高等専門学校学則 (抜粋)

##### 第8章 専攻科

(設置)

第45条 本校に、専攻科を置く。

(目的)

第46条 専攻科は、高等専門学校教育の基盤の上に、更に高度な専門知識と技術を教授し、創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

(専攻及び入学定員)

第47条 専攻及び入学定員は次のとおりとする。

専 攻	入学定員
機械・環境システム工学専攻	8人
電気電子情報工学専攻	8人

(入学資格)

第48条 専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- 一 高等専門学校を卒業した者
  - 二 短期大学を卒業した者
  - 三 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第82条の10の規定により大学に編入学することができる者
  - 四 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
  - 五 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
  - 六 その他、本校の専攻科が高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- (入学者の選抜及び入学の許可)

第49条 校長は、専攻科の入学志願者について、別に定めるところにより選抜の上、入学を許可する。

(修業年限及び在学期間)

第50条 専攻科の修業年限は、2年とする。ただし、4年を超えて在学することはできない。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

## 資料 2 - 1 - ② - 2

専攻料とは、高専 5 年間の一貫教育を基礎に、さらに 2 年間の教育・研究を行うことによって、より高度な実践的・研究開発型技術者を育成することを目的として設置されたものです。

専攻科で所要の単位を修得して、大学評価・学位授与機構の行う学修成果の審査及び試験に合格すると、「学士(工学)」の学位を授与されます。これにより、4 年制大学の学部卒業と同じ資格で就職したり、大学院へ進学できるようになります。

本校の専攻科には、本科の機械工学科と都市システム工学科をベースとした「機械・環境システム工学専攻」と、電気電子工学科と制御情報工学科をベースとした「電気電子情報工学専攻」があり、定員はいずれも 8 名となっています。

専攻科では、本校の教育目標である「工学教育を通し、人間性にあふれ、国際感覚を身につけた、探究心・創造性・表現力を有する技術者の育成」を基盤に、さらに高度な専門性を有し、指導力を持った技術者の育成を目指しています。

また、社会人に対しても広く門戸を開放しており、急速に進展する先端技術の教育と基礎的な知識のリカレント教育を実施し、企業戦略の中核となる研究開発型の技術者を育成します。

### 機械・環境システム専攻の教育方針

21 世紀の“環境の時代”を迎えて、環境問題に対応した機械システムや製造技術及び水圏環境、地盤環境、都市環境、防災システム、環境計画論等に関する幅広い知識が不可欠となっています。

機械・環境システム工学専攻は、本科課程で修得した基礎学力を基盤に、地球環境に関わる各種環境問題にも対応可能な学際的・融合的教育を行うとともに、機械システムと環境システムとの相互依存関係や高度な機械生産システムに深く関わる教育を展開することにより、より専門性に富み、相互に関連した高度技術社会における自己表現能力を育み、グローバルな視野に立った、構想力、実現化能力を有した研究・開発型創造的技術者を育成することを目標としています。

また、本科卒業生等を対象とした社会人のためのリカレント教育を推進するとともに、本専攻科の教育研究の成果として創出された様々な技術、新しい知見などを通して、地域社会との連携をより積極的に進めます。同時に、企業及び公的研究機関との研究者・学生の相互交流を図る中で、地域に潜在するシーズやニーズの開拓・掘り起こし等に大胆に取り組むことにより、地域社会に真に貢献する研究開発に努めます。

### 電気電子情報専攻の教育方針

高度に情報化された技術社会が到来し、技術者には複雑なシステムに対応し得る高度な技術力が要求されています。特に、情報技術のわかる電気電子技術者、電気電子技術の分かる情報技術者に対する地域のニーズはますます高くなって来ています。さらにまた、急速な技術の進展と高度化に対応して広範な応用力を発揮することのできる技術者へのニーズも高まっています。

一方、社会の隅々に電気電子情報技術が浸透しているため、この分野の技術者には自然環境に対する深い理解と学際的視野が要求される時代となって来ています。

このような時代背景と社会からの要請を受けて、電気電子情報工学専攻は、本科課程で修得した基礎学力を基盤に、深い教養と広い視野を有し、高度情報化社会に対応し得る研究開発力と解析能力を持った創造的な電気電子技術者、情報技術者の育成を行います。

こうして、確かな基礎力に裏打ちされた質の高い人材を電気電子情報系のさまざまな分野に輩出し、新しい知見や技術の社会への還元を積極的に進めることを通して、安定した高度技術社会の実現に貢献することを目標としています。

(出典：Web ページ)

資料 2 - 1 - ② - 3



(出典：J A B E E 認定証)

資料 2 - 1 - ② - 4

学習・教育目標

標語	目標	サブ目標	準学士課程において達成すべき具体的な目標	専攻科課程において達成すべき具体的な目標	
A 愛の精神	世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養, 自ら考える力, いつくしみの心を身につける	A-1	自ら考える力を身につける	(1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 論理的に自らの考えを構築することができること	(1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること
		A-2	技術者としての倫理を身につける	(1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること (2) いつくしみの心を持ち、相手の立場に立って考えることができること	(1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること
B 科学や工学の基礎	科学の粋を極める技術者に必要な数学, 自然科学	B-1	数学, 自然科学の力を身につける	(1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然科学の基本的な問題が解けること	(1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然現象の本質を問う問題が解けること

C	コミュニケーション能力	地域や国際舞台での活躍をめがけて、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける	C-1	表現する力、ディスカッションする力を身につける	自ら表現したいことについて第三者が理解できるように表現できること	自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること
			C-2	英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける	英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単な作文ができること	英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること
D	技術者としてのセンス	創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける	D-1	探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける	(1) 技術の対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) 問題を深く掘り下げる努力ができること	(1) 技術の対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること (3) 問題を深く掘り下げる努力ができること
			D-2	協力して問題を解決する力を身につける	チームで問題に取り組む体験を得ること	(1) 問題をチームで解決する体験を得ること (2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること
E	専門工学の活用	専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける	E-1	専門工学の知識を獲得する		自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げるのできる専門工学の知識があること
			E-2	工学の相互関連性を理解する		(1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること
			E-3	専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける		自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること

(出典：Webページ)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科は教育理念とその設置目的にふさわしい学習・教育目標の達成を実践し、構成及び目的は学校が掲げた教育の目的に適応しており、同時にそれを十分達成できる適切な構成となっている。

観点2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

目的達成を支援するため、全学的な技術センター・総合情報センター・地域連携交流センターを設置している。

技術センターは、実験実習・卒業研究・課外活動（ロボットコンテスト等）や国家試験受験に対する技術指導を行っており、準学士課程での専門的基礎技術力を備えた実践的技術者育成と専攻科での創造的技術者育成という教育目標達成に対応している（資料2-1-③-1, 2）。

総合情報センターは、昭和50年に「電子計算機室」として設立され、平成9年に「総合情報センター」に改称し、情報処理基礎教育、実験・実習に加え学生と教職員の研究・課外活動、公開講座等に広く利用されている（資料2-1-③-3, 4）。平成14年に利用者増大と高度情報化社会に対処すべく、2つの演習室のパソコンを最新型に更新した（資料2-1-③-5）。

地域連携交流センターは、昭和57年に「材料・構造・自動化教育センター」として設立し、翌年「共同教育研究センター」に改称し、平成13年度に機械実習施設と統合し「総合教育研究センター」に改組した。平成15年の地域企業との産学官連携を推進し教育・研究を支援する組織「大分高専テクノフォーラム」と、県内の大学や本校の研究者も出資し研究成果の特許登録の申請や産業界への斡旋を行う「有限会社大分TLO」の設立を契機に、平成18年に「地域連携交流センター」となり（資料2-1-③-6）、地域社会と交流・連携を深めるとともに、学生教育にも貢献する幅広い活動を行っている。（資料2-1-③-7, 8, 9）

#### 資料2-1-③-1

#### 大分工業高等専門学校技術センター規程（抜粋）

制 定 平成16年4月1日  
改 正 平成19年3月14日

(設置)

**第1条** 大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育研究に関する技術的業務を行うため技術センター（以下「センター」という。）を置く。

(業務)

**第2条** センターにおいては、次の各号に掲げる業務を遂行する。

- 一 学生の実験、実習及び卒業研究の技術的指導に関すること。
- 二 教員の教育研究活動の支援に関すること。
- 三 外部からの技術相談に関すること。
- 四 学生の課外活動の技術的指導に関すること。
- 五 センターに関係する機器の保守・管理に関すること。
- 六 新技術の開発に関すること。
- 七 その他センターに関すること。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

## 資料 2 - 1 - ③ - 2

## 1. 実習による利用状況

授業で実習工場を使用するのは機械工学科が主であるが、不定期ながら一部、専攻科プロジェクト実験におけるロボット製作と制御情報工学科の実習において、ケガキ作業やボール盤による穴あけ作業に利用されている。

表 1 に機械工学科の実習内容、使用機械等を示す。

表 1 機械実習内容 (機械工学科)

学年	実習項目	使用機械	実習回数	担当技術職員数
1	旋盤加工	汎用旋盤	24	1
	手仕上げ加工	縦フライス盤, ボール盤	20	1
2	旋盤加工	汎用旋盤, 卓上・直立ボール盤	24	1
	歯車製作	ホブ盤, 汎用旋盤	16	1
	NC加工	CNC ボール盤	24	1
	溶接作業	電気溶接, ガス溶接	24	1
3	スターリングエンジン製作	汎用旋盤, 縦・横フライス盤 卓上ボール盤	24	3
	NC加工	CNC 旋盤	24	1

※ 実習回数は、1年間に実施した回数を示す。(1回は2コマを示す)

## 2. 卒業研究、部活等による実習工場の利用状況

表 1, 図 1 に使用者別の利用状況, 表 2, 図 2 に使用目的別の利用状況, 表 3, 図 3 に使用機械別利用状況を示す。

使用者別の利用状況を見ると、機械工学科が圧倒的に多い。これは卒業研究による実験装置の製作が主であるが、一部ロボット研究部や機械・電気チームのロボット製作が含まれている。次いで制御情報工学科となっているが、ロボ研部からの使用届けが制御情報の学生となっているため比較的多い件数となった。専攻科ではプロジェクト実験や卒業研究、電気・電子工学科ではロボット製作、都市システム工学科では高専祭準備に利用されている。

職員の使用目的は、実験・実習における治具や試験片の製作である。利用件数が少ないのは、口頭による使用届けが多く、書類として残っていないためである。今後、是正していく必要がある。

全体の半数近くがロボット製作に利用されていることは、創造性や物作りの観点から大変喜ばしいことと思われる。

表 1 利用者別利用状況

利用者	件数
機械工学科	162
制御情報工学科	96
専攻科	40
電気電子工学科	18
都市システム工学科	6
職員	12
合計	334

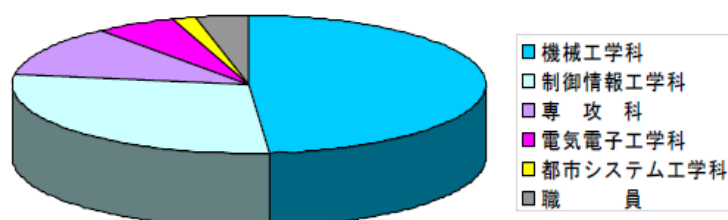


図 1 利用者別利用状況

表 2 使用目的別利用状況

使用目的	件数
ロボ研部製作	132
卒業研究	116
プロジェクト実験	31
機械・電気部製作	27
高専祭準備	6
オープンキャンパス準備	2
学科依頼業務	12
不明	8
合計	334

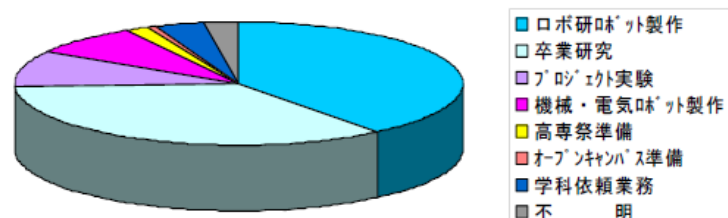


図 2 使用目的別利用状況

使用機械別ではフライス盤の使用が多い。ほとんどが縦フライス盤の使用であり、平面切削加工より穴あけ加工が主である。これはマグネスケール装置により寸法が正確に読み取れるため多用されたものと思われる。旋盤は機械工学科の卒業研究とロボ研部のロボット製作が主である。

特殊なところでは、ロボ研部が手作業では困難な加工を CNC ボール盤を使用して加工していた。

機械実習以外の工場の利用は、卒業研究およびロボット製作で全体の 8 割以上を占めている。

(出典：平成17年度技術センター業務報告書)



## 資料 2 - 1 - ③ - 3

## 大分工業高等専門学校総合情報センター規則（抜粋）

制 定 平成 16 年 4 月 1 日  
最終改正 平成 19 年 2 月 16 日

（設置）

**第 1 条** 大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、情報処理教育、コンピュータ支援教育及び情報処理関連の研究に供するとともに、情報ネットワークの構築・運用及び事務処理等の充実を図ることを目的に、本校総合情報センター（以下「センター」という。）を置く。

（業務）

**第 2 条** センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 情報処理教育及びコンピュータ支援教育に関すること。
- 二 情報処理に関する研究，開発及び調査に関すること。
- 三 情報ネットワークに関すること。
- 四 コンピュータシステム等の運用，保全及びその整備充実に関すること。
- 五 その他センターに関すること。

（組織等）

**第 3 条** センターの業務を処理するため、センター長、センター長補佐及び必要なセンター員を置く。

- 2 センター長及びセンター長補佐は、校長が任命する。
- 3 センター長は、センターを管理し、その業務を掌理する。
- 4 センター長補佐は、センター長の職務を補佐する。
- 5 センター長は、センターの業務に従事する。

（運営委員会）

**第 4 条** センターの管理及び運営に関する必要事項は、総合情報システム委員会において審議するものとする。

（出典：大分工業高等専門学校規則集）

## 資料 2 - 1 - ③ - 4

## 平成 18 年度 4 月～12 月までの時間外（17：00～20：00）利用者数

	利用者数（人）																	月間 合計	開館 日数
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月		
4月	3	4	8															15	3
5月	21	6	1	4	7	6	7	1	3	9	1	3	10	18	30	30	33	190	17
6月	20	10	6	4	4	17	10	2	3	3	3	9	7	10	7			115	15
7月	20	30	20	25	8	20	20	14	5	10	10	6	18	4				210	14
9月	6	25	40	25	26	20	3	4	3	2	2							156	11
10月	7	7	4	10	4	20	3	2	4	2	16	6	2	2	14			103	15
11月	8	6	15	20	3	3	2	11	10	10	5	6	15	6	20	20	9	175	18
12月	1	5	3	1	3	3	5	10	20	10								61	10
	4月～12月の合計																	1025	103

人数は業務日誌より。ただし 16時から 17時の利用者数は把握していない。

## 平成18年度 情報センター演習室の週間利用時間

単位：時間

	機 械	電気電子	制御情報	都市システム	学年合計
1 学年		3	4.5	3	10.5
			4.5	1.5	6.0
2 学年	4.5	1.5	3	4.5	13.5
	4.5	1.5		4.5	10.5
3 学年	1.5	1.5	1.5		4.5
			4.5		4.5
4 学年	4.5		1.5	3	9.0
	3		1.5		4.5
5 学年	3				3.0
		1.5		3	4.5
学科合計	21.0	9.0	21.0	19.5	70.5

上段：前期時間数
下段：後期時間数

## 平成18年度 情報センター演習室の時間割

## ■前期

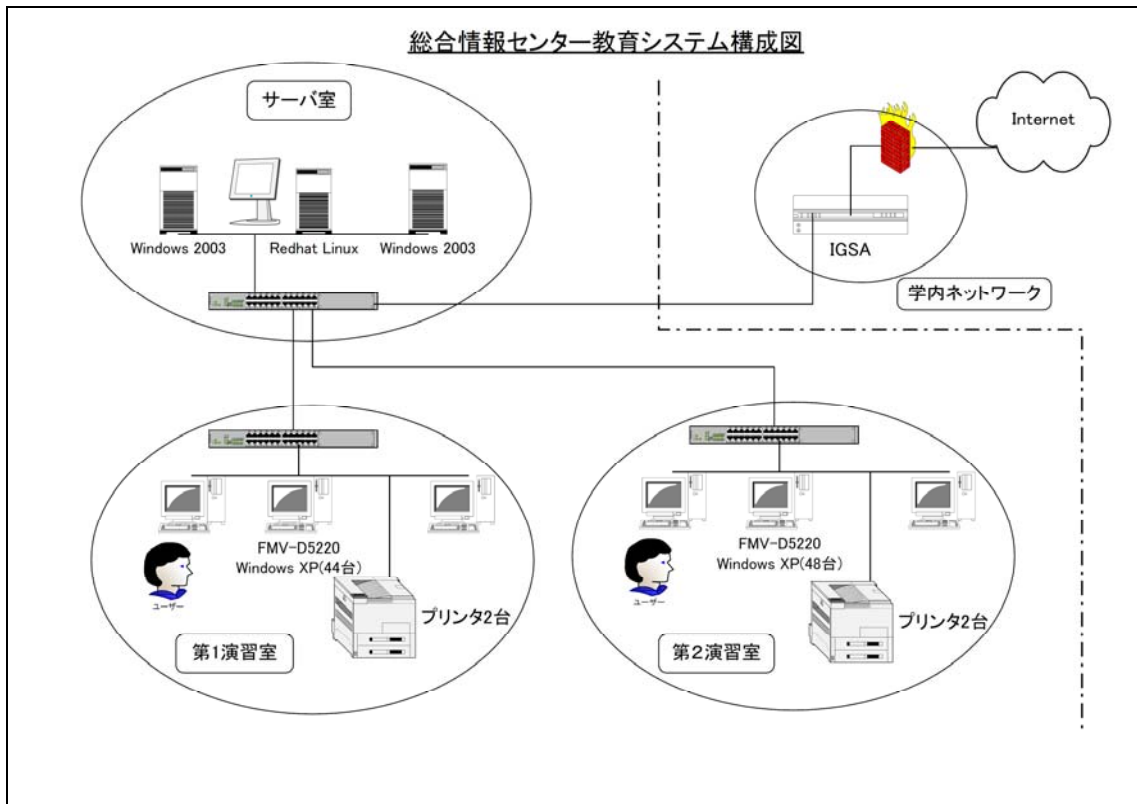
	機 械	室名	電気電子	室名	制御情報	室名	都市システム	室名
1 学年			情報処理(3)	第2	工学実験基礎(1.5)	第1	情報処理(3)	第2
					情報リテラシー(3)	第2		
2 学年	情報処理Ⅰ(1.5)	第2	プログラミング(1.5)	第2	情報処理Ⅱ(3)	第2	情報処理(1.5)	第2
	機械実習(3)	第1					情報処理演習(3)	第1
3 学年	情報処理Ⅱ(1.5)	第2	アルゴリズム(1.5)	第1	情報処理Ⅳ(1.5)	第2		
4 学年	設計製図Ⅰ(3)	第1			アルゴリズム(1.5)	第2	情報処理(3)	第1
	情報工学(1.5)	第2						
5 学年	設計製図Ⅲ(3)							

## ■後期

	機 械	室名	電気電子	室名	制御情報	室名	都市システム	室名
1 学年					工学実験基礎(1.5)	第1	情報処理(3)	第2
					プログラミング基礎Ⅰ(3)	第2		
2 学年	情報処理Ⅰ(1.5)	第2	プログラミング(1.5)	第2			情報処理(1.5)	第2
	機械実習(3)	第1					情報処理演習(3)	第1
3 学年					情報処理Ⅳ(1.5)	第2		
					回路演習Ⅱ(3)	第2		
4 学年	設計製図Ⅱ(3)	第2			アルゴリズム(1.5)	第2		
5 学年			システム工学(1.5)	第1			設計製図(3)	第2

(出典：総合情報センター資料)

資料 2-1-③-5



(出典：総合情報センター資料 総合情報センターハードウェアの組織図)

資料 2-1-③-6

**大分工業高等専門学校地域連携交流センター規則 (抜粋)**

制 定 平成 16 年 4 月 1 日  
改 正 平成 18 年 9 月 11 日

(設置)

**第 1 条** 大分工業高等専門学校 (以下「本校」という。)に、工業に関する実践的な技術の教育及び研究を行うと共に、本校の実験・実習施設の効率的な運用を図るため、学内共同利用施設として地域連携交流センター (以下「センター」という。)を置く。

(業務)

**第 2 条** センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 工業に関する教育及び研究
- 二 ものづくりを通じた創造性の育成
- 三 技術研修に関する公開講座等の実施
- 四 地域企業等への助言及び指導
- 五 地域企業等との共同研究等
- 六 センター内の施設及び設備の管理運営
- 七 その他センターに関する業務

(施設)

**第 3 条** センターは、次の各号の施設をもって構成する。

- 一 共同教育研究センター
- 二 実習工場 (機械工場, 木工場, 鋳造工場, 鍛造工場及び付帯施設)

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

## 資料 2 - 1 - ③ - 7

総合教育研究センターが連携・支援している、大分高専テクノフォーラムの行事がH17年度も年2回開催された。技術センター運営委員の藤井・秦も役員として協力した。

第1回は、6月8日(火)大分高専専攻科棟4F アカデミックホールにて、徳永装器株式会社代表取締役社長 徳永 修一氏の演題「産学官連携による医療機器開発」、㈱コイシ 代表取締役社長 小原 文男氏の演題「産学官連携からの出会いと好転」、大分高専情報情報工学科 つる 浩二助教授による演題「ICカードを用いた情報セキュリティ技術のフロンティア」が講演され、技術センターからも多くの参加があり、技術向上に役立つ講演を熱心に聞いていた。

2回目は、12月13日(火)14時から大分高専合併講義室で秋月大分高専テクノフォーラム会長挨拶、亀野総合教育研究センター長挨拶に続いて講演が開催された。最初に菱商電子(上海)有限公司 総経理 千原 均氏の「現地日系半導体商社から見た今後の中国ビジネス展望について」と題して現地の社会情勢等を交え中国ビジネスについて講演があり、多くの方から興味深い質問があった。



写真1 第2回テクノフォーラム技術講演会の様子



写真2 技術講演会で質問する本校卒業生

続いて、(株)デンケン システム・ソリューション事業部 部長 山野 健治氏「TLOを利用した光造形装置の開発」、本校都市システム工学科 高見 徹助教授による「沿岸生態系保全—海藻による毒性評価と下水消毒技術の改善」の3講演があった。技術センターからは全員が出席し、教職員・学生・企業会員の方達と一緒に熱心にメモを取りながら聴講した。

出前授業「科学と遊ぼう」は、小・中学生を対象に実験・実習を体験することで、未来を担う世代に科学技術のすばらしさ、ものづくりのおもしろさを直接伝え、「科学技術」への興味・関心の育成を目的としている。独自のテーマも多くなり選別して出展することもある。また、教員と連名で1つのテーマを発表する。さらにH17年度の総合教育研究センター協力員として全技術職員が登録し、テーマを補佐した。

H17年度は、7月26日(火)午前中、学校近くの明治明野公民館に向向き、出前授業「科学と遊ぼう」を開催した。6テーマ(液体窒素実験、身近なものの水質検査、LED実験、浮沈子をつくるう、どっちの料理ショー、スターリングエンジン展示・説明)を実施した。



写真7-1 液体窒素中でコチコチになったボールは氷に落とすととんたんに割れる



写真7-2 液体窒素中にシャープペンシル芯を入れ 電気を流すと発光する

(出典：平成17年度技術センター業務報告書)

平成 18 年度第 1 回地域連携交流センター運営委員会議事概要

日 時 平成 18 年 4 月 11 日 (火) 16:20 ~ 18:10  
 場 所 会 議 室  
 出 席 者 別紙のとおり  
 会議資料 小中学校等への「科学技術教育支援」に関する合意書  
 大分高専テクノフォーラム総会&技術講演会について (案)  
 高専等を活用した中小企業人材育成支援事業  
 コンクリート強度受託試験構想  
 私から見た「高専教育の分析と発展性」について

議題

1. 当面のおもな課題について

(1) 高専等を活用した中小企業人材育成事業への応募

委員長から、高専等を活用した中小企業人材育成事業への応募状況について、資料に基づき申請内容等の説明があった。また、本日付で大分県産業創造機構から経済産業省に対し応募書類を送付することと予定である旨の報告があった。

(2) コンクリート受託試験について

委員長から、大分県下のコンクリート受託試験については大分県建設技術センターが実施してきたが、同センターとしては早い時期に廃止したい意向があるため、本校が主に請け負う方向で検討したい旨の説明があった。

引き続き委員長から、資料に基づき構想案の説明があったが、以下のような意見があり、今後継続して審議することとした。

【意見】

- .....
- .....
- .....
- .....
- .....
- .....
- .....
- .....

(3) 大分高専テクノフォーラム総会&技術講演会について

委員長から、大分高専テクノフォーラム総会&技術講演会について検討願いたい旨の提案の後、亀野副センター長から、大分高専テクノフォーラム総会&技術講演会の内容等について、資料に基づき原案の説明があった。引き続き審議の結果、以下の事項を確認の後、大筋で了承した。

【確認事項】

- 亀野副センター長が演題を確認する。
- ポスター及びパンフレットを作成することとし、原案を鷹尾委員が作成することとなった。
- 当日は校長が出張のため、副校長に代理出席いただくこととする。

(4) 小中学校等への「科学技術教育支援」について

工藤副センター長から、昨年九州沖縄地区高専校長会で同意された小中学校等への「科学技術教育支援」について、資料に基づき説明の後、本校でも同事業を推進するため、HPに資料のような事項を掲載したい旨の提案があり、審議の結果了承し、事務方から、掲載に必要な事項を収集するためのメールを流すこととした。

(5) 第 1 回大分ビジネス・リンクについて

靄委員から、先に開催された第 1 回大分ビジネス・リンクの説明会について、以下のとおり報告があった。引き続き審議の結果、以下の事項を確認した。

【報告】

- 機材等の搬入は前日の 5 月 10 日である。
- プレゼン (15 分) 用のパワーポイントの作成が必要である。

【確認事項】

- プレゼンはロボコンの内容とし鷹尾委員に作成していただく。  
 ○出展ブースに置くパネルは各学科 2 枚とする。  
 ○出展ブースで技術相談に対応する委員 (= 教員) については、講義時間などを考慮しながらセンター長が調整する。  
 ○弁当 2 個は先方からもらえるがそれ以外については、テクノフォーラムから支出することとする。
- (6) 「技術教育に関する卒業生アンケート」調査報告に対する意見の集約について  
 委員長から、メールで周知したように技術教育推進会議において、委員から「技術教育に関する卒業生アンケート」調査報告に対する本校教職員の意見を集約するように依頼があったので、各学科において全職員が提出するよう周知依頼があった。  
 また、亀野副センター長から、・・・卒の・・・さんから資料のとおり【私から見た「高専教育の分析と発展性」について】が届いているので、これについても返事を出すとともに各委員の意見を集約したい旨の説明があり、審議の結果、委員長と副センター長に一任することとした。
- (7) 公開講座について  
 事務方から、公開講座の募集に対し、機械工学科から 1 テーマ、制御情報工学科から 2 テーマ、都市システム工学科から 1 テーマの募集があったが、メールでも周知したとおり一般科目を含めて各学科 (7) から最低一つは応募していただくため、締め切りを今月末日まで延長するので、各学科において募集に関し周知していただくよう依頼があった。なお、次回委員会では本件について審議していただくことを予定している旨の説明があった。
2. その他

(出典：地域連携交流センター運営委員会資料)

## 資料 2 - 1 - ③ - 9

### 平成 19 年度第 1 回地域連携交流センター運営委員会議事概要

日 時	平成 19 年 4 月 12 日 (木) 15:00 ~ 16:40
場 所	会議室
出席者	別紙のとおり
会議資料	平成 18 年度「科学と遊ぼう！」実施状況、大分高専 WARAJI 会合同新聞切り抜き、大分県商工労働部工業振興課からの依頼事項について 大分高専テクノフォーラム総会&技術講演会実行計画 (案) について ご近所の底力「研究者紹介」、平成 18 年度技術相談一覧

#### 議題

- 委員紹介について  
 今年度新たに委員となった清水専攻科長、穴井一般科目文系代表、山崎・吉岩技術センター代表及び新たに陪席することとなった副島総務課課長補佐 (総務担当・企画室長)、馬原総務課課長補佐 (財務担当)、石橋企画係長、高橋企画係員の紹介があった。
- 平成 19 年度 Jr サイエンススクール (科学と遊ぼう! in 明治明野公民館) の参加について  
 企画係長から、先日、明治明野公民館から昨年度も実施した科学と遊ぼうを今年度は、7 月 24 日 (火) に実施をお願いしたいとの依頼があり、同日の実施が可能か審議願いたい旨の説明があり、工藤副センター長から昨年度の状況等の報告があった。同日は特に支障がないので、センター員がスタッフとなり実施を引き受ける旨を先方に伝えることが了承された。  
 なお、テーマ、実施時間帯及び参加協力者等のスタッフについては、今後更に先方と詰めることが確認された。
- 「わらじ」の公開講座について  
 委員長から、本校の教職員等 5 人で作っている「大分高専 WARAJI 会」の活動を資料に基づき説明後、地域への貢献という意味でこの「わらじ」作成を本校の公開講座に組み入れてはどうかと

の意見が寄せられたので、審議願いたい旨提案があった。公開講座は高専の教育研究成果の還元のみでなく幅広い分野で実施するものであるので、公開講座に組み入れても良いのではないかとの意見に基づき、了承された。

なお、実施する場合は、本校を定年退職した教員が講師を務め、福永センター長が総括責任者となることが確認された。

4. 大分県からの依頼に基づく制御情報工学科情報システム実験室等の使用について

.....  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .

5. コンクリートの試験実施について

委員長から、現在までの経緯及び他高専の状況等の説明後、現行の試験料を半額にしなければ試験の申込が見込めない状況と実際に申込があった後の運用について検討して欲しい旨依頼があり、次のことについて早急に対応することが確認された。

- ・ 申込者の事情を考慮して現金収納も可能であるが、あまりにも件数が多すぎると事務の対応が可能かどうか問題となるので、収納の見込みを把握する必要がある。
- ・ 試験に必要な諸経費と収納額等との原価計算を行ない、収支の折り合いが妥当か検討を要する。
- ・ 他高専が試験料を値下げしているのので、その方法を教示してもらい、試験料について機構に協議する必要がある。

なお、上記3点の対応を済ませた後、更にHP掲載等、実施に向けて動くことが確認された。

6. 大分高専テクノフォーラムについて

委員長から、6月に開催されるテクノフォーラムの技術講演会における宇宙開発事業団の辻畑氏の講演について、校長が講演の内容からして本校の学生にも聴講させたい意向があるのでその方法について審議してもらいたい旨説明があった。種々審議の結果、会場は体育館で実施することとし、人数の制約上、対象は5年生と専攻科生のみとし、他の学年はビデオ録画より上映すれば良いのではないかと、全学年が同時に聴講できる大きな会場借用を行えば良いのではないかと、また、中間試験前の補講日であるので、教務主事との調整が必要などの意見が出た。最終的には、委員長が校長と相談して決めることとなった。

更に、広報活動として大分合同新聞、テレビ局各社への後援依頼を行うことが確認された。

また、亀野副センター長から、資料に基づき同日の実施計画について説明があった。

なお、資料中のポスター・パンフレット等の作成について、講師から写真の提供を受けた後、総務課企画係で作成することが確認された。

更に、会員への会費納入依頼については、次回の議題に移すこととなった。

7. 研究者紹介（ご近所の底力）について

委員長から、同誌に掲載されている教員の退職、採用等による変更及び未登録の先生方に掲載をお願いするため、各委員から該当教員に原稿を依頼後、亀野副センター長に送付していただきたい旨依頼があった。また、地域連携交流センターについて、最後のページに紹介文を入れることが確認された。

8. その他

- ・ 亀野副センター長から、技術相談について事務が把握している記録は資料のとおりであり、それ以外に各科や教員が受けている技術相談も把握する必要があるため、各委員が各科の状況を把握していただきたい旨依頼があった。
  - ・ 工藤副センター長及び企画係長から、科学と遊ぼうへの参加及び補助依頼並びに公開講座の実施計画提出の依頼があった。
- .....  
 . . . . .  
 . . . . .

以上

(出典：地域連携交流センター運営委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

総合情報センターは高度情報化教育に対応し、技術センターは実践的技術教育の場として、地域連携交流センターは幅広い公開講座や共同研究活動等を通し地域社会への貢献と同時に高度な専門力を備えた創造的技術者の育成にも寄与しており、これらの全学的センターは教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

**観点 2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。**

(観点に係る状況)

教育課程全体を企画調整し有効に展開するため、各種の委員会が設けられている。教育課程全体を企画調整する教務主事室では教務主事・主事補を中心に毎週教務主事室会議を開催し、教務全般に関する具体的問題の立案や検討を行っている(資料 2-2-①-1)。

#### 資料 2-2-①-1

#### 平成 19 年度第 6 回教務主事室会議議事概要

日 時 : 平成 19 年 5 月 9 日(水) 9:30~12:10  
 場 所 : 教務主事室  
 出席者 : 吉澤教務主事, 山田主事補, 東木主事補, 松本主事補  
 河野学生課長, 梅本課長補佐, 梅本教務係長, 松本係員  
 配布資料 : 平成 19 年度未来へのはばたき割り等、  
 平成 19 年度中学校訪問要領、平成 19 年度編入学試験日程

#### 議 題

##### 1. 精勤賞・皆勤賞について

教務主事から、標記表彰の時期が始業式となっており、現状の表彰時期(夏休み前)と沿わないため、データ整理の面からも表彰の時期につき申合せの改正することの要望があり、他の表彰も含めて、次回主事室で申合せの改正案を提案することとなった。

##### 2. 6月6日(水)の2限の件

5/8(火)の学校運営委員会で基本的には 6/6(水)補講日 2 限目(10:40~12:00)に特別講演 5 年生(全学科)対象となったが、補講の空き時間次第で後の聴講に関しては、各科の判断を仰ぐこととなったため、5 年生を合併講義室(予約済み)で特別講演に参加させ、希望するクラスへは A がミックホールで映像を送信し画面での聴講方式で対応することとなった。

##### 3. 未来へのはばたきについて

別紙資料に基づき、今年度の原稿割りつけ等を行った。

##### 4. その他

(1) 別紙資料(平成 19 年度中学校訪問要領)の一部修正を行った。

(2) 別紙資料(本年度編入学日程)に基づき、確認・訂正期間等を考慮して編入学試験問題の作成切を 7 月 31 日(火)とした。

(3) 入試委員会報告について、編入学試験の情報開示について、本科入試同様に、入試情報の自主的開示項目について今後検討することとしたので、編入学試験問題についても、HP 上で開示できるように依頼をすることとした。

併せて、専攻科入試の問題も HP 上にも公開するよう検討を依頼することにした。

(出典：学生課資料)



企画・立案あるいは調整された事案を有効に展開するための教務主事を委員長とする教務部委員会が設けられており（資料 2-2-①-2），準学士課程におけるカリキュラムの編成や教育計画の実施等教育課程運営に関する事項や課題を継続的に検討・審議している（資料 2-2-①-3）。

資料 2-2-①-2

大分工業高等専門学校各種委員会規程（抜粋）

別表

大分工業高等専門学校各種委員会

番号	委員会名	審議事項	組織	委員長	庶務担当
3	教務部委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 <u>教育課程の編成及び改正に関すること。</u></li> <li>2 <u>教育計画の企画及び実施に関すること。</u></li> <li>3 <u>本校の授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究の実施に関すること。</u></li> <li>4 試験及び学業成績に関すること。</li> <li>5 学生の学籍に関すること。</li> <li>6 視聴覚教室及びLL教室の運営に関すること。</li> <li>7 視聴覚教室及びLL教室の予算に関すること。</li> <li>8 その他教務，視聴覚教室及びLL教室の重要事項に関すること。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教務主事</li> <li>2 教務主事補</li> <li>3 学生主事補 1名</li> <li>4 機械工学科，電気電子工学科，制御情報工学科，都市システム工学科の教員各 1名</li> <li>5 一般科目の文科系の教員 1名</li> <li>6 一般科目の理科系及び基礎専門の教員から 1名</li> <li>7 学生課長</li> </ol>	教務主事	教育支援係

（出典：大分工業高等専門学校規則集）

資料 2-2-①-3

年月日	議題名等	年月日	議題名等
18. 2. 15	教務部委員会 《議題》 1. 成績優秀奨励賞の表彰（案）について 2. 平成 18 年度以降の追認および再試験について（申し合わせ） 3. 大分高専システムデザイン工学プログラム履修規則の一部改正について 4. その他	18. 10. 12	教務部委員会 《議題》 1. 追認試験のカンニングとその処置（システム作り）について 2. 後期『選択科目』の履修について 3. eラーニング高等教育連携 から単位互換協定の参加要請について 4. 定期試験中の退室について 5. その他
	《議題》 1. 水曜 4 限の扱いについて 2. 授業アンケート「学生によるコメント」の公開について 3. 追認試験の成績締切りについて 4. 「履修辞退願い（変更）」等について 5. その他 《報告》 1. 校内授業公開週間について 2. 後援会総会（個人面談）について 3. シンガポール英語研修について		《議題》 1. 平成 19 年度行事予定表について 2. 教務日程について（時間割・シラバス・選択科目等） 3. その他
18. 4. 19	《議題》 1. 水曜 4 限の扱いについて 2. 授業アンケート「学生によるコメント」の公開について 3. 追認試験の成績締切りについて 4. 「履修辞退願い（変更）」等について 5. その他 《報告》 1. 校内授業公開週間について 2. 後援会総会（個人面談）について 3. シンガポール英語研修について	18. 12. 4	《議題》 1. 平成 19 年度行事予定表について 2. 大分工業高等専門学校学則の一部を改正について（M科教育課程表） 3. 公欠に関する申しあわせの一部を改正に
		18. 12. 19	《議題》 1. 平成 19 年度行事予定表について 2. 大分工業高等専門学校学則の一部を改正について（M科教育課程表） 3. 公欠に関する申しあわせの一部を改正に

	4. 留学生開設科目（日本語Ⅱ）等の扱いについて 5. 書道の教室について 6. その他		ついて 4. 非常勤講師（応用数学）関係について 5. 学習到達度試験について 6. その他
18. 6. 21	《議 題》 1. 学習到達度試験について 2. 平成19年度からの1年生のCH廃止について 3. 履修辞退願の取扱いについて 4. 本科の学習・教育目標について 《報 告》 1. 非常勤講師への年度当初の教務関係説明会の実施について 2. 弓道部西日本高専大会出場時の公欠について 3. ネチケット問題について 4. 危機管理マニュアルについて 5. 後期時間割作成スケジュールについて 6. JABEE の認定審査結果を踏まえての教務部委員会関連事項	19. 1. 9	《議 題》 1. S科の授業科目の履修について 2. その他
18. 7. 19	《議 題》 1. 来年度からの1年生のCHについて 2. 補講日の設定と後期行事予定変更について 3. 時間割作成上の提案 4. 欠席日数のカウントに関する教員への依頼事項 5. その他 《報 告》 1. 英語弁論大会、インターンシップ等での「公欠」願いの提出 2. シンガポール英語研修参加学生4名および保護者に対する説明会 3. JABEE プログラム修了認定証授与式および祝賀会への参加依頼 4. その他		
18. 8. 23	《議 題》 1. 来年度からの1年生のCH廃止について 2. 補講日の設定と後期行事予定変更について 3. 時間割作成上の提案（非常勤講師の任用、科内会議の設定）について 4. その他		

（出典：校報 77・78号）

専攻科には、専攻科長を委員長とする専攻科運営委員会（資料2-2-①-4）が設置され、委員会規定により専攻科の教育課程の編成や教育計画の立案等、特に専攻科における教育課程を有効に展開するための検討と運営にあたっている（資料2-2-①-5）。

## 資料 2 - 2 - ① - 4

## 大分工業高等専門学校専攻科運営委員会規程

制 定 平成 16 年 4 月 1 日  
改 正 平成 19 年 3 月 14 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、大分工業高等専門学校専攻科規則第 4 条の規定に基づき、大分工業高等専門学校専攻科運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

(組織)

第 2 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 専攻科長
- 二 教務主事
- 三 専攻主任
- 四 各学科教員各 1 名
- 五 一般科目の文科系、理科系及び基礎専門の教員から 2 名
- 六 各主事室教員各 1 名
- 七 学生課長
- 八 その他校長が必要と認めた者

(委員の任期)

第 3 条 前条第 1 項第 4 号から第 6 号までの委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名した者が議長の職務を代行する。

(審議事項)

第 5 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 専攻科の入学選抜に関する事。
- 二 専攻科の教育課程の編成及び教育計画の立案に関する事。
- 三 専攻科の施設及び設備に関する事。
- 四 学生の学籍に関する事。
- 五 学生の進路に関する事。
- 六 学生の厚生補導に関する事。
- 七 その他専攻科の運営に関する事。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者を出席させ意見を求めることができる。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

## 資料 2 - 2 - ① - 5

## 専攻科運営委員会（第 1 回）議事概要

日 時 : 平成 18 年 5 月 17 日 (水) 15:00~16:10

場 所 : 会議室

出席者 : 佐藤専攻科長、福永専攻主任、清水攻主任、一宮、靄、吉澤（教務主事）、田中、牧野、小西、木本（学）、高橋（教、J）、学生課長、専門員、教務係長

欠席者 : 庶務係長

議題 1. 専攻科の目標について

専攻科長より、平成 18 年度の専攻科目標を以下の 6 項目とする事の提案がありました承された。

- ①英語力向上
- ②入学志望者の増員
- ③大学単位化に向けた整備
- ④人材の確保と研鑽
- ⑤認証評価に向けた取組み
- ⑥PDCA サイクルの定着

議題 2. 推薦選抜について

専攻科長より、

- ①当日の授業は平常通り，教室は図書館 2 階の選択教室に変更する。
- ②入試を受験する 5 年生は公欠とする。
- ③.....

議題 3. 補充科目について

専攻科長より，昨年と同じ扱いで補充科目を設定する旨説明があり，了承された。

議題 4. その他

1) 就職活動で欠席している学生の取り扱いについて

専攻科長より，今後の就職活動を心配している学生がいることから，補講の手当てができないか打診を受けたことが報告され，その対処法として昨年度の決定を今年も踏襲することが確認された。

- ①学生の就職に関わる教員は必要な場合に必ず学生に「欠席願い」を提出させる（よう指導する）。
- ②学生もしくは就職に関わる教員は、「欠席願い」の提出が決まった段階で当該科目担当教員に連絡する。
- ③.....
- ④.....

(出典：専攻科運営委員会資料)

これら教育課程を有効に展開する検討・運営体制に加え，教育活動等の点検改善は，平成 16 年度より教育システム改善検討委員会と JABEE 対策委員会が中心となり活動してきたが，平成 18 年度より新設の教育システム委員会（資料 2-2-①-6）及び教育プログラム委員会（資料 2-2-①-7）に引き継がれ，教育システムの点検改善，教育プログラムの企画立案等の運営体制を強化している（資料 2-2-①-8，9）。

資料 2-2-①-6

教育システム委員会所轄事項

所轄事項：本委員会は，教育プログラム，教育システムの点検結果に基づいて，その改善策を検討し，教育プログラム，教育システムの継続的改善及び企画立案を行うことを目的とする。また，点検結果に基づき，学習・教育目標の継続的改善を行う。

委員長：教務主事

副委員長：

委員：学生主事，寮務主事，専攻科長，教育プログラム委員会委員長，施設整備計画委員会委員長，予算委員会委員長，各科代表，庶務課長，会計課長，学生課長，その他校長又は委員長が必要と認めた者

所轄事務・陪席事務：庶務課と学生課教務の 2 者（主：庶務課，副：教務係），総務係

審議事項

- 1. 本校の教育全般の点検に関する事。
- 2. 点検システム自体の機能点検に関する事。
- 3. 教育全般の改善及び企画立案に関する事。
- 4. その他教育システムの改善検討に関する事。

実施事項

- 1. 本委員会は，学習・教育目標の達成度の評価結果及び教育プログラム，教育システムの点検結果報告に基づき，本科から専攻科にわたる全ての教育システムの点検を行い，教育プログラム及び教育システムの改善案の検討，企画立案及びその実行を勧告する。
- 2. 本委員会は，毎年度の教育点検システムの点検・改善の実施にあたり，各種委員会（部会を含む。），各主事室，各学科等から，教育システムの点検結果の報告を求める。
- 3. 本委員会は，教育プログラムの点検を教育プログラム委員会に付託する。
- 4. 本委員会は，取りまとめた点検結果及び改善案を校長に報告し，承認を得なければならない。
- 5. その他校長が必要と認めた事項

(出典：教育システム委員会資料)

## 資料 2-2-①-7

## 教育プログラム委員会所轄事項

所轄事項：教育プログラムの円滑な実施の促進及び点検・改善を行う。

委員長：（教育プログラム担当）教務主事補

副委員長：

委員：専攻主任，教務主事補，各科代表（教務部委員の兼務可能），学生課長，庶務課長，各部会の長

所轄事務・陪席事務：庶務課と学生課教務係の二者共同（主：教務係，副：庶務課）

## 審議事項

1. 教育プログラムの実施に関すること。
2. 教育プログラムの点検・改善に関すること。
3. その他教育プログラムの実施に必要な事項に関すること。

## 実施事項

1. 本委員会は、教育プログラムの円滑な実施を促進するための検討と活動を行う。このために本委員会に部会を置く。部会の作業としては、シラバス、エビデンス、履修の手引き、科目対応表、履修科目系統図、アンケート、情報システム、教科書、非常勤などであるが、各部会の詳細は別に定める。
2. 本委員会は、本校の学習・教育目標の達成度の評価結果、及び各委員会等からの点検結果報告などに基づき、日本技術者教育認定機構の定める認定基準に即して教育プログラムを点検し、改善策を策定する。点検項目については別に定める。
3. 教育プログラムの点検結果は教育システム委員会に報告する。
4. その他校長が必要と認めた事項

※ 当面のあいだ教育プログラム担当教務主事補を設ける：教務部委員会と専攻科運営委員会（必要な場合は小委員会にも出席）に出席する。

※ 本科1年生から3年生の教育を基礎力養成プログラムと位置づけ、教育の円滑な実施を促進するための検討と活動を行う。

（出典：教育システム委員会資料）

## 資料 2-2-①-8

## 平成18年度第2回教育システム委員会議事概要

日時 平成18年10月6日（金）16:30～17:30  
 場所 会議室  
 出席者 別紙のとおり  
 会議資料 本校の教育プログラム構成（案）（資料1）  
 学習・教育目標（システムデザイン工学プログラム）（資料2）  
 学習・教育目標（準学士課程）（資料3）  
 教育点検結果・改善項目一覧表（資料4）

## 議 事

## 議題1 学習・教育目標について

委員長から、システムデザイン工学プログラムの学習・教育目標は作成しているが、大学評価・学位授与機構の認証評価では、専攻科と本科の学習・教育目標を区別しなければならない旨の説明があった。

続いて、教育プログラム委員会の検討した本校の教育プログラム構成（案）（資料1）及び準学士課程の学習・教育目標（準学士課程）（資料3）を資料2も交えて高橋委員から、説明があった。

審議の結果、評価方法欄は、認証評価では「卒業要件を満たすこと」でもよいと考えられるが、学生が具体的に理解しやすいことから原案のままとした。ただし、A-2の「特別活動を履修」に関連して、科目系統図に特別活動を加えることとし、資料1及び資料3は原案どおり10月開催の学校運営委員会に付議して決定し、教員会議でも周知することになった。

正式決定後は、ホームページ等や来年度からのシラバスで周知を図ること、志学、就学及び専学は、本校独自のものであり、今後は積極的にアピールすることが確認された。

## 議題2 教育点検結果・改善項目一覧表について

高橋委員から、教育点検結果・改善項目一覧表（資料4）は昨年度末の資料に今年度当初に提出された改善項目や目標を加えて作成していること、この資料はJABEEの基準に則して作成しているが、同時に今後は認証評価の基準にも則して作成することについて説明があった。既に改善がなされたり、進行中の項目については継続して頂くが、資料4のうちから学校全体に係わる事項を選考し、本年度の実施を検討する必要があることから、高橋委員が次の項目を重要事項として提案した。

- (1) ホームページの充実
- (2) PDCAサイクルの強化
- (3) 寮のエアコン
- (4) 大学単位化
- (5) 学校美化とあいさつ
- (6) FDの授業アンケートの改善
- (7) 部屋割の方法

（出典：教育システム委員会資料）

資料 2 - 2 - ① - 9

## 平成 18 年度 第 3 回教育プログラム委員会議事概要

日 時 : 平成 18 年 6 月 6 日 (火) 16:20~17:55  
 場 所 : 多目的室  
 出席者 : 高橋委員長, 福永, 清水, 松本, 嶋田, 高見, 木本, 牧野,  
 庶務課長, 学生課長, 梅本  
 欠 席 : 薬師寺, 山田, 東木, 藤原  
 会議資料 : ①本校の教育プログラム構成 (案)  
 ②学習・教育目標 (システムデザイン工学プログラム)  
 ③学習・教育目標 (本科(準学士課程) (案))

議事に先立ち, 前回の議事概要の確認を行い, 学生アンケートの未提出クラスの状況報告を次回行うこととした。

また, 修了証授与式が 7 月 22 日(土)に決定した旨報告があった。

## 議 題

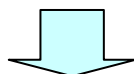
## 1. 本校 (1 年生~専攻科生) の教育プログラムについて

委員長から, 認証評価の受審に向け, 本科に対応する学習・教育目標を作成する必要が生じ, それを教務部委員会, 専攻科運営委員会へ答申する必要から, 資料①~③に基づき説明後, 審議の結果, 以下のとおりとし, 次回 6 月 16 日(金)に確定することとした。

## (1) 本校の教育プログラム構成(案)

## 【現行】

1~2 年 (志学)	3~4 年 (修学)	5~専攻科 (専学)
------------	------------	------------



## 【案】

1~3 年 (志学)	4, 5 年 (修学)	専攻科 (専学)
基礎力養成プログラム	システムデザイン工学プログラム	
本科準学士課程		専攻科課程

## (2) 学習・教育目標 (本科準学士課程) (案)

システムデザイン工学プログラムの学習・教育目標のサブ目標まで変更しない, サブサブ目標のみ, より明快に分かり易いよう本科のみ変更し, 専攻科は変更しない考え方 (構造) を先ず了解し, 資料③を別紙のとおり変更した。

## 2. JABEE 対策委員会からの申し送り事項について

JABEE 対策委員会が行っていた業務 (カリキュラムの流れ図やエビデンスの保管など) などの具体作業 (低学年教育を含め) を今後本委員会が受継ぐこととした。

(出典: 教育プログラム委員会資料)

これら各種委員会で検討・審議された教育活動等に係る重要事項は学校運営委員会で審議, 検討されるほか (資料 2 - 2 - ① - 10, 11), 必要に応じて教員会議で報告・承認される (資料 2 - 2 - ① - 12, 13)。

資料 2 - 2 - ① - 10

## 大分工業高等専門学校学校運営委員会規程

制 定 平成 16 年 4 月 1 日  
最終改正 平成 19 年 3 月 14 日

(設置)

**第 1 条** 大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学校運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

(組織)

**第 2 条** 運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 校長
- 二 教務主事，学生主事及び寮務主事
- 三 専攻科長
- 四 図書館長，総合情報センター長及び地域連携交流センター長
- 五 機械工学科，電気電子工学科，制御情報工学科及び都市システム工学科の各主任
- 六 一般科目の文科系及び理科系の各主任
- 七 基礎専門の教員 1 名
- 八 事務部長

2 前項第 2 号から第 4 号までの委員が基礎専門所属の場合は，同項第 7 号の委員を兼ねるものとする。

(委員の任期)

**第 3 条** 前条第 1 項第 7 号の委員の任期は 1 年とする。ただし，再任を妨げない。

(委員長)

**第 4 条** 運営委員会に委員長を置き，校長をもって充てる。

- 2 委員長は運営委員会を招集し，その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは，教務主事が議長の職務を代行する。

(審議事項)

**第 5 条** 運営委員会は，校長が本校運営上必要と認め諮問した次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 学則等重要な規則の制定及び改廃に関すること。
- 二 学生の入学，退学及び卒業等の学籍に関すること。
- 三 概算要求及び学内の予算配分に関すること。
- 四 教育研究，組織及び施設設備の将来計画に関すること。
- 五 学校行事に関すること。
- 六 その他本校の管理運営に関すること。

(委員以外の出席)

**第 6 条** 校長が必要と認めた場合は，委員以外の者を出席させ意見を聞くことができる。

(会議の開催)

**第 7 条** 運営委員会は，原則として教員会議の 1 週間前に開催するものとする。ただし，緊急の必要があるときは，臨時に開催することがある。

(専門委員会)

**第 8 条** 運営委員会に，特定の事項を調査・検討するため，専門委員会を置くことができる。

- 2 専門委員会は，担当する事項について調査研究を行い，その具体案について検討し運営委員会に報告するものとする。
- 3 専門委員会委員は校長が指名する。
- 4 その他，専門委員会に関し必要な事項は，別に定める。

(事務)

**第 9 条** 運営委員会に関する事務は，総務課総務係において処理する。

附 則

この規程は，平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は，平成 18 年 9 月 11 日から施行し，平成 18 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規程は，平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

## 資料 2 - 2 - ① - 11

## 平成 18 年度第 6 回 学校運営委員会議事録（議事概要）（抜粋）

日 時 平成 18 年 8 月 29 日（火） 10:00～11:20  
 場 所 会 議 室  
 出 席 者 別紙のとおり

## 《議 題》

1. 平成 19 年度編入学試験の合格判定について  
 教務主事より 8 月 25 日（金）に実施した編入学試験の実施結果について、集合時間の厳守等いくつか反省点があったものの無事終了したことの報告があり、各科主任より科ごとの選考結果の詳細について説明があり、資料 1 のとおり受験生 20 名中 14 名を合格と判定した。
2. 平成 19 年度学生募集要項について  
 資料 2 に基づき教務主事より平成 19 年度学生募集要項について以下のとおり説明があり、案のとおり作成することとした。
  - 昨年から修正箇所
    - ・ 外国人の志願者について、外国人登録済証明書書の添付を要しないこととしたため、p.2 及び p.5 の（3）受験票の該当部分の削除
    - ・ 年、日、曜日の修正
    - ・ 「入学志願者調書」の学校証明欄に電話番号・FAX の記入欄を追加
  - p.3 及び p.6 の面接及び入学手続の日程については、県立高校の入試日程と合わせるため、校正の段階で決定次第修正することとする。
  - 要項案の訂正
    - ・ p.4 の 3 願書受付の受付期間「平成 18 年 1 月 11 日まで」→「平成 19 年 1 月 11 日まで」
    - ・ p.4 の 4 出願書類等欄の受験写真票「平成 17 年 11 月以降」→「平成 18 年 11 月以降」
3. 平成 18 年度後期行事予定（案）について  
 教務主事より資料 3 に基づき平成 18 年度後期行事予定（案）について、次のとおり説明があり、原案どおり承認された。
  - ・ 補講日については、教務部委員会において前・後期に 2 日以上設定するように変更が承認されたことから、原案のままだった部分の訂正並びにゆとりを持たせるための日程変更を行った。
  - ・ 11/1（水）防災訓練（雨天の場合 11/8）及び 1/11（木）3 年生学習到達度試験（2/2 又は 2/6 に補講を行う）を追加した。
 12 月の備考欄テクノフォーラムについては 12/5 に決定したと地域連携交流センター長より説明があった。

（出典：学校運営委員会資料）

## 資料 2 - 2 - ① - 12

## 大分工業高等専門学校教員会議規程

制 定 平成 16 年 4 月 1 日  
 改 正 平成 19 年 3 月 14 日

- 第 1 条** 大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教員会議をおく。
- 第 2 条** 教員会議は、本校教員（非常勤講師を除く。）及び事務部長をもって組織する。  
 2 校長が必要と認めた場合は、その他の職員を出席させることができる。
- 第 3 条** 校長は、教員会議を召集しその議長となる。  
 2 校長に事故あるときは、教務主事はその職務を代行する。
- 第 4 条** 教員会議は校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。  
 一 各種委員会において審議した事項のうち、校長が特に必要と認めた事項  
 二 その他校長が必要と認めた重要な事項
- 第 5 条** 教員会議は原則として月 1 回第 3 木曜日に開催するものとする。ただし、緊急の必要があ



るときは、臨時に開催することがある。

**第 6 条** 議案の整理及び会議の記録は、総務係長がこれに当る。ただし、必要に応じて校長は、総務係長以外の者を指名することがある。

**附 則**

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

## 資料 2 - 2 - ① - 13

### 平成 18 年度第 5 回 教員会議議事録（議事概要）（抜粋）

日 時 平成 18 年 8 月 29 日（火） 13:00～14:05  
場 所 会 議 室

《議 題》

1. 平成 19 年度編入学試験の合格判定について  
教務主事より 8 月 25 日（金）に実施した編入学試験の実施結果について、集合時間の厳守等いくつか反省点があったものの無事終了したことの報告があり、各科主任より科ごとの選考結果の詳細について説明があり、資料 1 のとおり受験生 20 名中 14 名を合格と判定した。
2. 平成 19 年度学生募集要項について  
教務主事より平成 19 年度学生募集要項について、資料 2 に基づき以下のとおり説明があり、案のとおり作成することが了承された。
  - 昨年からの修正箇所
    - ・ 外国人の志願者について、外国人登録済証明書の添付を要しないこととしたため、p. 2 及び p. 5 の (3) 受験票の該当部分の削除
    - ・ 年、日、曜日の修正
    - ・ 「入学志願者調書」の学校証明欄に電話番号・FAX の記入欄を追加
  - p. 3 及び p. 6 の面接及び入学手続の日程については、県立高校の入試日程と合わせるため、校正の段階で決定次第修正することとする。
3. 平成 18 年度後期行事予定（案）について  
教務主事より平成 18 年度後期行事予定（案）について、資料 3 に基づき次のとおり説明があり、原案どおり承認された。
  - ・ 補講日については、教務部委員会において前・後期に 2 日以上設定するように変更が承認されたことから、原案のままだった部分の訂正並びにゆとりを持たせるための日程変更を行った。
  - ・ 11/1（水）防災訓練（雨天の場合 11/8）及び 1/11（木）3 年生学習到達度試験（2/2 又は 2/6 に補講を行う）を追加した。
  - ・ 12 月の備考欄テクノフォーラムについては 12/5 に決定したと地域連携交流センター長より説明があった。

(出典：教員会議資料)

(分析結果とその根拠理由)

教務主事室は、教育課程の企画・立案に当たり、それを展開する具体的検討・運営体制として準学士課程は教務部委員会、専攻科課程は専攻科運営委員会が設置され、最終的決定機関として学校運営委員会と教員会議が設置されている。教育活動点検・改善のための種々の委員会も機能しており、教育活動に係る重要事項の審議等に一連の PDCA サイクルが機能している。

観点 2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

教員会議を始め重要な委員会は、一般及び専門科目担当教員から構成され(資料 2-2-①-2)、学内的・組織的に教員間の連携を取るよう努めている。平成 16 年度に一般・専門の科目間の連携を進め、カリキュラムやシラバスの改善等に資するための教員連絡協議会が発足し、英語、数学と専門科目との連携が検討・協議され(資料 2-2-②-1, 2, 3)、これを契機にプレゼンテーション能力や文章力の向上を目的とした卒業研究論文指導が外国人を含む英語教員により行われている(資料 2-2-②-4)。この卒研指導英語講座は、平成 19 年度よりプロジェクト演習Ⅱとして正式な専攻科の科目となった(資料 2-2-②-5)。

### 資料 2-2-②-1

#### 大分工業高等専門学校教員連絡協議会要項

制 定 平成 17 年 2 月 24 日

改 正 平成 19 年 3 月 14 日

(設置および目的)

**第 1 条** 大分工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、一般科目担当教員と専門科目担当教員が相互関係を密にすることにより、本校本科、専攻科のカリキュラムにおける科目間の調整を図るとともに、より一層本校の教育を充実させることを目的として大分工業高等専門学校教員連絡協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

**第 2 条** 協議会は本校の教員をもって組織する。ただし、毎回の協議会出席者は、第 4 条第 2 項に規定する教科目の担当教員及び専門学科の関係教員を原則とする。

(委員長)

**第 3 条** 協議会に委員長を置き、教務主事をもって充てる。

2 委員長は、協議会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する者がその職務を代行する。

(協議会の開催)

**第 4 条** 協議会は、毎年 1 回以上開催する。

2 委員長は、協議会の開催にあたり、毎回のテーマとなる教科目を教員に事前に通知するものとする。

3 前項に規定する教科目は、原則として一般科目のいずれかとする。

4 協議結果については、本校の教育を充実させることを目的として教務主事室において検討するものとする。

(事務)

**第 5 条** 協議会の事務は、学生課教育支援係において処理する。

(雑則)

**第 6 条** この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

**附 則**

この要項は、平成 17 年 2 月 24 日から施行する。

**附 則**

この要項は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

## 資料 2 - 2 - ② - 2

## 第 1 回教員連絡協議会議事概要

日 時 平成 17 年 3 月 25 日 (金) 10:00～11:30  
 場 所 会議室  
 出席者 大石, 工藤康, 高橋, 瀧川, 加藤, 佐藤秀, 園田,  
 篠田, 平野, 藤原, 穴井, 大木  
 列席者 小森, 重光

議事に先立ち大石委員長から本協議会の趣旨の説明があり、第 1 回は英語についての協議会となった。

## 議 題

## 1. 英語教育について

委員長から、教育システム改善検討委員会の指摘検討事項として、企業向けのアンケート結果から本科卒業生については TOEIC のスコア 400 点、専攻科修了生については 400～600 点のスコア (資料あり) を必要としている事が判明したが、本校の実態は少し離れたところにあるのではないかと、という旨の問題提起があった。

また、篠田文系主任から別添の資料に基づき各科連絡会の英語教育についての審議結果の説明があった。

佐藤専攻主任から専攻科で実施した多読についての報告があり、別添の資料のとおり成果はあったのではないかと。

つづいて穴井英語科主任から平成 16 年度から実施している ACE の統一試験について報告があり、現本科 1 年生に対して 7 月と 2 月の 2 回実施し 900 点満点で 1 回目が 390 点、2 回目が 428 点で 38 点上がっている。また、5 年生においては、本年度試験的に行われた Abstract writing の講義についても英語の壁を低くするうえで大きな効果があった事が報告された。

その他、以下のとおり意見等があった。

- ・企業から英語の力は上がっているという意見もある。
  - ・英語力の向上は持続と英語学習量が決め手ではないか。
  - ・英語力があれば TOEIC のスコアも高い。(高くなる)
  - ・自分に英語が必要と考えているかどうか。(教員も含む)
  - ・英語科としては、ベストに近い状態で取り組んでいるので専攻科の例のように専門学科の教員にも理解と協力をお願いしたい。
  - ・日本語の基礎が出来ていないため、英語にするとうまく出来ない。国語や文章力のカリキュラムとの連携が考えられる。
  - ・本年度から 90 分授業で週 4 回から 2 回になり、英語にふれる機会が少なくなった。カリキュラム上は、これ以上の増加は無理なので他の科目の中での英語の使用等による連携を考える必要がある。
  - ・英会話は、本科 1 年で少人数教育を行っている。5 年間やれば力がつくのではないかと。
- これらのことから、専門学科との連携、英語を使用する機会の増加方法、カリキュラム上で英語以外の科目に英語を取り込む問題、専攻科における英語科目の設定及び本科の途中でのハードル設定等の継続検討事項が確認され、次回から具体的な内容について協議していくこととした。

(出典：教員連絡協議会資料)

## 資料 2 - 2 - ② - 3

## 第 2 回教員連絡協議会議事概要

日 時 : 平成 17 年 9 月 7 日 (水) 16:20~17:40  
 場 所 : アカデミックホール  
 出 席 者 : 大石, 薬師寺, 高橋, 一宮, 鹿毛, 福永, 菊川, 吉澤, 牧野, 佐藤(秀)  
 木本, 後藤, 岡, 鶴沢, 嶋田, 工藤(宗), 篠田, 峯本, 瀧川, 武口,  
 佐藤(達), 東木, 工藤(康)  
 列 席 者 : 梅本

議事に先立ち冒頭に大石委員長から今協議会の趣旨説明があり, 数学教育について, 意見交換を行った。

## 議 題

## 1. 数学教育について

委員長から, 平成 18 年度から JABEE 対策委員会の要請を受けて, 来年度から専攻科及び本科 4・5 年生に各 1 コマ程度の講義(数学)を予定している。その内容について, 来年度の教員採用計画に関係するので, 意見交換を求めた。

続いて, 高橋 JABEE 対策委員長から, 以下のとおり報告があった。

数学について, ①枠組みについて②内容についての, 2つの問題提起を行った。

- ・ 教育プログラム上の学習量の保証(応数・応物は数学・科学を含む)
- ・ 本科の卒業要件 167 単位(一般 75: 専門 82 以上)の枠組み
- ・ 4・5 年生での大学単位化を視野に入れる。

以上のことを考慮し, 専攻科を含めた数学教育を考慮して欲しい。

- ・ JABEE 対策委員会からの希望-数学・自然科学・情報技術で 16 単位(本科の換算法で)を必修化したい。枠は最大 4 年で 1 コマ, 5 年で 1 コマ, 専攻科で 1 コマの計 3 コマ(新規 2 コマ設定)で設定できないか? なお, 明日の教務部委員会で枠組みを決定予定である旨報告された。

続いて, 専門・数学の立場から双方の意見交換を行った。以下主な意見

- ・ 専一数学の理解が伴っていないのでは?
- ・ 専一演習を 1・2 年生に増やした結果, レベルアップした。
- ・ 専一線形系で物事をとらえる力が弱い
- ・ 数一応数Ⅱの時間数が少ない。進学のことを考えると複素関数論をもう少し行くと良い。
- ・ 応数-複素関数を 4 年生できっちりやる。(通年で 1 コマ位)
- ・ 数一 1/4 を流体力学, 3/4 で複素関数論教える(解析系)
- ・ 数一実関数の関数解析や線形作用素が必要なのではないか。
- ・ 専一現象を数学モデルに置き換える事が苦手(数学モデル化する力不足), 線形代数等を増やす。
- ・ 専一基礎から専門の移行する部分が弱い, 専門の基礎がない。(量子力学など)

続いて委員長から, 数学教員の採用にあたって, どのような数学を要求するか? 各専門につながる数学か, 基礎数学か? 意見を求めた。

- ・ ベクトル解析は専門で教えているが, 応用数学の中にはない。
- ・ 専一数学としてベクトル解析を行って欲しい。
- ・ 専一 S 科・C 科は確率・統計が欲しい。S 科は来年度から確率・統計を専門科目として入れる予定
- ・ 応数-確率・統計の内容は科によって違う。

委員長から意見交換を参考に数学の教員人事を進めて欲しい旨報告があり, 高専向きの人を採用するよう依頼した。また, 数学については今後も別の観点から意見交換行う予定。

(出典: 教員連絡協議会資料)

## 資料 2 - 2 - ② - 4

## Practical English Skills for Abstract Writing and Presentation

HARA Patricia  
ANAI Takayoshi

Target Students: 5th grade students from the four departments

Units: No unit - No graded evaluation will be done, however students will write and present their abstract in English at the end of the course.

Outline: This course will give students an understanding of the structure and content of the English abstract. The students will learn how to write an effective abstract and how to present their work in English. An overview and practice of basic presentation skills will be included in the course.

Teaching Responsibilities:

Hara: - Course content and development  
- Lesson construction and material development  
- Classroom instructionAnai: - Course facilitator  
- Student support through the following activities:  
1. explanation of concepts taught in the class in Japanese  
2. explanations for clarity and understanding of assignments  
3. grammar support in Japanese as needed  
4. translation of print materials as needed for class work

Aims:

1. to understand the format and structure of a "good" abstract
2. to understand the "do's and don't s" of abstract writing
3. to be able to write simple, clear and grammatically correct English sentences to use in their abstracts
4. to understand the concept of logical development of ideas and to master writing a well organized English paragraph
5. to write their own graduate research project abstract in English
6. to be able to present their research topic and abstract in English by mastering basic presentation skills
7. to present, as their final class project, their graduation research project's abstract in English

## Da

#1	10/14	Guidance	Print of class outline	
#2	10/21 or 28	What is an abstract Why is it important Qualities of a good abst.	Prints Eng/ Jap	Readings Fill ins/ check lists HW-Abst.Reading& worksheet
#3	11/4	Steps for Writing an effective abstract Analyzing sample absts.	Print Eng/ Jap	Readings Fill in and check lists Discussion HW. Read and analyze a two sample abstracts -compare
#4	11/11	-CheckHW-check understanding of good and bad abstracts Introduce-Abstract Rough Template -based on the Do' and Don'ts of writing an abstract ( 11 points)	Prints Eng/Jap	Do's and Don'ts - worksheet and fill in HW. Review Do' s and Don'ts
#5	11/18	"Your Abstract" Students begin to compose sentences about their theme, purpose, research methods & main points	Ss provide their material to date from their projects-	Intro. Sentences Sequence words Vocabulary for methods Students write THEME sentences in class- HW/revise class work
#6	11/25	Review Theme sent. and main vocabulary Review Lessons #2, 3 & 4 Evaluate Ss theme sentences according to material learned Introduce concept Intro/Body/ Conclusion Grammar Checks	Review prints Ss sentences Voc. Sheets as needed	Checking, discussion, Group work, using Ss theme sentences. Grammar sheets as needed for review of weak points.  HW- Write a rough draft of their abstract
#7	12/2	Starting a Rough Draft Check Homework Work in class/ check/ help/ support/ talk	Student's Work	Revising Drafts as needed Grammar Work as needed

#8 12/ 16	Review Rewrites Grammar check Form check Do's and Don'ts Check Methods' vocabulary Research vocabulary Conclusion	Students Material	Group work/ Teachers/ Students One to one checks Class works together to Analyze 2 or 3 abstracts. Revise as needed for HW. HW. As needed for rewrites and grammar
#9 1/13	Collect final Abstracts Begin Language study For simple Presentations Openings/ Intros/ theme introduction/ style/manners/	Prints J/ E on Presentations	Practice the new language together - Class practice, role play, Group work  HW - as needed for Abst. revisions
#10 1/20	Lang. for Pres. Con't. Closing/ thank you/ questions/ final Review Abstracts	Prints J/E on Presentations & Abstracts	Practice in class/ use last weeks work/ add today's Work . Oral practice/ confidence building sessions.
#11 1/27	Pres. Language Con't Sequence words- Then, so, therefore, this shows, next, etc	Prints J/E  Ss Abstracts -	Practice new language- Practice adding all parts. Beg/ Middle/ End of pres. Practice adding parts to the students Abstracts. HW- practice speaking about your abstract.
#12 2/3	Putting it all Together Pres. Open/ Middle/ Closing Samples and examples and practice	Student material And prints as guides.	Students practice speaking about their abst in English with Pres. Language added. HW- Practice
#13 2/10	Student present abstracts	Student material	Class used for Ss. Presentations and feedback
#14 2/24	Students present abstracts	Student Material	Class used for Ss Presentations and feedback

(出典：英語科資料)

## 資料 2 - 2 - ② - 5

## 教科目名 プロジェクト演習Ⅱ (Projected Exercise II)

専攻名・学年 : 全専攻 1年 (教育プログラム 第3学年 ○科目)  
 単位数など : 選択 2単位 (前期1コマ, 後期1コマ, 学習保証時間 45時間)  
 担当教員 : 大木正明, 穴井孝義, Patricia Ann Hara(後期から)


授業の概要		大分高専目標 (C2), JABEE 目標 (f)	
学会発表をする場合は、あらかじめ「題目」と「アブストラクト」を提出し、審査を受けるのが一般的である。本授業は、自分で英文アブストラクトが書けて、それを基に英語でのミニプレゼンテーションができるようになることを目標にする。本来は各自が専門とする分野でのリサーチ及びプレゼンテーションが望ましいが、クラスの全学生が話題を共有できるようにするために、リサーチのテーマはプラグマティクス (語用論) とする。前半は、まずテキストに従ってプラグマティクスについて考察を加えながら、英文アブストラクト作成やプレゼンテーションで頻繁に使用される英語表現をマスターする。後半は、夏休みに各自でおこなったミニリサーチに基づいて実際に英文アブストラクトを作成し、最終的にはそれを基にミニオーラルプレゼンテーションをおこなう。			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (C2), JABEE 目標 (f)	
(1) アブストラクト作成やプレゼンテーションに有効な英語表現がマスターできるようになる。(前期末試験) (2) 200語から250語程度の英文アブストラクトが書けるようになる。(課題) (3) 英文アブストラクトを基に英語でのミニプレゼンテーションができるようになる。(後期末試験前・中の発表会)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	授業オリエンテーション	授業の概要説明	【理解の度合い】
2	Chap. 1・英語表現指導 (※以下毎週)	Greeting・ESPの解説と指導 (※以下毎週)	
3	Chap. 2	Communicative Competence	
4	Chap. 3	What is Pragmatics?	
5	Chap. 4	Speech Acts	
6	Chap. 5	A Speech Act, Apology	
7	Chap. 6	Conversational Implicature	
8	Chap. 7	Indirect Speech Acts	
9	Chap. 8	Politeness (1)	
10	Chap. 9	Politeness (2)	
11	Chap. 10	Politeness in Making a Request	
12	Chap. 11	Cross-cultural Pragmatics	
13	Chap. 12・リサーチの内容決定	Conducting Research	
14	リサーチの報告とこれまでの復習		
15	前期末試験		【試験の点数】 点
	前期末試験の解答と解説		
16	Chap. 13	Title Making and Abstract Writing	【理解の度合い】
17	Chap. 14	Writing the Abstract in English	
18	Chap. 15	Preparing for a Presentation	
19	Chap. 16	Examples of Presenting a Research Paper	
20	Chap. 17	Giving a Presentation in English	
21	Pronunciation Drills	発音指導	
22	A Model Presentation	模範プレゼンテーションと解説・指導	
23	Chap. 18	Writing a Research Paper	
24	Practicing Speaking	話し方の練習	
25	Presentation Rehearsals	プレゼンテーションリハーサルと指導	
26	Presentation Rehearsals	同上	
27	Assessment of Oral Presentation	プレゼンテーション(発表会)	
28	Assessment of Oral Presentation	同上	
29	Assessment of Oral Presentation	同上	
30	後期末試験	同上	【試験の点数】 点
	後期末試験の解答と解説		
履修上の注意	(1) 日頃から英語に積極的に接しておくこと。 (2) 各種の英語資格 (検定) 試験に挑戦すること。 (3) 自動翻訳機を使用することのないように。		【総合達成度】
教科書	配布プリント, 田中典子, 「プラグマティクス・ワークショップ」春風社。		
参考図書			
事前準備学習	教科書 Chapter 1 から Chapter 11 までの英文 TEXT を何度も読み、知らない語句がないようにしておくこと。		
関連科目	英語A, 英語B, 現代英語 I, II		
総合評価	達成目標の(1)～(3)について前期末試験(30%)と課題(30%)及びプレゼンテーション(40%)の各評価を総合し、これを総合評価とする。総合評価 60点以上を合格とする。		【総合評価】 点

(出典: シラバス)

数学科でも、教員連絡協議会の意見を参考に教育連携の観点に立った教員採用を行った（資料2-2-②-6）。その結果平成19年度より専門との連携を意識した数学特論（資料2-2-②-7）と微分幾何学（資料2-2-②-8）が新たに開講されることになった。

また、昭和52年に一般・専門の教員の合同読書会から発展した昭和63年に始まる一般・専門科教員による共同講義技術論（資料2-2-②-9, 10）は、現在も工学倫理（資料2-2-②-11）として続いている。

## 資料2-2-②-6

JREC-IN(大分工業高等専門学校/大分工業高等専門学校一般科目理科系教員の公募)	
	
<b>詳細DATA / Detailed Data</b>	
データ番号 Data item number	D105070772
公開開始日 Date of publication	2005年07月12日
タイトル Title	大分工業高等専門学校一般科目理科系教員の公募
概要 Outline	専門分野は問わないが数学を専攻し、数学の科目が担当できる方
機関名 Institution	大分工業高等専門学校
部署名・研究科・学部・学科・研究室名 Department	一般科目理科系数学科
機関種別 Type of institution	高等専門学校
所在地 Location	870-0152 大分県 大分市大字牧1666番地
地域(勤務地など) District	九州・沖縄
職種 Job title	助教授又は講師
勤務形態 Rank	常勤
人員 Number of positions	1
研究分野 Research field	数物系科学 数学
応募資格 Qualifications	次の(1)～(4)のいずれにも該当する方 (1)専門分野は問わないが数学を専攻し、博士の学位を有する方(着任時まで取得見込の方を含む) (2)高専の教育と学生指導に理解と熱意のある方 (3)担当科目に関する研究実績を有する方 (4)採用時に40歳以下の方が望ましい。
募集期間 Deadline for applications	年月日 - 2005年08月31日
着任(採用)時期 Starting date	2006年04月01日
応募書類(送付先含む) Application materials	(1)履歴書(写真貼付) (2)研究業績一覧(A4、様式自由、著書、論文、口頭発表、その他など種類別に分類して記載する) (3)主要研究論文の別刷(コピー可) (4)高専着任後の抱負(教育・研究に対する抱負、提案等をA4用紙に1,000字程度で記述する) (5)推薦書、又は応募者について意見を伺える方の氏名・連絡先(勤務先、住所、電話番号、メールアドレス等)
選考方法 Selection process	書類提出先 大分工業高等専門学校庶務課人事係 〒870-0152 大分市大字牧1666番地 TEL 097-552-6079 FAX 097-552-6106 ※ 応募書類は封筒に「数学担当教員応募書類在中」と朱書きの上、簡易書留で郵送のこと。なお、原則として応募書類は返却いたしません。 1次選考：書類審査 2次選考：面接(一次選考合格者に対して実施日時等をお知らせします。なお、面接に伴う旅費、宿泊費等は応募者の負担とします。) 870-0152 大分県 大分市大字牧1666番地
連絡先住所 Contact address	大分工業高等専門学校一般科目理科系主任教授
担当者役職名 Position of contact person	瀧川 信正
担当者氏名 Contact person	滝川 信正
E-mail	takigawa@oita-ct.ac.jp
TEL	097-552-6702
FAX	097-552-6106
書式・提供手段等 Attached files	
備考(担当教科等) Additional information	詳細は、 <a href="http://www.oita-ct.ac.jp">http://www.oita-ct.ac.jp</a>

(出典：数学科資料)



## 資料 2 - 2 - ② - 7

## 教科目名 数学特論 (Advanced Mathematics)

学科名・学年 : 全学科 5年 (教育プログラム 第2学年 ○科目)

単位数など : 選択 2単位 (前期1コマ, 後期1コマ, 学習保証時間 45時間)

担当教員 : 東木雅彦

授業の概要			
前期では、まず2, 3年生で学んだ線形代数を、1段高い見地から概観した後、複素数の行列について主要な概念を学ぶ。 前期の後半から後期の最後までは、ベクトル解析をガウスの定理、ストークスの定理を目標に講義および演習を行う。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(B1), JABEE目標(c)(g)	
(1) 線形代数の基本的な概念を理解する。(定期試験および課題)			
(2) 複素行列の固有値問題を解けるようになる。(定期試験および課題)			
(3) ベクトル関数の微分積分の計算ができるようになる。(定期試験および課題)			
(4) ベクトル解析の基本的な概念や定理を理解する。(定期試験および課題)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	ベクトル空間	○線形代数の基本的な概念を与える。 ○複素行列であるエルミート行列, 歪エルミート行列, ユニタリ行列の固有値問題を扱う。	【理解の度合い】
2	内積空間		
3	1次変換		
4	行列の階数,		
5	1次独立		
6	エルミート行列		
7	ユニタリ行列		
8	前期中間試験		【試験の点数】 点
9	前期中間試験の解答と解説	○3次元空間におけるベクトルとベクトル関数を導入し, これらのベクトル関数に対して微分法を展開する。	【理解の度合い】
10	外積		
11	ベクトル場		
12	曲線		
13	速度と加速度		
14	曲線の曲率とねじれ率		
15	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説		
16	勾配	○ベクトル場に関連した物理的にも幾何学的にも重要な3つの概念, すなわち勾配, 発散, 回転について論ずる。 ○線積分を定義して, グリーンの定理を証明する。	【理解の度合い】
17	方向微分		
18	発散		
19	回転		
20	線積分		
21	積分路に無関係な線積分		
22	グリーンの定理		
23	後期中間試験		【試験の点数】 点
24	後期中間試験の解答と解説	○面積分を定義して, ガウスの定理とストークスの定理を証明する。	【理解の度合い】
25	曲面		
26	面積分		
27	ガウスの発散定理		
28	発散定理の応用		
29	ストークスの定理		
30	後期期末試験		【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説		
履修上の注意	予習をして授業に出席すること。		【総合達成度】
教科書	Eクライツィグ 著「線形代数とベクトル解析」培風館		
参考図書	1~3年生で使用した教科書・問題集 安達忠次 著「ベクトルとテンソル」培風館		
関連科目	基礎数学I・II, 線形代数, 微分積分I・II, 微分方程式, 数学特論, 離散数学, 数値計算, 微分幾何I・II		
評価方法	達成目標(1)~(4)について4回の定期試験と課題で評価する。 総合評価=0.8×(4回の定期試験の平均)+0.2×(課題) 総合評価が60点以上を合格とする。		

(出典: シラバス)

資料 2 - 2 - ② - 8

教科目名 微分幾何学 I (Differential Geometry I)

専攻名・学年 : 全専攻 1年 (教育プログラム 第3学年 ○科目)  
 単位数など : 選択 2単位 (前期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)  
 担当教員 : 笹原徹

**授業の概要**  
 微分幾何学とは主に微積分を使って幾何学的対象を調べる学問であり, それは 1827 年に発表されたガウスの論文にはじまる. 20 世紀では理論物理学や工学に広く応用され, 目ざましい発展を遂げた. 本講義では 3 次元空間内の目に見える曲線の性質を微分幾何学の立場から解説する.

**達成目標と評価方法** 大分高専目標 (B1), JABEE 目標 (c) (g)

- (1) 曲線上に定義される曲率と振率の幾何学的意味を理解し, それらを具体的に計算することができる. (定期試験と課題)
- (2) 曲線の局所的性質と大域的性質の関連性が理解できる. (定期試験と課題)

回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	1 平面曲線	○パラメーター表示された平面曲線の曲率を求める. ○平面曲線の形が曲率だけで決まることを学ぶ. ○平面曲線の局所的性質と大域的性質の関連性を調べる.	【理解の度合い】
2	1.1 正則曲線		
3	1.2 弧長パラメーター		
4	1.3 フレネ-セレの公式		
5	1.4 曲率の幾何学的意味		
6	1.5 平面曲線に関する大域的定理		
7	2 空間曲線		
8	2.1 正則曲線	○パラメーター表示された空間曲線の曲率と振率を求める. ○空間曲線の形が曲率と振率だけで決まることを学ぶ. ○空間曲線の局所的性質と大域的性質の関連性を調べる.	【試験の点数】 点 【理解の度合い】
9	2.2 弧長パラメーター		
10	前期中間試験		
11	前期中間試験の解答と解説		
12	2.3 フレネ-セレの公式		
13	2.4 空間曲線に関する大域的定理		
14	2.5 いろいろな曲線(1)		
15	2.6 いろいろな曲線(2)	【試験の点数】 点	
16	2.7 いろいろな曲線(3)		
17	前期期末試験		【試験の点数】 点
18	前期期末試験の解答と解説		
<b>履修上の注意</b>			【総合達成度】
<b>教科書</b>	石原繁, 竹村由也, 「微分幾何」, 森北出版株式会社.		
<b>参考図書</b>	中内伸光, 「じっくり学ぶ曲線と曲面」, 共立出版.		
<b>事前準備学習</b>	一変数関数の微積分の復習.		
<b>関連科目</b>	微分積分 I, II, 微分方程式, 線形代数.		
<b>総合評価</b>	達成目標の(1), (2)について4回の試験と課題で評価する. 総合評価 = 0.8 × (4回の定期試験の平均) + 0.2 × (課題点) 総合評価が60点以上を合格とする.		【総合評価】 点

(出典: シラバス)

# 技術論から技術者倫理

Engineer Ethics basing on General Theory of Technique

梅津 清二  
Seiji UMEZU

キーワード：技術者倫理、技術論、JABEE

Keywords: Engineer Ethics, General Theory of Technique, JABEE

## 1. はじめに

大分高専において、1977年から、歴史、機械、土木の教員により「技術論読書会」が始められた。その成果に基づき機械工学科において、筆者は、1980年に専門教科「技術論」を開講した。さらに、それは、1988年に専門・一般教員共同によるオムニバス方式による講義「技術論」へと発展し、機械工学科、制御情報工学科において、続けられている。

今日、日本の高等教育機関が、JABEE 認定を目指す時代に、「技術者倫理」の講義は必須の条件となっている。前述の25年間にわたる「技術論」とのかかわりを、どのようにして「技術者倫理」に生かし、構築していくかを検討する。

## 2. 講義「技術論」の概要

2003年度、大分高専における「技術論」の概要をシラバスから示す。

講義は、機械工学科、制御情報工学科4年生に対し、後期選択科目1単位（15週、30時間）として、行われる。講義のフローチャートを図1に示す。第1週「序論 現代技術をどう考えるか」において、3名の教員が講義の目的を説明し、オムニバス方式による講義の構造について学生の理解を深める。また教員相互の講義に関わる有機的な役割分担を明確にする。第2週から14週までオムニバス方式で講義を行った後、最終講義第15週において、まとめとして学生によるパネルディスカッション「技術論の講義より何を学んだのか」を行なう。このような講義の流れはオムニバス方式の講義の体系性、連続性の問題点を解消し、より効果を上げる上で重要である。

## 3. 技術論・技術史における「技術者倫理」

技術論が工業高等専門学校の専門科目として必要とされる根拠は、「技術が社会でその機能を発揮する」という点に求められる。一方、技術の歴史は、私たち

1. 序論 現代技術をどう考えるか  
講師と学生の意見発表



## 2. 歴史における技術・・・森本正憲（歴史）

- (1) JABEE 学習目標
- (2) 技術とは、技術と文明
- (3) 技術者の社会的責任
- (4) 社会的自覚の遅れ
- (5) 第二次大戦と科学技術動員
- (6) 技術と会社意識
- (7) 会社人間であるため前に技術者であれ
- (8) 国民の視点から
- (9) 日本社会の動向と技術者



## 3. 技術の内的発達法則・梅津清二（基礎専門）

- (1) 技術における光と影
- (2) 人間と技術の歴史
- (3) 内的発達法則
- (4) 技術史上における現代の位置付け
- (5) 新技術提案



## 4. 現代社会と技術・・・後藤末弘（機械）

- (1) 「松川事件」ある技術解析とその理念
- (2) ある「飛行機事故」の事故解析と考察
- (3) 「資源、エネルギー、消費社会」と技術対応
- (4) 「地球環境」と人間社会



## 5. パネルディスカッション「技術論の講義より何を学んだのか」

図1 技術論オムニバス講義のフローチャート

の祖先が、類人猿などとの共通の祖先から人間化への巨大な歩みの中に始まる。技術史とその社会・時代背景を考察し、技術者倫理の教育に生かす。

(1) 猿人から原人へ

技術の起源は生物進化史と照応し、「天然道具」（技術の前史）は、私たちの祖先を、類人猿と決別させる。

資料2-2-②-10

(科目名)	必修・選択	学年	クラス	単位	(教官名)
技術論 (使用教室) 合併講義室	専門 ○選択	5	S	1	非常勤講師 森永和利 一般科目 教授森本正憲 制御情報工学科 教授梅津清二 機械工学科 教授後藤末弘
(講義の目標, 概要) 技術は自然と社会の二重性という性格を持つ。技術を従来の工学的アプローチだけでなく広く歴史的, 社会的に考察し, 技術のあり方を考える。					
(講義の方針, (講義の進め方)) 4名の講師が各6時間オムニバス方式で講義を行う。技術に関する新しい問題なども随時織り込み, 講義が一方向的にならないよう工夫を行う。まとめとして学生の代表によるパネルディスカッションを行う。					
(前期講義のスケジュール)					
(後期講義のスケジュール) 1. 序論 現代技術をどう考えるか。 2時間 講師と学生の意見発表 2. 技術と文明 (森永和利) 6時間 明治のはじめに來日し, 我が国の工業教育の組織化に尽力したヘンリー・ダイアーは, 「エンジニアは真の革命家である」と述べた。その意味を文明の変遷の中で考えたい。 3. 歴史における技術 (森本正憲) 6時間 生産様式の変革と社会構成体の移行を具体的資料に基づいて考察し, 技術を歴史的にとらえる観点を養う。 4. 技術史に学ぶ発明の精神 (梅津清二) 6時間 技術史の大きな流れから抽出された内的発達法則を学び, それを参考に学生は「新技術提案」を行い, 相互に批判・検討する。 5. 技術と技術者 (後藤末弘) 6時間 一つの事故解析を通し, 事故の発生要因, 社会的バックグラウンド等の関連を考察し技術者のあるべき姿を探る。 6. パネルディスカッション 「技術論の講義より何を学んだのか」 2時間 講義の批判的学習と技術者としての出発点に立って, 個々の学生が構築した技術論にもとづき討論を展開する。					
(評価方法) レポートなどにより技術感の深まりを考察し, 出席状況とあわせて総合評価する。					
(関連科目, 注意事項) 日常より, 新聞雑誌などの技術報道や評論を良く読んでおくこと。					
(教科書, 参考書等) 参考書: 栗師寺泰蔵「テクノヘゲモニー」中央公論社, アイザック・アシモフ「西暦3000年の人類」徳間書店, 中村清治「生産様式の理論」青木書店, 石谷清幹「工学概論」コロナ社					

(出典: 平成14年度シラバス)

## 資料 2 - 2 - ② - 11

## 教科目名 工学倫理 (Engineering Ethics)

学科名・学年 : 機械工学科 5年 (教育プログラム 第2学年 ◎科目)

単位数など : 必修 1単位 (後期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)

担当教員 : 後藤末弘

## 授業の概要

近年, 科学技術の基本に関わるような事故事例が数多く報告されている. なかでも関係した科学技術者の倫理性を問われる事例が多々見受けられる.

本講義では, こうした技術と倫理に関わるさまざまな問題に工学的手法を用いて考察してゆく. その作業を通じて, 技術者としてのあり方を学習する.

## 達成目標と評価方法

大分高専目標 (A2), JABEE 目標 (b)

(1) 科学技術と人間社会との関わりについて理解を深める. (試験及びレポートにより評価)

(2) 技術者としての社会に対するモラルを身につける. (レポートにより評価)

(3) 技術者としての社会に対する責任を自覚する. (レポートにより評価)

(4) あるべき技術者像を培う. (レポートにより評価)

回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1, 2	技術, 技術者と社会	○最近の技術に関する事故事例を資料とし, 社会と技術との関わりについて理解を深める.	【理解の度合い】
3-6	歴史に見る事故事例と技術的問題点	○多くの歴史的例, 「松川事件」, 「水俣病」, 「カネミ油症」, 「インド ポパール化学工場事故」, 「航空機事故」, 「チャレンジャー, コロンビア号事故」, 「コンクリート老朽化あるいは施工上からの事故」, 「構造物設計上からの事故」などの事例をビデオ, OHP, 新聞, 雑誌等を用いて説明, その社会的バックグラウンド, 技術的問題点を考察, 究明する.	
7	後期中間試験		【試験の点数】 点
8	後期中間試験の解答と解説		【理解の度合い】
9-11	企業倫理と内部告発	○ビデオ「内部告発」を題材に, 企業内で不正があった場合の技術者としての義務, 責任, 対処の仕方を学ぶ.	
12	環境倫理	○地球環境の保全, 循環型社会の構築について, ビデオによりドイツ自動車産業界における取り組みの状況を学ぶ.	
13	総括	○以上の講義を総括し, あらためて技術者としての義務, 責任についての自覚を構築する.	
14	後期末試験		【試験の点数】 点
15	後期末試験の解答と解説		【総合達成度】
履修上の注意	本講義では, 事前準備 (新聞, 雑誌等によく目を通しておく, 提示資料の読み込み, 級友との議論等) が必要である. ビデオ等の内容を良く理解し思考することが大切である.		
教科書	プリント, 資料を使用する.		
参考図書	藤本ら, 「技術者倫理の世界」, 森北出版. 杉本ら, 「技術者の倫理入門」, 丸善, C.ウイットベック 他.		
関連科目	技術論, 機械設計, 倫理, 法学概説, 環境保全工学 (専攻科)		
総合評価	総合評価 = $0.8 \times (2 \text{ 回の定期試験成績平均}) + 0.2 \times (\text{レポート評価})$		【総合評価】 点

(出典: シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

教員会議を始め各種委員会等は、一般・専門科教員で組織され学科間連携が行われるほか、教員連絡協議会等で具体的な科目間連携も議論・実行されており、一般・専門科教員間の連携が機能的に行われている。

### 観点 2-2-③： 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点に係る状況)

準学士課程では、全学級に学級担任が配置され学生の教育・生活指導に対応し、さらに1～3年生には副担任も置き、毎朝ショート・ホームルームを実施して出欠や健康状態を把握するなど、正副担任が連携・協力し指導・教育する体制をとっている(資料2-2-③-1)。また、円滑なクラス運営や担任業務のためにクラス担任の手引きが利用されている(資料2-2-③-2)。各学年主任は担任間の連携をとり、学生の教育・生活指導の情報及び意見交換を行っている(資料2-2-③-3)。特に低学年教育の重要性の観点から、各科連絡会(資料2-2-③-4)や低学年クラス運営委員長を中心に低学年クラス運営懇談会を実施し、情報・意見交換を行い、教務・学生主事の助言等を通して担任活動を支援している(資料2-2-③-5)。

学生のメンタルヘルス問題への対応は、学生相談室主催の非常勤カウンセラーと担任等との研修・懇談会(資料2-2-③-6)や全教員対象のFD講演会などで教育指導活動を支援、推進している。

課外活動に関しても、学生主事室指導の下に学生会や各クラブに顧問教員が最低1名は配置され協力して教育指導を行う体制をとっている(資料2-2-③-7)。クラブ顧問への支援体制は、学生部委員会やクラブ顧問会議だけでなく、ロボコン支援委員会等学内挙げての体制も整備されてきている(資料2-2-③-8)。

また、物的・財政的バックアップとして学生課を中心に細かい配慮がなされ、休日のクラブ引率や練習指導に振替休日の申請、共用自動車の使用制度に加え特殊業務手当の支給を行っている(資料2-2-③-9, 10)。課外活動や厚生補導に必要な施設・設備あるいは物品等についても調査を行い、学生や顧問を側面から支援している(資料2-2-③-11, 12, 13)。

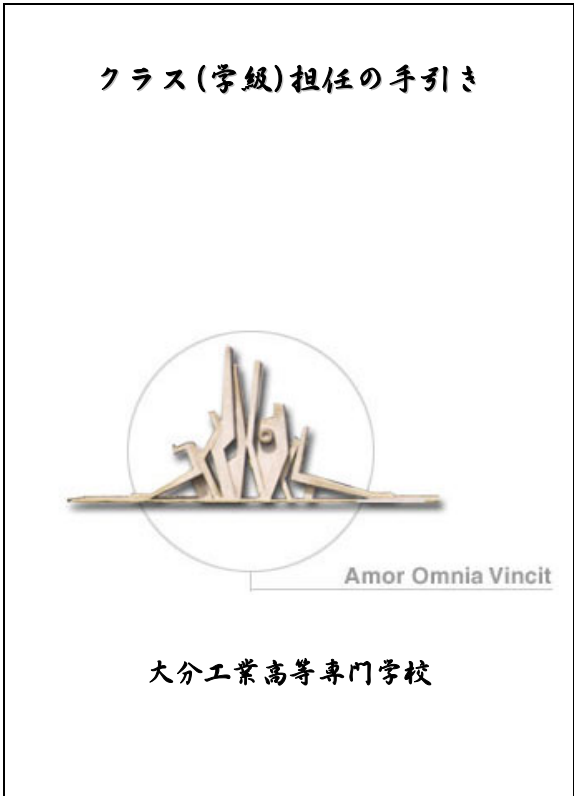
#### 資料 2-2-③-1

\*学級担任(副担任)

	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	都市システム工学科
1 年 (副担任)	笹原 徹 (福永 圭悟)	● 佐藤 達郎 (湯地 敏史)	瀧川 信正 (手島 規博)	藤原 宏司 (園田 敏矢)
2 年 (副担任)	● 武口 博文 (樋口 理宏)	工藤 康紀 (佐々木 透)	穴井 孝義 (プロハースカ ステネク)	大木 正明 (名木野 晴暢)
3 年 (副担任)	徳安 達士 (牧野 伸義)	山口 貴之 (後藤 智行)	● 丸木 勇治 (松本 慎平)	田中 孝典 (佐野 博昭)
4 年	菊川 裕規	木本 智幸	● 青木 照子	東野 誠
5 年	伊東 徳	清武 博文	● 金田 嗣教	一宮 一夫

(出典：学校運営委員会資料 平成19年度校務分掌)

資料 2 - 2 - ③ - 2



クラス(学級)担任の手引き

章	大項目	小項目
1. はじめに		
2. クラス運営の方針・計画 P 5 ~ 6	クラス運営の方針	前担任との引継、専門学科との連絡、大分高専の中期計画を踏まえた学年会の連結と目標設定、学級の運営方針
	クラス運営の計画	指導計画、SHR の運営、特活の運営
3. クラス組織と教室環境 P 7 ~ 9	クラス組織	クラス委員と学生会役員等の選出、クラス委員等の役割、週番とその役割、掃除当番
	教室環境	学生の座席配置、教室の設備備品、黒板、掲示、壁面、プラインド、ゴミ箱
4. 学習指導 ポートフォリオの利用 (I) P 10 ~ 12	学生の成績履歴	前担任との引継、学生の成績推移把握
	日常の学習指導	HR での指導、授業受講態度に関する指導、個別指導、教科担当教員との連携
	定期試験時の指導	試験勉強の指導、不正行為防止の指導、定期試験後の指導
	進路指導	進路決定の指導、就職指導、進学指導、退学、転学
5. 生活指導 ポートフォリオの利用 (II) P 13 ~ 17	出欠席の把握	欠席、病欠欠席、遅刻、早退、忌引、公欠、休学
	身だしなみ	服装・髪型
	校外生活	アルバイト、パチンコ
	盗難防止	自転車、金銭管理、ロッカー、電子辞書、電卓
	寮生の指導	所属寮生の寮生活把握、寮生訪問、寮務委員会・学生生活係との連携、寮外生の寮訪問
	下宿生の指導	下宿生の住所・生活状況把握、下宿訪問
	自宅通学生の指導	生活状況の把握、家庭訪問
	交通マナーの指導 クラブ活動学生の指導	車輛通学者へのルール遵守指導 所属クラブと活躍状況把握、顧問教員との連携
5. 生活指導(続き) P 17	学生相談室・保健室との連携	学生相談室との連携、保健室との連携
6. 学校行事の指導 P 18	学校行事の指導	新入生オリエンテーション、入学式、始業式、安全運転講習会、学生総会、体育祭、高専祭、保護者会、球技大会、卒業式、見学旅行、壮行会、その他
7. 保護者との連絡 P 19	日常的な連絡	保護者との連絡、問題行動の連絡
	定期試験毎の連絡	成績通知表
	保護者会	懇談時間割の作成、懇談内容の検討、出欠席の確認
8. 事務的業務 P 20 ~ 21	学生調書の作成・更新	
	授業料免除申請	授業料免除申請の時期、免除申請書類の作成、授業料免除学生の決定
	奨学金申請	奨学金申請の時期、奨学金申請書類の作成、奨学金支給学生の決定、奨学生の異動
9. 突発的事態への対処 P 22 ~ 23	学校管理下で事故・怪我等が起こった場合	応急処置・病院への搬送、保護者への連絡、クラブ活動中の場合、欠席中の学習指導
	クラス学生が違反行為をした場合	発生時の措置、当該学生の指導、保護者との連携、関係委員会との連絡、処分、事後指導
10. 参考資料 P 24 ~ 30	HR 年間指導計画(例)	
	公欠について	
	学生生活関係で諸規則等について	
	校務分掌	

(出典：学生課資料)

## 資料 2 - 2 - ③ - 3

## 第 2 1 回 1 年部会・議事概要

2006 / 1 / 18 15:50-16:40 於: 機械科事務室

参加者: 菊川、つる、篠田、穴井

## 1. クラス近況報告

.....  
 .....  
 .....  
 .....

2. インフルエンザにかかったときは保健室にて所定の用紙をもらって医者を書いてもらうか、医者の名刺の裏に必要事項+印を記してもらって教務係に提出するように指導をお願いします。

## 3. 特活の結果時数の扱いについて

特活は50分の扱いですので、1回の欠課時数は1Hで良いそうです(教務係に確認)。

4. 穴井の今後の授業変更について(ご迷惑おかけして申し訳ありません。1/27までは学校にきます)補講は済ませていますが、低学年に空き時間ができるのは好ましくないとのことから、下記の先生方からご協力をいただいています。

関係する先生方、本当にありがとうございます。

1 / 30 (月)	: 2限目	1M (自習監督: 藤原先生)
	4限目	1S (工場見学・朝倉先生)
2 / 3 (金)	: 2限目	1C (篠田先生)
	4限目	3S (篠田先生2グループ合同授業)
2 / 6 (月)	: 2限目	1M (自習監督: 平野先生)
	4限目	1S (工場見学・朝倉先生)
2 / 8 (水)	: 2限目	3M (篠田先生2グループ合同授業)
	4限目	1E (特活: 本田先生代行)
2 / 9 (木)	: 1限目	1E (篠田先生1Cと合同授業)
2 / 10 (金)	: 2限目	1C (篠田先生)
	4限目	3S (篠田先生2グループ合同授業)
2 / 13 (月)	: 2限目	1M (自習監督: 山田先生)
	4限目	1S (放課)

## 5. 入寮希望者について

4月からの入寮を希望する学生は、寮事務室にて「入寮願?」用紙をもらって、提出するよう指導してください。

## 6. 学年目標のフィードバックについて(2月実施)

アンケート用紙の作成(2種類): 篠田先生

回収・集積: クラス担任

## 7. ....

8. 1Eの「指導要録」は私が帰国後に書くことになりました > 本田先生

## 9. 次回の1年部会について

(出典: 1年部会資料)



## 資料 2 - 2 - ③ - 4

## 平成 16 年度第 4 回各科連絡会議議事概要

日 時： 平成 16 年 7 月 26 日 (月) 15:00~17:05  
 場 所： 会 議 室  
 出 席 者： 沖 校長 大石教務主事  
 加藤機械工学科主任 兼田電気電子工学科主任  
 金田制御情報工学科主任 園田都市システム工学科主任  
 瀧川一般(理系)主任(座長) 篠田一般(文系)主任代行

冒頭に本日の座長 瀧川先生から、7/6(火)開催の第 1 回クラス運営委員会報告を別添議事概要に基づき、報告及び補足説明を行った。

## 《議 題》

1. 専門学科による低学年クラス担任への支援体制について  
 瀧川座長から、別紙資料『専門学科による低学年クラス担任への支援体制について』に基づき、一般文系から順に説明後、意見交換を行った。  
 主な意見等
  - ◎ 一般文系
    - ・ 専門学科からは良く支援をやっていただいている。
  - ◎ 機械工学科
    - ・ 1の\*『1~3年に副担任をつける。』は、後期から2年福永先生、3年薬師寺先生を副担任とし、実行する。
    - ・ 授業を持たないでも、担任はやれる。⇔人によって違いがある。
    - ・ 基本的には授業を持っている方がやり易い。
    - ・ 副担任を置く場合のよし悪し。一概に付けた方が良いとは言えない。
    - ・ 副担任はあくまで、担任不在時のサポート体制で行うべき。
  - ◎ 電気電子工学科
    - ・ 支援はやっている。
    - ・ 「低学年担任との懇談会を過去実施」について、昨年は未実施、今年は是非実施したい。
    - ・ 特活のクラス担任扱いは、今年がテーマが決まっており、専門科目が口を出せない。
  - ◎ 制御情報工学科
    - ・ 『専門科から出向いていく』ことについては、後期から実行。
    - ・ 『システムの面から介入すべき』⇒ 学校一斉に!
  - ◎ 都市システム工学科
    - ・ 1・2年生は一般科が積極的に教育指導を行って、3年生でバトンタッチする形が望ましいのでは？  
 場合によっては、一般科の先生が高学年の担任に向いている場合もあるが、その時は担任を依頼することもある。その場合は専門科の支援が大切である。

(出典：各科連絡会議資料)

## 資料 2 - 2 - ③ - 5

## 低学年クラス運営懇談会議事概要

日 時 平成 18 年 12 月 8 日 (金) 14:10~16:30  
 場 所 視聴覚教室 (図書館二階)  
 出 席 者 1 年~3 年クラス担任 11 名、副担任 1 名  
 教務主事、学生主事、クラス運営委員長  
 議 題 「クラス運営の現状と問題点について」

## (次 第)

## 現状報告

- 1 年生：成績不振者、挨拶、個人面談、コミュニケーション不足等について
- 2 年生：成績不振者、留年生指導、清掃指導、アルバイト、女子学生の問題、  
 カウンセリング指導等について
- 3 年生：成績不振者、留年生指導、授業態度、課題レポート、  
 進路変更等の問題について

## フリー討議・意見交換

## 主事の意見・助言等

(出典：低学年クラス運営懇談会資料)

## 平成17年度学生相談室研修会

日 時 平成17年12月1日(木)  
16時10分～17時20分

場 所 視聴覚室

講 師

テーマ 「クラス運営・学生指導に関するカウンセ  
ラーとの懇談会」

出席者(担任) 菊川 鶴 篠田 清武 佐藤(達)

高見 相本 川内谷

(相談室委員) 峯本 島田 河野 岡村

岩崎

- ・ 出席者の自己紹介
  - ・ LD(学習障害)について、ビデオを見て学習
  - ・ クラス担任から困っていることについて発言と助言
- 『やる気があってもできない』 ～ 個別に教え方を変えなければならない。接しているうちに問題点が見えてくることもある。
- 『提出物が出せない』 ～ 文章が書けないのかも
- 『リストカットの問題をテレビでみたが』 ～ 高専生レベルではやめさせることは難しいかも。リストカットをやる背景を知ることが重要。家族関係(親子関係)が原因となっていることが多い。教師一人で抱え込まないで!
- 『LDと怠けの判断は?』 ～ 個別に関わっていけばどちらかが見えてくる。学校の中で関わるのが大切。彼らは外では普通!
- 『切れやすい一歩手前の学生がいる』
- 「自分でコントロールが出来ない」と言う ～ 多動性障害は年令を重ねれば落ち着いてくる

(出典:学生相談室資料)

## 資料 2 - 2 - ③ - 7

学 生 会 顧 問					
体 育 局 長 ( 武 口 )			文 化 局 長 ( 篠 田 )		
野 球	一宮, 菊川, 嶋田, 東野	空 手	加治, 佐野	英 語	大木
バ レ ー	佐藤(達), 園田, 名木野	バドミントン	吉澤, 利光, 徳安	軽 音 楽	福永, 笹原
バスケット	手島, 田中(孝), 湯地	弓 道	武口, 伊東	写 真	篠田
サ ッ カ ー	佐々木, 清武, 前			気 象 天 文	高橋, 工藤(康)
卓 球	薬師寺, 堀, 亀野			囲碁・将棋	木本
ソフトテニス	山田, 藤原, 樋口	《 同 好 会 》		吹 奏 楽	青木, 鶴沢, 田中(美)
山 岳	佐藤(秀), 工藤(康), プロハースカ	神 楽	峯本	ボランティア	穴 井
陸 上	大庭, 牧野	ハンドボール	篠田	ロボット研究	鷹尾, 岡, 金田, 軽部, 本田
柔 道	川内谷, 清水	自転車競技	徳安	電子計算機	丸木
剣 道	島田, 相本			茶 道	青木, 田中(美)
水 泳	小西, 山口			文 芸	島田, 山口
テ ニ ス	東木, 松本(佳), 瀧川, 霧			化 学	加治
ラ グ ビ ー	工藤(宗), 高見, 松本(慎)			書 道	相本
少林寺拳法	峯本, 徳尾			美 術	後藤(智)

(出典：学校運営委員会資料 各種委員会委員一覧)

## 資料 2 - 2 - ③ - 8

## 大分工業高等専門学校各種委員会規程 (抜粋)

## 別表

## 大分工業高等専門学校各種委員会

番号	委員会名	審 議 事 項	組 織	委員長	庶務担当
14	ロボットコンテスト支援委員会	1 ロボットコンテスト出場ロボットの製作・選考等に関する事。 2 その他ロボットコンテストに関する事。	1 教務主事, 学生主事及び寮務主事 2 機械工学科, 電気電子工学科, 制御情報工学科及び都市システム工学科の教員各1名 3 一般科目の文科系, 理科系及び基礎専門の教員から2名 4 学生主事補1名 5 ロボット研究部顧問教員 6 ロボット製作指導教員 7 総務課長及び学生課長 8 技術長及びロボット製作指導技術職員 9 その他校長が必要と認めた者	学生主事	学生支援係

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料 2 - 2 - ③ - 9

クラブ引率指導及び練習試合等実施伺

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 殿

クラブ名 部

工学科 年

責任学生氏名

顧問教員氏名 印

下記のとおり練習試合等を実施してよろしいかお伺いします。

記

実施年月日	平成 年 月 日 ( ) 時 分	~	平成 年 月 日 ( ) 時 分
行先・場所等			
相手校・試合名			
参加区分	公式(競技)試合	練習(競技)試合	その他
参加学生総数	名		
引率教員氏名	休日の振替		休日の振替
	月 日		月 日
	月 日		月 日
	休日の振替		休日の振替
	月 日		月 日
	月 日		月 日
経路・所要経費等	スクールバス (要・否)	共用車 アルファード (要・否)	自動車走行距離 往復 km

- \* 休日の振替日欄は、申請者が教員の場合で実施日が休日となる場合に振替日を記入願います。
- \* この伺いは、人事係で休日の振替日確認後、学生係へ提出してください。
- \* 休日の振替日欄は、申請者が教員の場合で実施日が休日となる場合に振替日を記入願います。

(出典：サイボウズ)

資料2-2-③-10

課 外 活 動 指 導 届

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 殿

指導教員氏名 印

下記のとおり課外活動の指導をしましたので届け出ます。

記

ク ラ ブ 名	
内 容	
日 時	平成 年 月 日 ( )
試合及び練習場所	
集 合 ・ 解 散	集合場所 時 分 解散場所 時 分
参加学生総数	名
備 考	

(出典：学生課資料)

## 資料 2 - 2 - ③ - 11

平成 18 年 8 月 29 日

学 生 主 事  
寮 務 主 事 殿  
代表顧問教員

学生課長 河野美奈

学生の課外活動その他厚生補導に必要な営繕工事及び物品等の調べについて（依頼）

このことについて、営繕関係等工事要求及び厚生補導関係設備整備予算要求の資料としたいため、下記により提出願います。

## 記

提出書類	（施設・設備要求関係） （物品要求関係）	営繕関係等工事要求書（学寮関係は除く。） 学生の課外活動その他厚生補導に必要な物品調
提出期限	平成 18 年 10 月 13 日（金）	
提出先	学生課 学生係	
その他	要求が無い場合には「なし」と記入の上提出してください。 その他不明な点については学生係にお問い合わせください。	

(出典：学生課資料)

## 資料 2 - 2 - ③ - 12

(施設・設備要求関係)

要求部局名	空手部
教員名	加治、佐野

平成 18 年度 営繕関係等工事要求書  
(工作物の設置、既存の設備の改修、既存の部屋の模様替など。)

事項名	概要及び理由
第二武道場の設置または現在の武道場の二階化	<p>(概要) 空手部及び少林寺拳法部専用の練習場の設置。 または、現在の武道場の改修による練習施設の確保。</p> <p>(理由) 空手部、少林寺拳法部とも依然として空きを求めて毎日練習場所が変わるという変則的練習を余儀なくされており、思うように活動できない状態が続いている。一方、体育の授業に柔道が積極的に取り入れられ、武道場が手狭になってきているという現状がある。</p>

(注) 要求内容のわかりやすい図面や位置図等を添付してください。

(出典：学生課資料)

## 資料 2 - 2 - ③ - 13

## 平成 19 年度 営繕関係等工事要求書

前年度要求書で実施されていない事項に引き続き、下記新規事項を要求します。

番	事 項 名	概 要 及 び 理 由
1	第 2 体育館の床張り替え	第 2 体育館は、校舎改修の際、物置として使用され、相当傷んでおり、怪我の原因になりかねない。
2	第 1 体育館既設バスケットゴールのバックボード取り替え工事一式	第 1 体育館の既設のバスケットゴールのバックボードは、協会規程のサイズでは無いため公認のバックボードに取り替えてもらいたい。(2面とも)
3	テニスコートの周辺整備	<p>(概 要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンツーカーコートからオムニコートへの改修、</li> <li>・コートフェンス伸長</li> <li>・コンセントの増設</li> <li>・壁打ちボードの改修</li> </ul> <p>(理 由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コートの土の状況がよくない。雨水の排水が悪く、コートの水がなかなかひかない。</li> <li>フェンスが低いと、野球部のボールが入ってきやすく非常に危険である。</li> <li>現在、コート横の変電室にあるコンセントを使ってライトをつけているが、そのコンセントの増設。</li> <li>ガットはり機のための電源がほしい。現在は重い機材を運んで校舎内でガットをはっているが、コンセントを 1 個増設するだけで、それがコート内で行うことが可能になる。</li> <li>現在の壁打ちボードはソフトテニス全盛時代の名残りであり、場所も不適切。また高さが低すぎるため、ボールが野球グラウンド側に飛び出し、練習ボードとして使えない状態である。</li> <li>壁打ちボードは本来、テニスの技術向上に不可欠なものであるから、ボードの高さを高くする(ネットでもよい)か、できれば場所をコート内の図書館に近いところへ移動(新設)することを要望する。</li> </ul>
4	野球投球練習場の移設及びブルペンの改修	<p>(概 要)</p> <p>現在レフト奥にある雨天投球練習場をサード横のブルペンへ移設それに伴う一塁側または三塁側ブルペンの改修。</p> <p>(理 由)</p> <p>現在の場所は夏場になると蚊が多く使用しにくい状況にある。</p>
5	水泳プール周辺整備	<p>(概 要)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 プールサイドの塗装 プールサイドの塗装が経年劣化によりはがれ一部コンクリートが露出している。学生をつまづきや転倒による事故の防止とプールへのはがれた塗装の混入による汚染防止に必要である。</li> <li>2 プールバルブの修理 バルブを閉めても締めりが悪く多少の水が流れる。</li> </ol>

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

正副担任の配置やクラス運営委員会による担任を中心とした教育指導活動を支援する体制の整備、クラブ顧問への細かい配慮など学級担任や課外活動の指導教員が行う教育活動を円滑に実施するための人的ならびに物的支援体制が機能している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

技術センター、総合情報センター、地域連携交流センターはそれぞれの特徴を生かし教育目標を達成するため機能的かつ広範な教育活動の支援を行っている。また、教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制と教育課程を有効に展開するための委員会等の体制が整備され、その役割分担や連携が十分機能している。低学年教育と指導重視の観点から、副担任制やショートホームルームの実践、低学年クラス運営委員会の開催等地道な教育活動を行っている。

### (改善を要する点)

一般・専門の教員間の連携の顕著な実績は最近のことであり、今後も全学的・機能的な連携のあり方を模索する必要がある。

## (3) 基準2の自己評価の概要

本校は「人間性に溢れ、国際感覚を身につけた、探究心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」を教育理念とし、専門基礎技術力と教養基礎力に裏打ちされた実践技術者養成を目指しており、学科構成は教育の目標を達成する上で適切なものといえる。

専攻科においては「自ら方向性を定め学習し、問題を発見して解析する力と、問題を解決し自ら設計して新しいものを生み出す力を備え、高度な技術力と豊かな教養力に裏打ちされた、創造的技術者の育成」を目指しており、教育の目標を達成するため十分な機能を持った構成となっている。また、教育理念の実現と教育目標の達成のため、教育課程全体を企画調整し、有効に展開するための委員会等の検討・運営体制が整備されており、それぞれの責任分担に従い連携しあいながら、教育活動等に係る重要事項の審議等を行っている。

また、相互に関連する一般科目及び専門科目間の授業内容等について、教育課程全体の視点から必要に応じた教員間の連携も行われているが、今後さらに機能的・組織的に連携を強化する必要がある。

教育課程の展開及び人間の素養の涵養に関する教育においては、「学級担任やクラブの指導教員が行う教育活動」が円滑に実施されるよう物的並びに人的支援体制も整備されてきているが、「クラブ顧問」に対する支援体制については、その熱意に応える他方面にわたる全学的・機能的な支援体制の強化が望まれる。



基準 3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点 3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

観点 1-1-①の教育の目的を具体化した学習・教育目標のうち、一般科教育は、学習・教育目標 (A)「世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養，自ら考える力，いつくしみの心を身につける」，(B)「科学の粋を極める技術者に必要な数学，自然科学，情報技術，専門工学の基礎を身につける」の中の (B1)「数学，自然科学の力を身につける」，(C)「地域や国際舞台での活躍を目指して，多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける」から編成される (資料 3-1-①-1)。(A)と(C)達成のため国語・社会・英語等の担当教員が配置されており，(B1)達成のため数学・物理・化学・保健体育等の担当教員が配置されている。その数は専任教員 18 名，非常勤講師 22 名の計 40 名で，担当科目ごと専任教員をバランスよく配置している (資料 3-1-①-2)。これらの教員は専門分野に応じた授業科目を担当している (資料 3-1-①-3)。中学校課程での数学学習量の不足を補い，専攻科での数学系科目を充実させるため，平成 18 年度から常勤外国語担当教員を 1 名減じ数学教員を増員した。外国語教育は (C) 達成に重要な科目であり，英語科非常勤講師のネイティブスピーカーを 2 名から 3 名に増員し，低学年は少人数クラス編成で英会話を行っている。

資料 3-1-①-1

授業科目系統図(2007(平成19)年度入学生用 機械工学)

学習・教育目標	授業科目名									
	1年		2年		3年		4年		5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)	現代社会 (音楽/美術/茶道)	政治・経済	倫理	倫理	地理	地理	法字概説(○)	法字概説(○)	哲学概説(○)	哲学概説(○)
	日本史 保健・体育	日本史 保健・体育	世界史 保健・体育	世界史 保健・体育	保健・体育	保健・体育	経済学概説(○)	経済学概説(○)	歴史学概説(○)	歴史学概説(○)
(A2)	物活	物活	物活	物活	物活	物活				工学概説(○)
(B1)	基礎数学Ⅰ	基礎数学Ⅰ	微分積分Ⅰ	微分積分Ⅰ	微分積分Ⅱ	微分積分Ⅱ	応用数学Ⅰ(◎)	応用数学Ⅰ(◎)		
	基礎数学Ⅱ	基礎数学Ⅱ	線形代数	線形代数	微分積分Ⅱ	微分積分Ⅱ	応用数学Ⅱ(◎)	応用数学Ⅱ(◎)		
	物理Ⅰ	物理Ⅰ	物理Ⅱ	物理Ⅱ	応用物理Ⅰ	応用物理Ⅰ	数学演習Ⅰ(○)	数学演習Ⅱ(○)		
	化学Ⅰ	化学Ⅰ	化学Ⅰ	化学Ⅰ	応用物理Ⅱ	応用物理Ⅱ	物理学(○)	物理学(○)		
(B)	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	化学Ⅱ(○)	化学Ⅱ(○)		
		機械基礎論			工業力学	工業力学	生物学概説(○)	生物学概説(○)		
					材料力学Ⅰ	材料力学Ⅰ	保健・体育(○)	保健・体育(○)		
					材料力学Ⅱ	材料力学Ⅱ				
(B2)	材料と加工		機械工作法Ⅰ	機械工作法Ⅰ	材料科学Ⅰ	材料科学Ⅰ	材料力学Ⅱ(◎)	材料力学Ⅱ(◎)		
			機械工作法Ⅱ	機械工作法Ⅱ	情報工学Ⅰ	情報工学Ⅰ	熱力学(◎)	熱力学(◎)		
			情報処理Ⅰ	情報処理Ⅰ	材料科学Ⅱ	材料科学Ⅱ	水力学(◎)	水力学(◎)		
			情報処理Ⅱ	情報処理Ⅱ	機械設計Ⅰ	機械設計Ⅰ				
(C1)	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	現代文	現代文	設計製図Ⅰ(◎)	設計製図Ⅰ(◎)		
					国語学	国語学	機械設計Ⅱ(◎)	機械設計Ⅱ(◎)		
					現代文	現代文	設計製図Ⅱ(◎)	設計製図Ⅱ(◎)		
					現代文	現代文	機械設計Ⅱ(◎)	機械設計Ⅱ(◎)		
(C2)	英語	英語	英語	英語	英語	英語	地域日本文学(◎)	地域日本文学(◎)		
	英会話	英会話	英会話	英会話	英語	英語				
							卒業研究(◎)	卒業研究(◎)		

(出典：シラバス)

## 資料 3-1-①-2

## 一般教育科目担当教員の数

	数 学	外国語	国 語	物 理 化 学	社 会	体 育	芸 術	合 計
教 授	3	2		2	1			8
准 教 授	2	3	2		1	2		10
講 師								0
助 教								0
助 手								0
計	5	5	2	2	2	2		18
非常勤講師	2	4	1	4	5	3	3	22
合 計	7	9	3	6	7	5	3	40

(出典：総務課資料)

## 資料 3-1-①-3

## 一般科目担当教員の専門分野と担当授業科目

(年齢及び担当科目は H19. 5. 1 現在)

	職名	学位	年齢	専門分野	担当授業科目
1	教授	文学修士		19世紀独文学	独語, 英語
2	教授	学 士		英語教育学	英語
3	教授	博士(文学)		哲学	哲学概説, 倫理, 現社, 政経
4	教授	理学修士		数学	基礎数学 I, 微分積分 I, II
5	教授	理学博士		環境化学	化学 I, 化学 II, 環境化学
6	教授	学 士		数学教育	基礎数学 I, 微分積分 I, 線形代数, 微分方程式, 数学演習 B
7	教授	理学博士		理科教育	物理 I, 物理 II, 応用物理 I
8	教授	学 士		数学教育	基礎数学 II, 微分積分 I, 微分方程式, 数学演習
9	准教授	修士(文学)		日本近代文学	国語総合, 地域日本文学
10	准教授	M. A. in TESOL		英語教育学	英語
11	准教授	学 士		英語教育学	英語
12	准教授	文学修士		江戸文学	国語総合, 現代文
13	准教授	修士(文学)		アメリカ文学	英語, 英語 A
14	准教授	博士(史学)		西洋中世史	日本史, 世界史, 歴史学概説
15	准教授	理学修士		数学	基礎数学 I, 線形代数, 微分積分 I, 微分方程式, 数学特論
16	准教授	学 士		体育学	保健体育
17	准教授	修士(体育学)		体育学	保健体育
18	准教授	博士(理学)		微分幾何学	基礎数学 I, 微分積分 II
19	教授 (基礎専門)	理学博士		大気力学	物理 II, 応用物理 I, 微分方程式
20	准教授 (基礎専門)	博士(理学)		宇宙物理学	応用物理 I, 応用物理 II, 物理学,

## (非常勤講師)

	職名	学位	年齢	専門分野	担当授業科目
1	非常勤講師	学 士		数学	線形代数
2	非常勤講師	学 士		数学	基礎数学Ⅱ
3	非常勤講師 (外国人)	学 士		英語教育学	英会話
4	非常勤講師 (外国人)	学 士		英語教育学	英会話, 英語B
5	非常勤講師 (外国人)	学 士		英語教育学	プロジェクト演習Ⅱ(専攻科)
6	非常勤講師			中国語	中国語
7	非常勤講師	修士(文学)		日本語学	日本語
8	非常勤講師	学 士		物理学	物理Ⅰ
9	非常勤講師	博士(理学)		植物学	バイオテクノロジー概論
10	非常勤講師	修士(工学)		応用物理学	応用物理Ⅰ, 物理Ⅱ
11	非常勤講師	修士(理学)		化学	化学Ⅰ
12	非常勤講師	文 学 修 士		哲学	地理
13	非常勤講師	修士(教育学)		教育心理学	心理学
14	非常勤講師	修士(経済学)		経済学	経済学解説
15	非常勤講師	修 士(法 学)		法学	法学概説
16	非常勤講師	修 士(文 学)		史学	日本史, 現社, 政経
17	非常勤講師	学 士		保健体育	保健・体育
18	非常勤講師	学 士		保健体育	保健・体育
19	非常勤講師	学 士		健康教育学	保健・体育
20	非常勤講師	学 士		書道	書道
21	非常勤講師	学 士		音楽	音楽
22	非常勤講師	学 士		美術	美術

(出典：総務課資料)

## (分析結果とその根拠理由)

一般科目担当の常勤教員は18名で、高等専門学校設置基準第6条第2項の要件を満たす。科目ごとの人数配分も時代の要請に伴う改善が加えられている。教員は、非常勤講師22名も含め、各科目で十分な教育経験と高い専門性を有しており、目的達成のために必要な一般科目担当教員が適切に配置されている。

観点3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

専門科は、観点1-1-①で述べた教育の目的を達成するため、専門科目担当教員を配置している(資料3-1-②-1)。機械工学科に所属する教員のうち2名は基礎専門教員であり、応用数学や応用物理など、全学科高学年に対し専門に直結した数学、自然科学の講義を行っている。専門科目担当教員数は、専任教員43名(他に助手2名)、非常勤講師15名の合計58名であり、専任教員及び非常勤講師をバランス良く配置している。専任教員数は高等専門学校設置基準第6条第3項(29名)及び第8条(31名)を満たしている。専門科では、教育の目的を具体化した学習・教育目標のうち、(B)「科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける」の中の(B2)「情報技術、専門工学の力を身につける」、(D)「創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける」(資料3-1-②-2)を中心に編成している。目標(B2)に対応する科目は各専門学科のほぼ全ての座学科目が該当し、担当する教員は教科に対し専門的な知識と実績を持つ(資料3-1-②-3)。目標(D)に対応する科目は、各専門学科とも実験や実習並びに5年生の卒業研究等が該当し、低学年から高学年まで計画的に配置されている。低学年から実際の「もの」に触れ、工学基礎理論を実証する実験により学生に興味を抱かせるに十分な能力と経験を持った教員が配置されている。また、答えのわからない課題へのアプローチや、データ解析など卒業研究指導に、十分な研究能力を持つ教員が各専門学科とも確保されている。これは、専門科目担当教員が博士または修士の学位を持つ教員を中心に配置されていること、及び企業経験者が適切に配置されていることで証明できる(資料3-1-②-4)。

資料3-1-②-1

## 専門科目担当教員の数

	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	都市システム 工 学 科	合 計
教 授	4	3	3	4	14
准 教 授	6	4	5	5	20
講 師	2	2	1	0	5
助 教	0	1	1	2	4
助 手	0	1	1	0	2
計	12	11	11	11	45
非常勤講師	5	5	2	3	15
合 計	17	16	13	14	60

(出典：学校要覧)

授業科目系統図(2007(平成19)年度入学生用 機械工学科 (一部抜粋))

学習・教育目標	授業科目名									
	1年		2年		3年		4年		5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A)	現代社会 音楽/美術/書道	政治・経済	倫理	倫理	地理	地理	法学概説(○) 経済学概説(○)	法学概説(○) 経済学概説(○)	哲学概説(○)	哲学概説(○) 心理学(○)
	日本史 保健・体育	日本史 保健・体育	世界史 保健・体育	世界史 保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育(◇)	保健・体育(◇)	歴史学概説(○) 保健・体育(◇)	歴史学概説(○)
(A2)	特活	特活	倫理 特活	倫理 特活	特活	特活				工学倫理(◎)
(B1)	基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ	基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ	微分積分Ⅰ 線形代数	微分積分Ⅰ 線形代数	微分積分Ⅱ 微分方程式	微分積分Ⅱ 微分方程式	応用数学Ⅰ(◎) 応用数学Ⅱ(◎) 数学演習(○)	応用数学Ⅰ(◎) 応用数学Ⅱ(◎) 数学演習(○)	数学特論(○)	数学特論(○)
	物理Ⅰ	物理Ⅰ	物理Ⅱ	物理Ⅱ	応用物理Ⅰ	応用物理Ⅰ	応用物理Ⅱ(◎) 物理学(○)	応用物理Ⅱ(◎) 物理学(○)		
	化学Ⅰ	化学Ⅰ	化学Ⅰ	化学Ⅰ			化学Ⅱ(○) 生物学概説(○)	化学Ⅱ(○) 生物学概説(○)		
	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育(◇)	保健・体育(◇)	保健・体育(◇)	
(B2)		機械基礎論			工業力学 材料力学Ⅰ	工業力学 材料力学Ⅰ	材料力学Ⅱ(◎) 熱力学(◎) 水力学(◎)	材料力学Ⅱ(◎) 熱力学(◎) 水力学(◎)	機械力学(◎) 材料力学演習(◇) 熱機関工学Ⅰ(◎) 熱力学・水力学演習(○)	機械力学(◎) 材料力学Ⅲ(○) 熱機関工学Ⅱ(○) 伝熱工学(◎) 流体機械(○)
	材料加工		機械工作法Ⅰ 情報処理Ⅰ	機械工作法Ⅰ 情報処理Ⅱ	機械工作法Ⅱ 情報処理Ⅱ	材料学Ⅰ	材料学Ⅱ(◎) 情報工学(◎)	材料学Ⅱ(◎) メカトロニクスⅠ(◎)	メカトロニクスⅡ(◎) 自動制御(◎)	トライボロジー(○)
	機械製図Ⅰ	機械製図Ⅰ	機械製図Ⅱ	機械製図Ⅱ	機械製図Ⅲ 機械設計法Ⅰ 機構学	機械製図Ⅲ 機械設計法Ⅰ 機構学	設計製図Ⅰ(◎) 機械設計法Ⅱ(◎)	設計製図Ⅱ(◎) 機械設計法Ⅱ(◎)	設計製図Ⅲ(◎) 品質管理(◇)	計測工学(◎)
(C1)	国語総合	国語総合	国語総合	国語総合	現代文	現代文	地域日本文学(◎)	地域日本文学(◎)	卒業研究(◎)	卒業研究(◎)
	英語 英会話	英語 英語LL	英語	英語	英語	英語	英語A(◎)	英語A(◎)	英語B(○) 独語(○) 中国語(◇) 工業英語Ⅰ(◎)	英語B(○) 独語(○) 中国語(◇) 工業英語Ⅱ(○)
(D1)	機械実習Ⅰ	機械実習Ⅰ	機械実習Ⅱ	機械実習Ⅱ	工学実験Ⅰ	工学実験Ⅰ	工学実験Ⅱ(◎)	工学実験Ⅱ(◎)	卒業研究(◎) 工学実験Ⅲ(◎)	卒業研究(◎)
	機械実習Ⅰ	機械実習Ⅰ	機械実習Ⅱ	機械実習Ⅱ	工学実験Ⅰ	工学実験Ⅰ	工学実験Ⅱ(◎) 校外実習(○)	工学実験Ⅱ(◎)	工学実験Ⅲ(◎)	

(出典：シラバス)

## 資料 3 - 1 - ② - 3

## 専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目

## (機械工学科)

(年齢及び担当科目は H19. 5. 1 現在)

	職名	学位	年齢	専門分野	担当授業科目	実務経験 の状況	研究機関等 での実務
1	教授	博士(工学)		設計工学	機械設計法Ⅰ、Ⅱ、機械製図Ⅲ、 設計製図Ⅰ、機械実習Ⅱ、卒業研究	企業経験 30年 技術士 (機械部門)	1年
2	教授	博士(工学)		材料力学	工業力学、材料力学Ⅱ、工学実験 Ⅰ、機械実習Ⅰ、卒業研究	企業経験 4年	7月(在外研)
3	教授	博士(工学)		熱・流体工学	応用数学Ⅱ、流体機械、熱・流体 力学演習、品質管理、工学実験 Ⅱ、設計製図Ⅲ、卒業研究	企業経験 1年	16年(大学) 10月(在外研)
4	准教授	工学修士		潤滑工学	材料と加工、材料学Ⅰ、Ⅱ、工業 英語、トライボロジー、工学実験 Ⅰ、Ⅱ、卒業研究		3月(在外研)
5	准教授	博士(工学)		熱工学	機械基礎、熱力学、熱・水力学演 習、機械実習Ⅱ、工学実験Ⅰ、卒業 研究	企業経験 4年	
6	准教授	博士(工学)		材料工学	材料と加工、機械工作法Ⅰ、Ⅱ、 機械実習Ⅱ、工学実験Ⅰ、卒業研究		7月(在外研)海 外先進教育プロ グラム、 1年(内地研)
7	准教授	博士(工学)		流体工学	水力学、メカトロニクス、工学実 験Ⅱ、Ⅲ、卒業研究		7月(在外研)
8	准教授	博士(工学)		機械力学	機械力学、機構学、メカトロニク スⅠ、Ⅱ、工学実験Ⅰ、Ⅲ、卒業研 究		2年(日本学術 振興会特別研究 員)
9	講師	博士 (情報工学)		情報・制御工学	情報処理Ⅰ、Ⅱ、情報工学、自動 制御、計測工学、機械実習Ⅰ、工 学実験Ⅲ、卒業研究		2年(大学サテ ライト研究員)
10	講師	博士(工学)		材料力学	材料力学Ⅰ、機械製図Ⅱ、設計製 図Ⅱ、工学実験Ⅲ、卒業研究		
11	教授 (基礎専門)	理学博士		大気力学	物理Ⅱ、応用物理Ⅰ、微分方程式、 数値計算、宇宙地球科学		16月(第44次日 本南極地域観測 隊員)
12	准教授 (基礎専門)	博士(理学)		宇宙物理学	応用物理Ⅰ、応用物理Ⅱ、物理学、 物理学特論、宇宙地球科学		2年(大学)

## (電気電子工学科)

	職名	学位	年齢	専門分野	担当授業科目	実務経験 の状況	研究機関等 での実務
1	教授	博士(工学)		光情報工学	工学実験Ⅰ、電磁気学Ⅱ、卒業研 究		10月(在外研)
2	教授	博士(工学)		非線形回路網	電子回路、電磁気学Ⅲ 電気回路Ⅳ、工学実験Ⅲ、卒業研 究		1年(内地研)
3	教授	工学博士		電子物性、半導 体プロセス技 術、半導体デバ イス工学	電気演習Ⅱ、工学実験Ⅰ、電子工 学、電子回路設計、電気材料、量 子力学、卒業研究	企業経験 26年	
4	准教授	博士(工学)		イオンビーム工 学、放射線計 測、プラズマ推 進工学	工学実験Ⅱ、電気回路Ⅲ、卒業研 究	企業経験 5年	13年(大学)
5	准教授	博士(工学)		ロボット工学	情報処理、アルゴリズム、制御工 学Ⅰ、制御工学Ⅱ、工学実験Ⅳ		2月(在外研中)
6	准教授	工学修士		パワーエレクト ロニクス	電気演習Ⅰ、電気回路Ⅱ、ディジ タル回路Ⅰ、Ⅱ、工学実験Ⅱ、卒 業研究	企業経験 6年	6月(内地研)
7	准教授	博士(工学)		ニューラルネッ トワーク、脳数 理工学	電気回路Ⅰ、Ⅱ、工学実験Ⅱ、 Ⅳ、通信工学Ⅰ、Ⅱ、卒業研究		11月(内地研)

8	講師			電気計測, シーケンス制御	電気計測, 工学実験Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ, 電気機器工学Ⅱ, 電気応用, 送配電工学, 卒業研究	企業経験 4年	
9	講師	博士(工学)		ニューラルネットワーク	情報処理, プログラミング, コンピュータ, 工学実験Ⅲ, 卒業研究		11月(内地研)
10	助教	博士(工学)		プラズマ工学	情報処理, 電気演習Ⅱ, 電気機器工学Ⅰ, 工学実験Ⅱ, Ⅲ, 卒業研究	防衛庁 1年	9年(教育機関)
11	助手			電気工学実験 電気製図 電子回路	工学実験Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ	企業経験 30年	

## (制御情報工学科)

	職名	学位	年齢	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況	研究機関等での実務
1	教授	博士(工学)		材料工学	電磁気学Ⅰ、電気回路Ⅱ、工学演習Ⅱ、工学実験Ⅳ、工学実験Ⅴ、卒業研究		5年(大学)
2	教授	博士(工学)		電子工学	電子回路, 電子回路Ⅱ, 卒業研究		14年(大学, 高校教諭等) 10月(在外研)
3	教授	博士(工学)		情報工学	情報処理Ⅳ、ソフトウェア設計Ⅰ、ソフトウェア設計Ⅱ、工学実験Ⅴ、卒業研究	企業経験 15年	11年(大学, 専門学校講師)
4	准教授	博士(工学)		画像認識 情報工学	情報リテラシー、工学演習Ⅰ、電気回路、通信プロトコル、工学実験ⅤⅠ、コンピュータ概論、卒業研究	企業経験 5年	2年(NHK技研)
5	准教授	学 士		ロボット工学	ロボティクスⅠ, ロボティクスⅡ, 数値解析Ⅰ, 数値解析Ⅱ, 情報数学Ⅱ、工学演習Ⅲ、工学実験基礎、工学実験Ⅲ、工学実験Ⅵ、卒業研究		6年(大学)
6	准教授	博士(工学)		物質科学	工学演習Ⅰ、工学演習Ⅱ、回路演習Ⅰ、回路演習Ⅱ、デジタル回路Ⅰ、情報特論、プログラミング基礎Ⅱ、機能材料工学、卒業研究	企業経験 3年	2年(大学(技術員))
7	准教授	博士(工学)		情報工学 音響工学	情報理論、コンピュータアーキテクチャⅠ、コンピュータアーキテクチャⅡ、論理数学、デジタル回路Ⅱ、工学実験Ⅳ	企業経験 14年	
8	准教授	博士(理学)		情報工学 応用物理学	アルゴリズムとデータ構造、プログラミング基礎Ⅰ、電気基礎、工学実験Ⅳ、卒業研究	企業経験 16年	
9	准教授	博士(人間・環境学)		情報科学	情報特論Ⅰ, 英語特論Ⅰ, 工学実験Ⅵ, 情報数学Ⅰ, 卒業研究		4年(大学)
10	助教	博士(情報科学)		情報科学	工学実験Ⅰ、工学実験Ⅱ、データベース、知識工学、英語特論Ⅱ、英語特論Ⅲ、卒業研究		4年(大学)
11	助手			材料工学	工学実験基礎、工学実験Ⅰ、工学実験Ⅱ、工学実験Ⅲ、工学実験Ⅴ、工学実験Ⅵ、回路演習Ⅰ、回路演習Ⅱ	企業経験 1年	

## (都市システム工学科)

	職名	学位	年齢	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況	研究機関等での実務
1	教授	工学修士		衛生工学 河川工学	水理学Ⅰ, 計画数理学, 測量学, 応用測量学, 設計製図, 実験実習, PBL, 卒業研究	企業経験 2年	1年(大学)
2	教授	学 士		耐震工学	構造力学Ⅰ, 鋼構造学, 振動学, 設計製図, 実験実習, PBL, 卒業研究		13年(大学)
3	教授	博士(工学) 修士(経済学)		都市・地域計画, 景観デザイン	都市計画, 防災工学, 環境計画, 社会システム, 実験実習, PBL, 卒業研究	公共団体経験 2年	7月(内地研)
4	教授	博士(工学)		地盤工学	都市システム工学概論, 土質力学Ⅰ, 土質力学Ⅱ, 実験実習, PBL, 卒業研究		16年(他高専)

5	准教授	博士(工学)		コンクリート工学	工学基礎Ⅰ, コンクリート構造学, 建設材料学, 実験実習, PBL, 卒業研究		10月(内地研)
6	准教授	博士(工学)		道路工学	都市システム工学概論, 道路交通工学, 地盤工学, 実験実習, PBL, 卒業研究	官公庁 5年	9年(教育機関)
7	准教授	学 士		土質力学			11月(内地研)
8	准教授	博士(工学)		環境水理学	水理学Ⅰ, 水理学Ⅱ, 応用水理学, 河川工学, 実験実習, PBL, 卒業研究	企業経験 2年	1年(在外研)
9	准教授	博士(工学)		環境衛生工学	衛生工学, 防災工学, 環境システム, 実験実習, PBL, 卒業研究		
10	助 教	博士(工学)		建築情報工学	情報処理, 数値演算法, 構造力学Ⅰ, 実験実習, PBL, 卒業研究		2.5年(大学)
11	助 教	博士(工学)		構造力学, 計算力学	応用数学Ⅱ, 構造力学Ⅱ, 実験実習, PBL, 卒業研究		1年(日本学術振興会特別研究員DC)

(出典：総務課資料)

## 資料3-1-②-4

## 各学科の学位取得者及び企業経験者の配置状況

学 科 名	学 位 取 得 者 数		企 業 経 験 者 数	全 教 員 数
	修 士	博 士		
機 械 工 学 科	1	11	4	12
電 気 電 子 工 学 科	1	8	5	11
制 御 情 報 工 学 科	0	9	6	11
都 市 シ ス テ ム 工 学 科	1	8	2	11

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

専門科目担当教員配置は高等専門学校の設置基準を満たし、教員の専門分野を考慮し、バランスよく配置されている。専門科目担当の常勤教員43名の86%が博士の学位を有しており、各専門学科とも優れた能力を持つ教員で構成されている。常勤職員が余裕を持ち教育研究に従事できるよう、また、常勤教員の専門性を補うため15名の非常勤講師を配置しており、教育目標を達成するために十分なものとなっている。



**観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には、教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

専攻科は、準学士課程の機械工学科と都市システム工学科をベースとした機械・環境システム工学専攻と、電気電子工学科と制御情報工学科をベースとした電気電子情報工学専攻からなる。両専攻には共通の教育プログラム「システムデザイン工学プログラム」が設定され、学習・教育目標(A)～(E)を達成させる一般科目、共通専門科目及び専門科目が設けられている(資料3-1-③-1)。一般科目はより深い一般基礎知識を教授し、(A)、(C)達成のため修士または博士の学位を有し、研究業績のある教員を中心に配置している(資料3-1-③-2)。共通専門科目では(A)～(D)達成のため、関連する研究業績を有する一般科目及び専門学科の教員を配置している(資料3-1-③-3)。また、(E)「専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける」は主に専攻科課程で達成するよう設計され、専門学科の教員が担当している(資料3-1-③-4)。専攻科担当教員は、平成14年の専攻科認定申請時に大学評価・学位授与機構の資格審査で専門分野と授業科目の適合性を評価され合格している。それ以降専攻科の講義及び特別研究の担当となった教員は16名(専攻科担当教員の36%)いるが、いずれも博士の学位を有し、専門に沿った講義及び特別研究を担当している。教員が深い専門性を持つことは、論文発表(資料3-1-③-5)、科学研究費補助金取得(資料3-1-③-6)あるいは外部資金受入(資料3-1-③-7)等の状況で証明でき、専攻科の教育の目的を達成するため計画された授業科目に対応し、適切な教員を配置している。

資料 3 - 1 - ③ - 1

授業科目系統図(2007(平成19)年度入学生用 機械工学科, 機械・環境システム工学専攻)

学習・教育目標	授業科目名													
	1年		2年		3年		4年		5年		専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A1)	現代社会(歴史・文化・倫理) 現代社会(経済)	政治・経済 倫理	倫理	倫理	経済学概説(Ⅰ)	経済学概説(Ⅱ)	哲学概説(Ⅰ)	哲学概説(Ⅱ)	哲学概説(Ⅲ)	哲学概説(Ⅳ)	哲学概説(Ⅴ)	哲学概説(Ⅵ)	哲学概説(Ⅶ)	哲学概説(Ⅷ)
(A)	日本史 保健・体育	世界史 保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育(Ⅰ)	保健・体育(Ⅱ)	歴史学概説(Ⅰ)	歴史学概説(Ⅱ)	歴史学概説(Ⅲ)	歴史学概説(Ⅳ)	歴史学概説(Ⅴ)	歴史学概説(Ⅵ)	歴史学概説(Ⅶ)	歴史学概説(Ⅷ)
(A2)	物理	物理	物理	物理	数学演習(Ⅰ)	数学演習(Ⅱ)	工学概説(Ⅰ)	工学概説(Ⅱ)	工学概説(Ⅲ)	工学概説(Ⅳ)	工学概説(Ⅴ)	工学概説(Ⅵ)	工学概説(Ⅶ)	工学概説(Ⅷ)
(B1)	基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ	微分積分Ⅰ 微分積分Ⅱ	微分積分Ⅲ 微分積分Ⅳ	微分積分Ⅴ 微分積分Ⅵ	応用数学Ⅰ(Ⅰ)	応用数学Ⅰ(Ⅱ)	応用数学Ⅱ(Ⅰ)	応用数学Ⅱ(Ⅱ)	応用数学Ⅲ(Ⅰ)	応用数学Ⅲ(Ⅱ)	応用数学Ⅳ(Ⅰ)	応用数学Ⅳ(Ⅱ)	応用数学Ⅴ(Ⅰ)	応用数学Ⅴ(Ⅱ)
(B)	物理Ⅰ 化学Ⅰ	物理Ⅱ 化学Ⅱ	物理Ⅲ 化学Ⅲ	物理Ⅳ 化学Ⅳ	応用物理Ⅰ 応用物理Ⅱ	応用物理Ⅲ 応用物理Ⅳ	物理Ⅴ 化学Ⅴ	物理Ⅵ 化学Ⅵ	物理Ⅶ 化学Ⅶ	物理Ⅷ 化学Ⅷ	物理Ⅸ 化学Ⅸ	物理Ⅹ 化学Ⅹ	物理Ⅺ 化学Ⅺ	物理Ⅻ 化学Ⅻ
(B2)	機械基礎論	機械工作法Ⅰ 情報処理Ⅰ	機械製造Ⅰ 情報処理Ⅱ	機械製造Ⅱ 情報処理Ⅲ	機械工作法Ⅱ 材料Ⅰ	材料Ⅱ 材料Ⅲ	材料Ⅳ 材料Ⅴ	材料Ⅵ 材料Ⅶ	材料Ⅷ 材料Ⅷ	材料Ⅸ 材料Ⅸ	材料Ⅹ 材料Ⅹ	材料Ⅺ 材料Ⅺ	材料Ⅻ 材料Ⅻ	材料Ⅼ 材料Ⅼ
(C1)	英語総合 英語総合	英語総合 英語総合	英語総合 英語総合	英語総合 英語総合	英語A(Ⅰ)	英語A(Ⅱ)	英語B(Ⅰ)	英語B(Ⅱ)	英語C(Ⅰ)	英語C(Ⅱ)	英語D(Ⅰ)	英語D(Ⅱ)	英語E(Ⅰ)	英語E(Ⅱ)
(C2)	英語総合 英語総合	英語総合 英語総合	英語総合 英語総合	英語総合 英語総合	英語A(Ⅰ)	英語A(Ⅱ)	英語B(Ⅰ)	英語B(Ⅱ)	英語C(Ⅰ)	英語C(Ⅱ)	英語D(Ⅰ)	英語D(Ⅱ)	英語E(Ⅰ)	英語E(Ⅱ)
(D1)	機械実習Ⅰ	機械実習Ⅱ	機械実習Ⅲ	機械実習Ⅳ	工学実験Ⅰ(Ⅰ)	工学実験Ⅰ(Ⅱ)	工学実験Ⅱ(Ⅰ)	工学実験Ⅱ(Ⅱ)	工学実験Ⅲ(Ⅰ)	工学実験Ⅲ(Ⅱ)	工学実験Ⅳ(Ⅰ)	工学実験Ⅳ(Ⅱ)	工学実験Ⅴ(Ⅰ)	工学実験Ⅴ(Ⅱ)
(D2)	機械実習Ⅰ	機械実習Ⅱ	機械実習Ⅲ	機械実習Ⅳ	工学実験Ⅰ(Ⅰ)	工学実験Ⅰ(Ⅱ)	工学実験Ⅱ(Ⅰ)	工学実験Ⅱ(Ⅱ)	工学実験Ⅲ(Ⅰ)	工学実験Ⅲ(Ⅱ)	工学実験Ⅳ(Ⅰ)	工学実験Ⅳ(Ⅱ)	工学実験Ⅴ(Ⅰ)	工学実験Ⅴ(Ⅱ)
(E1)					材料力学Ⅰ(Ⅰ)	材料力学Ⅰ(Ⅱ)	材料力学Ⅱ(Ⅰ)	材料力学Ⅱ(Ⅱ)	材料力学Ⅲ(Ⅰ)	材料力学Ⅲ(Ⅱ)	材料力学Ⅳ(Ⅰ)	材料力学Ⅳ(Ⅱ)	材料力学Ⅴ(Ⅰ)	材料力学Ⅴ(Ⅱ)
(E)					材料力学Ⅰ(Ⅰ)	材料力学Ⅰ(Ⅱ)	材料力学Ⅱ(Ⅰ)	材料力学Ⅱ(Ⅱ)	材料力学Ⅲ(Ⅰ)	材料力学Ⅲ(Ⅱ)	材料力学Ⅳ(Ⅰ)	材料力学Ⅳ(Ⅱ)	材料力学Ⅴ(Ⅰ)	材料力学Ⅴ(Ⅱ)
(E2)					情報工学Ⅰ(Ⅰ)	情報工学Ⅰ(Ⅱ)	情報工学Ⅱ(Ⅰ)	情報工学Ⅱ(Ⅱ)	情報工学Ⅲ(Ⅰ)	情報工学Ⅲ(Ⅱ)	情報工学Ⅳ(Ⅰ)	情報工学Ⅳ(Ⅱ)	情報工学Ⅴ(Ⅰ)	情報工学Ⅴ(Ⅱ)
(E3)					情報工学Ⅰ(Ⅰ)	情報工学Ⅰ(Ⅱ)	情報工学Ⅱ(Ⅰ)	情報工学Ⅱ(Ⅱ)	情報工学Ⅲ(Ⅰ)	情報工学Ⅲ(Ⅱ)	情報工学Ⅳ(Ⅰ)	情報工学Ⅳ(Ⅱ)	情報工学Ⅴ(Ⅰ)	情報工学Ⅴ(Ⅱ)

(出典：シラバス)

## 資料 3-1-③-2

## 専攻科の一般科目担当教員の専門分野と担当授業科目

	職名	学位	年齢	専門分野	担当授業科目
1	教授	博士(文学)		哲学	哲学特論 I, II
2	准教授	修士(文学)		アメリカ文学	現代英語 I, II
3	准教授	博士(史学)		西洋中世史	歴史学特論 I, II
4	准教授	博士(理学)		数学	微分幾何学 I, II

欄は、専攻科認定申請以降、新たに講義及び特別研究を担当することになった教員を示す。

(出典：総務課資料)

## 資料 3-1-③-3

## 専攻科の共通専門科目担当教員の専門分野と担当授業科目

(年齢及び担当科目は H19.5.1 現在)

	職名	学位	年齢	専門分野	担当授業科目	実務経験 の状況	研究機関等 での実務(注)
1	教授	理学博士		環境化学	環境化学		
2	教授	博士(工学)		設計工学	技術者倫理		1年
3	教授			耐震工学	プロジェクト演習Ⅲ		13年(大学)
4	教授	理学博士		大気力学	数値計算 宇宙地球科学		16月(第44次日本 南極地域観測隊員)
5	教授			数学教育	離散数学		
6	教授	博士(工学)		情報工学	情報ネットワーク	企業経験 15年	11年(大学, 専門学校 講師)
7	教授	博士(工学)		光情報工学	プロジェクト演習Ⅳ		10月(在外研)
8	教授	博士(工学)		地盤工学	プロジェクト演習Ⅲ		16年(他高専)
9	准教授	文学修士		江戸文学	プロジェクト演習Ⅳ		
10	准教授	M.A. in TESOL		英語教育学	プロジェクト演習Ⅱ		
11	准教授	博士(工学)		熱工学	プロジェクト演習Ⅲ	企業経験 4年	
12	准教授	博士(工学)		コンクリート工学	プロジェクト演習Ⅳ		10月(内地研)
13	准教授	修士(文学)		アメリカ文学	プロジェクト演習Ⅱ		
14	准教授	博士(工学)		流体工学	プロジェクト演習Ⅲ		7月(在外研)
15	准教授	博士(理学)		宇宙物理学	宇宙地球科学		2年(大学)
16	准教授	博士(工学)		環境水理学	プロジェクト演習Ⅲ	企業経験 2年	1年(在外研)
17	准教授	博士(工学)		機械力学	プロジェクト演習Ⅲ		2年日本学術振興会 特別研究員
18	准教授	博士(工学)		環境衛生工学	環境保全工学		
19	講師	博士(工学)		材料力学	プロジェクト演習Ⅲ		

(注) 文部科学省在外研究員, 日本学術振興会特別研究員, 大学サテライト・ベンチャービジネスラボラトリ研究員  
欄は、専攻科認定申請以降、新たに講義及び特別研究を担当することになった教員を示す。

(出典：総務課資料)

## 資料 3 - 1 - ③ - 4

## 専攻科の専門科目当教員の専門分野と担当授業科目

(機械・環境システム工学専攻)

(年齢及び担当科目は H19. 5. 1 現在)

	職名	学位	年齢	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況	研究機関等での実務
1	教授	博士(工学)		設計工学	生産システム特論 特別研究	企業経験 30年 技術士 (機械部門)	1年
2	教授	博士(工学)		材料力学	材料強度学, プロジェクト 実験Ⅰ, 特別研究	企業経験 4年	
3	教授	博士(工学)		熱・流体工学	熱流体計測, 特別研究	企業経験 1年	
4	教授			耐震工学	振動制御工学 耐震工学特論		13年(大学)
5	教授	博士(工学) 修士(経済学)		都市・地域計画 景観デザイン	景観デザイン, 地域計画 学, 特別研究	公共団体経験 2年	7月(内地研)
6	教授	博士(工学)		地盤工学	プロジェクト実験Ⅱ 廃棄物処理工学 環境地盤工学, 特別研究		16年(他高専)
7	准教授	工学修士		潤滑工学	プロジェクト実験Ⅱ		
8	准教授	博士(工学)		熱工学	熱物質移動論, プロジェク ト実験Ⅱ, 特別研究	企業経験 4年	
9	准教授	博士(工学)		材料工学	塑性加工学, 量子材料学, プロジェクト実験Ⅱ, 特別 研究		
10	准教授	博士(工学)		流体工学	流体力学, プロジェクト実 験Ⅰ, 特別研究		
11	准教授	博士(工学)		機械力学	非線形解析学 特別研究		
12	准教授	博士(工学)		コンクリート工学	プロジェクト実験Ⅱ 環境材料学, コンクリート 構造学特論, 特別研究		10月(内地研)
13	准教授	博士(工学)		環境水理学	水環境工学, 特別研究	企業経験 2年	1年(在外研)
14	准教授	博士(工学)		環境衛生工学	プロジェクト実験Ⅰ 環境制御工学, 特別研究		
15	講師	博士 (情報学)		情報・制御工学	特別研究		
16	講師	博士(工学)		材料力学	弾性力学, プロジェクト実 験Ⅱ, 特別研究		

(電気電子情報工学専攻)

	職名	学位	年齢	専門分野	担当授業科目	実務経験の状況	研究機関等での実務
1	教授	博士(工学)		材料工学	電子材料工学, プロジェク ト演習Ⅲ, 特別研究		5年(大学)
2	教授	博士(工学)		電子工学	センサ工学, 特別研究		14年(大学, 高校教諭等)
3	教授	博士(工学)		情報工学	情報ネットワーク, オペレーティングシステ ム, 特別研究	企業経験 15年	11年(大学, 専門学校講師)
4	教授	博士(工学)		非線形回路網	システム数理工学, 特別研究		1年(内地研)
5	教授	博士(工学)		光情報工学	プロジェクト演習Ⅳ 光画像工学, 特別研究		10月(在外研)

6	准教授	博士(工学)		物質科学	インテリジェントマテリアル, 特別研究	企業経験 3年	2年(大学)
7	准教授	博士(工学)		イオンビーム工学, 放射線計測プラズマ 推進工学	プロジェクト実験Ⅰ 電磁気学特論Ⅰ, プラズマ 工学, 特別研究	企業経験 5年	13年(大学)
8	准教授	博士(理学)		情報工学, 応用物理 学	情報セキュリティー 特別研究	企業経験 16年	
9	准教授	工学修士		パワーエレクトロニ クス	パワーエレクトロニクス Ⅱ, プロジェクト実験Ⅲ, 特別研究	企業経験 6年	6月(内地研)
10	准教授	博士(工学)		情報工学, 音響工学	プロジェクト実験Ⅰ 信号処理論, 特別研究	企業経験 14年	
11	准教授	博士(工学)		ニューラルネットワ ーク, 脳数理工学	生体情報工学Ⅰ 特別研究		11月(内地研)
12	准教授	博士(工学)		ロボット工学	システム制御理論, 特別研究		2月(在外研中)
13	准教授	博士(人間・ 環境学)		情報科学	プロジェクト実験Ⅱ, 特別研究		4年(大学)
14	講 師	博士(工学)		ニューラルネットワ ーク	生体情報工学Ⅱ, 特別研究		11月(内地研)
15	助 教	博 士 (情報科学)		情報科学	アルゴリズム特論, プロジェクト実験Ⅱ, 特別研究		4年(大学)

欄は、専攻科認定申請以降、新たに講義及び特別研究を担当することになった教員を示す。

(出典：総務課資料)

資料 3-1-③-5

研究発表件数(最近の5年間 前年の10月~9月の合計)

	著書・学術論文	国際会議 レタ	国内発表	解 説 技術報告等	本校紀要
平成14年	28	15	30	11	15
平成15年	31	15	47	6	17
平成16年	18	9	33	2	13
平成17年	21	8	23	8	11
平成18年	25	5	36	2	8

(出典：自己点検・評価基礎資料)

## 資料 3-1-③-6

## 科学研究費採択状況（5年間）

年 度	研究種目		基 盤 研 究				萌芽 研究	若手研究				
	応募 ・採択状況		(A)	(B)	(C)			(A)	(B)	(S)	スタート アップ	
	採択金額 (千円)	応募件数	一 般	一 般	一 般	企画 調査		(A)	(B)	(S)	スタート アップ	
採択件数		H15					13,100					32(5) 8(5)
H16	8,000	38(4) 6(4)		3	22(2) 3(2)	1	4 0	1 0		7(2) 3(2)		
H17	12,600	38(3) 10(3)		1	24(1) 7(1)	1 0	3 0			9(2) 3(2)		
H18	10,300	25(7) 9(7)			16(6) 6(6)		2 0			6(1) 3(1)	1 0	
H19	10,670	33(4) 7(4)			18(1) 3(1)		3 0			9(3) 4(3)	1 -	2 -

- ※ 継続分は、（ ）内に内数として示す。  
 ※ 本校で応募後、交付決定前に他の研究機関等に転出した研究者の応募件数・採択金額・採択件数は除く。  
 ※ 分担金は除く。  
 ※ 平成19年度若手研究（S）・（スタートアップ）は交付内定前。

(出典：総務課資料)

## 資料 3-1-③-7

## 外部資金獲得状況（5年間）

単位：円

	寄附金		共同研究		受託研究		受託事業		合 計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
平成14年度	25	21,560,000	7	3,900,000	2	2,544,000	0	0	34	28,004,000
平成15年度	26	21,044,000	5	3,452,250	1	600,000	0	0	32	25,096,250
平成16年度	18	18,616,925	2	2,500,000	3	2,460,000	0	0	23	23,576,925
平成17年度	12	6,481,000	3	2,500,003	1	1,029,600	1	1,495,420	17	11,506,023
平成18年度	18	12,919,265	1	1,000,000	0	0	0	0	19	13,919,265

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科科目を担当する教員は、平成14年の専攻科認定申請時に大学評価・学位授与機構の資格審査で専門分野と授業科目の適合審査に合格している。それ以降専攻科の講義及び特別研究の担当となった全教員が博士の学位を持ち、専攻科の教育目的を達成するにふさわしい資質を持っており、専攻科の授業科目担当教員は適切に配置されている。

観点3-1-④：学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経歴への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

工業高等専門学校の特徴である実践的技術者を育成するため、企業経験者や、大学など教育機関での勤務経験を持つ教員を積極的に採用してきた。特に学習・教育目標（A2）を達成するための柱となる技術者倫理を担当する教員として長い企業経験と、技術士の資格を有する人材を確保するため、日本技術士会と連携し優秀な人材を全国に公募し、機械工学科教授として採用した（資料3-1-②-3）。また、採用については年齢構成が適切になるようほとんどの教員公募要項で年齢制限を設けている（資料3-1-④-1）。この結果、本校教員の年齢構成及び他機関における経験、学位取得状況は、比較的均衡のとれた構成となっている（資料3-1-④-2）。20歳代の教員が少ないのは、博士の学位を持ち、企業や大学などの教育機関経験者を採用しているためである。教育活動活性化のため、在外研究員、内地研究員等への派遣を積極的に進め、各種研修会への参加を推進し（資料3-1-④-3）、教育・研究の質を高めるため、希望する教員は大学院博士課程等の入学を認め、学位取得の支援を行っている（資料3-1-④-4）。また、学内で高専の現状と展望を討議し、教育に関する問題点を認識し、教育力を高める重要な場としてFD講演会を実施している（資料3-1-④-5）。

## 資料3-1-④-1

## ●大分工業高等専門学校 教員公募●

- |   |  |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 職名・人員 機械工学科 講師 1名</li> <li>2. 専門分野 材料力学</li> <li>3. 担当科目 材料力学、弾性力学、機械製図、工学実験等</li> <li>4. 応募資格 次の(1)～(3)のいずれにも該当する方             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 博士の学位を有する方（着任時までに取得見込みの方を含む）</li> <li>(2) 高専の教育と学生指導に理解と熱意のある方</li> <li>(3) 教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有する方</li> </ol> </li> <li>5. 年齢 採用時に32歳以下の方</li> <li>6. 採用予定日 2007年4月1日</li> <li>7. 提出書類 (1) 履歴書（写真貼付）、(2) 学士課程での成績証明書、(3) 研究業績一覧、(4) 主要研究論文の別刷（コピー可）、(5) 高専着任後の抱負（教育・研究に対する抱負、提案等をA4用紙に1000字程度で記述する）、(6) 推薦書、又は応募者について意見を伺える者の氏名・連絡先</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 応募期限 応募があり次第、随時選考を行います。公募が終了した場合ホームページでお知らせします。</li> <li>9. 選考方法 1次選考：書類審査 2次選考：プレゼンテーション面接</li> <li>10. 書類提出先 大分工業高等専門学校庶務課人事係<br/>〒870-0152 大分市大字牧1666番地 電話(097)552-6079<br/>応募書類には「機械工学科応募書類在中」と朱書の事</li> <li>11. 問合せ先</li> </ol> |
|---|--|

（出典：日本機械学会誌 2006年12月号 教員公募要項の一例）

## 資料3-1-④-2

## 教員の構成（校長含む）

20代	30代	40代	50代	60代
4名	15名	19名	21名	5名

## 他機関における経験

企 業	公 立 団 体	大学等教育機関
18名	5名	31名

## 学位取得状況（校長含む）

学 士	修 士	博 士
9名	10名	42名

(出典：総務課資料)

## 資料3-1-④-3

## 学外研修会等参加状況（平成8年度以降）

- 文部科学省内地研究員（平成8年～15年度）  
5名（九州工業大学，名古屋大学，九州大学，富山大学）
- 大分工業高等専門学校内地研究員（平成16年度～）  
1名（鹿児島大学）
- 文部省情報処理関係内地研究員  
2名（九州工業大学，九州大学）
- 文部科学省在外研究員（平成7年～15年度）  
7名（ロンドン大学，ウェールズ大学，ランカスター大学，オークランド大学，ミネソタ大学，ミシガン州立大学，コロラド州立大学）
- 独立行政法人国立高等専門学校機構在外研究員（平成17年度～）  
1名（キャンベラ大学）
- 海外先進教育研究実践支援プログラム（文部科学省事業，平成16年度～）  
1名（ノースウェスタン大学）
- 高等技術教育フォーラム（国立高等専門学校協会主催）  
4名（日本学術会議，東京都立航空高専）
- 高等専門学校情報処理教育研究発表会  
（高等専門学校協会連合会・高等専門学校情報処理教育研究委員会主催）  
（平成12年度までは高等専門学校情報処理教育研究委員会研究発表会）  
11名（全国工業高等専門学校）
- 高等専門学校教員研究集会  
31名（全国工業高等専門学校）



- 高等専門学校教育教員研究集会（独立行政法人国立高等専門学校主催）  
（平成 13 年度～平成 15 年度国立高等専門学校協会主催）  
6 名（全国工業高等専門学校）
- 高等専門学校・技術科学大学教員交流研究集会  
5 名（長岡技術科学大学，豊橋技術科学大学）
- 高等専門学校新任教員研修会（独立行政法人国立高等専門学校主催）  
（平成 8 年度～平成 15 年度 文部科学省主催高等専門学校教官研究協議会）  
2 2 名（国立オリンピック記念青少年総合センター）
- 九州沖縄地区国立工業高等専門学校教育研究集会（開催校主催）  
（平成 15 年度まで国立高等専門学校協会主催）  
2 8 名（全国工業高等専門学校）
- 高専ドイツ語教師セミナー及び高専ドイツ語教育研究会  
（日本独文学会ドイツ語教育部会・東京ドイツ文化センター共催）  
2 名（東京ドイツ文化センター）
- 第 2 回高専・技大技術者教育等連携協議会（国立高等専門学校協会主催）  
1 名（東京医科歯科大学）
- 独立行政法人国立高等専門学校機構高等専門学校教員研修（クラス経営・生活指導研修会）  
4 名（（独）教員研修センター）
- 高等専門学校情報処理教育実践研修会（豊橋技術科学大学主催）  
1 名（豊橋技術科学大学）

(出典：総務課資料)

## 資料 3 - 1 - ④ - 4

## 本校在職中における博士課程等社会人入学状況（教員）

平成 18 年 9 月 13 日現在

在学期間	大 学 名 等	資 格	備 考
H13. 10～16. 9	九州大学大学院工学府博士後期課程機械科学専攻		
H 7. 4～10. 9	大分大学大学院工学研究科博士課程環境工学専攻	10.9 博士(工学)	
H 8. 4～11. 3	大分大学大学院工学研究科博士後期課程物質生産工学専攻	11.3 博士(工学)	
H14. 4～17. 3	埼玉工業大学大学院工学研究科物質科学工学専攻博士後期課程	17.3 博士(工学)	
H 7. 4～10. 3	大分大学大学院工学研究科博士課程環境工学専攻	10.3 博士(工学)	
H12. 4～14. 3	大分大学大学院経済学研究科修士課程地域経営政策専攻	14.3 修士(経済学)	
H10. 4～12. 3	別府大学大学院文学研究科修士課程日本語・日本文学専攻	12.3 修士(文学)	
H13. 4～16. 3	別府大学大学院文学研究科博士後期課程日本語・日本文学専攻単位取得満期退学		

(出典：総務課資料)

## 資料3-1-④-5

## FD講演会開催一覧

実施年月日	実施時間	実施形態	テーマ等	講師等	出席者数(人)
H15. 5. 12	16:30 ～17:30	報告	「JABEE 準備状況報告」	大分高専 高橋 徹	56
H15. 5. 22	16:30 ～17:30	報告	教育研究集会報告 「英語が使える日本人」育成のためのフォーラム報告	大分高専 穴井 孝義	53
H15. 6. 19	17:30 ～19:00	講演	「学内における JABEE の状況と検討課題」	大分高専 高橋 徹	43
H15. 7. 9	16:30 ～18:00	報告	国語科の新課程への移行について（1学年の科目「国語表現」を中心に）	大分高専 相本 正吾	56
H15. 9. 18	17:30 ～18:30	報告	海外留学報告 「ミシガン州立大電気コンピュータ工学科の教育と研究について」	大分高専 岡 茂八郎	50
H15. 11. 27	17:30 ～19:00	報告	教育研究集会報告 「高専における国語コミュニケーションスキル教育の評価と改善」	大分高専 相本 正吾	53
			教育研究集会報告 「高専教育の向上に向けて」	大分高専 武口 博文	
H16. 1. 19	16:30 ～18:00	報告	「JABEE 関係について」	大分高専 加治 俊夫 高橋 徹	54
H16. 3. 17	13:30 ～15:00	報告	「新学期に向けての教務関係説明及び JABEE 関係について」	大分高専 大石 隼人 高橋 徹	51
H16. 7. 7	16:20 ～18:30	報告	「認証評価について」	大分高専 沖 憲典	55
H16. 11. 8	16:15 ～17:30	報告	教育研究集会報告 「高専における進路指導のあり方について」	大分高専 佐野 博昭	39
H16. 11. 30	16:15 ～18:00	講演	「技術者教育認定制度について-一人ひとりがなすべき事-」	日本工学教育協会 椿原 治	56
H16. 12. 3	16:15 ～17:30	報告	在外研究報告	大分高専 菊川 裕規	28
H16. 12. 10	16:15 ～18:00	報告	平成16年度各科各学年の目標の達成状況及び今後の課題	各科主任 各学年主任	53
H17. 7. 20	16:15 ～17:30	講演	「指導が難しい学生の理解と支援」	大分高専 カウンセラー 古賀 精治	44
H17. 12. 14	14:30 ～16:00	報告	帰朝報告（アメリカ・ドイツ）	大分高専 松本 佳久	46
H17. 12. 16	14:30 ～16:35	報告	PBL教育について	教員研究集会参加教員（薬師寺・本田・嶋田・高見）	50
			帰朝報告（シンガポール）	大分高専 佐藤 秀則	

H18. 1. 30	16:15 ~18:15	報告	高専教員研修（クラス経営・生活指導研修会）	高専教員研修参加者 （靄・高見）	43
			碩信高校の入試説明会に出席して	大分高専 一宮 一夫	
H18. 3. 3	16:20 ~17:50	講演	高専と第三者評価	茨城高専教務主事 柴田 尚志	39
H18. 9. 15	14:00 ~16:10	講演	高等専門学校機関別認証評価について	大学評価・学位授与 機構評価研究部 野澤 庸則 教授	69
H18. 9. 20	15:00 ~17:15	報告	PBL 研修会の報告 （於熊本電波高専, TEMASEK）	PBL 研修会参加者 （菊川, 佐藤, 嶋田, 高見）	50
H19. 1. 11	16:10 ~18:00	講演	技術士制度と修習	日本技術士会修習技 術者支援実行委員会 坂本恵一 委員長 （日本大学生産工学 部助教授）	84 （専攻科学 生及び専 攻科希望 学生39人 を含む。）
H19. 2. 6	13:00 ~15:00	講演	教育現場における著作権等の配慮について	金沢大学教育学部 加藤隆弘 助教授	38

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

研究歴や実務経験を考慮し、教員人事委員会で適切性を議論した人事採用が行われた結果、各学科ともバランスのとれた年齢構成になっている。教育・研究活動に活発に取り組んできた実績が、海外渡航状況及び各種研究員派遣状況、研修会参加状況に反映されている。学内でも継続的なFD活動を行うことにより、教員組織の活動をより活性化している。

観点3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

専任教員の任用等(採用,昇任)は,規定(資料3-2-①-1)に基づき行っており,公募の原則に従い,広く優秀な人材を募り,教員選考委員会で公正に選考している(資料3-2-①-2)。採用・昇格の推薦基準は,各学科独自で定めていたが,19年4月に推薦基準を統一した(資料3-2-①-3)。教育上の能力判定基準の一つとして,学生や教員とコミュニケーションできるという観点を設けており,採用時の面接やプレゼンテーションでこのことを判定する(資料3-1-④-1,資料3-2-①-4)。非常勤講師の任用は,非常勤講師雇用基準(資料3-2-①-5)に沿って行っており,非常勤講師の教授上の能力が常勤の講師相当以上であることを要求している。

### 資料3-2-①-1

## 大分工業高等専門学校教員選考規程

制 定 平成17年2月10日  
最終改正 平成19年3月14日

### 第1章 総則

(趣旨)

第1条 大分工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教員の選考は,独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則(以下「就業規則」という。)及び高等専門学校設置基準(昭和36年8月30日文部省令第23号)によるもののほか,この規程に定めるところによる。

(定義)

第2条 この規程において「教員」とは,就業規則第3条第2号に掲げる者をいう。

2 この規程において「選考」とは,教員を採用,昇任又は配置換するために行われる選考をいう。

3 この規程において「学科等」とは,各学科,一般科目文科系及び理科系並びに基礎専門をいう。

(公募の原則)

第3条 前条第2項による選考は,原則として公募とする。ただし,昇任及び配置換の場合は,公募によらないことができる。

### 第2章 教員選考の手続き

(選考の申し出)

第4条 各学科主任,一般科目文科系及び理科系の各主任並びに基礎専門代表(以下「学科主任等」という。)は,教員に選考の必要が生じたときは,速やかに校長に申し出るものとする。

なお,定年による退職の場合は,当該退職年度の6月末日までに申し出るものとする。

(選考)

第5条 教員の選考は,校長が行う。

(選考の方法)

第6条 校長は,第4条の申し出があった場合は,教員の選考方法について,大分工業高等専門学校教員人事委員会(以下「教員人事委員会」という。)に審議を付託し,選考方法を決定するものとする。

2 教員人事委員会は,公募にかかる次の各号の業務を行う。

- 一 公募要領を作成すること。
- 二 校内及び関係機関に公募を通知すること。
- 三 応募者の選考書類を校長へ提出すること。

(選考委員会の設置)

第7条 校長は,選考を行う場合は,大分工業高等専門学校教員選考委員会(以下「選考委員会」という。)を設置し,審議を付託するものとする。

2 校長は,第4条の申し出,第6条第1項の教員の選考方法及び前項の選考委員会の設置を学校運営委員会に報告するものとする。

(選考委員会の構成)

第8条 選考委員会の構成は,次のとおりとする。

- 一 校長
- 二 教務主事
- 三 選考を申し出た学科主任等
- 四 選考を申し出た学科等の教授1名又は選考を行おうとする専門分野の教授1名
- 五 選考を申し出た学科等以外の学科等の教授1名

2 准教授,講師,助教を選考する場合は,前項第4号及び第5号に定める教授を教授又は准教授と読み替え

るものとする。

3 選考委員会は、選考を申し出た当該学科等毎に設置するものとする。

(選考委員会の委員長)

第9条 選考委員会に委員長を置き、第8条第3号の委員をもって充てる。

(選考委員会の任務)

第10条 選考委員会は、次の事項を処理する。

一 応募者の書類選考を行い、候補適任者を決定すること。

二 候補適任者の資格が、第12条から第15条に掲げる資格のいずれかを満たしているかを審査すること。

三 候補適任者の面接を行うこと。

四 選考及び資格審査に係る経緯を校長に報告すること。

(候補者の決定)

第11条 校長は、前条第4号により候補者1名を決定し、学校運営委員会に報告するものとする。

### 第3章 教員の資格

(教授の資格)

第12条 本校の教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

一 博士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有する者

二 学位規則(昭和28年文部省令第9号)第5条の2に規定する専門職学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者

三 大学(短期大学を含む。以下同じ。)又は高等専門学校において教授、准教授又は専任の講師の経歴(外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。)のある者

四 学校、研究所、試験所、調査所等に在職し、教育もしくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し、技術に関する業務についての実績を有する者

五 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

六 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(准教授の資格)

第13条 本校の准教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

一 前条各号のいずれかに該当する者

二 大学又は高等専門学校において助教又はこれに準ずる職員としての経歴(外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。)のある者

三 修士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有する者

四 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

五 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(講師の資格)

第14条 本校の講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 第12条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者

二 高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。)において教諭の経歴のある者で、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者

三 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

(助教の資格)

第14条の2 助教となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

一 第12条各号又は第13条各号のいずれかに該当する者

二 修士の学位(医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を修了した者については、学士の学位)又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位(外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。)を有する者

三 特定の分野について、知識及び経験を有すると認められる者

(助手の資格)

第15条 本校の助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

一 学士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)又は準学士の称号(外国におけるこれに相当する称号を含む。)を有する者

二 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

### 第4章 雑則

(その他)

第16条 この規程に定めるもののほか、教員の選考に関し必要な事項は、校長が別に定める。

#### 附 則

この規程は、平成17年2月10日から施行する。

#### 附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料3-2-①-2

## 教員選考委員会開催状況（平成16年度～平成18年度）

開催期日	選考事項	発令年月日	選考内容	公募の有無等
H17. 2. 2	昇任(教授) (助教授)	H17. 4. 1		
H17. 2.14	昇任(教授)	H17. 4. 1		
H17. 8. 5	採用	H17.10. 1		
H17. 9.10	採用	H18. 4. 1		
H17. 9. 7	採用	H18. 4. 1		
H17.11.29	採用	H18. 4. 1		
H17.12.27	採用	H18. 4. 1		
H18. 6.30	採用	H18. 8. 1		
H18. 9.13	採用	H19. 4. 1		
H18. 9.27	採用	H19. 4. 1		
H18. 9.27	採用	H19. 4. 1		
H18.10. 4	採用	H19. 4. 1		
H18.10.13	採用	H19. 4. 1		
H18.11.13	採用	H19. 4. 1		
H18.12. 6	採用	H19. 4. 1		
H18.12.15	昇任	H19. 4. 1		
H18.12.27	昇任	H19. 4. 1		
H18.12.27	昇任	H19. 4. 1		
H19. 1.10	採用	H19. 4. 1		

(出典：総務課資料)

## 大分工業高等専門学校教員推薦基準

制 定 平成19年4月16日

(教授の推薦基準)

**第1条** 本校の教授となることのできる者は、大分工業高等専門学校教員選考規程（以下、「選考規程」という。）第12条の教授の資格を有する者のうち、次の各号のすべてに該当する者（採用にあつては、第三号を除く。）とする。

- 一 専門学科においては、博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
- 二 学術誌等への掲載論文数が各学科（一般科目にあつては文系及び理系）において定める数以上である者
- 三 主事補及び担任を経験し、これらの能力が充分であると認められる者
- 四 担任、課外活動及び専門学科にあつては卒業研究などにおける学生指導を通して、学生とのコミュニケーション能力が高いと認められる者
- 五 校務等の業績、教職員間のコミュニケーション能力及び人格等が教授に相応しいと認められる者

(准教授の推薦基準)

**第2条** 本校の准教授となることのできる者は、教員選考規程第13条の准教授の資格を有する者のうち、次の各号のすべてに該当する者（採用にあつては、第三号を除く。）とする。

- 一 専門学科においては、博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
- 二 学術誌等への掲載論文数が各学科（一般科目にあつては文系及び理系）において定める数以上である者
- 三 主事補又は担任を経験し、これらの能力が充分であると認められる者
- 四 担任、課外活動及び専門学科においては卒業研究などにおける学生指導を通して、学生とのコミュニケーション能力が高いと認められる者

(講師の推薦基準)

**第3条** 本校の講師となることのできる者は、教員選考規程第14条の講師の資格を有する者のうち、次の各号のすべてに該当する者とする。

- 一 学術誌等への掲載論文数が各学科（一般科目にあつては文系及び理系）において定める数以上である者
- 二 学生とのコミュニケーション能力が高いと認められる者

(助教の推薦基準)

**第4条** 本校の助教となることのできる者は、教員選考規程第14条の2の助教の資格を有する者のうち、次の各号のすべてに該当する者とする。

- 一 学術誌等への掲載論文数が各学科（一般科目にあつては文系及び理系）において定める数以上である者
- 二 学生とのコミュニケーション能力があると認められる者

(助手の推薦基準)

**第5条** 本校の助手となることのできる者は、教員選考規程第15条の助手の資格を有する者のうち、次の各号のすべてに該当する者とする。

- 一 学術誌等への掲載論文数が各学科において定める数以上である者
- 二 学生とのコミュニケーション能力があると認められる者

(出典：総務課資料)

資料3-2-①-4

秘

平成 年 月 日

## 個別面接評定票

面接官氏名

氏名

評定項目	着 眼 点	評 定
教 育		5・4・3・2・1
研 究		5・4・3・2・1
学生とのコミュニケーション能力		5・4・3・2・1
協 調 性		5・4・3・2・1
そ の 他		5・4・3・2・1
合 計 点		
意 見 ・ 記 録		
総 合 判 定 ( 昇 任 の 可 否 )		可 ・ 否

判定基準 5 = 優れている 4 = やや優れている 3 = 普通 2 = やや劣っている 1 = 劣っている  
 ※ 評定の項目毎に、1、2、3、4、5の該当する箇所の数字を○で囲んでください

(出典：総務課資料)



## 資料3-2-①-5

## 大分工業高等専門学校非常勤講師雇用基準（抜粋）

制 定 平成17年 2月10日  
改 正 平成19年 3月14日

（趣旨）

**第1条** この基準は、大分工業高等専門学校における非常勤講師の資格及び雇用手続き等に関し必要な事項を定めるものとする。

（資格）

**第2条** 非常勤講師となる資格を有する者は、次の各号に該当する者で、教授上の能力のある者とする。

- 一 大分工業高等専門学校教員選考規程第14条に定める講師の資格を有する者
- 二 雇用しようとする年度の末日の年齢が、満65歳以下の者

（特例措置）

**第3条** 校長は、特に必要があると認める場合には、前条第2号の規定にかかわらず、満66歳以上の者であっても満68歳に達する年度までは雇用することができるものとする。

（委嘱計画等）

**第4条** 非常勤講師を雇用しようとするときは、各学科、基礎専門科目及び一般科目の各主任（以下「各学科主任等」という。）は、「非常勤講師委嘱計画表」（別紙様式1）を作成し、学生課教育支援係へ提出するものとする。

（教務部委員会）

**第5条** 教務主事は、大分工業高等専門学校教務部委員会を招集し、非常勤講師の雇用にかかる「非常勤講師委嘱計画表」（別紙様式1）について審議する。

（雇用予定者）

**第6条** 各学科主任等は、大分工業高等専門学校教務部委員会において承認された非常勤講師委嘱計画に基づき、雇用予定者を定め「非常勤講師予定表」（別紙様式2）を作成し、学生課教育支援係へ提出するものとする。

（事務）

**第7条** 非常勤講師の雇用手続き等に関する事務は、総務課人事係及び学生課教育支援係において処理する。

附 則

この基準は、平成17年 2月10日から施行する。

附 則

この基準は、平成19年 4月 1日から施行する。

（出典：大分工業高等専門学校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

教員の新規採用と昇任等における規程・推薦基準等が適切に定められ、複数の選考委員による選考委員会で公正かつ適切に審査が行われている。選考では特に教育上の能力について判断する工夫が行われている。

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

(観点に係る状況)

教育活動に関する評価の取り組みはFD委員会が所轄している(資料3-2-②-1)。教育活動に関する評価は、学生による評価、教員の自己点検評価及び教員相互の評価がある。学生による評価は、平成13年度から授業アンケート(資料3-2-②-2)の形で年度末に行われ、その結果は学生及び教職員に公表されている(資料3-2-②-3)。教員は、担当科目ごとに授業点検シートAを作成し授業の自己点検を行っている(資料3-2-②-4)。また、学生アンケート結果を踏まえ、年度初めに前年度の自己評価点検・校務業績ポイント表(資料3-2-②-5)を作成し、FD委員会に提出する(資料3-2-②-6)。FD委員会はそのチェックを行い、試験問題等のエビデンスや授業点検シートを基に、授業点検シートB(資料3-2-②-7)を作成し、改善事項がある場合には教員に改善要求を行う。また、授業アンケート結果に問題がある場合には、担当教員に改善を要求している(資料3-2-②-8)。平成19年度からは自己評価点検・校務業績ポイント表の一部が教員の教育研究費配分資料としても活用されている。教員相互の評価として、年に2回一週間の授業公開週間を設け(資料3-2-②-9, 10)、授業公開参観報告書を通じてお互いの授業評価をしている(資料3-2-②-11)。FD委員は必要に応じ公開授業期間以外でも授業参観を行い、授業改善のアドバイス等を行っている(資料3-2-②-12)。また、年2回保護者に授業を公開している。教員の教育等に関する貢献の評価は、教育功労者選考委員会が規定に従って定期的に行っている(資料3-2-②-13, 14)。

資料3-2-②-1

### FD委員会

FD委員会は、教育の質の向上を図るために、中心となって活動する委員会です。FD委員会の所轄事項を以下に示します。

#### FD委員会の所轄事項

平成17年3月 FD委員会にて改訂

本委員会は教員の教育の質の向上を図るために以下のことを行う。

1. FD研究会の開催(年に数回)。
2. 学生の授業アンケート、教員による授業点検シート、試験答案などのエビデンス、教育システム改善検討委員会のエビデンス部会による授業点検シートなどに基づき、適切な評価指導を行う。指導の成果も確認する。
3. 教育功労者選考委員会に教員を推薦する。
4. 教員の校務・業績ポイント表および教員自己評価点検表の作成依頼とその評価。
5. FD関連講演会の実施。
6. 他機関の実施するFD関連研究会等への教員の派遣。
7. 教育論文の奨励。
8. 授業公開による授業研究の主催。
9. その他委員長が必要と認める事項。

(出典：Webページ)

資料3-2-②-2

2007年3月1日

**平成18年度 授業アンケートのお願い**

このアンケートは、授業の内容や方法を改善するための資料として役立てることを目的としています。次のアンケート項目について、別紙1の該当するものに○を付けてください。また、別紙2については、感想等を授業評価（コメント）欄に記入してください。

## ▼ アンケート項目

「自己評価」

- ① 授業中はまじめに取り組みましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ② 定期試験ごとに理解の度合いをシラバスに記入し、理解度の自己点検を行いましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ③ シラバスの定める到達目標を達成することができましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ④ 自宅学習やオフィスアワーの活用により、理解度の向上に努めましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ⑤ 課題やレポートはすべて提出しましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ⑥ あなたの授業に対する取り組みを総合的に評価してください。  
1. 良い 2. 普通 3. 悪い

「授業評価」

- ① 授業の冒頭でシラバスの説明を受けましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ② 学習教育目標におけるこの科目の位置づけは明確でしたか？  
1. はい 2. いいえ
- ③ シラバスの内容に沿った授業が行われましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ④ 授業はわかりやすかったですか？  
1. はい 2. 普通 3. いいえ
- ⑤ 黒板や視聴覚教材等の使い方はよかったですか？  
1. はい 2. 普通 3. いいえ
- ⑥ 質問に対する担当教員の対応には満足ですか？  
1. はい 2. 普通 3. いいえ
- ⑦ 試験の内容は授業内容と一致していましたか？  
1. はい 2. 普通 3. いいえ

「総合評価」

この授業を総合的に評価してください。

5. 非常に良い 4. よい 3. 普通 2. 不満 1. 非常に不満

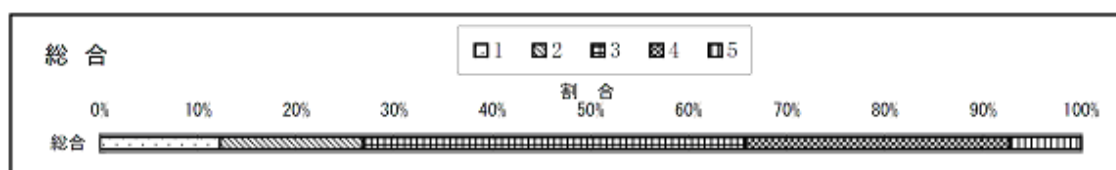
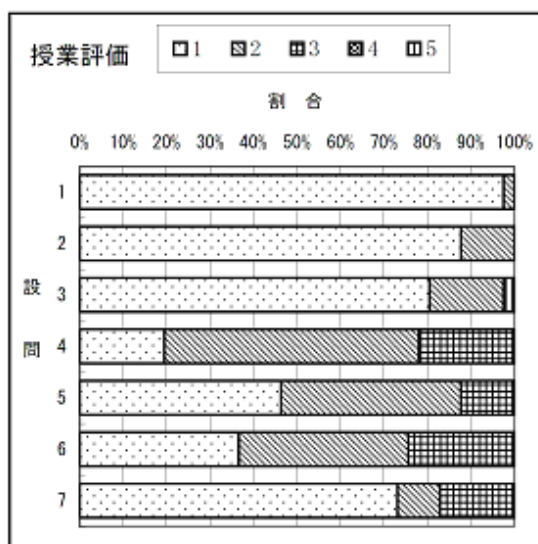
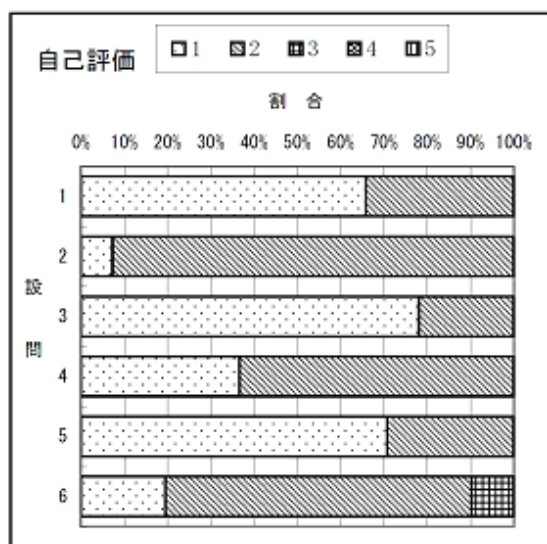
(出典：学生課資料)

資料3-2-②-3

「授業アンケート結果の一例」

(科目名)	(必修・選択)	(学年)	(クラス)	(単位)	(回答数)

設問	評 価						平均	
	1	2	3	4	5	無回答		
自己評価	1	27 (65.9%)	14 (34.1%)				0 (0.0%)	1.34
	2	3 (7.3%)	38 (92.7%)				0 (0.0%)	1.93
	3	32 (78.0%)	9 (22.0%)				0 (0.0%)	1.22
	4	15 (36.6%)	26 (63.4%)				0 (0.0%)	1.63
	5	29 (70.7%)	12 (29.3%)				0 (0.0%)	1.29
	6	8 (19.5%)	29 (70.7%)	4 (9.8%)			0 (0.0%)	1.90
授業評価	1	40 (97.6%)	1 (2.4%)				0 (0.0%)	1.02
	2	36 (87.8%)	5 (12.2%)				0 (0.0%)	1.12
	3	33 (80.5%)	7 (17.1%)				1 (2.4%)	1.18
	4	8 (19.5%)	24 (58.5%)	9 (22.0%)			0 (0.0%)	2.02
	5	19 (46.3%)	17 (41.5%)	5 (12.2%)			0 (0.0%)	1.66
	6	15 (36.6%)	16 (39.0%)	10 (24.4%)			0 (0.0%)	1.88
	7	30 (73.2%)	4 (9.8%)	7 (17.1%)			0 (0.0%)	1.44
総合	5 (12.2%)	6 (14.6%)	16 (39.0%)	11 (26.8%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	3.02	



(出典：学生課資料)

資料3-2-②-4

## 授業点検シートA（授業担当教員用）

授業科目名		講義・演習・実験
対象学科・専攻名 対象学年		通年・前期・後期
担当者名		
記入日		

以下の質問にお答えください。

1. 本授業科目の到達目標を十分説明しましたか？	はい・いいえ
2. 授業の冒頭でシラバスの内容を説明しましたか？	はい・いいえ
3. 授業はシラバスの内容どおりにできましたか？	はい・いいえ
4. 学生の理解を確認しながら授業をすすめましたか？	はい・いいえ
5. 成績評価はシラバスどおりに行いましたか？	はい・いいえ
6. 成績評価の根拠となる資料は残していますか？	はい・いいえ
7. 答案を返却し達成度を周知させていますか？	はい・いいえ
8. 学生の興味や理解度を高めるために特別な工夫があれば記入してください。	
9. 学生からのアンケート結果等をどのように授業に反映させましたか？	
10. 来年度に向けた授業改善計画を記入してください。	

(出典：学生課資料)

資料3-2-②-5

## 自己評価点検・校務業績ポイント表（平成18年度）（抜粋）

所属・職名 [ ]  
氏 名 [ ]

## ☆ 基本方針 ☆

大分高専では従来より、研究以上に学生に対する教育に重点が置かれてきましたが、近年の高専に対する要請は、研究面での一層の充実や地域社会への更なる貢献を求めるなど、より多様化・高度化しております。一方、高専でも設置基準が改正され、教育・研究に対する自己評価が義務化され、外部評価も義務化の方向にあります。高等教育機関としての存在がガラス張りで問われることになったわけです。本校が真の高等教育機関として機能するためには、学生の教育ならびにそれを支える研究活動が社会的に認められるものでなくてはなりません。そのため、本校に所属する教員は厳しい外部評価にも耐え得るように「良い学生を育て」、「地域に貢献し」、「そのために日々の研鑽を積む」、これら三つの観点に留意して職務に励むことが必要であります。われわれはこれらの目的に対応する次の3項目の自己評価を行っておくことが必要であると考えております。すなわち、「学内での活動に対する評価」、「地域等への貢献に対する評価」、「論文等に対する評価」がそれであり、1年間努力した内容を項目ごとに自己評価し、年ごとに向上するよう努力することが重要だと考えております。具体的にポイント表では、学内の活動を、授業、学生指導、学校運営に分けてポイント計算し、これを元に作成した5項目のレーダーチャート上で2ポイントを示す太枠より内側に来る項目には特に次年度の努力を期待するものです。

## I 学内での活動に対する自己評価

## I-A1 授業

今年度に行ったすべての授業（実験実習、卒業研究も含む）について、「学生にどの程度実力をつけることができたか」を判断基準として学生からの授業アンケートも考慮に入れて下さい。概要欄には授業で工夫した点や努力した点等を具体的に示し、また問題点があればそれも記入して下さい。なお欠課時数は90分を2、遅刻・早退は3回で2時間と換算して下さい。

前期, 後期, 通年					
科目名	学科学年クラス	必修・選択	単位数	受講者数	
講義回数	学年末平均点	A取得者数	D取得者数	学生の総欠課時数	授業アンケートの平均点
概要					

科目名	学 科	単 位 数	指 導 学 生 数
卒業研究			名
概要			

科目名	専 攻	単 位 数	指 導 学 生 数
専攻科特別研究			1年 名 2年 名
概要			

## 平成19年度 卒業研究、特別研究の指導学生数

(平成19年度の教育・研究・旅費の算定に利用されます。)

19年度卒業研究指導学生数	19年度専攻科特別研究指導学生数	
名	1 年	2 年

I-A2 教育の質の改善への研究活動の寄与

研究活動（専門分野の研究や教育方法の研究）により得られた知見や成果などを教育内容・方法の改善に活かした具体的事例があれば記入して下さい。

--

I-A3 その他の教育活動

今年度に行った正規の授業以外の教育活動（コミュニケーションアワー，各種資格試験のための補習，公務員試験のための補習，就職試験指導他）について，概要欄に何の補習を行ったか，それに費した時間数，得られた成果ならびに問題点等を記入して下さい。

概 要	
-----	--

学生による  
授業評価点

A. 授業ポイント

$$P = \{ \Sigma (\text{科目の総合評価点}) \times (\text{科目の単位数}) \} / 12 \quad P = \text{[ ]}$$

ただし，実験の単位数は、助手・助教以外の教員については 1/3 とする。

専攻科の授業も対象とする。

卒業研究、専攻科特別研究は各 4 単位とする。

- ・ F D 講演者 0.2 点 / 回 [ ]
  - ・ その他の教育活動 最大 0.3 点 [ ]
- A 小 計 [ ]

I-B1 学生指導

専攻主任および担任，副担任の業務について「学生にどの程度充足感を与えることができたか」を判断基準として，特筆すべき内容を中心に指導全般の概要を述べて下さい。得られた成果ならびに問題点等できるだけ具体的にご記入下さい。

受持クラス		専攻主任， 担任，副担任	
概 要			

I-B2 クラブ活動指導

関係したすべてのクラブ活動について各クラブごとに「学生にどの程度充足感を与えることができたか」を判断基準として，特筆すべき内容を中心に指導全般の概要を述べて下さい。その際，土・日・祝日に指導・引率したおよその日数，平日に指導した日数，得られた成果ならびに問題点等できるだけ具体的にご記入下さい。

クラブ名		土・日・祝日 の指導日数		平日の 総指導日数
概 要				

## I-B3 学生相談・厚生補導

今年度に行った学生相談・厚生補導について、概要欄に何をどの位行ったか、その効果はどうであったか、また問題点があればそれも記入して下さい。

概 要	
-----	--

## I-B4 表彰・受賞・入賞等

「教員自らが受けた表彰や受賞」ならびに「指導した学生の表彰や受賞・入賞等」について、自らの貢献度も考慮の上、その内容をすべて記して下さい。学生を指導した場合はその指導内容も書いて下さい。学協会等の表彰もこれに含めます。例として次のようなものがあります。

- (あ) 学協会や国・県・地域等からの表彰
- (い) 高専各大会レベルで1位、2位、ベスト4
- (う) 新聞等への記事の掲載、TVでの放映
- (え) その他

受賞名	
受賞者名	
受賞内容 ならびに 指導内容	

## B. 学生指導ポイント

- ・専攻主任，副主任 ( \_\_\_\_\_ 工学専攻) 1 (+1) 点
  - ・クラス担任，副担任 ( \_\_\_\_\_ 工学科 \_\_\_\_\_ 年) 1 (+1) 点   
(加点分は，クラス担任としての職務を遂行しているか：SHR，就職の世話等)  
(副担任，副主任は加点なし)
  - ・学生相談室長 1.0 点
  - ・学生相談室員 0.5 点
  - ・留学生担当教員 0.5 点
  - ・クラブ等
    - ・顧問で活動日の1/3以上を出席した者  
( \_\_\_\_\_ 部) 2 点
    - ・上記以外の顧問 ( \_\_\_\_\_ 部) 0.5 点
  - ・休日指導 (含引率手伝い) 0.2 点 ×  回
  - ・表彰・受賞・入賞等 0.5 点
- B 小 計**

(出典：FD委員会資料)



資料3-2-②-6

業績等評価、校務業績ポイント表及び自己点検評価表提出状況

年度	教員の教育業績等評価	自己評価点検表	校務・業績ポイント表
15	98 %	88 %	86 %
16	97 %	94 %	94 %
17	92 %	72 %	78 %
18	92 %	98.4 %	

(出典：FD委員会資料)

資料3-2-②-7

「授業点検シートB」

エビデンスWG：点検年月日 2007/03/22  
FD委員会：点検年月日

授業点検シートB (エビデンスWG & FD委員用) 2007/04/06 修正

授業科目名		講義・演習・実験
対象学科・専攻名 対象学年		通年・前期・後期
担当者名		

【エビデンスWG】

資料チェック (あるもの○, ないもの×, 問題のあるもの△, 該当しないもの斜線)

シラバス	○ (備考)	総合成績評価表	○ (備考)
授業点検シートA	× 96	授業アンケート	
試験問題	○	模範解答	○
答案, レポート	○	課題, 小テスト	○
教科書, 講義ノート	○	配布資料	/

シラバス (シラバスを見てチェックする)

1. 達成目標と学習・教育目標との対応が明確であるか。 \_\_\_\_\_ ○
2. 達成目標は社会の要求を反映しているか。 \_\_\_\_\_ ○
3. 他の科目との関連が明確であるか。 \_\_\_\_\_ ○
4. 評価方法は適切であるか。 \_\_\_\_\_ ○

試験問題・答案 (試験問題・答案, シラバスの達成目標, 総合成績評価表を見てチェックする)

1. 試験問題や課題のレベルは適切であるか。 \_\_\_\_\_ ○
2. 達成目標の達成度を評価できるか。 \_\_\_\_\_ ○
3. プログラムの水準に達した者のみを合格させているか。 \_\_\_\_\_ ○

【FD委員】

授業方法 (授業公開参観報告, 授業点検シートAをみてチェックする)

1. 授業の方法, 準備状況は適切か。 \_\_\_\_\_ ○
2. 授業はシラバス通りに行われているか。 \_\_\_\_\_ ○
3. 答案を返却して達成度を学生に周知させているか。 \_\_\_\_\_ ○

改善要求事項

学生による授業評価が前年度2.83と低くなつてしまつたので、学生のコメント内容を参考に改善すべき所があればお願いします。

【担当教員の回答】

理論式の展開の理解がわかりづらいという指摘に対し、自学自習を促す配慮を行つたが、学生側としては明確な回答が得られなかったという不満があった。そのため、授業内容は例年と変わらないため、学生の理解できなから点をも明確に解説するよう努めたい。

(出典：学生課資料)

資料3-2-②-8

## 平成18年度第4回FD委員会議事概要

日 時 平成19年2月23日(金) 15:00～16:30

場 所 小会議室

出席者 別紙のとおり

## 議 事

## 議題1 自己評価点検表及び校務・業績ポイント表等のチェックについて

各委員から、自分の所属する学科・系・専攻科の平成17年度自己評価点検表及び校務・業績ポイント表等をチェックした結果について次のとおり報告があった。

- (1) .....
- (2) .....
- (3) .....
- (4) .....
- (5) .....
- (6) .....
- (7) .....

今回の口頭報告だけでなく、授業アンケート、自己評価点検表及び校務・業績ポイント表の3つについて文書で記録し、平成17年度分の総括として今後の学校運営や本委員会の検討資料として保存することになり、3月9日(金)までに各科等がまとめの報告書を庶務課専門職員(企画・情報担当)に提出することになった。なお、平成18年度分を記載する際には、一般理系として平成18年度国立高等専門学校学習到達度試験の結果についても評価の一部として記載することになった。

今後のFD関係のスケジュールについて次の事項を確認した。

- (1) 3月に平成18年度授業評価
- (2) 教育功労者表彰、予算配分の資料となっているため、4月に自己評価点検表及び校務・業績ポイント表作成を各教員に依頼する必要がある。

本校には、多数の評価があり、煩雑、かつ、非効率であることから審議した結果、評価時期が一致せず評価対象期間も5年間となっている国立高等専門学校機構教員顕彰における教育業績等評価を利用することは無理なため、本校の評価項目を削る方向で薬師寺委員が次回の本委員会までに原案を作成することになった。

次回は、3月22日(木) 10時30分からとした。

(出典：FD委員会資料)

資料3-2-②-9

## 「授業公開の通達文書」

教 員 各位

教務主事 吉澤 宣之

## 平成19年度前期授業公開週間について

標記のことについて、例年通り下記の要領で実施いたしますので、当日の授業公開がスムーズにできますよう担任の先生方を始め教職員のご協力をお願いいたします。

記

実施日時： 5月7（月）～11（金） 1～4限目

## 注意事項

1. 2年及び3年生の教室など授業参観できるスペースがあまりないようですが、クラス担任の先生方は机の配置を工夫されるなどして、授業公開に備えると同時に授業中、参観教員の出入りがし易いように、期間中は教室の後ろの戸を開放しておくよう学生に伝えてください。
2. 参観される先生は、出来るだけ授業実施に支障をきたさないようにご協力願います。
3. 前回同様、授業参観された先生は、当該授業担当教員および教務係へ別紙の授業公開参観報告書をメールで報告ください（所見欄のみの記入でも結構です）。
4. FD委員については、授業参観は随時ですが、この機会に行われても結構です。

※ 報告書の書式を別紙として添付しますが、サイボーズのファイル管理→JABEE 関係書類→授業公開参観報告書に原本があります。

以上、全学的なFD活動の一環としてよろしく願いいたします。

(出典：学生課資料)

資料3-2-②-10

## 公開授業実施状況

年度	実施期間	参加人数
16	16. 5. 10（月）～14（金）	6
	16. 11. 15（月）～19（金）	13
17	17. 5. 9（月）～13（金）	3
	17. 11. 16（水）～22（火）	12
18	18. 5. 8（月）～12（金）	24
	18. 11. 13（月）～17（金）	15

(出典：学生課資料)

資料3-2-②-11

## 授業公開参観報告書

報告者氏名： \_\_\_\_\_

実施日時： 年 月 日 曜日 限～ 限

教科名： \_\_\_\_\_

担当者氏名： \_\_\_\_\_

アンケート項目
① 授業の目的は明確で、全体の構成がよく考えられていましたか。 [全体]
② 授業の準備がよくされてきましたか。 [準備]
③ 聞きやすい話し方でしたか。 [話し方]
④ 板書は読みやすく、スピードは適当でしたか。 [板書]
⑤ 授業の開始時間、終了時間は守られていましたか。 [時間]
⑥ 学生の理解を確認しながら進められていましたか。 [理解度の確認]
⑦ 課題の指示がありましたか。 [自宅学習]
所見

(出典：学生課資料)

平成18年度第3回FD委員会議事概要

日時 平成19年1月29日(月) 16:20~17:30  
場所 小会議室  
出席者 別紙のとおり

議事

議題1 評価方法について

授業アンケート、自己評価点検表、校務・業績ポイント表及び授業点検シートのチェック作業進捗状況について確認したところ、全体的に作業が遅れていることから、作業を急ぐとともに次のとおり定めた。

- (1) 平成18年度分授業アンケートは、3月末までにチェック作業を終了すること。
- (2) 点検表等を提出していない者の一覧の資料については、誤記入の疑いがあることから庶務課で再確認して訂正されたものを委員に送付すること。
- (3) 平成17年度自己評価点検表及び同校務・業績ポイント表は、各科の分をFD委員である科主任が次回の会議までにチェックを終了し、指摘事項の洗い出しを行うこと。保管場所は、委員が閲覧できるように庶務課とすること。

公開授業の評価方法について意見交換により次のように分析した。

- (1) 公開授業の評価システムの構築については、必要性はあるがシステムとしての確立が困難である。
- (2) 被評価者だけでなく、評価者のスキルアップも期待でき、かつ、評価者の存在が学生への好影響に繋がっている。
- (3) FD委員会委員として授業を抜き打ちで参観してみると被評価者に問題はないが、学生の授業態度が悪い場合が見受けられることから被評価者と学生に注意が必要である。

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

次の開催は、2月21日(水)午後3時からとした。

(出典：FD委員会資料)

## 資料 3 - 2 - ② - 13

## 大分工業高等専門学校教育功労者表彰規程

制 定 平成 17 年 3 月 14 日  
改 正 平成 19 年 3 月 14 日

(趣旨)

**第 1 条** この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則（平成 16 年 4 月 1 日独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 6 号）第 4 3 条第 3 号の規定に基づき大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育、学校運営及び社会貢献に関して、特に顕著な功績を挙げた者（以下「教育功労者」という。）の表彰に関し、必要な事項を定めるものである。

(表彰候補者)

**第 2 条** 教育功労者の表彰候補者は、次に掲げる各号の一に該当する者（本校教職員以外の者も含む。）から選考するものとする。

- 一 講義、演習、実験・実習及びクラス運営等において新たな方法を創案し、その実践を行い、特に教育効果を高めた者
- 二 クラス担任等の業務及び学生の課外活動への監督・指導を通して学生への教育に特に功績のあった者
- 三 教育に関する研究を通して特に功績があった者
- 四 社会貢献に関し、特に本校の名誉を高めた者
- 五 各種委員会等を通して本校の学校運営に特に功績があった者

(教育功労者選考委員会の設置)

**第 3 条** 校長は、前条に掲げる表彰候補者を選考するに当たり、大分工業高等専門学校教育功労者選考委員会（以下「委員会」という。）を設置するものとする。

2 委員会は、原則として毎年度 6 月末日までに開催し、前年度の教育功労者に係る被表彰者を決定するものとする。

(委員会の構成)

**第 4 条** 委員会の構成は次のとおりとし、校長を委員長とする。

- 一 校長
- 二 教務主事
- 三 学生主事
- 四 寮務主事
- 五 専攻科長
- 六 事務部長
- 七 その他校長が必要と認めた者

2 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する者がその職務を代行する。

(候補適任者の推薦)

**第 5 条** 前条第 1 号から第 6 号に掲げる者、各科主任（各学科主任、一般科目文科系主任及び理科系（基礎専門を含む。）代表をいう。）及び FD 委員会委員長は、第 2 条に該当する者がいる場合、別紙様式により候補適任者を委員長あて推薦するものとする。

(表彰候補者の決定)

**第 6 条** 校長は、前条により推薦のあった候補適任者から表彰候補者を選考するため、委員会に選考を付託するものとする。

2 委員会は、前項により選考した表彰候補者を校長に報告するものとする。

3 校長は、前項の報告を受けて被表彰者を決定し、学校運営委員会に報告するものとする。

(表彰の方法)

**第 7 条** 表彰は、校長が表彰状を授与して行う。なお、記念品を授与することができる。

(事務)

**第 8 条** この規程に関する事務は、総務課人事係において処理する。

(雑則)

**第 9 条** この規程に定めるもののほか、必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規程は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

## 資料3-2-②-14

## 大分工業高等専門学校教育功労者表彰規程に基づく教育功労者選定状況

年度	教育功労者氏名	適 応 項 目
16	佐藤達郎 穴井孝義	第2条2号 第2条3号
17	佐藤秀則 高橋徹 鷹尾良行 宮成隆明	第2条1号 第2条5号 第2条2号 第2条5号

## 国立高等専門学校教員顕彰授賞状況

年度	教員顕彰授賞者氏名	
18	高橋 徹	独立行政法人国立高等専門学校機構理事長奨励賞

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

FD 委員会所轄事項として教員の教育活動に関する定期的な評価が定められており、授業アンケート、授業点検シート、自己評価点検・校務業績ポイント表、教員相互や保護者による授業参観等が行われている。これらの定期的な評価は多面的な評価となっており、評価に対する対処の要請や教員表彰など適切な取り組みがなされている。

**観点3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するために必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。**

(観点に係る状況)

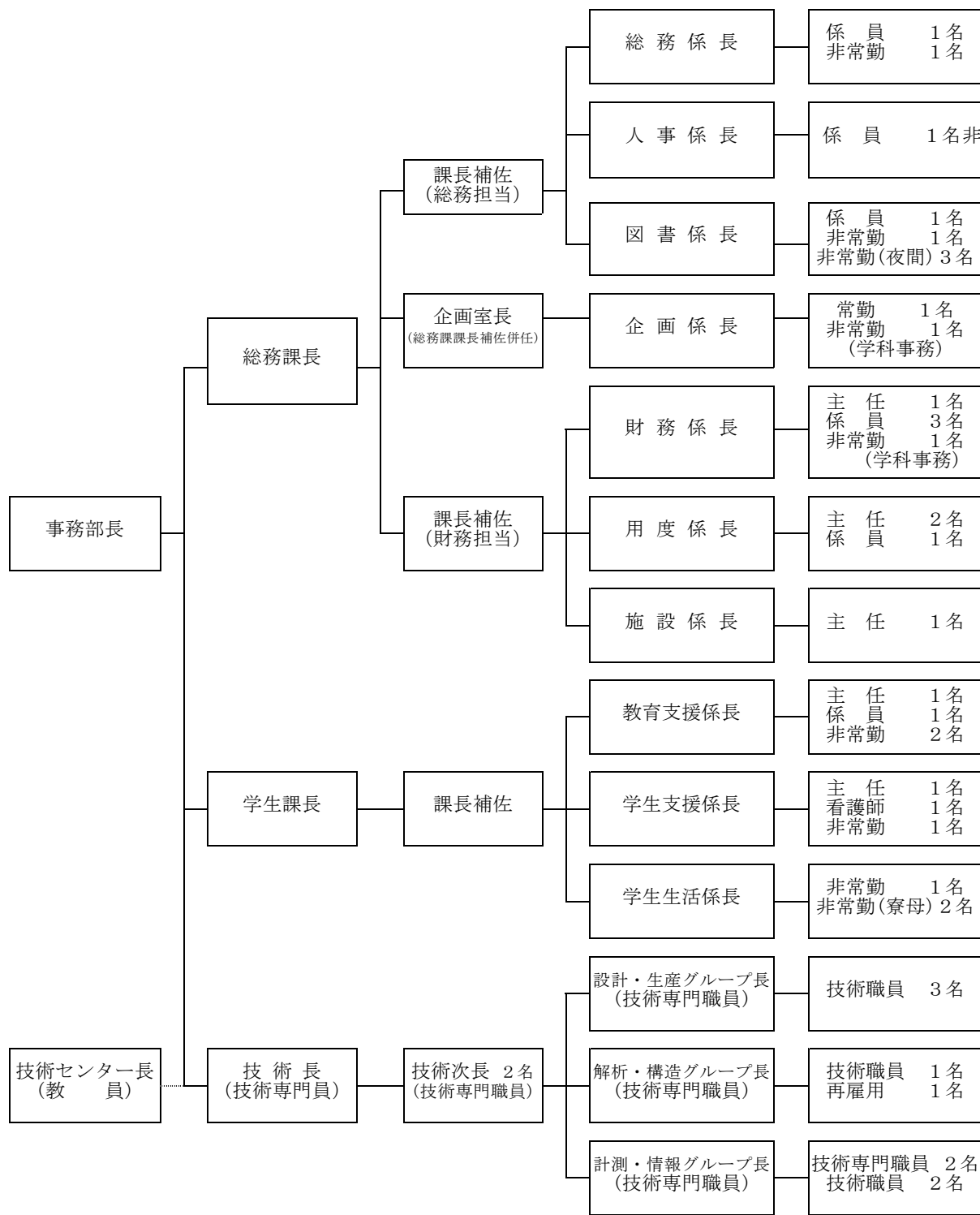
事務部は、総務課及び学生課で構成されている。学生課は、教育課程の展開に直接関係しており、課長と課長補佐のほか、教育支援係に5名、学生支援係に4名、学生生活係に4名の事務職員を配置し(非常勤職員6名を含む)、規定(資料3-3-①-1, 2)に則り職務を行っている。教育支援係の非常勤係員1名は、試験の答案やレポート、会議の議事録等、教育に関わる様々な資料を整理保管する業務を行うために配置されている。さらに、技術センターには設計・生産グループ(4名)、解析・構造グループ(3名)、計測・情報グループ(5名)からなる15名の技術専門職員及び技術職員を配置し、技術長及び技術次長(2名)が統括している。工学実験、卒業研究、特別研究等における教員の補助や、ロボットコンテストなどの学生の自主的なものづくりの技術指導を行うとともに、実験及び実習設備の維持管理等を行っている(資料3-3-①-3)。また、化学や物理学実験の補助も技術職員が行う体制をとっている。一方総務課には専門4学科を担当する学科事務職員として2名を配置し、教育研究に必要な物品の購入や予算管理、教材の印刷や課題の受取業務などきめ細かな業務を行っている。学生の勉学に重要な役割を果たすため、図書係を配置し、6名の事務職員(非常勤職員4名を含む)が図書館において学生の支援を行っており、この中には司書の資格を有する職員が2名いる。



資料3-3-①-1

事務機構図

平成19年4月1日現在



(出典：総務課資料)

資料3-3-①-2

## 「大分工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程」(抜粋)

制 定 平成16年4月1日  
改 正 平成19年3月14日

## 第1章 総則

第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則(平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第4号)第9条及び大分工業高等専門学校学則第11条の規定に基づき、大分工業高等専門学校(以下「本校」という。)の事務組織及び事務分掌を定めることを目的とする。

## 第2章 事務組織

第2条 本校に事務部を置く。

第3条 事務部に総務課及び学生課を置く。

(省略)

第9条 事務部に技術専門員を置くことができる。

2 技術専門員は、技術職員をもって充て、極めて高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する企画及び連絡調整を行う。

3 技術専門員に関する選考基準は、別に定める。

第10条 事務部に技術専門職員及び技術職員を置く。

2 技術専門職員は、技術職員をもって充て、高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき技術に関する業務を処理する。

3 技術専門職員に関する選考基準は別に定める。

## 第3章 所掌事務

(省略)

第12条 学生課においては、次の事務をつかさどる。

- 一 教務に関すること。
- 二 学生の厚生補導に関すること。
- 三 寄宿舎に関すること。

(省略)

## 第4章 事務分掌

第13条

(省略)

6 図書係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 図書・雑誌等の購入企画に関すること。
- 二 図書の発注及び検収に関すること。
- 三 図書の受入れ・整理及び保管に関すること。
- 四 図書の閲覧、貸出に関すること。
- 五 購入・寄贈その他による図書の受入れに関すること。
- 六 図書目録の作成に関すること。
- 七 図書予算の経理に関すること。
- 八 図書の契約に関すること。
- 九 文献、資料の収集に関すること。
- 十 文献の複写と相互利用に関すること。
- 十一 図書の広報及び紀要に関すること。
- 十二 その他図書に関すること。

(省略)

第14条 学生課に、その事務を処理させるため、課長補佐及び次の3係を置く。

- 一 教育支援係
- 二 学生支援係
- 三 学生生活係

2 課長補佐は、次の事務をつかさどる。

- 一 学生課の所掌事務の総括及び連絡調整に関すること。
- 二 教育課程の編成及び実施に係る専門的事項に関すること。

- 三 入学者選抜方法に係る専門的事項に関する事  
 四 学生の修学指導に係る専門的事項に関する事  
 五 学生の学籍に係る専門的事項に関する事  
 六 外国人留学生の受入れに係る企画及び立案に関する事  
 七 その他学務関係事務のうち重要な企画、調査並びに連絡調整に関する事
- 3 教育支援係においては、次の事務をつかさどる。  
 一 学生課の事務に関し、総括及び連絡調整すること。  
 二 学生課の公印の管守に関する事  
 三 学生の募集及び入学者の選抜に関する事  
 四 教育課程の編成及び授業に関する事  
 五 試験及び成績に関する事  
 六 学生の入学、転科、進級及び卒業に関する事  
 七 学生の休学、復学、留学、転学及び退学に関する事  
 八 学業成績及び学生指導要録の管理に関する事  
 九 学生の欠席及び欠課等に関する事  
 十 大学への編入学に関する事  
 十一 外国人留学生の受入れに関する事  
 十二 聴講生、研究生及び科目等履修生に関する事  
 十三 視聴覚教室及びLL教室等教室の管理に関する事  
 十四 本校への編入学に関する事  
 十五 一般教科の事務に関する事  
 十六 教科書及び教材、教具に関する事  
 十七 学生の工場見学及び校外実習に関する事  
 十八 学業成績及び卒業等の証明に関する事  
 十九 所掌事務の調査報告に関する事  
 二十 その他、他の係の所掌に属さないこと
- 4 学生支援係においては、次の事務をつかさどる。  
 一 学生の福利厚生に関する事  
 二 学生の保健管理に関する事  
 三 学生の課外活動に関する事  
 四 学生のオリエンテーションに関する事  
 五 校内の体育大会等の諸行事に関する事  
 六 学生の連合行事に関する事  
 七 学生の団体、集会、掲示及び出版物に関する事  
 八 学生の賞罰に関する事  
 九 福利施設及び合宿研修所に関する事  
 十 日本学生支援機構及びその他育英奨学に関する事  
 十一 入学料及び授業料等の免除及び徴収猶予に関する事  
 十二 学生の旅客運賃割引証に関する事  
 十三 学生の就職及びアルバイトに関する事  
 十四 日本スポーツ振興センターに関する事  
 十五 学生の諸証明（教育支援係及び生活支援係に関するものを除く。）に関する事  
 十六 所掌事務の調査報告に関する事  
 十七 その他学生の厚生補導に関する事
- 5 学生生活係においては、次の事務をつかさどる。  
 一 学寮の管理・運営に関する事  
 二 学生の入寮及び退寮に関する事  
 三 教員の学寮宿日直に関する事  
 四 寮生の生活指導に関する事  
 五 寮生の保健管理に関する事  
 六 寮生の福利厚生に関する事  
 七 学寮の諸経費の経理に関する事  
 八 寮生の給食に関する事  
 九 所掌事務の調査報告に関する事  
 十 その他寮務に関する事

第15条 第9条に定める技術専門員及び第10条に定める技術専門職員及び技術職員においては、技術センターの業務をつかさどる。

2 技術センターの業務については別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料3-3-①-3

## 大分工業高等専門学校技術センター規程

制	定	平成16年4月1日
改	正	平成19年3月14日

(設置)

**第1条** 大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教育研究に関する技術的業務を行うため技術センター（以下「センター」という。）を置く。

(業務)

**第2条** センターにおいては、次の各号に掲げる業務を遂行する。

- 一 学生の実験、実習及び卒業研究の技術的指導に関する事。
- 二 教員の教育研究活動の支援に関する事。
- 三 外部からの技術相談に関する事。
- 四 学生の課外活動の技術的指導に関する事。
- 五 センターに係る機器の保守・管理に関する事。
- 六 新技術の開発に関する事。
- 七 その他センターに関する事。

(組織等)

**第3条** 省略

**第4条** 省略

**第5条** 省略

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程を展開するに必要な学生課の事務職員を適切に配置している。さらに総務課員の2名を学科事務職員として配置し、教員の教育活動支援を優先的に行っている。また、技術職員は専門科目だけでなく一般科目の実験補助をも行う体制がとられており、効果的に機能している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

教員の活性化のため、在外研究員・内地研究員等への派遣を積極的に行っている。また、博士課程社会人入学制度を利用し教員の学位取得を積極的に促進している。教員の採用並びに昇格は透明性の高い状態で行われている。

(改善を要する点)

なし。

## (3) 基準3の自己評価の概要

教育の目的を達成するため、一般科目及び専門科目の教員は高等専門学校設置基準に基づいて適切に配置されている。専攻科は学位規則に基づき大学評価・学位授与機構の認定を受けており、授業科目担当教員は適切に配置され、より高度で実践的な技術者教育を行っている。教員の採用は原則公募制であり、大分工業高等専門学校教員選考規程に従い、年齢、専門分野、実務経験、教育能力等を考慮した選考が行われている。教員の教育活動に関する定期的な評価はFD委員会が所轄し、授業アンケート、授業点検シート、自己評価点検・校務業績ポイント表の提出、教員相互や保護者による授業参観等が行われている。また、その結果を受け、評価に対する適切な取り組みがなされている。編成された教育課程を展開するために必要な事務職員も適切に配置されており、加えて4学科に対し2名の学科事務職員を配置し、教員の教育活動支援を行っている。技術センターに所属する技術専門職員及び技術職員は15名体制で実験、実習、研究活動等の支援を行っている。



## 基準4 学生の受入

### (1) 観点ごとの分析

観点4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点到係る状況）

本校は教育目的に沿い、準学士課程、4年次編入及び専攻科志願者に対し、入学者受入方針を設定している。準学士課程入学者受入方針は、中学生に分かりやすい表現で募集要項に記載し（資料4-1-①-1）、県内の中学校、大分県教育委員会、大分市教育委員会、高専機構本部及び文部科学省専門教育課に配付している。高専の趣旨と特徴をPRするために、毎年県下約60校の中学校訪問、県下5箇所の入試説明会、7月に行うオープンキャンパス等で広報活動を展開し、上記資料を配布している。準学士課程編入学の入学者受入方針は、準学士課程のそれに専門基礎力の項目を加え、これを募集要項に記載し（資料4-1-①-2）、工業高校、大分県教育委員会、大分市教育委員会、高専機構本部に配付している。専攻科課程入学者受入方針は、募集要項に記載し（資料4-1-①-3）、全国の高等専門学校に配布している。また、本校ホームページの入試情報でも各々の募集要項が示され、本校教職員へはWebサイトでその周知を行っている（資料4-1-①-4）。Webサイトは外部からもアクセス可能で、募集要項等の配布と合わせ、中学生も含め社会に公表している。

## 資料 4 - 1 - ① - 1

## アドミッション・ポリシー

(入学者受入方針)

本校が求める生徒像は、次のとおりです。

- ①本校の学習・教育目標を達成する意欲のある生徒
- ②総合的に学力の高い生徒
- ③実験や「ものづくり」に興味のある生徒
- ④数学基礎力のある生徒

## 教育理念

人間性に溢れ国際感覚を備え、探究心、創造性、表現能力を有する技術者の育成

## 学習・教育目標

- (A) 愛の精神：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける
  - (A1) 自ら考える力を身につける
  - (A2) 技術者としての倫理を身につける
- (B) 科学や工学の基礎：科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける
  - (B1) 数学、自然科学の力を身につける
  - (B2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける
- (C) コミュニケーション能力：地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける
  - (C1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける
  - (C2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける
- (D) 技術者としてのセンス：創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける
  - (D1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける
  - (D2) 協力して問題を解決する力を身につける
- (E) 専門工学の活用：専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける
  - (E1) 専門工学の知識を獲得する
  - (E2) 工学の相互関連性を理解する
  - (E3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける

(出典：平成 19 年度入学生募集要項抜粋)



資料 4-1-①-2

平成 20 年度

## 編入 学 生 募 集 要 項

編入学案内  
出願書類添付

願 書 受 付 期 間	平成 19 年 7 月 30 日 (月) ~ 8 月 3 日 (金)
検 査 日	平成 19 年 8 月 24 日 (金)
合 格 発 表 日	平成 19 年 8 月 29 日 (水)

国 立  
大分工業高等専門学校

O i t a N a t i o n a l C o l l e g e o f T e c h n o l o g y

〒870-0152 大分市大字牧 1666 番地  
電 話 (097) 552-6359 (学生課教育支援係)  
F A X (097) 552-6440 (学生課)  
ホームページ <http://www.oita-ct.ac.jp>  
E-mail [kshien@oita-ct.ac.jp](mailto:kshien@oita-ct.ac.jp)

## 編入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

本校が求める生徒像は、次のとおりです。

- ①本校の学習・教育目標を達成する意欲のある生徒
- ②総合的に学力の高い生徒
- ③実験や「ものづくり」に興味のある生徒
- ④数学基礎力のある生徒
- ⑤専門基礎力のある生徒

(出典：平成 20 年度編入学生募集要項抜粋)

資料 4-1-①-3

## アドミッションポリシー

(入学者受入方針)

本専攻科が求める学生像は、次のとおりです。

- ①本校の学習・教育目標を達成する意欲のある学生
- ②本校の学習・教育目標を達成するために必要な学習履歴があり、一般及び専門の基礎学力を有する学生  
(略)

(出典：平成 20 年度専攻科学生募集要項抜粋)

## 資料 4 - 1 - ① - 4

## アドミッションポリシーに関するアンケート

アンケート数	35
教員	10名
非常勤教員	1名
事務職員	21名
技術職員	4名

本校では教育目的に沿って、準学士課程入学生、準学士課程編入学生、専攻科入学生に対して、それぞれアドミッションポリシーを設定しています。皆さんへの周知度を調査するための質問です。次の問いに教えてください。

1. 所属と本校在籍年数をご記入ください

所属（ ） 大分高専在籍年数（ ）

2. アドミッションポリシーは何処に明示されているでしょうか。次の中から複数選んでください。

モニュメント  正当率 97%  正当率 94%  
 学生募集要項  本校ホームページ  学校要覧

3. 準学士課程入学生に対するアドミッションポリシーにあるのはどの項目でしょうか、次の 10 個の中から 4 つ選んでください。

- 本校の学習教育目標を達成する意欲のある生徒  正当率 100%
  - ・遊ぶことが好きな生徒
- 総合的に学力の高い生徒  正当率 86%
  - ・なんでも一人でやろうとする生徒
  - ・将来大分県で活躍したいと考えている生徒
- 実験や「ものづくり」に興味のある生徒  正当率 100%
  - ・大学進学を目指している生徒
- 数学基礎力のある生徒  正当率 86%
  - ・忍耐力のある生徒
  - ・スポーツが好きな生徒

4. 準学士課程編入学生に対するアドミッションポリシーは準学士課程入学生に対するアドミッションポリシーに一項目加えた形となっています。それは次のうちどれか選んでください。

- 専門基礎力がある生徒  正当率 77%
  - ・高専生となるにふさわしい生徒
  - ・工業高校で優秀な成績を修めた生徒
  - ・専攻科進学を希望する生徒

5. 専攻科入学生に対するアドミッションポリシーは入学者受け入れ方針として専攻科入学案内の中に掲げられています。知っていましたか？

知っていた。  知らなかった。  興味が無い。  正当率 66%

以上 ご協力有難うございました。

(出典：入試委員会資料 アドミッションポリシーに関するアンケートと集計結果)

(分析結果とその根拠理由)

本校では入学者受入方針を明確に定め、教職員及び社会に公表、周知している。

**観点 4-2-①：** 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

準学士課程 1 年次の入学検査は、推薦及び学力選抜がある。推薦選抜では中学校長の推薦者に対して面接、推薦書、調査書を併せて評価し合格者を決定する。推薦基準は募集要項に明記している（資料 4-2-①-1）が、学校説明会等で入学者受入方針に合致した生徒の推薦を依頼している。推薦選抜では調査書で総合学力を評価するとともに、面接では、学習意欲やものづくりへの興味、数学基礎力を問う口頭試問を行う等、入学者受入方針に沿う選抜を行っている（資料 4-2-①-2）。学力選抜は、学力試験と調査書の合計点を基本データとし合格者を決定している。選抜法は、入学者選抜方式（資料 4-2-①-3）に規定しており、入学者受入方針②の総合的基礎学力の高い学生の選抜に重点が置かれるが、特に数学の成績が低い場合は不合格とする等、入学者受入方針④を考慮している。合格判定後行う内定者面接では、学習意欲やものづくりに対する興味を問い（アドミッションポリシー①、③）、合格適任者の確認を行っている。合格者決定は学校運営委員会と教員会議で公正に行っている。

準学士課程 4 年次への編入学検査は、出願資格（資料 4-2-①-4）を満たし、高等学校長から推薦を受けた者に対し、数、英、専門の学力試験及び面接を行い、学校運営委員会と教員会議で合格者を決定している（資料 4-2-①-5）。編入学生は、システムデザイン工学プログラム履修対象者の選抜であり、そのために必要な基礎能力（専門知識を含む）の有無（アドミッションポリシー②、④、⑤）を判定している。このため、普通科高校からの編入学は認めておらず、本校各学科と同系統の工業及び農業高校の所属学科出身者で、入学時に必要とされる知識・能力を有する学生のみを受け入れている。面接試験では入学者受入方針①と③を評価している（資料 4-2-①-6）。

専攻科の入学検査は、推薦選抜、学力選抜、社会人特別選抜がある。これらの合否判定は、専攻科運営委員会で行う。入学者受入方針②は入学試験前の提出書類で事前に判断し、入学者受入方針①は、調査書及び学力試験で判断している。推薦選抜は、面接（専門科目等に関する口頭試問を含む）、調査書、推薦書を総合的に評価し判定している。学力選抜は、検査の成績、面接（専門科目に関する口頭試問を含む）、調査書を総合的に評価し判定している。社会人特別選抜は、面接（専門科目等に関する口頭試問を含む）、調査書、業績調書を総合的に評価し判定することになっている（資料 4-2-①-7）。各選抜試験においての選抜基準を明確に決めて（資料 4-2-①-8）、公正な選抜試験を行っている。ただし、社会人特別選抜についてはこれまでに志願者が出ていない。

#### 資料 4-2-①-1

#### IV 推薦による選抜

##### 1 推薦人員

各学科に推薦できる人数は、若干名とします。  
その他、さらに本校から推薦を依頼することがあります。

##### 2 出願資格

推薦による入学を志願できる者は、平成 19 年 3 月に中学校を卒業見込みもしくは中等教育学校の前期課程を修了見込みの者で、次の要件を満たし、在籍する学校長（以下、「出身学校長」という。）が責任をもって推薦できる者としてします。

- (1) 人物が優れていて健康であり、本校に入学する意志が強固で、合格が内定した場合は必ず入学する者
- (2) 中学校もしくは中等教育学校の前期課程における 3 年間の 9 教科学習成績 5 段階表芸の総計が 114 以上の者  
なお、3 年の成績は 2 学期までのものとします。

（出典：平成 19 年度学生募集要項抜粋）

## 資料 4 - 2 - ① - 2

## 面接実施方法（本科推薦入学）

## 1. 面接について

面接の平準化を図るため、受験生に対して、次の評価項目から総合的に判断する。

評価項目	着眼点
① 志望理由	
② ものづくりに対する興味、関心、知識、経験	
③ 課外活動等 (授業以外で取り組んだ事柄、クラス内の各種係、委員会、クラブ活動、生徒会、ボランティア、地域活動など)	
④ 全般的なこと	
⑤ 数学基礎力	

大分高専のアドミッションポリシー

- ① 本校の学習・教育目標を達成する意欲のある生徒
- ② 総合的に学力の高い生徒
- ③ 実験や「ものづくり」に興味のある生徒
- ④ 数学基礎力のある生徒

(出典：学生課資料 推薦入学（本科）選考要領申し合わせ抜粋)

資料 4 - 2 - ① - 3

現地閲覧資料を参照

(出典：学生課資料 入学者選抜方式)

資料 4 - 2 - ① - 4

平成 20 年度大分工業高等専門学校編入学生募集要項

1 編入学を実施する学科・募集人員及び編入学年

学 科	募集人員	編入学年
機 械 工 学 科	若 干 名	第 4 学 年
電 気 電 子 工 学 科		
制 御 情 報 工 学 科		
都 市 シ ス テ ム 工 学 科		

2 出 願 資 格

次の各号に掲げる者で、出身学校長が本校の教育に適するものと認めて推薦する者

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者で下記 3 志望学科の条件を満たす者
- (2) 平成20年3月31日までに前号に該当する見込みの者

3 志 望 学 科

志望学科は出身校における所属学科と同系であること。

同系とは、機 械 工 学 科……………機械科及び機械系の科

電 気 電 子 工 学 科……………電気科、情報電子科、電子科、その他の工業系で電気・電子・情報系の科

制 御 情 報 工 学 科……………情報電子科、電子科、電気科、その他の工業系で情報・電気系の科

都 市 シ ス テ ム 工 学 科……………土木科、農業土木科、造園土木科、建築科、建設科等

(出典：平成 20 年度編入学学生募集要項抜粋)

資料 4 - 2 - ① - 5

平成 1 7 年度第 4 回入学試験委員会議事概要 (抜粋)

日 時 : 平成 1 7 年 7 月 1 日 (金) 16 : 10 ~ 17 : 10  
 場 所 : 会議室  
 出 席 者 : 大石教務主事(委員長), 武口寮務主事, 佐野学生主事補(代)  
 加藤 M 科主任, 佐藤 E 科主任, 金田 S 科主任, 島田 C 科主任,  
 峯本文系主任, 瀧川理系主任, 小森専門員, 梅本教務係長  
 欠 席 者 : 園田事務部長, 河野学生課長

議 題

3. その他

① 編入学試験関係について、別添機構通知分に基づき説明があり、教務主事から試験問題の内容・範囲が現行の高等学校学習指導要領に準拠するよう注意があった。

.....  
 .....  
 .....

(出典：入試実施委員会資料)

資料 4 - 2 - ① - 6

面接実施方法（編入学試験）

1. 面接について

面接の平準化を図るため、受験生に対して、次の評価項目から総合的に判断する。

評価項目	着 眼 点	
志望に関する評価		
人物総合評価		

大分高専編入学生受入のアドミッションポリシー

- ① 本校の学習・教育目標を達成する意欲のある生徒
- ② 総合的に学力の高い生徒
- ③ 実験や「ものづくり」に興味のある生徒
- ④ 数学基礎力のある生徒
- ⑤ 専門基礎力のある生徒

（出典：学生課資料 編入学試験（本科）選考要領申し合わせ抜粋）

## 資料 4 - 2 - ① - 7

## 3. 選抜方法及び出願書類

## A. 学校長推薦による選抜

- (1) 出願資格  
出願できる者は、平成 20 年 3 月に高等専門学校を卒業見込みの者とする。
- (2) 選抜方法  
面接（専門科目等に関する口頭試問を含む）及び出願書類により総合判定する。
- (3) 出願に最低限必要な書類  
後述の「4.5 出願に必要な書類等」を参照のこと。（番号は同欄に対応している。）  
①入学願書 ②調査書 ③写真票 ④受験票 ⑤卒業見込証明書 ⑥成績証明書  
⑧推薦書 ⑩入学検定料 ⑫受験票返信用封筒 ⑬あて名票
- (4) 学校長推薦による選抜の結果、合格とならなかった場合の取り扱い  
学校長推薦による選抜の結果、合格とならなかった場合で、学力検査による選抜の受験を希望するときは、再度、出願の手続きを行うこと。なお、再出願する場合は、②調査書の提出は必要ない。

## B. 学力検査による選抜

- (1) 出願資格  
出願できる者は、次の各号の一に該当する者とする。  
(B-1) 高等専門学校を卒業した者、もしくは平成 20 年 3 月に高等専門学校を卒業見込みの者  
(B-2) 短期大学を卒業した者、もしくは平成 20 年 3 月に短期大学を卒業見込みの者  
(B-3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第 82 条の 10 の規定により大学に編入学することができる者、もしくは平成 20 年 3 月に専修学校を修了見込みの者  
(B-4) 外国において、学校教育における 14 年の課程を修了した者、もしくは平成 20 年 3 月に同課程を修了見込みの者  
(B-5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了した者、もしくは平成 20 年 3 月に同課程を修了見込みの者
- (2) 選抜方法  
学力試験、面接（専門科目等に関する口頭試問を含む）及び出願書類により総合判定する。
- (3) 出願に最低限必要な書類（後述の「4.5 出願に必要な書類等」を参照のこと。番号は同欄に対応している。）  
①入学願書 ②調査書 ③写真票 ④受験票 ⑤卒業証明書又は卒業見込証明書  
⑥成績証明書 ⑩入学検定料 ⑫受験票返信用封筒 ⑬あて名票

## C. 社会人特別選抜

- (1) 出願資格  
出願できる者は、次の各号の一に該当し、出願時において企業等に 1 年以上在籍した経験のある者とする。  
(C-1) 高等専門学校を卒業した者  
(C-2) 短期大学を卒業した者  
(C-3) 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第 82 条の 10 の規定により大学に編入学することができる者  
(C-4) 外国において、学校教育における 14 年の課程を修了した者  
(C-5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了した者
- (2) 選抜方法  
面接（専門科目等に関する口頭試問を含む）及び出願書類により総合判定する。
- (3) 出願に最低限必要な書類（後述の「4.5 出願に必要な書類等」を参照のこと。番号は同欄に対応している。）  
①入学願書 ②調査書 ③写真票 ④受験票 ⑤卒業証明書 ⑥成績証明書 ⑨業績調書  
⑩受験承諾書（入学後も企業等に在籍する者のみ） ⑪入学検定料  
⑫受験票返信用封筒 ⑬あて名票

(出典：平成 20 年度専攻科学生募集要項抜粋)



資料 4 - 2 - ① - 8

現地閲覧資料を参照

(出典：学生課資料 専攻科入学試験選抜基準)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程 1 年次への入学者選抜は、推薦選抜と学力選抜により行い、推薦選抜では口頭試問で入学者受入方針に沿う質問を行い、本校の求める学生の受入を目的に総合的に判定をしている。学力選抜も、入学者受入方針に沿う数学力と総合的学力の高い学生を合格させる努力を行っている。学力試験合格内定者に対し面接を行い、求める人材であるかを確認する体制を取っている。また、準学士課程 4 年次編入学検査及び専攻科入学検査も入学者受入方針に沿い適切な学生の受入方法を採用しており、入学者選抜が適切に実施されている。

観点 4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

入学者受入方針に沿わない学生が入学した場合、留年や進路変更で卒業に至らない場合が多いことから、準学士課程を5年間で卒業、専攻科課程を2年間で修了する学生数が、入学者受入方針に沿う学生受入の検証となる。準学士課程1年次の入学選抜、準学士課程4年次への編入学選抜は入試実施委員会で、専攻科入学選抜については専攻科運営委員会で改善方法を検討し、入学試験に対する改革を行っている（資料4-2-②-1）。また、推薦選抜で準学士課程に入学した学生と学力選抜された学生の成績の比較や、推薦選抜で不合格となった学生の学力選抜での成績等の解析で、推薦選抜方法の適切性を検討している（資料4-2-②-2）。推薦選抜導入当初は、推薦選抜で受け入れた学生の中から成績不良者が出る等の問題が発生したが、面接及び調査書を総合し審査員の主観で順位付けする選考方法を、調査書、面接及び数学の口頭試問に加え作文を全て点数化し総合判定の材料とする等、面接審査要領等の改革を行い、近年では推薦選抜で選抜された学生が成績上位を占める割合が増加している（資料4-2-②-3）。学力選抜では、1・2年次における数学達成度試験と入学試験の点数の比較や入学試験の成績と4年次の成績比較等を行っているが、入学試験の成績との相関は明確でなく、これに基づく入試改革は行っていない（資料4-2-②-4）。以前は、複雑な計算に基づく選抜方法で、学力試験の成績が低い学生ほど調査書点の割合が高くなっていたが、中学校の調査書が相対評価から絶対評価へと変わったことを受け、平成17年度入学試験より総合評価に占める調査書点の割合を引き下げ、一定の割合とした。入試改革とともに年間を通じた留年退学者の数は減少傾向にある（資料4-2-②-5）。準学士課程4年次への編入学生は人数が少なく、学習・教育目標の達成度については各専門学科で注目している。編入学試験の成績等については科内会議でも検討し、入学試験の出題範囲や問題の難易度等の改善を行っている（資料4-2-②-6）。

専攻科受験生は殆どが本校出身者で、5年担任や卒業研究指導教員が入学者受入方針に合致している学生であることを把握し、進路指導を行っている。入学後は専攻主任や特別研究指導教員が各々の学生の学習・教育目標の達成度を把握し（資料4-2-②-7）、入学者選抜方法の改善に役立てている。例えば、学習・教育目標達成基準の一つであるTOEICテストの達成では、専攻科1期生の達成状況が思わしくなかったことを受け、学力選抜試験時に目標を達成している学生に対し英語の試験を免除する等の改善を行った（資料4-2-①-8）。

資料 4 - 2 - ② - 1

## 入学者選抜試験に関する規則変更履歴

	入学 年度	変 更 内 容
準学士課程 推薦選抜試験	17	
	16	
	18	
	18	
	18	
	19	
準学士課程 学力選抜試験	17	
	17	
	17	
準学士課程 編入学生 選抜試験	18	
	18	
	18	
	18	
専攻科入学生 選抜試験	17	
	17	
	18	
	18	
	19	

(出典：学生課資料)

資料4-2-②-2

現地閲覧資料を参照

(出典：入試委員会資料 推薦入試志願者の合否と学力試験での成績)

資料4-2-②-3

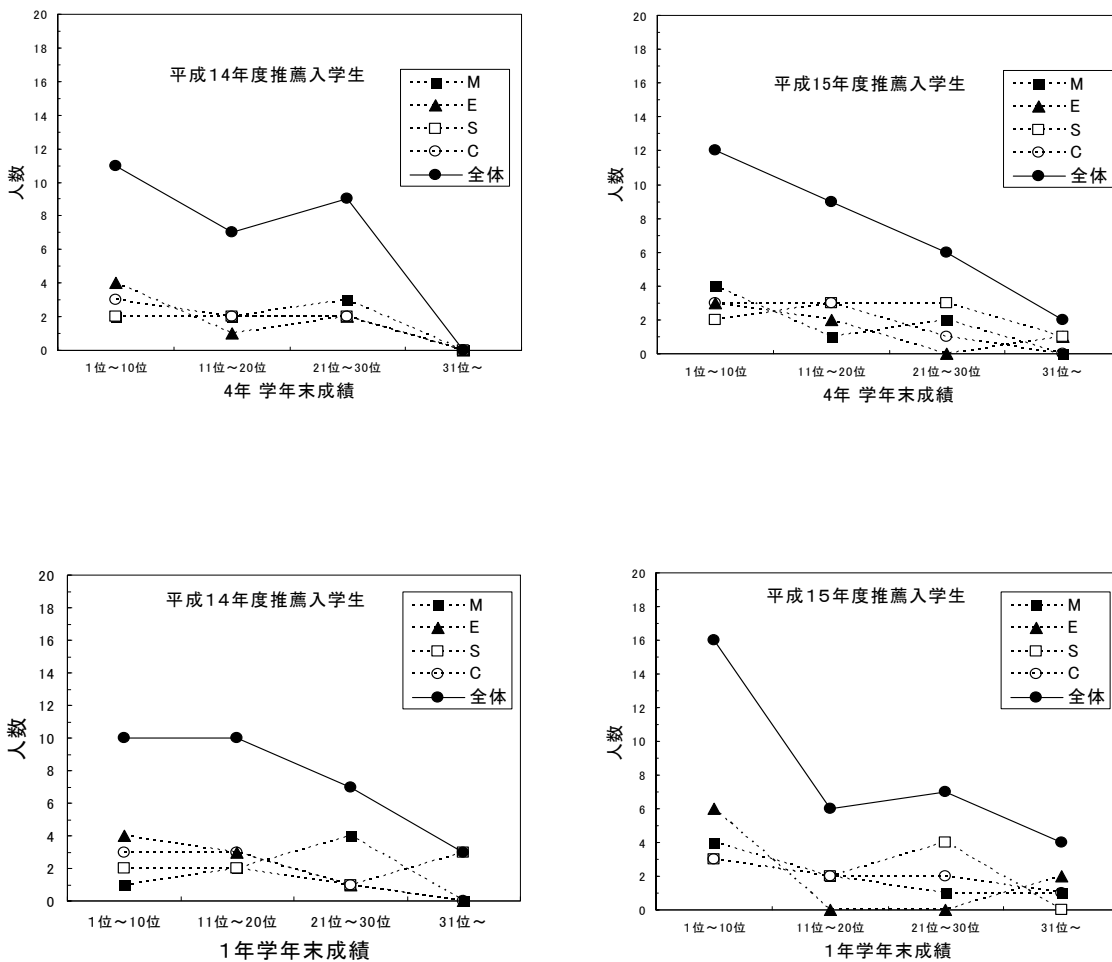


図1 推薦選抜入学者の成績分布 1年次成績と4年次成績

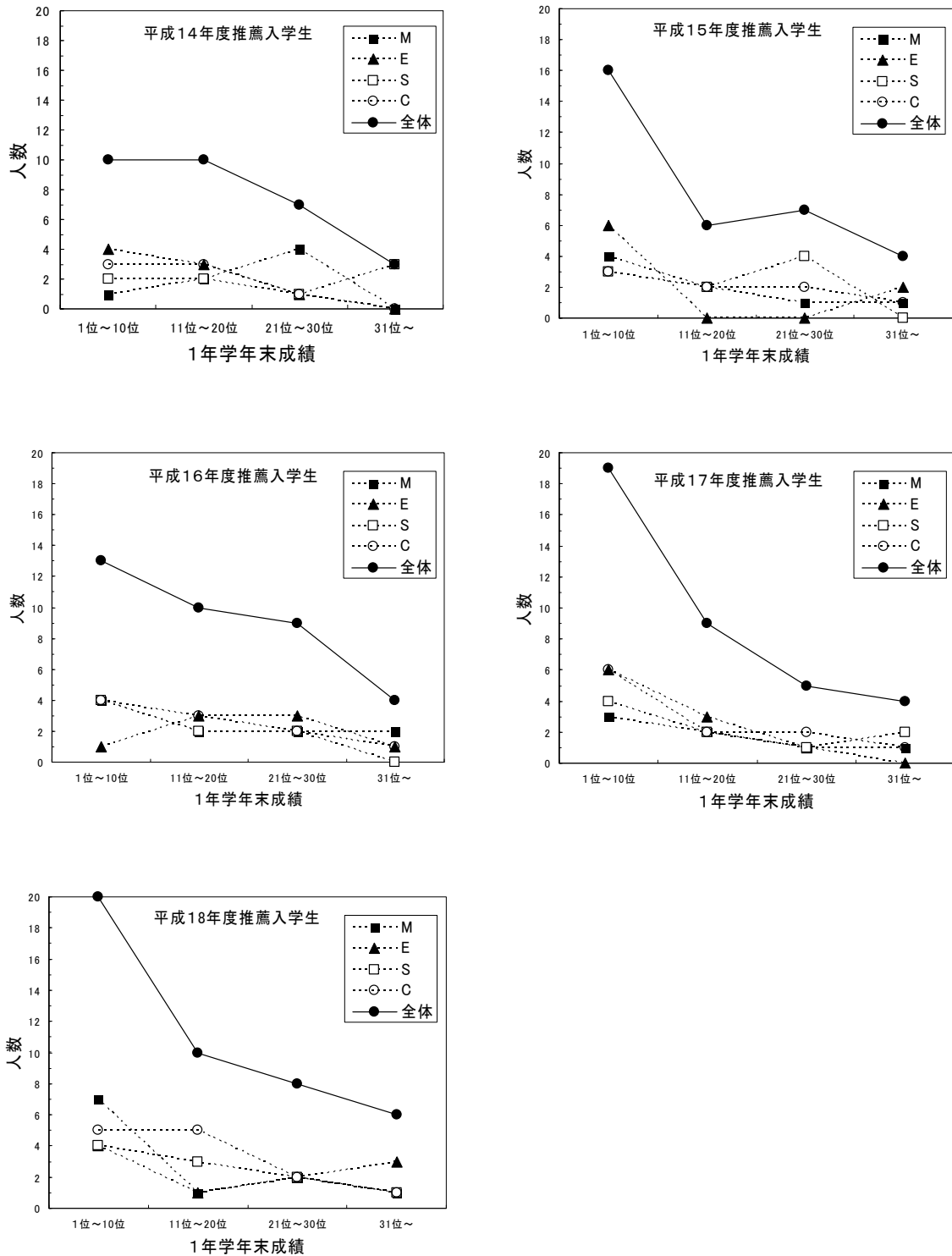


図2 入学年度別 推薦選抜入学者の1年次成績分布

(出典：入試委員会資料 推薦入学生の成績)

資料 4-2-②-4

入試委員会資料

平成 15 年度学力選抜成績と 4 年次の成績の関係

入学試験成績，内申成績および各教科の成績ともに 4 年次の成績との相関は薄い。  
また，3 年までに留年または退学する学生の成績との相関も見出すことは出来ない。

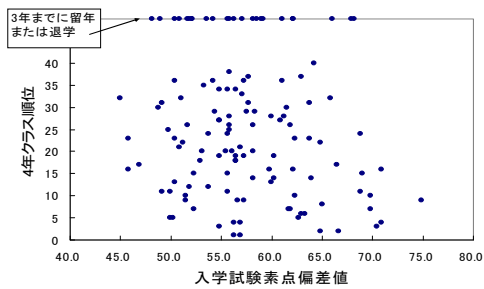


図1 入試成績と4年次の成績比較

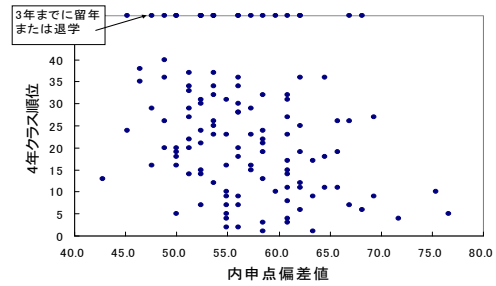


図2 内申点と4年次の成績比較

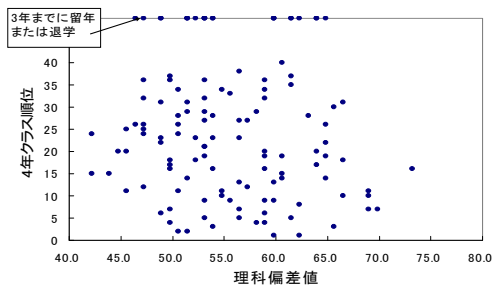


図3 理科偏差値と4年次の成績比較

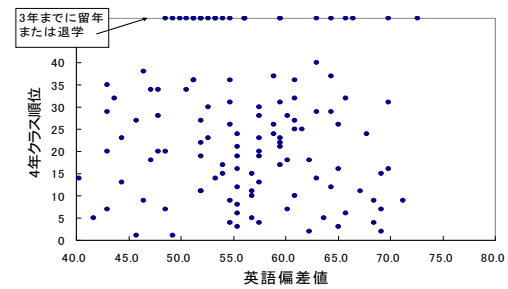


図4 英語偏差値と4年次の成績比較

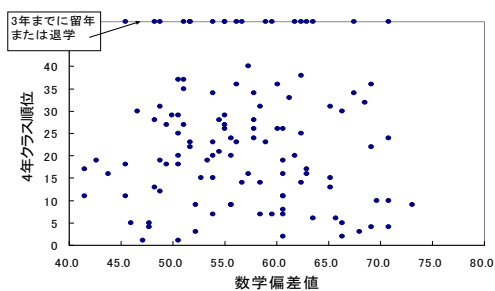


図5 数学偏差値と4年次の成績比較

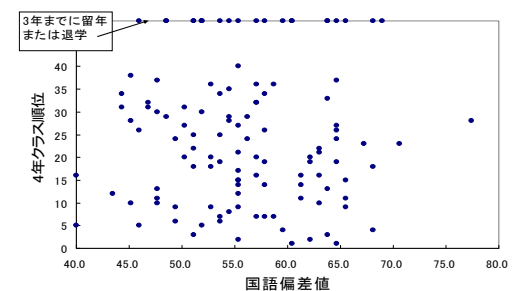


図6 国語偏差値と4年次の成績比較

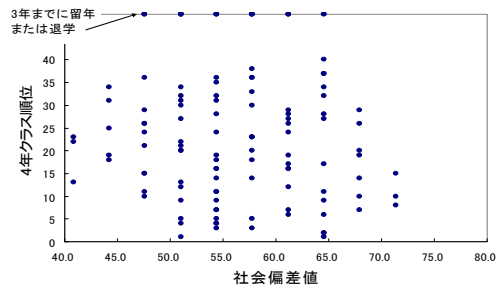
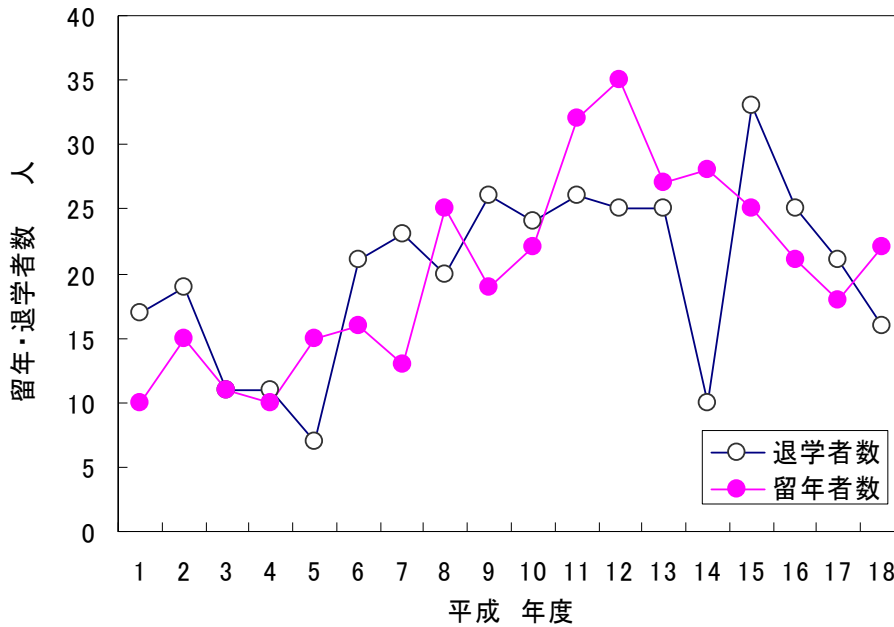


図7 社会偏差値と4年次の成績比較

(出典：入試委員会資料 4 年次の成績と学力入試順位)

資料 4-2-②-5



留年・退学者数の推移

(出典：学生課資料 留年及び退学者数の推移)

資料 4-2-②-6

平成 19 年度 第 2 回機械工学科科内会議概要

日時・場所 平成 19 年 4 月 20 日 9:55~10:20 小会議室  
 欠席者 那賀, 中道, 途中退出者 なし

1. 平成 18 年度入学編入学生の評価と平成 20 年度編入学生募集要項の検討 (資料あり)

○学力検査項目－専門科目 I, II の区分と内容の確認 → 工業高校の学習指導要綱が改訂されていないこと (エビデンスはないが科主任の調査範囲) から変更する必要はないと判断した。

◎アドミッションポリシーに合致した編入学生が入学しているかの検証が必要

編入学生の追跡調査 (資料あり) から検討した。資料に示す追跡学生において編入学生の留年生が皆無であること、在籍中の編入学生 1 名と昨年度の卒業生 1 名に問題がないこと (会議に出席した機械工学科教職員の判断) の 2 点より現在の学力試験の内容を変更する必要はないと決定した。

2. 施設整備計画委員会報告 (資料あり)

現状の報告が行われた。

3. . . . .  
 . . . . .  
 . . . . .



平成 19 年度 第 4 回科内会議議事概要

日 時：平成 19 年 4 月 20 日（金）12：10～12：40

場 所：S 科会議室

出席者：鶴沢（科主任），岡，青木，丸木，轟，嶋田，プロハースカ，徳尾，松本，手島

欠席者：金田

記録者：松本（承認：科主任）

議題

1. 協議事項

（1）編入学募集要項の改訂について（鶴沢）

編入学募集要項の改訂に関して協議した結果、以下のとおり決定した。

専門の試験科目は、従来どおりとする。なお、「専門科目 I」の「プログラミング」に関して、受験者の選択を見て BASIC 言語を盛り込むかを今後検討する。

.....

.....

（2）編入学生の受け入れについて（鶴沢）

これまでの編入学生の成績について協議した結果、特に問題なく卒業しているため、これからも従来どおりに編入学試験を実施し、積極的に編入学生を受け入れることが確認された。

（出典：科内会議資料）

資料 4 - 2 - ② - 7

学習・教育目標達成度チェック表

あなたの現時点での学習・教育目標の達成度をチェックしてください。

クラス \_\_\_\_\_ 学籍番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 記入日 17 年 11 月 4 日

学習・教育目標(標語)	具 体 目 標	達成度 5段階	根 拠	備考
(A) 愛の精神	(A1) 自ら考える力を身につける	3		
	(A2) 技術者としての倫理を身につける	4		
(B) 科学や工学 の基礎	(B1) 数学、自然科学の力を身につける	3		
	(B2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける	4		
(C) コミュニケーション能力	(C1) 表現する力、ディスカッションする力を身につける	3		
	(C2) 英語力を用いてコミュニケーションできる力を身につける	2		
(D) 技術者としてのセンス	(D1) 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける	3		
	(D2) 協力して問題を解決する力を身につける	5		
(E) 専門工学の活用	(E1) 専門工学の知識を習得する	4		
	(E2) 工学の相互関連性を理解する	3		
	(E3) 専門分野における研究開発の体験をとおして問題を発見し、解決する力を身につける	4		

本人のコメント

[Redacted Comment]

担任(指導教員からのコメント)

記入日 17 年 11 月 4 日

本校の所定 履修の手引 別表2(各科目・教育目標の評価方法)を  
見て、それと対比しながら書いて下さい。

(担任(指導教員)はコメントを記入後にコピーして、現物を学生に返却してください。)

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

実際に入学者受入方針に沿う学生受入の検証は主に学生の成績に基づいて行っている。すなわち、成績順位、入学者が5年間で準学士課程を卒業または2年間で専攻科課程を修了できるか検証し、その結果を入学者選抜の改善に役立てている。

観点4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、または大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

準学士課程の選抜試験で学力試験合格者の面接を県立高校の入学試験日に行い、県立高校を第一希望とする中学生は受験できないシステムになっている。そのため、入学辞退者はほとんどない状況にあり、推薦選抜と学力選抜の合計合格者数は定員とほぼ同数となっている。学力選抜判定で合否の境界に同点の学生がいる場合は対象者全員を合格としているので合格者数が定員を1～2名超す年もある。入学辞退者が出て定員を下回るような場合は学力試験の上位者を追加合格者として入学させており、入学者が定員を大幅に越えるまたは下回る状況にならない。編入学者数についても、毎年各科4名以内であり、3年生までに進路変更等で退学していく学生数を上回ることは無く、総入学定員を大幅に超えない(資料4-3-①-1)。専攻科入学者数は、過去4年間で18名～23名となっており、最大でも定員の1.5倍を上回ることはない(資料4-3-①-2)。また、平成16年度は電気電子情報工学専攻で定員を超える合格者を出したが、入学者数は定員より2名不足する状況になった。その後、他大学との併願状況等を考慮した進路指導を行うことで定員を下回ることがなくなった。この例を除けば、専攻科では定員を上回る学生が入学しているが、十分な教員組織、教育体制により対応が出来ている。学位授与機構が行う専攻科生の学位取得試験での専攻科生の合格率は98%であり、十分な教育指導が出来ていることの現れである。

## 資料 4 - 3 - ① - 1

## 準学士課程入学試験と入学者の推移

入学年度	学 科	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
17	機 械 工 学 科	78	78	43 (3)	42 (3)
	電 気 電 子 工 学 科	69	69	40 (2)	40 (2)
	制 御 情 報 工 学 科	91	91	41 (11)	40 (11)
	都市システム工学科	85	84	40 (14)	40 (14)
	計	323	322	164 (30)	162 (30)
18	機 械 工 学 科	63	63	40 (1)	40 (1)
	電 気 電 子 工 学 科	73	73	40 (0)	40 (0)
	制 御 情 報 工 学 科	85	84	41 (6)	40 (6)
	都市システム工学科	52	52	41 (12)	40 (11)
	計	273	272	162 (19)	160 (18)
19	機 械 工 学 科	97	97	42 (1)	42 (1)
	電 気 電 子 工 学 科	84	84	42 (2)	41 (2)
	制 御 情 報 工 学 科	79	79	41 (16)	41 (16)
	都市システム工学科	77	77	41 (12)	41 (12)
	計	337	337	166 (31)	165 (31)

※ ( ) は女子で内数

## 準学士課程編入学試験と入学者の推移

入学年度	学 科	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
17	機 械 工 学 科	1	1	1	1
	電 気 電 子 工 学 科	5	5	1	0
	制 御 情 報 工 学 科	3	3	3	1
	都市システム工学科	6	6	2	0
	計	15	15	7	2
18	機 械 工 学 科	2	2	1	1
	電 気 電 子 工 学 科	6	6	3	2
	制 御 情 報 工 学 科	5	5	2	1
	都市システム工学科	2	2	2	1
	計	15	15	8	5
19	機 械 工 学 科	4	4	3	1
	電 気 電 子 工 学 科	2	2	1	1
	制 御 情 報 工 学 科	5	5	4	1
	都市システム工学科	9	9	6	4
	計	20	20	14	7

(出典：学生課資料)

## 資料 4 - 3 - ① - 2

## 専攻科入学者選抜試験の状況

年度			推薦合格	学力志願者	学力合格者	社会人	計	定員	入学者数
15 第1回	機械・環境システム 工学専攻	M		4 (1)	4 (1)		11 (4)	8	4
		C		6 (3)	6 (3)				6
		S		1	1				1
	計			11 (4)	11 (4)				11
	電気電子情報工学専攻	E		8	8		12 (1)	8	8
		S		4 (1)	4 (1)				3
	計			12 (1)	12 (1)				11
合 計			23 (5)	23 (5)		23 (5)	16	22	
16	機械・環境システム 工学専攻	M	4	3	2		13 (2)	8	5
		C	4	5 (1)	2 (1)				6
		S	1 (1)	0	0				1
	計		9 (1)	8 (1)	4 (1)				12
	電気電子情報工学専攻	E	2	8	7		10	8	5
		S	1	2	0				1
	計		3	10	7				6
合 計		12 (1)	18 (1)	11 (1)		23 (2)	16	18	
17	機械・環境システム 工学専攻	M	3 *4	4	3		13 (1)	8	4
		C	6 (1)	2	1				7
		S							0
	計		9 (1)	6	4				11
	電気電子情報工学専攻	E	2	7	5		12	8	3
		S	5	1 (1)					5
	計		7	8 (1)	5				8
合 計		16 (1)	14 (1)	9		25 (1)	16	19	
18	機械・環境システム 工学専攻	M	5	3	3		14 (1)	8	7
		C	6	2 (1)					6
		S							0
	計		11	5 (1)	3				13
	電気電子情報工学専攻	E	3	5	3		14	8	3
		S	6 (1)	5	2				6
	計		9 (1)	10	5				9
合 計		20 (1)	15 (1)	8		28 (1)	16	22	
19	機械・環境システム 工学専攻	M	4	5	1		11 (3)	8	5
		C	4 (3)	1	2				5(3)
		S							
	計		8 (3)	6	3				10(3)
	電気電子情報工学専攻	E	5	2	2		12 (1)	8	7
		S	1	4 (1)	4 (1)				2
	計		6	6 (1)	6 (1)				9(0)
合 計		14 (3)	12 (1)	9 (1)		23 (4)	16	19(3)	

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程では、適正な入学定員の確保が出来ている。専攻科では入学者が定員よりも若干多くなっているが、十分な教育指導体制をとることが出来ている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

全ての受入試験において、募集要項及び本校ホームページ上で入学者受入方針を公開しており、各方面に周知している。入学者選抜では入学者受入方針に沿った方法となるように改善を重ねている。

(改善を要する点)

課程途中で進路変更のため本校を退学していく学生数を、さらに減らす努力が必要である。

## (3) 基準4の自己評価の概要

本校は教育目的に沿い、準学士課程入学生、準学士課程編入学生、専攻科入学生に対し、それぞれ入学者受入方針を設定している。準学士課程入学生の入学者受入方針は、中学生にも分かる表現を用い、入学生募集要項に記載するとともに、直接中学校を訪問し説明を行っている。準学士課程編入学の入学者受入方針は、準学士課程のそれに一項目加える形で編入学生募集要項に記載し、工業高校、大分県教育委員会、大分市教育委員会、国立高等専門学校機構本部に配付している。専攻科入学生の入学者受入方針は、募集要項に記載し、全国の高等専門学校に配布している。入学試験は準学士課程、準学士課程編入学、専攻科ともに、入学者受入方針に沿った学生を受け入れるための配慮をし実施している。入学試験の検証は入試委員会で行い、これを基に入学者選抜の改善を行っている。準学士課程の選抜試験で学力試験合格者の面接を県立高校入学試験日に設定し、県立高校を第一希望とする中学生は受験できないシステムにしている。そのため、入学辞退者はほとんどいない状況にあり、推薦選抜と学力選抜の合計合格者数は定員とほぼ同数である。入学辞退者が出て定員を下回る場合は学力試験の上位者を追加合格者として入学させており、入学者が定員を大幅に超える、または下回る状況にならない。専攻科は、定員を上回る学生が入学しているが、十分な教員組織、教育体制により対応ができていることは、学位授与機構が行う学位取得試験における本校専攻科生の合格率が98%であることで証明されている。

## 基準5 教育内容及び方法

### (1) 観点ごとの分析

#### <準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

学則に掲げた教育の目的（資料5-1-①-1）に従い、準学士課程の学習・教育目標を設定している（資料5-1-①-2）。一方学科ごとに育成目標（資料5-1-①-3）を掲げ、技術者育成に必要な科目を編成し、学習・教育目標達成に必要な科目を配置（資料5-1-①-4）し、必修及び選択科目を設けている（資料5-1-①-5）。一般科目を主に低学年に配当して教養と基礎知識を修得し、高学年で専門科目を多く学習させている。低学年に配置される専門科目は導入教育と位置づけ、興味を持たせることを重視している。学年進行で基礎科目学習が進み、専門科目を増やすことで専門知識を系統だて無理なく学習できる。一般科目と専門基礎科目は大部分が必修科目である。4、5年の専門科目は専門知識を広げるため選択科目が設けられ、この2年間で修得すべき単位数が規定されている（資料5-1-①-6）。

シラバスでは授業科目系統図（資料5-1-①-4）で、学習・教育目標との関連を明記し（資料5-1-①-7）、具体的達成目標を設定して授業内容を説明しており、これを見れば学習・教育目標と関連達成目標が理解できる。その他自己点検欄が設けられ、定期試験後の解説で理解度と目標の達成度が判断できる。

#### 資料5-1-①-1

### 大分工業高等専門学校学則

#### 第1章 本校の目的

（目的）

**第1条** 本校は、教育基本法にのっとり、及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成し、心身ともに健康な技術者を養成することを目的とする。

（以下省略）

（出典：大分工業高等専門学校規則集）

学習・教育目標

標語	目標	サブ目標	準学士課程において達成すべき具体的な目標	専攻科課程において達成すべき具体的な目標	
A 愛の精神	世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養, 自ら考える力, いっくしみの心を身につける	A-1	自ら考える力を身につける	(1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 論理的に自らの考えを構築することができること	(1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること
		A-2	技術者としての倫理を身につける	(1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること (2) いっくしみの心を持ち、相手の立場に立って考えることができること	(1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること
B 科学や工学の基礎	科学の粋を極める技術者に必要な数学, 自然科学, 情報技術, 専門工学の基礎を身につける	B-1	数学, 自然科学の力を身につける	(1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然科学の基本的な問題が解けること	(1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然現象の本質を問う問題が解けること
		B-2	情報技術, 専門工学の基礎を身につける	専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること	専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること
C コミュニケーション能力	地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける	C-1	表現する力, ディスカッションする力を身につける	自ら表現したいことについて第三者が理解できるように表現できること	自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること
		C-2	英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける	英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単な作文ができること	英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること
D 技術者としてのセンス	創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心, 分析力, イメージ力を身につける	D-1	探究心, 分析力, イメージ力, デザイン能力を身につける	(1) 技術の対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) 問題を深く掘り下げる努力ができること	(1) 技術の対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること (3) 問題を深く掘り下げる努力ができること
		D-2	協力して問題を解決する力を身につける	チームで問題に取り組む体験を得ること	(1) 問題をチームで解決する体験を得ること (2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること
E 専門工学の活用	専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける	E-1	専門工学の知識を獲得する		自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げるのできる専門工学の知識があること
		E-2	工学の相互関連性を理解する		(1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること
		E-3	専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける		自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること

(出典 : W e b ページ)



## 資料5-1-①-3

**機械工学科**

機械工学は科学技術立国日本のものづくりを支える基盤の学問です。生活の回りにあるものは全て機械工学の技術を通して生産されたものといえます。機械工学で学ぶ技術としての学問は大きく分けて5つあります。それは、(1)機械の動きを解析・制御する技術、(2)材料をうまく利用する技術、(3)加工や製作の技術、(4)熱やエネルギーを利用する技術、(5)水や空気の流れを利用する技術、です。これらを統合して社会に役立つものを設計・製作するのが機械工学です。本校の機械工学科では、これらの学問が実習や実験などの体験とともに身に付くように工夫され、頭と体の動くエンジニア育成に努めています。また、技術の発達に対応するため、情報処理技術等の基礎工学に力を注ぐ一方、卒業研究での研究活動で問題解決能力や創造性を養う努力を行っています。

近年の科学技術の発展は目覚しく、学校教育の追従を許さない状況にあります。本校機械工学科では、幅広い学問と豊富な実験実習で、最先端技術を含むどのような分野にも対応できる人材を育成しています。実践的かつ創造性に富み、個性と人間性豊かなオールマイティな技術者を育てるように心がけています。

**電気電子工学科**

昨今、エレクトロニクスや情報通信技術の進歩は著しく、工場では高度に自動化・省力化された自動機械やファクトリー・オートメーション（FA）が一般化しています。一方、我々の家庭においてもパソコン、ゲーム機から携帯電話に至るまで様々な電子機器に取り囲まれており、それら無くしてはもはや生活ができない状態になっています。このような高度情報化社会や自動化・省力化工業・生産技術を支える基盤技術はエレクトロニクス技術です。

電気電子工学科ではこの「エレクトロニクス」を中心に「エネルギー」、「情報・通信」という分野にわたって、広く基礎知識や技術力を修得すると共に、演習・実験を通して応用力も身に付けることを狙っています。

電気電子工学科では「電気電子分野における創造的な技術者を」といった産業界からのニーズに応えるために、5年間の一貫教育を通して、理論及び実践の両面に優れた卒業生を輩出するよう努力を重ねています。

学生は一般科目と並行して先ず電気の基本的な理論を学び、その後より高度な「エレクトロニクス」や「エネルギー」、「情報・通信」、その他の関連した分野の学習へと進んでいきます。上級生になると、卒業研究や企業、大学、研究機関との共同研究開発や工場見学・実習などを通して、産業界や大学の第一線で十分に活躍できるよう実践的な知識を身に付けていきます。

**制御情報工学科**

近年、内外において情報技術の発達にはめまぐるしいものがあり、その対応のための技術者の不足が言われています。制御情報工学科はこのような社会の要求と時代の流れに即応すべく、幅の広い情報技術を習得し、卒業後にさまざまな分野で活躍できる技術者を養成することを目的としています。情報工学を中心に、その基礎となる工学基礎を学び、資格試験にも力を入れ、技術立国の根本となる「ものづくり教育」に目を向け、卒業後には社会の即戦力となる技術を身につけさせます。このように急速な技術革新の推進力となりうる柔軟な発想に富んだ技術者の育成をめざしています。

**都市システム工学科**

都市システム（土木）工学は、現代文明社会を支えるための生活環境・社会資本の整備及び国土保全を目的とする学問です。土木事業として、交通施設（道路、鉄道、港湾、空港など）、都市施設・環境保全（上下水道、河川、地下鉄、公園など）、防災・資源開発（治水、砂防、水資源など）等、市民の日常生活に関係の深い各種の公共事業が行われています。

「東京湾アクアライン」や「明石海峡大橋」などの例が示すように、日本の土木技術は世界に誇る水準にあります。また県内においても、別府明礬橋で知られる「九州横断自動車道」や「東九州自動車道」、水資源開発のための「大山ダム」のような大規模土木事業や町内の「下水道工事」のような身近な土木事業が実施されて、地域の振興に貢献しています。

本校都市システム工学科においては、行政の立場から事業を企画する技術者、設計を担当する技術者、又は建設工事に従事する技術者など、どのような立場の技術者にもなれるように、コンピュータ教育を含む基礎及び専門の教育を行っています。また卒業後に地域で郷土の開発に従事する技術者及び広く国内・海外でも活躍出来る有能な技術者を養成することを目標としています。

（出典：学校要覧 各学科の紹介）









## 資料 5 - 1 - ① - 5

## 学年別単位配当（平成 19 年度入学生）

		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	合計 (%)	
一 般 科 目	必修科目単位	28	26	16	10	3	83(95%)	
	選択科目単位	0	0	0	0	4	4( 5%)	
	計	28	26	16	10	7	87	
専 門 科 目	機 械 工 学 科	必修科目単位	7	8	17	26	21	79(91%)
		選択科目単位	0	0	0	0	8	8( 9%)
		計	7	8	17	26	29	87
	電 気 電 子 工 学 科	必修科目単位	7	9	18	26	13	73(82%)
		選択科目単位	0	0	0	0	16	16(18%)
		計	7	9	18	26	29	89
制 御 情 報 工 学 科	必修科目単位	8	9	18	26	16	77(86%)	
	選択科目単位	0	0	0	0	13	13(14%)	
	計	8	9	18	26	29	90	
都 市 シ ス テ ム 工 学 科	必修科目単位	6	9	20	25	21	81(90%)	
	選択科目単位	0	0	0	1	8	9(10%)	
	計	6	9	20	26	29	90	

(出典：平成 19 年度教育課程表より作表)

## 資料 5 - 1 - ① - 6

## 大分工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了等に関する内規（抜粋）

(中略)

**第 6 章 学年の課程修了及び卒業の認定**

(学年の課程修了の認定)

**第 13 条** 学年の課程修了は、教員会議の議を経て校長が認定する。

2 前項の認定に当たっては、原則として次の各号に該当していなければならない。

- 一 第 1 学年から第 3 学年までにおいては、当該学年の出席日数が出席すべき日数の 2/3 以上であること。

(中略)

七 第 5 学年においては、通算修得単位数が 167 単位以上（そのうち、一般科目については、75 単位以上、専門科目については、82 単位以上とする。）であること。

八 第 4 学年と第 5 学年の授業として開講されている科目の修得単位数の合計が 62 単位以上であること。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料 5 - 1 - ① - 7

教科目名 情報処理 (Information Processing)

学科名・学年 : 電気電子工学科 1年  
 単位数など : 必修 4単位 (前期2コマ, 後期2コマ, 学習保証時間 84.0時間)  
 担当教員 : 山口貴之, 本田久平, 湯地敏史

授業の概要			
前期は、パソコンの基本的な操作方法を身に付け、ワープロや表計算の使い方を勉強する。さらにC言語の基礎を勉強する。後期はLegoブロックを用いたロボットの製作とNQC言語によるプログラミングを行う。ハードウェアとソフトウェアのそれぞれを工夫することによって、学生は様々な形と動きを持ったロボットを製作することができる。			
<b>達成目標と評価方法</b> <span style="float: right;">大分高専目標(B2)</span>			
(1)パソコンの基本的な操作を身に付ける。(前期中間試験)			
(2)基礎的なプログラミングを習得する。(前期末試験, 後期定期試験)			
(3)ロボット製作や発表を通じて、問題解決能力やコミュニケーション能力を身に付ける。(後期レポート, 発表会)			
回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1	パソコンの実践学習 (1) パソコンの基本的な操作	○単語や文章の入力と変換や入力文字の編集を習得する。	【理解の度合い】
2	(2) 文字入力	○ファイルとフォルダを操作できる。	
3, 4	(3) ファイル操作	○文章、図形、表を組み合わせた文書や説明資料を作成できる。	
5, 6	(4) ペイント	○インターネットの基礎知識、電子メールの仕組みを理解する。	
7-9	(5) 文書作成		
10, 11	(6) 表計算		
12	(7) 説明資料作成		
13, 14	(8) WWW, 電子メール		
15	前期中間試験		【試験の点数】 点
16	前期中間試験の解答と解説	○プログラムの編集、コンパイル方法、変数、標準入出力を習得する。	【理解の度合い】
17, 18	C言語プログラミング (1) C言語の基礎	○分岐処理と条件式について理解する。	
19-21	(2) 条件判断文 if 文	○条件を満たしている間処理を繰り返すプログラムを作成できる。	
22, 23	(3) 繰り返し文 for 文	○制御文を組み合わせた応用プログラムを作成できる。	
24, 25	(4) 繰り返し文 while 文		
26, 27	(5) 応用		
28	前期末試験		【試験の点数】 点
	前期末試験の解答と解説		
29, 30	マインドストーム (1) ブロックの組立	○ブロックを組み立て、NQC言語によるプログラミングができる。	【理解の度合い】
31, 32	(2) NQC言語	○光センサとタッチセンサを使ったロボットを製作できる。	
33, 34	(3) センサ その1	○ライントレーサロボットを製作できる。	
35, 36	(4) 自律型ロボット	○2つのロボット間での通信ができる。	
37, 38	(5) ロボット間の通信	○数名で協力しロボットを製作できる。	
39, 40	(6) 自主製作ロボット その1		
41, 42	(7) 自主製作ロボット その2		
43	後期中間試験		【試験の点数】 点
44	後期中間試験の解答と解説	○数名で協力しロボットを製作できる。	【理解の度合い】
45	(8) ロボット発表会	○発表資料を作成し製作したロボットを発表できる。	
46, 47	(1) サッカーロボ制作 その1	○数名で協力してサッカーを行うロボットを製作できる。	
48, 49	(2) サッカーロボ制作 その2		
50-53	(3) 発表会	○発表資料を作成し製作したロボットを発表できる。	
54, 55	後片付け		
56	後期末試験		【試験の点数】 点
	後期末試験の解答と解説		
履修上の注意	休み時間や放課後を利用してパソコン操作に早く慣れておくこと。前期に習うC言語については1年後期以降卒業するまで関連授業等で取り扱うので、途中分らないところがあれば、すぐに解決しておくこと。		【総合達成度】
教科書	杉江日出澄, 吉田郁子, 「誰にも分かるパソコンの実践学習 Windows2000版」, 培風館。		
参考図書			
関連科目	プログラミング, アルゴリズム, コンピュータ		
総合評価	達成目標の(1)~(3)について、定期試験, 発表会, およびレポートで評価する。 総合評価は、4回の定期試験の平均60%, 発表会20%, レポート20%とする。 総合評価が60点以上を合格とする。		【総合評価】 点

(出典：シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

準学士の教育課程は学習・教育目標 A~D に対応し、これらが達成されるよう必修・選択科目が設定されている。低学年に主として一般科目と導入専門科目を、高学年に多くの専門科目を配置し、学校の目的に沿った各学科の目標が達成されるようになっている。4, 5年では選択科目で幅広い専門知識を身に付けることができ、この2年間で修得すべき単位が規定され専門科目修得が義務付けられている。シラバスに学習内容や科目の達成目標、評価方法が説明され、教育内容も示されている。以上から、授業科目が適切に配置され教育課程の体系性が確保されており、教育の目的を達成するのに適切である。





## 資料5-1-②-2

## 大分工業高等専門学校の教育に関するアンケート用紙（卒業生用）

- Q 1. 大分高専を何年度に卒業しましたか？また、卒業なされたのは何学科ですか。
- 卒業年度 1. 平成6年度 2. 平成11年度 回答 [ ]  
 卒業学科 1. 機械工学科 2. 電気工学科 回答 [ ]  
 3. 制御情報工学科 4. 土木工学科
- Q 2. あなたの職種は何ですか。
1. 設計, 計画 2. 製造, 生産, 施工 3. 生産技術, 製造技術  
 4. 研究, 開発 5. 販売, 営業  
 6. 保守, 点検, メンテナンス, サービスエンジニア 7. 施工管理, 業務管理  
 8. プログラマー 9. 事務・労務 10. 公職  
 11. その他 ( ) 回答 [ ]
- Q 3. 差し支えなければ現在の業務内容を少し詳しくお知らせください。
- 回答 [ ]
- Q 4. 大分高専で受けた専門教育の内容（レベル）について伺います。現在の業務を遂行するための基礎として十分なレベルでしたか。
1. 十分なレベル 2. ほぼ十分なレベル 3. やや低いレベル 4. 低いレベル 回答 [ ]
- Q 5. あなたの現在の業務内容に照らして大分高専で受けた専門の基礎教育のレベルはどの程度にあると考えますか。
1. 十分に業務をこなせる 2. ほぼ業務をこなせる  
 3. 少し努力すれば業務をこなせる 4. やや不安がある  
 5. 先行きに不安がある 回答 [ ]
- Q 6. Q 5で 4. 5. の不安があると答えた方はその理由をお答えください。
- 回答 [ ]
- Q 7. 高専時代に受講して良かった（ためになった）講義科目を3科目程度記入してください。
- 科目名1 \_\_\_\_\_ 科目名2 \_\_\_\_\_ 科目名3 \_\_\_\_\_
- Q 8. ご自分が卒業なさった学科において、今後強化してほしい教育内容がありましたら、科目名や分野を記入して下さい。
- 回答 [ ]
- Q 9. 現在、本校では別紙のように「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」を目標にしています。この目標についてどう思いますか。
1. 非常によい 2. よい 3. ふつう 4. やや適切でない 5. 適切でない 回答 [ ]
- Q 10. これからの技術者の資質にとっていずれの内容が重要と考えますか。重要と思われる上位2つの内容について、( )内に重要な順に1, 2を記入して下さい。
- 回答 行動力 ( ) 責任感 ( ) 創造力 ( ) 人間性 ( ) 国際性 ( )
- Q 11. 別紙に掲げてあります、大分高専J A B E E対応教育プログラムの学習・教育目標について、ご意見がありましたらご記入ください。
- 回答 [ ]
- Q 12. 最後に、その他、大分高専の教育などについてご要望があればその概要をご記入下さい。
- 回答 [ ]

アンケートへのご回答をありがとうございました。厚く御礼を申し上げます。機会をみて母校へ来校頂き、学生達へのご教示・ご指導を頂きますようお願いしております。

(出典：教育プログラム委員会資料)

## 九州沖縄地区9国立工業高等専門学校間における 単位互換に関する協定書

九州地区の9国立工業高等専門学校（以下「高専」という。）相互間の交流を通じ、教育研

究交流促進の一環として学生の学習環境の充実を図るとともに、学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を支援するため、次により単位互換を行う。

### （参加高専）

第1 この協定に参加する高専は、次のとおりとする。

- (1) 久留米工業高等専門学校
- (2) 有明工業高等専門学校
- (3) 北九州工業高等専門学校
- (4) 佐世保工業高等専門学校
- (5) 熊本電波工業高等専門学校
- (6) 八代工業高等専門学校
- (7) 大分工業高等専門学校
- (8) 都城工業高等専門学校
- (9) 鹿児島工業高等専門学校

### （受入れ）

第2 この協定により受入れる学生の身分は、特別聴講学生と称する。

第3 入学を希望する学生は、所属する高専の校長の承認を得たうえ、特別聴講学生入学願書を所定の期日までに所属する高専に提出しなければならない。

第4 第3の書類を受理した高専は、受入れ高専に、特別聴講学生として入学の許可を求めらる。

第5 受入れる学生数、受入れ手続きは、受入れ高専で決める。

### （成績評価）

第6 成績の評価については、受入れ高専で定める評価基準によるものとする。

第7 受入れ高専において取得した単位は、各高専の定めるところにより各高専の単位として認めることができる。

### （授業料等）

第8 特別聴講学生の検定料、入学料及び授業料は、相互に不徴収とする。

（出典：学生課資料）

資料 5-1-②-4

大学等間の単位互換に関する覚書

「大学等間の単位互換に関する協定書」による単位互換については、下記事項に基づいて実施する。

記

- 1 履修科目の範囲
 

履修できる授業科目は、大分大学の学部、大分県立看護科学大学の学部、大分県立芸術文化短期大学及び大分工業高等専門学校の本科4、5年生及び専攻科で開講する授業科目のうち、受入大学等で定めた授業科目とし、次の事項を考慮して協議するものとする。

  - 1) 授業時間割は、受入大学等の定めるところによる。
  - 2) 非常勤講師が担当する授業科目、集中講義及び実験実習等を伴う授業科目については、受入大学等の判断による。
- 2 受入学生
  - 1) 対象学生は、大学院学生及び大分工業高等専門学校本科生の1～3年生を除く協定大学等の学生とする。
  - 2) 受け入れる学生数は、受入大学等の授業科目毎に定める。
- 3 受入手続
  - 1) 履修科目の範囲及び対象となる学生数は、所定の期日までに協定大学等間で相互に通知するものとする。
  - 2) 派遣大学等は、各学期毎に履修希望学生の履修願を取りまとめ、受入大学等の許可を得るものとする。
  - 3) 受入大学等は、派遣大学等へ受入許可の決定通知を行うと同時に「受入許可証」を送付するものとする。
  - 4) 上記3)の通知に基づき派遣大学等は、履修希望学生に「受入許可証」を交付するとともに、履修に際しての留意事項等についての説明を行うものとする。
- 4 試験及び単位の認定等
  - 1) 試験は、受入大学等の定めるところにより実施するものとする。ただし、大学等の試験日が重複した場合は、派遣大学等の授業科目について追試験等の措置を講じるものとする。

- 2) 受入大学等は、派遣大学等に対し単位の認定結果を通知するものとし、派遣大学等は受入大学等の通知に基づき単位の認定を行うことができる。
- 5 特別聴講学生に係わる通知等
  - 1) 特別聴講学生に休学又は退学等の異動があった場合は、派遣大学等は速やかに受入大学等へ通知するものとする。
  - 2) 授業時間割変更等の特別聴講学生への通知は、受入大学等が派遣大学等へ連絡し、派遣大学等は特別聴講学生へ通知するものとする。
- 6 施設の利用等
 


履修上必要とする施設・設備の利用については、受入大学等の定めるところにより便宜を供与するものとし、特別聴講学生は受入大学等の規則を遵守するものとする。

平成19年4月1日

大分大学長 羽野 忠 

大分県立看護科学大学長 眞岡 朋子 

大分県立芸術文化短期大学長 利光 功 

大分工業高等専門学校校長 大城 桂作 

(出典：学生課資料)

資料 5-1-②-5

大分工業高等専門学校における校外実習、課題学修及び特別学修に関する細則（抜粋）

制 定 平成16年4月1日  
最終改正 平成19年3月14日

(省 略)

第3章 課題学修

(課題学修)

第11条 本校が適当と認め、文部科学大臣の認定を受けている技能審査以外の技能審査（以下「技能検定等」という。）について、各担当学科の指導の下に合格した者に対して、「課題学修」の単位認定を行う。

(技能検定等の名称等)

第12条 技能検定等の名称・等級、科目名、認定する単位数及び担当学科は、次のとおりとする。

名称・等級	科目名	単位数	担当学科
ソフトウェア開発技術者	課題学修(情報処理)	4	各専門学科
基本情報技術者		2	
エネルギー管理士	課題学修(エネルギー管理)	2	機械工学科
ボイラー技士2級	課題学修(ボイラー)	1	
危険物取扱者乙種	課題学修(危険物取扱)	1	
技術士補	課題学修(技術士補)	2	

電気主任技術者 1 種	課題学修 (電 気)	6	電気電子 工 学 科
〃 2 種		4	
〃 3 種		2	
陸上無線技術士 1 級	課題学修 (陸 上 無 線)	4	
〃 2 級		2	
第 1 種 伝 送 交 換 主 任 技 術 者	課題学修 (電 気 通 信)	4	
第 2 種 〃		2	
第 1 種 電 気 工 事 士	課題学修 (電 気 工 事)	2	
第 2 種 〃		1	
技 術 士 補	課題学修 (技 術 士 補)	2	
プロジェクトマネージャ	課題学修 (ソフトウェア開発工学)	6	
アプリケーションエンジニア		6	
ネ ッ ト ワ ー ク	課題学修 (テクニカルエンジニアリング)	4	
デ ー タ ベ ー ス		4	
エンベデッドシステム		4	
情報セキュリティアドミニストレータ		4	
シ ス テ ム 監 査	課題学修 (システム管理工学)	6	
シ ス テ ム ア ナ リ ス ト		6	
シ ス テ ム 管 理		4	
上級システムアドミニストレータ		2	
初級システムアドミニストレータ		1	
技 術 士 補	課題学修 (技 術 士 補)	2	
測 量 士	課題学修 (測 量)	3	
測 量 士 補		1	
技 術 士 補	課題学修 (技 術 士 補)	4	
土 木 施 工 技 術 者	課題学修 (土 木 施 工)	2	
造 園 施 工 技 術 者	課題学修 (造 園 施 工)	2	

(中 略)

#### 第 4 章 特別学修

(特別学修)

第 18 条 本校が適当と認め、文部科学大臣の認定を受けた技能審査について、合格した者に対して、「特別学修」の単位認定を行う。

(技能審査の名称等)

第 19 条 技能審査の名称・等級、科目名、認定する単位数、一般・専門の別は、次のとおりとする。

技能審査の名称・等級	科 目 名	単位数	一般・専門の別
実用英語技能検定 1 級	特別学修 (実用英語)	6	一般科目
〃 準 1 級		4	
〃 2 級		2	
〃 準 2 級		1	
工業英語能力検定 1 級	特別学修 (工業英語)	4	専門科目
〃 2 級		2	
〃 3 級		1	

2 修得を認定された単位は、一般科目又は学生が所属する学科の専門科目の単位とする。

(省 略)

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

学生アンケートで学生の要望を収集し、教育改善の参考にしている。卒業生アンケートで社会の要望を聞き、教育課程改善の努力が行われている。単位互換は、九州地区高等専門学校の 9 校、大分県の 3 大学と協定を結び実現している。また、資格取得にも積極的に取り組み、技能検定に応じた単位認定を行っている。

以上から、学生のニーズや社会の要請等に対応した教育課程の編成に配慮している。

観点5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

英語によるコミュニケーション能力育成のため、英語教育に演習を取入れコミュニケーション能力が身に付く工夫をしている（資料5-2-①-1）。実践的技術者育成のために講義以外に卒業研究を含め実験・実習科目を各学年で効果的に配置し（資料5-2-①-2）、準学士課程で30%以上の単位を割り当てている。低学年の実験・実習は専門の導入教育であり、理論的な学習を行う前に物に触れて専門科目への興味を持たせている。実験・実習科目は複数の教員と技術職員を配置し、少人数のグループごとにきめ細い指導を行っている。全学科で必要な情報関係の科目で効果的な指導を行うため、学生が使用するコンピュータを教員が制御できる学習支援システムを導入している（資料5-2-①-3）。5年の卒業研究では、担当教員が少人数の学生を継続して指導し、学生は修得した専門知識を活かした問題解決能力を身に付ける。1、2年にはコミュニケーションアワー（CH）を設け、補充が必要な英語や数学、専門演習などを各学科で指導している（資料5-2-①-4）。さらに、教員が教員室で待機し学生の質問に答えるオフィスアワーを設定し、学生の理解不足を補う仕組みを用意している。

資料5-2-①-1

## 英語科目の単位（平成19年度入学）

科目	形態	必修・選択	1年	2年	3年	4年	5年	合計(%)
英語	講義	必修	4	4	4	0	0	14(78%)
英語B		選択	0	0	0	0	2	
英会話	演習	必修	1	0	0	0	0	4(22%)
英語LL		必修	1	0	0	0	0	
英語A		必修	0	0	0	2	0	

（出典：平成19年度教育課程表より作表）

資料5-2-①-2

## 専門科目の単位（平成19年度入学）

		1年	2年	3年	4年	5年	合計(%)
機械工学科	講義	2	3	12	20	17	54(62%)
	実験・実習	5	5	5	6	12	33(38%)
電気電子工学科	講義	1	3	14	22	17	57(64%)
	実験・実習	6	6	4	4	12	32(36%)
制御情報工学科	講義	0	2	9	20	21	52(58%)
	実験・実習	8	7	9	6	8	38(42%)
都市システム工学科	講義	2	5	16	22	14	59(66%)
	実験・実習	4	4	4	4	15	31(34%)

（出典：平成19年度教育課程表より作表）

資料5-2-①-3

総合情報センター第2演習室



制御情報工学科情報システム実験室



(総合情報センター資料)







(分析結果とその根拠理由)

専門科目では実験・実習関係の単位が30%以上を占め、実践的な技術者の育成に相応しい指導を行っている。また、情報関係の科目では学習支援システムを導入して、効果的な教育が行われている。各学科で学生の理解不足を補うためのコミュニケーションアワーや、学生が個人的に質問できるオフィスアワー等の時間を設けて、学力不足の学生に対する配慮も行っている。

以上から、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切な学習指導法が工夫されている。

**観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。**

(観点に係る状況)

教育課程表(資料5-2-②-1)に基づき、シラバス(資料5-1-①-7)を作成し、教員と学生に配布している。シラバスには開講時期、必修・選択科目の区別、単位数、担当教員名及び授業の概要、達成目標と評価方法を記している。授業項目と内容の記載から、毎回の授業内容を確認することで、理解度も把握できる。履修上の注意には学習上の注意事項が書かれ、参考図書から関連専門知識を自習できる。科目系統図の関連科目も分かり、総合評価に具体的評価方法が記載されている。科目担当教員には初回授業でのシラバスの内容説明が義務付けられ、説明の有無を授業アンケートで確認される(資料5-2-②-2)。また、理解度の自己点検欄が設けられ、学生が理解度を記入し確認するようになっている。全科目のシラバスは本校ホームページに公開され、学内外から閲覧できるようになっている(資料5-2-②-3)。

## 資料5-2-②-1

## 教育課程表

## 一般科目

2006・2007年度(平成18・19年度)入学生用  
(各学科共通)

授業科目	単位数	学年別単位・時間配当										備考					
		1年		2年		3年		4年		5年							
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後						
必修科目	国語総合	4	2	2	2	2	2	2									
	現代文	2				2	2	2									
	地域日本文学	2							2	2	2						
	現代社会	1	2	1	0												
	政治・経済	1	0	1	2												
	日本史	2	2	2	2												
	世界史	2				2	2	2									
	倫理	2				2	2	2									
	地理	2							2	2	2						
	基礎数学Ⅰ	4	4	4	4												
	基礎数学Ⅱ	4	4	4	4												
	微分積分Ⅰ	4				4	4	4									
	微分積分Ⅱ	4							4	4	4						
	線形代数	4				4	4	4									
	微分方程式	2							2	2	2						
	物理Ⅰ	3	2	3	4												
	物理Ⅱ	3				4	3	2									
	化学Ⅰ	5	2	2	2	2	3	4									
	保健・体育	9	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	0			
	英語	12	4	4	4	4	4	4	4								
英語A	2							2	2	2							
英会話	MS科	1	2		0												
	EC科		0	1	2												
英語LL	MS科	1	0		2												
	EC科		2	1	0												
選択必修科目	音楽	1	2	1	0										(同時開講)		
	美術		2	1	0												
	書道		2	1	0												
	経済学概説	2							2	2	2				(同時開講)		
	法学概説								2	2	2						
	化学Ⅱ	2							2	2	2				(同時開講)		
	数学演習								2	2	2						
	物理学									2	2	2					
	生物学概説								2	2	2						
哲学概説	2										2	2	2	(同時開講)			
歴史学概説																	
修得可能単位小計		83	28	28	28	26	26	26	16	16	16	10	10	10	4	3	2
選択科目	英語B	2										2	2	2	外国語選択 (同時開講)		
	独語											2	2	2			
	中国語												2	2		2	
	数学特論	2										2	2	2	一般選択 (同時開講)		
心理学	(1)										0	1	2				
修得可能単位小計		4	0			0			0			0			4	4	4
一般修得可能単位合計		87	28	28	28	26	26	26	16	16	16	10	10	10	8	7	6



教育課程表

電気電子工学科 専門科目

2006・2007年度（平成18・19年度）入学生用

授業科目	単位数	学年別単位・時間配当										備考				
		1年		2年		3年		4年		5年						
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
応用数学Ⅰ	2							2	2	2						
応用数学Ⅱ	2							2	2	2						
応用物理Ⅰ	2					2	2	2								
応用物理Ⅱ	2							2	2	2						
電磁気学Ⅰ	4					4	4	4								
電磁気学Ⅱ	2							2	2	2						
電気回路Ⅰ	1	0	1	2												
電気回路Ⅱ	3			2	3	4										
電気回路Ⅲ	2					2	2	2								
電気回路Ⅳ	1							2	1	0						
電気回路Ⅴ	2							2	2	2						
情報処理	4	4	4	4												
プログラミング	2			2	2	2										
アルゴリズム	1					2	1	0								
電子回路	2					2	2	2								
電子回路設計	1							0	1	2						
デジタル回路Ⅰ	1					0	1	2								
デジタル回路Ⅱ	1							2	1	0						
電子工学	2							2	2	2						
電気計測	2							2	2	2						
電気機器工学Ⅰ	2					2	2	2								
電気機器工学Ⅱ	2							2	2	2						
制御工学Ⅰ	1									2	1	0				
コンピュータ	2							2	2	2						
通信工学Ⅰ	1							0	1	2						
電気演習Ⅰ	2	2	2	2												
電気演習Ⅱ	1			2	1	0										
工学実験Ⅰ	3			2	3	4										
工学実験Ⅱ	4					4	4	4								
工学実験Ⅲ	4							4	4	4						
工学実験Ⅳ	2									0	2	4				
デザイン実習	2									4	2	0				
卒業研究	8									4	8	12				
修得可能単位小計	73	6	7	8	8	9	10	18	18	18	26	26	26	10	13	16
発変電工学	1										2	1	0			
送配電工学	1										0	1	2			
パワーエレクトロニクス	1										2	1	0			
電気材料	2										2	2	2			
高電圧工学	1										2	1	0			
電気設計	1										0	1	2			
システム工学	1										0	1	2			
制御工学Ⅱ	1										0	1	2			
通信工学Ⅱ	1										2	1	0			
情報理論	1										2	1	0			
ネットワークアーキテクチャ	1										2	1	0			
電気法規	1										2	1	0			
量子力学	2										2	2	2			
バイオテクノロジー概論											0	1	2			
メカトロニクス	1										0	1	2			
社会システム											0	1	2			
校外実習	(1)									(1)						
課題学修	0															
修得可能単位小計	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	16	14
専門科目解説単位数	91	6	7	8	8	9	10	18	18	18	26	26	26	28	31	34
専門科目修得可能単位数	87	6	7	8	8	9	10	18	18	18	26	26	26	28	29	30

教育課程表

制御情報工学科 専門科目

2006・2007年度（平成18・19年度）入学生用

授業科目	単位数	学年別単位・時間配当										備考				
		1年		2年		3年		4年		5年						
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
応用数学Ⅰ	2							2	2	2						
応用数学Ⅱ	2							2	2	2						
応用物理Ⅰ	2					2	2	2								
応用物理Ⅱ	2							2	2	2						
情報数学Ⅰ	1										2	1	0			
数値解析	1										2	1	0			
英語特論Ⅰ	2							2	2	2						
電気基礎	2			2	2	2										
電気回路Ⅰ	2					2	2	2								
電気回路Ⅱ	2							2	2	2						
電磁気学Ⅰ	2							2	2	2						
電磁気学Ⅱ	1										2	1	0			
電子回路Ⅰ	2					2	2	2								
電子回路Ⅱ	2							2	2	2						
デジタル回路Ⅰ	1							2	1	0						
デジタル回路Ⅱ	1							0	1	2						
情報リテラシー	2	4	2	0												
プログラミング基礎Ⅰ	2	0	2	4												
プログラミング基礎Ⅱ	1			0	1	2										
プログラミング応用Ⅰ	2					4	2	0								
プログラミング応用Ⅱ	2					0	2	4								
コンピュータ基礎	2					2	2	2								
論理数学	1					0	1	2								
情報理論	2								2	2	2					
アルゴリズムとデータ構造	2								2	2	2					
データベース	1										2	1	0			
コンピュータアーキテクチャⅠ	1										2	1	0			
ソフトウェア設計Ⅰ	1										2	1	0			
通信プロトコル	1								2	1	0					
通信工学Ⅰ	1										2	1	0			
ロボティクスⅠ	1								0	1	2					
ロボティクスⅡ	1										2	1	0			
工学演習Ⅰ	2	2	2	2												
工学演習Ⅱ	2			2	2	2										
工学演習Ⅲ	1					2	1	0								
工学実験基礎	2	2	2	2												
工学実験Ⅰ	2			4	2	0										
工学実験Ⅱ	2			0	2	4										
工学実験Ⅲ	2					4	2	0								
工学実験Ⅳ	2					0	2	4								
工学実験Ⅴ	2							4	2	0						
工学実験Ⅵ	2							0	2	4						
卒業研究	8										8	8	8			
修得可能単位小計	77	8	8	8	8	9	10	18	18	18	26	26	26	24	16	8
バイオテクノロジー概論	1												0	1	2	つながり 工学選択 (同時開講)
メカトロニクス													0	1	2	
社会システム														0	1	
英語特論Ⅱ	1										2	1	0			専門選択Ⅰ
英語特論Ⅲ	1										0	1	2			1単位以上取得
コンピュータアーキテクチャⅡ	1										0	1	2			専門選択Ⅱ
ソフトウェア設計Ⅱ	1										0	1	2			1単位以上取得
情報数学Ⅱ	1										0	1	2			専門選択Ⅲ
数値解析Ⅱ	1										0	1	2			1単位以上取得
知識工学	1										0	1	2			専門選択Ⅳ
画像工学	1										0	1	2			1単位以上取得
電磁気学Ⅲ	1										0	1	2			
情報特論	1										2	1	0			
機能材料工学	1										0	1	2			
通信工学Ⅱ	1										0	1	2			
校外実習	(1)									(1)						
課題	1															
修得可能単位小計	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	13	22

専門科目解説単位数	92	8	8	8	8	9	10	18	18	18	26	26	26	28	31	34
専門科目修得可能単位	90	8	8	8	8	9	10	18	18	18	26	26	26	28	29	30

教育課程表  
都市システム工学科 専門科目  
2006・2007年度（平成18・19年度）入学生用

授業科目	単位数	学年別単位・時間配当										備考				
		1年		2年		3年		4年		5年						
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後					
都市システム工学概論	2	2	2	2												
情報処理	2			2	2	2										
工学基礎Ⅰ	1			0	1	2										
工学基礎Ⅱ	2					2	2	2								
応用物理Ⅰ	2					2	2	2								
応用物理Ⅱ	2							2	2	2						
応用数学Ⅰ	2							2	2	2						
応用数学Ⅱ	2							2	2	2						
コンクリート構造学	2							4	2	0						
建設材料学	1									2	1	0				
構造力学Ⅰ	4					4	4	4								
構造力学Ⅱ	2							0	2	4						
鋼構造学	1							0	1	2						
土質力学Ⅰ	4					4	4	4								
土質力学Ⅱ	2							0	2	4						
地盤工学	1									2	1	0				
水理学Ⅰ	4					4	4	4								
水理学Ⅱ	2							0	2	4						
応用水理学	1									2	1	0				
河川工学	1									0	1	2				
測量学	2			2	2	2										
都市計画	2							4	2	0						
道路交通工学	2							2	2	2						
衛生工学	2							0	2	4						
防災工学	2									2	2	2				
実験実習	20	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4			
(情報処理演習)	(4)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)									
(構造・材料実験)	(3)	(0)	(1)	(2)			(2)	(1)	(0)	(0)	(1)	(2)				
(設計製図)	(6)	(2)	(1)	(0)					(2)	(1)	(0)	(4)	(4)	(4)		
(土質実験)	(2)					(2)	(2)	(2)								
(水理実験)	(1)					(0)	(1)	(2)								
(測量実習)	(3)			(2)	(2)	(2)			(0)	(1)	(2)					
(衛生実験)	(1)								(2)	(1)	(0)					
P B L	1									2	1	0				
卒業研究	10									8	10	12				
修得可能単位小計	81	6	6	6	8	9	10	20	20	20	24	25	26	22	21	20
選択科目	数値演算法	1											2	1	0	
	振動学	1											0	1	2	
	建設施工学	1											2	1	0	
	公園緑地計画	1											2	1	0	
	環境計画	1											0	1	2	
	応用測量学	1											0	1	2	
	環境システム	1											0	1	2	
	建築学概論	1								2	1	0				
	コンピュータ概論	1											0	1	2	つながり 工学選択 (同時開講)
	メカトロニクス												0	1	2	
	電気電子回路												0	1	2	
	バイオテクノロジー概論												0	1	2	
校外実習	(1)								(1)							
課題学修																
修得可能単位小計	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	6	8	10
専門科目解説単位数	93	8	8	8	8	9	10	20	20	20	26	26	26	28	32	36
専門科目修得可能単位	90	8	8	8	8	9	10	20	20	20	26	26	26	28	29	30

(出典：シラバス)

資料5-2-②-2

2007年3月1日

**平成18年度 授業アンケートのお願い**

このアンケートは、授業の内容や方法を改善するための資料として役立てることを目的としています。次のアンケート項目について、別紙1の該当するものに○を付けてください。また、別紙2については、感想等を授業評価（コメント）欄に記入してください。

## ▼ アンケート項目

## 「自己評価」

- ① 授業中ははじめに取り組みましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ② 定期試験ごとに理解の度合いをシラバスに記入し、理解度の自己点検を行いましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ③ シラバスの定める到達目標を達成することができましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ④ 自宅学習やオフィスアワーの活用により、理解度の向上に努めましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ⑤ 課題やレポートはすべて提出しましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ⑥ あなたの授業に対する取り組みを総合的に評価してください。  
1. 良い 2. 普通 3. 悪い

## 「授業評価」

- ① 授業の冒頭でシラバスの説明を受けましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ② 学習教育目標におけるこの科目の位置づけは明確でしたか？  
1. はい 2. いいえ
- ③ シラバスの内容に沿った授業が行われましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ④ 授業はわかりやすかったですか？  
1. はい 2. 普通 3. いいえ
- ⑤ 黒板や視聴覚教材等の使い方はよかったですか？  
1. はい 2. 普通 3. いいえ
- ⑥ 質問に対する担当教員の対応には満足ですか？  
1. はい 2. 普通 3. いいえ
- ⑦ 試験の内容は授業内容と一致していましたか？  
1. はい 2. 普通 3. いいえ

## 「総合評価」

この授業を総合的に評価してください。

5. 非常に良い 4. よい 3. 普通 2. 不満 1. 非常に不満

(出典：学生課資料)

資料 5 - 2 - ② - 3

[印刷用PDFファイル](#)

\*表中の数字は、前期授業コマ数・単位数・後期授業コマ数です。単位数をクリックするとシラバスが表示されます。

授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 単 位 ・ 時 間 配 当										備 考	
		1年		2年		3年		4年		5年			
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後		
卒業研究	8									6	8	10	
応用数学 I	2							2	2	2			
応用数学 II	2							2	2	2			
応用物理 II	2							2	2	2			
機械基礎論	1	0	1	2									
材料と加工	1	2	1	0									
情報処理 I	1			0	1	2							
機械工作法 I	2			2	2	2							
材料力学 II	2							2	2	2			
材料学 II	2							2	2	2			
機械設計法 II	2							2	2	2			
熱力学	2							2	2	2			
水力学	2							2	2	2			
情報工学	1							2	1	0			
マイクロエクス I	1							0	1	2			
マイクロエクス II	1									2	1	0	
機械力学	2							2	2	2			
自動制御	1							2	1	0			
熱機関工学 I	1							2	1	0			
工業英語 I	1							2	1	0			
計測工学	1							0	1	2			
伝熱工学	1							0	1	2			
工学倫理	1							0	1	2			
機械製図 I	2	2	2	2									
機械製図 II	2			2	2	2							

(出典 : W e b ページ)

(分析結果とその根拠理由)

シラバスは授業内容の具体的説明と学習・教育目標との対応、系統関連科目や評価方法が記載され、必要な情報がすべて網羅されている。学生が自分の理解度を記入する欄があり、授業内容を知るだけでなく学習に役立てることができるように構成されている。初回の授業でその内容が説明され、学生は授業概要を理解した上で学習できる。シラバスの説明の有無やシラバス通りの授業が行われたかは授業アンケートで確認される。以上から教育課程の編成趣旨に沿い適切なシラバスが作成され、活用されている。



**観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。**

（観点に係る状況）

各学科は実験や実習に十分な時間を割き、内容や方法を工夫した創造性を育む教育に取り組んでいる（資料5-2-①-2）。3学科の低学年でLEGOブロック実験を行い、自ら考えたロボット製作で創造性を育む教育が行われている（資料5-2-③-1）。都市システム工学科では5学年にPBLという科目を設け（資料5-2-③-2）、プロジェクト形式で学生主体の学習で創造教育を実践している。全学科卒業研究では、創造的なテーマに取り組み、学生自身のアイデアで問題の把握や解決を試みる。これらの実験を通じ、学生は自ら考え、創造性を培うことができる。

インターンシップは4学年の夏季休暇中に希望により参加するが、多くの学生が参加できるよう企業へ要請して受入れ先を確保し（資料5-2-③-3）、クラス担任が積極的に参加を働きかけ（資料5-2-③-4）、規定の条件を満たした学生には単位を認定するとともに（資料5-2-③-5）、各科で発表会を開催している（資料5-2-③-6）。

資料 5 - 2 - ③ - 1

教科目名 機械実習 I (Mechanical Practice I)

学科名・学年 : 機械工学科 1年  
 単位数など : 必修 3単位 (前期 2コマ, 後期 2コマ, 学習保証時間 78時間)  
 担当教員 : 徳安達士, 薬師寺輝敏

<b>授業の概要</b>
1. 工作機械の操作を学び, 基本加工の平面・円筒・穴あけ・手仕上げ加工を実習する。 2. 小型自動車の分解組立を通して, 自動車のメカニズムを理解する。 3. 産業用ロボットの自動化機械についてメカトロニクスの基礎を理解する。

<b>達成目標と評価方法</b>	<b>大分高専目標 (D1) (D2)</b>
(1) 工作機械を使って簡単な部品の機械加工ができること。(課題・レポート) (2) 自動車の仕組み, 機構が理解できること。(課題・レポート) (3) 材料の材質の違いによる加工特性を理解できること。(課題・レポート) (4) メカトロニクスの構成要素を理解し, メカニズムの仕組みを理解できること。(課題・レポート) (5) 製図用ドラフターの使用方法が理解できること。(課題・レポート)	

回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	1. オリエンテーション	○各テーマについての概要, 年間計画, 実習に関する一般的注意, 報告書の作成方法の説明を受け, 概要が理解できる。	【理解の度合い】
1	2. 安全教育	○実験器具・装置類, 工作機械等の取り扱いに関する安全対策が理解できる。	
2-7	3. 旋盤加工実習	○丸鋼棒素材の円筒切削・穴あけ・溝入れ加工を行い, 旋盤加工ができる。	
8-12	4. 手仕上げ実習	○鋳鉄ブロック素材の平面切削・溝切り・穴あけ・リーマ加工・タップ加工・キサゲ加工ができる。	
13-18	5. メカトロニクス実習	○メカトロニクスを構成する要素が理解でき, ある目的を達成するためのメカニズムを製作できる。また, レゴブロックを用いて自由な発想でロボットを製作し, プレゼンテーションができる。	
19-24	6. マイクロカー分解組立	○小型自動車を分解・組立することで自動車の仕組みとメカニズムが理解できる。	
23, 24	7. ルアー製作	○鋼板・アルミ板・銅板の3種類の素材を使ってルアーを製作し, 材料の違いによる加工の難易が理解できる。	
25	8. ドラフター実習	○製図用ドラフターの仕組みおよび操作方法が理解できる。	
26	9. 工場見学	○地場企業を見学し, 実際の生産現場を理解できる。	

<b>履修上の注意</b>	クラスを 10 人で構成するグループに分け, プロジェクトで実施する。上記はAグループ (出席番号 1~10 番) の学生の例である。	<b>【総合達成度】</b>
<b>教科書</b>	各実習は本学科で作成した実験の手引き(ガイドライン)に従って行う。	
<b>参考図書</b>	嵯峨常生, 中西祐二 他, 「機械実習 1・2」, 実教出版。	
<b>関連科目</b>	機械実習Ⅱ, 機械実習Ⅲ, 材料と加工, 機械基礎論	
<b>総合評価</b>	達成目標(1)~(5)について, テーマ毎にレポートを 70%, 取組み状況を 30%として採点する。これら採点結果を 100 点満点で成績評価集計担当者がとりまとめ, 各学生に対し $\Sigma$ (テーマ点×そのテーマの実施回数) / 評価対象実験回数を求めて総合評価とする。総合評価が 60 点以上を合格とする。	<b>【総合評価】</b> 点

教科目名 情報処理 (Information Processing)

学科名・学年 : 電気電子工学科 1年

単位数など : 必修 4単位 (前期2コマ, 後期2コマ, 学習保証時間 84.0時間)

担当教員 : 山口貴之, 本田久平, 湯地敏史

授業の概要

前期は、パソコンの基本的な操作方法を身に付け、ワープロや表計算の使い方を勉強する。さらにC言語の基礎を勉強する。後期はLegoブロックを用いたロボットの製作とNQC言語によるプログラミングを行う。ハードウェアとソフトウェアのそれぞれを工夫することによって、学生は様々な形と動きを持ったロボットを製作することができる。

達成目標と評価方法

大分高専目標 (B2)

- (1)パソコンの基本的な操作を身に付ける。(前期中間試験)
- (2)基礎的なプログラミングを習得する。(前期末試験, 後期定期試験)
- (3)ロボット製作や発表を通じて、問題解決能力やコミュニケーション能力を身に付ける。(後期レポート, 発表会)

回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検		
1	パソコンの実践学習 (1) パソコンの基本的な操作	○単語や文章の入力と変換や入力文字の編集を習得する。 ○ファイルとフォルダを操作できる。 ○文章, 図形, 表を組み合わせた文書や説明資料を作成できる。 ○インターネットの基礎知識, 電子メールの仕組みを理解する。	【理解の度合い】		
2	(2) 文字入力				
3, 4	(3) ファイル操作				
5, 6	(4) ペイント				
7-9	(5) 文書作成				
10, 11	(6) 表計算				
12	(7) 説明資料作成				
13, 14	(8) WWW, 電子メール				
15	前期中間試験				【試験の点数】 点
16	前期中間試験の解答と解説 C言語プログラミング			○プログラムの編集, コンパイル方法, 変数, 標準入出力を習得する。 ○分岐処理と条件式について理解する。 ○条件を満たしている間処理を繰り返すプログラムを作成できる。 ○制御文を組み合わせた応用プログラムを作成できる。	【理解の度合い】
17, 18	(1) C言語の基礎				
19-21	(2) 条件判断文 if 文				
22, 23	(3) 繰り返し文 for 文				
24, 25	(4) 繰り返し文 while 文				
26, 27	(5) 応用				
28	前期末試験		【試験の点数】 点		
	前期末試験の解答と解説				
29, 30	マインドストーム (1) ブロックの組立	○ブロックを組み立て、NQC言語によるプログラミングができる。 ○光センサとタッチセンサを使ったロボットを製作できる。 ○ライトレーザロボットを製作できる。 ○2つのロボット間での通信ができる。 ○数名で協力しロボットを製作できる。	【理解の度合い】		
31, 32	(2) NQC言語				
33, 34	(3) センサ その1				
35, 36	(4) 自律型ロボット				
37, 38	(5) ロボット間の通信				
39, 40	(6) 自主製作ロボット その1				
41, 42	(7) 自主製作ロボット その2				
43	後期中間試験		【試験の点数】 点		
44	後期中間試験の解答と解説	○数名で協力しロボットを製作できる。 ○発表資料を作成し製作したロボットを発表できる。 ○数名で協力してサッカーを行うロボットを製作できる。 ○発表資料を作成し製作したロボットを発表できる。	【理解の度合い】		
45	(8) ロボット発表会 RoboCup Jr.				
46, 47	(1) サッカーロボ制作 その1				
48, 49	(2) サッカーロボ制作 その2				
50-53	(3) 発表会				
54, 55	後片付け				
56	後期末試験		【試験の点数】 点		
	後期末試験の解答と解説				
履修上の注意	休み時間や放課後を利用してパソコン操作に早く慣れておくこと。前期に習うC言語については1年後期以降卒業するまで関連授業等で取り扱うので、途中分からないところがあれば、すぐに解決しておくこと。		【総合達成度】		
教科書	杉江日出澄, 吉田郁子, 「誰にも分かるパソコンの実践学習 Windows2000版」, 培風館。				
参考図書					
関連科目	プログラミング, アルゴリズム, コンピュータ				
総合評価	達成目標の(1)~(3)について、定期試験, 発表会, およびレポートで評価する。 総合評価は、4回の定期試験の平均60%, 発表会20%, レポート20%とする。 総合評価が60点以上を合格とする。		【総合評価】 点		

教科目名 工学実験 I (Engineering Experiments I)

学科名・学年 : 制御情報工学科工学科 2年

単位数など : 必修 2単位 (前期2コマ, 学習保証時間 39時間)

担当教員 : 松本 慎平, 手島規博

授業の概要			
<p>本実験ではLEGOブロックを用いたロボット製作を通して、「ものづくり」の感覚, プログラムによる制御, ロボットの基本となる機械部品の動きを学ぶ。制御情報工学科の実験・演習は, コンピュータ, 電気電子, 情報通信を3つ柱として, 5年間で学べるように計画している。本実験はこれら要素全てをバランスよく含み, 今後の実験・演習を進めていく上での基礎的な力となる。また, グループでの作業を中心に行うことにより, 技術者として大切なコミュニケーション能力を高め, 共同での目標設定, 役割分担, 問題解決を体験していただく。さらに, 実験の結果をレポートとしてまとめることにより論理的な文章作成能力を養い, プレゼンテーションを通してわかりやすい発表技術を修得する。</p>			
達成目標と評価方法			大分高専目標(D1)
<p>(1) 与えられた要件を満たすロボットを作製できる。(作品, レポート)                  (2) ロボットを制御するプログラムを作成できる。(作品, レポート)                  (3) グループ製作をとおして, 協力して問題を解決できる。(レポート, 実験日誌)                  (4) 実験のレポートを決められた様式で論理的に記述できる。(レポート)                  (5) プレゼンテーションで作製したロボットの特長をアピールできる。(発表)</p>			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	1. オリエンテーション ・実験室の使い方 ・Legoブロックの貸与	○ この教科の概要, 計画, 実験, 出欠に関する一般的注意, 報告書(レポート)の作成方法の説明を受け, 概要を理解する。	【理解の度合い】
2	2. ブロックの組立, ロボット制御の基本制御方法	○ 実験室の使い方を理解する。	【理解の度合い】
3	3. NQC言語	○ プログラム作成手順を理解する	
4	4. センサ	○ 各種センサの利用方法を理解する	
4	5. 自立型ロボット (レポート1提出)	○ ライトレースロボットを作製する ○ ロボット間での赤外線通信を行う	
5-8	6. RoboCup Jr. の説明, ロボットの構想, 設計 7. サッカーロボット製作(1) 8. サッカーロボット製作(2) 9. RoboCup Jr. (サッカー試合) (レポート2提出)	○ サッカーを行うロボット2台を4名のグループで協力して作製する  ○ RoboCup Jr. の公式ルールに従ってサッカーのリーグ戦を行う	【理解の度合い】
9-11	10. アイデアロボット(1) 11. アイデアロボット(2) 12. アイデアロボット(3)	○ 複数名で好きなテーマを決めロボットを作製する —	【理解の度合い】
12	13. プレゼンテーション準備	○ 製作したロボットについて, 発表をする	
13	14. プレゼン, ブロック整理 (作品, レポート3, 実験日誌提出)		
履修上の注意	<p>(1) 積極的に取り組むこと。質問はいつでも受け付ける。                  (2) プログラムはC言語で作成するので, 十分に復習しておくこと。                  (3) 使用するLEGOブロック, パソコンは大切に扱うこと。                  (4) 作業着(上着)を着用すること。                  (5) レポートや作品, 実験日誌は期限を守って提出し, 指示された要件を必ず満たすこと。                  詳細は, 「実験・演習マニュアル」に示す。</p>		【総合達成度】
教科書	「実験・演習マニュアル」…制御情報工学科で作成。実験実施時に配布。		
参考図書	C言語関連の本。		
関連科目	情報処理I, 情報処理II, 工学実験基礎, 工学実験II~VI		
総合評価	<p>総合評価は, 達成目標の(1)-(5)について①レポート40点(1:10点, 2:10点, 3:20点)②発表20点③作品(アイデア, 完成度)20点④実験への取り組み状況(実験準備, 実験日誌)20点で行う。総合評価が60点以上を合格とする。                  なお, 「レポート」および「実験への取組」の評価項目詳細は, 「実験・演習マニュアル」に定める。</p>		【総合評価】 点

(出典: シラバス)

教科目名 PBL (Project-Based Learning)

学科名・学年 : 土木工学科 5年 (教育プログラム 第2学年 ◎科目)

単位数など : 選択 1単位 (前期1コマ, 学習保証時間 19.5時間)

担当教員 : 都市システム工学科主任, 卒業研究担当教員

授業の概要			
PBL (Project-Based Learning) は、従来の講義・演習のスタイルではなく、社会で問題となっている課題に対して学生(チーム)が主体となって社会に役立つプロジェクトを提案する形式の授業(プロジェクト学習)である。はじめに各担当教員から学生にテーマを与える。このとき幾つかのインストラクションはするが、あくまで学生が自主的に学習して授業の準備をする。1つのテーマに対して幾つかのグループに分かれて作業を分担し授業を行うが、主に学生同士の質疑応答で授業は進行する。幾つかのディスカッションを経た後、プロジェクト案となる最終報告書を提出する。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(D2), JABEE 目標(d2c)(d2d)(e)(h)	
(1) 自ら分担した役割を果たすとともに、チーム内外におけるディスカッションを通じて、問題をチームで解決する力を身につける。(実施報告書, プレゼンテーション) (2) 与えられた期日までに計画的に仕事をすすめ、まとめることができる。(実施報告書, プレゼンテーション) (3) 技術者が経験する実務上の問題点と課題を理解し、適切に対応できる。(プレゼンテーション, 最終報告書) (4) 複雑な問題や社会の要求に対して、土木工学の基礎的な知識・技術および情報を利用し、創造性を発揮して課題を探索し、組み立て、解決策をデザインすることができる。(最終報告書)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	ガイダンス 課題の提示と内容の検討, 役割分担の決定	○授業の内容と進め方を解説する。 ○各チームに与えられるテーマの例(平成18年度実施例)は次の(1)~(9)である。ただし、チーム内の話し合いによって、テーマの変更や絞込みは可能である。 (1) 多自然型川づくりについて (2) 自動車騒音の弊害とその対策について (3) 交通バリアフリー法と大分市内の歩道のバリアフリーについて (4) 由布市挾間町において発生した斜面崩壊事例に関する一考察 (5) マンション耐震強度偽装問題の実状と対応 (6) 大分県の震災と水害 (7) 地球温暖化および都市化が環境生態系に与える影響について (8) 海水淡水化施設の普及可能性の検討 (9) フラクタル性が見られる建築物に関する調査	【理解の度合い】
2-5	討議, 資料収集, 現地調査, 実験	○チーム内で分担された役割に応じてプロジェクト案作成のための資料収集, 現地調査, 実験等を行う。	
6-10	プロジェクト案の検討, 総合ディスカッション資料の作成	○プロジェクト案を作成するために、チーム内でのディスカッションや、報告書およびプレゼンテーション資料の作成等を行う。	
11-12	総合ディスカッション	○複数のチームに対して、それぞれのチームが自身のチームのプロジェクト案についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションする。お互いに評価することで、それぞれのプロジェクト案の問題点を明らかにする。	
13	最終報告書の作成・提出	○総合ディスカッションでの問題点を解決し、最終報告書をまとめ提出する。	
履修上の注意		本教科目はあくまで学生が主体となって授業を進めるので、学生一人一人の自主的かつ積極的な取組みと、チーム内でのコミュニケーションやチームワークが重要である。また、毎回の授業ごとに実施報告書を提出すること。	【総合達成度】
教科書		なし	
参考図書		図書館の蔵書および文献検索システム, 教員の個人図書, インターネット等を積極的に利用すること。	
関連科目		実験実習, 校外実習, プロジェクト実験 I (専攻科), 実務実習 (専攻科)	
総合評価		達成目標の(1)~(4)について最終報告書, 実施報告書, プレゼンテーションで評価する。総合評価=0.7×(最終報告書)+0.1×(実施報告書)+0.2×(プレゼンテーション)成績は基本的にはチームごとに評価するが、取組み状況に応じて個人ごとの評価も加味する(総合評価の20%を上限として減点する)。総合評価が60点以上を合格とする。	【総合評価】 点

(出典: シラバス)

資料 5 - 2 - ③ - 3

現地閲覧資料を参照

(出典：学生課資料 インターンシップ受入依頼先)

## 資料5-2-③-4

## インターンシップの参加実績

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
機械工学科	32	22	32	30
電気電子工学科	26	21	22	32
制御情報工学科	11	21	14	23
都市システム工学科	33	23	21	30

(出典：校外実習証明書より作成)

## 資料5-2-③-5

## 大分工業高等専門学校における校外実習、課題学修及び特別学修に関する細則

制 定 平成16年4月1日  
最終改正 平成19年3月14日

(中略)

## 第2章 校外実習

(校外実習機関)

**第2条** 校外実習（以下「実習」という。）を行う国若しくは地方公共団体の機関又は企業等（以下「実習機関」という。）は、校長が選定する。

(実習の学年、時期及び期間)

**第3条** 実習は、原則として第4学年の夏季休業中に行う。

2 期間は、1日を6時間と換算し5日（30時間）以上とする。

(実習の手続等)

**第4条** 実習をしようとする学生は、所定様式の「校外実習願」を学科主任に提出しなければならない。

2 校長は、各学科主任の選考に基づき、実習機関へ推薦を行うものとする。

3 校長は、実習終了後、「校外実習証明書（所定様式又は実習機関所定のもの）」の提出を実習機関へ依頼するものとする。

4 実習を終了した学生は、所定様式の「校外実習報告書」を所定の期日までに学科主任に提出しなければならない。

(中略)

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

## 資料5-2-③-6

## 4S実習報告会

H18.9.13 合併講義室

	学 生 氏 名	企 業	発 表
1			08:50-08:58
2			08:58-09:06
〃			〃
3			09:06-09:14
4			09:22-09:30
5			09:38-09:46
6			09:46-09:54
7			09:46-09:54
8			09:54-10:02
9			10:02-10:10
10			10:10-10:18
休 憩			
11			10:30-10:38
12			10:46-10:54
〃			〃
13			10:54-11:02
14			11:02-11:10
15			11:10-11:18
16			11:18-11:26
17			11:26-11:34
18			11:34-11:42
19			11:42-11:50
20			11:50-11:58
21			11:58-12:06

発表はスライド使用。1社=8分の時間を厳守すること。

(出典：制御情報工学科資料)

(分析結果とその根拠理由)

実験や卒業研究等で学生が自ら考え問題解決する指導を行い、創造性を育む取り組みを実施している。インターンシップに参加できるように学校が受入れ先を確保し、積極的に参加させている。

以上より、創造性を育む教育方法の工夫やインターンシップの活用が実施されている。



観点5-3-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価と単位認定は学生便覧に明記され(資料5-3-①-1)、新入生オリエンテーション、各学年の教務説明会及び教育プログラム説明会で周知している(資料5-3-①-2)。定期試験の答えは学生へ返却し、試験解説・指導期間を設け採点基準と目的達成度を確認できるようになっている(資料5-3-①-3)。規定により単位不認定となる評価Dの科目は再試験及び追認試験により、再度、単位取得の機会が設けられている。一方、卒業研究、校外実習及び課題学修は、合否による判定が行われる。科目の評価方法はシラバスに明記され、授業開設時担当教員が説明している。各教員作成の総合成績評価表(資料5-3-①-4)、試験問題、模範解答、学生の手答案是な期間資料室に保管されている。

進級判定、卒業判定は欠課時数(資料5-3-①-5)と成績資料(資料5-3-①-6)を基に、教員会議で進級及び卒業要件の充足を確認した(資料5-3-①-7)学生に対し校長より行われている(資料5-3-①-8)。

### 資料5-3-①-1

#### 大分工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了等に関する内規(抜粋)

制 定 平成16年4月1日  
最終改正 平成19年5月8日

(中略)

#### 第4章 本校授業科目の学業成績の評価

(定期試験)

第5条 各授業科目については、学期の中間に行う中間試験及び学期末に行う期末試験(以下「定期試験」という。)を、それぞれ一定期間を定め実施するものとする。

2 平素の成績で評価できる科目及び実技、実習、実験、製図等については、定期試験の一部又は全部を行わないことがある。

3 正当な理由なくして定期試験を受けなかった者に対しては、当該科目の試験の成績を0点とする。

4 懲戒処分のため定期試験を受けられなかった者の当該科目の試験の成績は、0点とする。

5 定期試験中に不正行為を行った者の当該期間中に行われた全科目の試験の成績は、0点とする。

(追試験)

第6条 病気その他やむを得ない理由により定期試験を受けなかった者には、追試験を行うことができる。

2 追試験に関する事項は、別に定める。

(学業成績の評価)

第7条 学業成績は、定期試験成績、平素の試験成績、出席状況等を考慮し、100点法による評点により評価する。

なお、卒業研究、校外実習及び課題学修は、「合格」、「不合格」の評語により評価する。

2 評点は必要に応じて、[A]、[B]、[C]、[D]の評語によって読み替えることができ、その対応は、次の基準による。

評 点	評 語
80点以上	A
79点以下70点以上	B
69点以下60点以上	C
59点以下	D

#### 第5章 単位修得の認定

(本校授業科目の単位修得の認定)

第8条 履修したものと認められた授業科目の学年の成績評価が「C」以上又は「合格」のときは、単位を修得したものと認定する。

- 2 校外実習及び課題学修の評価が「合格」のときは、単位を修得したもものとして認定する。  
(単位修得の追認)

**第9条** 評価「D」で前学年までに履修したことが認められる科目を持つ者は、その科目について追認試験を受けることができる。

- 2 追認試験に合格した場合の評価は、「D」を「C」に改める。  
3 追認試験に関する事項は、別に定める。

(再試験)

**第10条** 成績評価が60点未満の者には、再試験を行うことができる。

- 2 再試験に合格した場合の評価は、60点とする。  
3 再試験に関する事項は、別に定める。

(他の高等専門学校における授業科目)

**第11条** 学則第15条の規定に基づく、他の高等専門学校における授業科目の履修及び単位認定については、別に定める。

(特別学修)

**第12条** 学則第16条の規定に基づく、高等専門学校以外の教育施設等における学修等は、「特別学修」とし、その申請及び単位認定については、別に定める。

## 第6章 学年の課程修了及び卒業の認定

(学年の課程修了の認定)

**第13条** 学年の課程修了は、教員会議の議を経て校長が認定する。

- 2 前項の認定に当たっては、原則として次の各号に該当していなければならない。
- 一 第1学年から第3学年までにおいては、当該学年の出席日数が出席すべき日数の2/3以上であること。
  - 二 第1学年から第3学年までにおいては、当該学年の特別活動を履修したと認められること。
  - 三 第1学年から第4学年までにおいては、当該学年の必修履修科目および必修科目は、すべて履修したと認められること。
  - 四 第4学年においては、第1学年から第3学年までの必修科目は、すべて修得したと認められること。
  - 五 第5学年においては、第4学年および第5学年の必修科目は、すべて修得したと認められること。また、選択科目は教育課程表において定められた単位数以上あるいは科目数以上を修得していること。
  - 六 第1学年から第4学年までにおいては、通算修得単位数が、次の表の単位数以上であること。

学 年	単 位 数
1	25
2	59
3	93
4	129

- 七 第5学年においては、通算修得単位数が167単位以上(そのうち、一般科目については、75単位以上、専門科目については、82単位以上とする。)であること。
- 八 第4学年と第5学年の授業として開講されている科目の修得単位数の合計が62単位以上であること。
- 3 第4学年に編入学した者及び第3学年に編入学した外国人留学生については、当該学科の前学年までの単位は修得したものとみなす。
- 4 第2項第六号の通算修得単位数には、第8条第2項、第11条及び第12条の規定に基づいて認定された単位は算入しない。  
(原学年に留められた者の措置)

**第14条** 学年の課程修了の認定をされない者は、原学年に留められるものとする。

- 2 第1学年から第3学年までにおいて、原学年に留められた場合における前年度の修得単位は無効とする。ただし、原学年に留められた者が、当該学年の途中で他の教育機関等へ進路変更するため退学を希望する場合、前年度の修得単位は有効とする。
- 3 第4学年又は第5学年において、原学年に留められた場合における前年度の修得単位は有効とする。なお、単位を修得した科目についても再履修できるものとし、再履修した科目の評価は、前年度と比較して、上位の評価を最終評価とする。
- 4 第4学年又は第5学年において、原学年に留められた場合における前年度の未修得単位は、その履修を含め無効とする。
- 5 引き続き同一学年に在籍できる年数は、2年とする。ただし、休学の場合は、この限りでない。  
(卒業の認定)

**第15条** 第5学年の課程を修了した者の卒業は、教員会議の議を経て、校長が認定する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

平成19年度 前期行事予定表

[ 4月1日 ~ 6月30日 ]

★は備考参照のこと □は講義をしない日 2007/1/18

日	4 月		5 月		6 月	
	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科	本 科	専 攻 科
1	春季休業	春季休業	火3		金6	(前期中間試験日程発表)
2			水4		土7	
3			木5	憲法記念日	日8	
4			金6	みどりの日	月9	願書受付(学力)
5	学校運営委員会 教員会議		土7	こどもの日	火10	
6			日8		水11	補講日
7			月9	校内授業公開週間	木12	補講日
8	開寮	開寮	火10		金13	確約書締切(推薦) ↓(願書17時必着)
9	入学式、編入学式 入学式	★入学式 入寮式	水11		土14	
10	始業式(対面式) ★オリエンテーション		木12		日15	
11	授業開始	授業開始	金13		月16	前期中間試験
12	↑ 新入生オリエンテーション 2-3年 健康診断	健康診断 ☆教育プログラム説明会(1-2年)	土14		火17	補講日
13	4-5年 健康診断		日15		水18	
14			月16		木19	
15			火17		金20	
16			水18	後援会総会	土21	
17			木19	教員会議	日22	
18			金20		月23	
19			土21		火24	
20	↑ 追認試験		日22		水25	
21			月23		木26	教員会議
22	開校記念日	開校記念日	火24	球技大会	金27	
23			水25		土28	選抜試験(学力)
24			木26	★学生会総会	日29	
25			金27		月30	
26			土28		火31	
27		履修願締切	日29		水1	専攻科運営委員会(判定)
28			月30		木2	専攻科運営委員会(判定)
29	昭和の日	昭和の日	火31		金3	合格発表(学力)
30	振替休日	振替休日	水1		土4	
31			木2		日5	
備	★10日1年、指導学生 健康診断 指導学生(教育プログラム説明会) 12日-4年教育プログラム説明会 13日-5年教育プログラム説明会 前期祭生総会	★9日オリエンテーション ☆12日学位申請説明会(2年) 前期祭生総会	3年~専2年生バイク安全運転教育 教育・心理検査(1年生) ★24日16:10~学生会総会 寮防災訓練 高体連 クリーン週間	九大オープンキャンパス 寮防災訓練 クリーン週間	2年生バイク安全運転教育 1~3年特別講演 ★テクノフォーラム(日)	

(出典：平成19年度行事予定表)

平成19年度 前期行事予定表  
[ 7月1日 ~ 9月30日 ]

★は備考参照のこと □は講義をしない日

2007/1/18

7 月			8 月			9 月		
日	本 科	専 攻 科	日	本 科	専 攻 科	日	本 科	専 攻 科
1			水	夏季休業	夏季休業	土		
2			木			日		
3			金	↓ 編入学願書締切り		月	(前期末試験日程発表)	(前期末試験日程発表)
4			土			火		
5			日			水		
6			月			木		
7	オープンキャンパス	オープンキャンパス	火			金		
8			水			土		
9			木			日		
10			金			月		
11			土			火		
12			日			水		
13			月	↑ 休業	↑ 休業	木	↑ 前期末試験	↑ 前期末試験
14	↑ 地区高専テニス大会 (八代高専)		火			金		確約書締切(学力)
15			水			土		
16	海の日	海の日	木			日		
17	月曜日授業		金	↓	↓	月	敬老の日	敬老の日
18	補講日	補講日	土			火		
19	★高専大会社行会 教員会議 第1次閉寮	2年生懇談会	日			水		
20	↑ 臨時休業 九州地区高専大会	臨時休業	月			木	教員会議	
21	(都城高専他) 夏季休業	夏季休業	火			金		
22			水			土		
23	最終閉寮	最終閉寮	木			日	秋分の日	秋分の日
24			金	編入学試験		月	振替休日	振替休日
25			土			火	↑ 試験解説・指導期間 履修願締切(2年)	↑ 試験解説・指導期間 履修願締切(2年)
26			日			水		
27			月			木	↓ 午後学生アンケート	↓ (午後学生アンケート) アンケート後実務実習報告会
28			火	運営委員会(判定) 教員会議(判定)		金	予備日	予備日
29			水	開寮 合格発表	開寮	土		
30	↑ 編入学試験願書受付		木	高専大会等報告会16:10~		日		
31			金					
備考	中学校訪問 ★19日 1限 HR・清掃 2限以降 社行会 終了後放課 九州地区高専英語弁論大会(有明) 西日本高専弓道大会(鹿児島高専) 九州地区高専少林寺拳法大会 西日本高専空手道大会(佐世保) ★18日 英語試験ACE(1年) オープンキャンパス(7月第1土曜又は日曜日)	19日第1次閉寮	中学校訪問 全国高専体育大会(四国地区) 全国高専将棋大会(沼津高専)			中学校訪問		

(出典：平成19年度行事予定表)

資料5-3-①-4

担当教員氏名 [ ] (楷書、自筆)  
 5年 制御情報工学科 ( ) 総合成績評価表 No.1  
 総授業回数 ( ) 回

シラバスの成績評価

出席番号	氏名	欠課時数	定期試験													再試験	総合評価			
			前期中間	前期期末	後期中間	後期期末	定期試験平均	小テスト1	小テスト2	小テスト3	小テスト4	小テスト5	小テスト6	レポート1	レポート2			レポート3	夏季課題・レポート平均	
1																				
2																				
3																				
4																				
5																				
6																				
7																				
8																				
9																				
10																				
11																				
12																				
13																				
14																				
15																				
16																				
17																				
18																				
19																				
20																				
21																				
22																				
23																				
24																				
25																				
26																				
27																				
28																				
29																				
30																				
31																				
32																				
33																				
34																				

度数分布表

評価	人数
A	名
B	名
C	名
D	名
計	名

(出典：学生課資料 平成19年度総合成績評価表)

資料5-3-①-5

現地閲覧資料を参照

(出典：教員会議資料 平成18年度科目別欠課一覧)

資料5-3-①-6

現地閲覧資料を参照

(出典：教員会議資料 平成18年度成績一覧表)

資料5-3-①-7

平成18年度第15回教員会議議事録（議事概要）

日 時 平成19年3月16日（金） 9:30～11:50  
 場 所 会 議 室  
 出 席 者 別紙のとおり

《議 題》

1. 平成18年度1年生～4年生の進級判定について

教務主事から、成績一覧表に基づき、1年生～4年生までの履修・未履修が正しいか確認を行った結果、.....#記号が付いた科目を未履修と判定した。

.....

次に、参考資料の「大分工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了等に関する内規」第13条第2項の各号に基づき、出席日数、科目、単位数等の確認を行い、該当クラス担任より補足説明が行われたが、.....修了学年の判定を「大分工業高等専門学校教務に関する申し合わせ」第5に基づき、資料1に記載のとおり判定した。

なお、次のとおり資料1の訂正を行った。

.....

また、リストアップされた者以外は、進級と判定した。

おって、対象学生については、本日午後より意思表示の確認を行うと報告があった。

（出典：教員会議資料）

資料5-3-①-8

平成18年度第14回教員会議議事録（議事概要）

日 時 平成19年3月14日（水） 15:00～16:45  
 場 所 会 議 室  
 出 席 者 別紙のとおり

《議 題》

1. 平成18年度卒業判定について

教務主事から、資料1の成績一覧表に基づき説明があり、\$の付いた科目について、未履修を確定し、それ以外の科目については履修と認めた。

続いて、参考資料の「学業成績の評価及び課程修了等に関する内規」第13条第2項第5号、第7号及び第8号に基づき、順次判定を行い、.....161名全員の卒業が承認された。

（出典：教員会議資料）



(分析結果とその根拠理由)

成績評価・単位認定規定を明記した学生便覧を学生に配布し、新入生にはオリエンテーションで、各学年には教務説明会及び教育プログラム説明会で周知している。定期試験後は、答案返却と解説を行って評価を確認している。進級・卒業判定は提出された資料に基づき、規定を満たすか教員会議で確認している。科目の評価方法はシラバスに明記し、担当教員から学生へ周知している。

以上より、成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されている。また、成績評価、単位認定、進級判定、卒業判定が適切に実施されている。

**観点5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。**

(観点に係る状況)

1～3学年の志学段階では、年間を通じて毎週特別活動を設け、履修を義務付けている(資料5-4-①-1)。特別活動の内容は、人間の素養の涵養を目的として主体的集団活動を教務主事室と各学年のクラス担任が協力して計画立案している(資料5-4-①-2)。特別活動は単位認定されないが、クラス担任が出欠報告を行い進級判定基準の一つとしている。

資料5-4-①-1

### 大分工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了等に関する内規

制 定 平成16年4月1日  
最終改正 平成19年5月8日

(中略)

#### 第6章 学年の課程修了及び卒業の認定

(学年の課程修了の認定)

**第13条** 学年の課程修了は、教員会議の議を経て校長が認定する。

2 前項の認定に当たっては、原則として次の各号に該当していなければならない。

- 一 第1学年から第3学年までにおいては、当該学年の出席日数が出席すべき日数の2/3以上であること。
- 二 第1学年から第3学年までにおいては、当該学年の特別活動を履修したと認められること。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料 5 - 4 - ① - 2

2007 年度 (平成 19 年度) 前期特活予定表

水曜日：14：30～15：20

学年 月日	1 年 (水) 4 限				2 年 (水) 4 限				3 年 (水) 4 限			
	M	E	S	C	M	E	S	C	M	E	S	C
4	11	特活計画 クラス役員 選出	自己紹介	自己紹介	クラス委員選出 特活計画	前期特活 計画立案	クラス役員 選出	各種委員の 選出 & 都市 対抗 M 科賞表彰	特活計画	特活計画 委員決め	特活計画	ポータルフォ リオの確認 と整理
	18	教務主事室扱い (合併)			プロジェクト X (友の死を 感えて)	プロジェク ト X	前期特活 行事決め	戦争に ついて	校外清掃 活動	寮生活を 紹介します	プロジェク ト X	前期特活 計画
	26	図書館オリエンテーション		担任扱い	教務主事室扱い (合併)				クラスマッチ	クラスマッチ	校外清掃 活動	プロジェク ト X
5	2	ロボコン 2005 全国大会ビデオ上映 & ロボコン 2007 ルール説明 (合併講義室、90分)			GWの課題	「砂漠で遭 難したら」 危機にどう 対処する か？」	「砂漠で遭 難したら・ 生と死を 考える」		情熱大陸	校外清掃 活動	クラスマッチ	クラスマッチ
	9	クラスマッチ	私の尊敬 する人物 (6班) 1-ウ	クラスマッチ	夢を語ろう	ロボコン 2005 全国大会ビデオ上映 & ロボコン 2007 ルール説明 & 学生主事室関係校則復習 (合併講義室、90分)		ロボコン	自己評価	セクハラと は?	レクリエー ション	校外清掃 活動
	23	数学第 1 回到達度試験			数学第 1 回到達度試験				ロボコン 2005 全国大会ビデオ上映 & ロボコン 2007 ルール説明 & 学生主事室関係校則復習 (合併講義室、90分)			
	30	学生相談室扱い (合併)			校外清掃 活動	クラスマッチ	タグラグビ ーゲーム	クラスマッチ	自分たちの 可能性	図書館へ 行こう	S 科教員 講話	前期中間試 験の対策
6	20	公共の場で のエチケット	キャッチ商 法に気をつ けよう (5 班) 2-ウ	クラブ活動 探検報告	C 科先生へ のインタビ ュー	クラスマッチ	環境汚染を なくそう!	クラスマッチ	家族に ついて (1)	教務主事室扱い (合併)		
	27	校則をもつ と知ろう	クラスマッチ	クラス役員 の役割を知 ろう	クラスマッチ	M 科教員 講話	夏休みの計 画を立てよ う!	定期試験結 果の分析と 反省	家族に ついて (2)	3M 球技大会	プロジェク ト X	夏休みの 計画
7	4	数学第 2 回到達度試験			数学第 2 回到達度試験				先輩の進路 I	クラスマッチ	高専祭 クラス企画	クラスマッチ
	11	携帯電話所 持の是非を 語る	クラス担任 扱い	砂漠で遭難 したら	ポータルフォ リオのチェッ ク	たばこの害について (保健室から：合併)	夏休みの 目標発表	人間の絆に ついて	クラスマッチ	高専祭準備	クラスマッチ	今週、印象 に残った新 聞記事の紹 介
9	5	クラスマッチ	アルバイトの 意義と問題 点を語る (7 班) 1-イ	公共の場で のエチケット	クラスマッチ	1 分間 スピーチ	校外清掃 活動	たばこの害について (保健室から：合併)	1 分半スピー チ夏休み 報告会	高専祭打ち 合わせ	スーパーコン ピュータと は?	ディベート
	12	定期試験 対策	能率的な学 習法 (4 班) 3-7	交通安全に ついて考え よう	高専祭計画	前期を振り 返って	私の体験を 語る (古里 の自慢しち やいます)	前期末試験 の傾向と対 策	国際感覚と より広い視 野の育成	先輩の進路 II	生と死につ いて	校外研修オ リエンテー ション

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

志学段階に特別活動の時間を設け、計画的に実施している。出欠が報告され、進級判定基準の一つとなっている。活動内容は技術者としての倫理が身につくようなテーマを考慮して計画、実践している。

以上より、教育課程の編成で、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されている。

観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

倫理観のある実践的技術者育成のため、1～3学年までの志学段階では、毎朝ショートホームルームを実施し、遅刻や服装等の生活態度を確認している。また、各学年で教員の指導により清掃を行っている。11月に開催される保護者会では、学習状況とともに、生活面の指導が行われている(資料5-4-②-1)。学生主体の学生会組織の運営や活動に参加することで人間の素養が育成される。学生会準則には学生の人間形成が目的であることが明記され、自主的に活動するようになっている(資料5-4-②-2)。学生会組織は学生会規約に基づき構成され、学生会の任務も規約に従って自主的に遂行されている(資料5-4-②-3)。課外活動は学生会細則で基本的な事項だけを取り決めており、具体的な活動に関しては学生が選任した部長の指導の下に自主的に行っている(資料5-4-②-4)。こうした課外活動で自主的集団生活を送ることで、人間の素養が育成される。その他新入生オリエンテーションでの合宿研修では、入学直後から学生同士が協調して活動するようになる(資料5-4-②-5)。2～4学年では学年または学科ごとに秋季研修を実施し、特に4年生は研修先を企画し、工場見学等で見聞を広めるとともに、集団行動を通して人間の素養を育成している(資料5-4-②-6)。

資料5-4-②-1

## 平成18年度保護者会実施要領

1. 期 日
2. 対 象
3. 実施内容

平成18年11月14日(火)  
1～4年生・専攻科1年生保護者

## 資料2

## 1～3年生の保護者

時 間	項 目	場 所
8:40～	受 付	第1体育館
9:00～9:30	全体懇談会 (1)校長あいさつ (2)教務主事説明 (3)質疑応答 ※出席教職員:校長, 教務主事, 学生主事補, 寮務主事, 専攻科長, 事務部長, 庶務課長, 会計課長, 学生課長, 1～3年担任教員	第1体育館
9:40～	個別面談(クラス別懇談会を実施するクラス有)	教員室等
11:00～	寮生保護者は寮関係教員と全体懇談会 ※出席教職員:寮務主事, 主事補, 学生課長, 寮務係長	第1体育館
12:30～	寮生保護者は寮関係教員との個別面談 ※出席教職員:寮務主事, 主事補, 寮務係長	学寮管理棟

## 4年生の保護者

時 間	項 目	場 所
8:40～	受 付	総合研究棟ホール
9:00～9:30	進路関係説明会 ※出席教職員:進路指導委員長, 各専攻主任, 4学科主任, 4年各担任(学年主任[司会])	合併講義室
9:40～	個別面談(クラス別懇談会を実施するクラス有)	教室等
11:00～	寮生保護者は寮関係教員と全体懇談会 ※出席教職員:寮務主事, 主事補, 学生課長, 寮務係長	第1体育館
12:30～	寮生保護者は寮関係教員との個別面談 ※出席教職員:寮務主事, 主事補, 寮務係長	学寮管理棟

## 専攻科1年生の保護者

時 間	項 目	場 所
9:30～	受 付	総合研究棟ホール
9:40～	専攻科全体懇談会及び個別面談 ※出席教職員:専攻科長, 専攻主任	アカデミックホール
11:00～	寮生保護者は寮関係教員と全体懇談会 ※出席教職員:寮務主事, 主事補, 学生課長, 寮務係長	第1体育館
12:30～	寮生保護者は寮関係教員との個別面談 ※出席教職員:寮務主事, 主事補, 寮務係長	学寮管理棟

(出典:教員会議資料)

## 資料5-4-②-2

## 大分工業高等専門学校学生会準則

- 第1条** 学生会は、学校の指導のもとに学生の自発的な活動を通じてその人間形成を助長し、高等専門教育の目的達成に資することを目的とする。
- 第2条** 学生会は、前条の目的を実現するために次の各号に掲げる目標の達成に努めなければならない。
- 一 学生生活を楽しく、豊かで規律正しいものにし、よい校風をつくる態度を養う。
  - 二 健全な趣味や豊かな教養を養い、個性の伸長を図る。
  - 三 心身の健康を助長し、余暇を活用する態度を養う。
  - 四 学校生活における集団の活動に積極的に参加し、自主性を育てるとともに、集団生活において、協力し、民主的に行動する態度を養う。
  - 五 学校生活において、自治的能力を養うとともに公民として資質を向上させる。

(出典:学生便覧)

## 資料5-4-②-3

## 大分工業高等専門学校学生会規約

(中略)

**第2章 組織****第11条** 本会の目的達成のために、次の組織を置く。(別表)

- 一 学生総会
- 二 評議会
- 三 役員
- 四 局及び部
- 五 会計監査

**第12条** 本会に次の役員を置く。

- |    |          |     |
|----|----------|-----|
| 一  | 会長       | 1人  |
| 二  | 副会長      | 1人  |
| 三  | 総務       | 4人  |
| 四  | 書記       | 4人  |
| 五  | 会計       | 4人  |
| 六  | 風紀       | 若干名 |
| 七  | 広報       | 若干名 |
| 八  | 美化       | 若干名 |
| 九  | 体育局長     | 1人  |
| 十  | 文化局長     | 1人  |
| 十一 | 高専祭実行委員長 | 1人  |
| 十二 | 音楽祭実行委員長 | 1人  |
| 十三 | 交通安全委員長  | 1人  |

**第12条の2** 会長及び副会長は全会員の投票によって選出し、他の役員は会長がこれを委嘱する。**第13条** 役員は学生総会(以下「総会。」という。)、評議会の議決事項を執行し、その各任務を次のように定める。

- 一 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
- 二 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその任務を代行する。
- 三 総務は一般庶務を取扱う。
- 四 書記は各種の会議等の記録を保管する。
- 五 会計は本会の出納事務、予算、決算その他会計に関する一般事務を取扱う。
- 六 風紀は学園の風紀活動にあたり、会員の品位向上に努める。
- 七 広報は学園に関する内外の動向及び本会の活動について会員に周知する。
- 八 美化は学園の緑化活動にあたり、会員の緑化意識の向上に努める。
- 九 高専祭実行委員長は高専祭実行委員を代表し、高専祭に関する業務を統轄する。
- 十 音楽祭実行委員長は音楽祭実行委員を代表し、音楽祭に関する業務を統轄する。
- 十一 交通安全委員長は交通安全委員を代表し、会員の交通安全意識の向上に努める。

(出典:学生便覧)

## 大分工業高等専門学校学生会細則

(中略)

**第 4 章 局 部**

- 第 2 2 条** 部長は、学年初め会長の示す日までに、部員名簿を総務に提出しなければならない。
- 第 2 3 条** 部長は、会長の示す日までに、その部の年間の予算書を会計に提出しなければならない。
- 2 正当な理由なく、期日までに提出しないときは、予算を割当てられないことがある。
- 第 2 4 条** 部の財産は部長が管理する。
- 第 2 5 条** あらたに部を設立しようとするときは、10 人以上の発起人を必要とし、その設立要望書に連名押印して、これを総務のもとに提出しなければならない。
- 第 2 6 条** 評議会において、次の事項に該当すると認められた場合、部は活動停止を命ぜられ、一切の行為を禁止される。
- 一 部の目的に反し、義務を怠ったとき
  - 二 部員が著しく減少したとき
  - 三 その他正当と認められる理由があったとき
- 第 2 7 条** 活動を停止した部に対して、評議会は正当な理由があればその停止を解くことができる。
- 第 2 8 条** 活動停止期間が 1 年を越すときは、評議会はその部の廃止を総会に提案するものとする。
- 第 2 9 条** 部相互の希望により評議会がこれを認めたとき、又は評議会が適当と認めたときは当該部長にはかたうて評議会は部の合併を総会に提案する。
- 第 3 0 条** 部への加入、又は部からの脱退は拘束されないが、会員はいずれかの部に所属することが望ましい。

(出典：学生便覧)

資料5-4-②-5

○平成19年度新入生オリエンテーション日程表（晴天時）

第1日目 4月12日（木）

時刻	研修内容	担当者	備考
8:40	ホームルーム	クラス担任	出席点呼
8:45	集合（高専玄関前）		
9:00	高専出発		*乗はバス車内に持って乗る
11:30	マリソカルチャーセンター着		バス内で校歌の練習等
11:40	入所式	館長、学生主事、学生会長、総務副部長、班長	マリソホール 歓迎の挨拶、諸注意等
12:00	昼食（弁当持参）	美化係（ゴミ片付け）	各研修室にて昼食
	入室	生活係	研修室1, 2, 3, 4, 5 M, E, S, C, 学生会
13:00	校長講話	校長	*体操服に着替え、運動靴を履いてマリソホールへ集合
14:00	高平山ハイキング	クラス担任、指導学生	マリソホール
	*学生会、M, E, S, C, 学生会の順番とする。		1階レストハウス前広場集合
17:00	打ち合わせ	学生主事室、学生会、リーダー	ゲーム
17:30	M, C: 夕食（班別） E, S: 入浴（班別） 入浴: 17:15~18:15	食事係 保健係	研修室6 （リーダー、学生会は待機）
18:15	E, S: 夕食（班別） M, C: 入浴（班別） 入浴: 18:15~19:15	食事係 保健係	2階レストラン「ふうもん」 4階団体浴室
19:20	学生会扱い	学生会、指導学生	同上
20:30	ホームルーム（健康調査を含む）（~21:30）	クラス担任	マリソホール 学校紹介、高専生のあり方、校則、学習、校歌コンクール等
21:10	指導学生反省会	学生主事室、クラス担任、学生会、指導学生	研修室1, 2, 3, 4 M, E, S, C
22:00	就寝準備 消灯・就寝		研修室6  *21:30までは体操服で行動

第2日目 4月13日（金）

時刻	研修内容	担当者	備考
6:30	起床		洗面、寝具整頓
7:00	朝のつどい、散策	学生会、指導学生、班長	1階レストハウス前広場 ラジオ体操、健康チェック
7:30	朝食、自由行動	食事係	2階レストラン
8:30	学生主事講話	学生主事	マリソホール
9:00	4学科紹介、クラブ紹介	学生会、指導学生	マリソホール
10:30	M, C: カッター・カヌー（~12:30） E, S: プラネタリウム（~11:30） クラスマッチ（~12:30）	センター職員 センター職員 学生会、指導学生、レク係	1階レストハウス前広場 （水着・短パン用意） プラネタリウム館 （出席番号順） 体育館
12:30	昼食（一斉）、自由行動	食事係	2階レストラン
13:30	カウンセラー講話	カウンセラー	マリソホール
14:30	E, S: カッター・カヌー（~16:30） M, C: プラネタリウム（~15:30） クラスマッチ（~16:30）	センター職員 学生会、指導学生、レク係	1階レストハウス前広場 （水着・短パン用意） プラネタリウム館 （出席番号順） 体育館
16:30	学生会扱い	学生会、指導学生	体育館（ゲーム）
17:30	E, S: 夕食（班別） M, C: 入浴（班別） 入浴: 17:15~18:15	食事係 保健係	2階レストラン 4階団体浴室
18:15	M, C: 夕食（班別） E, S: 入浴（班別） 入浴: 18:15~19:15	食事係 保健係	同上
19:30	ホームルーム（健康調査を含む）（~20:30）	クラス担任	研修室6, 7, 8, 9 M, E, S, C
21:10	指導学生反省会	学生主事室、クラス担任、学生会、指導学生	研修室6 *20:30までは体操服で行動
22:00	就寝準備 消灯・就寝		

第3日目 4月14日（土）

時刻	研修内容	担当者	備考
6:30	起床		洗面、寝具整頓
7:00	朝のつどい	学生会、指導学生、班長	1階レストハウス前広場 ラジオ体操、健康チェック
	科毎の反省	指導学生	
7:40	朝食、自由行動	食事係	2階レストラン
8:30	退所準備および清掃	指導学生、生活係、美化係	部屋の整理・整頓 部屋の鍵: 班長→指導学生 リーダー→総務副部長
8:50	退所点検	センター職員、指導学生	*各部屋の班長1名が残り、他の学生は荷物を持って各研修室へ移動
9:10	ボランティア活動	教職員、学生会、班長、美化係	海浜清掃奉仕 （軍手・帽子着用）
10:30	反省会（感想文）（~11:00）	クラス担任	研修室1, 2, 3, 4, 5 M, E, S, C, 指導学生
11:30	退所式	館長、学生主事、学生会長、リーダー	マリソホール *荷物は1階のロビーに置いてマリソホールへ移動
12:00	昼食（一斉）、自由行動	食事係	2階レストラン *荷物は1階のロビーに置いておく
13:00	退所		
15:30	帰校、解散		

（出典：H19年度新入生オリエンテーションの葉）

## 資料5-4-②-6

## 平成18年度旅行計画

学年	学科	日程	研修先	人員	引率教員	交通機関
2年	全	10月4日(水)	スペースワールド いのちのたび博物館 (北九州市)	170名 (教員4+ 学生166)	菊川裕規 藤原宏浩 蘆田和男	貸切バス
3年	M	10月2日(月)～ 10月3日(火)	瀬戸農業公園 伊万ビクターズハウス 内子町散策 (国立大洲青少年交流の家泊)	43名 (教員2+ 学生41)	松本佳久 薬師寺輝敏	貸切バス フェリー
	E	10月4日(水)～ 10月5日(木)	行橋市研修センター「ゆくとピア」 電源開発若松総合事業所 安川電機 (ゆくとピア泊)	44名 (教員2+ 学生42)	清武博文 山口貴之	貸切バス
	S	10月2日(月)～ 10月3日(火)	呼子七ツ釜 九州電力玄海エネルギーパーク 九州国立博物館 太宰府天満宮 キュービー鳥栖工場 (波戸岬少年自然の家泊)	39名 (教員2+ 学生37)	佐藤達郎 手島規博	貸切バス
	C	10月3日(火)～ 10月4日(水)	北九州エコタウン 海の中道奈多海水淡化センター 海の中道海浜公園：マリンワールド (福岡県立社会教育総合センター泊)	44名 (教員2+ 学生42)	高見徹文 前稔	貸切バス
4年	M	10月2日(月)～ 10月4日(水)	鉄道総合技術研究所 機械産業記念事業団 横浜ベイブリッジ 海洋研究開発機構横浜研究所 日本科学未来館 (関東方面)	38名 (教員2+ 学生36)	伊東徳周 軽部周	航空機 貸切バス
	E	10月2日(月)～ 10月4日(水)	筑波宇宙センター 機械産業記念事業団(TEPIA) 東芝府中事業所 富士通川崎工場 (関東方面)	40名 (教員2+ 学生38)	本田久平 佐々木透	航空機 貸切バス
	S	10月2日(月)～ 10月4日(水)	富士通川崎工場 三菱プレジジョン鎌倉事業所 八景島シーパラダイス 東芝科学館 (関東方面)	39名 (教員2+ 学生36)	金田嗣教 嶋田浩和	航空機 貸切バス
	C	10月2日(月)～ 10月4日(水)	明石海峡大橋 野島断層保存館 黒部ダム 山梨リニア実験センター (関西、甲信方面)	41名 (教員2+ 学生39)	一宮一夫 川内谷一志	新幹線 JR 貸切バス

(出典：教員会議資料)

(分析結果とその根拠理由)

倫理観のある実践的な技術者育成のため、毎朝ショートホームルームでの出席の確認と、遅刻や欠席等の生活指導が行われている。その他にも学生会活動や研修旅行等の社会見学や集団行動を通して人間の素養を育成する努力が行われている。

以上より、教育の目的に照らし、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されている。



## ＜専攻科課程＞

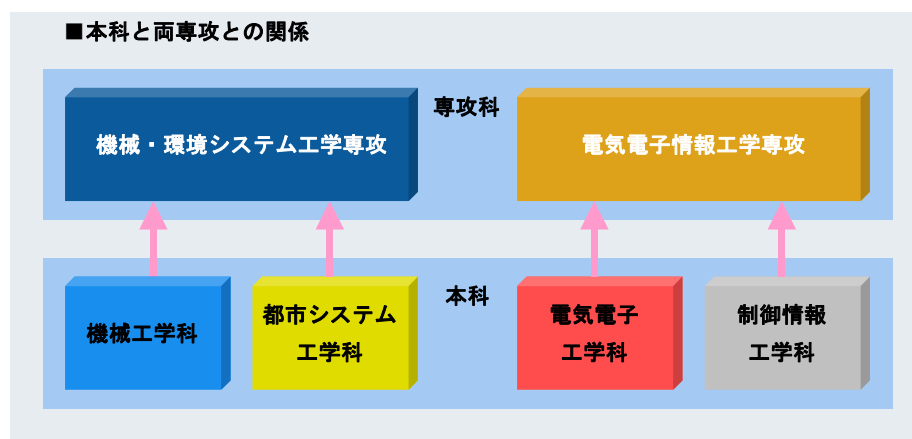
観点5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

基準1で述べたように、学習・教育目標は、準学士課程と専攻科課程でその水準は違うものの一貫した思想の基に設定され、これに基づく教育課程も一貫した連携を持っている。

専攻科は準学士課程の機械工学科と都市システム工学科（土木工学科）を母体とする機械・環境システム工学専攻と、電気電子工学科と制御情報工学科を母体とする電気電子情報工学専攻からなる（資料5-5-①-1）。専攻ごとに教育方針を定め、母体学科で修得した学力を基礎とした高度な技術教育の実施を謳い、専攻科学生便覧と募集要項に記載している（資料5-5-①-2）。学習・教育目標と専攻科の教育方針を基に教育課程を編成し、準学士課程と専攻科課程に配置した科目間連携は授業科目系統図（資料5-1-①-4）や「学習・教育目標を達成するために必要な主要科目の流れ」（資料5-5-①-3）に示している。シラバスには科目ごとに「関連科目」の欄があり、授業科目系統図に示した連携科目の他にも、重要な関連科目を記している（資料5-5-①-4）。

資料5-5-①-1



(出典：専攻科パンフレット)

資料5-5-①-2

### (2) 教育方針

#### 【機械・環境システム工学専攻】

本科の課程で修得した基礎学力を基盤に、地球環境に関わる各種環境問題にも対応可能な学術的・融合的教育を行います。機械システムと環境システムとの相互依存関係や高度な機械生産システムに深く関わる教育を展開することにより、より専門性に富み、相互に関連した高度技術社会における自己実現能力を育み、グローバルな視野に立った発想力、構想力、実現化能力を有した研究・開発型創造的技術者を育成します。

#### 【電気電子情報工学専攻】

電気、電子、情報工学に関連する分野において本科で修得した幅広い専門知識と技術を基礎として、より高度な技術教育を行います。すなわち、電気電子工学・情報工学に関連する新技術の独創的かつ実践的な研究開発能力や解析能力を持ち、高度情報化された先端技術及び学術技術の研究開発や問題解決に対応でき、視野が広く国際性豊かな学問の出来る実践的技術者を育成します。

(出典：専攻科学生便覧)

資料5-5-①-3

別表1-2 学習・教育目標を達成するために必要な主要科目の流れ（機械工学科、機械・環境システム工学専攻）  
2002(平成14)年度の入学生用 平成19年度 専攻科1年生

学習・教育目標	授業科目							
	4年		5年		専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A1)	日本語表現法 (○)	日本語表現法 (○)	哲学概説 (○)	思想史 (○)	歴史学特論 I (◎)	歴史学特論 II (◎)	哲学特論 I (◎)	哲学特論 II (○)
(A2)			歴史学概説 (○)	歴史学概説 (○)	特別研究 (○)	特別研究 (○)	プロジェクト演習 IV (○)	特別研究 (○)
(B1)	応用数学 I (◎)	応用数学 I (◎)			物理学特論 (◎)	離散数学 (○)	数値計算 (○)	
	応用数学 II (◎)	応用数学 II (◎)			プロジェクト演習 I (○)	プロジェクト演習 I (○)	環境化学 (◎)	
	応用物理 II (◎)	応用物理 II (◎)			微分幾何学 I (○)	微分幾何学 II (○)	宇宙地球科学 (○)	
(B2)	機械設計法 II (◎) ①	機械設計法 II (◎) ①	メカトロニクス (◎) ①	機械力学 (◎) ④			プロジェクト演習 III (○)	
	コンピュータ概論 (○) ②	情報工学 (◎) ②	材料力学 III (◎) ④	計測工学 (◎) ①				
	材料学 II (◎) ③	材料学 II (◎) ③	機械力学 (◎) ④	伝熱工学 (◎)				
	材料力学 II (◎) ④	材料力学 II (◎) ④	熟機関工学 (◎)	熟機関工学 (◎)				
	熱力学 (◎) ④	熱力学 (◎) ④	設計製図 III (◎)	流体機械 (○) ④				
	水力学 (◎) ④	水力学 (◎) ④	トライボロジー (○)	自動制御 (◎) ①				
	設計製図 I (◎) ①	設計製図 II (◎) ①						
(C1)	日本語表現法 (◎)	日本語表現法 (◎)	卒業研究 (◎)	卒業研究 (◎)	特別研究 (○)	特別研究 (○)	特別研究 (○)	特別研究 (○)
	独語 I (○)	独語 I (○)					プロジェクト演習 IV (◎)	
(C2)	応用英語 (○)	応用英語 (○)	工業英語 (○)	工業英語 (○)	プロジェクト演習 II (○)	プロジェクト演習 II (○)	現代英語 I (◎)	現代英語 II (◎)
			資格英語 II (○)	資格英語 II (○)				
			英語文化 II (○)	英語文化 II (○)				
(D1)	工学実験 II (◎)	工学実験 II (◎)	工学実験 III (◎)	卒業研究 (◎)	プロジェクト実験 I (◎)	プロジェクト実験 II (◎)		
			卒業研究 (◎)					
(D2)	工学実験 II (○)	工学実験 II (○)	工学実験 III (○)		プロジェクト実験 I (◎)	プロジェクト実験 II (○)		
	校外実習 (○)				実務実習 (○)			
(E1)					材料力学特論 (○)	材料強度学 (○)	弾性力学 (○)	量子材料学 (○)
					熟物質移動論 (○)	流体力学 (○)	環境制御工学 (○)	熟流体計測 (○)
					塑性加工学 (○)	交通システム工学 (○)	地域計画学 (○)	振動制御工学 (○)
					環境材料学 (○)	水環境工学 (○)	不連続体力学 (○)	コック-構造学特論 (○)
					耐震工学特論 (○)		非線形解析学 (○)	
					景観デザイン (○)			
					環境地盤工学 (○)			
(E2)	コンピュータ概論 (○) ②	電気電子回路 (○)	ネットワーク概論 (○) ②	社会システム (○) ⑤	プロジェクト実験 I (◎)	情報ネットワーク (◎) ②		生産システム特論 (○)
						環境保全工学 (◎) ⑤		廃棄物処理工学 (○)
						センサ工学 (○)		
(E3)					特別研究 (◎)	特別研究 (◎)	特別研究 (◎)	特別研究 (◎)

別表1-2 学習・教育目標を達成するために必要な主要科目の流れ（土木工学科、機械・環境システム工学専攻）  
2002(平成14)年度の入学生用 平成19年度 専攻科1年生

学習・教育目標	授業科目							
	4年		5年		専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A1)	日本語表現法 (○)	日本語表現法 (○)	哲学概説 (○)	思想史 (○)	歴史学特論 I (◎)	歴史学特論 II (◎)	哲学特論 I (◎)	哲学特論 II (○)
(A2)			歴史学概説 (○)	歴史学概説 (○)	特別研究 (○)	特別研究 (○)	プロジェクト演習 IV (○)	特別研究 (○)
(B1)	応用数学 I (◎)	応用数学 I (◎)			物理学特論 (◎)	離散数学 (○)	数値計算 (○)	
	応用数学 II (◎)	応用数学 II (◎)			プロジェクト演習 I (○)	プロジェクト演習 I (○)	環境化学 (◎)	
	応用物理 II (◎)	応用物理 II (◎)			微分幾何学 I (○)	微分幾何学 II (○)	宇宙地球科学 (○)	
(B2)	コック-構造学 (◎) ①	道路工学 (○) ①	設計製図 (◎) ①	設計製図 (◎) ①			プロジェクト演習 III (○)	
	コンピュータ概論 (○) ②	コック-構造学 (◎) ①	鋼構造学 (○) ①	振動学 (○) ①				
	衛生工学 (◎) ③	数値演算法 (○) ②	応用水理学 (○) ④	防災工学 (◎) ⑤				
	構造力学 II (◎) ④	衛生工学 (◎) ③	防災工学 (◎) ⑤	環境計画 (○) ⑤				
	水理学 II (◎) ④	構造力学 II (◎) ④	河川工学 (◎) ⑤	河川工学 (◎) ⑤				
	土質力学 II (◎) ④	水理学 II (◎) ④		交通工学 (○) ⑤				
	都市計画 (◎) ⑤	都市計画 (◎) ⑤						
(C1)	日本語表現法 (◎)	日本語表現法 (◎)	卒業研究 (◎)	卒業研究 (◎)	特別研究 (○)	特別研究 (○)	特別研究 (○)	特別研究 (○)
	独語 I (○)	独語 I (○)					プロジェクト演習 IV (◎)	
(C2)	応用英語 (○)	応用英語 (○)	資格英語 II (○)	資格英語 II (○)	プロジェクト演習 II (○)	プロジェクト演習 II (○)	現代英語 I (◎)	現代英語 II (◎)
			英語文化 II (○)	英語文化 II (○)				
(D1)	実験実習 (◎)	実験実習 (◎)	卒業研究 (◎)	卒業研究 (◎)	プロジェクト実験 I (◎)	プロジェクト実験 II (◎)		
(D2)	実験実習 (○)	実験実習 (○)	PBL (◎)		プロジェクト実験 I (◎)	プロジェクト実験 II (○)		
	校外実習 (○)				実務実習 (○)			
(E1)					材料力学特論 (○)	材料強度学 (○)	弾性力学 (○)	量子材料学 (○)
					熟物質移動論 (○)	流体力学 (○)	環境制御工学 (○)	熟流体計測 (○)
					塑性加工学 (○)	交通システム工学 (○)	地域計画学 (○)	振動制御工学 (○)
					環境材料学 (○)	水環境工学 (○)	不連続体力学 (○)	コック-構造学特論 (○)
					耐震工学特論 (○)		非線形解析学 (○)	
					景観デザイン (○)			
					環境地盤工学 (○)			
(E2)	コンピュータ概論 (○) ②	電気電子回路 (○)	ネットワーク概論 (○) ②	ロボット工学 (○)	プロジェクト実験 I (◎)	情報ネットワーク (◎) ②		生産システム特論 (○)
						環境保全工学 (◎) ⑤		廃棄物処理工学 (○)
						センサ工学 (○)		
(E3)					特別研究 (◎)	特別研究 (◎)	特別研究 (◎)	特別研究 (◎)

別表1-2 学習・教育目標を達成するために必要な主要科目の流れ（電気電子工学科、電気電子情報工学専攻）

2002(平成14)年度の入学生用 平成19年度 専攻科1年生

学習・教育目標	授 業 科 目							
	4 年		5 年		専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A1)	日本語表現法 (○)	日本語表現法 (○)	哲学概説 (○)	思想史 (○)	歴史学特論 I (◎)	歴史学特論 II (◎)	哲学特論 I (◎)	哲学特論 II (○)
(A2)			歴史学概説 (○)	歴史学概説 (○)	特別研究 (○)	特別研究 (○)	宇宙地球科学 (◎)	特別研究 (○)
(B1)	応用数学 I (◎)	応用数学 I (◎)			微分幾何学 I (○)	微分幾何学 II (○)	数値計算 (○)	
	応用数学 II (◎)	応用数学 II (◎)			物理学特論 (◎)	離散数学 (○)	環境化学 (◎)	
	応用物理 II (◎)	応用物理 II (◎)			フロンティア演習 I (○)	フロンティア演習 I (○)	宇宙地球科学 (○)	
(B2)	電気回路 III (◎)①	電気回路 IV (◎)①	自動制御 (◎)①	自動制御 (◎)①	電子材料工学 (○)③	フロンティア演習 III (○)③	フロンティア演習 III (○)	
	電気回路 IV (◎)①	コンピュータ II (○)②	高圧工学 (○)	システム工学 (○)②				
	デジタル回路 II (◎)②	電子工学 (◎)③	送配電工学 (○)	デジタル信号処理 (○)				
	コンピュータ I (◎)②	電磁気学 III (◎)④	ハードウェア (○)					
	電子工学 (◎)③	電気機器工学 II (◎)④	電気応用 (○)					
	電磁気学 III (◎)④	通信工学 I (◎)	通信工学 II (○)					
	電気機器工学 II (◎)④							
	通信工学 I (◎)							
(C1)	日本語表現法 (◎)	日本語表現法 (◎)	卒業研究 (◎)	卒業研究 (◎)	特別研究 (○)	特別研究 (○)	特別研究 (○)	特別研究 (○)
	独語 I (○)	独語 I (○)					フロンティア演習 IV (◎)	
(C2)	応用英語 (○)	応用英語 (○)	資格英語 II (○)	資格英語 II (○)	フロンティア演習 II (○)	フロンティア演習 II (○)	現代英語 I (◎)	現代英語 II (◎)
			英語文化 II (○)	英語文化 II (○)				
(D1)	工学実験 III (◎)	工学実験 III (◎)	電子回路設計 (○)①	電気設計 (○)①	フロンティア実験 I (◎)	フロンティア実験 II (◎)	フロンティア実験 III (◎)	
			卒業研究 (◎)	工学実験 IV (◎)				
(D2)	工学実験 III (○)	工学実験 III (○)		工学実験 IV (○)	フロンティア実験 I (◎)	フロンティア実験 II (○)	フロンティア実験 III (○)	
	校外実習 (○)				実務実習 (○)			
(E1)					電磁気学特論 I (○)	ハードウェアロジック II (○)	光画像工学 (○)	電磁気学特論 II (○)
					ハードウェアロジック I (○)	生体情報工学 I (○)	生体情報工学 II (○)	デジタル回路 (○)
					システム数理工学 (○)	システム制御理論 (○)	ハードウェアロジック (○)	信号回復 (○)
					システム制御理論 (○)	信号処理論 (○)	アルゴリズム特論 (○)	プラズマ工学 (○)
					情報セキュリティ (○)			
(E2)					ハードウェア概論 (○)③	フロンティア実験 I (◎)	情報ネットワーク (◎)②	生産システム特論 (○)
					社会システム (○)⑤		環境保全工学 (◎)⑤	廃棄物処理工学 (○)
					メカトロニクス (○)		センサ工学 (○)	
(E3)						特別研究 (◎)	特別研究 (◎)	特別研究 (◎)

別表1-2 学習・教育目標を達成するために必要な主要科目の流れ (制御情報工学科、電気電子情報工学専攻)

2002(平成14)年度の入学生用 平成19年度 専攻科1年生

学習・教育目標	授 業 科 目							
	4 年		5 年		専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A1)	日本語表現法 (○)	日本語表現法 (○)	哲学概説 (○)	思想史 (○)	歴史学特論 I (◎)	歴史学特論 II (◎)	哲学特論 I (◎)	哲学特論 II (○)
(A2)			歴史学概説 (○)	歴史学概説 (○)	特別研究 (○)	特別研究 (○)	宇宙地球科学 (◎)	特別研究 (○)
(B1)	応用数学 I (◎)	応用数学 I (◎)	確率統計 (○)	確率統計 (○)	微分幾何学 I (○)	微分幾何学 II (○)	数値計算 (○)	
	応用数学 II (◎)	応用数学 II (◎)	数値解析 (○)	数値解析 (○)	物理学特論 (◎)	離散数学 (○)	環境化学 (◎)	
	応用物理 II (◎)	応用物理 II (◎)			フロンティア演習 I (○)	フロンティア演習 I (○)	宇宙地球科学 (○)	
(B2)	電子回路特論 (◎)①	電子回路特論 (◎)①	ロボティクス I (◎)①	ロボティクス II (○)①	電子材料工学 (○)③	フロンティア演習 III (○)③	フロンティア演習 III (○)	
	デジタル回路 I (◎)①	デジタル回路 II (○)①	計算機アーキテクチャ (◎)①	計算機アーキテクチャ (◎)①				
	情報工学 (◎)②	情報工学 (◎)②	ソフトウェア設計 (◎)①	ソフトウェア設計 (◎)①				
	フロンティア演習 I (◎)②	ネットワーク (○)②	画像工学 (○)②	電磁気学特論 (○)④				
	電磁気学 (◎)④	電磁気学 (◎)④	データ通信工学 (○)②	電磁気学特論 (○)④				
(C1)	日本語表現法 (◎)	日本語表現法 (◎)	卒業研究 (◎)	卒業研究 (◎)	特別研究 (○)	特別研究 (○)	特別研究 (○)	特別研究 (○)
	独語 I (○)	独語 I (○)					フロンティア演習 IV (◎)	
(C2)	応用英語 (○)	応用英語 (○)	英語文化 II (○)	英語文化 II (○)	フロンティア演習 II (○)	フロンティア演習 II (○)	現代英語 I (◎)	現代英語 II (◎)
	英語特論 I (○)	英語特論 I (○)	資格英語 II (○)	資格英語 II (○)				
			英語特論 II (○)	英語特論 II (○)				
(D1)	工学実験 V (◎)	工学実験 VI (◎)	卒業研究 (◎)	卒業研究 (◎)	フロンティア実験 I (◎)	フロンティア実験 II (◎)	フロンティア実験 III (◎)	
(D2)	工学実験 V (○)	工学実験 VI (○)			フロンティア実験 I (◎)	フロンティア実験 II (○)	フロンティア実験 III (○)	
	校外実習 (○)				実務実習 (○)			
(E1)					電磁気学特論 I (○)	ハードウェアロジック II (○)	光画像工学 (○)	電磁気学特論 II (○)
					ハードウェアロジック I (○)	生体情報工学 I (○)	生体情報工学 II (○)	デジタル回路 (○)
					システム数理工学 (○)	システム制御理論 (○)	ハードウェアロジック (○)	信号回復 (○)
					システム制御理論 (○)	信号処理論 (○)	アルゴリズム特論 (○)	プラズマ工学 (○)
					情報セキュリティ (○)			
(E2)					ハードウェア概論 (○)③	フロンティア実験 I (◎)	情報ネットワーク (◎)②	生産システム特論 (○)
					社会システム (○)⑤		環境保全工学 (◎)⑤	廃棄物処理工学 (○)
					メカトロニクス (○)		センサ工学 (○)	
(E3)						特別研究 (◎)	特別研究 (◎)	特別研究 (◎)

(出典：システムデザイン工学プログラム履修の手引き)

資料 5 - 5 - ① - 4

教科目名 システム数理工学 (Dynamical Systems)

学科名・学年 : 電気電子情報工学専攻 1年 (教育プログラム 第3学年 ○科目)  
 単位数など : 選択 2単位 (前期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)  
 担当教員 : 佐藤秀則

授業の概要			
さまざまな現象は有限あるいは無限の要素からなる集まりの相互作用として理解され、そのような仕組み全体をシステムと称している。また、システムの時間変化を強調する場合は力学系(ダイナミカル・システム)と称することもある。講義では、微分方程式もしくは差分方程式で表わされる力学系を取り扱う。まずいろいろな力学系の例を示した上で、基本的事項を説明する。次に線形系の力学系の解法を学ぶ。その後、線形でない場合にも適用できる力学場の流れという考え方を通して、力学系の基礎的な概念を学んだ上で非線形システムの不動点とその性質を表現する線形化方程式について学び、その後さらに、パラメータの入った力学系の理論として分岐現象を紹介する。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(E1), JABEE 目標(d2a)	
(1) 多くの動的な現象を数式やベクトル場で表現できる。(定期試験)			
(2) 線形の力学系の解を導くことができる。(定期試験)			
(3) 力学系の枠の中で捉え、現象の内部にどのような構造があるかを理解できる。(定期試験)			
回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1	第1章 微分方程式とその解 1.1 力学系の例Ⅰ	第1章 いろいろな力学系 様々な場面で遭遇した力学系についてもう一度復習し、これらが微分方程式や差分方程式で表わされることを学ぶ。	【理解の度合い】
2	1.2 力学系の例Ⅱ		
3	1.3 初期値問題		
4	第2章 線形の常微分方程式 2.1 自律系線形微分方程式Ⅰ	第2章 線形力学系 線形微分方程式についてその解法を学び、その係数でつくる行列の性質によって解の挙動が分類できることを理解する。	
5	2.2 自律系線形微分方程式Ⅱ		
6	2.3 自律系線形微分方程式Ⅲ		
7	2.4 自律系線形微分方程式Ⅳ		
8	2.5 非自律系線形微分方程式		
9	第3章 力学場と積分曲線 3.1 力学場と流れ	第3章 力学場と積分曲線 線形でない場合には、微分方程式の一般的な解法はないが、力学系を表わす力学場の流れを通して、勾配系やハミルトン系の性質を理解する。	
10	3.2 勾配系		
11	3.3 ハミルトン系		
12	第4章 安定性と極限周期軌道 4.1 極限周期軌道	第4章 安定性と極限周期軌道 力学場の流れを考えたときに特徴的な集合に平衡点と周期解がある。ここではこれらの性質を探る方法を学び、さらに力学系の分岐現象について解説する。	
13	4.2 構造安定性と分岐		
14	復習		
15	前期期末試験		【試験の点数】
	前期期末試験の解答と解説		点
履修上の注意		特になし。	【総合達成度】
教科書	高橋陽一郎, 「力学と微分方程式」, 岩波書店		
参考図書	丹羽敏雄, 「微分方程式と力学系の理論入門」, 遊星社		
事前準備学習	線形代数学, 微分方程式, 電気回路の過渡現象の基礎を復習しておくこと。		
関連科目	微分方程式, 電気回路Ⅲ(Ⅱ科), デジタル信号処理(Ⅱ科), 電気回路特論(S科), 制御工学(S科), ロボティクス(S科), システム制御理論(専攻科), 生体情報工学Ⅰ(専攻科)		【総合評価】
総合評価	達成目標の(1)~(3)に関する試験をし、60点以上を合格とする。	点	

(出典：専攻科シラバス)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科課程の二専攻は、各々準学士課程の二つの学科を母体に構成され、更なる技術教育の実施が教育方針に謳われている。また、授業科目系統図や「学習・教育目標を達成するために必要な主要科目の流れ」、シラバスの関連科目欄から、準学士課程と専攻科課程の教育課程の連携が十分考慮されている。

観点5-5-②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点に係る状況）

教育理念や学習・教育目標では技術に通じることはもとより、豊かな人間性を育むことや科学、両専攻に共通の専門技術に通じることを謳っており、これに呼応し専攻科では大きく専門科目、一般科目、共通専門科目に分類し、全体にバランスのとれた編成を行っている（資料5-5-②-1）。一方JABEE 認定を受けた本校のシステムデザイン工学プログラムでは全科目を人文科学・社会科学・外国語系科目群、数学・自然科学系科目群、情報技術・基礎工学科目群、専門工学科目群に大分類して編成している（資料5-5-②-2）。これらをバランスよく修得するために必修科目を設けるとともに、学生の資質を伸張させる多くの選択科目を設けている。

それぞれの学習・教育目標に対応した科目は学習・教育目標達成のため必要な主要科目の流れ（資料5-5-①-3）、授業科目系統図（資料5-1-①-4）やカリキュラム図（資料5-5-②-3）を利用しながら、科目の新設や廃止、必修・選択の別、実施時期、科目間の連携について検討している。授業科目系統図により各科目が科目間の連携を意識した授業内容を組立て、全体として体系性を考慮した教育課程を編成している。

授業内容は担当教員が教育課程編成趣旨に沿い、教育目的を達成すべく考案しており、シラバスに授業の概要、学習・教育目標との対応、達成目標と評価方法、授業内容、関連科目、事前準備学習、総合評価等を詳細に記載し（資料5-5-①-4）開示している。シラバスの記載内容については教務部委員と教育プログラム委員会のエビデンス部会のメンバーが必要な項目が書かれているか等を点検している。

各科目の担当教員及び授業内容は大学評価・学位授与機構により審査され、適切なものとして認定されている。

## 資料5-5-②-1

## 機械・環境システム工学専攻教育課程表

平成19年度入学生から適用

区分	授業科目	単位数	学年別配当 (単位数)				必修 選択 の別	備 考	
			1年		2年				
			前期	後期	前期	後期			
一般科目	哲学特論Ⅰ	2			2		必修		
	哲学特論Ⅱ	2				2	必修		
	歴史学特論Ⅰ	2	2				必修		
	歴史学特論Ⅱ	2		2			必修		
	現代英語Ⅰ	2			2		必修		
	現代英語Ⅱ	2				2	必修		
	微分幾何学Ⅰ	2	2				選択		
	微分幾何学Ⅱ	2		2			選択		
一般科目開設単位小計	16	4	4	4	4				
			8		8				
共通専門科目	技術者倫理	2			2		必修		
	物理学特論	2	2				必修		
	宇宙地球科学	2			2		必修		
	環境化学	2			2		必修		
	環境保全工学	2		2			必修		
	情報ネットワーク	2		2			必修		
	離散数学	2		2			選択		
	数値計算	2			2		選択		
	プロジェクト演習Ⅰ	2	1	1			選択		
	プロジェクト演習Ⅱ	2	1	1			選択		
プロジェクト演習Ⅲ	1			1		選択			
プロジェクト演習Ⅳ	1			1		必修			
共通専門科目開設単位小計	22	4	8	10	0				
			12		10				
専門科目	特別研究	14	3	3	4	4	必修		
	プロジェクト実験Ⅰ	1	1				必修		
	プロジェクト実験Ⅱ	1		1			必修		
	A	実務実習	2	2				選択	
		生産システム特論	2				2	選択	
		非線形解析学	2			2		選択	
		廃棄物処理工学	2				2	選択	
		水環境工学	2		2			選択	
		環境制御工学	2			2		選択	
	B	環境材料学	2	2				選択	
		材料力学特論	2	2				選択	
		弾性力学	2			2		選択	
		材料強度学	2		2			選択	
		塑性加工学	2	2				選択	
		量子材料学	2				2	選択	
		流体力学	2		2			選択	
		熱流体計測	2				2	選択	
		熱物質移動論	2	2				選択	
		センサ工学	2		2			選択	
		振動制御工学	2				2	選択	
		耐震工学特論	2	2				選択	
		景観デザイン	2	2				選択	
		地域計画学	2			2		選択	
環境地盤工学		2	2				選択		
不連続体力学		2			2		選択		
交通システム工学		2		2			選択		
コンクリート構造学特論	2				2	選択			
専門科目開設単位小計	64	20	14	14	16				
			34		30				
全科目開設単位合計	102	28	26	28	20	102			

## 電気電子情報工学専攻教育課程表

平成19年度入学生から適用

区分	授業科目	単位数	学年別配当 (単位数)				必修 選択 の別	備 考
			1年		1年			
			前期	前期	前期	前期		
一般科目	哲学特論Ⅰ	2			2		必修	
	哲学特論Ⅱ	2				2	必修	
	歴史学特論Ⅰ	2	2				必修	
	歴史学特論Ⅱ	2		2			必修	
	現代英語Ⅰ	2			2		必修	
	現代英語Ⅱ	2				2	必修	
	微分幾何学Ⅰ	2	2				選択	
微分幾何学Ⅱ	2		2			選択		
一般科目開設単位小計	16	4	4	4	4			
		8		8				
共通専門科目	技術者倫理	2			2		必修	
	物理学特論	2	2				必修	
	宇宙地球科学	2			2		必修	
	環境化学	2			2		必修	
	環境保全工学	2		2			必修	
	情報ネットワーク	2		2			必修	
	離散数学	2		2			選択	
	数値計算	2			2		選択	
	プロジェクト演習Ⅰ	2	1	1			選択	
	プロジェクト演習Ⅱ	2	1	1			選択	
プロジェクト演習Ⅲ	1			1		選択		
プロジェクト演習Ⅳ	1			1		必修		
共通専門科目開設単位小計	22	4	8	10	0			
		12		10				
専門科目	特別研究	14	3	3	4	4	必修	
	プロジェクト実験Ⅰ	1	1				必修	
	プロジェクト実験Ⅱ	1		1			必修	
	プロジェクト実験Ⅲ	1			1		必修	
	実務実習	2	2				選択	
	電磁気学特論Ⅰ	2	2				選択	
	電磁気学特論Ⅱ	2			2		選択	
	プラズマ工学	2			2		選択	
	パワーエレクトロニクスⅠ	2	2				選択	
	パワーエレクトロニクスⅡ	2		2			選択	
	センサ工学	2		2			選択	
	電子材料工学	2	2				選択	
	インテリジェントマテリアル	2		2			選択	
	システム数理工学	2	2				選択	
	システム制御理論	2	2				選択	
	光画像工学	2			2		選択	
	信号回復	2			2		選択	
	生体情報工学Ⅰ	2		2			選択	
	生体情報工学Ⅱ	2			2		選択	
	信号処理論	2	2				選択	
	デジタル回路	2			2		選択	
	オペレーティングシステム	2			2		選択	
	情報セキュリティー	2	2				選択	
アルゴリズム特論	2			2		選択		
生産システム特論	2			2		選択		
廃棄物処理工学	2			2		選択		
専門科目開設単位小計	61	20	12	13	16			
		32		29				
全科目開設単位合計	99	28	24	27	20			

(出典:大分工業高等専門学校規則集 学則別表第3)

資料 5-5-②-2

システムデザイン工学プログラム科目構成表

【平成13年度入学生用】

区分		MC		E S			
		M	C	E	S		
人文科学・社会科学・外国語系科目群	共通	4年	日本語表現法(2), 応用英語(2), 独語 I (2), 経済学概説(2), 法学概説(2), 資格英語 I (2), 英会話 I (1), 英読文化 I (1), 英語演習 I (2)				
		5年	哲学概説(1), 思想史(1), 資格英語 II (2), 英読文化 II (2), 独語 II (2), 中国語(1), 英語演習 II (1), 英会話 II (1), 心理学(1), 英語作文(1), オーラルコミュニケーション(1), 英語講読(1)				
	専1	歴史学特論 I (2), 歴史学特論 II (2), プロジェクト演習 II (2)					
	専2	哲学特論 I (2), 哲学特論 II (2), 技術者倫理(2), プロジェクト演習 IV (1), 現代英語 I (2), 現代英語 II (2)					
	専門	4年	技術論(1)		工業英語(2)		
数学・自然科学系科目群	共通	4年	応用数学 I (2), 応用数学 II (2), 化学 II (2), 数学演習(2), 保健・体育(2)				
		5年	保健・体育(1)				
		専1	物理学特論(2), 離散数学(2), プロジェクト演習 I (2)				
		専2	数値計算(2), 宇宙地球科学(2), 環境化学(2)				
	専門	4年	微分積分 II (2)	応用物理 II (2)	応用物理 II (2)	応用物理 II (2)	
情報技術・基礎工学科目群	① 設計・システム系科目群	専門	4年	機械設計法 II (2)	コンクリート構造学(2), 道路工学(1)	電気回路 III (1), 電気回路 IV (2)	電子工学(2), 制御工学(1), 自動設計製図(2)
			5年	メカトロニクス(1), 自動制御(1), 品質管理(1)	設計製図(4), 振動学(1)	自動制御(2), システム工学(1), 電子回路設計(1), 電気設計(1)	ロボティクス(2), 電気回路特論(2)
	② 情報・論理系科目群	共通	専1	情報ネットワーク(2)*★			
		専門	4年	コンピュータ概論(1)*, 情報工学(1)	コンピュータ概論(1)*, 数値演算法(1)	デジタル回路 II (1), コンピュータ I (1), 電子回路(1), コンピュータ II (1)	情報処理(1), ハードウェア工学(1), コンピュータ構造学(2)
			5年				データ通信工学(1), 画像工学(1)
	③ 材料・バイオ系科目群	共通	5年	バイオテクノロジー概論(1)*			
		専門	4年	材料学 II (2)	衛生工学(2)	電子工学(1)	
	専1		電子材料工学(2)				
	④ 力学系科目群	専門	4年	材料力学 II (2), 熱力学(2), 水力学(2)	構造力学 II (2), 水理学 II (2), 土質力学(2)	電磁気学 III (2), 電気機器工学 II (2)	電磁気学特論(2), 応用力学(1), 固体力学(1)
			5年	材料力学 III (1), 機械力学(2), 材料力学演習(1), 水力学特論(1), 熱力学特論(1), 流体機械(1)	応用水理学(1)		電磁気学特論(2)
	⑤ 社会技術系科目群	共通	5年	社会システム(1)*			
		専1	環境保全工学(2)*				
		専門	4年		都市計画(2)		
	5年			環境計画(1), 防災工学(2), 交通工学(1), 河川工学(2)			
	⑥ 実験研究その他の科目群	共通	4年	校外実習(1)			
			専2	プロジェクト演習 III (1)			
		専門	4年	設計製図 I (2), 設計製図 II (2), 工学実験 II (4)	実験実習(4)	通信工学 I (2), 工学実験 III (4), 発変電工学(1), 電気演習 III (1), 電気演習 IV (1)	工学特論(1), 工学実験 I (2), 工学実験 II (2), ロボット製作(2)
			5年	熱機関係工学(2), 設計製図 III (2), トライボロジー(1), 計測工学(1), 伝熱工学(1), 工学実験 III (2), 卒業研究(8)	地盤工学(1), P B L (1), 卒業研究(12)	高電圧工学(1), 送配電工学(1), パワーエレクトロニクス(1), 電気応用(1), 通信工学 II (1), デジタル信号処理(1), 生産管理(1), 卒業研究(8), 情報理論(1), ネットワークアーキテクチャ(1), 電気材料(2), 電気法規(1), 工学実験 IV (2)	卒業研究(10), 工学実験 II (2)
	① 機械・環境システム工学専攻系科目群	専門	専1	材料力学特論(2), 熱物質移動論(2), 塑性加工工学(2), 環境材料学(2), 耐震工学特論(2), 景観デザイン(2), 環境地盤工学(2), 材料強度学(2), 流体力学(2), 交通システム工学(2), 水環境工学(2), 特別研究(6), プロジェクト実験 II (1), 実務実習(2)			
専2			弾性力学(2), 環境制御工学(2), 地域計画学(2), 不連続体力学(2), 非線形解析学(2), 量子材料学(2), 熱流体計測(2), 振動制御工学(2), コンクリート構造学特論(2), 特別研究(8)				
② 電気電子情報工学専攻系科目群		専1	電磁気学特論 I (2), パワーエレクトロニクス I (2), システム数理工学(2), システム制御理論(2), 信号処理論(2), 情報セキュリティ(2), 光画像工学(2), パワーエレクトロニクス II (2), 生体情報工学 I (2), インテリジェントマテリアル(2), 特別研究(6), プロジェクト実験 II (1), 実務実習(2)				
	専2	電磁気学特論 II (2), 生体情報工学 II (2), オペレーティングシステム(2), アルゴリズム特論(2), プラズマ工学(2), 信号回復(2), デジタル回路(2), 特別研究(8), プロジェクト実験 III (1)					
③ 「つながり工学」科目群	共通	5年	メカトロニクス(1)*\$, バイオテクノロジー概論(1)*, 社会システム(1)*\$2				
	専1	情報ネットワーク(2)*★, センサ工学(2), 環境保全工学(2)*, プロジェクト実験 I (1)					
	専2	生産システム特論(2), 廃棄物処理工学(2)					
専門	4年	コンピュータ概論(1)*, 電気電子回路(1)	コンピュータ概論(1)*, 電気電子回路(1)				

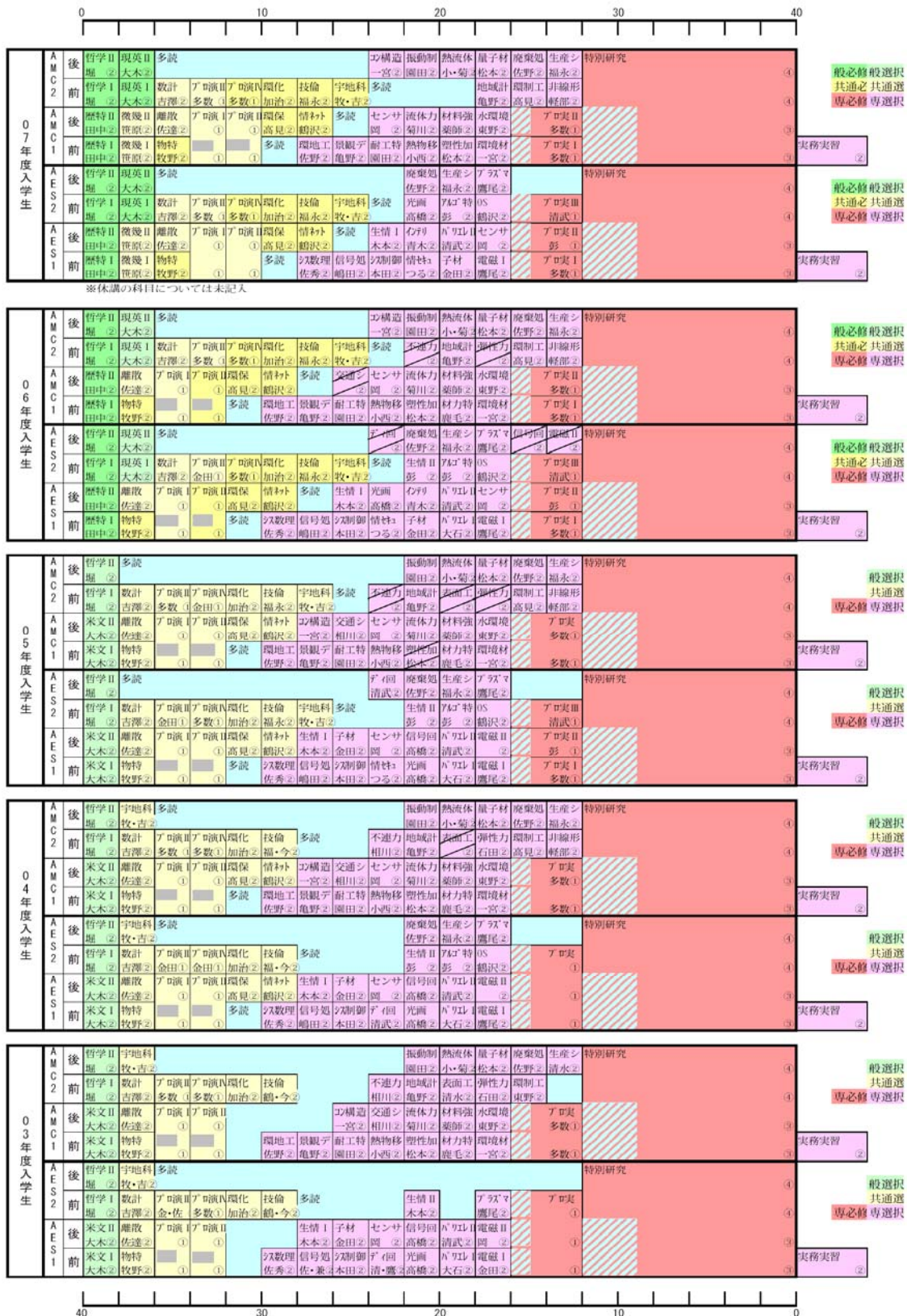
\*1 表中の( )付の数字は単位数です。  
 \*2 \*を付した科目は2箇所に記載がありますので、修得単位の計算の際には二重に数えないように注意してください。  
 \*3 \$1: 機械工学科は「つながり工学」に対応していません。  
 \*4 \$2: 土木工学科は「つながり工学」に対応していません。  
 \*5 ★を付した科目は、数学・自然科学・情報技術系科目の学習量として計算します。

(出典：システムデザイン工学プログラム履修の手引き)



資料 5 - 5 - ② - 3

専攻科教育課程図



(出典：専攻科小委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

この観点については以下の理由により十分基準を満たしていると結論する。

教育課程は教育理念、学習・教育目標を基にいくつかの分類法で分類された科目をバランスよく配置し、「学習・教育目標を達成するために必要な主要科目の流れ」や授業科目系統図、カリキュラム図をもとに適切な配置や体系的編成がなされている。科目内容は担当教員が教育課程編成趣旨に沿い、教育の目的を達成すべく考案し、その詳細はシラバスに開示されている。科目担当教員と授業内容は大学評価・学位授与機構により審査・認定を受けており、授業の適切性が確保されている。

**観点5-5-③：** 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

(観点到に係る状況)

専攻科生の意見や要望は授業アンケート、学生アンケートの他、専攻科学年別の懇談会（資料5-5-③-1）で収集している。本校でも他高専同様、大学に比べ学生と教員のコンタクトの時間が多いため、学生の考えが教員からあがることも多い。具体的には◎科目(教育プログラム上の必修科目)が専攻科2年生後期に多く修了に不安があるとの意見があり、この時期の◎科目を減らしたことや、「つながり工学」に分類された◎科目に興味をもてないとの意見により、教育プログラム上の○科目に変更する等、教育課程に配慮した。

社会からの意見を採用した例として、企業アンケートの英語レベルでの質問により、賛同を得たTOEIC400点を専攻科修了の条件としたこと、JABEE認定により専攻科修了生が技術士一次試験免除のレベルだと保障されたことから、各科目の授業内容をこのレベルを超えるよう配慮したことが挙げられる。

この他、まだ実施例はないが、規則で教育上支障のない場合は8単位を超えない範囲で他専攻の専門選択科目を履修し、単位を修得することができる（資料5-5-③-2）ほか、他の高等教育機関で取得した単位も学則等により16単位を超えない範囲で修得を認めている（資料5-5-③-3）。この規定に基づく単位互換制度としては準学士課程と同様、九州地区高等専門学校（資料5-1-②-3）並びに大分県の各大学（資料5-1-②-4）と単位互換が可能である。また、学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等を事前に察知し、インターンシップの単位認定（資料5-5-③-4）や補充教育にも取り組んでいる。JABEE認定の「システムデザイン工学プログラム」において、初期の過渡的段階の専攻科生やこのプログラムの編入生に対し教育課程上の単位不足を考慮し、専攻科教育課程とは別に教育プログラム上の補充科目を設定できるように定めている（資料5-5-③-5）。平成16年度に単位修得基準を50点より60点に上げたことから、策定以前の準学士課程の学習履歴が不足する不利を解消するための処置としてこの補充科目を設定し（資料5-5-③-6）実施した。

## 資料5-5-③-1

## 専攻科1年生懇談会

日時：2007年3月9日(金) 15:30-17:00 (第2回中間発表会のあと開催)  
 場所：専攻科棟4階 アカデミックホール  
 参加者：佐藤 専攻科長、福永 機械・環境システム専攻主任、清水 電気電子情報専攻主任、齋 電気電子情報専攻副主任(文責)、小森 専門員  
 参加学生：機械・環境システム専攻 13名  
 電気電子情報専攻 8名

## 懇談内容(学生の意見)

- 研究について
  - ・管理が厳しくなり、遅くまで実験できなくなった
  - ・研究に時間がかかる
  - ・研究について先輩に教えるようになり、理解が深まった
  - ・テーマを変えたので大変だった
  - ・望んでいた実験結果が出て満足している
  - ・教員が居ないときに高電圧を使う実験ができなため、進行が遅くなった
  - ・教員が忙しく十分に指導を受けることができなかった
  - ・企業と一緒に研究を行って学ぶことが多かった
  - ・発表会の時間が短い、発表8分、質問4分にして欲しい
  - ・フィールドワークの実験は楽しかった
  - ・授業で学んだことが実験に役立ててよかった
  - ・少し慣れが出てきたので、もっとがんばりたい
- 学校や専攻科に対する要望事項
  - ・外の実験室に行くとき、外灯が少ない
  - ・研究できる時間を増やして欲しい
  - ・プロジェクト実験1のテーマ設定の情報が少なすぎる
  - ・学生への連絡がない(終業式や始業式への参加など)
  - ・喫煙スペースが欲しい
    - 家を出て、家に帰るまで飲酒喫煙をしないルールがある(佐藤)
    - 専攻科生が守るべきルールを周知して欲しい(学生)
  - ・休日に学生証でキーロックを借りるのはめんどくさい
  - ・道路の水はけが悪い(ので危険)
  - ・カリキュラムが大学などに比べて詰まっていて、会社見学などができないので公欠にして欲しい
  - ・専攻科棟にトイレが欲しい
  - ・専攻科生に対する自動車通学の規則が厳しい(もっとゆるく)
  - ・ロッカーがないのが不便
  - ・ウォータークーラーを専攻科棟に設置して欲しい
  - ・専攻科の教室は、机と椅子が使いやすい
  - ・休日に学校に来ると、学生に割り当てられた駐車スペースに他の人(無許可の学生?)が車をとめている
  - ・冬に専攻科教室の暖房の電源が入らなかった

以上

## 専攻科2年生懇談会

日時：2006年7月18日(火 補講日 4時間目(3時限は学位申請説明会))  
 場所：専攻科棟4F アカデミックホール  
 内容：【○よかった点、×要望、改善点】

## 専攻科について

- 7年間環境が変わらず安心して勉強に取り組めた
- 学士の資格が取得できる
- ×本科で専攻科の単位が取れば、専攻科で時間的な余裕ができる
- ×マンネリする面があった

## 就職について

- 就職について十分に考えることができ、充実した就職活動ができた。
- 長く研究できたので、研究内容について企業へ良いアピールができた
- ×就職試験に最終的に合格した人の情報しかなかった
- ×大学の就職課のような十分なケアが無かった

## 進学について

- 専攻科から大学院には入りやすい
- ×大学院の受験記録や過去問がそろっていない

## 授業について

- 本科よりも深く教員と交流ができた。尊敬する教員と出会えた
- ×興味のない科目がある(ESでは通信工学をやってほしい)
- ×レポートが多く休める期間が少ない→授業時間の2倍は家庭学習が必要

## 特別研究について

- 卒業研究と特別研究を併せて3年間研究できてよかった
- 専攻科1年生から学会発表ができて有意義だった
- ×特別研究の時間が研究以外の行事に使われることが多い(もっと研究したい)

- ×21時30分以降、研究室で研究できない
- ×図書館の閉架図書の利用手続きが煩雑

## 学修成果レポートについて

- ×前期期末試験と学修成果レポートの時期が重なるので、前期期末試験が終わってから夏休みに入るようにして欲しい
- ×学位申請説明会を2年生の4月に行って欲しい

## その他

- ×オープンキャンパスの専攻科展示は内容が来場者にとってわかりにくい
- ×高専には学位授与権がない
- ×寮のインターネットが24時に止まるので、研究に関する調査ができない

(出典：専攻科資料)

## 資料5-5-③-2

## 大分工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則

制 定 平成16年4月1日  
 最終改正 平成19年1月12日

## (趣旨)

**第1条** この規則は、大分工業高等専門学校(以下「本校」という)学則第52条第2項、第53条第3項及び第55条の規定に基づき、本校専攻科(以下「専攻科」という。)の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項を定めるものとする。

## (授業)

**第2条** 専攻科の授業の1単位時間は、標準50分とする。

ただし、連続して授業を行う場合は、90分の授業をもって2単位時間とする。

2 授業は講義、演習、実験及び実習のいずれか又はこれらの併用により行うものとする。

## (単位の計算方法)

**第3条** 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

- 一 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- 二 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
- 三 実験及び実習については、45時間の授業をもって1単位とする。

## (入学前の学習履歴)

**第4条** 本校専攻科に入学する前に高等専門学校の第4学年及び第5学年次に相当する2年間の学習が必要であり、その間に次の各号の要件を満たしていなければならない。

- 一 総取得単位数62単位以上

- 二 総学習時間 1200 時間以上。ただし、180 時間以上の人文科学・社会科学等（語学を含む）、180 時間以上の自然科学・数学・情報技術系科目及び 600 時間以上の専門分野の学習時間を含まなければならない。
- 2 前項の要件を満たすことなく入学を許可された者は、入学後の科目履修等で補わなければならない。

(履修方法)  
**第5条** 専攻科に関する授業科目の履修にあたっては、年度当初に別に定める「受講科目履修届」を所定の期日までに提出しなければならない。

- (試験)  
**第6条** 専攻科の試験は、定期試験、追試験及びその他の試験とする。  
 2 定期試験は、各学期末に実施する。  
 3 病気その他やむを得ない理由によって定期試験を受けなかった者には追試験を行うことができる。

(成績評価)  
**第7条** 成績は、授業科目ごとに試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価する。  
 2 成績の評価は、100点法による評点によって評価し、次の標語により区分する。ただし、100点法による評価が困難な科目については、合格又は不合格とする。

評 価	100～80 点	79～70 点	69～60 点	60 点未満
標 語	優	良	可	不可

(単位の認定)  
**第8条** 前条第2項の規定に基づき、優、良、可、または合格に評価された授業科目については、当該授業科目を修得したのものとして単位を認定する。

(再履修)  
**第9条** 単位を認定されなかった授業科目は、原則として次年度において再履修することができる。

- 2 前項により再履修する場合は、第5条の規定を準用する。  
 (他の専攻の授業科目の修得)

**第10条** 教育上支障がない場合は、他の専攻の専門選択科目を履修し、単位を修得することができる。

2 前項の規定に基づき修得した単位は、8単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。  
 (他の大学等で履修した単位の認定)

**第11条** 大学及び他の高等専門学校の専攻科等（以下「大学等」という）で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ大学等の許可及び本校校長の許可を得た上で、受講科目を提出しなければならない。これにより修得した単位は、16単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。  
 (専攻科の修了要件)

- 第12条** 専攻科の修了には、次の要件を全て満たさなければならない。  
 一 学則第53条に規定する要件のほか、全ての必修科目を修得したと認められること。  
 二 機械・環境システム工学専攻においては、専門科目の選択A群より6単位以上修得したと認められること。  
 三 学習時間が600時間以上であること。ただし、70時間以上の人文科学・社会科学等（語学を含む）、70時間以上の自然科学・数学・情報技術系科目及び300時間以上の専門分野の学習時間を含まなければならない。  
 四 大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラム履修規則第13条第1項の修了要件を全て満たしていること。

(専攻科の修了認定)  
**第13条** 専攻科の修了認定は、本校学則及び本規則に基づき教員会議において審議の上、校長が行う。

(雑則)  
**第14条** この規則の定めるもののほか、専攻科の授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。

- 附 則**  
 この規則は、平成16年4月1日から施行する。  
**附 則**  
 この規則は、平成17年4月1日から施行する。  
**附 則**  
 この規則は、平成17年11月11日から施行し、平成15年度に入学した者から適用する。  
**附 則**  
 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。  
 2 平成18年3月31日に在学する者は、改正後の第12条の規定にかかわらず、なお従前の例による。  
**附 則**  
 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

## 資料5-5-③-3

## 大分工業高等専門学校学則（抜粋）

制 定 平成16年 4月 1日  
最終改正 平成19年 2月 20日

（高等専門学校以外の教育施設等における学修等）

- 第16条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。
- 2 前項により認定することができる単位数は、前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。
- 3 第1項に関し、必要な事項は別に定める。

（留学）

- 第28条 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が外国の高等学校又は大学に留学することを許可することができる。
- 2 校長は、前項の規定により留学することを許可された学生について、外国の高等学校又は大学における履修を本校における履修とみなし、30単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。
- 3 校長は、前項の規定により単位の修得を認定された学生について、学年の途中においても、各学年の課程の修了又は卒業を認めることができる。
- 4 第3項に関し、必要な事項は別に定める。

（準用規定）

- 第54条 専攻科の学生については、第3条から第6条、第12条、第16条、第22条、第24条、第26条から第29条、第33条から第40条、第41条から第44条の規定を準用する。この場合において、第16条第2項及び第28条第2項中「30単位」とあるのは「16単位」と、第28条第1項及び第2項中「外国の高等学校又は大学」とあるのは「外国の大学」と、第44条第2号中「第25条」とあるのは「第51条」とそれぞれ読み替えるものとする。

（出典：大分工業高等専門学校規則集）

## 資料5-5-③-4

## (6) 実務実習の履修要項

- 1 年生の夏季休学中に、企業等で2週間以上の実務実習を行います。なお、指導は各専攻の特別研究担当教員が行い、単位認定は実務実習の報告書及び企業等の担当者の報告書に基づき専攻主任が行います。

（出典：専攻科学生便覧）

## 資料5-5-③-5

## 大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラム履修規則（抜粋）

制 定 平成17年 1月 26日  
最終改正 平成19年 1月 12日

（学習履歴の確認認定方法）

**第9条** 専攻科入学前の学習履歴（前条に定める単位数、必要科目及び学習保証時間）は、専攻科入学手続き時に提出される成績証明書及びシラバスに基づき、専攻科運営委員会において確認認定する。

2 本校本科卒業者及び他校の JABEE 認定プログラムを履修した者については、評価が C・可以上（評価 60 点以上）の科目を認定し、D・不可（評価 60 点未満）の科目は認定しない。

3 本校本科以外の卒業生で JABEE 非認定のプログラムを履修した者については、A・優（評価 80 点以上）または B・良（評価 70 点～79 点）の科目を認定し、C・可（評価 60～69 点）の科目は、審査の上で認定の可否を決定する。D・不可（評価 60 点未満）の科目は認定しない。なお、評価が 60 点未満で単位を取得した科目も認定しない。

（学習履歴が不足する場合の取り扱い）

**第10条** 専攻科入学前の学習履歴が前2条の基準に満たない場合は、専攻科運営委員会が次の各号の指導を行う。

一 専攻科教育課程の科目を修得することにより本教育プログラムの修了要件を満たすことができる場合には、該当科目を履修させる。

二 専攻科教育課程の科目だけでは本教育プログラムの修了要件を満たすことができない場合には、専攻科は「補充科目」を設定する。

2 前項に基づき履修させる科目及び補充科目は、専攻科における必修科目として取り扱う。ただし、補充科目の修得は本教育プログラムの修了要件には考慮されるが、専攻科の修了要件としては取り扱わない。

（出典：大分工業高等専門学校規則集）

#### 資料5-5-③-6

#### 専攻科運営委員会（第3回）（抜粋）

日 時 : 平成17年5月18日（水）16:00～17:35

場 所 : 会議室

出席者 : 吉澤専攻科長、葉師寺専攻主任（教）、岡専攻主任（寮）、小西、本田、靄、一宮、堀、東木、木本（学）、大石教務主事、高橋（J）、教務係長、専門員

議 題 : 1. 推薦選抜について

別紙資料に基づき説明があり、面接時間1人20分を15分に、都市システム工学科の面接担当者の高見教員を東野教員に変更し、了承された。

議 題 : 2. 「前期補充科目」について

別紙資料に基づき説明があり、今回の「補充科目」は、前期末までに終了し、JABEE の修了に必要な学習保障時間数を確認することとなった。

今回設定した◎科目に対する補充でも単位数が不足する学生については後期に○科目に対する補充も行う。

専攻主任は補充科目履修願いと判定結果資料を JABEE 資料室に残すと共に、科目チェック表の当該科目に\*をつけ、欄外に「\*は補充科目」と記入。

その他

（以下略）

（出典：専攻科運営委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等を教育課程の編成に配慮しており、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関で取得した単位の認定、インターンシップの単位認定、補充教育を整備している。

観点 5-6-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。）

（観点に係る状況）

授業科目は学習・教育目標に照らし系統的に配置しており、専攻科シラバスには科目毎に学習・教育目標との対応関係を記している。授業形態は学習効果を考え概ね午前中が講義で午後は実験、特別研究を配置しており、講義科目、演習・実験・実習科目、特別研究をそれぞれ資料 5-6-①-1 のように配分している。

専攻科での授業は 1～2 クラスで受講するが、クラス人数（資料 5-6-①-2）から全ての授業が少人数授業であるといえる。

両専攻共通のプロジェクト演習Ⅳでは、文章の縮約練習等により論文作成に役立つ論理的思考法や文章構成法を養成し、実践的なディベートを通し自らの力で考え表現できる能力を養成している（資料 5-6-①-3）。

文章作法は特別研究での 2 回の概要作成と特別研究論文作成で、担当教員から指導を受ける。プレゼンテーションはプロジェクト実験Ⅰ（資料 5-6-①-4）、実務実習（資料 5-6-①-5）、特別研究（資料 5-6-①-6）で計 5 回発表の機会がある他、JABEE 認定を受けたシステムデザイン工学プログラムの中で全員に義務付けた外部発表（資料 5-6-①-7）があり、これらの発表を通してプレゼンテーション能力を養成している。

特別研究は、2 年間連続で実施し、多岐に渡る能力がスパイラルに養成される。2 回の中間発表や外部発表を行い、研究内容を学位授与機構に学修成果として提出して小論文試験を受ける等、研究成果を表現する機会が与えられている。2 年間で計画や実験、プレゼンテーションにじっくり取り組み、その繰り返しの中で成長を確かめながらより深化させることができるように工夫している。

資料 5-6-①-1

平成 18 年度の授業形態別授業時間数とその配分

	機械・環境システム 工学専攻		電気電子情報 工学専攻	
	時 間	%	時 間	%
講義科目	990	49	930	46
演習・実験 ・実習科目	300	15	360	18
特別研究	720	36	720	36
合 計	2010	100	2010	100

（出典：専攻科資料）

資料 5-6-①-2

クラス人数

	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度
A1MC	1 1	1 2	1 1	1 3
A2MC	—	1 1	1 2	1 1
A1ES	1 2	6	8	9
A2ES	—	1 2	6	8

（出典：専攻科資料）

資料 5-6-①-3

教科目名 プロジェクト演習Ⅳ (Project Seminar Ⅳ)

専攻名・学年 : 全専攻 2年 (教育プログラム 第4学年 ◎科目)

単位数など : 必修 1単位 (前期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)

担当教員 : 高橋徹, 一宮一夫, 相本正吾

授業の概要				
特別研究の遂行には、論文作成能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力などが必須である。この教科では縮約練習などにより、論文作成の際に役立つ論理的な思考法や文章構成法を習得する。更に、実践的なディベート方式の授業により、自らの力で考え、表現できる能力を養成する。				
達成目標と評価方法		大分高専目標(A1)(C1), JABEE 目標(a)(f)		
(1) 縮約練習を通し、日本語による文章構成法を習得する。(小テスト, 定期試験)				
(2) 漢字・送り仮名など、日本語の基本について再確認する。(小テスト)				
(3) 文章のパラグラフ化を理解し、論文を論理的に構成できる。(定期試験)				
(4) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築し、これを表現して討議を行うことができる。(ディベート)				
(5) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できる。(ディベート, 定期試験)				
回	授業項目	内容	理解度の自己点検	
1	[日本語表現] 「日本語練習帳」の解説、縮約練習の説明	教科書「日本語練習帳」の内容を理解する。特に、文章の構成力を身につける上で役立つ「縮約」技術の練習法について学ぶ。	【理解の度合い】	
2 ～ 6	縮約練習、解説	新聞の社説など、与えられた文章について縮約を行う。縮約した文章は教員によって評価される。毎回、100点満点中80点以上を取ることが望ましい。		
7	「理科系の作文技術」の解説	教科書「理科系の作文技術」の内容に触れる。文章のパラグラフ化について学習する。		
8	パラグラフ化の練習	2～8回まで授業の最初に漢字などの小テストを行う。		
9	小テスト	縮約、漢字書き取りなどについて小テストを行う。		
10 ～ 12	[ディベート] 解説、グループ分け、資料収集、賛成派・反対派の決定、作戦会議、プレゼンテーション作成	与えられた複数のテーマについてプレゼンテーションおよびディベートを行う。学生は2～3名ずつの班に分かれ、それぞれのテーマについて2つの班が賛成派・反対派の立場となりプレゼンテーションおよびディベートを行う。ディベートの判定は、教員およびディベートに参加していない班の学生によって行われる。		【理解の度合い】
13	プレゼン、ディベート	10～12回まで、授業の最初に縮約練習をする。		
14	プレゼン、ディベート	小論文、縮約など		
15	前期期末試験		【試験の点数】 点	
	前期期末試験の解答と解説			
履修上の注意		縮約練習をする上で必要な国語辞典などを用意すること。		
教科書	大野 晋, 「日本語練習帳」, 岩波書店。 木下 是雄, 「理科系の作文技術」, 中央公論新社。		【総合達成度】	
参考図書	松本茂, 「頭を鍛えるディベート入門」, 講談社。			
事前準備学習	教科書の対応箇所を読んでおくこと。日常において理系の作文を行う際には、パラグラフを意識して作文する習慣をつける。文章を読む場合には、事実か意見かを意識しながら読む。		【総合評価】 点	
関連科目	日本語表現法, 哲学概説, 思想史, 卒業研究, 特別研究			
総合評価	授業中の小テスト・縮約練習結果・取り組み状況(約70%)と定期試験(約30%)により総合評価する。			

(出典: シラバス)



資料 5 - 6 - ① - 4

教科目名 プロジェクト実験 I (Project-based Experiment I)

専攻名・学年 : 全専攻 1年 (教育プログラム 第3学年 ◎科目)  
 単位数など : 必修 1単位 (前期2コマ, 学習保証時間 29.25時間)  
 担当教員 : 葉師寺輝敏, 鷹尾良行, 嶋田浩和, 高見徹, 菊川裕規

授業の概要

専攻科のPBL対応科目である。機械・環境システム工学専攻と電気電子情報工学専攻の学生がグループを作り、互いの専門を生かし、協力しながら与えられた課題に挑む。課題は“遠隔操作可能なコンクリート船”である。船体構造はコンクリート製とし、推進機構にはスクリューを使用しないことを条件とする。競技会では決められたコースを周回するタイムレースを行う。グループで構想を練った企画を、種々の学問・技術を統合して現実のものとする。いわゆるデザイン能力が要求される。作品の製作過程に入っても実験の始め 10 分程度教員を含めたグループ討議をする。週ごとに学生は活動記録を教員に提出することとする。

達成目標と評価方法 大分高専目標 (D1) (D2) (E2), JABEE 目標 (d2a) (d2b) (d2c) (d2d) (e) (g) (h)

- (1) グループ討議において他専門分野の意見を聞き、自分の意見を理解させることができる。(活動記録, 15%)
- (2) 問題解決を専門性に沿って分担化し、自らの分担を見定めて行動できる。(活動記録, 15%)
- (3) アイデアをイメージして、その結果を得る方法をデザインし、期限内に形にすることができる。(製作作品, 25%)
- (4) 作品の特徴を効果的にアピールできる。(プレゼンテーション, 25% レポート, 20%)

回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1	概要説明 アイデア創出	・実験の進め方の説明を行い、グループ分けを行い、 ・グループで構想を練る。	【理解の度合い】
2	機械実習	・金属の切断、穴あけ、旋削、フライス加工を体験する。	
3	電気実習	・ LED 回路, PICプログラミング, ハンダ付け	
4	討議, 設計, 製作	設計, 製作においてはおよそ次のような作業分担を行う。  アイデアの創出      全学科学生 構造設計            土木および 機械出身者 機構設計・製作    機械および 土木出身者 電気回路            電気, 制御情報出身者 制御系               制御情報, 電気出身者 物品手配            各設計担当 工程管理            土木出身者 ・作品制作費は1グループ5万円以内とする。	
5	討議, 設計, 製作		
6	討議, 設計, 製作		
7	討議, 設計, 製作		
8	討議, 設計, 製作		
9	討議, 設計, 製作		
10	中間審査(船体, メカ)		
11	討議, 設計, 製作		
12	討議, 設計, 製作		
13	競技会		・タイムレースを行う。
14	プレゼンテーション	・作品を展示しプレゼンテーションを行う。	【評価】 点

履修上の注意	製作時間は正規授業時間では足りないもので、時間外の活動が必要である。時間外の活動も活動記録に記録すること。	【総合達成度】
教科書	特になし	
参考図書	それぞれの専門書	
事前準備学習	製作に必要な基礎知識は時間外に勉強しておくこと。	
関連科目	卒業研究, 社会システム, 情報ネットワーク, 校外実習, センサ工学, プロジェクト実験II, PBL	【総合評価】 点
総合評価	達成目標(1)~(4)について活動記録, 製作作品, レポート, プレゼンテーションで評価する。総合評価は、活動記録 30 点, レポート 20 点, 作品 25 点, プレゼンテーション 25 点の配点で行う。活動記録のうち 15 点は学生間の相互評価点とする。各個人について欠課一コマ(2時間)に付き 3 点を減じる。総合評価が 60 点以上を合格とする。	

(出典：専攻科シラバス)

## 資料5-6-①-5

## 教科目名 実務実習 (Practical Training)

専攻名・学年 : 機械・環境システム工学専攻 1年 (教育プログラム 第3学年 ○科目)

単位数など : 選択 2単位 (学習保証時間 0時間)

担当教員 : 専攻主任

授業の概要			
官公庁,大学,企業などでの就業体験を通し専門分野での自分の知識を確かめ,さらに発展させると共に専攻科における勉学の目的を明確にする. また,社会が要求し期待する人物像を具体的に把握するなど,社会人,職業人としての心構えについても学ぶ.			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (D2), JABEE 目標 (d2d)	
(1) 社会人,職業人として社会から期待される人物像を具体的に把握し,その心構えができる. (報告書審査・報告会発表審査)			
(2) 与えられた専門分野での実務上の問題と課題を理解し,適切に対応し解決するために,自分の知識を確かめ生きた知識として確固たるものとする事ができる. (報告書審査)			
(3) 研修先の人々の指導を仰ぎ,さらに,実習に関連のある人達と協力し与えられた問題を解決することができる. (評価書審査)			
(4) 実習の経過や成果を報告書にまとめ,研修した成果を発表することができる. (報告書審査と報告会発表審査)			
回	授業項目	内容	理解度の自己点検
	1. ガイダンス 2. 実習先の決定 3. 実習 4. 報告書の提出 5. 報告会	4月中までに専攻主任よりガイダンスがある. 専攻主任を通じて申し込みを行う. 実習期間は2週間以上とする. 実習後,各自報告書をまとめ,専攻主任に提出する. 9月に行なわれる実務実習報告会で成果を発表する.	【理解の度合い】
履修上の注意	実習先に失礼のないように注意すること.		【総合達成度】
教科書	なし		
参考図書	なし		
事前準備学習	実習先について事前にWEBなどで調査しておくこと.		
関連科目	校外実習, 卒業研究, PBL(C科), 工学実験Ⅱ, 工学実験Ⅲ		
総合評価	達成目標の(1)~(4)について,企業からの評価書,本人の報告書,報告会の発表を総合して評価する. 総合評価は,下式で算出し,60点以上を合格とする.なお,報告会の発表の評価は報告会に出席した専攻科担当教員が複数名で行う.また,評価書および報告書の審査は専攻主任が行うものとする. 総合評価=報告会に出席した教員の評点の平均 × 0.6 + 評価書および報告書審査の評点 × 0.4 各個別の評点は,100点満点で採点するものとする.		【総合評価】 点

(出典: 専攻科シラバス)

資料 5 - 6 - ① - 6

教科目名 特別研究 (Special Research)

学科名・学年 : 機械・環境システム工学専攻 1, 2 年 (教育プログラム 第 3, 4 学年 ◎○科目)

単位数など : 必修 14 単位 (1 年次 前期 6 コマ, 後期 6 コマ, 学習保証時間 175.5 時間)

(2 年次 前期 6 コマ, 後期 6 コマ, 学習保証時間 234 時間)

担当教員 : 機械・環境システム工学専攻 特別研究指導教員

授業の概要			
各教員から提示されたテーマを選択して研究課題とする。これまで学んだ知識・技術を基により深く研究を進め、システムデザイン能力、調査能力、データ解析力、論理的思考能力、問題解決能力、討論能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、作文能力、自主学習能力、継続的研究能力などを総合的に身につける。			
達成目標と評価方法		大分高専目標(A1)(C1)(E3), JABEE 目標(a)(d2b)(d2c)(e)(f)(g)(h)	
(1) 自分の研究の目的や位置づけを地球的視点から多面的に考察・理解することができる。(論文審査と発表審査)			
(2) 研究に関する知見を自ら収集・理解することができ、主体的に取り組むことができ、継続的に研究できる。(論文審査と発表審査, 日常の研究への取組状況)			
(3) 論理的思考を持って、問題対処や他者との討論ができる。(論文審査と発表審査)			
(4) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、文章表現能力を身につけることができる。(論文審査と発表審査)			
(5) 基礎工学や専門工学等で身につけた技術や知識を統合し実験計画をたて、遂行しそのデータを分析し発表することができる。(論文審査と発表審査)			
(6) 与えられた制約を理解しながら、問題を発見して、その解決法をデザインし、実行できる。(論文審査と発表審査)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 年次			【理解の度合い】
4 月	1. ガイダンス, テーマ説明 2. 研究課題の決定 3. 研究	1. 「特別研究の手引き」を参考にする。 2. 専攻主任を中心に調整する。 3. 積極的, 主体的, 継続的に指導教員との連携のもとで研究を行う。	
9 月	4. 第 1 回中間発表会	4. 中間発表会は研究内容を他者に伝える技術を身につけることと, 研究の方向性や方法についての他者からの助言や批判により, 研究の内容を充実するために実施される。発表に当たって学生は, A 4 用紙 2 枚程度の講演概要を作成する。	
3 月	5. 第 2 回中間発表会	5. 第 2 回目の中間発表は 1 年間の研究を振り返り, 他者の意見を聞いて新たな課題や問題点を発見し, 各自の研究の更なる発展を期するために実施される。発表に当たって学生は, A 4 用紙 2 枚程度の講演概要を作成する。	【理解の度合い】
2 年次			【理解の度合い】
2 月	6. 論文審査 7. 特別研究審査会	6. 特別研究指導教員である主査と主査が指名する副査との 2 名による論文審査。 7. 専攻科担当教員による発表審査。発表に当たって学生は, A 4 用紙 2 枚程度の講演概要を作成する。	【理解の度合い】
履修上の注意	研究課題はガイダンスで研究テーマの説明を受け, 担当教員とも相談の上で決定する。主体的に取り組むこと。		【総合達成度】
教科書	なし		
参考図書	担当教員と相談しながら, 各自で探す。		
関連科目	思想史, 卒業研究		
総合評価	達成目標の(1)~(6)について, 論文審査と発表審査, 日常の研究への取組状況で評価し, 総合評価が 60 点以上を合格とする。 総合評価=2 回の中間発表会の評点の平均×0.2 + 論文の評点×0.4 + 特別研究審査会の評点の平均×0.2 + 研究への取組状況の評点×0.2 2 回の中間発表会, および, 特別研究審査会の評点は会に出席可能な複数名の専攻科担当教員の評点とする。また, 研究への取組状況は, 特別研究担当教員が評価する。なお, 各個別の評点は, 100 点満点で採点するものとする。		【総合評価】 点

(出典: 専攻科シラバス)

大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラム履修規則

別表

各学習・教育目標の評価方法

学習・教育目標	関連する基準 1 (f)～ (h)の項目	評価方法	備考	
(A) 愛の精神 世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いっしょの心を身につける	(A1) 自ら考える力を身につける (1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること  (A2) 技術者としての倫理を身につける (1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること	(a)	(i) ◎科目を全て修得していること (ii) (平成14年度以前入学生) ○科目のうち、特別研究、日本語表現法(国語特講I～V)、プロジェクト演習IVのほか1科目以上修得していること (平成15年度以降入学生) ○科目のうち、特別研究、プロジェクト演習IVのほか2科目以上修得していること (iii) プロジェクト演習IVにおけるディベート試験に合格すること	
(B) 科学や工学の基礎 科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける	(B1) 数学、自然科学の力を身につける (1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然現象の本質を問う問題が解けること  (B2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける (1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること	(c) (g)	(i) ◎科目を全て修得していること (ii) (平成14年度以前入学生) ○科目のうち、宇宙地球科学のほか1科目以上修得していること (平成15年度以降入学生) ○科目のうち、宇宙地球科学のほか2科目以上修得していること (iii) (B1)に関する総合的試験において60点以上とることまたは技術士一次試験に合格していること	
(C) コミュニケーション能力 地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける	(C1) 表現する力、ディスカッションする力を身につけることについて (1) 自ら表現したいことについて第二者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること  (C2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける (1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること	(f)	(i) ◎科目及び○科目を修得していること (ii) 学外団体主催による研究会等において発表を行うこと	
(D) 技術者としてのセンス 創造的技術者としてのセンスを磨き、探求心、分析力、イメージ力を身につける	(D1) 探求心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける (1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができ、そのものやシステムを創造するために結果を得る (2) ものやシステムをデザインし、その結果を得る (3) 問題が深く掘り下げる努力ができること  (D2) 協力して問題を解決する力を身につける (1) 問題をチームで解決する体験を得ること (2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること	(d2b) (e) (d1) (d2c) (g) (h)	◎科目を全て修得していること	
(E) 専門工学の活用 専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける	(E1) 専門工学の知識を獲得する (1) 自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げることで専門工学の知識があること  (E2) 工学の相互関連性を理解する (1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること  (E3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける (1) 自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること	(d2a) (d2a) (d1) (e) (d2c) (d2b) (e) (h) (g)	(i) ○科目のうち、10科目以上修得していること (ii) 専門性に即した小論文試験で、60点以上とること、または学位取得のための小論文試験に合格すること  (i) ◎科目を全て修得していること (ii) (平成12年度入学生) 自らの専門以外の○科目の中から、1科目以上を修得していること (平成13年度以降入学生) ○科目の中から、2科目以上修得していること。ただしその内1科目以上は、自らの専門以外の科目であること	

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

学習・教育目標に照らし体系的に科目を配置し、講義科目、演習・実験・実習科目、特別研究のバランスが適切であり、少人数授業となっている。学習・教育目標(C)コミュニケーション能力の関連科目では、文章作法やディベート力を養成する文章の縮約練習やディベートの実践訓練をする他、多くの発表の機会を与え実践的なプレゼンテーション能力をつけるよう工夫している。特別研究は2年間の長期取組みが学生自身の成長を確認でき、滞りのないよう配慮している。

**観点5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。**

(観点到に係る状況)

PBL 科目として両専攻の学生に共通のプロジェクト実験 I（資料5-6-①-4）があり、出身学科の異なる学生でチームを作り、与えられた創作課題に取り組ませている。アイデアの創出、設計、製作、競技会、プレゼンテーションまでの一連の作業の中で、創造的にコミュニケーション能力、創造力、企画能力、設計能力、製作能力、プレゼンテーション能力などを養成している。

インターンシップとして、夏期休暇を利用した企業、官公庁、大学での2週間以上の就業体験をする実務実習（資料5-6-①-5）があり、修了要件となっているため、準学士課程でインターンシップ（校外実習）を受けていない学生は必ず受けるよう義務付けている（資料5-6-①-7）。研修先で指導を仰ぎながら関係者と協力して与えられた業務をこなすことで、社会から期待される人物像の把握や社会人となるための心構えを学ばせている。

(分析結果とその根拠理由)

PBL 科目の「プロジェクト実験 I」で創造的に諸能力を養っている。また、インターンシップとして選択2単位の「実務実習」を設定している。

**観点5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。**

(観点到に係る状況)

シラバスは本科同様、教育プログラム委員会が教育課程編成趣旨に沿い策定したシラバス記入上の注意（資料5-6-③-1）に準拠して作成している。

専攻科シラバスは巻頭言で教育課程が学習・教育目標に沿い編成されていることを明示し、目次（資料5-6-③-2）に示すように科目内容の解説前に、教育理念、学習・教育目標を掲げ、シラバス利用法（資料5-6-③-3）、教育課程表、授業科目系統図を挿入し教育課程全体が分かるよう配慮している。科目毎に、単位数や担当教員名、必修選択の別等の他、授業概要、達成目標と評価方法、学習・教育目標との対応、授業項目と授業内容、履修上の注意、教科書、参考図書、関連科目、事前準備学習、総合評価方法を記している（資料5-5-①-4、5-6-①-4）。

年度当初に学生と教員に配布し、ホームページにも公開している。学生には学校行事予定表等と一緒に配布し、ポートフォリオとして綴じこませ、活用法を指導している。

授業の初回はシラバスを利用し授業のガイダンスを行い、学生が記入する理解度の自己点検欄に理解の度合いや試験の点数を記入させ、学生の自己点検や専攻主任による点検・指導に利用している。

シラバスは、学生の選択科目決定、予習・復習、評価方法確認などにも利用している。教員にとりシラバス作成は科目間の連携を深めた授業計画につながり、教育課程全体の俯瞰、教育課程編成の改善にも役立っている。

授業アンケートにはシラバスどおりの授業であったかの点検項目があり、その評価は概ね良好である。

## 資料 5 - 6 - ③ - 1

## シラバス記入上の注意(2007 年度版)

教育プログラム委員会

- シラバスに関して JABEE では次の点を中心に審査します。  
「教育目標・方法、達成目標、および成績の評価方法・評価基準が明示されているか」  
「学習の内容および成績の評価方法・基準は、社会の要請する水準を考慮して設定されているか」  
「カリキュラムの中での位置づけが分かるか」  
「シラバスに書かれた通りに実施されているか」  
「シラバスに定められた成績評価方法と評価基準に従って、達成度が評価されているか」
- 「専攻科における授業科目の履修等に関する規則」第 3 条には「各授業科目の単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学習を必要とする内容を持って構成することを標準とし．．．」とありますので、この点に留意して授業内容を構成してください。
- JABEE 基準には「学生自身にもプログラムの学習・教育目標に対する自分自身の達成度を継続的に点検させ、その学習に反映させていること」とあります。また、科目ごとにもその理解の度合いを自己点検させておいたほうがよいと言われています。このようなポートフォリオに対し書類を別途用意することも考えられますが、シラバスを利用するのが便利であると思われる。
- シラバス様式は本校のサイボウズの、「ファイル管理」→「学生課関係ダウンロード書類」→「〇〇年度版シラバス」フォルダに幾つかのサンプルと一緒に**本科用および専攻科用**を置いています。余白や書体等、審査員の見やすさを考慮して統一したフォームと致しますので、ダウンロードしたファイルをそのままご利用下さい。
- 電子ファイルは「MS-Word」で作成して下さい。
- 電子ファイルのファイル名は「M3 材料力学 I」などのように学科名(専攻科名)、学年、正式科目名として科目ごと別々のファイルとします。
- サンプルに書体などの書式が書いてありますので、それに従ってください。項目等共通的なものはゴシック、皆さんにお書き願うところは明朝としています。なお、句読点等には“，”，“.”を使用してください。
- 教科目名は正式な名称を書いてください。特に I，II などを落とさないように注意してください。英文名については学校要覧(大分高専ホームページにもある)を参考にしてください。
- 専攻科の場合、「学科名・学年」の欄には専攻名、学年を書いてください。
- JABEE 対応科目については教育プログラム(システムデザイン工学プログラム)上の学年と分類も併記して下さい。  
例) 学科名・学年 : 機械工学科 4年 (教育プログラム 第 1 学年 ◎科目)

(以下略)

(出典：教育プログラム委員会資料)

目 次

まえがき

教育理念 学習・教育目標

シラバスの利用方法について

教育課程表・授業科目系統図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1～14

科目内容

一般科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15～22

共通専門科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23～34

専門科目

機械・環境システム工学専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35～59

電気電子情報工学専攻・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61～82

(出典：専攻科シラバス)

### シラバスの利用方法について

シラバスは、各科目担当教員が授業開始に先立ち受講者に提示する授業概要のことです。これは本校の教育課程の編成の趣旨に沿って作成されており、当該科目の授業概要、学習（達成）目標と評価方法、詳細な授業内容（計画）、使用する教科書・参考図書・資料、事前に行う準備学習（必要な予備知識）、関連科目、総合評価の方法などが明記してあります。このシラバスを読めば、受講者は事前に科目担当教員が何を目標として講義するのか、また、学生諸君が何をどこまで、どのような方法で学習するののかも知ることができます。このシラバスの内容や情報を十分に理解して、今後の履修計画の立案や理解度の自己点検などに積極的に活用してください。

### シラバス利用に際しての留意点

#### （１）履修計画

履修に際しては、「専攻科の修了要件」、「学位授与要件」「技術者教育プログラム（システムデザイン工学プログラム）の修了要件」を考慮に入れた履修計画を立てることが必要です。尚、「専攻名・学年」の欄に「◎○科目」などとあるのは、科目の「システムデザイン工学プログラム」上の分類を表しています。◎科目はプログラムにおける必須科目になっていますので必ず修得しなければなりません。また、○科目と◇科目はプログラム上の選択科目です。詳細は「システムデザイン工学プログラム履修の手引き」を見て下さい。

#### （２）単位の認定

各科目の単位認定は、本校の学習・教育目標を考慮して、科目ごとに定められた達成目標に達しているか否かによってなされます。評価方法については、当該科目の定める評価として適当な方法を各科目担当者が定め、総合的に評価しています。詳細は各シラバスの「総合評価」欄を参照してください。尚、各科目の合格点は 60 点以上と定められていますので、学年末の総合評価がこれに達していることが単位認定の要件となります。

#### （３）達成目標と評価方法

この欄は社会の要請する水準を考慮して、「何がどの程度できるようになるか」と、その評価を行う方法が具体的に書かれています。例えば、（定期試験）とあるのは、その目標の達成度が定期試験によって評価されることを示しています。また右端の英数字は、この科目が本校および JABEE の学習・教育目標のどれを達成するための教科であるのかを記号で表しています。

#### （４）回、授業項目、内容

毎四半期の授業内容が具体的に書かれています。「回」は何度目の授業であるかを序数で表わしています。例えば、座学などでは 1 コマ(90 分)を 1 回とし、実験・実習など 2 コマ(90 分× 2)連続の場合はこの 2 コマを 1 回と表記しています。

#### （５）理解度の自己点検、総合達成度

授業内容の右の欄は、学生による理解度の自己点検欄になっています。【理解の度合い】、【試験の点数】、【総合評価】などの欄は適宜記入して、自己評価・点検に努め学習計画に役立てましょう。

#### （６）事前準備学習

専攻科ではシラバスに「事前準備学習」の欄があります。履修の前提として事前に行う準備学習の内容が指定されていますので、よく読んで各自で対応してください。

#### （７）関連科目

シラバス冊子前段の授業科目系統図に示した、この科目と他の科目との関連性を示したものです。履修の際の参考にしてください。

（出典：専攻科シラバス）



(分析結果とその根拠理由)

シラバス記入上の注意の内容、シラバスの構成、科目内容の記述から、教育課程編成の趣旨に沿ったシラバスが作成されている。活用法をオリエンテーションで指導しており、専攻主任と学生との個別面談でも十分活用されている。

**観点 5-7-①：** 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

(観点に係る状況)

特別研究（資料 5-6-①-6）は、深い専門知識と研究経験のある専攻科担当教員が指導教員としてあたり、2年間 14 単位の必修科目で、毎週 6 コマ（1 週間 3 回、午後 2 コマ）と十分な時間を取っている。研究テーマは殆どの学生が準学士課程の卒業研究のテーマを継続し、より深い研究を志向しており、指導教員と専攻主任が調整して、1 年次の 4 月当初のガイダンス後に決定する。

2 回の中間発表会では研究概要（資料 5-7-①-1）の提出とプレゼンテーションが求められる。また、学習・教育目標 C1（表現する力、ディスカッションする力を身につける）の評価とし学外発表を義務付けており、多くの学会等（資料 5-7-①-2）で発表されている。その準備に学生は努力を払い、担当教員からの緻密な指導が行われている。発表に対する質問や助言を取入れ、より洗練された発表と深い研究が行われている。

最終的に、研究の集大成である特別研究論文とその概要の提出、特別研究審査会でのプレゼンテーションが求められ、特別研究審査会（資料 5-7-①-3）で専攻科担当教員により評価され（資料 5-7-①-4, 5）、特別研究論文の内容は 2 名の専攻科担当教員で審査している（資料 5-7-①-6）。

資料 5-7-①-1

平成 17 年度入学生 特別研究テーマ一覧

専攻	特別研究テーマ	専攻	特別研究テーマ
MC	コンジョイント分析を用いた歩道景観の評価に関する研究	ES	大気ゆらぎを通して観測された多数枚の劣化観測像からの像回復
	道床沈下量予測に関する研究の現状と問題点		分散処理システムの研究
	製鉄所副産物を用いた火山灰質粘性土の安定処理効果に関する研究		画像処理を用いたバイOMETリック個人認証
	企業の環境保全活動とボランティア・サポート・プログラム		オブジェクト共有空間を用いた並列免疫アルゴリズムによる胸部 X 線画像における肺癌陰影の検出
	アダプト・プログラム参加者の評価構造の分析		生体の免疫機能を有する免疫的ネットワークとその工学的応用
	振動切削系の動的挙動に関する研究		心理聴覚特性を利用した Spectrum Subtraction 法に関する研究
	廃熱ボイラのダスト酸化効率向上に関する研究		位相変調による光波形成
	非 Pd 系水素透過膜の水素透過能及び延性-脆性遷移挙動		携帯電話を用いた Web システム
	河口干潟の物理化学的特性が二枚貝の成育に及ぼす影響に関する研究		
	温泉地すべりの安定性に関する研究		

(出典：Web ページ)

資料 5-7-①-2

専攻科生の学会発表の履歴

■平成 16 年度入学(2 期生) 学会発表の履歴■

■平成 17 年度入学(3 期生) 学会発表の履歴■

1	MC	学 会	日本機械学会九州学生会第 36 回卒業研究発表講演会	1	MC	学 会	平成 17 年度土木学会西部支部研究発表会
		テーマ	走査型電気化学顕微鏡による Cr 合金の耐食性評価			テーマ	コンジョイント分析を用いた歩道景観の評価に関する研究 (街路樹と歩道デザインを対象として)
2	MC	学 会	第 11 回高専シンポジウム (長岡)	2	MC	学 会	第 11 回高専シンポジウム (長岡)
		テーマ	製鉄所副産物を混入した土の強度, 変形特性に関する一考察			テーマ	歩行者空間のデザインが景観評価に及ぼす影響
3	MC	学 会	日本機械学会九州学生会第 36 回卒業研究発表講演会	3	MC	学 会	平成 18 年度土木学会西部支部研究発表会
		テーマ	非 Pd 系水素透過膜の機械的特性評価			テーマ	底泥内部への乱れの浸透が物質移動に及ぼす影響
4	MC	学 会	平成 16 年度土木学会西部支部研究発表会	4	MC	学 会	第 12 回高専シンポジウム (三島)
		テーマ	鉄鋼スラグによる温泉噴気中の硫化水素吸着実験			テーマ	製鉄所副産物を用いた火山灰質粘土の安定処理効果について
5	MC	学 会	土木学会第 59 回年次学術講演会	5	MC	学 会	平成 17 年度土木学会西部支部研究発表会
		テーマ	橋脚損傷に与える上下動地震波の影響に関する解析的研究			テーマ	共分散構造分析を用いた V S P の評価に関する研究 (企業を対象として)
6	MC	学 会	平成 15 年度土木学会西部支部研究発表会	6	MC	学 会	平成 17 年度土木学会西部支部研究発表会
		テーマ	幾何学的非線形性を考慮した R C 橋脚の地震応答解析			テーマ	住民グループを対象としたアダプト・プログラムの評価に関する基礎的研究
7	MC	学 会	平成 16 年度土木学会西部支部研究発表会	7	MC	学 会	日本機械学会 2006 年度年次大会
		テーマ	終局曲率曲面を用いた R C 橋脚の動的耐震照査法に関する研究			テーマ	振動切削における切削速度向上に関する研究
8	MC	学 会	コンクリート工学年次論文集 Vol.27, 2005.6	8	MC	学 会	精密工学会九州支部第 7 回学生研究発表会
		テーマ	Flexibility 法を用いた長大スパン R C アーチ橋の地震応答の評価			テーマ	振動切削系に生じる動的挙動に関する研究
9	MC	学 会	土木学会第 60 回年次学術講演会	9	MC	学 会	第 6 回九州地区流体工学研究会 トークイン (九重)
		テーマ	コンクリート製アーチ橋に及ぼす地震波入力方向の影響に関する研究			テーマ	廃熱ボイラのダスト酸化効率向上に関する研究
10	MC	学 会	平成 15 年度土木学会西部支部研究発表会	10	MC	学 会	平成 18 年度土木学会西部支部研究発表会
		テーマ	アユの生態と河川水質との関係について			テーマ	大分県番匠川河口域におけるアサリ漁獲量低下に関する実験的考察
11	MC	学 会	日本機械学会九州支部大分地方講演会	11	MC	学 会	第 12 回高専シンポジウム
		テーマ	各種材料の回転曲げ疲労寿命に及ぼす繰返し速度の影響 (超高速回転曲げ疲労試験)			テーマ	温泉地すべり地における地下水の水温, p H, 電気伝導率に関する一考察
12	MC	学 会	日本機械学会九州学生会第 36 回卒業研究発表講演会	12	MC	学 会	平成 18 年度土木学会西部支部研究発表会
		テーマ	超高速回転曲げ疲労試験機の製作			テーマ	別府市明礬地すべり地の地下水性状について
13	MC	学 会	第 43 回燃焼シンポジウム	13	MC	学 会	日本機械学会九州学生会第 37 回卒業研究講演会
		テーマ	高圧下における P M M A の対向流中の燃え広がり			テーマ	不感性推進薬の熱伝導率および熱拡散率の同時測定
14	MC	学 会	第 10 回高専シンポジウム	14	ES	学 会	第 1 1 回高専シンポジウム
		テーマ	非日常空間における歩道デザインに関する研究			テーマ	大気揺らぎを通して観測された多数枚の劣化観測像からの像回復
15	MC	学 会	平成 16 年度土木学会西部支部研究発表会	15	ES	学 会	第 5 回電子情報系高専フォーラム
		テーマ	ポリマーセメントモルタルの最適吹付け方法に関する一考察			テーマ	分散オブジェクトによる分散処理システムの実装
16	MC	学 会	平成 17 年度土木学会西部支部研究発表会	16	ES	学 会	FIT2006 第 5 回情報科学技術フォーラム
		テーマ	吹付けモルタル工法の締固め度評価に関する研究			テーマ	心理的抵抗感の軽減と利便性の向上を目的とした <sup>h</sup> イマトリック認証
17	MC	学 会	M&M2005 材料力学カンファレンス	17	ES	学 会	平成 1 7 年度電気関係学会九州支部連合大会
		テーマ	S U S 3 0 4 鋼の疲労寿命予測 (温度変化を伴う場合)			テーマ	JavaSpaces を用いた並列遺伝的アルゴリズム
18	MC	学 会	日本機械学会九州学生会第 36 回卒業研究講演会	18	ES	学 会	第 7 回 I E E E 広島支部学生シンポジウム
		テーマ	S U S 3 0 4 鋼における疲労試験中の温度変化と疲労寿命との関係			テーマ	T C R の認識多様性を考慮した免疫的ネットワーク
19	MC	学 会	日本機械学会学生会第 36 回卒業研究発表講演会	19	ES	学 会	平成 18 年度 第 5 回 電子情報系高専フォーラム
		テーマ	種々の材料に対する振動切削加工面の比較			テーマ	心理聴覚モデルを用いたノイズキャンセラに関する一考察
20	ES	学 会	平成 1 7 年度第 4 回「電子情報系高専フォーラム	20	ES	学 会	第 1 1 回高専シンポジウム
		テーマ	傷信号の抽出方法に関する一提案			テーマ	位相変調を用いた光波形成法
21	ES	学 会	平成 1 7 年度第 4 回「電子情報系高専フォーラム	21	ES	学 会	第 5 回電子情報系高専フォーラム
		テーマ	誘導電動機ベクトル制御方式の実験装置の開発			テーマ	携帯電話を用いた Web システムの研究
22	ES	学 会	平成 1 7 年度第 4 回「電子情報系高専フォーラム				
		テーマ	局所的分散表現を持つ自己組織化マップ				
23	ES	学 会	平成 1 6 年度第 3 回「電子情報系高専フォーラム				
		テーマ	コスト関数と像の拘束条件とを用いたブラインドデコンボリューション法				
24	ES	学 会	平成 1 7 年度電気関係学会九州支部連合大会				
		テーマ	抵抗負荷ソフトスイッチング単相 A C レギュレータ				
25	ES	学 会	平成 1 6 年度第 3 回「電子情報系高専フォーラム				
		テーマ	相関を持った記憶パターンを学習させた連想記憶モデルの偽記憶				

(出典：専攻科資料)

平成18年度 専攻科2年  
特別研究審査・発表会プログラム

[日時] 2007年02月02日(金)、9:00~17:00

[会場] アカデミックホール

[プログラム]

09:00~09:10 挨拶：専攻科長 佐藤 秀則

09:10~11:50 セッションⅠ 座長：清水啓一郎

- |  |   |       |
|--|---|-------|
| ..... 「大気ゆらぎを通して観測された多数枚の劣化観測像からの像回復」                | / | ..... |
| ..... 「分散処理システムの研究」                                  | / | ..... |
| ..... 「画像処理を用いたバイOMETリック個人認証」                        | / | ..... |
| ..... 「オブジェクト共有空間を用いた並列免疫アルゴリズムによる胸部X線画像における肺癌陰影の検出」 | / | ..... |
| ..... 「生体の免疫機能を有する免疫的ネットワークとその工学的応用」                 | / | ..... |
| ..... 「心理聴覚特性を利用した Spectrum Subtraction 法に関する研究」     | / | ..... |
| ..... 「位相変調による光波形成」                                  | / | ..... |
| ..... 「携帯電話を用いた Web システム」                            | / | ..... |

12:00~12:50 昼食

12:50~14:50 セッションⅡ 座長：一宮 一夫

- |  |   |       |
|--|---|-------|
| ..... 「コンジョイント分析を用いた街路樹景観の評価・分析」       | / | ..... |
| ..... 「水環境予測における流れ場の高精度再現手法の検証」        | / | ..... |
| ..... 「製鉄所副産物を用いた火山灰質粘性土の安定処理効果について」   | / | ..... |
| ..... 「共分散構造分析による企業を対象としたVSPの評価に関する研究」 | / | ..... |
| ..... 「アダプト・プログラムにおける効果と満足度の要因分析」      | / | ..... |
| ..... 「振動切削系に生じる動的挙動の研究(加工能率向上に関する考察)」 | / | ..... |

14:50~15:00 休憩

15:00~16:40 セッションⅢ 座長：一宮 一夫

- |   |   |       |
|---|---|-------|
| ..... 「廃熱ボイラのダスト酸化効率向上に関する研究」           | / | ..... |
| ..... 「純ニオブ水素透過膜における水素脆性の定量評価」          | / | ..... |
| ..... 「河口干潟の物理化学的特性が二枚貝の育成に及ぼす影響に関する研究」 | / | ..... |
| ..... 「別府市明礬地区における温泉地すべりの安定性に関する研究」     | / | ..... |
| ..... 「不感型推進薬の熱伝導率および熱拡散率の同時測定」         | / | ..... |

16:40~16:50 講評：校長先生 大城 桂作

16:50~17:00 挨拶：専攻科長 佐藤 秀則

[発表要領]

- ・発表時間は10分、質疑応答時間は8分、1人当たり合計18分とします。また、交代/準備のための時間として2分確保していますので、その時間内に速やかに次の発表者との交代、発表準備をして下さい。
- ・発表終了2分前に1鈴、発表終了時に第2鈴、質疑応答終了時に第3鈴を鳴らします。時間を厳守して発表をして下さい。

(出典：専攻科資料)

資料5-7-①-4

大分工業高等専門学校専攻科 特別研究審査票

平成19年 2月 2日実施

特別研究審査票 特別研究審査会

審査員氏名

ES専攻

番号	氏名	(1)~(5)をそれぞれ100点満点で記入					コメント	評価点
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								

評価項目

- (1) 講演概要 (規程どおりか、ミスはないか、表現は良いか、図は見やすいか)
- (2) パワーポイント (見やすいか、効果的な図であるか、工夫が見られるか)
- (3) 話し方 (聴衆をひきつける話し方が出来たか、視線やポインターは効果的か)

(出典：専攻科資料)

資料5-7-①-5

2007.02.16

平成18年度 専攻科 特別研究審査会 審査結果

[日時] 2007.02.02、09:00~11:50

[場所] 専攻科棟 4F アカデミックホール

ES専攻 清水

番号	氏名	評 価 者										評価結果 平均点	
1													
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													

※”-”は途中退席或いは途中参加を表す。

(出典：専攻科資料)

## 資料5-7-①-6

平成19年 2月 2日実施

特別研究審査票 特別研究論文審査

主査氏名

審査対象者 氏名(所属)	
論文題目	
主査氏名	
副査氏名	

審査項目	主査評価 (100点法)	副査評価 (100点法)
決められたフォームで書かれているか、ページ数が適切か。		
誤字脱字、図、表、キャプションの間違いないか。		
論文の構成が良いか、学術的な文書表現が出来ているか。		
自分の研究の位置づけを地球的視点から多面的に考察・理解することができているか。		
基礎工学や専門工学等で身につけた技術や知識を統合し研究計画を立て、遂行することが出来たか。		
データを正確に解析し、工学的に考察し、結果を論理的にかつ効果的に記述することができているか。		
上記6項目の平均評価点		

論文審査結果（主査、副査の平均評価点）

(出典：専攻科資料)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科特別研究は深い専門知識と研究経験を持つ専攻科担当教員から2年にわたるきめ細かい指導を受け、中間発表会で複数の専攻科担当教員からの多くの質問や助言による指導を受けており、専攻科で修学するにふさわしい十分な研究指導が行われている。

**観点 5-8-①：** 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価、単位認定、専攻科修了要件及び専攻科修了要件の一つである教育プログラム修了要件は、それぞれ規則で定められており(資料5-5-③-2, 5-8-①-1)、専攻科生に配布する専攻科学生便覧とシステムデザイン工学プログラム履修の手引きにも記載している。さらに専攻科新入生オリエンテーション等で説明を行っており、学生には十分周知されている。

成績は各担当教員がシラバスの総合評価に記載した方法で算出するが、その検証はエビデンス部会が行っている。

学習・教育目標達成度の評価を含む教育プログラムの修了に関しては、専攻科運営委員会の教育プログラム判定会議で適切に審議し(資料5-8-①-2)校長がこれを認定している。専攻科修了判定は専攻科運営委員会で適切に審議され(資料5-8-①-3)校長がこれを認定して、その結果を教員会議で報告している。平成18年度のこれらの審議では、3名について慎重に審議、うち2名は教育プログラム修了に関し不合格としたが、残る1名については必要な処置の上、修了を認めた。

#### 資料 5-8-①-1

#### 大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラム履修規則 (抜粋)

制 定 平成17年 1月26日  
最終改正 平成19年 1月12日

(修了要件と修了証書の授与)

第13条 本教育プログラムを修了するためには、次の各号の要件を全て満たさなければならない。

- 一 本教育プログラムの各学習・教育目標の評価方法(別表2)に示す基準を全て満たし、学習・教育目標を達成していること。
  - 二 本教育プログラムの認める単位を124単位以上修得していること。
  - 三 本教育プログラムにおいて、総学習保証時間が1800時間以上であること。ただしこの中には、250時間以上の人文・社会科学系の科目(語学教育を含む)の学習保証時間、250時間以上の数学・自然科学・情報技術系の科目の学習保証時間、900時間以上の専門技術分野の科目の学習保証時間を含まなければならない。
  - 四 情報技術・基礎工学科目群の①～⑤の各科目群(別表1-1)からそれぞれ1科目以上、合計6科目以上修得していること。
  - 五 学士取得のための審査に合格していること。
- 2 本教育プログラムの修了の認定は、教育プログラム修了判定会議の議を経て校長が行う。
  - 3 校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料5-8-①-2

教育プログラム判定会議 議事概要 (抜粋)

日時 : 平成19年3月13日 (火) 9:00~11:00  
場所 : 会議室

議題 教育プログラム修了判定

以下の手順で教育プログラム(システムデザイン工学プログラム)修了について審議した。

- ①システムデザイン工学プログラム履修規則等の確認
- ②修了判定資料を含むエビデンスの確認
- ③判定資料についての説明(両主任)
- ④議論

.....  
.....  
.....

(以下略)

(出典：専攻科運営委員会資料)

資料5-8-①-3

専攻科運営委員会 (第10回) 議事概要

日時 : 平成19年3月13日 (火) 11:10~11:40  
場所 : 会議室

出席者 : 佐藤専攻科長, 清水専攻主任, 靄(S科), 一宮(C科), 吉澤(教務主事), 高橋(教務主事室), 田中(文系), 牧野(理系, 寮務主事室), 小西(M科), 木本(学生主事室), 学生課長, 専門員, 教務係長.

欠席者 : 福永専攻主任

議題 専攻科修了判定について

以下の手順で専攻科修了について審議した。

- ①「専攻科における授業科目の履修等に関する規則」の確認  
修了要件には3つ, 単位要件, 学習時間要件, 教育プログラム要件があり, この中の教育プログラム要件である「本校の定める学習・教育目標を達成していること」については教育プログラムの修了を意味することを確認した。
- ②専攻科修了要件の確認  
単位要件, 学習時間要件については全員が満足していることを確認した。
- ③判定

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

(出典：専攻科運営委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

成績評価, 単位認定, 専攻科修了判定については規則に定められ, シラバスに記載された評価方法に基づいて成績がつけられている。また, 単位認定, 専攻科修了判定は専攻科運営委員会にて適切に審議され校長によって認定されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

〈準学士課程〉

数学基礎力重視の方針に基づき、低学年において数学・専門教員による数学演習や年間4回の4学科共通数学到達度試験を実施しており、その結果は全国高専の数学到達度試験での優秀な成績に結びついている。TOEIC受験に対する支援を行っている他、英語プレゼンテーションや多読英語の取組み等で英語力増強に努めている。

〈専攻科課程〉

専攻科課程ではプロジェクト実験Ⅰで、専攻の違う学生のチームが専門性を生かし協力して達成する課題に挑ませ、アイデア創出、グループでの協議や構想、仕事の分担、設計と製作、工程管理、プレゼンテーション等の総合力を養っている。

プロジェクト演習Ⅳでは、特別研究で必要とされる論文能力作成能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力をつけるため、縮約、パラグラフ化、ディベート等を実施し効果を挙げている。

プレゼンテーション能力獲得の工夫がプロジェクト実験Ⅰ、プロジェクト演習Ⅳ、特別研究の中で取組まれ、さらに校内小論文試験、研究の外部発表等でその実力を確認する仕組みがあり、一連の取組みは学生の評価も高い。今年度からプロジェクト演習Ⅱでの英語プレゼンテーションへの取組みにも期待がかかる。

(改善を要する点)

準学士課程において、学生全員をインターンシップに参加させることが望ましい。

## (3) 基準5の自己評価の概要

〈準学士課程〉

学科ごとに専攻科まで含めた科目系統図を作成し、一貫したカリキュラムの編成を行っている。シラバスには学生にとって必要な情報がすべて網羅され、初回の授業でシラバスの内容説明が行われている。科目の単位配当は講義に集中することなく、実験や実習等をバランスよく設けることで、ものづくりへの取り組みを進めている。低学年にも実験や実習等を配置して専門への導入教育を実践することで、専門技術への興味を持たせ、高学年で専門技術の学習意欲を向上させるよう配慮されている。単位認定や進級・卒業判定に関する規定が開示されており、進級や卒業の判定が適切に履行されている。1～3学年は毎朝のショートホームルームと毎週の特別活動を実施し、加えて課外活動の推奨により人間の素養を育成する努力が行われている。更に、インターンシップや研修旅行で実社会を見学・体験し、技術の定着を図るだけでなく、人間の素養育成に配慮している。専門知識を持ち、実践的な技術者を育成する工夫や努力が行われている。

〈専攻科課程〉

教育課程は教育理念や学習・教育目標を基に分類された科目をバランスよく配置し、科目系統図や学習・教育目標を達成するために必要な主要科目の流れで体系的に編成されている。科目内容は担当教員が教育課程編成の趣旨に沿い、教育の目的を達成すべく考案し、詳細はシラバスに開示されている。

シラバス記入上の注意の内容、シラバスの全体構成、各科目内容の記述事項から、教育課程編成の



趣旨に沿ってシラバスが作成され、活用法をオリエンテーションで指導し、専攻主任と学生との個別面談でその活用が把握されている。

学習・教育目標に照らした体系的な科目配置により、講義、演習・実験・実習、個人指導を基本とする特別研究のバランスが適切である。専攻科は元来少人数授業となっている。学習・教育目標（C）コミュニケーション能力関連科目では、文章作法やディベート力養成のための縮約練習やディベートの実践訓練をする他、多くの発表の機会を与え実践的プレゼンテーション能力がつくように工夫をしている。PBL 科目の「プロジェクト実験Ⅰ」の中で創造的に諸能力を養っている。インターンシップとして選択2単位の「実務実習」を設定している。特別研究は深い専門知識と研究経験のある担当教員から2年にわたりきめ細かい指導を受け、中間発表会で専攻科担当教員から質問や助言を受ける等、専攻科にふさわしい十分な研究指導が行われている。学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に配慮して、「他専攻の授業科目の履修」、「他高等教育機関で取得した単位の認定」、「インターンシップの単位認定」、「補充教育」を整備している。

成績評価、単位認定、専攻科修了判定は規則に定められ、シラバスに記載された評価方法で成績がつけられる。単位認定、専攻科修了判定は専攻科運営委員会にて適切に審議され校長により認定されている。



## 基準6 教育の成果

### (1) 観点ごとの分析

観点6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

#### (1) 準学士課程

準学士課程の全科目は、学習・教育目標として定めた5つの主目標と達成すべき具体的な11のサブ目標のいずれかに対応しており（資料6-1-①-1）、目標達成状況は、卒業判定で確認するシステムになっている（資料6-1-①-2）。科目は、必修及び選択必修、必履修、選択に分けられる（資料6-1-①-3）。科目担当教員は目標の達成状況の把握・評価のため、定期試験結果や提出課題内容等を考慮し、シラバスの「総合評価」の内容に従い達成度評価を行う（資料6-1-①-4）。これらの授業科目に加え、3年次までの特別活動は、人間性の育成、社会性の涵養並びに進路実現の準備など、学習・教育目標に関わる重要科目と位置づけ（資料6-1-①-5）、卒業要件となっている（資料6-1-①-6）。また、卒業時の学力や資質・能力の把握は、専任教員による卒業判定会議において、資料に基づき修得単位数や特別活動修得状況を総合的に審議し、最終的に校長が卒業認定するシステムとなっている（資料6-1-①-7）。

#### (2) 専攻科課程

準学士課程に加え、より専門的な学習・教育目標（資料6-1-①-8）に対応した教育課程を編成しており、授業科目は必修及び選択科目からなっている（資料6-1-①-9）。各学習・教育目標の達成を専攻科修了要件の1つとし、その評価方法を学生に示している（資料6-1-①-10）。科目担当教員は各目標の達成状況を把握・評価するため、シラバスの「総合評価」の内容に従い達成度を評価している（資料6-1-①-11）。さらに修了時の学力や資質・能力の達成状況把握は、修了判定会議（資料6-1-①-12）で総合的に審議判定し、最終的に校長が修了認定するシステムとなっている（資料6-1-①-13）。









資料 6 - 1 - ① - 2

標語	目標	サブ目標	(準学士課程において達成すべき(具体的な)目標)	評価方法
A 愛の精神	世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養, 自ら考える力, いつくしみの心を身につける	A-1 自ら考える力を身につける	(1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 論理的に自らの考えを構築することができること	社会系必修科目を修得
		A-2 技術者としての倫理を身につける	(1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること (2) いつくしみの心を持ち, 相手の立場に立って考えることができること	特別活動を履修
B 科学や工学の基礎	科学の粋を極める技術者に必要な数学, 自然科学, 情報技術, 専門工学の基礎を身につける	B-1 数学, 自然科学の力を身につける	(1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然科学の基本的な問題が解けること	数学, 自然科学, 体育系の必修科目を修得
		B-2 情報技術, 専門工学の基礎を身につける	(1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること	情報技術系, 専門の必修科目を修得
C コミュニケーション能力	地域や国際舞台での活躍をめざして, 多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける	C-1 表現する力, ディスカッションする力を身につける	(1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように表現できること	国語系の必修科目を修得
		C-2 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける	(1) 英語で表現された文章を理解でき, 英語による簡単な作文ができること	英語系の必修科目を修得
D 技術者としてのセンス	創造的技術者としてのセンスを磨き, 探究心, 分析力, イメージ力を身につける	D-1 探究心, 分析力, イメージ力, デザイン能力を身につける	(1) 技術の対象に対して, 計測測定を行い, 問題を分析することができること (2) 問題を深く掘り下げる努力ができること	必修の実験・実習, 卒業研究を修得
		D-2 協力して問題を解決する力を身につける	(1) チームで問題に取り組む体験を得ること	PBLに対応する実験・実習, または校外実習単位を修得
E 専門工学の活用	専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し, これを活用する力を身につける	E-1 専門工学の知識を獲得する		
		E-2 工学の相互関連性を理解する		
		E-3 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し, 解決する力を身につける		

(出典: 教育システム委員会資料 準学士課程学習・教育目標)

資料 6 - 1 - ① - 3

◆ 教育課程(授業科目と特別活動)

どんな授業が、何学年でどれだけ用意されているのかは、大分工業高等専門学校学則の**教育課程表**に示されています。

**教育課程**とは、望ましい学習が行われるように授業などを編成したもので、本校の教育課程は、教育課程表に示されている授業科目とクラスで討論し合ったり、学級担任と意見を交換したりする特別活動とからなっています。

**授業科目**には、全学科共通の**一般科目**と各学科に分かれた**専門科目**があります。

もう一つの分類に、全員に学んでもらうために用意された**必修科目**と各自の希望により自由を選ぶことのできる**選択科目**があります。選択科目として他学科の専門科目を科目担当教員の許可を得て履修することもでき、単位を修得することも可能ですが、個の単位は学年の課程修了に必要な単位の外となります。

それぞれの科目の内容は、本校の「**シラバス(授業実施計画)**」に詳しく説明されていますので、よく見ておいてください。

定期試験の成績や単位の修得状況は、ポートフォリオに記入して各自で管理して下さい。

(出典: 学生便覧)



資料 6 - 1 - ① - 4

教科目名 情報処理 (Information Processing)

学科名・学年 : 電気電子工学科 1年

単位数など : 必修 4単位 (前期2コマ, 後期2コマ, 学習保証時間 84.0時間)

担当教員 : 山口貴之, 本田久平, 湯地敏史

授業の概要			
前期は, パソコンの基本的な操作方法を身に付け, ワープロや表計算の使い方を勉強する. さらにC言語の基礎を勉強する. 後期は Lego ブロックを用いたロボットの製作と NQC 言語によるプログラミングを行う. ハードウェアとソフトウェアのそれぞれを工夫することによって, 学生は様々な形と動きを持ったロボットを製作することができる.			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (B2)	
(1) パソコンの基本的な操作を身に付ける. (前期中間試験)			
(2) 基礎的なプログラミングを習得する. (前期末試験, 後期定期試験)			
(3) ロボット製作や発表を通じて, 問題解決能力やコミュニケーション能力を身に付ける. (後期レポート, 発表会)			
回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1	パソコンの実践学習	○単語や文章の入力と変換や入力文字の編集を習得する.	【理解の度合い】
2	(1) パソコンの基本的な操作	○ファイルとフォルダを操作できる.	
3, 4	(2) 文字入力	○文章, 図形, 表を組み合わせた文書や説明資料を作成できる.	
5, 6	(3) ファイル操作	○インターネットの基礎知識, 電子メールの仕組みを理解する.	
7-9	(4) ペイント		
10, 11	(5) 文書作成		
12	(6) 表計算		
13, 14	(7) 説明資料作成		
	(8) WWW, 電子メール		
15	前期中間試験		【試験の点数】 点
16	前期中間試験の解答と解説	○プログラムの編集, コンパイル方法, 変数, 標準入出力を習得する.	【理解の度合い】
17, 18	C言語プログラミング	○分岐処理と条件式について理解する.	
19-21	(1) C言語の基礎	○条件を満たしている間処理を繰り返すプログラムを作成できる.	
22, 23	(2) 条件判断文 if 文	○制御文を組み合わせた応用プログラムを作成できる.	
24, 25	(3) 繰り返し文 for 文		
26, 27	(4) 繰り返し文 while 文		
	(5) 応用		
28	前期期末試験		【試験の点数】 点
	前期期末試験の解答と解説		
29, 30	マインドストーム	○ブロックを組み立て, NQC 言語によるプログラミングができる.	【理解の度合い】
31, 32	(1) ブロックの組立	○光センサとタッチセンサを使ったロボットを製作できる.	
33, 34	(2) NQC 言語	○ライントレーサロボットを製作できる.	
35, 36	(3) センサ その1	○2つのロボット間での通信ができる.	
37, 38	(4) 自律型ロボット	○数名で協力しロボットを製作できる.	
39, 40	(5) ロボット間の通信		
41, 42	(6) 自主製作ロボット その1		
	(7) 自主製作ロボット その2		
43	後期中間試験		【試験の点数】 点
44	後期中間試験の解答と解説	○数名で協力しロボットを製作できる.	【理解の度合い】
45	(8) ロボット発表会	○発表資料を作成し製作したロボットを発表できる.	
46, 47	RoboCup Jr.	○数名で協力してサッカーを行うロボットを製作できる.	
48, 49	(1) サッカーロボ制作 その1	○発表資料を作成し製作したロボットを発表できる.	
50-53	(2) サッカーロボ制作 その2		
54, 55	(3) 発表会		
	後片付け		
56	後期期末試験		【試験の点数】 点
	後期期末試験の解答と解説		
履修上の注意	休み時間や放課後を利用してパソコン操作に早く慣れておくこと. 前期に習う C 言語については1年後期以降卒業するまで関連授業等で取り扱うので, 途中分からなところがあれば, すぐに解決しておくこと.		【総合達成度】
教科書	杉江日出澄, 吉田郁子, 「誰にも分かるパソコンの実践学習 Windows2000 版」, 培風館.		
参考図書			
関連科目	プログラミング, アルゴリズム, コンピュータ		
総合評価	達成目標の(1)~(3)について, 定期試験, 発表会, およびレポートで評価する. 総合評価は, 4回の定期試験の平均60%, 発表会20%, レポート20%とする. 総合評価が60点以上を合格とする.		【総合評価】 点

(出典: シラバス)

資料 6 - 1 - ① - 5

2004/04/02

## 特活検討委員会報告

## 【基本方針】

本校の特別活動においては、本校の教育理念である「人間性に溢れ、国際感覚を備えた、探求心、創造性、表現能力を有する技術者を育成する」ために、教科教育の中では不足しがちな「愛の精神」「豊かな教養力」にあふれた人間の育成をめざすことを目標とする。そのためには各学年団や（特に進路に関しては）各学科が連絡を密にして特別活動に取り組むことが望ましい。

## 【具体的なこと】

- (1) 第 1、2、3 学年とも、毎週 50 分間で実施。（水曜日の 4 限、14:30～15:20 に実施）
- (2) 三つの基本方針「人間性の育成」、「社会性の涵養」、「進路実現への準備」を掲げ、テーマの決定にあたっては、この三本柱を中心にテーマを決める。
- (3) 三本柱は次のように各々三つのサブテーマに分かれている。
  - ① 人間性の育成...自己理解、自己鍛錬、自立心の涵養
  - ② 社会性の涵養...指導力の向上、集団への適応、公共心の育成
  - ③ 進路実現への準備...学習習慣の確立、将来設計、職業感の涵養
- (4) 年間実施回数 28 回のうち、三本柱に沿ったテーマを 20 回以上実施する。
- (5) 三本柱はさらに 3 分類されているので、学年の移行を考慮に入れながらそれら 9 個の小分類からバランスを考えてテーマを決める。
- (6) テーマの実施にあたっては、各学年団で事前に十分な話し合いの場をもつ。場合によっては各学年の統一テーマを決め、実施することもできる。
- (7) 年間指導計画書（特活実施予定表）については、今年度は試行期間ということでもあり、従来の（教務係から配布される）半期毎の特活予定表を作成することとし、実際に 1 年間かけて実践した記録をもとに来年度からは年間指導計画書を作成することとする。
- (8) 「特活実践記録」を作成し、今後の特活に役立てるためにそれらの資料を保存する。保存場所や方法については今後検討する。

## \* 添付資料

- ・ 特活テーマ・目的一覧
- ・ 特活実践記録

(出典：特活委員会資料)

資料 6-1-①-6

大分工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了等に関する内規（抜粋）

第 6 章 学年の課程修了及び卒業の認定

（学年の課程修了の認定）

第 13 条 学年の課程修了は、教員会議の議を経て校長が認定する。

- 2 前項の認定に当たっては、原則として次の各号に該当していなければならない。
  - 一 第 1 学年から第 3 学年までにおいては、当該学年の出席日数が出席すべき日数の 2/3 以上であること。
  - 二 第 1 学年から第 3 学年までにおいては、当該学年の特別活動を履修したと認められること。
  - 三 第 1 学年から第 4 学年までにおいては、当該学年の必修科目および必修科目は、すべて履修したと認められること。
  - 四 第 4 学年においては、第 1 学年から第 3 学年までの必修科目は、すべて修得したと認められること。
  - 五 第 5 学年においては、第 4 学年および第 5 学年の必修科目は、すべて修得したと認められること。また、選択科目は教育課程表において定められた単位数以上あるいは科目数以上を修得していること。
  - 六 第 1 学年から第 4 学年までにおいては、通算修得単位数が、次の表の単位数以上であること。

学 年	単 位 数
1	25
2	59
3	93
4	129

- 七 第 5 学年においては、通算修得単位数が 167 単位以上（そのうち、一般科目については、75 単位以上、専門科目については、82 単位以上とする。）であること。
- 八 第 4 学年と第 5 学年の授業として開講されている科目の修得単位数の合計が 62 単位以上であること。
- 3 第 4 学年に編入学した者及び第 3 学年に編入学した外国人留学生については、当該学科の前学年までの単位は修得したものとみなす。
- 4 第 2 項第六号の通算修得単位数には、第 8 条第 2 項、第 11 条及び第 12 条の規定に基づいて認定された単位は算入しない。

（出典：大分工業高等専門学校規則集）

資料 6-1-①-7

平成 18 年度第 14 回教員会議議事録（議事概要）（抜粋）

日 時 平成 19 年 3 月 14 日（水） 15：00～16：45  
 場 所 会 議 室  
 出 席 者 別紙のとおり

《議 題》

1. 平成 18 年度卒業判定について  
 教務主事から、資料 1 の成績一覧表に基づき説明があり、\$の付いた科目について、未履修を確定し、それ以外の科目については履修と認めた。  
 続いて、参考資料の「学業成績の評価及び課程修了等に関する内規」第 13 条第 2 項第 5 号、第 7 号及び第 8 号に基づき、順次判定を行い、・・・・・・・・・・161 名全員の卒業が承認された。

（出典：教員会議資料）

資料 6 - 1 - ① - 8

標語	目標	サブ目標	システムデザイン工学プログラムにおいて全員が満たすべき具体的な目標 (全員が達成すべき目標)	評価方法
A 愛の精神	世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いつくしみの心を身につける	A-1 自ら考える力を身につける	(1) 物事を多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 論理的に自らの考えを構築することができること	◎科目の修得 ○2科目以上修得 ディベート試験合格
		A-2 技術者としての倫理を身につける	(1) 人や自然・社会が相互につながり合っていることを理解していること (2) いつくしみの心を持ち、相手の立場に立って考えることができること	技術者倫理の修得
B 科学や工学の基礎	科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける	B-1 数学、自然科学の力を身につける	(1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然現象の本質を問う問題が解けること	◎科目の修得 ○2科目以上修得 総合的試験の合格または技術士1次試験
		B-2 情報技術、専門工学の基礎を身につける	専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること	◎科目の修得 ◎と○科目から10科目以上、15単位以上修得 総合的試験に合格または技術士1次試験
C コミュニケーション能力	地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける	C-1 表現する力、ディスカッションする力を身につける	自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること	◎と○科目の修得 学外発表
		C-2 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける	英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること	◎科目の修得 ○1科目以上修得 英語資格試験
D 技術者としてのセンス	創造的技術者としてのセンスを磨き、探究心、分析力、イメージ力を身につける	D-1 探究心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける	(1) 技術の対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができること (2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして、その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること (3) 問題を深く掘り下げる努力ができること	◎科目の修得
		D-2 協力して問題を解決する力を身につける	(1) 問題をチームで解決する体験を得ること (2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること	◎科目の修得 インターンシップ PBL関連科目の総合審査会
E 専門工学の活用	専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける	E-1 専門工学の知識を獲得する	自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げることでできる専門工学の知識があること	○10科目以上修得 小論文試験に合格または学位授与機構小論文審査に合格
		E-2 工学の相互関連性を理解する	(1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること	◎科目を修得 ○科目から2科目以上(専門科目を1科目以上)修得
		E-3 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける	自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること	特別研究の修得

(出典：教育システム委員会資料 専攻科課程学習・教育目標)

資料 6 - 1 - ① - 9

6. 履修方法ならびに手続き

(1) 必修科目と選択科目

開設された授業科目のうち必修科目については全科目を、選択科目については所定科目をそれぞれ受講して、成績の評価を受けなければなりません。

(出典：専攻科学生便覧)

大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラム履修規則

別表

各学習・教育目標の評価方法

学習・教育目標	関連する基準 1 (f)～ (h)の項目	評価方法	備考
<p>(A) 愛の精神</p> <p>世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いっしょの心を身につける</p>	<p>(A1) 自ら考える力を身につける</p> <p>(1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること</p> <p>(2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること</p> <p>(3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること</p> <p>(A2) 技術者としての倫理を身につける</p> <p>(1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること</p> <p>(2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること</p>	<p>(a) (i) ◎科目を全て修得していること</p> <p>(ii) (平成14年度以前入学生) ○科目のうち、特別研究、日本語表現法(国語特講I～V)、プロジェクト演習IVのほか1科目以上修得していること</p> <p>(平成15年度以降入学生) ○科目のうち、特別研究、プロジェクト演習IVのほか2科目以上修得していること</p> <p>(iii) プロジェクト演習IVにおけるディベート試験に合格すること</p> <p>(b) 「技術者倫理」を修得していること</p>	
<p>(B) 科学や工学の基礎</p> <p>科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける</p>	<p>(B1) 数学、自然科学の力を身につける</p> <p>(1) 数学の基本的な問題が解けること</p> <p>(2) 自然現象の本質を問う問題が解けること</p> <p>(B2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける</p> <p>(1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること</p>	<p>(c) (i) ◎科目を全て修得していること</p> <p>(g) (ii) (平成14年度以前入学生) ○科目のうち、宇宙地球科学のほか1科目以上修得していること</p> <p>(平成15年度以降入学生) ○科目のうち、宇宙地球科学のほか2科目以上修得していること</p> <p>(iii) (B1)に関する総合的試験において60点以上とることまたは技術士一次試験に合格していること</p> <p>(d1) (i) ◎科目を全て修得していること</p> <p>(g) (ii) ◎と○科目の中から10科目以上かつ15単位以上修得していること</p> <p>(c) (iii) (B2)に関する総合的試験において60点以上とることまたは技術士一次試験に合格していること</p>	
<p>(C) コミュニケーション能力</p> <p>地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける</p>	<p>(C1) 表現する力、ディスカッションする力を身につけること</p> <p>(1) 自ら表現したいことについて第二者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること</p> <p>(C2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける</p> <p>(1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること</p>	<p>(f) (i) ◎科目及び○科目を修得していること</p> <p>(ii) 学外団体主催による研究会等において発表を行うこと</p> <p>(f) (i) ◎科目を修得していること</p> <p>(ii) ○科目のうち、1科目以上修得していること</p> <p>(iii) (平成12年度以前入学生) 英語に関する資格試験において、TOEIC400点またはTOEFL (PBT) 420点、英検準2級、工業英検3級、ACE515点以上のいずれかを満たすことまたはこれらと同等以上の力を有することをポートフォリオによって証明できること</p> <p>(平成13年度以降入学生) 英語に関する資格試験において、TOEIC400点またはTOEFL (PBT) 420点、英検準2級、工業英検3級、ACE515点以上のいずれかを満たすこと</p>	
<p>(D) 技術者としてのセンス</p> <p>創造的技術者としてのセンスを磨き、探求心、分析力、イメージ力を身につける</p>	<p>(D1) 探求心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける</p> <p>(1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができ、そのものやシステムを創造するために結果を得る</p> <p>(2) ものやシステムをイメージして、その結果を得る方法をデザインすること</p> <p>(3) 問題を深く掘り下げる努力ができること</p> <p>(D2) 協力して問題を解決する力を身につける</p> <p>(1) 問題をチームで解決する体験を得ること</p> <p>(2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること</p>	<p>(d2b) ◎科目を全て修得していること</p> <p>(e) (d1) (d2c) (g) (h)</p> <p>(d2d) (i) ◎科目を全て修得していること</p> <p>(d2c) (ii) インターンシップ関連科目を修得していること</p> <p>(h) (iii) PBL関連科目の総合審査会で合格すること</p> <p>(e)</p>	
<p>(E) 専門工学の活用</p> <p>専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける</p>	<p>(E1) 専門工学の知識を獲得する</p> <p>(1) 自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げることで専門工学の知識があること</p> <p>(E2) 工学の相互関連性を理解する</p> <p>(1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること</p> <p>(2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること</p> <p>(E3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける</p> <p>(1) 自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること</p>	<p>(d2a) (i) ○科目のうち、10科目以上修得していること</p> <p>(ii) 専門性に即した小論文試験で、60点以上とること、または学位取得のための小論文試験に合格すること</p> <p>(d2a) (i) ◎科目を全て修得していること</p> <p>(d1) (ii) (平成12年度入学生) 自らの専門以外の○科目の中から、1科目以上を修得していること</p> <p>(e) (平成13年度以降入学生) ○科目の中から、2科目以上修得していること。ただし、その内1科目以上は、自らの専門以外の科目であること</p> <p>(d2c) 「特別研究」を修得していること</p> <p>(d2b) (e) (h) (g)</p>	

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料 6 - 1 - ① - 11

教科目名 プロジェクト演習Ⅳ (Project Seminar Ⅳ)

専攻名・学年 : 全専攻 2年 (教育プログラム 第4学年 ◎科目)

単位数など : 必修 1単位 (前期1コマ, 学習保証時間 22.5時間)

担当教員 : 高橋徹, 一宮一夫, 相本正吾

授業の概要

特別研究の遂行には、論文作成能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力などが必須である。この教科では縮約練習などにより、論文作成の際に役立つ論理的な思考法や文章構成法を習得する。更に、実践的なディベート方式の授業により、自らの力で考え、表現できる能力を養成する。

達成目標と評価方法

大分高専目標(A1)(C1), JABEE 目標(a)(f)

- (1) 縮約練習を通し、日本語による文章構成法を習得する。(小テスト, 定期試験)
- (2) 漢字・送り仮名など、日本語の基本について再確認する。(小テスト)
- (3) 文章のパラグラフ化を理解し、論文を論理的に構成できる。(定期試験)
- (4) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築し、これを表現して討議を行うことができる。(ディベート)
- (5) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できる。(ディベート, 定期試験)

回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 2 ~ 6	[日本語表現] 「日本語練習帳」の解説, 縮約練習の説明  縮約練習, 解説	教科書「日本語練習帳」の内容を理解する。特に、文章の構成力を身につける上で役立つ「縮約」技術の練習法について学ぶ。  新聞の社説など、与えられた文章について縮約を行う。縮約した文章は教員によって評価される。毎回、100点満点中80点以上を取ることが望ましい。	【理解の度合い】
7 8	「理科系の作文技術」の解説 パラグラフ化の練習	教科書「理科系の作文技術」の内容に触れる。文章のパラグラフ化について学習する。  2~8回まで授業の最初に漢字などの小テストを行う。	
9	小テスト	縮約, 漢字書き取りなどについて小テストを行う。	
10 ~ 12 13 14	[ディベート] 解説, グループ分け, 資料収集, 賛成派・反対派の決定, 作戦会議, プレゼンテーション作成 プレゼン, ディベート プレゼン, ディベート	与えられた複数のテーマについてプレゼンテーションおよびディベートを行う。学生は2~3名ずつの班に分かれ、それぞれのテーマについて2つの班が賛成派・反対派の立場となりプレゼンテーションおよびディベートを行う。ディベートの判定は、教員およびディベートに参加していない班の学生によって行われる。  10~12回まで、授業の最初に縮約練習をする。	【理解の度合い】
15	前期期末試験 前期期末試験の解答と解説	小論文, 縮約など	【試験の点数】 点
	履修上の注意	縮約練習をする上で必要な国語辞典などを用意すること。	
	教科書	大野 晋, 「日本語練習帳」, 岩波書店。 木下 是雄, 「理科系の作文技術」, 中央公論新社。	【総合達成度】
	参考図書	松本茂, 「頭を鍛えるディベート入門」, 講談社。	
	事前準備学習	教科書の対応箇所を読んでおくこと。日常において理系の作文を行う際には、パラグラフを意識して作文する習慣をつける。文章を読む場合には、事実か意見かを意識しながら読む。	
	関連科目	日本語表現法, 哲学概説, 思想史, 卒業研究, 特別研究	【総合評価】 点
	総合評価	授業中の小テスト・縮約練習結果・取り組み状況(約70%)と定期試験(約30%)により総合評価する。	

(出典：専攻科シラバス)

資料 6 - 1 - ① - 12

現地閲覧資料を参照

(出典：専攻科資料)

資料 6-1-①-13

専攻科運営委員会（第 10 回）議事概要（抜粋）

日 時 : 平成 19 年 3 月 13 日（火）11:10~11:40  
場 所 : 会議室  
出 席 者 : 佐藤専攻科長, 清水専攻主任, 靄(S 科), 一宮(C 科), 吉澤(教務主事), 高橋(教務主事室), 田中(文系), 牧野(理系, 寮務主事室), 小西(M 科), 木本(学生主事室), 学生課長, 専門員, 教務係長.  
欠 席 者 : 福永専攻主任

議題 専攻科修了判定について

以下の手順で専攻科修了について審議した。

- ①「専攻科における授業科目の履修等に関する規則」の確認  
修了要件には 3 つ, 単位要件, 学習時間要件, 教育プログラム要件があり, この中の教育プログラム要件である「本校の定める学習・教育目標を達成していること」については教育プログラムの修了を意味することを確認した。
- ②専攻科修了要件の確認  
単位要件, 学習時間要件については全員が満足していることを確認した。
- ③判定  
.....  
.....  
.....  
.....

(以下略)

(出典: 専攻科運営委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

準学士・専攻科両課程で卒業・修了時に身に付ける学力や資質・能力は, 学習・教育目標として定められ, その達成状況の把握を卒業及び修了判定会議で組織的に行っており, 学習・教育目標の達成により教育理念に掲げた人材像が養成できると考えられる。

以上から, 学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力, 養成する人材像等について, その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われている。



観点 6-1-②： 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得状況，進級の状況，卒業（修了）時の状況，資格取得の状況等から，あるいは卒業研究，卒業制作などの内容・水準から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

（1）準学士課程

学年末の卒業・進級判定会議において，学習・教育目標の達成状況把握のための卒業・進級要件（資料 6-1-①-6）に従い単位修得状況等について厳格に審議し，卒業・進級が承認される。3年生は積極的な進路変更があるため進級率が低くなるが，過去5年間の進級率は 87%~100%となっている（資料 6-1-②-1）。

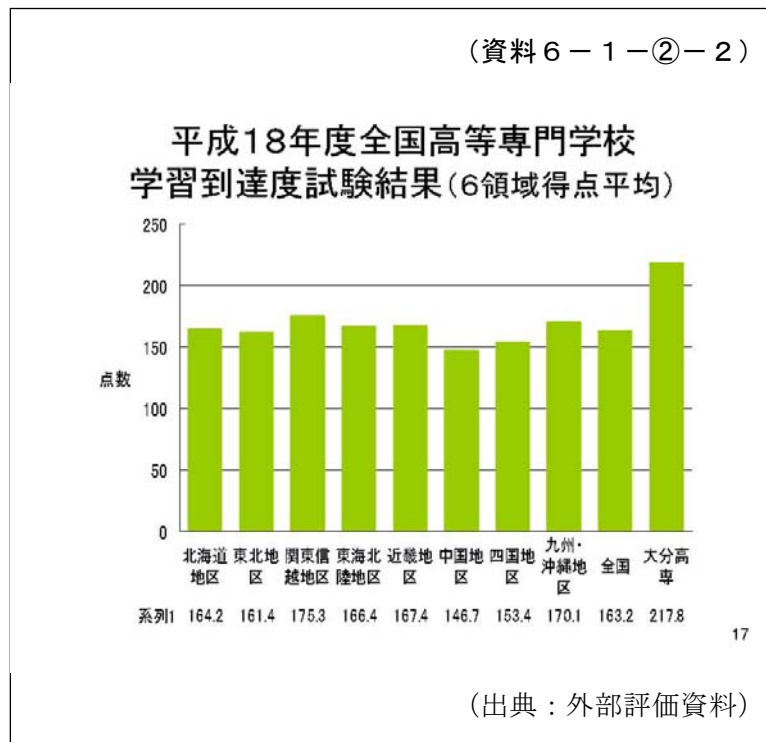
資料 6-1-②-1

**準学士課程 進級率（学年毎）**

学 年	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
1 年	96%	95%	99%	99%	96%
2 年	95%	93%	92%	96%	96%
3 年	88%	87%	88%	89%	93%
4 年	97%	91%	92%	93%	92%
5 年	99%	99%	100%	98%	99%

（出典：学生課資料）

平成 18 年度国立高等専門学校学習到達度試験（数学）（資料 6-1-②-2）で全国平均を上回る好成績を収めた理由の1つとして，以前から定期的実施してきた数学到達度試験（資料 6-1-②-3）が考えられる。また，英語資格試験を学校で実施するなどの支援も行われ（資料 6-1-②-4），教育の成果が表れている（資料 6-1-②-5）。他に各学科指導の下に資格取得を奨励し，課題学修及び特別学修として単位を認定している（資料 6-1-②-6）。さらに卒業研究は，論文・抄録や発表及び試問の状況を学科毎に全所属教員で公正かつ客観的に評価する仕組みとなっている（資料 6-1-②-7）。



資料 6-1-②-3

2007 年度 (平成 19 年度) 前期特活予定表

水曜日：14:30～15:20

学年 月日	1 年 (水) 4 限				2 年 (水) 4 限				3 年 (水) 4 限				
	M	E	S	C	M	E	S	C	M	E	S	C	
4	11	特活計画	クラス役員 選出	自己紹介	自己紹介	クラス委員選出 特活計画	前期特活 計画立案	クラス役員 選出	各種委員の 選出 & 都市 システム科賞表彰	特活計画	特活計画 委員決め	特活計画	ポータルフォ リオの確認 と整理
	18	教務主事室扱い (合併)				プロジェクト X (女の死を 越えて)	プロジェク ト X	前期特活 行事決め	戦争に ついて	校外清掃 活動	寮生活を 紹介します	プロジェク ト X	前期特活 計画
	26	図書館オリエンテーション		担任扱い		教務主事室扱い (合併)				クラスマッチ	クラスマッチ	校外清掃 活動	プロジェク ト X
5	2	ロボコン 2005 全国大会ビデオ上映 & ロボコン 2007 ルール説明 (合併講義室、90分)				GWの課題		「砂漠で遭 難したら」 危機にどう 対処する か？」	「砂漠で遭 難したら・ 生と死を 考える」	情熱大陸	校外清掃 活動	クラスマッチ	クラスマッチ
	9	クラスマッチ	私の尊敬 する人物 (6班) 1-ウ	クラスマッチ	夢を語ろう	ロボコン 2005 全国大会ビデオ上映 & ロボコン 2007 ルール説明 & 学生主事室関係校則復習 (合併講義室、90分)				自己評価	セクハラと は？	レクリエー ション	校外清掃 活動
	23	数学第 1 回到達度試験				数学第 1 回到達度試験				ロボコン 2005 全国大会ビデオ上映 & ロボコン 2007 ルール説明 & 学生主事室関係校則復習 (合併講義室、90分)			
	30	学生相談室扱い (合併)				校外清掃 活動	クラスマッチ	タグラブ ゲーム	クラスマッチ	自分たちの 可能性	図書館へ 行こう	S 科教員 講話	前期中間試 験の対策
6	20	公共の場 でのエチケット	キヤッチ商 法に気をつ けよう (5 班) 2-ウ	クラブ活動 探検報告	C 科先生へ のインタビ ュー	クラスマッチ	環境汚染を なくそう!	クラスマッチ	家族に ついて (1)	教務主事室扱い (合併)			
	27	校則をもつ と知ろう	クラスマッチ	クラス役員 の役割を知 ろう	クラスマッチ	M 科教員 講話	夏休みの計 画を立てよ う!	定期試験結 果の分析と 反省	家族に ついて (2)	3M 球技大会	プロジェク ト X	夏休みの 計画	クラスマッチ の話し合い
7	4	数学第 2 回到達度試験				数学第 2 回到達度試験				先輩の進路 I	クラスマッチ	高専祭 クラス企画	クラスマッチ
	11	携帯電話所 持の是非を 語る	クラス担任 扱い	砂漠で遭難 したら	ポータルフォ リオのチェッ ク	たばこの害について (保健室から：合併)	夏休みの 目標発表	人間の絆に ついて	クラスマッチ	高専祭準備	クラスマッチ	今週、印象 に残った新 聞記事の紹 介	
	5	クラスマッチ	アルパカの 意義と問題 点を語る (7 班) 1-イ	公共の場 でのエチケット	クラスマッチ	1 分間 スピーチ	校外清掃 活動	たばこの害について (保健室から：合併)	1 分半ス ピーチ夏休 み報告会	高専祭打ち 合わせ	スーパーコン ピュータと は？	ディベート	
9	12	定期試験 対策	能率的な学 習法 (4 班) 3-ア	交通安全に ついて考え よう	高専祭計画	前期を振り 返って	私の体験を 語る (古里 の自慢しち やいます)	前期末試験 の傾向と対 策	国際感覚と より広い視 野の育成	先輩の進路 II	生と死につ いて	校外研修オ リエンテー ション	前期定期試 験の対策

(出典：教務主事室資料)

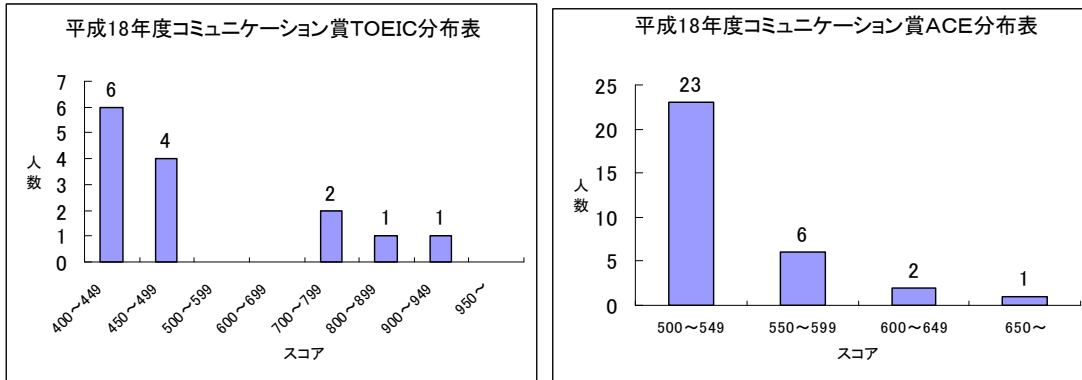
資料 6-1-②-4

英語資格試験実施状況 (本校で実施したもの)

	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年
TOEIC	5月, 7月, 9月, 11月	1月, 6月, 9月, 11月	1月
A C E	7月 (1年生)	2月 (1,2年生) 7月 (1年生)	2月 (1, 2, 3年生)
工業英検	5月, 11月	2月, 5月, 11月	

(出典：英語科資料)

(資料 6-1-②-5)



(出典：学生課資料)

(資料 6-1-②-6)

課題学修の修得者数

年度	名称・等級	科目名	単位数	担当学科	修得者数
平成14年	危険物取扱者乙種	課題学修 (危険物取扱)	1	専門学科	2
	基本情報技術者	課題学修 (情報処理)	2	専門学科	3
	ソフトウェア開発技術者	課題学修 (情報処理)	4	専門学科	1
				小計	6
平成15年	測量士補	課題学修 (測量)	1	土木工学科	1
	土木施工技術者	課題学修 (土木施工)	2	土木工学科	15
	基本情報技術者	課題学修 (情報処理)	2	電気工学科	4
				制御情報工学科	5
	電気主任技術者3種	課題学修 (電気)	2	電気工学科	2
	危険物取扱者乙種	課題学修 (危険物取扱)	1	機械工学科	5
				制御情報工学科	2
	造園施工技術者	課題学修 (造園施工)	2	土木工学科	1
第2種電気工事士		課題学修 (電気工事)	1	電気工学科	1
				電気電子工学科	1
			小計	37	
平成16年	基本情報技術者	課題学修 (情報処理)	2	電気電子工学科	1
				制御情報工学科	3
	ソフトウェア開発技術者	課題学修 (情報処理)	4	電気工学科	3
				電気電子工学科	1
				制御情報工学科	1
	技術士補	課題学修 (技術士補)	4	土木工学科	1
	土木施工技術者	課題学修 (土木施工)	2	土木工学科	21
	電気主任技術者3種	課題学修 (電気)	2	電気工学科	1
危険物取扱者乙種	課題学修 (危険物取扱)	1	制御情報工学科	2	
第2種電気工事士	課題学修 (電気工事)	1	電気電子工学科	4	
			小計	38	
平成17年	基本情報技術者	課題学修 (情報処理)	2	電気電子工学科	1
				制御情報工学科	1
	第2種電気工事士	課題学修 (電気工事)	1	電気電子工学科	4
	電気主任技術者3種	課題学修 (電気)	2	電気電子工学科	2
	初級システムアドミニストレータ	課題学修 (システム管理工学)	1	都市システム工学科	1
	技術士補	課題学修 (技術士補)	2	機械工学科	2
	土木施工技術者	課題学修 (土木施工)	2	土木工学科	12
	危険物取扱者乙種	課題学修 (危険物取扱)	1	機械工学科	2
			小計	25	
平成18年	基本情報技術者	課題学修 (情報処理)	2	制御情報工学科	4
	初級システムアドミニストレータ	課題学修 (システム管理工学)	1	制御情報工学科	4
	第2種電気工事士	課題学修 (電気工事)	1	電気電子工学科	3
	第3種電気主任技術者	課題学修 (電気工事)	2	電気電子工学科	2
	技術士補	課題学修 (技術士補)	4	土木工学科	1
	危険物取扱者乙種	課題学修 (危険物取扱)	1	機械工学科	2
				制御情報工学科	1
	2級土木施工管理技士	課題学修 (土木施工)	2	土木工学科	2
			小計	19	

特別学修の修得者数

年度	技能審査の名称・等級	科目名	単位数	一般・専門の別	修得者数
平成 14 年	実用英語技能検定 2 級	特別学修 (実用英語)	2	一般科目	1
	実用英語技能検定 2 級	特別学修 (実用英語)	1	一般科目	4
	工業英語能力検定 3 級	特別学修 (工業英語)	1	専門科目	2
				小 計	7
平成 15 年	実用英語技能検定 2 級	特別学修 (実用英語)	2	一般科目	4
	実用英語技能検定 2 級	特別学修 (実用英語)	1	一般科目	7
	工業英語能力検定 3 級	特別学修 (工業英語)	1	専門科目	2
				小 計	13
平成 16 年	工業英語能力検定 3 級	特別学修 (工業英語)	1	専門科目	1
				小 計	1
平成 17 年	実用英語技能検定 2 級	特別学修 (実用英語)	1	一般科目	1
				制御情報工学科	2
	工業英語能力検定 3 級	特別学修 (工業英語)	1	制御情報工学科	3
				土木工学科	1
				小 計	7
平成 18 年	実用英語技能検定 2 級	特別学修 (実用英語)	2	制御情報工学科	1
	実用英語技能検定 2 級	特別学修 (実用英語)	1	制御情報工学科	1
				小 計	2

(出典：学生課資料)

資料 6 - 1 - ② - 7

平成 18 年 4 月 5 日

平成 18 年度機械工学科卒業研究総合評価方法

1. H18 年度シラバスの評価方法 (抜粋)

達成目標 (1)～(4) についての総合評価は、別途「平成 18 年度機械工学科卒業研究総合評価方法」にて定め、受講者に説明をする。総合評価が 60 点以上の受講生を合格とする。

達成目標と評価方法	大分高専目標(C1)(D1)、JABEE 目標(d2b)(d2c)(e)(f)(g)(h)
(1) 研究に関する知見を収集し、それを理解することができる。(論文、抄録、発表)	
(2) 論理的思考を持って、問題対処や他者との討論ができる。(論文、抄録、発表)	
(3) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、文章表現能力を身につける。(論文、抄録、発表)	
(4) 研究に主体的に取り組むことができる。(論文、抄録、発表)	

2. 評価方法

- 中間報告会 (発表および質疑応答)、(2)抄録、(3)卒業論文、(4)試問 (発表および質疑応答) について「機械工学科卒業研究判定会議」にて審査する。上記の(1)～(4)について審査員は、A (優れている)、B (良い)、C (今後の努力が必要)、D (不可) の 4 段階評価を行う。
- 全ての審査員の 4 段階評価が C 以上である場合、合格とする。但し、4 段階評価に D が 1 つ以上ある場合は、「機械工学科卒業研究判定会議」にて決定した内容について修正した場合に 4 段階評価の D を C と書き換えることができる。
- 合格の場合、卒業研究に関するエビデンス (中間発表資料および質疑応答、卒業論文コピー、試問発表資料および質疑応答、卒研指導記録、時間数総計表、抄録) を期日までに提出しなければならない。
- 総合評価は 100 点法で行い、4 段階評価 A を 90 点、B を 75 点、C を 65 点とし全ての審査員の算術平均値とする。また、最終的に 4 段階評価に D を有する場合は総合評価を 60 点とする。
- 成績表には学則に基づき合格とする。

番号	実施時期 / 切時期	項目	内容
1	11月上旬～中旬	中間報告会 (発表および質疑応答)	以下の全ての条件を満たした学生を中間発表の合格とする。 ○ 口頭発表を行うこと ○ ポスター発表を行うこと ○ 質問もしくは質問カードに回答すること 但し、欠席した学生は指導教官が中間発表と同様の指導をしてエビデンスを提出することで合格とする
2	2～3月	抄録	以下の全ての条件を満たした学生を抄録の合格とする。 ○ 抄録作成要項に準じて抄録を作成していること ○ 抄録を期限内に提出していること
3	2～3月	卒業論文	以下の全ての条件を満たした学生を卒業論文の合格とする。 ○ 論文作成要項に準じて論文を作成していること ○ 論文を期限内に提出していること
4	2～3月	試問 (発表および質疑応答)	以下の全ての条件を満たした学生を試問の合格とする。 ○ 口頭発表を行うこと ○ 試問において質問に回答すること。但し、回答が不十分な場合はレポート提出を義務づける場合がある。
5	2～3月	エビデンス提出	以下のエビデンスを期日までに提出した学生を合格とする。 ○ 卒業論文のコピー 1部 ○ 卒研試問パワーポイント 1部 ○ 卒研指導記録および時間数総計表 1式 ○ 抄録 1部

(出典：機械工学科資料)

## (2) 専攻科課程

学年末に修了判定会議で厳格に審議し、専攻科修了要件（資料 6-1-②-8）を満足した学生のみが修了を承認される（資料 6-1-②-9）。また、外部発表や英語資格修得（資料 6-1-②-10）を義務づけている。特別研究は、外部発表に耐え得る高い水準が保たれており（資料 6-1-②-11）、専攻科担当教員により厳正かつ客観的に審査されている（資料 6-1-②-12）。

## 資料 6-1-②-8

## 5. 修了要件

専攻科の修了には、次の要件を全て満たさなければなりません。

- 一 学則第 53 条に規定する要件のほか、全ての必修科目を修得したと認められること。
- 二 機械・環境システム工学専攻においては、専門科目の選択 A 群より 6 単位以上修得したと認められること。
- 三 学習時間が 600 時間以上であること。ただし、70 時間以上の人文科学・社会科学等（語学を含む）、70 時間以上の自然科学・数学・情報技術系科目及び 300 時間以上の専門分野の学習時間を含まなければならない。
- 四 大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラム履修規則第 13 条第 1 項の修了要件を全て満たしていること。

（出典：専攻科学生便覧）

## 資料 6-1-②-9

## 専攻科課程 修了率

入学年度	専攻	入学者数	退学者数	留年者数	修了者数	進級(修了)率
15	MC	11	1	0	10	91%
	ES	12	0	0	12	100%
16	MC	12	1	0	11	92%
	ES	6	0	0	6	100%
17	MC	11	1	1	9	82%
	ES	8	0	0	8	100%

（出典：学生課資料）

資料 6 - 1 - ② - 10

2007.03.12

## 平成 18 年度 機械・環境システム工学専攻 修了生 修了要件一覧表

機械・環境システム工学専攻主任 福永 圭悟

## 1. 外部発表

学籍番号	氏名	発表学会名	発表場所	発表日
		平成 17 年度土木学会西部支部研究発表会	宮崎大学	2006/ 3/ 4
		平成 18 年度土木学会西部支部研究発表会	九州共立大学	2007/3/11
		第 12 回高専シンポジウム	東レ総合研修センター	2007/ 1/16
		平成 17 年度土木学会西部支部研究発表会	宮崎大学	2006/ 3/ 4
		平成 17 年度土木学会西部支部研究発表会	宮崎大学	2006/ 3/4
		日本機械学会 2006 年度年次大会	西日本工業大学	2006/12/ 1
		第 6 回九州地区流体工学研究会トークイン(九重)	九州地区国立大学九重共同研修所	2006/ 8/ 9
		日本金属学会九州支部、日本鉄鋼協会九州支部共催 平成 18 年度合同学術講演大会	九州工業大学	2007/ 6/10
		平成 18 年度土木学会西部支部研究発表会	九州共立大学	2007/ 3/11
		第 12 回高専シンポジウム	東レ総合研修センター	2007/ 1/16
		日本機械学会九州学生会第 37 回卒業研究講演会	佐賀大学	2007/ 3/14

## 2. 英語資格

学籍番号	氏名	資格名	スコア	取得年月日	備考
		工業英検	3級	2005/ 6/29	
		TOEIC	715	2006/ 5/28	
		TOEIC	410	2004/ 6/16	
		工業英検	3級	2005/ 6/29	
		工業英検	3級	2006/ 2/28	
		工業英検	3級	2005/12/20	
		TOEIC	410	2006/ 5/13	
		TOEIC	450	2007/ 6/10	
		工業英検	3級	2005/12/20	
		TOEIC	435	2004/ 6/16	
		工業英検	3級	2006/ 6/28	

2007.03.09

## 平成 18 年度 電気電子情報工学専攻 修了生 修了要件一覧表

電気電子情報工学専攻主任 清水 啓一郎

## 1. 外部発表

学籍番号	氏名	発表学会名	発表場所	発表日
		第 1 1 回高専シンポジウム	長岡高専	2006/01/21
		第 5 回電子情報系高専フォーラム	熊本電波高専	2006/11/11
		第 5 回情報科学技術フォーラム	福岡大学	2006/09/05
		平成 1 7 年度電気関係学会九州支部連合大会	福岡工業大学	2005/09/29
		第 7 回 I E E E 広島支部学生シンポジウム	岡山大学	2005/11/26
		第 5 回電子情報系高専フォーラム	熊本電波高専	2006/11/11
		第 1 1 回高専シンポジウム	長岡高専	2006/01/21
		第 5 回電子情報系高専フォーラム	長岡高専	2006/01/21

## 2. 英語資格

学籍番号	氏名	資格名	スコア	取得年月日	備考
		TOEIC	595	2006/05/28	
		TOEIC	500	2007/01/14	
		TOEIC	425	2005/11/03	
		TOEIC	430	2006/01/14	
		TOEIC	440	2006/01/14	
		工業英検	3級	2005/12/20	
		TOEIC	485	2005/11/03	
		実用英検	2級	2003/07/25	

(出典：専攻科資料)

## 専攻科生の学会表彰の履歴

## ■平成 18 年度入学生(4 期生)■

番号	専攻	学生氏名	賞名・発表テーマ名
1	MC		賞名 平成 18 年度土木学会西武支部研究発表会優秀講演賞
			テーマ 道路愛称の効果に関する基礎的研究

## ■平成 17 年度入学生(3 期生)■

番号	専攻	学生氏名	賞名・発表テーマ名
1	MC		賞名 平成 18 年度地盤工学会九州支部学生賞(優良学生賞)
			テーマ 製鉄所副産物を用いた火山灰質粘性土の安定処理効果について

## ■平成 16 年度入学生(2 期生)■

番号	専攻	学生氏名	賞名・発表テーマ名
1	MC		賞名 全国高等専門学校デザインコンペティション2004ワークショップ部門地域交流シンポジウム 佳作
			テーマ 市民参加型舗道デザインについて～別大国道を事例として
2	MC		賞名 平成 17 年度地盤工学会九州支部 学生賞(優良学生賞)
			テーマ 製鉄所副産物の地盤改良材としての適用性に関する研究
3	MC		賞名 日本機械学会九州支部第 36 回九州学生会卒業研究発表講演会 優秀講演賞
			テーマ 種々の材料に対する振動切削加工面の比較
4	MC		賞名 日本機械学会九州支部第36回九州学生会卒業研究発表講演会 優秀講演賞
			テーマ 走査型電気化学顕微鏡による Cr 基金金の耐食性評価

## ■平成 15 年度入学生(1 期生)■

番号	専攻	学生氏名	賞名・発表テーマ名
1	MC		賞名 日本機械学会九州支部第35回九州学生会卒業研究発表講演会 優秀講演賞
			テーマ Cr-W合金の延性に及ぼす表面エネルギーと剛性率の影響
2	MC		賞名 平成 15 年度地盤工学会九州支部 学生賞
			テーマ 砕石粒状集合体の地震時における内部破壊特性に関する解析的研究
3	MC		賞名 平成 15 年度土木学会西武支部研究発表会優秀講演者賞
			テーマ 海藻を用いた生物検定による二酸化塩素及び塩素酸イオンの毒性評価
4	ES		賞名 第4回電子情報系高専フォーラム 講演奨励賞
			テーマ しきい値制御による連想記憶モデルの想起状態の切り替え
5	ES		賞名 日本AEM学会技術賞
			テーマ FG型磁気センサを使用したSUS316とSUS316Lの疲労評価

(出典 : W e b ページ)

## 資料 6-1-②-12

平成 18 年度 専攻科 2 年  
特別研究審査・発表会プログラム

[日 時] 2007 年 02 月 02 日 (金)、9:00~17:00

[会 場] アカデミックホール

[プログラム]

09:00~09:10 挨拶: 専攻科長 佐藤 秀則

09:10~11:50 セッション I 座長: 清水啓一郎

- |  |   |       |
|--|---|-------|
| ..... 「大気ゆらぎを通して観測された多数枚の劣化観測像からの像回復」                      | / | ..... |
| ..... 「分散処理システムの研究」  | / | ..... |
| ..... 「画像処理を用いたバイオメトリック個人認証」                               | / | ..... |
| ..... 「オブジェクト共有空間を用いた並列免疫アルゴリズムによる<br>胸部 X 線画像における肺癌陰影の検出」 | / | ..... |
| ..... 「生体の免疫機能を有する免疫的ネットワークとその工学的応用」                       | / | ..... |
| ..... 「心理聴覚特性を利用した Spectrum Subtraction 法に関する研究」           | / | ..... |
| ..... 「位相変調による光波形成」  | / | ..... |
| ..... 「携帯電話を用いた Web システム」                                  | / | ..... |

12:00~12:50 昼 食

12:50~14:50 セッション II 座長: 一宮 一夫

- |  |   |       |
|--|---|-------|
| ..... 「コンジョイント分析を用いた街路樹景観の評価・分析」           | / | ..... |
| ..... 「水環境予測における流れ場の高精度再現手法の検証」            | / | ..... |
| ..... 「製鉄所副産物を用いた火山灰質粘性土の安定処理効果について」       | / | ..... |
| ..... 「共分散構造分析による企業を対象とした V S P の評価に関する研究」 | / | ..... |
| ..... アダプト・プログラムにおける効果と満足度の要因分析」           | / | ..... |
| ..... 「振動切削系に生じる動的挙動の研究 (加工能率向上に関する考察)」    | / | ..... |

14:50~15:00 休 憩

15:00~16:40 セッション III 座長: 一宮 一夫

- |   |   |       |
|---|---|-------|
| ..... 「廃熱ボイラのダスト酸化効率向上に関する研究」           | / | ..... |
| ..... 「純ニオブ水素透過膜における水素脆性の定量評価」          | / | ..... |
| ..... 「河口干潟の物理化学的特性が二枚貝の育成に及ぼす影響に関する研究」 | / | ..... |
| ..... 「不感型推進薬の熱伝導率および熱拡散率の同時測定」         | / | ..... |

16:40~16:50 講 評: 校長先生 大城 桂作

16:50~17:00 挨拶: 専攻科長 佐藤 秀則

[発表要領]

- ・発表時間は 10 分、質疑応答時間は 8 分、1 人当たり合計 18 分とします。また、交代/準備のための時間として 2 分確保していますので、その時間内に速やかに次の発表者との交代、発表準備をして下さい。
- ・発表終了 2 分前に 1 鈴、発表終了時に第 2 鈴、質疑応答終了時に第 3 鈴を鳴らします。時間を厳守して発表をして下さい。



現地閲覧資料を参照

(出典：専攻科資料)

(分析結果とその根拠理由)

教育の目的達成を把握・評価するため、厳格な判定会議の審議を経て進級・卒業・修了が承認されている。準学士課程の進級率は87%~100%、専攻科課程の修了率も3年間で82%~100%と高い水準が保たれている。準学士課程では、学習到達度試験や資格修得の状況からも教育の効果が確認される。卒業研究の取り組みにおいても学生の資質・能力を引き出し向上させる教育を行っている。専攻科課程では学習・教育目標に沿い、より明確な評価基準を設定しており、修了者全員が学位を修得するなど教育の成果が形となって現れている。以上のことから学生が身に付ける学力や資質・能力についての教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

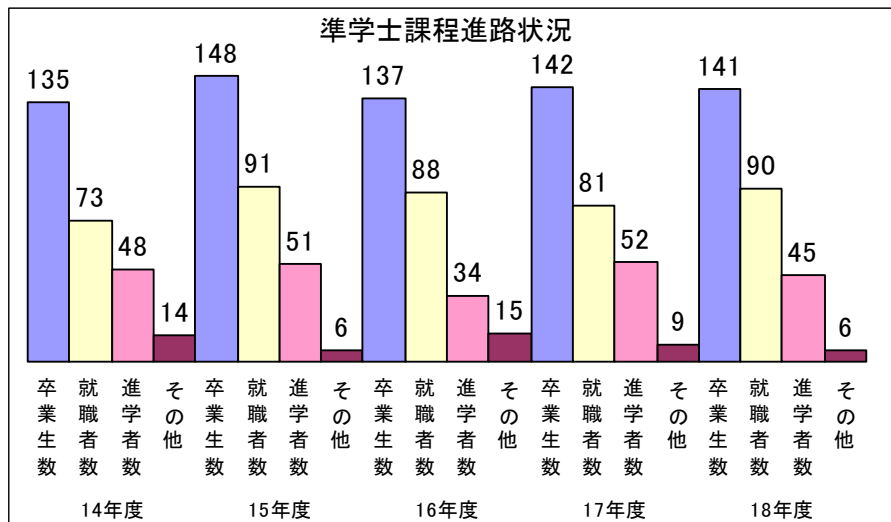
観点6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

（1）準学士課程

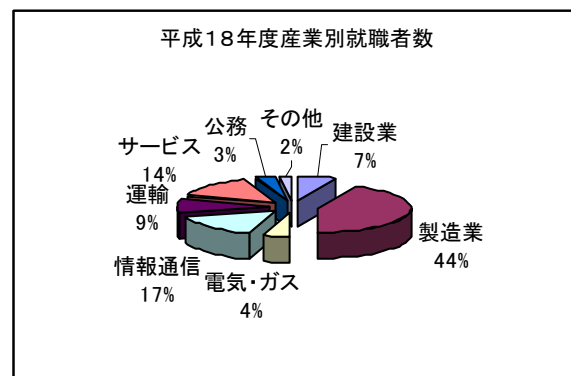
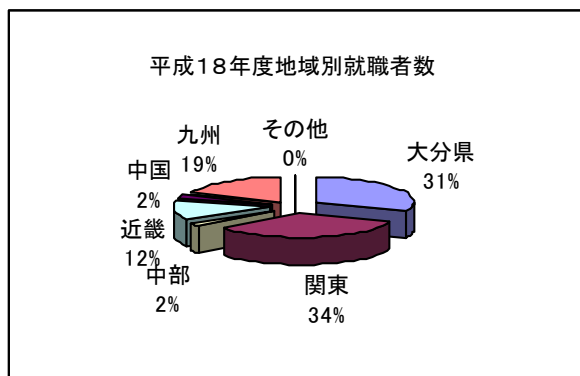
過去5年間の進路状況は就職率約60%，進学率約35%，その他約5%である（資料6-1-③-1）。就職者は、電器・機械製造業，建設業，情報通信が多くを占め，関東地区と大分県内への就職がその過半数を占めている（資料6-1-③-2）。進学者は，平成15年度に専攻科が設置されてから国立大学工学部編入学を主に全体的に増えている。（資料6-1-③-3，4）。

資料6-1-③-1



（出典：学生課資料）

資料6-1-③-2



（出典：学生課資料）

資料 6-1-③-3

進 学 状 況

	本校専攻科		他校専攻科		大学編入学		合 計
14 年度	21	44%	4	8%	23	48%	48
15 年度	18	35%	1	2%	32	63%	51
16 年度	19	56%	0		15	44%	34
17 年度	22	42%	0		30	58%	52
18 年度	19	42%	0		26	58%	45

(出典：学生課資料)

資料 6-1-③-4

大 学 編 入 学 等 状 況 表

(編入学年度で示す)

区分	進学先	年度	10年度 まで	11										計	
				11	12	13	14	15	16	17	18	19			
国立	北海道大学		9												9
	北海道教育大学											1			1
	室蘭工業大学		1												1
	岩手大学		1												1
	茨城大学		2					1	1						4
	筑波大学		4 (2)		1	2									7 (2)
	群馬大学		1												1
	埼玉大学		2												2
	千葉大学		3												3
	東京大学		2						1			1			4
	東京工業大学					1									1
	東京農工大学		6	1		1		1				1			10
	電気通信大学		10 (1)											1	11 (1)
	横浜国立大学		1												1
	長岡技術科学大学		29	2	5 (1)	1		1				2 (1)	1		41 (2)
	金沢大学		4												4
	山梨大学		25	1											26
	信州大学		1						1						2
	岐阜大学			1	1										2
	豊橋技術科学大学		66 (2)	3	4	3	4 (1)	6	8 (2)	※ 3	3	3	2		102 (5)
	名古屋大学									1					1
	名古屋工業大学				1										1
	三重大学		1												1
	大阪大学		4							1	2	1			8
	京都大学						1					1	1		3
	奈良女子大学					1 (1)									1 (1)
	神戸大学			1	1							1			3
	岡山大学		1	2 (1)					1			1			5 (1)
	広島大学		6 (1)		1				1						8 (1)
	山口大学		15 (2)	2	1					1		2			21 (2)
	徳島大学		3		1							1			5
	愛媛大学		1							1		1			3
	香川大学						1 (1)								1 (1)
	九州大学		10	1	2	1				1				3	18
	九州工業大学		※ 47 (1)	3	2	4 (1)	3	3	2	1	4	4	4		73 (2)
	佐賀大学		※ 14	1	3				1					1	20
	長崎大学		※ 25 (2)	4	3	6 (1)	5 (1)	1	2	1	3	2	2		52 (4)
	熊本大学		※ 33 (2)	3	3	3 (1)	3 (1)	4 (1)	3	3	2	4	4		61 (5)
	大分大学		※ 33 (2)	6	※ 4	8 (1)	3 (1)	1	6	※ 4	3	※ 5	2		73 (4)
	宮崎大学		11		1 (1)		1		4	2		2			21 (1)
	鹿児島大学		1					1	1				1		4
	前橋工科大学					1									1
	大阪府立大学		2	1	1 (1)										4 (1)
	広島市立大学		1												1
	北九州市立大学										1				1
金沢工業大学										1				1	
大分高専(専攻科)							※ 23 (5)	18 (2)	19 (1)	22 (1)	19 (3)			101 (12)	
北九州高専(専攻科)							1							1	
久留米高専(専攻科)							2	1						3	
佐世保高専(専攻科)							1							1	
八代高専(専攻科)					1									1	
合 計		375 (15)	32 (1)	35 (3)	32 (5)	22 (5)	50 (6)	51 (4)	36 (1)	52 (2)	46 (3)			731 (45)	

注) ※印は、過年度卒業生を含む。( ) は女子、内数で示す。

(出典：学生便覧)

## (2) 専攻科課程

修了後の進路状況と具体的な就職及び進学先を以下に示す(資料6-1-③-5, 6)。

資料6-1-③-5

## 専攻科進路状況

修了年度	専攻	修了者数	就職者数	進学者数	その他		
16	MC	10	10	100%	0	0	
	ES	12	7	58%	5	42%	0
17	MC	11	7	64%	4	36%	0
	ES	6	4	67%	2	33%	0
18	MC	9	3	33%	6	67%	0
	ES	8	5	63%	3	38%	0

(出典：学生課資料)

資料6-1-③-6

## 就職先一覧(専攻科)

平成16年度	(株)石井工作研究所、(有)エイコー技研、型研精工(株)、共同エンジニアリング(株)、大鉄工業(株)、東洋技術(株)、中津木工(株)、長幸建設(株)、(株)日産テック、ホンダ太陽(株)、大分キャンノ(株)、三和酒類(株)、(株)デンケン、日本精工(株)、平田精工(株)、(株)富士通九州システムエンジニアリング
平成17年度	(株)石井工作研究所、出光興産(株)、大分キャンノ(株)(2)、大分ガス(株)、オリエンタル建設(株)、建設技術研究所、三浦工業(株)、大分ケーブルテレコム(株)
平成18年度	(株)シーティーアイグランドプランニング、TMCシステム(株)、トヨタ自動車九州、(株)日立製作所、(株)アルファシステムズ、(株)富士通大分ソフトウェアラボラトリ、(株)日立アドバンストデジタル、西日本電線(株)、(株)オーイーシー

27

## 進学先一覧(専攻科)

平成16年度	北陸先端科学大学院大学、名古屋大学大学院、広島大学大学院、九州大学大学院、九州工業大学大学院
平成17年度	長岡技術科学大学大学院、東京工業大学大学院、九州大学大学院、九州工業大学大学院(3)
平成18年度	筑波大学大学院、豊橋技術科学大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学(2)、岡山大学大学院、九州大学大学院(2)、宮崎大学大学院(2)、熊本大学大学院

24

(出典：外部評価委員会資料)

## (分析結果とその根拠理由)

準学士課程は、進路決定率約 95%と高水準で、就職約 60%、進学約 35%となっている。就職先は、電器・機械製造業、建設業、情報通信等が主で、設置の4学科に直接対応する専門性を活かした進路となっている。地域別では大分県内及び関東地区が多く地域の要望にも応えている。

専攻科課程の進路決定率は 100%と優れており、就職約 60%、大学院進学約 40%となっている。このような卒業・修了後の進路状況の実績から、教育の成果や効果が上がっていると考えられる。

観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

従来から全学生に配布しているポートフォリオや，シラバスの理解度の自己点検欄（資料 6-1-①-4，11）を活用して学生自身が成績や学習・教育目標達成度を自己管理する仕組みを設けており，さらに平成 17 年度からは，学習・教育目標達成度チェック表（資料 6-1-④-1）を用いた学生の自己評価を始めた。卒業（修了）時に身に付ける学習・教育目標を含む学力や資質・能力については，卒業（修了）要件を満たすことで充足するシステムとなっているが，段階達成度の確認のため，学年修了毎に目標達成度の自己評価を行うこととした（資料 6-1-④-2）。

専攻科課程でも，学習・教育目標に即した修了要件チェック表（資料 6-1-④-3）を活用し，より具体的に設定された修了要件達成度を自己評価するシステムを構築している。

資料 6-1-④-1

学習・教育目標達成度チェック表  
あなたの現時点での学習・教育目標の達成度をチェックしてください。

クラス \_\_\_\_\_ 番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 記入日 19年 11月 11日

学習・教育目標 (標語)	具体目標	達成度 5段階	根拠	備考
A 愛の精神	A1 自ら考える力を身につける	3	自ら考え行動するようになり始めた。	
	A2 技術者としての倫理を身につける	3	まじめに思っている。	
B 科学や工学の基礎	B1 数学，自然科学の力を身につける	5	テスト結果から，勉強している。	
	B2 情報技術，専門工学の基礎を身につける	5	積極的に授業に参画している。	
C コミュニケーション能力	C1 表現する力，ディスカッションする力を身につける	3	もっと積極的にとりかかっていた。	
	C2 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける	4	英語の授業がんばった。	
D 技術者としてのセンス	D1 探求心，分析力，イメージ力，デザイン能力を身につける	3	探求心をもちつける。	
	D2 協力して問題を解決する力を身につける	4	みんなと仲良くがんばった。	
E 専門工学の活用	E1 専門工学の知識を獲得する	4	テスト結果から。	
	E2 工学の相互関連性を理解する	5	理解し始めた。	
	E3 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し，解決する力を身につける	1	体験する機会がなかった。	

本人のコメント

1年間，いろいろとがんばってきたつもりだけど，  
まだまだ不足している部分が多いと思うので，今年も真面目に

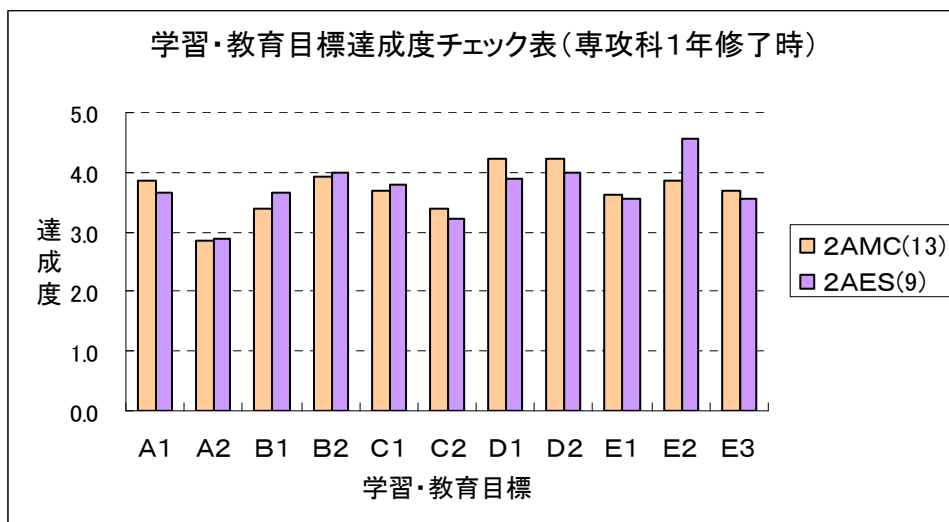
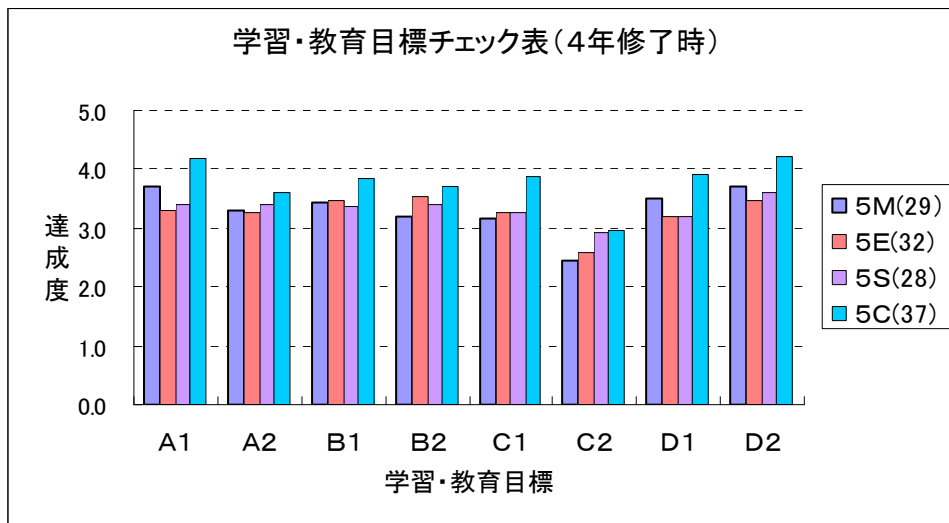
担任 (指導教員) からのコメント..... 記入日 2007.11.10.  
専門の基礎を，できつつありすが，... 専門科目の内容について，授業だけでなく，自分から積極的に図書館などで

(担任 (指導教員) はコメントを記入後にコピーして，原物を学生に返却してください)

調べるといいですね。(K.K.)

(出典：ポートフォリオ)

資料6-1-④-2



(出典：学生課資料)





観点 6-1-⑤： 卒業（修了）生や進路先などの関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。  
また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

教育プログラムアンケート部会により、平成 17 年度から毎年、卒業 5 年、10 年後の卒業生及び修了生を対象に在学時の教育の効果や学習・教育目標等に関するアンケート（資料 6-1-⑤-1）、平成 14 年度から数年毎に卒業生が就職した企業に教育内容等についてのアンケートをそれぞれ実施し、意見を収集している（資料 6-1-⑤-2）。平成 18 年には JABEE 修了証授与式後に修了生との懇談会を行い、修了直後の専攻科教育に対する意見も聴取した（資料 6-1-⑤-3）。アンケート結果や意見は、教育システム委員会で点検・評価を行い、他の点検事項と併せて、改善項目としてまとめている（資料 6-1-⑤-4、5）。

資料 6-1-⑤-1

平成 17 年度卒業生アンケート項目と結果(抜粋)

大分工業高等専門学校の教育に関するアンケート用紙（卒業生用）

Q 1. 大分高専を何年度に卒業しましたか？また、卒業なされたのは何学科ですか。  
卒業年度 1. 平成 6 年度 2. 平成 11 年度  
回答 [ ]

卒業学科 1. 機械工学科 2. 電気工学科 3. 制御情報工学科 4. 土木工学科 回答 [ ]

Q 2. あなたの職種は何ですか。  
1. 設計、計画 2. 製造、生産、施工 3. 生産技術、製造技術  
4. 研究、開発 5. 販売、営業  
6. 保守、点検、メンテナンス、サービスエンジニア 7. 施工管理、業務管理  
8. プログラマー 9. 事務・労務 10. 公職  
11. その他 ( ) 回答 [ ]

Q 3. 差し支えなければ現在の業務内容を少し詳しくお知らせください。  
[ 回答 ]

Q 4. 大分高専で受けた専門教育の内容（レベル）について伺います。現在の業務を遂行するための基礎として十分なレベルでしたか。  
1. 十分なレベル 2. ほぼ十分なレベル 3. やや低いレベル 4. 低いレベル 回答 [ ]

Q 5. あなたの現在の業務内容に照らして大分高専で受けた専門の基礎教育のレベルはどの程度にあると考えますか。  
1. 十分に業務をこなせる 2. ほぼ業務をこなせる  
3. 少し努力すれば業務をこなせる 4. やや不安がある  
5. 先行きに不安がある 回答 [ ]

Q 6. Q 5 で 4. 5. の不安があると答えた方はその理由をお答えください。  
[ 回答 ]

Q 7. 高専時代に受講して良かった（ためになった）講義科目を 3 科目程度記入してください。  
科目名 1 \_\_\_\_\_ 科目名 2 \_\_\_\_\_ 科目名 3 \_\_\_\_\_

Q 8. ご自分が卒業なさった学科において、今後強化してほしい教育内容がありましたら、科目名や分野を記入して下さい。  
[ 回答 ]

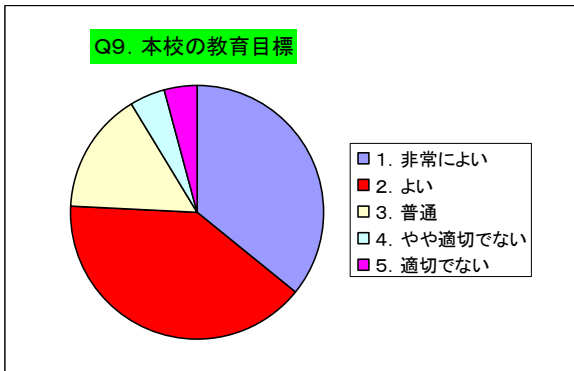
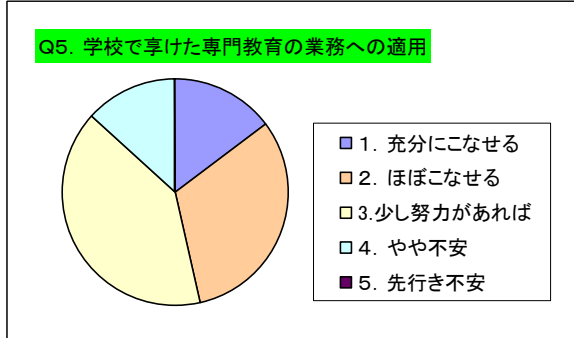
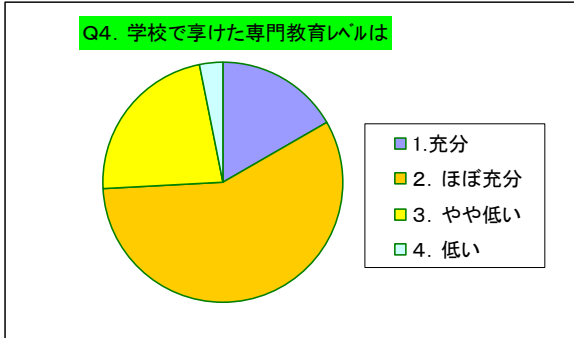
Q 9. 現在、本校では別紙のように「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」を目標にしています。この目標についてどう思いますか。  
1. 非常によい 2. よい 3. ふつう 4. やや適切でない 5. 適切でない 回答 [ ]

Q 10. これからの技術者の資質にとっていずれの内容が重要と考えますか。重要と思われる上位 2 つの内容について、( ) 内に重要な順に 1, 2 を記入して下さい。  
回答 行動力 ( ) 責任感 ( ) 創造力 ( ) 人間性 ( ) 国際性 ( )

Q 11. 別紙に掲げてあります、大分高専 JABEE 対応教育プログラムの学習・教育目標について、ご意見がありましたらご記入ください。  
[ 回答 ]

Q 12. 最後に、その他、大分高専の教育などについてご要望があればその概要をご記入下さい。  
[ 回答 ]

アンケートへのご回答をありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。機会をみて母校へ来校頂き、学生達へのご教示・ご指導を頂きますようお願いしております。



Q7, Q8

出身 学科	卒業 年度	Q7:学校で受講してよかった講義					Q8:今後に強化して欲しい教育内容				
		科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目
M	H.06 卒	設計製図 ⑤	材料工学 ③	熱力学 ②	工力学	数学	CAD/CAM ③	語学力 ③	電気工学 ②	金属以外の材料 力学	
		機械工作法	電気工学	工場実習	機械製図	物理	材料工学	シーケンサー	エクセル、ワード		
	H.11 卒	材料力学 ⑦	実習 ③	材料学 ②	自動制御	設計	語学力 ③	材料 ②	CAD/CAM	コンピュータ関連	電気分野基礎
		工力学	確率統計	物理	設計製図	化学					
E	H.06 卒	電磁気学 ③	電気計測 ③	通信 ②	電気基礎 ②	実験 ②	シーケンス制御②	プログラミング	実務的教育	CAD	PC 組み立て
		電子工学 ②	電気回路	物理	経済	英語	ネットワーク実習	創造・表現力	配線工事実習	電検, 工事士等 の資格教育	
	H.11 卒	卒研	数学	情報処理	電気理論	電気機械	送配電保護				
		自動制御	電気材料	送配電	電力	機械					
S	H.06 卒	電気機器 ③	電子工学 ②	生産管理システム	電気回路	ハワレ	電気機器	情報処理	電気回路	電子回路	
		物理	電気工学	電子回路	通信工学	ドイツ語					
	H.11 卒	電気基礎	電磁気学								
		材料力学	数学	物理	CAD	実習	英語 ②	工業英語	情報システム ②	材料工学	電気
C	H.06 卒	制御系	英語				電子	CAD 設計			
		基礎実習	電気回路	設計工学	材料力学	機械基礎	基礎英語	人間性教育	コンピュータ仕組 み	情報	英語
	H.11 卒	情報処理	倫理社会	哲学	現代経済						
		構造力学 ③	水理学 ③	土質工学 ②	実習 ②	コンクリート工学 ②	プレゼン能力	光波測量学	CAD	コンクリート工学	コンピュータ関連
AMC	H.06 卒	設計製図 ②	数学	土木材料実験	港湾工学	社会科関連	技術士関連資格				
		コンクリート工学④	構造力学 ③	測量 ②	CAD	水理学	英語	道路・構造分 野の設計基 準			
	H.16 卒	数学					パソコンが使える	プレゼン能力			
		量子論	コンクリート工学	プロジェクト実験	塑性加工学	材料力学特 論	高専時代の専門 教科				
AES	H.16 卒	材料強度学									
		数値計算 ②	生体情報学④	プロジェクト実験	プラズマ工学	光画像工学	電子回路設計	材料分野	C以外の言語	英語	プログラミング
AES	卒	生産管理	英語関連	自動制御	電磁気学	電子工学	半導体関連				
		技術者倫理	生産システム								

(出典：教育プログラム委員会資料)

資料 6-1-⑤-2

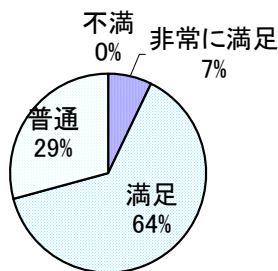
企業アンケート項目と結果（抜粋）

アンケート期間：平成16年8月10日～8月末

対象：平成5年度、および10年度卒業生就職先企業

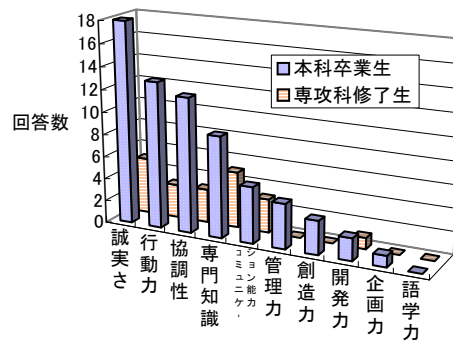
回答：44件

1. 大分高専の本科卒業生に対し、平均的な仕事に対する評価（勤務成績）について、の質問には良い評価をいただきました（図1）。



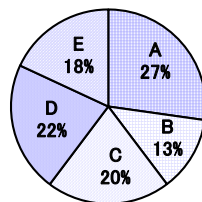
卒業生に対する満足度

2. 大学生と比較して高専生の優れていると思われる点を挙げていただきました（図2）。



高専生が優れている点

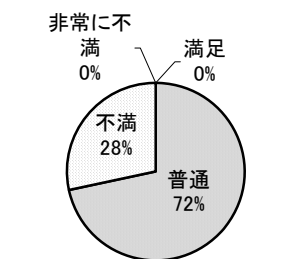
3. 大分高専が設定した学習・教育目標について重要度を問う質問に対して、どれも均等に重要であるという良い評価をいただきました。（図3）



本校学習・教育目標で特に重要と思われるもの

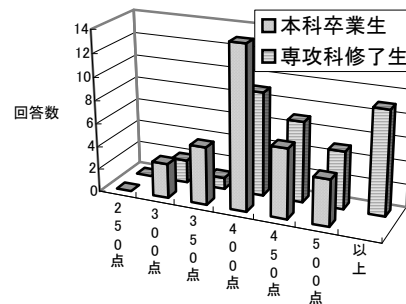
- A 自ら考える力・技術者としての倫理を身につける
- B 科学や工学の基礎を身につける
- C コミュニケーション能力を身につける
- D 技術者としてのセンスを身につける
- E 専門工学を活用する力を身につける

4. 高専の卒業生の英語力については満足いただけない事がわかりました。（図4）



高専卒業生  
入社時英語力に対する満足度

5. 入社時に必要な英語力は TOEIC のスコアで言えば、400 点程度が必要である事が明らかになりました。（図5）



入社時に必要な英語力



資料 6 - 1 - ⑤ - 4

区 分	点検結果 (H16 年度)			区分	改善項目 (H17 年度)	
	委員会等名	事 項				
学習・教育目標の設定と公開	一般科目文系	幅広い視野に立った社会人として必要な豊かな一般教養を育む指導を充実する必要がある。	低	1) 大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラムの履修規則の別表 1-2, 別表 2, ③科目, ④科目の設計について更なる改善を行う。(教育システム改善検討委員会) 2) 本課程 5 年までの達成基準, 低学年 3 年までの達成基準(細目)の策定を検討する。(教育システム改善検討委員会) 3) E2 科目の再検討と充実を図る。(教育システム改善検討委員会, 教務部委員会, 専攻科運営委員会) 【H16 年度対策済み】 1) 教育プログラムの充実のため, 履修規則等の改正を行った。 2) A1 を含め学習・教育目標の細目化を行い, 具体化した。		
	一般科目理系	数学, 物理, 化学, 保健体育の明確な学習目標に沿った指導を充実する必要がある。	低			
	教務部委員会	JABEE に対応したカリキュラムを充実する必要がある。	共			
	専攻科運営委員会	JABEE 目標を全員が達成するシステムを構築する必要がある。 E2 のつながり工学の充実を行う必要がある	ブ			
	教育システム改善検討委員会アンケート	A1 が分かりにくい。(学生アンケート) 学習・教育目標の A1 と C2 の評価が高い。(企業アンケート)	ブ			
学習・教育の量	全学科	CH の時間を利用して, 1 年次数学を実施した。	低	1) 履修科目の流れ図(系統図)を再検討する。(教育システム改善検討委員会) 2) 自学自習の定着化を図る。(教務部委員会, 専攻科運営委員会) 【H16 年度対策済み】 プログラム 1 期生より教育プログラムの履修規則の改訂を行い, また, 専攻科修了要件第 12 条第三項に「学習・教育目標を達成していること」と条文を設け, JABEE 目標達成を義務化した。		
	制御情報工学科	CH の時間を利用して, 2 年次英語多読と国語を実施した。				
	教務主事室・教務部委員会	英語統一テスト (ACE) を実施した。				
	一般理系科目	数学到達度試験の実施 (4 回/年) と追試の実施。(3 回/年)				
	専攻科	実質的修了生において, 学習保証時間未達成者 1 名生じ学習保証時間の観点から受講時間が基準値に満たない場合は未修得とする規則改正をした。				
入学および学生受入れ方法	機械工学科	入試倍率が増加した。	低	1) 高校学習指導要領との関連から, 本科 4 年への編入学試験の内容とレベルを見直し, 入学前後のフォローシステムを構築する。(入学試験委員会, 教務部委員会) 2) 本科 4 年 (プログラム 1 年生) への進級要件の見直しを行う。(教務部委員会) 3) 専攻科入試合格基準のさらなる具体化と統一を行う。(専攻科運営委員会)		
	電気電子工学科	大学進学希望者への PR に努めた。	ブ			
	制御情報工学科	入学者の質が向上した。	低			
	都市システム工学科	推薦入学者が過去最高の人数 (10 名) となった。	低			
	専攻科	入学前の学習履歴の点検項目を確認した。 専攻科の PR と魅力の増大に努めた。 プログラム履修ガイダンスなどきめ細かい学生への対応をシステム化した。 専攻科補充科目を設定した。 アドミッションポリシーを設定し, 選抜基準を明文化した。	ブ			
	教務主事室・教務部委員会	具体的アドミッションポリシーの公開と掲示を行った。 入学選抜方法(推薦制度)を変更した。 大分市南地区中学校を重点訪問した。 入学者確保のため広報委員会を中心にした PR 活動を見直した。	低			
	入学試験委員会	アドミッションポリシーに沿い, 選抜方法が分かり易いよう入学試験制度に改善した。 推薦選抜方法を改善した。	低			
	留学生委員会	留学生の受け入れをより積極的に行うこととした。	低			
	進路指導委員会	「編入学試験・大学院入学試験に関する説明会」に専攻科を加えた。	ブ			
	教育手段	機械工学科	低学年クラブ加入者が増加した。 1 年生で留年生が発生した。 高学年留年生が減少した。 実験実習を修得せず進級した学生が生じた。		低	1) コミュニケーション能力の向上を図る。特に, 学習教育目標 C2 に関して英語の学習意欲を涵養する方策の研究を行う: i) TOEIC による英語能力計測の活用, ii) 多読授業の試み, iii) 本科 5 年生への abstract writing 授業の試みなど。(教務部委員会, 専攻科運営委員会) 2) 学生による学習・教育目標達成度の自己管理体制の推進。(教務部委員会, 専攻科運営委員会) 3) ポートフォリオの更なる活用を図る方策を検討する。(教務部委員会, 専攻科運営委員会)
		電気電子工学科	低学年教育を充実した。 留年生が減少した。 3 年生に多い中だるみを解消する必要がある。		低	
		制御情報工学科	教育の質の向上を図った。 就職対策を充実した。 留年生対策を行った。		共	
		都市システム工学科	低学年教育充実のため, 1, 2 年生に工学基礎を実施した。 2, 3 年に副担任を置いた。 競走マナー向上のため「挨拶運動」を実施した。		低	
一般科目文系		文化的・社会的素養の育成。	低			
一般科目理系		基礎学力・基礎体力の向上。	低			
教務主事室・教務部委員会		低学年教育を充実する体制を整備した。 中だるみを解消を検討した。 JABEE に対応したカリキュラムの充実を図る。 ポートフォリオの活用を図った。	低共			
学生主事室・学生部委員会		徳育の充実(生活指導による競走とマナーの向上)を図った。 進路指導を充実した。 校内美化を推進し学習環境を整える活動を行った。	低ブ			
寮務主事室		徳育の推進を図った。	共			
専攻科 専攻科運営委員会		学習・教育目標を達成できるシステム構築に努力した。 コミュニケーション能力の向上を図る必要がある。 補充科目を非工学プログラム履修規則改正の内容を専攻科生に徹底した。	ブ			
教育組織		教務主事室 (FD 委員会)	教育の質の向上を図るための FD 講演会を実施した。 授業公開の結果をフィードバックする必要がある。	共	1) 授業公開週間以外の期間も FD 委員が授業を参観できるように措置する。(FD 委員会) 2) 学生による授業アンケートのフィードバックシステムの改善。(FD 委員会) 3) 専攻科授業担当可能教員の増員を促進する。(教員人事委員会) 4) 情報教育及び情報システムについて総合的な対応を行うために, 情報関係の委員会の統合を検討する。(組織検討委員会) 5) 授業アンケートや教員自己評価などの結果に基づいて教員の教育貢献を評価し, 奨励と改善を促す方策を更に工夫する。(FD 委員会) 【H16 年度対策済み】 カリキュラムについて教員間の連絡を密にする措置として教員連絡協議会を立ち上げた。	
		組織検討委員会	高専単位の一部に大学単位計算法の導入を行うとの情報に伴い, 大学課程教科担当者の増加について検討する必要がある。	ブ		
		教員人事委員会	専攻科授業担当可能教員が不足している。	ブ		
	留学生委員会	外部団体の研究成果や交流成果を, 本校の留学生教育に役立てる。	共			
	ロボットコンテスト 支援委員会	興味喚起としてのアイデア募集。 全校をあげてのロボット製作の意識の必要性。 支援体制の充実を図る。	共			

(以下 略 )

(出典: 教育システム委員会資料 教育システム委員会点検結果)

## 資料 6 - 1 - ⑤ - 5

## 12.2 学生・社会からの点検評価

学校活動を改善していく上で学生・社会から点検を受けることは大切な点検活動の一つである。本校では、授業に関するアンケート、学習・教育目標の妥当性や学生支援・施設などの教育環境、担任業務や学生課におけるサービスなど教職員による日頃の学生支援活動など教育活動全般に対するアンケート、卒業生の現在の職種を調査したり要望を聞いたりするための卒業生アンケート、学生が卒業後に就職していく企業への学習・教育目標や教育レベルなどについての企業アンケート、保護者の意見を聞くための後援会総会や保護者会あるいは教員が保護者個々に面談する個別面談やアンケート、および5年に一度に外部有識者に学校活動全般について検討頂く、外部評価、がある。

各種アンケートについて簡単に以下に実施結果を示す。

(略)

## (3) 卒業生アンケート

卒業生へのアンケートは昨年度(H17年度)から、卒業から5年後、10年後、15年後の卒業生に対して行うこととなった。アンケート結果の一部を資料11に示す。総じて、本校の教育についての感謝の言葉が多いが、改善すべき事項としては、英語力についての危惧が目立っている。本校の学習教育目標の一つにコミュニケーション力を身につけることがあり、英語力の達成目標として専攻科修了時点でTOEIC400点相当以上としているが、卒業生の中には少なくとも450点以上とすべきとする意見もあり、今後の検討課題である。

## (4) 企業アンケート

卒業生が就職する地元企業を中心にアンケートを行っている。その結果の一部を資料12に示す。学習・教育目標のうち「自ら考える力を身につける」という目標への評価が高かった。英語力達成目標のTOEIC400点は妥当な線であることが判明した。

(略)

(出典：平成18年度自己点検・評価報告書)

## (分析結果とその根拠理由)

学習・教育目標や教育の内容について、卒業(修了)生や就職先企業へのアンケートの実施及び点検・評価を組織的に行うシステムができている。アンケートから卒業(修了)生は、在学時に身に付けた学力や資質・能力についてほぼ満足しているという結果になったが、社会に出て必要とする能力(語学力等)の要望が高いこともわかった。企業は卒業生の能力を高く評価しており、本校への期待がうかがえる。

以上のことから、教育の成果や効果が上がっていると判断できる。

**(2) 優れた点及び改善を要する点**

(優れた点)

- ・ 準学士・専攻科両課程ともにそれぞれの学習・教育目標に対応した授業科目の評価基準がシラバスや履修の手引きで学生に明確に示され、学習成績や目的達成度を確認し、自己管理できるシステムができている。
- ・ 学生が身に付ける学力、資質・能力等が卒業（修了）時に学習・教育目標の達成という形で備わるように授業科目が設定され、達成状況審査のための進級・卒業（修了）判定会議が機能している。
- ・ 設置された4学科に対応する専門分野への就職や進学の実績から、教育の目的に即した人材が育成されており、教育の効果が表れている。
- ・ 卒業（修了）生や企業へのアンケートが組織的に実施され、教育について高い評価を得ている。

(改善を要する点)

- ・ 卒業（修了）後に進学する学生が増えていることから、進学先の意見聴取を行う必要がある。

**(3) 基準6の自己評価の概要**

準学士・専攻科両課程ともそれぞれに学習・教育目標に対応した教育課程を修得することで、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力、資質・能力が保障され、教育の目的や教育理念に叶った人材が育成されることとなる。個々の授業科目の評価方法はシラバスに明示されており、学習・教育目標の段階的及び最終達成状況を確認する進級・卒業（修了）要件に従い、それぞれの判定会議で厳格に審議されている。

準学士課程では、特別活動や卒業研究への取り組みが育成すべき人材像に繋がる重要な科目であると位置づけられ進級・卒業要件の1つとなっている。専攻科課程では、より明確な評価基準が設定されており、特別研究は外部発表に耐えうる高い水準を保ち、修了者全員が学位を修得するなど教育の成果が明らかである。

卒業（修了）時だけでなく、学習・教育目標達成度チェック表や修了要件チェック表により学生が成績と学習・教育目標の段階的達成度等を自己管理するシステムを構築しており、その結果集計から教育の成果や効果が上がっていることが確認される。

卒業生の進路決定率は、長年にわたりほぼ100%を維持しており、修了生も同様である。進学・就職先は設置する学科・専攻に対応したもので、これからも本校が目的とする教育の成果や効果が上がっていることが分かる。

卒業生アンケートの結果から本校の教育にほぼ満足しており、企業アンケート結果でも卒業生への評価が高いことから、教育の成果や効果が認められる。





**基準7：学生支援等****(1) 観点ごとの分析**

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点到に係る状況)

学習を進める上でのガイダンスとして、準学士課程新入生へのクラス担任による校内及び校外(合宿研修)でのオリエンテーション、JABEEプログラムの履修者となる4年生に対するプログラム説明会、専攻科課程新入生に対する専攻科オリエンテーション等を実施している。

準学士課程1年生の合宿研修は、入学直後2泊3日で実施し、学生主事室の指導の下で学生会指導部と4、5年生中心の指導学生により、学校紹介、学科紹介、クラブ紹介等を行っている(資料7-1-①-1)。

年度当初に準学士課程、専攻科課程の全学生に教務説明会を開催し、準学士課程の1～3年生には学習に関する教務説明会、4、5年生には教務・JABEE教育プログラム説明会、専攻科課程1、2年生にはJABEE教育プログラム説明会を行っている(資料7-1-①-2)。

専攻科生は、学年別にオリエンテーションを行うが、2年生のオリエンテーション(資料7-1-①-3)時の学位申請説明会には、1年生も出席させ早期に動機付けができるように配慮している(資料7-1-①-4)。専攻科では、懇談会を行い、専攻科生としての充実感要望等を把握し、専攻科小委員会で検討を行っている(資料7-1-①-5)。

自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制として、全教員が週に1回以上、オフィスアワーを設け、学生の支援に当たっており、その時間帯は、教員室の扉に掲示されている(資料7-1-①-6)。平成17年度から水曜日4限目(14:30～16:00)に設定し、常勤教員の授業や会議を行わないようにしている(資料7-1-①-7)。

資料7-1-①-1

○平成19年度新入生オリエンテーション日程表（晴天時）

第1日目 4月12日（木）

時刻	研修内容	担当者	備考
8:40	ホームルーム	クラス担任	出席点呼
8:45	集合（高専玄関前）		
9:00	高専出発		*乗はバス車内に持って乗る
11:30	マリソカルチャーセンター着		バス内で校歌の練習等
11:40	入所式	館長、学生主事、学生会長、総務副部長、班長	マリソホール 歓迎の挨拶、諸注意等
12:00	昼食（弁当持参）	美化係（ゴミ片付け）	各研修室にて昼食
	入室	生活係	研修室1, 2, 3, 4, 5 M, E, S, C, 学生会
13:00	校長講話	校長	*体操服に着替え、運動靴を履いてマリソホールへ集合
14:00	高平山ハイキング	クラス担任、指導学生	マリソホール
	*学生会、M, E, S, C, 学生会の順番とする。		1階レストハウス前広場集合
17:00	打ち合わせ	学生主事室、学生会、リーダー	ゲーム
17:30	M, C: 夕食（班別） E, S: 入浴（班別） 入浴: 17:15~18:15	食事係 保健係	研修室6 （リーダー、学生会は待機）
18:15	E, S: 夕食（班別） M, C: 入浴（班別） 入浴: 18:15~19:15	食事係 保健係	2階レストラン「ふうもん」 4階団体浴室
19:20	学生会扱い	学生会、指導学生	同上
20:30	ホームルーム（健康調査を含む）（~21:30）	クラス担任	マリソホール 学校紹介、高専生のあり方、校則、学習、校歌コンクール等
21:10	指導学生反省会	学生主事室、クラス担任、学生会、指導学生	研修室1, 2, 3, 4 M, E, S, C
22:00	就寝準備 消灯・就寝		研修室6  *21:30までは体操服で行動

第2日目 4月13日（金）

時刻	研修内容	担当者	備考
6:30	起床		洗面、寝具整頓
7:00	朝のつどい、散策	学生会、指導学生、班長	1階レストハウス前広場 ラジオ体操、健康チェック
7:30	朝食、自由行動	食事係	2階レストラン
8:30	学生主事講話	学生主事	マリソホール
9:00	4学科紹介、クラブ紹介	学生会、指導学生	マリソホール
10:30	M, C: カッター・カヌー（~12:30） E, S: プラネタリウム（~11:30） クラスマッチ（~12:30）	センター職員 センター職員 学生会、指導学生、レク係	1階レストハウス前広場 （水着・短パン用意） プラネタリウム館 （出席番号順） 体育館
12:30	昼食（一斉）、自由行動	食事係	2階レストラン
13:30	カウンセラー講話	カウンセラー	マリソホール
14:30	E, S: カッター・カヌー（~16:30） M, C: プラネタリウム（~15:30） クラスマッチ（~16:30）	センター職員 学生会、指導学生、レク係	1階レストハウス前広場 （水着・短パン用意） プラネタリウム館 （出席番号順） 体育館
16:30	学生会扱い	学生会、指導学生	体育館（ゲーム）
17:30	E, S: 夕食（班別） M, C: 入浴（班別） 入浴: 17:15~18:15	食事係 保健係	2階レストラン 4階団体浴室
18:15	M, C: 夕食（班別） E, S: 入浴（班別） 入浴: 18:15~19:15	食事係 保健係	同上
19:30	ホームルーム（健康調査を含む）（~20:30）	クラス担任	研修室6, 7, 8, 9 M, E, S, C
21:10	指導学生反省会	学生主事室、クラス担任、学生会、指導学生	研修室6 *20:30までは体操服で行動
22:00	就寝準備 消灯・就寝		

第3日目 4月14日（土）

時刻	研修内容	担当者	備考
6:30	起床		洗面、寝具整頓
7:00	朝のつどい	学生会、指導学生、班長	1階レストハウス前広場 ラジオ体操、健康チェック
	科毎の反省	指導学生	
7:40	朝食、自由行動	食事係	2階レストラン
8:30	退所準備および清掃	指導学生、生活係、美化係	部屋の整理・整頓 部屋の鍵: 班長→指導学生 リーダー→総務副部長
8:50	退所点検	センター職員、指導学生	*各部屋の班長1名が残り、他の学生は荷物を持って各研修室へ移動
9:10	ボランティア活動	教職員、学生会、班長、美化係	海浜清掃奉仕 （軍手・帽子着用）
10:30	反省会（感想文）（~11:00）	クラス担任	研修室1, 2, 3, 4, 5 M, E, S, C, 指導学生
11:30	退所式	館長、学生主事、学生会長、リーダー	マリソホール *荷物は1階のロビーに置いてマリソホールへ移動
12:00	昼食（一斉）、自由行動	食事係	2階レストラン *荷物は1階のロビーに置いておく
13:00	退所		
15:30	帰校、解散		

（出典：H19年度新入生オリエンテーションの葉）

資料7-1-①-2

平成18年度教務説明会(学生)実施記録簿

日時	場所	内容等
4月10日 (月) 17時10分～ 17時40分	合併講義室	教育プログラム・教務に関する説明 対象者：4・5年生オリエンテーション指導学生 20名 陪 席：佐野 配布物：学業成績の評価及び課程修了等に関する内規 専攻科 入学試験選抜基準 説明者：高橋主事補 配布資料に基づき説明
4月13日 (木) 10時00分～ 11時30分	アカデミックホール	教育プログラム説明会 対象者：専攻科生 1・2年全員 陪 席：専攻科長，専攻主任・副主任，教務主事補，専門員 配布物：教育プログラム履修の手引き 各種プログラム修了要件チェック表 説明者：高橋主事補 配布資料に基づき説明
4月14日 (金) 10時00分～	合併講義室	教務・教育プログラム説明会 対象者：4年生全クラス 陪 席：クラス担任 配布物：教育プログラム履修の手引き 持参物：ポートフォリオ，学生便覧，シラバス 説明者：高橋主事補 配布資料に基づき説明
4月14日 (金) 11時00分～	合併講義室	教務・教育プログラム説明会 対象者：5年生全クラス 陪 席：クラス担任 配布物：教育プログラム履修の手引き 持参物：ポートフォリオ，学生便覧，シラバス 説明者：高橋主事補 (平成17年度教務留意事項)に基づき説明
4月19日 (水) 14時30分～ 特活	合併講義室	学修支援に関する説明 対象者：1S・1C 80名 陪 席：クラス担任 持参物：ポートフォリオ，学生便覧，シラバス 説明者：高橋主事補 (平成18年度教務留意事項)に基づき説明
4月26日 (水) 14時30分～ 特活	合併講義室	学修支援に関する説明 対象者：1M・1E 81名 陪 席：クラス担任 持参物：ポートフォリオ，学生便覧，シラバス 説明者：高橋主事補 (平成18年度教務留意事項)に基づき説明
6月7日(水) 14時30分～ 水曜授業特活	合併講義室	学修支援に関する説明 対象者：2年生 166名 陪 席：クラス担任 持参物：ポートフォリオ，学生便覧，シラバス 説明者：教務主事室 (平成18年度教務留意事項)に基づき説明
7月5日(水) 14時30分～ 特活	合併講義室	教育プログラム・学修支援に関する説明 対象者：3年生 165名 陪 席：クラス担任 配布物：教育プログラム履修の手引き(別添) 持参物：ポートフォリオ，学生便覧，シラバス 説明者：教務主事室 (平成18年度教務留意事項)に基づき説明

(出典：学生課資料)

資料7-1-①-3

平成19年度 専攻科オリエンテーション

日 時：平成19年04月12日(木) 10:30～12:00  
場 所：アカデミックホール  
出席者：専攻科長(清水)，機械・環境システム工学専攻主任(利光)，電気電子情報工学専攻主任(齋)，  
機械・環境システム工学専攻副主任(佐野)，電気電子情報工学専攻副主任  
／教育プログラム  
委員長(高橋)，学生課長補佐(梅本)

配付物(2年生のみ)：専攻科学生便覧，システムデザイン工学プログラム履修の手引き2007年度版，シラバス，ポートフォリオ，時間割，受講科目履修届，新しい学士への途，学位授与申請書類，誓約書(就職希望者)，求職票(就職希望者)。

内 容：

I. 2年生へのオリエンテーション

- 専攻科長挨拶  
専攻主任，副主任，学生課長補佐の紹介
  - 配付物の説明  
○受講科目履修届(配付)(4/27(金)までに学生支援係に提出，専攻主任の捺印が必要)  
特に，機械・環境システム工学専攻の学生はA群，B群の選択科目に注意，ペン書きのこと。  
システムデザイン工学プログラム関連で必ず修得しなければならない科目があるので注意する。
  - 進路指導  
○就職  
自由応募と学校推薦，  
就職希望者は誓約書，求職票を専攻科主任に提出。  
就職先の斡旋の相談は主に科主任，書類等の提出は専攻科主任。  
○進学
  - 英語資格  
○英語学習  
月曜日4限に多読の授業があります。その他いろいろな機会を見つけて英語の学習を！  
○資格取得  
資格取得の結果は英語科藤原先生および専攻科主任にエビデンスコピーを提出して報告。  
(前期末までには，全員が取得しているように)
  - 修了認定  
○大学評価・学位授与機構の審査(申請：10/01～05，学位授与機構小論文試験：12/16)  
○校内小論文試験：11/14(水)  
○B1，B2総合的試験(02/上：後期試験期間中)  
○実務実習  
・システムデザイン工学プログラム修了のために，校外実習に行っていない人は必須。  
○外部発表  
・2年間の間に少なくとも，1回は外部の学会，研究会等で発表しなければならない。  
・外部発表報告書，学会プログラムのコピー，予稿集のコピーを専攻主任及び教育支援係へ提出のこと。
  - 連絡方法  
○学生住所録(連絡網) 住所，電話番号，携帯番号，メールアドレス(携帯メールと中容量メール)  
(1) 中間発表の抄録や特別研究論文といった文書の様式などをファイル転送するので中容量(数100KB程度)のファイル交換のできるメールアドレスを確保しておくこと。  
中容量メールは総合情報センターもしくは各研究室でアドレスを作成してもらうこと。  
(高専のofficialアドレスは就職活動，進学準備時に必要となる)  
1日1回は必ずチェックすること。  
(2) 各人との連絡は，メールで行なう(緊急時は携帯或いは自宅へ電話連絡する)。  
(3) アドレスを変更した場合は確実に連絡して下さい。  
MC専攻主任：・・・・・・・・・・  
ES専攻主任：・・・・・・・・・・  
まで，住所，帰省先，電話番号，携帯番号，PC/携帯メールアドレスをメールで連絡して下さい。  
○クラス代表委員の選出，順番の割振り(掃除当番)
- II. 1, 2年生合同オリエンテーション
- システムデザイン工学プログラム履修に関する説明(高橋委員長)  
○システムデザイン工学プログラム 2007年度版  
※各種プログラム修了要件チェック表(後日，メールで配信)
  - 学位申請説明(齋 先生)  
○新しい学士への途  
○学位授与申請書類

- 以 上 -

(出典：専攻科資料)



資料 7-1-①-5

専攻科 1 年生 懇談会

専攻科 2 年生 懇談会

日時：2007年3月9日(金) 15:30-17:00 (第2回中間発表会のあと開催)  
 場所：専攻科棟4階 アカデミックホール  
 参加者：佐藤 専攻科長, 福永 機械・環境システム専攻主任, 清水 電気電子情報専攻主任, 齋 電気電子情報専攻副主任 (文責), 小森 専門員  
 参加学生：機械・環境システム専攻 13名  
 電気電子情報専攻 8名

懇談内容 (学生の意見)

- 研究について
  - 管理が厳しくなり、遅くまで実験できなくなった
  - 研究に時間がかかる
  - 研究について先輩に教えるようになり、理解が深まった
  - テーマを変えたので大変だった
  - 望んでいた実験結果が出て満足している
  - 教員が居ないときに高電圧を使う実験ができなため、進行が遅くなった
  - 教員が忙しく十分に指導を受けることができなかった
  - 企業と一緒に研究を行って学ぶことが多かった
  - 発表会の時間が短い、発表8分、質問4分にして欲しい
  - フィールドワークの実験は楽しかった
  - 授業で学んだことが実験に役立ててよかった
  - 少し慣れが出てきたので、もっとがんばりたい
- 学校や専攻科に対する要望事項
  - 外の実験室に行くとき、外灯が少ない
  - 研究できる時間を増やして欲しい
  - プロジェクト実験 I のテーマ設定の情報が少なすぎる
  - 学生への連絡がない (終業式や始業式への参加など)
  - 喫煙スペースが欲しい
    - 家を出て、家に帰るまで飲酒喫煙をしないルールがある (佐藤)
    - 専攻科生が守るべきルールを周知して欲しい (学生)
  - 休日に学生証でキーロックを借りるのはめんどくさい
  - 道路の水はけが悪い (ので危険)
  - カリキュラムが大学などに比べて詰まっていて、会社見学などができないので公欠にして欲しい
  - 専攻科棟にトイレが欲しい
  - 専攻科生に対する自動車通学の規則が厳しい (もっとゆるく)
  - ロッカーがないのが不便
  - ウォータークーラーを専攻科棟に設置して欲しい
  - 専攻科の教室は、机と椅子が使いやすい
  - 休日に学校に来ると、学生に割り当てられた駐車スペースに他の人 (無許可の学生?) が車をとめている
  - 冬に専攻科教室の暖房の電源が入らなかった

以上

日時：2006年7月18日(火 補講日 4時間目 (3時限は学位申請説明会))  
 場所：専攻科棟4F アカデミックホール  
 内容：【○よかった点, ×要望, 改善点】

専攻科について

- 7年間環境が変わらず安心して勉強に取り組めた
- 学士の資格が取得できる
- ×本科で専攻科の単位が取れば、専攻科で時間的な余裕ができる
- ×マンネリする面があった

就職について

- 就職について充分に考えることができ、充実した就職活動ができた。
- 長く研究できたので、研究内容について企業へ良いアピールができた
- ×就職試験に最終的に合格した人の情報しかなかった
- ×大学の就職課のような十分なケアが無かった

進学について

- 専攻科から大学院には入りやすい
- ×大学院の受験記録や過去問がそろっていない

授業について

- 本科よりも深く教員と交流ができた。尊敬する教員と出会えた
- ×興味のない科目がある (ESでは通信工学をやってほしい)
- ×レポートが多く休める期間が少ない→授業時間の2倍は家庭学習が必要

特別研究について

- 卒業研究と特別研究を併せて3年間研究できてよかった
- 専攻科1年生から学会発表ができて有意義だった
- ×特別研究の時間が研究以外の行事に使われることが多い (もっと研究したい)
- ×21時30分以降、研究室で研究できない
- ×図書館の閉架図書の利用手続きが煩雑

学修成果レポートについて

- ×前期期末試験と学修成果レポートの時期が重なるので、前期期末試験が終わってから夏休みに入るようにして欲しい
- ×学位申請説明会を2年生の4月に行って欲しい

その他

- ×オープンキャンパスの専攻科展示は内容が来場者にとってわかりにくい
- ×高専には学位授与権がない
- ×寮のインターネットが24時に止まるので、研究に関する調査ができない

(出典：専攻科資料)

資料 7-1-①-6

オフィスアワー案内

教 員 名	〇〇 〇〇
時 間	月曜日 16:00~17:00
	水曜日 16:00~17:00
	金曜日 16:00~17:00
場 所	〇〇研究室 (〇〇〇〇棟3F)
備 考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 〇〇棟1Fの〇〇実験室で対応することもあります。(行き先掲示板で確認してください)</li> <li>・ メールによる質問にも対応します。 〇〇〇〇〇@oita-ct.ac.jp</li> <li>・ 講義以外の相談にも応じます。</li> </ul>

(出典：教務主事室資料 オフィスアワー看板例)



(分析結果とその根拠理由)

準学士課程新入生への入学当初の合宿研修に始まり、4年生に対する JABEE プログラム説明会、専攻科新入生に対する専攻科オリエンテーション等、学習を進める上でのガイダンスが整備され適切に実施されている。また、オフィスアワーのきめ細かな設定により自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

**観点7-1-②： 自主的学習環境（例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。）及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。**

(観点に係る状況)

学生が自主的に学習できる場として、図書館、総合情報センター、リフレッシュスペースやコモン・卒研スペースを整備している。

図書館は、日曜日、祝日、年末年始を除いて平日 20 時、土曜 16 時まで利用でき、学生の自学自習スペースとして放課後を中心に多く活用されている（資料7-1-②-1）。理工学図書を中心に全分野の図書資料を幅広く収集しており（資料7-1-②-2）、平成 15 年度より、英語力の向上をめざし英語多読用教材も揃えている。電子閲覧・検索コーナーには 10 台の端末がある。長岡技科大と高専によるコンソーシアムに参加し、図書館内だけでなく校内のコンピュータから各種電子ジャーナル、データベースが利用できるほか、各種資料の迅速な入手が可能となり、卒業研究や特別研究への支援とその質の向上や国際化に対応している（7-1-②-3）。

総合情報センターは、情報処理教育の場として設置し、各学科の情報処理基礎教育、実験、実習に加え、学生と教職員の研究、学生の課外活動、公開講座の開催等に利用されている（資料7-1-②-4）。教育用コンピュータを備えた演習室では、コンピュータリテラシーの修得やプログラミング技術の上達に必要なアプリケーションを用意し（資料7-1-②-5）、ネットワーク上の資源の利用・情報交換、使用マナーの修得にも利用されるとともに、放課後（17:00～20:00）も学生のプログラミング演習やレポート作成に使用されている（資料7-1-②-6）。

10 数人程度までの学生や教員が集って意見交換や自学自習ができるリフレッシュスペースを、総合研究棟の2～4階、電気機械実験棟の2、3階、制御情報実験棟の3階に設置している。専攻科棟の IT スペースやコモンスペースも同様の機能を持っている。

その他、学生の質疑等に対応するため、各実験棟の教員室前に机と4～5脚の椅子、本棚、校内 LAN にアクセス可能なパソコン数台のほか季節を問わずに活用できるように冷暖房を備えたコモン・卒研スペースを設置しており、オフィスアワーでの利用や教員個人所有の洋書・学会誌・専門雑誌の閲覧、卒業研究におけるディスカッションの場として利用されている。

福利厚生施設「明芳会館」には 100 席からなる学生食堂のほか、課外活動を支援するクラブミーティング室や楽器、オーディオ機器が備わった音楽鑑賞室を設置している。

## 資料7-1-②-1

## 図書館利用状況の概要

平成14年度～平成18年度

	利用者別	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
貸出冊数	学 生	7,083	9,200	11,688	11,401	9,198
	教 職 員	1,115	1,656	2,062	2,580	2,015
	一 般	418	678	1,240	1,734	613
	合 計	8,616	11,534	14,990	15,715	11,826
貸出人 数	学 生	3,930	4,791	6,051	5,950	4,698
	教 職 員	608	798	907	1,010	895
	一 般	158	200	339	434	163
	合 計	4,696	5,789	7,297	7,394	5,756
入館者	時 間 内	20,218	23,560	24,594	28,772	23,818
	内 一 般	(138)	(193)	(417)	(538)	(186)
	時 間 外	4,721	4,505	5,001	6,980	4,837
	内 一 般	(141)	(214)	(165)	(422)	(332)
	合 計	24,939	28,065	29,595	35,752	28,655
	内 一 般	(279)	(407)	(582)	(960)	(518)

(出典：図書館資料)



## 図書館

## Library

The Library building was completed and opened to the faculty and students in 1972. The number of books in stock is over 80,000, featuring books in the fields of science and technology. Collections of records, tapes, films and discs are also available. Since May, 1995, the Library has been open to the public as well so as to serve as a community library, attracting increasing numbers of visitors. Now we intend to strengthen ties not only with the local community but also with the rest of the world by making the best use of information technology.

The overall area of the building is 1,603 square meters. Floor 1 has an open-stack reading room (seating capacity 80), reference book section, paperback section, newspaper & magazine section, and closed stacks. In 1995, computers were installed for students to study on the Internet, and they have been replaced with 10 latest models for easier access and online search for books. The floor went through a minor refurbishment in 2007 and a media room is now available for various purposes, such as utilizing the Internet, holding meetings, etc. On Floor 2, there are an audiovisual room (seating capacity 80), computerized language laboratory with Internet connection (seating capacity 48), and a tatami (or Japanese mats) room for tea ceremony. The Audiovisual Room is equipped with a large screen, projectors for VHS/Beta video tapes, DVDs, LaserDiscs and 16mm films, a Tannoy system for records, tapes and CDs, and a grand piano. The Language Laboratory features digital manipulation of sound, email exchange with foreign students on the Internet, and image reproduction at the student's desk. Visitors with disabilities can park their cars just in front of the building and reach the entrance through the wheelchair slope.

The Library has long offered various opportunities for the faculty, students and citizens to deepen their knowledge of human nature, what we have achieved so far, and what we will achieve in the future. For example:

- *The Library Bulletin* - a periodical issued twice a year
- **The On-campus Book Report Competition** - an annual event with a long history
- **The Reading Circle** - organized by the student librarians
- **Public services** - started on May 1, 1995

▲ 平日は夜 8 時まで利用できます。

The Library is open until 8:00pm on weekdays.

### 1 開館時間

平日 午前 9 時～午後 8 時

土曜日 午前 9 時～午後 4 時

(ただし、夏季・冬季・春季休暇中の開館時間は 平日は午前 9 時～午後 5 時、土曜日は休館)

### 2 休館日

日曜日

国民の祝日

年末・年始 (12月28日～1月4日)

### 3 施設

総面積 1,603 m<sup>2</sup>

閲覧席 80 席

閲覧室、開架書庫、閉架図書、参考図書コーナー、文庫・新書コーナー、新聞・雑誌閲覧コーナーがあります。



▲ 新聞・雑誌コーナー

The Newspaper & Magazine Section

### Opening Hours

#### Regular Terms

Weekday	9:00am - 8:00pm
Saturday	9:00am - 4:00pm
Sunday & National Holiday	Closed

#### Summer, Winter & Spring Vacations

Weekday	9:00am - 5:00pm
Saturday, Sunday & National Holiday	Closed
New Year Holidays (December 28 - January 4)	Closed

#### 4 蔵書数

Books in Stock

(平成 19 年 3 月 31 日現在 As of March

31, 2007)

区分 Classification	図書の冊数			雑誌の種類		
	和書 Japanese	洋書 Foreign	合計 Total	和雑誌 Japanese	洋雑誌 Foreign	合計 Total
総記 General works	2,311	535	2,846	21	2	23
哲学 Philosophy	3,822	356	4,178	1	0	1
歴史 History	6,091	128	6,219	2	0	2
社会科学 Social science	5,585	168	5,753	30	0	30
自然科学 Natural science	11,883	1,311	13,194	25	5	30
工学 Technology	21,868	1,813	23,681	170	16	186
産業 Industry	911	7	918	1	0	1
芸術 Fine arts	2,672	24	2,696	8	0	8
語学 Language	2,964	604	3,568	4	0	4
文学 Literature	13,012	1,307	14,319	16	2	18
合計 Total	71,119	6,253	77,372	278	25	303



▲ コンピュータ・コーナー  
The Computer Section

#### 5 過去3年間貸出統計

Circulation Statistics of the Past 3 Years

(平成 19 年 3 月 31 日現在 As of March 31, 2007)

区分	年度	平成十六年度	平成十七年度	平成十八年度
		2004	2005	2006
総記 General works		424	492	527
哲学 Philosophy		256	209	181
歴史 History		248	264	159
社会科学 Social science		397	440	309
自然科学 Natural science		1,181	971	844
工学 Technology		2,241	2,091	1,685
産業 Industry		73	77	44
芸術 Fine arts		303	403	277
語学 Language		3,053	4,489	2,562
文学 Literature		6,268	5,898	4,961
雑誌 Periodicals		546	381	277
合計 Total		14,990	15,715	11,826
入館者数 Number of visitors		29,595	35,752	28,655
開館日数 Open days		278	283	237



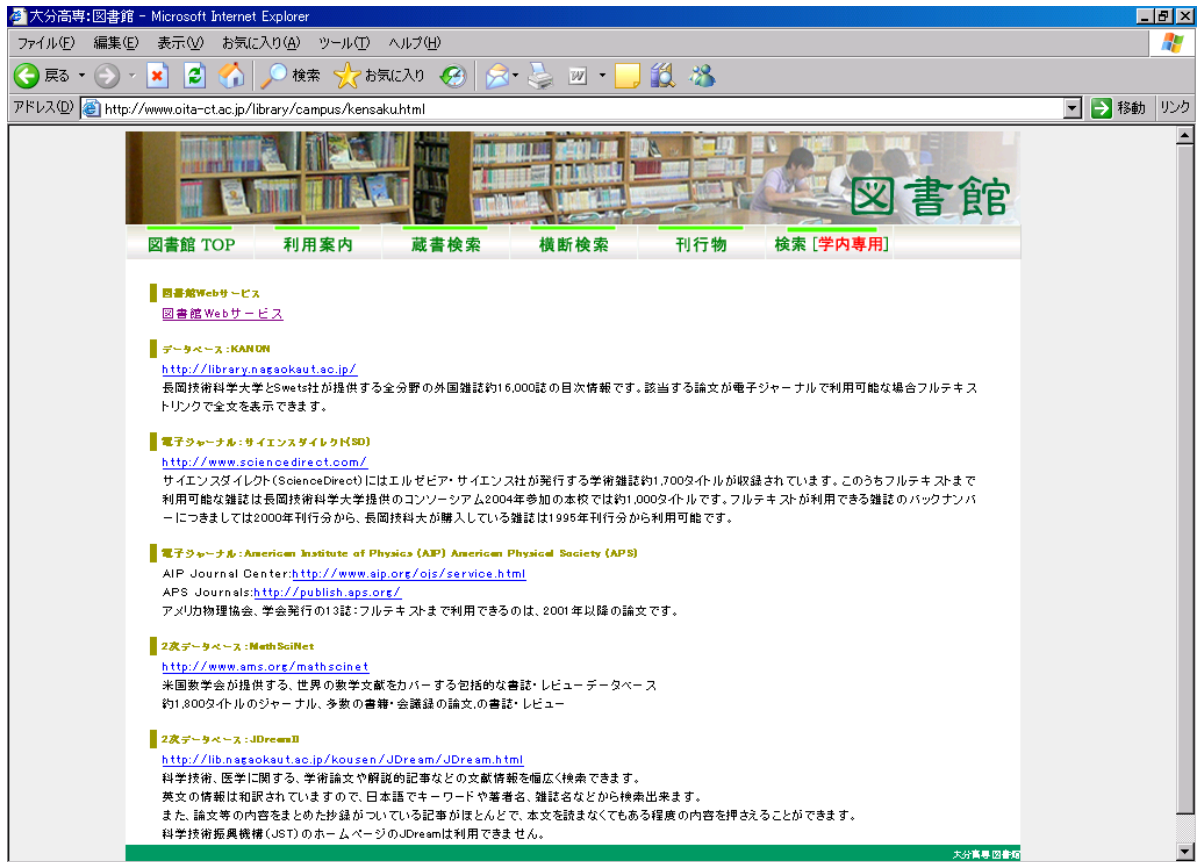
▲ メディアルーム  
The Media Room



▲ 書架  
The stacks

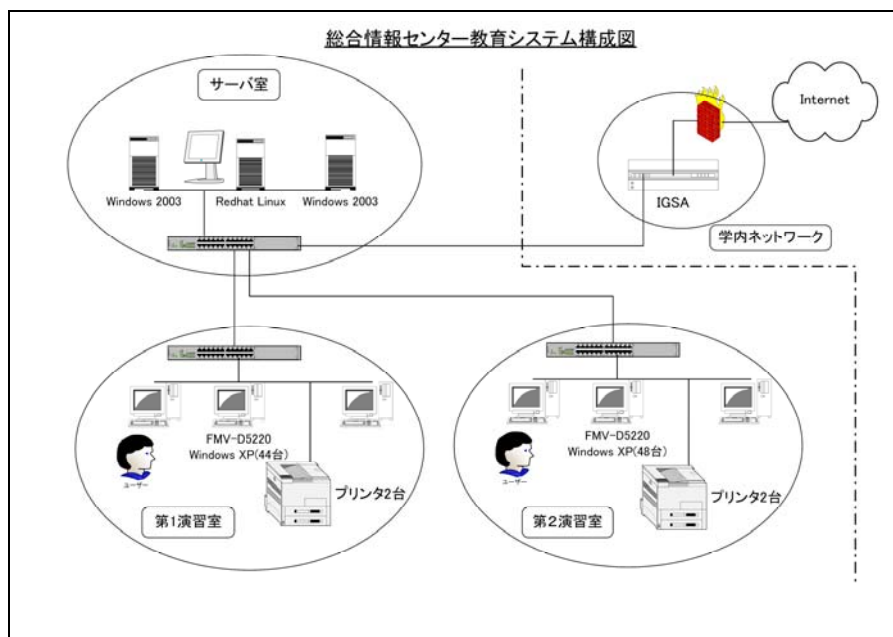
(出典：学校要覧)

資料 7-1-②-3



(出典: Web ページ)

資料 7-1-②-4



(出典: 総合情報センター資料)

資料7-1-②-5

3. 設備仕様  
 ■第1演習室 Practice Room 1 (演習室用端末機 44台 プリンタ 2台)  
 ■第2演習室 Practice Room 2 (演習室用端末機 48台 プリンタ 2台)

本体 FMV-5220 Intel Celeron D 336 2.8GHz 17インチ液晶ディスプレイ  
 ハードディスク 36GB 搭載メモリ 512MB RAM

主なソフトウェア

基本 OS	Windows XP Professional
統合型ビジネスソフト	Microsoft Office Professional Edition 2003
Web ブラウザ	Internet Explorer 6
電子メール(Web メール)	Grace Mail 5
ウイルス対策ソフト	Symantec AntiVirus Client
画像閲覧・画像形式変換ソフト	Irfan View 3.99 日本語版
PDF 閲覧ソフト	Adobe Reader 8
CAD	Jw_cad 5.11e
3D CAD	SolidWorks 2006 SP4.1
テキストエディタ	Tera Pad 0.90
C 言語コンパイラ	Borland C++ Compiler 5.5
Java 言語コンパイラ	J2SE Development Kit 5.0 update 9
タイピング練習ソフト	Type Trainer 2.62

総合情報センター新システムのソフトウェア一覧

基本 OS	Windows XP Professional
ワードプロセッサ	Word 2003
表計算	Excel 2003
プレゼンテーション	Power Point 2003
データベース	Access 2003
Web ブラウザ	Internet Explorer
PDF 閲覧	Adobe Reader
電子メール	Outlook Express
音声動画再生ソフト	Windows Media Player
音声動画再生ソフト	Real Player
Flash 閲覧ソフト	Flash Player
画像閲覧・形式変換ソフト	IrfanView32 日本語版
CAD	Jw_cad
3D-CAD	Solid Works
テキストエディタ	TeraPad
C 言語	Borland C++ Compiler 5.5
Java	JDK 最新バージョン
Delphi の統合開発環境	Borland Delphi
タイピング練習ソフト	Type Trainer
ウイルス対策	Symantec Antivirus



第1演習室



第2演習室

■サーバ室 Server Room



Windows 2003 サーバ機 2台  
 Linux サーバ機 1台  
 演習室用パソコン 92 台の動作状況の監視  
 や、トラブル時の遠隔制御、ソフトウェアの配布などを行います。

(出典：総合情報センター資料)

資料7-1-②-6

平成 18 年度 情報センター演習室の週間利用時間

■前期

	機 械	電気電子	制御情報	都 市 システム	学年合計
1 学年		3	4.5	3	10.5
		2	3	2	7
2 学年	4.5	1.5	3	4.5	13.5
	3	1	2	3	9
3 学年	1.5	1.5	1.5		4.5
	1	1	1		3
4 学年	4.5		1.5	3	9
	3		1	2	6
5 学年	3				3
	2				2
学科 合計	13.5 9	6 4	10.5 7	10.5 7	40.5 27

■後期

	機 械	電気電子	制御情報	都 市 システム	学年合計
1 学年			4.5	1.5	6
			3	2	5
2 学年	4.5	1.5		4.5	10.5
	3	1		3	7
3 学年			4.5		4.5
			3		3
4 学年	3		1.5		4.5
	2		1		3
5 学年		1.5		3	4.5
		1		2	3
学科 合計	7.5 5	3 2	10.5 7	9 7	30 21

注) 上段は 1.5h×コマ数  
 下段は時間割のコマ数

## ■年間

(単位：時間)

	機 械	電気電子	制御情報	都 市 システム	学年合計
1 学年		3	4.5	3	10.5
			4.5	1.5	6.0
2 学年	4.5	1.5	3	4.5	13.5
	4.5	1.5		4.5	10.5
3 学年	1.5	1.5	1.5		4.5
			4.5		4.5
4 学年	4.5		1.5	3	9.0
	3		1.5		4.5
5 学年	3				3.0
		1.5		3	4.5
学科 合計	21.0	9.0	21.0	19.5	70.5

上段：前期時間数
下段：後期時間数

## 平成18年度 4月～12月までの時間外（17：00～20：00）利用者数

	利用者数（人）																		月間 合計	開館 日数
	3	4	8																	
4月	3	4	8																15	3
5月	21	6	1	4	7	6	7	1	3	9	1	3	10	18	30	30	33		190	17
6月	20	10	6	4	4	17	10	2	3	3	3	9	7	10	7				115	15
7月	20	30	20	25	8	20	20	14	5	10	10	6	18	4					210	14
9月	6	25	40	25	26	20	3	4	3	2	2								156	11
10月	7	7	4	10	4	20	3	2	4	2	16	6	2	2	14				103	15
11月	8	6	15	20	3	3	2	11	10	10	5	6	15	6	20	20	9	6	175	18
12月	1	5	3	1	3	3	5	10	20	10									61	10
	4月～12月の合計																		1025	103

人数は業務日誌より。ただし16時から17時の利用者数は把握していない。

(出典：総合情報センター資料)

## (分析結果とその根拠理由)

学生相互のコミュニケーションを図り、自学自習を促進する場として、図書館、総合情報センターを整備しているほか、リフレッシュスペースやコモン・卒研スペースを随所に設けている。福利厚生施設も学生活動を支援し、自主的学習環境、生活環境等が整備され、効果的に利用されている。

観点 7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講，外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

（観点に係る状況）

資格試験や検定試験，留学等に関する情報は学生に随時提供され，学生からのニーズは，主に学級担任が個別に把握している。資格試験や検定試験に合格し，申請すると外部単位として認めている（観点 7-1-④参照）。各学科が重視する資格・検定試験は補習や個別の指導を行っている。英語検定は，英語科が受験希望調査をし，学習指導，受験手続きまで担当している（資料 7-1-③-1）。

九州沖縄地区国立高専校長会が主催，熊本電波高専担当で実施している九州沖縄地区高専海外英語研修（資料 7-1-③-2）には，平成 18 年度に 4 名の学生が参加して大きな成果をあげており，今後の発展が期待されている。

その他，図書館では学生の図書購入希望制度（資料 7-1-③-3）が，総合情報センターでは第 2 演習室時間外使用簿の記帳時に PC のトラブルや要望を記す備考欄を設ける制度（資料 7-1-③-4）が取られており，学生の意見を把握し，要望に応じている。

専攻科では，学生との懇談会が行われ，要望等を把握し，専攻科小委員会で対応を検討している（資料 7-1-①-5）。

資料 7-1-③-1

英語資格試験実施状況（本校で実施したもの）

	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年
TOEIC	5 月，7 月，9 月，11 月	1 月，6 月，9 月，11 月	1 月
A C E	7 月（1 年生）	2 月（1, 2 年生） 7 月（1 年生）	2 月（1, 2, 3 年生）
工業英検	5 月，11 月	2 月，5 月，11 月	

（出典：英語科資料）

資料 7-1-③-2

九州・沖縄地区高専生のための英語キャンプ  
English Camp in Singapore 2007

経済産業活動のグローバル化と国内外の激しい社会変化は、技術者の資質をますます大きなものにしており、日本企業が運営する海外生産拠点を訪問しますと、高専卒業生に出会う機会が沢山あります。さらに、高専卒業生の多くが就職後数年以内に海外出張を命ぜられ、国際的に活躍する必要性に迫られることも少なくありません。このように、将来は世界で活躍することが期待されている高専生達に必要なこととして、国際理解と英語によるコミュニケーション能力があげられます。昨年引き続き、九州沖縄地区国立高専校長会は異文化を肌で触れ、英語のスキルアップを目的とした研修を下記のとおり計画しました。今年の夏は、英語キャンプで英語のスキルアップと国際化を目指して下さい。

- 主催 九州沖縄地区国立高専校長会
- 担当校 熊本電設工業高等専門学校
- 期日 平成 19 年 8 月 18 日（土）（日本現）から 9 月 1 日（土）（日本暮）
- 研修地 シンガポール・ポリテクニク
- 対象 九州沖縄地区の高専学生（本科生、専攻科生）および教職員とその家族
- 引率 九州沖縄地区国立高専の教職員が同行
- 募集人員 20 名程度
- 費用 18 万円程度（別紙募集要項参照下さい）
- 詳細 別紙募集要項のとおり
- 申し込み

申込受付は平成 19 年 4 月 10 日より開始します。まず、電子メールにて、Subject は「英語研修」申込として学校名、学科名、学年、氏名、電話番号などを書いて電子メールを送付してください。申込用紙の電子ファイルを送付致します。必要事項を記入されて返送下さい。  
熊本電設高専生課（電話 096-242-2435）  
e-mail : eigo@knhu@apple.ec.knct.ac.jp  
問い合わせ先  
e-mail : eigo@knhu@apple.ec.knct.ac.jp まで、電子メールでお問い合わせください。Subject は「英語研修」問合せとして下さい。

(出典：学生課資料)

資料 7-1-③-3

★★★ リクエスト用紙 ★★★

※太枠の中をご記入下さい。

書名			
著者名			出版社
氏名			クラス
受付日	/	ISBN	
受付者			税抜価格
未所蔵	購入 ・ 発注 ・ 借用		
未入手	品切・絶版・未刊・他館紹介・その他 ( )		
準備出来日	/	連絡日	/
貸出日	/	(まほろば掲示板・電話・伝言)	

(出典：図書館資料)

資料 7-1-③-4

第 2 演習室 時間外使用簿

使用日	曜	使用者名	ユーザ ID	開始時間～終了時間	PC 番号	使用目的	■備考■ (PC のトラブルや要望など)
9 月 6 日	水	明野 大地	x0101	17 : 10 ~ 18 : 30	31	演習課題のレポート作成	
月 日				: ~ :			
月 日				: ~ :			
月 日				: ~ :			
月 日				: ~ :			
月 日				: ~ :			
月 日				: ~ :			
月 日				: ~ :			
月 日				: ~ :			
月 日				: ~ :			
月 日				: ~ :			
月 日				: ~ :			
月 日				: ~ :			
月 日				: ~ :			

(出典：総合情報センター資料)

(分析結果とその根拠理由)

資格試験や検定試験、留学等に関する学生のニーズは、主に学級担任が個別に把握しており、各学科が重視する資格・検定試験については補習や個別の指導も行っている。英語検定は、英語科が受験希望調査、学習指導、受験手を担当している。また、施設により学生の意見を汲み上げる制度も定着し、専攻科生との懇談会により専攻科生の要望等を的確に把握し検討しており、学習支援に関する学生のニーズは、適切に把握されている。

観点 7-1-④： 資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

(観点に係る状況)

本校が認め，文部科学大臣の認定を受けた技能審査以外の技能審査を合格した者に対して課題学修，実用英語技能検定，工業英語能力検定に合格した者に対して特別学修の単位認定を行っている（資料 7-1-④-1）。電気電子工学科では第二種電気工事士筆記試験合格者のための実技試験対策集中講義を行う等技術センター協力の下，支援体制がとられており（資料 7-1-④-2），修得認定された単位は，一般科目または学生が所属する学科の専門科目の単位となる（資料 7-1-④-3）。

留学については，校長が認めた場合に許可すると学則で定めており，外国の高等学校または大学での履修を本校の履修とみなし，30 単位以内で単位の修得を認め，留学を希望する学生には便宜を図っている（資料 7-1-④-4）。

### 資料 7-1-④-1

#### 大分工業高等専門学校における校外実習，課題学修及び特別学修に関する細則（抜粋）

制 定 平成 16 年 4 月 1 日  
最終改正 平成 19 年 3 月 14 日

(省略)

#### 第 3 章 課題学修

(課題学修)

第 1 1 条 本校が適当と認め，文部科学大臣の認定を受けている技能審査以外の技能審査（以下「技能検定等」という。）について，各担当学科の指導の下に合格した者に対して，「課題学修」の単位認定を行う。

(技能検定等の名称等)

第 1 2 条 技能検定等の名称・等級，科目名，認定する単位数及び担当学科は，次のとおりとする。

名 称 ・ 等 級	科 目 名	単位数	担当学科
ソフトウェア開発技術者	課題学修 (情報処理)	4	各専門学科
基本情報技術者		2	
エネルギー管理士	課題学修 (エネルギー管理)	2	機械工学科
ボイラー技士 2 級	課題学修 (ボ イ ラ ー)	1	
危険物取扱者乙種	課題学修 (危険物取扱)	1	
技術士補	課題学修 (技 術 士 補)	2	
電気主任技術者 1 種	課題学修 (電 気)	6	
〃 2 種		4	
〃 3 種		2	
陸上無線技術士 1 級	課題学修 (陸 上 無 線)	4	
〃 2 級	2		
第 1 種伝送交換主任技術者	課題学修 (電 気 通 信)	4	
第 2 種 〃		2	
第 1 種 電気工事士	課題学修 (電 気 工 事)	2	
第 2 種 〃		1	
技術士補	課題学修 (技 術 士 補)	2	
プロジェクトマネージャ	課題学修 (ソフトウェア開発工学)	6	制御情報工学科
アプリケーションエンジニア		6	
ネットワーク	課題学修	4	



データベース	(テクニカルエンジニアリング)	4		
エンベデッドシステム		4		
情報セキュリティアドミニストレータ		4		
システム監査		6		
システムアナリスト		6		
システム管理		4		
上級システムアドミニストレータ		2		
初級システムアドミニストレータ		1		
技術士補	課題学修 (技術士補)	2		
測量士	課題学修 (測量)	3		都市システム 工学科
測量士補		1		
技術士補	課題学修 (技術士補)	4		
土木施工技術者	課題学修 (土木施工)	2		
造園施工技術者	課題学修 (造園施工)	2		

2 技能検定等の単位は、学生が所属する学科の専門科目の単位として認定する。  
(申請手続)

**第 1 3 条** 課題学修を希望する学生は、所定様式の「課題学修願」を、所定の期日までに学級担任を経て、学科主任に提出しなければならない。

2 技能検定等の合格により、課題学修の単位の認定を希望する学生は、所定様式の「課題学修単位修得認定申請書」に合格を証する書類の写しを添えて、所定の期日までに学級担任を経て、学科主任に提出しなければならない。  
(課題学修の内容及び時間)

**第 1 4 条** 課題学修の内容及び時間は、認定される単位数に見合うものでなければならない。その詳細は各学科において定める。  
(評価)

**第 1 5 条** 課題学修は、各担当学科において評価する。  
(成績報告)

**第 1 6 条** 各学科主任は、実習の評価を所定の期日までに学生課教育支援係に提出するものとする。  
(上位の等級の技能検定等合格の場合の単位認定)

**第 1 7 条** 既に課題学修の単位を認定された学生が、さらに上位の等級の技能検定等に合格した場合は、当該上位の等級の単位数と既に認定された単位数との差を修得単位として認定する。

#### 第 4 章 特別学修

(特別学修)

**第 1 8 条** 本校が適当と認め、文部科学大臣の認定を受けた技能審査について、合格した者に対して、「特別学修」の単位認定を行う。

(技能審査の名称等)

**第 1 9 条** 技能審査の名称・等級、科目名、認定する単位数、一般・専門の別は、次のとおりとする。

技能審査の名称・等級	科目名	単位数	一般・専門の別
実用英語技能検定 1 級	特別学修 (実用英語)	6	一般科目
〃 準 1 級		4	
〃 2 級		2	
〃 準 2 級		1	
工業英語能力検定 1 級	特別学修 (工業英語)	4	専門科目
〃 2 級		2	
〃 3 級		1	

2 修得を認定された単位は、一般科目又は学生が所属する学科の専門科目の単位とする。  
(申請手続)

**第 2 0 条** 技能審査の合格によって単位修得の認定を希望する学生は、所定様式の「特別学修単位修得認定申請書」に技能審査の合格を証する書類の写しを添えて、所定の期日までに学級担任を経て、学生課教育支援係に提出しなければならない。

(評価)

**第21条** 特別学修は、「合格」の評語により評価する。

(上位の等級の技能審査合格の場合の単位認定)

**第22条** 既に特別学修の単位を認定された学生が、さらに上位の等級の技能審査に合格した場合は、当該上位の等級の単位数と既に認定された単位数との差を修得単位として認定する。

第5章 共通事項

(単位認定の時期)

**第23条** 修得を認定された単位は、合格した日付に在籍する学年の単位とする。

(雑則)

**第24条** この細則に定めるもののほか、校外実習、課題学修及び特別学修に関し、必要な事項は、別に定める。

**附 則**

この細則は、平成16年4月1日から施行する。

**附 則**

この細則は、平成17年4月1日から施行する。

**附 則**

この細則は、平成19年4月1日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

## 第二種電気工事士実技試験特訓受講生募集

第二種電気工事士筆記試験合格者のための実技試験対策集中講義を開催します。

### 対象

全学科(電気科は単位に認定、他の科でも就職に有利に)  
全学年(2年生以上が望ましいかな?でも1年生でもがんばれば…)  
一応、筆記試験合格者対象、実技試験は練習さえすれば、ほとんど合格します。しなければまず無理。

### 日時

技能試験開始前日まで2週間程度で放課後及び土日(強制ではないので来れるときに来ればいいです。)

### 場所

電気電子工学科工作室

### 受講料

材料費(一人5000円程度)

### 試験日程

下に記載

### 試験詳細

さらに詳しいことは下記ホームページをご覧ください。

<http://www.shiken.or.jp/>

### 受講申し込み

受講希望者で受験申込書が必要な人はE・M棟3階宮明教官室、1階西準備室またはお近くの技術センター職員まで

### < 第二種電気工事士試験 >

#### (1) 受験申請書受付期間

郵便振替用紙による申し込み……………

平成19年3月12日(月)~4月3日(火)

インターネットによる申し込み……………

平成19年3月12日(月)~4月6日(金)

#### (2) 試験実施日

筆記試験……………

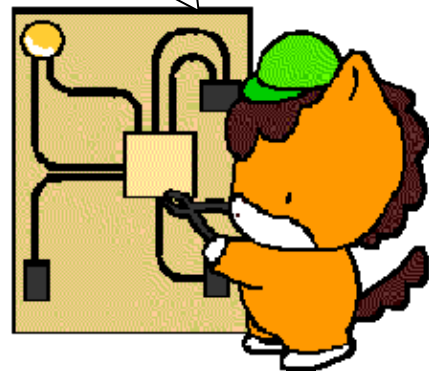
平成19年6月3日(日)

技能試験……………

平成19年7月21日(土)又は22日(日)

#### (3) 試験手数料 9,600円

就職にも有利だし、電気科の人は単位も、もらえるよ。



責任者: 技術センター 藤本 高德

(出典: 技術センター資料)

## 資料 7-1-④-3

## 課題学修の修得者数

年度	名称・等級	科目名	単位数	担当学科	修得者数
平成 14 年	危険物取扱者乙種	課題学修 (危険物取扱)	1	専門学科	2
	基本情報技術者	課題学修 (情報処理)	2	専門学科	3
	ソフトウェア開発技術者	課題学修 (情報処理)	4	専門学科	1
				小 計	6
平成 15 年	測量士補	課題学修 (測量)	1	土木工学科	1
	土木施工技術者	課題学修 (土木施工)	2	土木工学科	15
	基本情報技術者	課題学修 (情報処理)	2	電気工学科	4
	電気主任技術者 3 種	課題学修 (電気)	2	制御情報工学科	5
	危険物取扱者乙種	課題学修 (危険物取扱)	1	電気工学科	2
	造園施工技術者	課題学修 (造園施工)	2	機械工学科	5
	第 2 種電気工事士	課題学修 (電気工事)	1	制御情報工学科	2
				小 計	37
平成 16 年	基本情報技術者	課題学修 (情報処理)	2	電気電子工学科	1
				制御情報工学科	3
	ソフトウェア開発技術者	課題学修 (情報処理)	4	電気工学科	3
				電気電子工学科	1
				制御情報工学科	1
	技術士補	課題学修 (技術士補)	4	土木工学科	1
	土木施工技術者	課題学修 (土木施工)	2	土木工学科	21
電気主任技術者 3 種	課題学修 (電気)	2	電気工学科	1	
危険物取扱者乙種	課題学修 (危険物取扱)	1	制御情報工学科	2	
第 2 種電気工事士	課題学修 (電気工事)	1	電気電子工学科	4	
				小 計	38
平成 17 年	基本情報技術者	課題学修 (情報処理)	2	電気電子工学科	1
				制御情報工学科	1
	第 2 種電気工事士	課題学修 (電気工事)	1	電気電子工学科	4
	電気主任技術者 3 種	課題学修 (電気)	2	電気電子工学科	2
	初級システムアドミニストレータ	課題学修 (システム管理工学)	1	都市システム工学科	1
	技術士補	課題学修 (技術士補)	2	機械工学科	2
	土木施工技術者	課題学修 (土木施工)	2	土木工学科	12
危険物取扱者乙種	課題学修 (危険物取扱)	1	機械工学科	2	
				小 計	25
平成 18 年	基本情報技術者	課題学修 (情報処理)	2	制御情報工学科	4
	初級システムアドミニストレータ	課題学修 (システム管理工学)	1	制御情報工学科	4
	第 2 種電気工事士	課題学修 (電気工事)	1	電気電子工学科	3
	第 3 種電気主任技術者	課題学修 (電気工事)	2	電気電子工学科	2
	技術士補	課題学修 (技術士補)	4	土木工学科	1
	危険物取扱者乙種	課題学修 (危険物取扱)	1	機械工学科	2
				制御情報工学科	1
2 級土木施工管理技士	課題学修 (土木施工)	2	土木工学科	2	
				小 計	19

## 特別学修の修得者数

年度	技能審査の名称・等級	科目名	単位数	一般・専門の別	修得者数
平成 14 年	実用英語技能検定 2 級	特別学修 (実用英語)	2	一般科目	1
	実用英語技能検定準 2 級	特別学修 (実用英語)	1	一般科目	4
	工業英語能力検定 3 級	特別学修 (工業英語)	1	専門科目	2
				小 計	7
平成 15 年	実用英語技能検定 2 級	特別学修 (実用英語)	2	一般科目	4
	実用英語技能検定準 2 級	特別学修 (実用英語)	1	一般科目	7
	工業英語能力検定 3 級	特別学修 (工業英語)	1	専門科目	2
				小 計	13
平成 16 年	工業英語能力検定 3 級	特別学修 (工業英語)	1	専門科目	1
				小 計	1
平成 17 年	実用英語技能検定準 2 級	特別学修 (実用英語)	1	一般科目	1
				制御情報工学科	2
	工業英語能力検定 3 級	特別学修 (工業英語)	1	制御情報工学科	3
				土木工学科	1
				小 計	7
平成 18 年	実用英語技能検定 2 級	特別学修 (実用英語)	2	制御情報工学科	1
	実用英語技能検定準 2 級	特別学修 (実用英語)	1	制御情報工学科	1
				小 計	2

(出典：学生課資料)

資料 7 - 1 - ④ - 4

大分工業高等専門学校学則（抜粋）

制 定 平成 16 年 4 月 1 日  
最終改正 平成 19 年 2 月 20 日

（省略）

第 5 章 入学，転科，休学，留学，退学，転学及び卒業

（留学）

第 28 条 校長は，教育上有益と認めるときは，学生が外国の高等学校又は大学に留学することを許可することができる。

2 校長は，前項の規定により留学することを許可された学生について，外国の高等学校又は大学における履修を本校における履修とみなし，30 単位を超えない範囲で単位の修得を認定することができる。

3 校長は，前項の規定により単位の修得を認定された学生について，学年の途中においても，各学年の課程の修了又は卒業を認めることができる。

4 第 3 項に関し，必要な事項は別に定める。

（出典：大分工業高等専門学校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

資格試験や検定試験受講，留学希望者の支援体制が整備され機能しており，準学士課程では，資格試験の合格や校外実習，課題研究により単位を取得している学生が多い。

観点7-1-⑤： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、編入学生、社会人学生、障害のある学生等が考えられる。）への学習支援体制が整備されているか。また、必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

留学生の学習や生活に関し必要な助言や指導のため、専任の留学生担当教員が置かれており、学科で選定した留学生指導教員、学寮の担当教員、学科主任、クラス担任などと随時連絡を取りながら、留学生の学習及び生活指導に当たっている。留学生は原則本校の学生と同等に扱われるが、3、4学年時には「国語」と「地理」に代え「日本語」または「日本文化」の特別授業科目を設けるなどの対応をしている。また、留学生の学習向上と環境適応を図るため3、4学年の2年間、学寮に在寮する同学年以上の学生をチューターに当てている（資料7-1-⑤-1）

4年次編入学生は、工業及び農業高校の本校と同系統の学科出身者のみを受け入れているため、特別な指導は必要としないが、事前に数学等の学習をするよう指導している。

身体的障害を持つ学生の受入れの前例はなく、具体的な学習支援体制の整備はこれからである。しかし、発達障害や学習障害のある学生については、学生相談室が中心になった学習支援体制があり、クラス担任等を対象に本校のカウンセラーによる研修会も実施している（資料7-1-⑤-2）。

資料7-1-⑤-1

別紙様式		
報 告 書		
平成 年 月 日		
大分工業高等専門学校長 殿		
相談員氏名 留学生氏名 指導教員名		
下記のとおり報告いたします。		
年月日	時間	内 容
H18. 4. 12	2	日本語
H18. 4. 15	2	日本語の習慣について
H18. 4. 16	3	日本語・会話・寮生活について
H18. 4. 18	2	学習方法
H18. 4. 19	1	高専生活について
H18. 4. 21	2	勉強・質問に答える
H18. 4. 23	3	日本語・勉強・寮生活について
H18. 4. 24	2	勉強・質問
H18. 4. 26	2	日常生活について
H18. 4. 27	2	勉強・質問
H18. 4. 28	2	日常生活について
H18. 4. 30	3	勉強・日本語会話・寮生活について
計	26	

別紙様式		
報 告 書		
平成 年 月 日		
大分工業高等専門学校長 殿		
相談員氏名 留学生氏名 指導教員名		
下記のとおり報告いたします。		
年月日	時間	内 容
H18. 5. 1	2	勉強・質問
H18. 5. 2	3	レポート・日本語・勉強・質問
H18. 5. 7	3	レポート・勉強・日本語・言語
H18. 5. 8	2	高専生活
H18. 5. 10	2	勉強・寮生活
H18. 5. 12	2	勉強・高専生活
H18. 5. 14	4	勉強・クラス・友人について・自国の生活
H18. 5. 15	2	勉強
H18. 5. 17	2	勉強・質問・レポート
H18. 5. 19	2	進路について
H18. 5. 21	3	寮生活について
H18. 5. 22	3	高専生活
計	30	

別紙様式

## 報 告 書

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 殿

相談員氏名  
留学生氏名  
指導教員名

下記のとおり報告いたします。

年月日	時間	内 容
H18. 5.24	2	試験について
H18. 5.26	3	試験・質問
H18. 5.28	2	レポート
H18. 5.29	3	レポート・進路・友人について
H18. 5.31	2	テスト前のテスト説明
計	12	

(出典：学生課資料 チューターによる留学生指導報告書)

## 資料 7 - 1 - ⑤ - 2

全クラス担任の皆様 へ

学生相談室より研修会の案内

学生相談室長 瀧 川 信 正

平成18年度学生相談室研修会を下記の要領で実施いたします。

学生指導の一助になればと計画いたしました。

研修会としましたが、ビデオを見ながらの懇談会形式としています。

講師は本校のカウンセラーですので、普段から気になっていることなど、尋ねられたら良いのではと思います。

日 時 平成18年6月28日(水) 16時10分～17時30分  
場 所 会議室  
テーマ 「大人の発達障害について(仮)」  
講 師 . . . . .  
対象者 全クラス担任

(出典：学生相談室資料)

(分析結果とその根拠理由)

留学生に対して、入学当初から学習や生活に関し必要な助言、指導体制を取っている。4年次編入学生には、数学等の事前学習指導を行っている。精神的な障害のある学生については、学生相談室が中心になったカウンセラーによる支援体制をとっており、特別な学習支援体制が整備され、機能している。

観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

主事補5名が所属する学生主事室の教員が、学生会、体育大会等学校行事、交通指導・ロボットコンテストをそれぞれ担当し学生の課外活動の指導・支援にあたっている。

学生全員で組織する学生会は、学生主事室の指導の下で、課外活動の中心となり、球技大会、体育祭、高専祭、音楽祭、文化局展示等の行事を学生自身で運営している。学生会には、体育局・文化局が設けられ(資料7-1-⑥-1)、クラブ活動を通じ人間関係を養っている。各クラブを指導する顧問は、年度当初の教員会議で校長から委嘱され、原則として全教員が体育局あるいは文化局のクラブの顧問となっている(資料7-1-⑥-2)。不定期ではあるが、年1回程度クラブ顧問会議を開催し、クラブ運営上の問題点等について情報交換を行っており、学生と教員との連携、健全な学生生活を支援している(資料7-1-⑥-3)。

体育局・文化局クラブの部長、副部長及び学生会役員を対象としたリーダー研修を毎年実施し、外部講師による特別講演等も取り入れ、リーダーとしての自覚や責任感の養成も行っている(資料7-1-⑥-4)。

#### 資料7-1-⑥-1

### 大分工業高等専門学校学生会規約

制 定 平成16年4月1日  
最終改正 平成17年6月13日

#### 第1章 総則

- 第1条 本会は、大分工業高等専門学校学生会(以下「本会」という。)と称する。
- 第2条 本会は、学校の指導のもとに学生の自発的な活動を通してその人間形成を助成し、高等専門教育の目的に資することを目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を実現するために、次の目標の達成に努めなければならない。
- 一 学生生活を楽しく豊かで規律正しいものにし、よい校風をつくる。
  - 二 健全な趣味と豊かな教養を養い、個性の伸長を図る。
  - 三 心身を練磨し、余暇を活用する。
  - 四 学園生活における集団の活動に積極的に参加し、自主性を育てるとともに親和協力の精神を養う。
  - 五 学園生活において自治的能力を養い、もって民主的社会人としての資質を向上させる。
- 第4条 本会活動を行うにあたっては、学則、学生準則その他学校の定める諸規則に違反することなく、また学園の秩序を乱すようなことがあってはならない。
- 第5条 本会は、大分工業高等専門学校学生の全員をもって構成され、学生は入学と同時に本会の構成員となるものとする。
- 第6条 会員はすべて一定額の会費を納入しなければならない。
- 第7条 本会には、顧問教員が置かれる。
- 第8条 顧問教員は、校長の命により学生主事の総括のもとに、局又は部の活動の指導にあたるものとする。
- 第9条 本会の指導については、校長の命を受けて学生主事が総括するものとする。
- 第10条 規約の制定、規約の変更、毎年度の事業計画、収支予算書等すべての議決事項については、学校の承認を受け、また事業報告書及び収支決算書を学校に提出するものとする。

#### 第2章 組織

- 第11条 本会の目的達成のために、次の組織を置く。(別表)
- 一 学生総会
  - 二 評議会
  - 三 役員
  - 四 局及び部
  - 五 会計監査
- 第12条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1人
  - 二 副会長 1人



- |    |          |     |
|----|----------|-----|
| 三  | 総務       | 4人  |
| 四  | 書記       | 4人  |
| 五  | 会計       | 4人  |
| 六  | 風紀       | 若干名 |
| 七  | 広報       | 若干名 |
| 八  | 美化       | 若干名 |
| 九  | 体育局長     | 1人  |
| 十  | 文化局長     | 1人  |
| 十一 | 高専祭実行委員長 | 1人  |
| 十二 | 音楽祭実行委員長 | 1人  |
| 十三 | 交通安全委員長  | 1人  |
- 第12条の2** 会長及び副会長は全会員の投票によって選出し、他の役員は会長がこれを委嘱する。
- 第13条** 役員は学生総会（以下「総会」という。）、評議会の議決事項を執行し、その各任務を次のように定める。
- 一 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
  - 二 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその任務を代行する。
  - 三 総務は一般庶務を取扱う。
  - 四 書記は各種の会議等の記録を保管する。
  - 五 会計は本会の出納事務、予算、決算その他会計に関する一般事務を取扱う。
  - 六 風紀は学園の風紀活動にあたり、会員の品位向上に努める。
  - 七 広報は学園に関する内外の動向及び本会の活動について会員に周知する。
  - 八 美化は学園の緑化活動にあたり、会員の緑化意識の向上に努める。
  - 九 高専祭実行委員長は高専祭実行委員を代表し、高専祭に関する業務を統轄する。
  - 十 音楽祭実行委員長は音楽祭実行委員を代表し、音楽祭に関する業務を統轄する。
  - 十一 交通安全委員長は交通安全委員を代表し、会員の交通安全意識の向上に努める。
- 第14条** 役員は任期は毎年4月に始まり、翌年3月に終わる。ただし、再任を妨げない。
- 第15条** 総会は本会の最高議決機関であり、会員は出席する義務を負う。
- 第16条** 定期総会は年1回、原則として5月に開く。
- 第17条** 臨時総会は次の場合に開く。
- 一 評議員の3分の2以上が必要と認めるとき
  - 二 全会員の2分の1以上が必要と認めるとき
- 第18条** 総会は会長が招集し、議題の告示は5日前に行わなければならない。
- 第19条** 総会は本会員の3分の2以上の出席により成立する。
- 第20条** 総会の議長は、評議会が評議員以外の全会員中より選出し、副議長は議長がこれを委嘱する。
- 第21条** 総会の議決は、出席会員の過半数をもって成立する。
- 2 賛否同数のときは、議長が決する。
- 第22条** 評議会は、各学級から選出された2人の評議員をもって構成される。
- 第23条** 評議会は、総会の代行議決機関として、本会の運営に関する重要事項を審議決定する。
- 第24条** 評議会に、評議員の互選による正副議長各1人を置く。ただし、役員がこれを兼ねることはできない。
- 第25条** 議長は評議会を代表し、評議会を招集する。
- 2 副議長は議長を補佐し、議長に事故あるときはその任務を代行する。
- 第26条** 評議会は、会長の要請があったとき、又は評議員の3分の1以上が必要と認めるときに開くものとする。
- 第27条** 評議会は、5日以前に期日、場所、議題を公示して開くものとする。
- 第28条** 評議会は、全評議員の3分の2以上の出席によって成立する。
- 第29条** 評議会の議決は、出席議員の過半数をもって成立し、賛否同数のときは議長が決する。
- 第30条** 本会の目的達成のため、局活動を行う。
- 第31条** 局はこれをわけて、文化局及び体育局とし、さらにこれを部にわける。
- 第32条** 局に副局長各1人を置き、会長がこれを委嘱する。
- 第33条** 部に部長を置き、部員の互選とする。
- 第34条** 局長、部長の任期はいずれも1年とする。
- 第35条** 局長は局の最高責任者であり、各部を統轄する。
- 第36条** 局長は、局の顧問教員と密接な接触を保つとともに、部相互間の調整連絡のため、適宜連絡会を主催するものとする。
- 第37条** 部長は部を代表して、顧問教員と密接な接触を保つとともに、局長主催の連絡会に出席して、部相互間の連絡にあたる。
- 第38条** 部の新設、合併及び廃止は、評議会の議を経て、総会の承認を要する。
- 第3章 会計、予算、決算及び事業計画**
- 第39条** 本会の予算案及び事業計画は、役員がこれを作成して評議会に提出し、評議会の議を経て総会の承認を得なければならない。
- 第40条** 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。
- 第41条** 本会の会費は年額8,500円とし、前期及び後期の2期に分けて納付するものとし、前期は5月1日から5月31日まで、後期は9月1日から9月30日までを納期とする。
- 2 入会の際、入会金として1,000円納付するものとする。
- 第42条** いったん納入した会費及び入会金は返還しない。ただし、前期及び後期のそれぞれの全期間を休学した場合は、休学期間中の会費を免除する。

第 4 3 条 本会の会計は、翌年度 5 月に開く総会において決算報告をしなければならない。

第 4 4 条 本会の会計は、評議会の要求したときは、中間報告をしなければならない。

第 4 章 会計監査

第 4 5 条 会計監査は、本会のすべての会計経理を監査する権利及び義務を有し、必要ときは評議会及び総会に報告する。

第 4 6 条 会計監査は 4 人とし、第 4 学年の各学級より 1 人ずつ選出される。

第 5 章 規約の改正

第 4 7 条 全会員の 3 分の 1 以上又は評議会の 2 分の 1 以上の要求があったときは、規約の改正又は設定を審議するため、総会を開かねばならない。

2 全会員の過半数の賛成により規約を改正することができる。

第 4 8 条 本規約に付随する細則の設定及び改正は評議会の議決による。

附 則

この規約は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

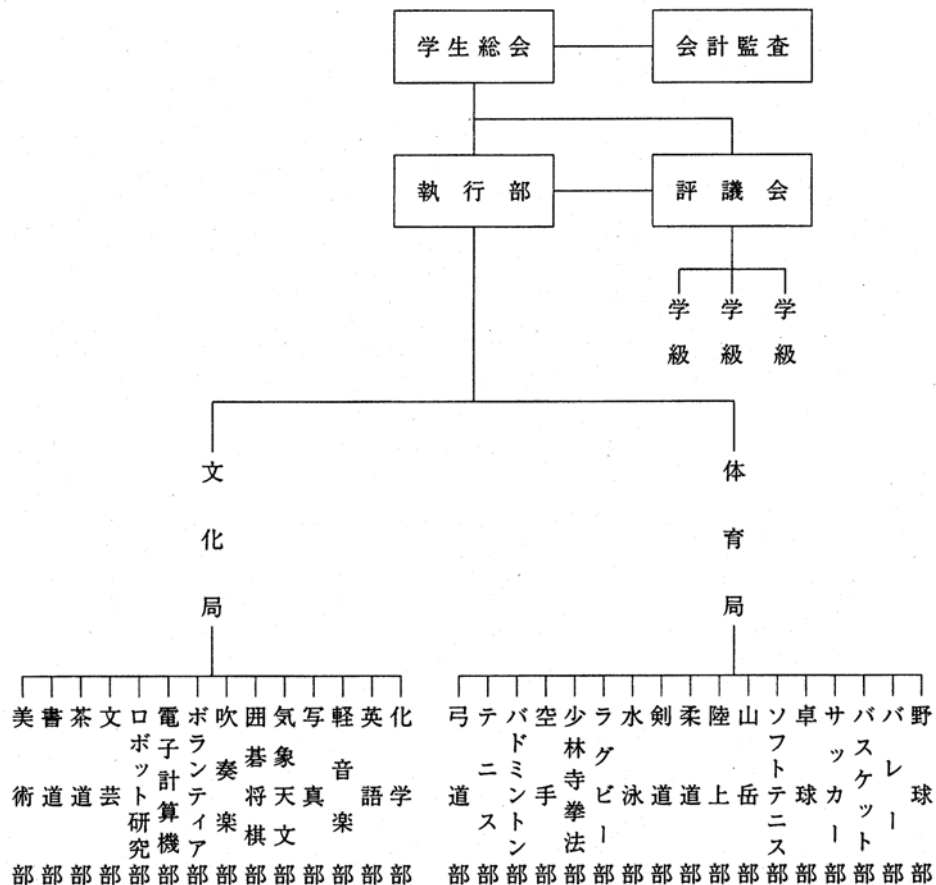
この規約は、平成 16 年 7 月 6 日から施行し、平成 16 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規約は、平成 17 年 6 月 13 日から施行し、平成 17 年 4 月 1 日から適用する

別 表

◆ 学生会組織及びクラブ一覧



(出典：学生便覧 大分高専学生会規約)

## 資料 7-1-⑥-2

学級担任(副担任)					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
機械工学科	笹原	●武口	徳安	菊川	伊東
	(福永)	(樋口)	(牧野)		
電気電子工学科	●佐藤達	工藤康	山口	木本	清武
	(湯地)	(佐々木)	(後藤)		
制御情報工学科	瀧川	穴井	●丸木	●青木	●金田
	(手島)	プロハースカ	(松本)		
都市システム工学科	藤原	大木	田中	東野	一宮
	(園田)	(名木野)	(佐野)		

各主事室会議委員				
教務主事室 会 議	吉澤	山田	東木	松本
	学生課長			
学生主事室 会 議	峯本	大庭	軽部	鷹尾
	徳尾	高見	学生課長	
寮務主事室 会 議	岡	田中	川内谷	小西
	佐々木	嶋田	前	学生課長

クラス運営委員会	加治	佐藤(達)	武口	丸木	学生課長
----------	----	-------	----	----	------

留 学 生 担 当	
留学生担当教員	青木
留学生指導教員	

学 生 会 願 問						
体 育 局 長 ( 武 口 )				文 化 局 長 ( 篠 田 )		
野 球	一宮, 菊川, 嶋田, 東野	空 手	加治, 佐野	英 語	大木	
バ レ ー	佐藤(達), 園田, 名木野	バドミントン	吉澤, 利光, 徳安	軽 音 楽	福永, 笹原	
バスケット	手島, 田中(孝), 湯地	弓 道	武口, 伊東	写 真	篠田	
サ ッ カ ー	佐々木, 清武, 前			気 象 天 文	高橋, 工藤(康)	
卓 球	薬師寺, 堀, 亀野			囲碁・将棋	木本	
ソフトテニス	山田, 藤原, 樋口	《 同 好 会 》		吹 奏 楽	青木, 鶴沢, 田中(美)	
山 岳	佐藤(秀), 工藤(康), プロハースカ	神 楽	峯本	ボランティア	穴 井	
陸 上	大庭, 牧野	ハンドボール	篠田	ロボット研究	鷹尾, 岡, 金田, 軽部, 本田	
柔 道	川内谷, 清水	自転車競技	徳安	電子計算機	丸木	
剣 道	島田, 相本			茶 道	青木, 田中(美)	
水 泳	小西, 山口			文 芸	島田, 山口	
テ ニ ス	東木, 松本(佳), 瀧川, 霧			化 学	加治	
ラグビー	工藤(宗), 高見, 松本(慎)			書 道	相本	
少林寺拳法	峯本, 徳尾			美 術	後藤(智)	

(出典：学校運営委員会資料)

資料 7 - 1 - ⑥ - 3

現地閲覧資料を参照

(出典：クラブ顧問会議資料)

資料7-1-⑥-4

平成18年度学生会・体育局・文化局クラブリーダー研修 日程表

期間：平成19年1月26日（金），27日（土）

場所：大分高専合併講義室 他

第1日目 1月26日（金）			
時刻	内容	場所	備考
	授業終了		
16:00	学生集合・資料配布 今後の予定を説明	合併講義室	
16:30	学生会話合 ・今年度行事の反省 ・来年度に向けて①	合併講義室	学生主事 学生主事補 学生会役員 体育局教員 文化局教員 オブザーバー教員
18:00	夕食（弁当）	合併講義室	
18:30	学生会話合 ・今年度行事の反省・ 来年度に向けて②	合併講義室	学生主事 学生主事補 学生会役員 体育局教員 文化局教員 オブザーバー教員
20:00	解散		

第2日目 1月27日（土）			
時刻	内容	場所	備考
9:30	学生集合	合併講義室	
10:00	特別講演会 「リーダーとしての資質」	合併講義室	学生主事講師 紹介 ..... ..... .....
11:30	昼食（弁当）	合併講義室	
12:30			体育局各部長 体育局教員 文化局各部長 文化局教員 オブザーバー教員 学生主事 学生主事補
13:00	体育局・文化局話合	選択教室Ⅰ・Ⅱ	
16:00	解散		

\*体育局教員：武口先生，文化局教員：篠田先生  
\*オブザーバー教員：川内谷先生  
\*学生会役員もオブザーバーとして各局の話合いを見て回る。

\*学生会役員でない各部長は，26日の学生会話合いは出席しないものとする。

（出典：学生会資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生会が規定どおりに組織され，学生主事室の指導・助言の下に活動しており，各種行事が学生により主体的に企画・運営されている。クラブ活動も顧問の指導のもと活発に行われており，クラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され，機能している。

観点 7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学生支援制度の特色として、クラス担任制度・専攻主任制度が挙げられる。各担任・専攻主任は、担当クラスの学生の要望を聞き、個人面接や保護者面談などを随時行い生活指導や学習指導、教科指導を行っている。クラス担任業務や学生の生活・学習指導指針を記した「クラス担任の手引き」が指導に役立てられている(資料 7-2-①-1)。専攻科でも、専攻主任が同様に指導や相談業務を行っている。

学生の悩みや相談に応じる従来のカウンセラー室を平成 14 年 4 月に学生相談室(学生相談室運営委員会)として設け、外部専門家(臨床心理士 2 名・毎週 2 時間以上対応)及び学内教員・看護師が、放課後に学生の相談を受ける態勢を整えている(資料 7-2-①-2)。学生の健康管理のためには保健室を設置し、メンタルケアのみならず緊急時の応急処置等にも対応している(資料 7-2-①-3)。

教育環境への学生の要望は、教育システム改善検討委員会(現教育プログラム委員会)が平成 16 年度から行っている学生アンケート(資料 7-2-①-4)を基に対応が行われている。

経済的理由で入学料・授業料等の納入が困難で、学業優秀と認められる学生には、審査により全額または半額の免除や徴収猶予の制度がある。また、学業、人物とも優れ、かつ健康で学費の支弁が困難と認められる学生には、選考により、日本学生支援機構等の奨学金が貸与される制度がある。奨学金制度、授業料免除については、情報誌「未来へのはばたき」(資料 7-2-①-5)及び学生便覧にその概略を示し、入学時に説明を行っている。日本学生支援機構以外の奨学金情報は、適宜、掲示及び担任・専攻主任を通じ学生に周知している。

## 資料 7-2-①-1

## クラス(学級)担任の手引き



Amor Omnia Vincit

大分工業高等専門学校

章	大項目	小項目
1. はじめに		
2. クラス運営の方針・計画 P 5～6	クラス運営の方針	前担任との引継、専門学科との連絡、大分高専の中期計画を踏まえた学年会の連結と目標設定、学級の運営方針
	クラス運営の計画	指導計画、SHRの運営、特活の運営
3. クラス組織と教室環境 P 7～9	クラス組織	クラス委員と学生会役員等の選出、クラス委員等の役割、週番とその役割、掃除当番
	教室環境	学生の座席配置、教室の設備備品、黒板、掲示、壁面、プラインド、ゴミ箱
4. 学習指導 ポートフォリオの利用(I) P 10～12	学生の成績履歴	前担任との引継、学生の成績推移把握
	日常の学習指導	HRでの指導、授業受講態度に関する指導、個別指導、教科担当教員との連携
	定期試験時の指導	試験勉強の指導、不正行為防止の指導、定期試験後の指導
	進路指導	進路決定の指導、就職指導、進学指導、退学、転学
5. 生活指導 ポートフォリオの利用(II) P 13～17	出欠席の把握	欠席、病欠欠席、遅刻、早退、忌引、公欠、休学
	身だしなみ	服装・髪型
	校外生活	アルバイト、パチンコ
	盗難防止	自転車、金銭管理、ロッカー、電子辞書、電卓
	寮生の指導	所属寮生の寮生活把握、寮生訪問、寮務委員会・学生生活係との連携、寮外生の寮訪問
	下宿生の指導	下宿生の住所・生活状況把握、下宿訪問
	自宅通学生の指導	生活状況の把握、家庭訪問
	交通マナーの指導	車輛通学者へのルール遵守指導
	クラブ活動学生の指導	所属クラブと活躍状況把握、顧問教員との連携
5. 生活指導(続き) P 17	学生相談室・保健室との連携	学生相談室との連携、保健室との連携
6. 学校行事の指導 P 18	学校行事の指導	新入生オリエンテーション、入学式、始業式、安全運転講習会、学生総会、体育祭、高専祭、保護者会、球技大会、卒業式、見学旅行、壮行会、その他集会
7. 保護者との連絡 P 19	日常的な連絡	保護者との連絡、問題行動の連絡
	定期試験毎の連絡	成績通知表
	保護者会	懇談時間割の作成、懇談内容の検討、出欠席の確認
8. 事務的業務 P 20～21	学生調書の作成・更新	
	授業料免除申請	授業料免除申請の時期、免除申請書類の作成、授業料免除学生の決定
	奨学金申請	奨学金申請の時期、奨学金申請書類の作成、奨学金支給学生の決定、奨学生の異動
9. 突発的事態への対処 P 22～23	学校管理下で事故・怪我等が起こった場合	応急処置・病院への搬送、保護者への連絡、クラブ活動中の場合、欠席中の学習指導
	クラス学生が違反行為をした場合	発生時の措置、当該学生の指導、保護者との連携、関係委員会との連絡、処分、事後指導
10. 参考資料 P 24～30	HR年間指導計画(例)	
	公欠について	
	学生生活関係で諸規則等について	
	校務分掌	

(出典：学生課資料)

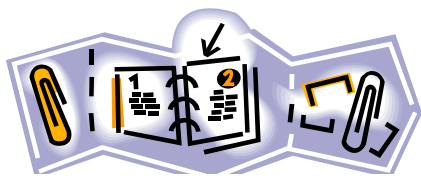
### 相談室ってどんなところ？

皆さんの心のケアをするために開設しています。  
 \* いつでも、どんな話でも聞いてくれるところです。  
 \* 専門のカウンセラーや相談員がいます。  
 \* もちろん話の内容については秘密を守ります。

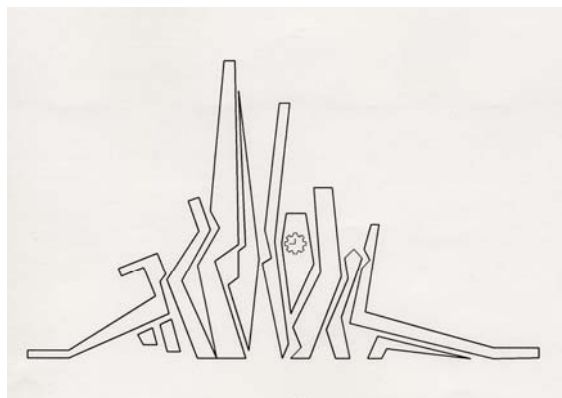


### “どんな話” って？

\* 彼氏・彼女のこと \* 身体のこと  
 \* 勉強のこと \* 進路のこと  
 \* うれしかったことや辛かったことを  
 誰かに聞いてもらいたいときなど・・・何でもどうぞ  
 保健室の看護師(岩崎)が窓口です



### 学生相談室のご案内



AMOR OMNIA VINCIT

大分工業高等専門学校

学生相談室

(明芳会館保健室隣)

TEL 097-552-6420

予約専用メール herb@oita-ct.ac.jp

### 相談室に来てみませんか？

「あなたの心配事を話してみたら？」  
 今年度の学生相談員の自己紹介です。

氏名：.....	氏名：.....
所属：.....	所属：.....
担当科目：.....	担当科目：.....
趣味：.....	趣味：.....
特技：.....	特技：.....
好きな言葉：.....	好きな言葉：.....

氏名：.....	氏名：.....
所属：.....	所属：.....
担当科目：.....	担当科目：.....
趣味：.....	趣味：.....
特技：.....	特技：.....
好きな言葉：.....	好きな言葉：.....

氏名：.....	氏名：.....
所属：.....	所属：.....
担当科目：.....	担当科目：.....
趣味：.....	趣味：.....
特技：.....	特技：.....
好きな言葉：.....	好きな言葉：.....

### 相談室の担当日と開設場所

	担当教員	開設場所
月	佐 野	研究室(都市システム棟3階)
	瀧 川	研究室(一般棟3階)
火	プロハースカ	研究室(制御情報棟2階)
水	山 口	研究室(機械電気棟3階)
	古賀カウンセラー	学生相談室
木	伊 東	研究室(機械電気棟2階)
金	篠 田	研究室(一般棟1階)
	金沢カウンセラー	学生相談室

開設時間 : カウンセラーは15時～17時  
 (古賀先生は月2回で、来校日は掲示します)  
 学内相談員は16時10分～17時

(出典：学生相談室資料)



資料 7-2-①-3

学生相談室および保健室利用状況

	14 年度	15 年度	16 年度	17 年度	18 年度
学生相談室 カウンセラー対応	15	14	20	13	36
学内相談員対応	148	229	62	6	16
保健室	947	944	823	797	795

参 考

相談室について

- 相談内容は生活上（学業・進路・人間関係）の悩みが主であったが、学生の多様化に伴い、相談内容も多様化したため、平成18年度より専門（非常勤）のカウンセラーを増員した。
- 14年度から学内相談員（教員）が加わり昼休みに開設した。PR要素が多分にあり呼び込み的で雑談となっている。（15～16年度も同じ）。
- 17年度に学内相談員の件数が急激に減っているのは、相談の場所を相談室から各教員の部屋に変更したため、相談室として来室しているのか普通の来室かの区別がつきにくくカウントしていない。6件は看護師の対応数。
- 18年度分は1月末現在。

保健室について

看護師が対応（医療相談・投薬・処置）した数のみ。  
そのほか（各種計測）を含めると約2倍の来室となる。

（出典：保健室資料）

資料 7-2-①-4

平成18年度学生アンケート

※ クラス担任の先生は、9月29日（金）の午後の空き時間または、試験解説・指導期間の最後等の時間を  
利用してこのアンケートを行い、教務係に提出してください。提出はこの一枚だけで結構です。  
クラス（ ）担任（ ）

※ アンケート項目

- 【1-1】本校の学習・教育目標（A1～E3）は、全般的に本校生にとって適していますか。  
1. とても満足している（ ）人 2. 大体満足している（ ）人 3. 満足していない（ ）人
- 【1-2】特に変更すべき学習・教育目標があれば、指摘してください。  
[ ]
- 【1-3】学習・教育目標を達成するためのカリキュラムについて、要望があれば指摘してください。  
（例）数学力を高めるための演習を増やしてほしい。  
[ ]
- 【2-1】本校の教育支援システムには、全般的に満足していますか。（学生便覧・履修の手引き・シラバス・ポートフォリオ・ホームページ・オフィスアワー・授業アンケートなど）  
1. とても満足している（ ）人 2. 大体満足している（ ）人 3. 満足していない（ ）人
- 【2-2】特に改善すべき教育支援システムがあれば、指摘してください。  
[ ]
- 【3-1】本校の教育関連施設・設備には、全般的に満足していますか。  
1. とても満足している（ ）人 2. 大体満足している（ ）人 3. 満足していない（ ）人
- 【3-2】特に改善すべき教育関連施設・設備があれば、指摘してください。  
[ ]
- 【4】教育プログラムを充実させるために、良いアイデアがあれば挙げてください。  
[ ]

ご協力ありがとうございました。  
大分高专教育プログラム委員会

（出典：教育プログラム委員会資料）

資料 7-2-①-5

### 学費について

本校は国立学校ですが、学費負担はほぼ個人の費用でまかなわれています。保護者の負担は公立高校とほぼ同等です。入学してから1学期に学年ごとの授業料を予定していただきます。次の表のようになります。

項目	金額	備 考
入 学 料	24,000円	入学準備金
授 業 料	234,000円	授業（前期後期別）
学 生 入 学 費	1,000円	入学時
学 生 食 費	8,500円	前期（前期後期別）
新 入 生 給 養 費	8,000円	入学時
学 費 支 援 費	1,000,000円	一学期ごと
学 費 支 援 費	40,000円	学 費
計	約1,000,000円	

入学料及び入学中に授業料が決定される。本学には奨学金から授業料が免除されます。授業料は前期後期と後期のみを併せて納付することも可能です。また、2年生以上になりますと年間300,000円の授業料が免除です。

### 授業料免除・奨学金などの制度

●入学科・授業料の免除・優待制度  
経済的理由により入学科・授業料の納入が困難な場合、かつ授業が優秀と認められる者は、決定した学年より優待料・授業料免除の優待を受け、単位取得の補助があります。

●奨 学 金  
授業、入学科ともにすぐれた成績を挙げ、健康で学業の進歩が認められる者に奨学金により日本学生支援機構の奨学金が貸与されます。  
在校生の約10%が奨学金になっています。

年 次	貸付額	返済額
1～3	21,000円	0円
4～5	46,000円	11,000円

奨学金の貸付額は各表に示してあります。  
その他、地方公共団体、民間財団などの奨学金制度もあります。

### 福利厚生施設

【膳費負担】入学後の目標の達成のため、学生食堂、売店等が設置されています。授業は、膳の定額のほか、学生の便に合わせたメニューも用意しています。また、動物は動物愛護を目的に設置しています。  
【設備】充実した学生生活を送るうえで、健康の維持は、学生の生活に不可欠です。「健康課」一室には、保健室あり、学生の身体状態を把握することを目的として健康測定、応急処置室、カウンセリングによるメンタルケアなど健康増進に関する業務を行っていますので気軽に相談することができます。毎年4月には、学生生活科に健康課設置も実施しています。

### 質問に答えて

【質問】 奨学金は、どんな人が使えますか？  
奨学金は、入学を希望する中で学業成績が優秀で経済的に困難な状況にある人、あるいは授業料や学費の負担が大きい人です。さらに、これからは奨学金も社会的な責任として奨学金利用者がふりてもらう。

- 18 -

（出典：「未来へのはばたき」）

（分析結果とその根拠理由）

クラス担任・専攻主任制度が良く機能し、保健室や学生相談室も学生の健康管理や学生の悩み、相談に応じる態勢を整えている。経済的支援として、奨学金制度、入学科や授業料の免除及び猶予制度が整い、学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

観点 7-2-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）への生活支援等を適切に行うことができる状況にあるか。  
また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

身障者用のスロープとトイレは、一般科目棟、総合研究棟、図書館、電気機械実験棟、都市システム実験棟、制御情報実験棟に設置している。総合研究棟と都市システム実験棟には、エレベータを設置し、障害を持つ学生への平等な学習機会の提供に配慮している。施設面でさらに改善すべき点、特にバリアフリー未対応部分については、現在予算請求中のほか、予算要求を計画している計画工事箇所があるが（資料 7-2-②-1）、その完了までは「未バリアフリー化施設に関するソフト面での対応マニュアル」により対応している（資料 7-2-②-2）。

学生寮での留学生の食事では、宗教的配慮をしており（資料 7-2-②-3）、寮内の補食室には冷蔵庫・電磁調理器・オープンレンジ・湯沸器を設置し、調理が可能となっている。イスラム圏の留学生に対しては、お祈りのため一時帰寮を認める等の配慮も行っている。

資料 7-2-②-1

## 大分高専バリアフリー整備計画 4（営繕事業にて要求中）

優先順位	計画工事箇所	計画工事概要	概算金額	備 考
1	第 2 体育館	・屋外スロープ設置 13m 100 角ノンスリップタイル張り ステンレス手摺取付け ・スチール開き戸→アルミ自動ドア交換（一ヶ所）		※避難所の代替施設として登録されている
2	福利施設	・屋内スロープ設置 2m 100 角ノンスリップタイル張り ・スチール開き戸→アルミ自動ドア交換（一ヶ所）		
3	第 1 体育館	・スチール開き戸→アルミ自動ドア交換（一ヶ所）		※避難所の代替施設として登録されている ※スロープは改修済み
4	総合情報センター	・屋外スロープ設置 7m 100 角ノンスリップタイル張り ・屋内スロープ設置 2m 100 角ノンスリップタイル張り ・スチール開き戸→アルミ自動ドア交換（一ヶ所）		
5	合宿研修所	・屋外スロープ設置 9m 100 角ノンスリップタイル張り ステンレス手摺取付け ・スチール開き戸→アルミ自動ドア交換（一ヶ所）		
		合 計		

## 今後予算要求を計画しているもの（身障者の入学等又は大規模改修時に計画）

	計画工事箇所	計画工事概要	概算金額	備 考
	一般科目 A 棟	・ 2F～3F 階段昇降機（車いす用取付）		
	図書館	・ エレベーター設置（2 階建） ・ エレベーター昇降路（S 造増築）		
	福利施設	・ エレベーター設置（2 階建） ・ エレベーター昇降路（S 造増築）		
	その他の付属施設	・ 出入口スロープ及びドア改修 ・ 身障者用便所		身障者の入学時等、必要箇所を改修
	学寮関連	・ 出入口スロープ及びドア改修 ・ 身障者用便所		身障者の入学時等、必要箇所を改修

（出典：総務課資料）

## 資料7-2-②-2

## 未バリアフリー化施設に関するソフト面での対応マニュアル

## &lt;基本方針&gt;

次の未バリアフリー化施設の利用に際しては、当面、以下のとおり取扱うこととする。

## 【未バリアフリー化施設】

- (1) 図書館 (1F:図書室 2F:LL 教室、視聴覚教室、選択科目教室(2室)、和室)
- (2) 第2体育館
- (3) 一般科目棟 (3F:教員室(10室))
- (4) 明芳会館 (1F:保健室、売店、食堂 2F:学生主事室、音楽鑑賞室、学生会室、ミーティング室(2室))
- (5) 総合情報センター
- (6) 合宿研修所

## 1. 本学学生

障害を持つ学生が入学した場合、バリアフリー化が完成するまでは、基本的にクラスメートに介助を依頼する。

授業計画の作成においては、対象施設を可能な限り使用しないように時間割を立案する。

## 2. 本学事業への参加者

学内で実施する授業や公開講座等については、対象施設を可能な限り使用しない計画を立案することとし、やむを得ず使用する場合は、教職員による障害者介助を含めて計画する。

## 3. 一般来校者

来校する障害者への基本的対応は各課職員があたり、用務に応じて教職員への連絡や介助者の手配し、多目的室での面談とする。

また、各教職員は来校した障害者に対しては親身に対応すると共に用務先まで案内する。

## &lt;施設ごとの対応&gt;

## (1) 図書館

・図書館利用を含む来館者へは、玄関にインターホンを設置するまでの間、庶務課に申出るよう案内する。

・直接の来館者は、図書館職員が対応にあたり必要に応じて庶務課職員の応援を依頼する。

障害者が参加する可能性のある授業や本校開催行事等を、図書館2階(LL 教室、視聴覚教室、選択科目教室)で計画する場合は、障害者の介助策を含めて計画する。

## (2) 第2体育館

障害者が参加する可能性のある授業や本校開催行事等は、可能な限りバリアフリー化された第1体育館で開催することとし、やむを得ず第2体育館を使用する際は、障害者の介助策を含めて計画する。

## (3) 一般科目棟 (3階教員室)

基本的な来校者への対応は、庶務課又は学生課で受付し該当教員に連絡をとり、多目的室で面談する。

## (4) 明芳会館

明芳会館への来館者は、学生課又は庶務課に案内する。

## (5) 総合情報センター

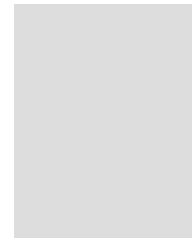
障害者が参加する可能性のある本校開催行事等を計画する場合は、障害者の介助策を含めて計画する。

## (5) 合宿研修所

当面、一般外来者対象の行事等は計画しない。

(出典：施設整備計画委員会資料)

## 資料7-2-②-3



5 S マハフズ

## 私の寮生活

高専を卒業してから、明野寮の食堂のことを一番に思い出すでしょう。私は宗教的な関係で食べ物に制限があったので、食堂のみなさんには毎食私のために特別に料理を準備していただきました。心より感謝しています。そして、毎年2回行われるバレーボール大会はとても楽しかったです。寮の毎日の生活にはあまり変化がありません。そのために、休みの日にAPU大学に行ったり、バドミントンやサッカーをしたりしました。明野寮の環境は勉強のためにとてもよく、そのお陰で京都大学に合格することができました。大分高専、そして明野寮のことを一生忘れません。

(出典：明野通信第103号  
留学生の寮生活の感想文)

## (分析結果とその根拠理由)

留学生には専任の留学生担当教員や留学生相談員を置いている。障害を持つ学生に対し、バリアフリー化が進められており、遅れている箇所についてはソフト的に対応している。このように、特別な支援が必要な学生に対し生活面での支援が適切に行われている。

観点7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能

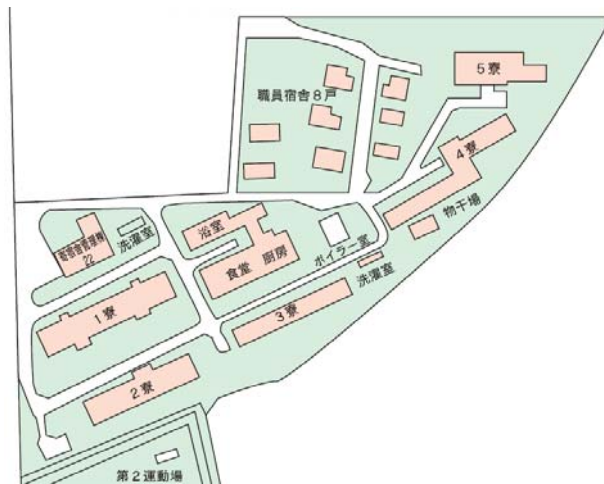
しているか。

(観点に係る状況)

学生寮(資料7-2-③-1)は、男女学生・留学生あわせて320名の収容能力があり(資料7-2-③-2)、規則正しい生活が行われるように寮生手帳に記載した日課表に従い生活をしている(資料7-2-③-3, 4)。

寮生の夜間や休日等の生活・学習支援、生活相談等に対応するため、夜間は、教員2名の宿直体制、休日の昼間は教員1名の日直体制が整っている(資料7-2-③-5)。女子寮には17~22時まで非常勤の寮母が勤務して女子独特の問題に対応する他、月2回程度は女性教員の宿直も行っており、機械警備も整っている。

資料7-2-③-1



(出典：学校要覧 学生寮平面図)

資料7-2-③-2

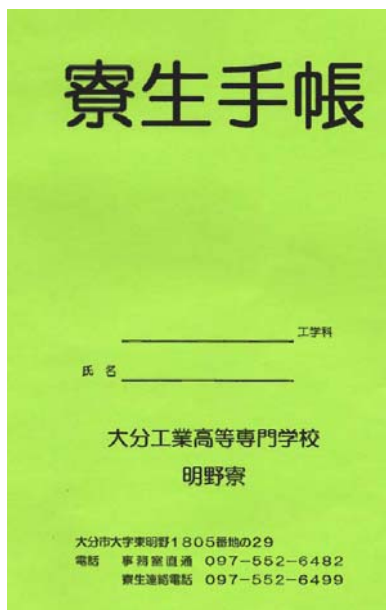
明野寮在寮生数 2007/4/5 在寮生数内訳 男子 196 女子 21 計 217名

	機械		電気電子		制御情報		都市システム		専攻		合計		1寮	2寮	3寮	4寮	5寮
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子					
1学年	10	1	14		11	4	5	1			40	6	6	40			
2学年	17		10		7		5	3			39	3	3		39		
3学年	12	1	12	1	9	3	8	2			41	7	7	4		37	
4学年	8		13		6	2	9	1			36	3	3	2	3	22	9
5学年	11		11	1	5	1	7				34	2	2	3	3	3	25
専1									3		3	0	0				3
専2									3		3	0	0				3
小計	58	2	60	2	38	10	34	7	6	0	196	21	21	49	45	62	40
合計		60		62		48		41		6		217					
定員	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	320		80	65	50	72	53

(出典：教員会議資料)

## 資料 7 - 2 - ③ - 3

## 日 課 表



日課	時 刻
起 床	7 : 20
点 呼	7 : 30 (ただし, 休日は点呼なし)
朝 食	7 : 35 ~ 8 : 30 (ただし, 休日は 7 : 35 ~ 9 : 00)
登 校	8 : 30
昼 食	12 : 00 ~ 12 : 45
夕 食	17 : 30 ~ 19 : 00
入 浴	17 : 00 ~ 20 : 55
門限(点呼)	21 : 00 (ただし, 高学年寮点呼 22 : 00)
学習時間	21 : 00 ~ 23 : 00
消 灯 就 床	24 : 00 (ただし, 定期試験日割発表の日 から試験終了の前日までは無制限)

(出典：平成 18 年度寮生手帳 寮生日課表)

## 資料 7 - 2 - ③ - 4

## 大分工業高等専門学校学寮管理規程

制 定 平成 16 年 4 月 1 日

(目的)

**第 1 条** 学生の修学に便宜を供与し、かつその人間形成を助長して教育目的の達成に資することを目的として、本校に次の学寮を設ける。

(名称)

**第 2 条** 本校学寮は大分工業高等専門学校明野寮（以下「寮」という。）と称する。

(学寮生活の基本)

**第 3 条** 学寮に入寮する学生（以下「寮生」という。）は、この規程及びこの規程に基づいて定められた諸規定を守り、相互に敬愛啓発して自己及び共同の生活の向上充実に努めなければならない。

(寮生の責務)

**第 4 条** 寮生は常に寮風の振興を図り、営造物の保全に努めなければならない。

(所管)

**第 5 条** 寮の管理運営に関する事項は、校長の命を受けて、寮務主事が処理する。

(寮務主事補)

**第 6 条** 寮務主事を補佐するために、寮務主事補を置く。

2 寮務主事補は、教員をもってあてる。

(運営委員会)

**第 7 条** 寮の管理運営に関する事項を調査審議するため、寮運営委員会を置く。

2 寮運営委員会の組織及び運営に必要な事項は別に定める。

(入寮及び退寮)

**第 8 条** 自宅外通学者は、入寮することができる。ただし、特別の事情のある場合には、自宅通学者を入寮させることができる。

2 入寮の時期は、学年の始めを原則とする。

3 入寮を希望する者は、寮務主事補及び寮務主事を経て校長に願い出て、その許可を受けなければならない。退寮しようとする時も同様である。

4 疾病その他の理由により共同生活に適さないと認められた者は、入寮を許可しない。

5 寮生であって、学生の本分に反し学則及び学生準則並びにこの規程に違反し又は前項に該当するに至った者は退寮させることがある。

6 長期休業中のみの退寮は認めない。

(寄宿料等)

**第9条** 寄宿料の額は、学則第33条による。

2 寄宿料は、4月分から9月分については4月末日までに、10月分から翌年3月分については10月末日までに納付しなければならない。ただし、年度の途中に入寮した者は、入寮した日の属する月に納付しなければならない。いったん納入した寄宿料はいかなる事由があっても返戻しない。

3 寮生活に必要な経費の徴収については、別に定める。

4 寮生、又は寮生の学資を主として負担している者が災害を受け納付困難と認められる場合は、別に定めるところにより寄宿料を免除することがある。

5 寄宿料及び第3項の経費を納付しない者は、退寮させることがある。

(共同生活の自治)

**第10条** 寮生はその総意により、校長の承認を得て、寮における共同生活を自律的に運営するための組織を設けることができる。

2 前項の組織及びその活動は、寮生相互の個人生活を侵すことなく、かつ学則及び学生準則並びにこの規程に違反しないものでなければならない。

3 第1項の組織を設けようとする場合は、次に掲げる事項について寮務主事を経て、校長に提出し、その承認を受けなければならない。変更又は廃止する場合も同様である。

一 名称

二 目的

三 規約

四 代表者及び役員

4 第1項の組織が、その目的を逸脱し、又は前2項の規定に違反する場合は解散させることがある。

(防災安全)

**第11条** 寮生は、火災その他の災害の防止について、常時注意するとともに、学校の行う防火訓練その他の措置について、協力しなければならない。

2 火気の使用は、指定の場所以外では行わない。

3 寮生は、火災又は事故の発生を知った場合はただちに寮務主事又は寮務主事補にその旨を報告し、以後職員の指示に従って行動しなければならない。

(保健衛生)

**第12条** 寮生は各自健康の維持及び増進に留意するとともに、寮内の清潔に努めなければならない。

2 伝染病の発生、その他の事情により必要がある場合には、随時健康診断及び予防接種を実施する。

3 病気にかかった者は、ただちに寮務主事へ届出て医師の診断を受けなければならない。

(施設、設備の使用)

**第13条** 寮の施設、設備の使用については、別に定める。

(門限外の外出、外泊、旅行及び帰省)

**第14条** 門限外の外出、外泊、旅行及び帰省に際しては、あらかじめ寮務主事に願い出てその許可を受けなければならない。

(外来者)

**第15条** 外来者との面会は、指定された場所で行うものとする。

2 寮生以外の者が、寮の施設を使用しようとする場合は、寮務主事を経て校長に願い出て、その許可を受けなければならない。

(雑則)

**第16条** この規程の実施について必要事項は、別に定める。

**附 則**

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料 7-2-③-5

## 大分工業高等専門学校学寮宿日直細則

制 定 平成 16 年 4 月 1 日

最終改正 平成 19 年 3 月 14 日

(趣旨)

**第 1 条** 大分工業高等専門学校学寮宿日直（以下「宿日直」という。）については、独立行政法人国立高等専門学校機構学生寮教員宿日直規則によるほか、この細則の定めるところによる。

(勤務体制)

**第 2 条** 教員は、原則として 2 人が輪番で宿日直に従事するものとする。ただし、女子寮に宿直勤務するときは、3 名とする。

(宿日直勤務日)

**第 3 条** 宿日直の勤務日は、大分工業高等専門学校学則第 5 条第 1 項第 4 号ないし第 7 号に規定する休業日を除く日とする。ただし、特別の事情により校長が必要と認めるときは、この限りではない。

(勤務箇所)

**第 4 条** 宿日直の箇所は学寮管理棟の第一当直室、第二当直室及び第一寮当直室とする。

(宿日直の命令及び割振り)

**第 5 条** 宿日直は、校長が命ずる。

2 宿日直の割振りは、寮務主事が定め、校長の決済を得たうえ実施する月の前月の末日までに各教員に通知するものとする。

(睡眠時間)

**第 6 条** 宿直における睡眠時間は原則として午後 11 時から翌日の午前 7 時までとする。

(学寮日誌)

**第 7 条** 宿日直の教員は、学寮日誌を作成するものとする。

2 学寮日誌の取扱いにおいては、秘密を保持しなければならない。

3 学寮日誌の様式は別に定める。

(事務)

**第 8 条** 宿日直に関する事務は、学生課学生生活係が所掌するものとする。

(雑則)

**第 9 条** この細則に定めるもののほか、宿日直の実施に関し必要な事項は、校長が定める。

**附 則**

この細則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

**附 則**

この細則は、平成 16 年 5 月 10 日から施行する。

**附 則**

この細則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

学生寮は希望者のみの入寮であり、主に遠距離学生が入寮している。現在の収容人数は、収容能力の約 68%の約 220 人であり、余裕のある適切な状態となっている。食事、入浴、学習、就寝、起床等の時間は日課表に従い、規則正しく生活している。日課は、寮務主事室や当直教員が管理し、寮務主事室では登校前後のチェックも行っており、生活及び学習の場として十分有効に機能している。

観点7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

進路指導は、進路指導委員会の基本方針に従い各学科が中心となって行っている。求人開拓の企業訪問は、夏休みにほぼ全教員が担当し、進路指導出張報告書は担当教職員に公開され、きめ細かな進路指導が実現している(資料7-2-④-1)。進路指導委員会は、必要に応じ年2回程度開催している(資料7-2-④-2, 3)。

4月中旬に、専攻科進学・大学編入学試験・大学院入学試験に関する説明会を、5年生と専攻科2年生に対して行っている(資料7-2-④-4)。11月中旬に行う保護者会では、4年生保護者進路関係説明会を開催し、進路指導委員長、各専攻主任、各学科主任及びクラス担任が出席している。これに先立ち4年生進路説明会も開催し、学生に対する説明を先に行うことで、親子の対話を密にし進路指導を円滑にできるように配慮している(資料7-2-④-5)。4年次の11月～2月にかけて希望学生に適性試験(SPI 試験)を実施するほか、就職・進学関係の資料を学生課前や各科のロビーに置き、学生が自由に閲覧(インターネットを含む。)できるようにしている。

資料7-2-④-1

進路指導委員長	学生課長	課長補佐	学生支援係長	学生支援係

(別紙)

進路指導報告事項

(No. )

会社名	TEL ( )
所在地	〒
対応者	部 課 様
近くの交通機関	線 駅下車
【報告事項】	
会社名	TEL ( )
所在地	〒
対応者	部 課 様
近くの交通機関	線 駅下車
【報告事項】	

進路指導出張報告書

平成 年 月 日

大分工業高等専門学校長 殿

教員名 印

下記のとおり会社、事業所を訪問しましたので別紙資料を添えて報告いたします。

記

1 旅行期間 自 平成 年 月 日 泊 日  
至 平成 年 月 日

2 旅行日程及び訪問会社(事業所)名

番号	月 日	会社(事業所)名
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

(出典：学生課資料)



## 資料 7-2-④-2

## 大分工業高等専門学校各種委員会規程

制 定 平成 16 年 4 月 1 日  
最終改正 平成 19 年 3 月 14 日

(設置)

第 1 条 大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の教育研究及び管理運営を円滑に行うため、別表に掲げる委員会を置く。

(審議事項, 組織, 委員長及び庶務)

第 2 条 委員会の審議事項, 組織, 委員長及び庶務は, 別表のとおりとする。

(委員の委嘱)

第 3 条 委員は, 校長が委嘱する。

(委員の任期)

第 4 条 役職指定以外の委員の任期は, 1 年とする。ただし, 再任を妨げない。

2 第 1 項の委員に欠員が生じた場合の後任の任期は, 前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き, 別表に定める者をもって充てる。

2 委員長は, 委員会を招集し, その議長となる。

3 委員長に事故あるときは, 委員長があらかじめ指名した者が議長の職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員長が必要と認めた場合は, 委員会に委員以外の者の出席を求め, 意見を聞くことができる。

(専門部会)

第 7 条 委員会に専門的な事項の調査・検討を行うため, 専門部会を置くことができる。

2 専門部会の組織及び検討事項等については, 当該委員会が定める。

(雑則)

第 8 条 この規程に定めるもののほか, 委員会に関し必要な事項は, 当該委員会が定める。

附 則

この規程は, 平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は, 平成 17 年 8 月 30 日から施行する。

附 則

この規程は, 平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は, 平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

別表 (抜粋)

## 大分工業高等専門学校各種委員会

番号	委員会名	審議事項	組 織	委員長	庶務担当
11	進路指導委員会	1 学生の進路指導に関すること。 2 学生の進路開拓に関すること。 3 その他学生の進路に関すること。	1 学生主事 2 専攻科長 3 機械・環境システム工学専攻主任及び電気電子情報工学専攻主任 4 機械工学科, 電気電子工学科, 制御情報工学科及び都市システム工学科各主任 5 一般科目の主任 1 名 6 5 年学級担任 7 学生課長	学生主事	学生支援係

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

## 資料 7-2-④-3

## 平成 18 年度第 1 回進路指導委員会議事概要

日 時 平成 18 年 4 月 12 日 (水) 16:40～17:50  
場 所 会 議 室  
出席者 別紙のとおり

議事に先だち、配布書類の内容が確認された。

## 議事

平成 17 年度第 2 回進路指導委員会決定事項の再確認について  
進路指導委員長より、議事概要どおり読み上げられ確認された。

## 2. 大学編入学関係について

○「大学等へ進学する場合の校長推薦基準等について」加治進路指導委員長が読み上げ確認した。

なお、・・・大学は一般学力試験とみなすとの確認があった。

○「大分工業高等専門学校専攻科 入学試験選抜基準申し合わせ」ならびに「大分工業高等専門学校専攻科 入学試験選抜基準」学生用の確認があった。

なお、佐藤専攻科長より、学生用はサイボウズに掲載しており、クラス担任より学生への説明等に利用して欲しいとの報告があった。

島谷教務主任から他の資料の説明後、意見交換があり次のことが確認された。

○「専攻科進学・大学編入学試験・大学院入学試験に関する説明会について」の案内は教務係よりする。

当日は事務的な説明であるが、専攻科を一番に説明して欲しいとの依頼があった。その際、専攻科長または専攻主任の出席の了解を得た。

## 3. 企業向けパンフレットの更新について

○パンフレットの内容を変更する場合は、5 月末日までに学生係へデータの提出を、各学科主任ならびに専攻主任へ依頼した。

## 4. その他

特になし

(出典：進路指導委員会資料)

## 資料 7-2-④-4

平成 18 年 4 月 13 日

5 年生・専攻科 2 年生へ

専攻科進学・大学編入学試験・大学院入学試験に関する説明会について

このことについて、下記のとおり開催します。

5 年生で、大学等への編入学を希望する者及び専攻科 2 年生で大学院進学希望者は必ず出席して下さい。

なお、やむを得ない事情で、当日出席できない者は事前に学生課教務係へ連絡してください。

また、当日は受験希望大学・希望大学院へのアンケートを実施する予定です。

## 記

日 時 平成 18 年 4 月 19 日 (水) 16:10～  
場 所 合併講義室  
内 容 ①出願手続き等  
②大学の過去問題について  
③受験希望大学アンケートについて  
④その他

学生課教務係

(出典：学生課資料)

資料7-2-④-5

平成18年10月31日

学科主任、4年生クラス担任、専攻科長、専攻主任各位

進路指導委員長 加治俊夫

#### 4年生進路説明会の開催について(通知)

このことについて、下記のとおり開催いたしますので、ご出席並びに学生への周知徹底の程を、よろしくお願いたします。

#### 記

日時	11月10日(金) 16:20～
場所	合併講義室
内容	1. 今年度の就職・進学状況について 2. 大分高専専攻科について 3. その他

\*なお、この説明会の開催は、14日(火)に開催される保護者会での保護者に対する説明に先立って行われます。学生に対する説明会を先に行うことで、家庭での親子の対話を密にしたり、保護者の方々への進路指導を円滑に行おうとするものです。

(出典：学生支援係資料 4年生進路説明会の開催通知)

(分析結果とその根拠理由)

進路指導委員会を設置し、就職や進学指導を統一的に行っている。各学科でも科主任を中心に進路指導を行う体制が整備され、機能している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学生の適性や要望を的確に把握し、生活指導、進路指導を行う支援体制が整い機能している。大学等と比較し、学生と教員の接触が密に行われている。

(改善を要する点)

資格試験や検定試験に関する組織的・統一的案内や国際化が進む中で、留学のための支援体制はこれからさらに充実させる必要がある。

### (3) 基準7の自己評価の概要

学習支援体制では、準学士課程の新生に対する合宿研修に始まり、学年毎の教務説明会、4年生に対するJABEEプログラム説明会、専攻科新生に対するオリエンテーション等、学習を進める上でのガイダンスを整備し、節目毎に適切に実施している。オフィスアワーをきめ細かく設定し、自主的に学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備し、機能している。

留学生には、入学当初から学習や生活に必要な助言や指導を行う体制を取っている。4年次編入学生には、編入前に数学等の事前学習の指導を行っている。したがって、留学生及び編入学生に対し、学習支援体制が適切に整備され、機能している。

規程どおり学生会が組織され、学生主事室の指導・助言のもと活動し、体育祭や高専祭等が学生により主体的に企画・運営されている。クラブ活動も顧問の指導のもとに活発に行われており、課外活動に対する支援体制が整備され、機能している。

クラス担任・専攻主任制度が良く機能しており、保健室や学生相談室も学生の健康管理や学生の生活上の問題に応じる態勢を整えている。経済支援として、奨学金制度、入学料や授業料の免除及び猶予制度を整備しており、学生の生活や経済面の指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能している。進路指導が学校として統一的に行われており、進路指導委員会を中心に各学科では、科主任を中心に進路指導を行う体制が整備され、機能している。

このように、本校では学習支援体制、課外活動に対する支援体制、及び生活や経済面並びに就職等に関する支援体制が整い、有効に機能している。

## 基準8 施設・設備

### (1) 観点ごとの分析

観点8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

（観点到に係る状況）

準学士課程及び専攻科課程の教育課程の実現のため各種施設（管理棟、一般科目棟、専門学科棟、実習工場、体育施設、図書館、総合情報センター、専攻科棟、総合研究棟、福利施設、合宿研修所、寄宿舍（学生寮）、共同教育研究センター、水利実験棟など）を整備している（資料8-1-①-1）。これらの教室・実験室を含む校舎・管理棟・図書館等の附属施設の面積は合計 15,491 m<sup>2</sup>であり、高等専門学校設置基準(13,719 m<sup>2</sup>)を満足しており、文部科学省の基準面積の積算値をやや上回る。これらの施設は、計画的に増設や改修を行っている（資料8-1-①-2）。学生の教育に直接関わる教室や実験室等の施設（資料8-1-①-3）の使用に関しては、施設ごとに利用規則等を定め、入学時に配布する「学生便覧」等に示している。各科共通の演習・実験室や各科に所属する実験室は、適切かつ有効に利用されている（資料8-1-①-4）。実習工場には工作機械など工業技術に係わる実験実習を行う上で十分な設備が整っており、教育に活用されている（資料8-1-①-5）。

障害のある学生や一般の来校者に対しバリアフリー化された学校を目指して努力を続けている（資料8-1-①-6）。バリアフリーとなっていない部分は身障者の来訪等に関する職員の対応についてマニュアル化（資料8-1-①-7）するとともに、解消を図るために営繕事業として予算要求または計画をしている（資料8-1-①-8）。施設は、完全とはいえないが、ハード面で整備に努力し、不足を補うソフト面の対応も十分検討、実施し、身障者の施設利用に対応している。

本校の設備のうち特筆すべきものとしては、全ホームルームと校舎内要所に設置したパソコンの画面で教員室や事務室からの学生への連絡や呼び出しができる本校教員が開発した「まほろばシステム」がある（資料8-1-①-9）。放課後の学生との面談等の連絡に活発に利用され学生とのコミュニケーションの方法としても活躍している。

## 資料 8 - 1 - ① - 1

# 施設 Facilities

## 1 土地 126,579㎡ (寄宿舍敷地、宿舍敷地を含む。)

Land (Including Dormitory and Staff Housing Area)

## 2 建物

Buildings



専攻科棟 Building of advanced Course

校舎 School Buildings				
名称	名称	構造	延面積	備考
	Name	Structure	Building Area	Notes
管理棟及び一般科目棟	General Education & Administration Office Building	RC3・RC2	4,759㎡	
サークル室	Extracurricular Activities House	S1	159	
電気・機械実験棟	Electrical & Mechanical Engineering Depts. Building	RC3	2,875	
工場	Training Shops	RC1	1,000	鍛造・鋳造・流体
都市システム実験棟	Civil Engineering Dept. Building	RC3	1,672	
武道場	Judo & Kendo Hall	S1	333	
体育館	Gymnasiums	S1	1,974	第1・第2
図書館	Library Complex	RC2	1,603	
プール付属屋	Swimming Pool Annex	B1	74	プール便所含む
体育器具庫	Grounds Annex	B1	181	運動場器具庫 第1体育館器具庫
合宿研修施設	Lodging House for Trainees	RC1	200	
総合情報センター	Computer Center	RC1	300	
制御情報実験棟	Computer and Control Engineering Dept. Building	RC3	2,100	
福利施設	Welfare Facility Building	RC2	682	
共同教育研究センター	Joint Education & Research Center	RC1	304	
車庫・倉庫ほか	Garage & Warehouse	RC1・B1・S1	1,007	
職員会館	Staff Hall	W1	127	
水理実験棟	Laboratory for Hydraulics	R1	192	
総合研究棟	Comprehensive Reserch Building	RC4	1,530	
専攻科棟	Building of advanced Course	RC4	952	
校舎計	Total		22,024	

寄宿舍及び職員宿舎 Dormitories & Staff Housing				
名称	名称	構造	延面積	備考
	Name	Structure	Building Area	Notes
低学年寄宿舍	Dormitories for Lower Grades	RC3	2,470㎡	女子寮・2寮
高学年寄宿舍	Dormitories for Upper Grades	RC3・RC4	2,892	3・4・5寮
食堂・厨房・浴室	Dining Room & Bathhouse	RC1	639	
ボイラー室	Boiler House	RC1	62	
寄宿舍管理棟	Dormitory Administration Office Building	RC1	213	
第一洗濯場	1 st Laundry House	B1	20	
第二洗濯場	2 nd Laundry House	B1	20	
倉庫ほか	Warehouse	S1	64	補食室含む
寄宿舍計	Total		6,380	
職員宿舎	Staff Housing		555	上野ヶ丘 含む 9戸

(注) 構造 鉄筋コンクリート造 (RC) 鉄骨造 (S) コンクリートブロック・その他造 (B) 木造 (W) 1、2、3は階  
Structure Reinforced Concrete (RC) Steel Frame (S) Concrete Block etc. (B) Wooden (W) 1, 2 or 3 means Number of Floors

(出典：学校要覧)

## 資料8-1-①-2

## 大分高専のあゆみ

昭和38年	4月	1日	大分工業高等専門学校〔機械工学科（2学級）・電気工学科〕を設置、初代校長に九州大学工学部教授工学博士「松尾春雄」を任命
昭和38年	4月	1日	大分市鶴崎、県立鶴崎高等学校校舎の1棟を仮校舎とし、大分市長浜町旧大分商業高等学校の一部を改修し仮寄宿舍として開校
昭和39年	3月	25日	校舎（管理棟、教室）及び寄宿舍の第1期工事竣工
昭和39年	4月	10日	仮校舎から新校舎に移転
昭和39年	4月	12日	仮寄宿舍から新寮に2年生入寮
昭和40年	3月	17日	実験棟、合併講義室、工場及び寄宿舍の第2期工事竣工
昭和41年	3月	15日	実験棟、工場、体育館、寄宿舍（高学年用）等の第3期工事竣工
昭和41年	4月	1日	事務部に庶務課及び会計課の2課を新設
昭和41年	10月	15日	水泳プール（25M・7コース）工事竣工
昭和41年	11月	8日	校舎竣工記念式典を体育館において挙行
昭和42年	4月	1日	土木工学科が増設
昭和42年	12月	18日	武道場工事竣工
昭和43年	3月	25日	一般科目棟、土木工学科棟、水理実験室、寄宿舍食堂厨房工事竣工
昭和47年	2月	27日	図書館工事竣工
昭和48年	3月	15日	機械実験棟工事竣工
昭和48年	4月	1日	事務部に学生課を新設
昭和48年	10月	26日	創立10周年記念式典を体育館において挙行
昭和49年	3月	31日	合宿研修所工事竣工
昭和49年	4月	1日	第2代校長に九州大学工学部教授工学博士「篠原謹爾」を任命
昭和50年	3月	25日	電子計算機室工事竣工
昭和55年	3月	15日	新機械実験棟工事竣工
昭和55年	4月	3日	第3代校長に前九州大学工学部教授工学博士「平野富士夫」を任命
昭和56年	3月	25日	第2体育館工事竣工
昭和57年	5月	31日	福利厚生施設工事竣工
昭和58年	1月	20日	共同教育研究センター工事竣工
昭和58年	11月	4日	創立20周年記念式典を第2体育館において挙行
昭和61年	4月	2日	第4代校長に前九州大学工学部教授工学博士「佐治泰次」を任命
平成元年	4月	1日	機械工学科（2学級）を機械工学科（1学級）及び制御情報工学科（1学級）に改組
平成3年	4月	2日	第5代校長に前九州大学工学部教授工学博士「松田 昂」を任命
平成4年	3月	1日	制御情報実験棟工事竣工
平成5年	11月	5日	創立30周年記念式典を第2体育館において挙行
平成6年	2月	25日	第5寮新設工事竣工
平成8年	4月	2日	第6代校長に前九州大学大学院総合理工学研究科教授工学博士「神田幸則」を任命
平成11年	1月	20日	創立35周年記念講演会挙行
平成11年	4月	5日	女子寮新設工事竣工
平成12年	3月	27日	第1体育館改修工事竣工
平成13年	3月	21日	一般科目棟等改修工事竣工
平成13年	4月	1日	第7代校長に前九州大学大学院総合理工学研究科教授工学博士「沖 憲典」を任命
平成13年	4月	1日	電気工学科（1学級）を電気電子工学科（1学級）に改組
平成15年	3月	10日	総合研究棟新設工事竣工、電気・機械実験棟改修工事
平成15年	4月	1日	専攻科（機械・環境システム工学専攻・電気電子情報工学専攻）設置
平成15年	10月	30日	創立40周年・専攻科設置記念式典を第1体育館において挙行
平成16年	3月	1日	土木実験棟、制御情報実験棟改修工事竣工
平成16年	4月	1日	独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する大分工業高等専門学校となる
平成16年	4月	1日	土木工学科（1学級）を都市システム工学科（1学級）に名称変更
平成17年	3月	4日	専攻科棟新設工事竣工
平成18年	4月	1日	第8代校長に前九州大学大学院工学部研究院長（工学府長・工学部長）工学博士「大城桂作」を任命

(出典：Webページ)

## 資料 8 - 1 - ① - 3

施設種別	摘 要	部屋数	面積	備 考	
一 般 教 室	1 - 3 学 年	12	960		
	4 - 5 学 年	8	680		
	専 攻 科	4	218		
共 同 利 用 教 室	合 併 講 義 室 等	3	482		
	理 科 関 係	1	189		
	物 理	1	189		
	応 用 物 理	1	58		
総 合 情 報 セ ン タ ー	演 習 室	2	165		
	そ の 他		135		
図 書 館	閲 覧 室	1	210		
	書 庫	1	328		
	視 聴 覚 教 室	1	165		
	L L 教 室	1	138	語学	
	選 択 科 目 教 室	2	140		
	そ の 他		622		
実 習 工 場	機 械 工 場	1	350		
	流 体 熱 機 関 工 場	2	350		
	そ の 他		100		
研 究 室	一 般 科 目 関 係	18	363		
	機 械 工 学 科	11	223		
	電 気 電 子 工 学 科	11	223		
	制 御 情 報 工 学 科	10	200		
	都 市 シ ス テ ム 工 学 科	10	200		
学 科 付 き 実 験 室	機 械 工 学 科	8	482		
	電 気 電 子 工 学 科	10	536		
	制 御 情 報 工 学 科	4	359		
	都 市 シ ス テ ム 工 学 科	8	661		
共 同 利 用 実 験 室		23	2,033		
体 育 関 連 施 設	第 1 体 育 館	1 棟	1,094		
	第 2 体 育 館	1 棟	880		
	武 道 場	1 棟	333		
	そ の 他		297		
共 用 ス ペ ー ス	コ モ ン ・ 卒 研 ス ペ ー ス	6	951		
	リ フ レ ッ シ ュ ス ペ ー ス	4	225		
	共 用 ゼ ミ 室 等	7	333		
福 利 厚 生 設 備	学 寮	5 棟	5,362		
		食 堂 浴 場 棟	1 棟	639	
		管 理 棟	1 棟	213	
		そ の 他		166	
	明 芳 会 館	食 堂	1	135	
		保 健 室	1	60	
		そ の 他		487	
	合 宿 研 修 所	研 修 室	2	128	
	そ の 他		72		

(出典：総務課資料 教室実験室等一覧)



資料 8 - 1 - ① - 4

建物名称	階	室名(台帳)	実際の室名	使用者	使用用途	使用人数	定員	使用時間	使用時間帯	使用頻度	室の稼働率%	備品占有面積(m <sup>2</sup> )	老朽化	狭隘化	新たな室・設備の有無
制御情報実験棟	1	生命科学情報実験室	プラズマ応用実験室	教員、本科生、専攻科生、その他	実験・実習室	10	10	6-8	8:30~22:00	1.4	60	14.65	支障なし	支障なし	共同分析室を希望
		創造工作・新素材実験室	創造工作・新素材実験室	教員、本科生、専攻科生、	実験室	14	15	8-10	8:30~18:00	年間	60	33.76	雨漏り(台風時)	支障なし	無
		小ゼミ室	小ゼミ室	技術職員	技術職員の居室として使用	3		8-10	8:30~19:00	年間	100	8.42	支障なし	支障なし	無
		生産システム実験室	生産システム実験室	教員、本科生、技術職員	実験・実習室、一部技術職員の居室	6		2-4	12:50~19:30	年間	35 機器100	26.4	支障なし	支障なし	無
		情報データ解析実験室	情報データ解析実験室	教員、本科生、技術職員	実験・実習室	19		2-4	8:50~19:00	年間			支障なし	支障なし	無
		情報デバイス実験室	情報デバイス実験室	教員、本科生、専攻科生、	実験・実習室	6	8	10-24	8:30~20:30	年間	100	20	支障なし	支障なし	無
		情報実験室	光工学実験室	教員、本科生、専攻科生、技術職員、その他	実験・実習室	60		4-6	8:50~17:00	3	70	16.3	支障なし	支障なし	
		計測解析ブース	計測解析ブース	本科生、技術職員	実験・実習室、技術職員の居室	3		6-8	8:30~17:00	年間	80	5.1	支障なし	やむを得ず技術職員の居室になった	無
	共用実験室	共用実験室	教員、本科生、専攻科生、	実験・実習室	6		4-6	12:50~18:00	年間	50	15.1	支障なし	計測解析ブースの間仕切りをなくし広くしたい	無	
	2	情報電子実験室	情報電子実験室	教員、本科生、技術職員	実験・実習室	130		8-10	12:50~16:00	年間	40	31.11	支障なし	スペースが狭いが来年度は解消できる	
		情報システム実験室	情報システム実験室	教員、本科生、技術職員	実験・実習室	134		4-6	8:50~16:00	年間	50	25.58	支障なし	支障なし	
		共用自習室	情報磁気応用実験室	教員、本科生、専攻科生、	実験・実習室	9	10	10-24	7:50~19:00	年間	80	15.31	支障なし	支障なし	無
		コモン卒研スペース		1.3	演習室	46	46	6	8:00~22:00	年間	50	10	支障なし	支障なし	無
		情報制御実験室	情報制御実験室	教員、本科生、技術職員	実験・実習室	17		4-6	12:50~18:00	年間	40	21.6	支障なし	狭い	無
		医療熱工学実験棟	伝熱実験室	教員、本科生、専攻科生、	実験・実習室	6	5	24時間	13:00~20:00	年間	50	13	天井換気口より粉塵が飛散(応急処置済)	支障なし	専攻科生の学習スペース
		細胞培養遺伝子組み換え実験室	可視化実験室	教員、本科生、専攻科生、	実験・実習室	6	5	24時間	13:00~20:00	年間	50	7.1	支障なし	支障なし	同上
	3	4S	4S	1.3	ホームルーム	58	40	4	8:30~19:00	年間	70	2	支障なし	定員以上の人数が使用	2
		5S	5S	1.3	ホームルーム	35		2	8:40~16:00	年間	50	0	支障なし	支障なし	リフレッシュスペースに学生が自由に使えるパソコンを希望
		共用ゼミ室	共用ゼミ室	教員、技術職員、事務職員	ゼミ・演習室	14		6-8	10:30~18:30	年間	60	13.52	支障なし	支障なし	無
		コモン卒研スペース		1.3	演習室	46	46	6	8:00~22:00	年間	50	10	支障なし	支障なし	無
		リフレッシュスペース	リフレッシュスペース	3	その他	78		1	12:00~16:30	年間	5	9.84	支障なし	支障なし	無

(出典：総務課資料 実験室等の稼働状況(制御情報工学科分のみを抜粋))

資料 8-1-①-5

設備機械名	設置台数	実験・実習				実験実習以外の年間使用延べ人数 (名)				
		クラス	テーマ等	1週当りの使用		卒業研究		専攻科	ロボコン	教職員
				学科	使用者	学科	使用者数			
旋盤	1 3	1M	段付き棒加工	4	10	M	62	125	210	56
		2M	ネジ・テーパ加工	4	10	S	4			
		3M	スターリングエンジン製	4	7	E	2			
立てフライス盤	3	1M	手仕上げ (ブロック加	4	10	M	82	109	660	132
	3M	スターリングエンジン製	4	7	S	23				
複合フライス盤	1	3M	スターリングエンジン製	4		E	27			
横フライス盤	2	3M	スターリングエンジン製	4						
ホブ盤	1	2M	歯車加工	4	5					8
円筒研削盤	1									
NC旋盤	1	3M	段付き棒加工	4	7	M	27		4	28
CNCボール盤	1	2M		4	5	M	11		43	22
NC平面研削盤	1									13
直立ボール盤	1	1M	手仕上げ (ブロック加	2	3					15
交流アーク溶接機	3									18
プラズマ切断機	1	2M	鉄板突合せ溶接	2	5					9
アセチレンガス溶接	2									10
MIG溶接機	1									8
TIG溶接機	1									17
(その他)		1M	ルアー製作			M	24	83	394	320
バンドソー、鋸盤、グ ライNDER、卓上ボー ル盤、電動工具		2S	ミニミニロボット製作			E	18			
						S	16			
						C	14			

(出典：技術センター資料 実習工場稼働状況)

資料 8-1-①-6

建物名称	階数	出入口スロープ	自動ドア 又は引き戸	身障者便所	エレベーター	備考
一般科目棟 A	3	整備不要	整備不要	整備済み	未整備	渡り廊下にて 接続されている。 (ただし 一般科目棟は 2階まで)
管理棟・一般科目棟	2	整備済み	整備済み	整備済み	整備不要	
一般科目棟 B	2	整備不要	整備不要	整備済み	整備不要	
総合研究棟	4	整備済み	整備済み	整備済み	整備済み	
専攻科棟	4	整備不要	整備不要	整備済み	整備不要	
電気機械実験棟	3	整備済み	整備済み	整備済み	整備不要	
都市システム実験棟	3	整備済み	整備済み	整備済み	整備済み	
制御情報実験棟	3	整備済み	整備済み	整備済み	整備不要	
図書館	2	整備済み	整備済み	未整備	未整備	
福利施設	2	整備済み	未整備	未整備	未整備	
機械工場	1	整備不要	未整備	整備不要	整備不要	
鑄造・鍛造工場	1	整備不要	未整備	整備済み	整備不要	
流体・熱機関工場	1	整備不要	未整備	整備不要	整備不要	
水理実験棟	1	整備不要	未整備	未整備	整備不要	
第1体育館	1	整備済み	未整備	未整備	整備不要	
第2体育館	1	未整備	未整備	未整備	整備不要	
武道場	1	未整備	未整備	未整備	整備不要	
1寮	3	未整備	未整備	未整備	未整備	
2寮	3	未整備	未整備	未整備	未整備	
3寮	3	未整備	未整備	未整備	未整備	
4寮	3	未整備	未整備	未整備	未整備	
5寮	4	未整備	未整備	未整備	未整備	
寮管理棟	1	未整備	未整備	未整備	整備不要	
寮食堂・厨房・浴場	1	整備不要	未整備	未整備	整備不要	
合宿研修所	1	未整備	未整備	未整備	整備不要	
総合情報センター	1	未整備	未整備	未整備	整備不要	

(出典：総務課資料 バリアフリーの整備状況)

資料 8-1-①-7

未バリアフリー化施設に関するソフト面での対応マニュアル

<基本方針>

次の未バリアフリー化施設の利用に際しては、当面、以下のとおり取扱うこととする。

【未バリアフリー化施設】

- (1) 図書館 (1F:図書室 2F:LL教室、視聴覚教室、選択科目教室(2室)、和室)
- (2) 第2体育館
- (3) 一般科目棟 (3F:教員室(10室))
- (4) 明芳会館 (1F:保健室、売店、食堂 2F:学生主事室、音楽鑑賞室、学生会室、ミーティング室(2室))
- (5) 総合情報センター
- (6) 合宿研修所

1. 本学学生

障害を持つ学生が入学した場合、バリアフリー化が完成するまでは、基本的にクラスメートに介助を依頼する。

授業計画の作成においては、対象施設を可能な限り使用しないように時間割を立案する。

2. 本学事業への参加者

学内で実施する授業や公開講座等については、対象施設を可能な限り使用しない計画を立案することとし、やむを得ず使用する場合は、教職員による障害者介助を含めて計画する。

3. 一般来校者

来校する障害者への基本的対応は各課職員があたり、用務に応じて教職員への連絡や介助者の手配し、多目的室での面談とする。

また、各教職員は来校した障害者に対しては親身に対応すると共に用務先まで案内する。

<施設ごとの対応>

(1) 図書館

・図書館利用を含む来館者へは、玄関にインターホンを設置するまでの間、庶務課に申出るよう案内する。

・直接の来館者は、図書館職員が対応にあたり必要に応じて庶務課職員の応援を依頼する。

障害者が参加する可能性のある授業や本校開催行事等を、図書館2階(LL教室、視聴覚教室、選択科目教室)で計画する場合は、障害者の介助策を含めて計画する。

(2) 第2体育館

障害者が参加する可能性のある授業や本校開催行事等は、可能な限りバリアフリー化された第1体育館で開催することとし、やむを得ず第2体育館を使用する際は、障害者の介助策を含めて計画する。

(3) 一般科目棟 (3階教員室)

基本的な来校者への対応は、庶務課又は学生課で受付し該当教員に連絡をとり、多目的室で面談する。

(4) 明芳会館

明芳会館への来館者は、学生課又は庶務課に案内する。

(5) 総合情報センター

障害者が参加する可能性のある本校開催行事等を計画する場合は、障害者の介助策を含めて計画する。

(5) 合宿研修所

当面、一般外来者対象の行事等は計画しない。

(出典：施設整備計画委員会資料)

資料 8-1-①-8

大分高専バリアフリー整備計画 4 (営繕事業にて要求中)

優先順位	計画工事箇所	計画工事概要	概算金額	備考
1	第2体育館	・屋外スロープ設置 13m 100角ノンスリップタイル張り ステンレス手摺取付け ・スチール開き戸→アルミ自動ドア交換 (一ヶ所)		※避難所の代替施設として登録されている
2	福利施設	・屋内スロープ設置 2m 100角ノンスリップタイル張り ・スチール開き戸→アルミ自動ドア交換 (一ヶ所)		

3	第1体育館	・スチール開き戸→アルミ自動ドア交換（一ヶ所）		※避難所の代替施設として登録されている ※スロープは改修済み
4	総合情報センター	・屋外スロープ設置 7m 100角ノンスリップタイル張り ・屋内スロープ設置 2m 100角ノンスリップタイル張り ・スチール開き戸→アルミ自動ドア交換（一ヶ所）		
5	合宿研修所	・屋外スロープ設置 9m 100角ノンスリップタイル張り ステンレス手摺取付け ・スチール開き戸→アルミ自動ドア交換（一ヶ所）		
合 計				

今後予算要求を計画しているもの（身障者の入学等又は大規模改修時に計画）

計画工事箇所	計画工事概要	概算金額	備 考
一般科目 A 棟	・2F～3F 階段昇降機（車いす用取付）		
図書館	・エレベーター設置（2階建） ・エレベーター昇降路（S造増築）		
福利施設	・エレベーター設置（2階建） ・エレベーター昇降路（S造増築）		
その他の付属施設	・出入口スロープ及びドア改修 ・身障者用便所		身障者の入学時等、 必要箇所を改修
学寮関連	・出入口スロープ及びドア改修 ・身障者用便所		身障者の入学時等、 必要箇所を改修

（出典：総務課資料）

資料 8 - 1 - ① - 9



（出典：撮影映像 「まほろばシステム」）

（分析結果とその根拠理由）

本校施設・設備は、準学士課程で編成されたカリキュラムを遂行するにあたり高等専門学校設置基準を満たしており、学生数に見合っている。教室、図書館、総合情報センター、本校校舎の各所に設けられたコモン・卒研スペースやリフレッシュスペースは、卒業研究や授業以外の自学自習を支える大切な設備であり、学生の勉学に効果的な環境を提供している。2つの体育館や運動場、武道場などの体育施設は、体育系の授業以外にも課外活動等に活用され健康な心身を育成する環境を提供している。また、専攻科棟や総合研究棟は、技術者教育だけでなく研究環境も提供している。学生が施設を利用するに当たっては、それぞれの施設ごとに利用規程を定め学生便覧で周知している。さらに、本校オリジナルの電子掲示板システム「まほろばシステム」も稼動しており、本校の教育課程の実現にふさわしい施設設備が整備され、安全にかつ有効に活用されている。

**観点 8-1-②： 教育内容、方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。**

(観点に係る状況)

総合情報センターには、校内情報ネットワークを構成する基幹装置群のほかパソコンを備えた2つの演習室があり(資料8-1-②-1, 2)、情報処理教育、卒業研究、教員や専攻科生の研究、クラブ活動、事務処理及び事務連絡等に活用している。規則に則り情報ネットワークの管理や効果的運用法、将来計画等は、総合情報システム委員会で統括・計画している(資料8-1-②-3)。同センターのパソコンは、授業や演習(資料8-1-②-4)のほか午後8時までの開館を生かして有効に利用されている(資料8-1-②-5, 6)。

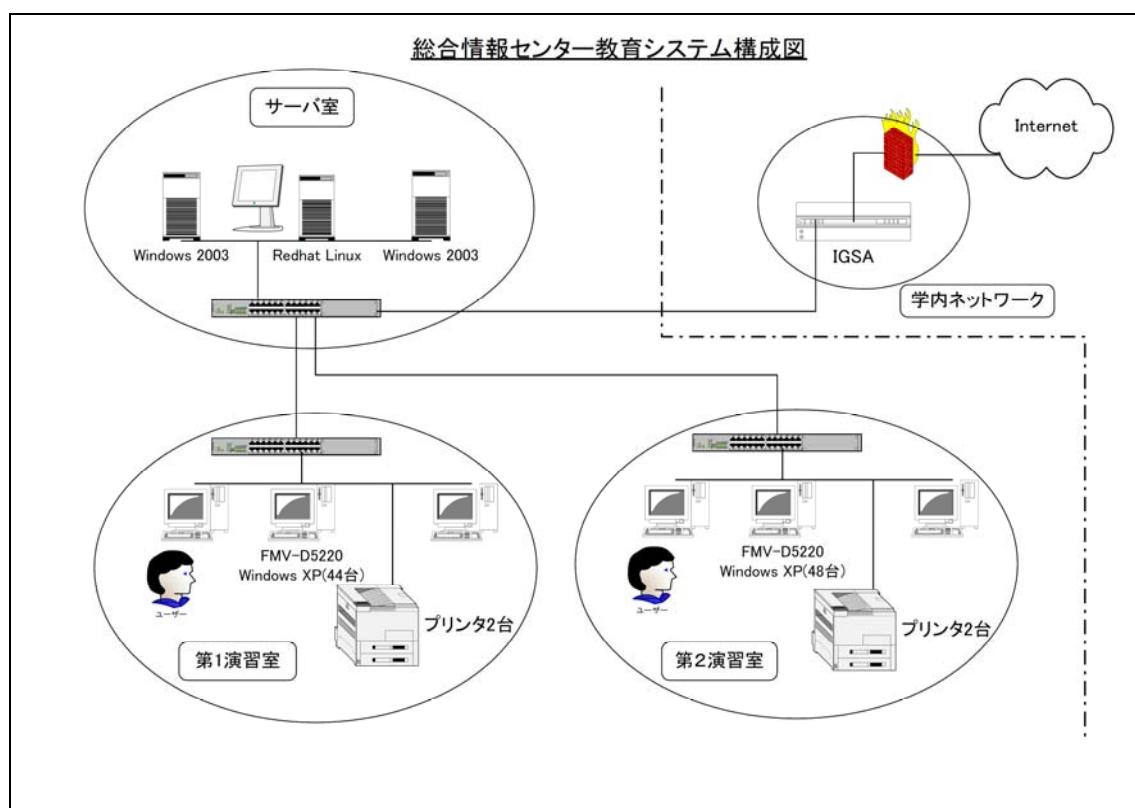
約760台のパソコンが学生の補助機器または事務用機器として有効に活用されている(資料8-1-②-7)。平成18年度末には、ネットワーク全体にコンテンツフィルタやセキュリティシステムを更新し、セキュリティ対策をより強固にするとともに、外部接続回線も強化した。学生寮では、コンテンツフィルタや時間制限を行い、教育利用の範囲を超えないよう配慮し健全に利用できる環境を整えている。学内LANのセキュリティポリシーは総合情報システム委員会で議論し制定している(資料8-1-②-8)。各学科でも授業の中で学生の情報セキュリティへの意識の向上を図っている(資料8-1-②-9)。学生主事室や寮務主事室でも、インターネットの適切な利用に関し外部の専門家を招いた講演会等を行い、情報活用の啓発活動も積極的に行っている。(資料8-1-②-10)。

資料8-1-②-1

現地閲覧資料を参照

(出典：総合情報センター資料 学内高速ネットワーク構成概略図)

資料 8-1-②-2



(出典：総合情報センター資料 総合情報センターハードウェアの組織図)

資料 8-1-②-3

### 大分工業高等専門学校総合情報センター規則

制 定 平成 16 年 4 月 1 日  
最終改正 平成 19 年 2 月 16 日

(設置)

**第 1 条** 大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、情報処理教育、コンピュータ支援教育及び情報処理関連の研究に供するとともに、情報ネットワークの構築・運用及び事務処理等の充実を図ることを目的に、本校総合情報センター（以下「センター」という。）を置く。

(業務)

**第 2 条** センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 情報処理教育及びコンピュータ支援教育に関すること。
- 二 情報処理に関する研究、開発及び調査に関すること。
- 三 情報ネットワークに関すること。
- 四 コンピュータシステム等の運用、保全及びその整備充実に関すること。
- 五 その他センターに関すること。

(組織等)

**第 3 条** センターの業務を処理するため、センター長、センター長補佐及び必要なセンター員を置

- く。
- 2 センター長及びセンター長補佐は、校長が任命する。
  - 3 センター長は、センターを管理し、その業務を掌理する。
  - 4 センター長補佐は、センター長の職務を補佐する。
  - 5 センター長は、センターの業務に従事する。

(運営委員会)

**第4条** センターの管理及び運営に関する必要事項は、総合情報システム委員会において審議するものとする。

(センターの利用)

**第5条** センターの利用に関し、必要な事項は別に定める。

**附 則**

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

**附 則**

この規則は、平成19年2月16日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料8-1-②-4

平成18年度 情報センター演習室の時間割

■前期

	機 械	室名	電気電子	室名	制御情報	室名	都市システム	室名
1 学年			情報処理(3)	第2	工学実験基礎(1.5) 情報リテラシー(3)	第1 第2	情報処理(3)	第2
2 学年	情報処理Ⅰ(1.5) 機械実習(3)	第2 第1	プログラミング(1.5)	第2	情報処理Ⅱ(3)	第2	情報処理(1.5) 情報処理演習(3)	第2 第1
3 学年	情報処理Ⅱ(1.5)	第2	アルゴリズム(1.5)	第1	情報処理Ⅳ(1.5)	第2		
4 学年	設計製図Ⅰ(3) 情報工学(1.5)	第1 第2			アルゴリズム(1.5)	第2	情報処理(3)	第1
5 学年	設計製図Ⅲ(3)							

■後期

	機 械	室名	電気電子	室名	制御情報	室名	都市システム	室名
1 学年					工学実験基礎(1.5) プログラミング基礎Ⅰ(3)	第1 第2	情報処理(3)	第2
2 学年	情報処理Ⅰ(1.5) 機械実習(3)	第2 第1	プログラミング(1.5)	第2			情報処理(1.5) 情報処理演習(3)	第2 第1
3 学年					情報処理Ⅳ(1.5) 回路演習Ⅱ(3)	第2 第2		
4 学年	設計製図Ⅱ(3)	第2			アルゴリズム(1.5)	第2		
5 学年			システム工学(1.5)	第1			設計製図(3)	第2

(出典：総合情報センター資料 平成18年度時間割)

## 資料 8-1-②-5

## 平成 18 年度 4 月～12 月までの時間外（17：00～20：00）利用者数

	利用者数（人）																		月間 合計	開館 日数
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月		
4月	3	4	8																15	3
5月	21	6	1	4	7	6	7	1	3	9	1	3	10	18	30	30	33		190	17
6月	20	10	6	4	4	17	10	2	3	3	3	9	7	10	7				115	15
7月	20	30	20	25	8	20	20	14	5	10	10	6	18	4					210	14
9月	6	25	40	25	26	20	3	4	3	2	2								156	11
10月	7	7	4	10	4	20	3	2	4	2	16	6	2	2	14				103	15
11月	8	6	15	20	3	3	2	11	10	10	5	6	15	6	20	20	9	6	175	18
12月	1	5	3	1	3	3	5	10	20	10									61	10
4月～12月の合計																		1025	103	

人数は業務日誌より。ただし16時から17時の利用者数は把握していない。

## 平成 18 年度 情報センター演習室の週間利用時間

単位：時間

	機 械	電気電子	制御情報	都市システム	学年合計
1 学年		3	4.5	3	10.5
			4.5	1.5	6.0
2 学年	4.5	1.5	3	4.5	13.5
	4.5	1.5		4.5	10.5
3 学年	1.5	1.5	1.5		4.5
			4.5		4.5
4 学年	4.5		1.5	3	9.0
	3		1.5		4.5
5 学年	3				3.0
		1.5		3	4.5
学科合計	21.0	9.0	21.0	19.5	70.5

上段：前期時間数  
下段：後期時間数

(出典：総合情報センター資料)

## 資料 8-1-②-6

## 大分工業高等専門学校総合情報センター利用内規

制 定 平成 16 年 4 月 1 日  
最終改正 平成 19 年 2 月 16 日

(目的)

**第 1 条** この内規は、大分工業高等専門学校総合情報センター規則第 5 条の規定に基づき、大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）の総合情報センター（以下「センター」という。）の利用について、必要な事項を定める。

(利用者の範囲)

**第 2 条** センターを利用できる者は、次の各号に掲げる者とする。

- 一 本校の教職員
- 二 本校の学生
- 三 その他校長が許可した者



(利用の手続)

**第3条** 前条第三号に規定する者は、本校の教職員があらかじめ所定の様式により申請し、校長の承認を得なければならない。

(利用の制限)

**第4条** 次の各号の一に該当するものは、利用を認めないものとする。

- 一 センターの業務に該当しないもの
- 二 その他センター長が利用を不相当と認めたもの

(利用時間)

**第5条** センターの利用時間は、別に定める。

2 前項の利用時間以外に利用しようとするときは、あらかじめセンター長の許可を得なければならない。ただし、学生が使用する場合は、教員の指導のもとで使用しなければならない。

(利用の手引き)

**第6条** 利用者は、この内規に定めるもののほか別に定める「センター利用の手引き」に従わなければならない。

(利用の取消、停止)

**第7条** 利用者がこの内規に違反して、センターの業務に支障を生じさせたとき、又は生じさせる恐れがあるときは、当該利用者に対して利用を禁止することがある。

**附 則**

この内規は、平成16年4月1日から施行する。

**附 則**

この内規は、平成19年2月16日に施行し、平成18年4月1日から適用する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料8-1-②-7

### 大分工業高等専門学校コンピュータ保有数表

平成18年8月31日現在

部 署	PC台数	備 考
庶務課	49	校長、事務部長、図書館を含む。
会計課	19	
学生課	32	寮を含む。
技術センター	20	
総合情報センター	107	
一般科目文系	16	
一般科目理系	31	基礎専門を含む。
機械工学科	94	
電気電子工学科	155	
制御情報工学科	169	
都市システム工学科	42	未提出あり
専攻科	4	
電子掲示板	25	
合計	763	

(出典：総合情報センター資料)

## 大分工業高等専門学校情報セキュリティポリシー基本方針

制 定 平成 18 年 9 月 11 日

## 1 目的

大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）が高度情報社会において学術研究・教育活動をより一層推進するためには、情報基盤の整備に加え情報資産を重要な資産として保護・管理することが必要である。このため、本校は、情報セキュリティの確保を図り、情報資産に対する適切な安全対策を実施するために情報セキュリティポリシー（以下「ポリシー」という。）を定め、以下の方針に基づき本校の全構成員（常勤職員、非常勤職員及び学生を含む。以下同じ。）による全校的な取り組みを展開していくこととする。

- (1) 情報セキュリティに対する内外の侵害を阻止する。
- (2) 情報セキュリティを損ねる加害行為を抑止する。
- (3) 情報資産の管理を行う。

## 2 用語の定義

ポリシーにおいて使用する用語の定義は、以下のとおりとする。

## (1) 情報システム

ネットワーク機器，コンピュータ機器，基本ソフトウェア，応用ソフトウェア，システム設定情報，記録媒体，システム構成図などの総称とする。

## (2) 情報資産

電子的に記録及び通信される情報，情報を利用・管理する仕組み（情報システム等）の総称とする。

## (3) 情報セキュリティ

情報資産の機密性，完全性及び可用性を維持することをいう。

- ① 機密性とは，権限のある者にもみ情報資産が利用可能であることをいう。
- ② 完全性とは，情報資産が正確かつ過不足のない状態にあることをいう。
- ③ 可用性とは，必要なときは常に情報資産を利用できることをいう。

## 3 ポリシーの構成

ポリシーは，以下の3つの階層により構成する。

## (1) 情報セキュリティポリシー基本方針（以下「基本方針」という。）

本校の情報セキュリティに対する基本的な考え方と方針を示すものである。

## (2) 情報セキュリティポリシー対策基準（以下「対策基準」という。）

基本方針に基づき，遵守事項など情報セキュリティ対策に関する全校的な基準を示すものである。全構成員（学生を除く。）に対して提示し，周知するものとする。

## (3) 情報セキュリティ実施手順（以下「実施手順」という。）

情報セキュリティ対策を実施していくための具体的な手順を示すものである。対策基準に反しない範囲で情報資産の管理を行うそれぞれの部局ごとに実施手順を定めることができる。関係者以外の者には，原則として非公開とする。

## 4 ポリシーの運営体制

ポリシーの運営のために，以下の組織・体制を設ける。

- (1) 本校の情報セキュリティに関する最高責任者は，校長とする。
- (2) 学校運営委員会において，ポリシーに関する重要事項の審議及び決定を行う。
- (3) ポリシーの運用，評価，監査等の具体的な事項については，総合情報システム委員会（以下「委員会」という。）が審議し，実施に対する措置を行うこととする。

## 5 ポリシーの対象と責務

ポリシーは，本校の全ての情報資産を対象とし，本校の全構成員，来校者などこれらの情報資産を扱う全ての者（以下「利用者」という。）に対して適用される。

利用者は，以下の基本原則を遵守しなければならない。

- (1) 利用者は，研究，教育及び事業など本校の目的に沿って情報システムを利用しなければならない。
- (2) 利用者は，本校の情報資産のセキュリティ確保の必要性を認識し，それぞれの立場に応じたセキュリティ確保の責任を担う。
- (3) 利用者は，校内の規則等に定めるもののほか，各種の法令及び社会的慣例についても遵守しな

ければならない。

6 情報システムの管理

本校すべての情報システムについては、管理者を設ける。管理者は、当該情報システムの情報セキュリティに関する責務を有する。

7 ポリシーの研修、教育

ポリシーの周知徹底を図るために、全構成員（学生を除く。）向けの研修や、学生向けのオリエンテーション等を実施することとする。利用者は積極的にこれらに参加するように努めなければならない。

8 ポリシーの監査

委員会は、ポリシーの遵守について検証するため、必要に応じてポリシーに関連する監査（以下「セキュリティ監査」という。）を実施できるものとする。利用者はセキュリティ監査に協力する責務を有する。

9 ポリシーの評価と更新

委員会は、ポリシーの運用実態等を調査し、これに基づいたポリシーの評価を行うこととする。また、この評価結果に基づき、ポリシーの更新について審議する。

10 罰則

利用者が故意又は過失によりポリシー等に違反したときは、校内の規則等に基づき措置されることがある。

附 則

この基準は、平成 18 年 9 月 11 日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料 8-1-②-9

情報セキュリティに関する授業での教授状況

学年	学科名	科目名	シラバスの該当ページ
1	電気電子	情報処理	162
1	制御情報	情報リテラシー	215
1	都市システム	実験実習	270
3	制御情報	情報特論 I	230
5	電気電子	ネットワークアーキテクチャ	208
5	制御情報	情報特論 III	267

(注) 各科目は 40 名定員で実施しています。

(出典：総合情報センター資料)

資料 8-1-②-10

情報に関する講習会等の実施状況

実施日	学年	学科名	講習会名	備考
2006.07.20	寮生		インターネットの光と影-被害者・加害者とならないために-	放課後
2006.11.22	1	機 械	情報モラル	特活
〃	1	制御情報	〃	〃
〃	1	都市システム	〃	〃
2006.11.29	2	全学科	情報モラル	〃
2007.2.6	1	電気電子	著作権	〃

(出典：総合情報センター資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の情報処理教育並びに情報ネットワークは、総合情報センターが中心になって整備、運用している。また、これらを有機的に機能させるために総合情報システム委員会が組織され本校の情報に関する教育全般を管理運営している。総合情報システム委員会の管理下にある本校の情報ネットワークや情報システムは、情報セキュリティ等に十分配慮、対策され教育に有効に活用されている。

観点8-2-①： 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館の運営や予算は、図書館運営委員会で審議し、具体的活動は、教員による図書部会と学生図書委員会で協議する。図書館の所蔵図書は、日本十進分類法により分野別に分類・整理し、配架している(資料8-2-①-1)。図書の選定は、教員から推薦をうけ図書部会が決定するとともに、学生の希望は、リクエストによるものとブックハンティングなどで取り入れており、十分な教育効果を発揮できるように行っている(資料8-2-①-2)。平成18年度は図書館改修のため貸出冊数が減少したが、日本図書館協会の統計によると、全国高専のなかで貸出冊数は平成16・17年度とも4位となっており有効に活用されているといえる(資料8-2-①-3)。

閲覧室に蔵書検索用パソコン1台と文献検索に主に使用するパソコン10台を設置し、学内LAN経由で蔵書検索やインターネットによる情報検索、レポート作成等に利用されている。また、長岡技科大と高専によるコンソーシアムに参加し、図書館ホームページから各種電子ジャーナル、データベースが利用でき、教育研究支援の強力なツールである最新の研究論文やデータ等の入手が可能となっている(資料8-2-①-4)。教員が研究目的のために独自に収集している学術雑誌についても教員室や教員室前のコモン・卒研スペース、各教員が管理する実験室に保管し学生の利用も可能になっているものもある(資料8-2-①-5)。

図書館閲覧室には新着図書、英語多読図書、技術士試験対策等特色あるコーナーを設けて利用促進を図るとともに、図書館だより(資料8-2-①-6)、推薦図書等を掲載した図書館報(資料8-2-①-7)をそれぞれ年2回発行している。

また、全教室と専門学科の多くの実験室や演習室には液晶プロジェクターとスクリーンが設置されており、学内LANを通して映像等を用いたさまざまな効果的な授業を行うことができる。

### 資料8-2-①-1

#### 分類別蔵書数

平成19年3月31日現在

区分 分類	図書(冊)			雑誌(種類)		
	和書	洋書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
総記	2,311	535	2,846	21	2	23
哲学	3,822	356	4,178	1	0	1
歴史	6,091	128	6,219	2	0	2
社会科学	5,585	168	5,753	30	0	30
自然科学	11,883	1,311	13,194	25	5	30
工学	21,868	1,813	23,681	170	16	186
産業	911	7	918	1	0	1
芸術	2,672	24	2,696	8	0	8
語学	2,964	604	3,568	4	0	4
文学	13,012	1,307	14,319	16	2	18
合計	71,119	6,253	77,372	278	25	303

(出典：図書館資料)

資料 8-2-①-2

受 入 冊 数

年度 区分	16年度	17年度	18年度
総記	11	18	64
哲学	35	39	28
歴史	55	46	50
社会科学	56	68	94
自然科学	193	195	136
工学	145	170	195
産業	9	17	13
芸術	17	10	15
語学	34	20	19
文学	124	108	121
合計	679	691	735

(出典：図書館資料)

資料 8-2-①-3

貸 出 統 計

年度 区分	16年度	17年度	18年度
総記	424	492	527
哲学	256	209	181
歴史	248	264	159
社会科学	397	440	309
自然科学	1,181	971	844
工学	2,241	2,091	1,685
産業	73	77	44
芸術	303	403	277
語学	3,053	4,489	2,562
文学	6,268	5,898	4,961
雑誌	546	381	277
合計	14,990	15,715	11,826
入館者数	29,595	35,752	28,655
開館日数	278	283	237

(出典：図書館資料)

資料 8-2-①-4

大分高専図書館 - Microsoft Internet Explorer

http://www.oita-ct.ac.jp/library/info.html

図書館

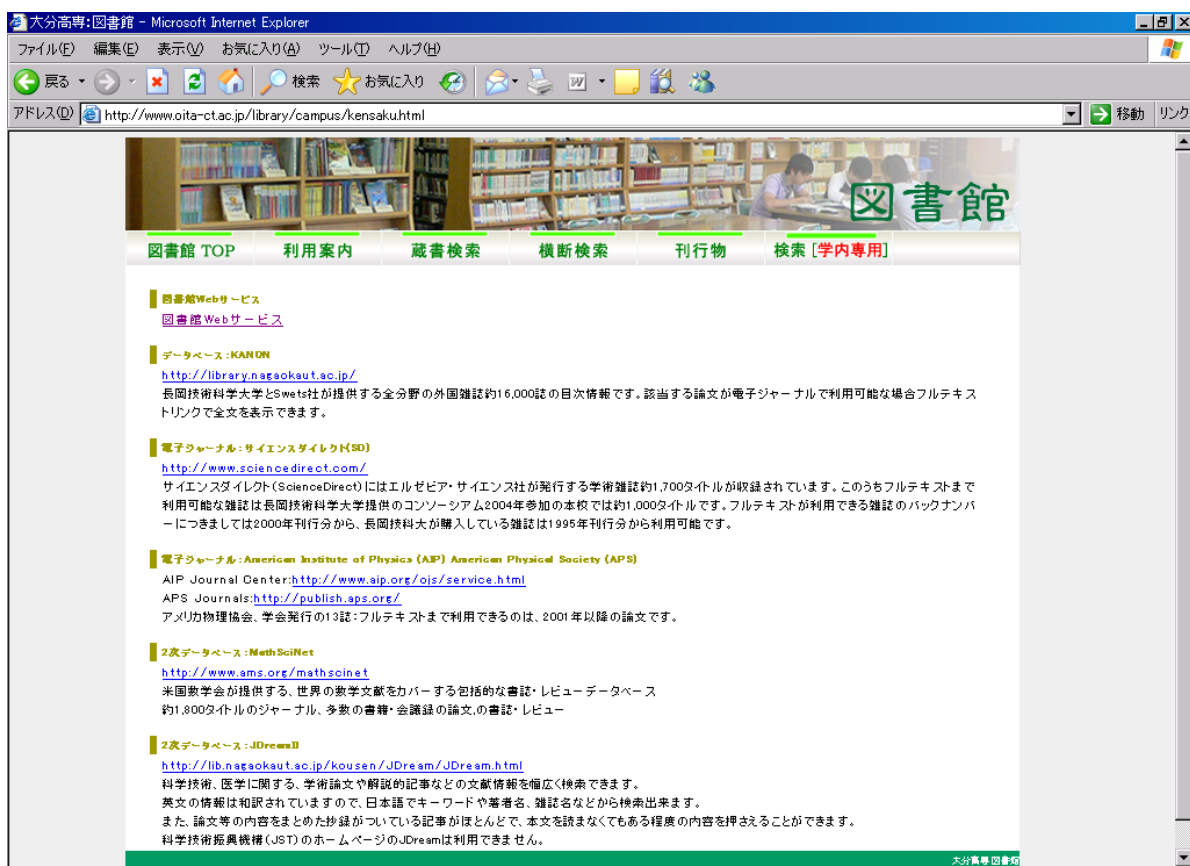
図書館 TOP 利用案内 蔵書検索 横断検索 刊行物 Webサービス 学内電子ジャーナル

**利用案内**

利用時間	平日 9:00～20:00 (9:00～17:00) 土曜日 9:00～16:00 (休館) 但し、( )は春・夏・冬期休業中の閉館時間を表します。
休館日	日曜・祝日及び開校記念日 年末年始(12月28日～1月4日) その他(館長が必要と認めた日)
貸出冊数及び貸出期間	学 生 5冊 1週間 教職員 10冊 1ヶ月 一 般 5冊 2週間
利用資格	本校の学生及び教職員 学外者で校長が認めた者

大分高専図書館では、一般の方への公開を行っております。  
技術関係の他に文学等の蔵書も充実しておりますので、学外の方も是非ご利用ください。

**利用に関するお問い合わせ先**  
大分工業高等専門学校 総務課 図書係 電話 (097)552-6084 FAX (097)552-6786



(出典：Webページ)

資料 8-2-①-5

番号	学科	学術誌名	英語名	保有年数	保管場所
1	一般	解釈 (解釈学会誌)	KAIISHAKU	1993-2006	教員室
2		日本文学風土学会紀事	Report on the Geo-Climatological Study of Literature	1995-2006	教員室
3		新アララギ(月刊短歌誌)	Shin-Araragi	1998-2006	教員室
4		日本ベンクラブ会誌	Bulletin of The Japan P.E.N. Club	2005-2006	教員室
5		環境化学	Journal of Environmental Chemistry	2000-2007	教員室
6		ISOTOPE NEWS		2002-2007	教員室
7		化学と工業	CHEMISTRY & CHEMICAL INDUSTRY	2002-2007	教員室
8		化学と教育	Chemistry & Education	2003-2007	教員室
9		工学教育	Journal of JSEE	2004-2007	教員室
10		エール (アイルランド研究)	Eire(Irish Studies)	1991-2006	教員室
11		駒沢史学	Komazawa Shigaku: Journal of Historical Studies	2004-2007	教員室
12		史学雑誌	Shigaku=Zassi	2000-2007	教員室
13		歴史と地理		2006-2007	教員室
14		メトロポリタン史学	The Metropolitan Shigaku: The Journal of Historical Studies	2005-2006	教員室
15		米国気象学会誌	Journal of Atmospheric Science	1962-2006	物理準備室
16		天気	Journal of Meteorological Society of Japan	2000-2006	教員室
17		ながれ	Journal of Japan Society of Fluid Mechanics	2000-2006	教員室
18		遊星人	Journal of Japanese Society for Planetary Sciences	2001-2006	教員室
19		天文月報		1995-2001	教員室
20	機械	トライボロジスト	Journal of Japanese Society of Tribologists,	1982-2006	教員室
21		日本機械学会誌	Journal of The Japan Society of Mechanical Engineers	2005-2006	教員室
22		日本航空宇宙学会誌	Aeronautical and Space Sciences Japan	2005-2006	教員室
23		可視化情報学会誌	Journal of the Visualization Society of Japan	2005-2006	教員室
24		日本ロボット学会誌	Journal of the Robotics Society of Japan	2001-2006	教員室
25		日本コンピュータ外科学会誌	Journal of Japan Society of Computer Aided Surgery	2001-	教員室
26		人間工学学会誌	The Japanese Journal of Ergonomics	2006-	教員室
27			materialstoday	2001-2007	教員室
28			REINFORCED plastics	2002-2004	教員室
29			日本金属学会会報(まてりあ)	Materia Japan (Bulletin of the Japan Institute of Metals)	1976-2007

30		日本金属学会誌	Journal of the Japan Institute of Metals	1976-1990	実験室、 教員室
31		日本鉄鋼協会会報(ふえらむ)	Bulletin of The Iron and Steel Institute of Japan	1996-2007	実験室、 教員室
32		鉄と鋼	Tetsu-to-Hagane	1989-2004	実験室
33			ISIJ International	1996-2000	実験室
34			Materials Science Research International	1999-2004	実験室、 教員室
35		工学教育	Journal of JSEE	2003-2006	教員室
36			Journal of electron microscopy	2005-2006	実験室、 教員室
37		顕微鏡(旧電子顕微鏡)	Microscopy (Electron Microscopy)	2003-2006	実験室、 教員室
38		日本物理学会誌	BUTSURI	2001-2006	実験室、 教員室
39		材料	Journal of The society of materials science, Japan	1979~	教員室
40		材料の科学と工学	Materials Science and Technology	2006-2007	実験室
41		日本物理学会誌	Journal of the Physical Society of Japan	2004-2006	教員室
42		電子情報通信学会誌DII	The Transactions of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers D-II	1993-2006	教員室
43		ニューラルネットワークス	Neural Networks	1993-2006	教員室
44		電気学会誌	Journal of The Institute of Electrical Engineers of Japan	2007-	教員室
45		電気学会論文誌A	IEEJ Transactions on Fundamentals and Materials	2007-	教員室
46		電気設備学会誌	Institute of Electrical Installation Engineers of Japan	2007-	教員室
47		高温学会誌		2007-	教員室
48	電気電子	応用物理学会誌	Japan Society of Applied Physics	2007-	教員室
49		プラズマ応用学会誌		2007-	教員室
50		電子情報通信学会誌	The Journal of the institute of Electronics, Information and Communication Engineers	2004-2007	教員室
51		電子情報通信学会誌論文誌A	The IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communication and Computer Sciences (Japan Edition)	2004-2007	教員室
52			Journal of the Optical Society of America A	1989-2006	教員室
53		応用物理	Oyo Buturi	1989-2006	教員室
54		光学	Japanese Journal of Optics	2005-2007	教員室
55		日本AEM学会誌	JOURNAL OF THE JAPAN SOCIETY OF APPLIED ELECTROMAGNETICS AND MECHANICS	2005-2007	実験室
56		日本応用磁気学会誌	Journal of The Magnetic Society of Japan	2005-2007	実験室
57		電気学会誌	Journal of The Institute of Electrical Engineers of Japan	2005-2007	実験室
58		電気学会論文誌A	IEEJ Transactions on Fundamentals and Materials	2005-2007	実験室
59		電気学会論文誌D	IEEJ Transactions on Industry Applications	2005-2007	実験室
60		保全学	Maintenology	2005-2007	実験室
61		非破壊検査	JOURNAL OF THE JAPANESE SOCIETY FOR NON-DESTRUCTIVE INSPECTION	2005-2007	実験室
62		電子通信情報学会誌	Journal of The Institute of Electronics, Information and Communication Engineers	2004-2007	教員室前
63		情報処理学会	Journal of Information Processing Society of Japan	2004-2007	教員室前
64	制御情報	計測と制御	Journal of the Society of Instrument and Control Engineers	2003-2006	教員室
65		計測自動制御学会論文集	Transactions of the Society of Instrument and Control Engineers	2003-2006	教員室
66		日本機械学会誌	Journal of the Japan Society of Mechanical Engineers	2004-2006	教員室
67		精密工学会誌	Journal of the Japan Society for Precision Engineering	2003-2006	教員室
68		高等専門学校の教育と研究	Journal of the Japan Association for College of Technology	1999-2006	教員室
69		日本機械学会誌	Journal of the Japan Society of Mechanical Engineering	2002-2006	教員室
70		日本高専学会誌	Journal of the Japan Association for College of Technology	2001-2006	教員室
71		電子情報通信学会論文誌A	The IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications, and Computer Science	2000-2006	教員室
72		電子情報通信学会論文誌D-II	The IEICE Transactions on Information and Systems, PT2	2000-2006	教員室
73		日本音響学会誌	The journal of The Acoustical Society of Japan	2000-2006	教員室
74		音響学会英論文誌	Acoustical Science and Technology	2000-2006	教員室
75		土木学会誌	JSCE Magazine, "Civil Engineering"	1976-2006	教員室
76		都市計画学会誌	CITY PLANNING REVIEW	1985-2006	教員室
77		計画行政	PLANNING ADMINISTRATION	1990-2006	教員室
78		道路	Road Engineering & management Review	1998-2006	教員室
79		農村計画学会誌	JOURNAL OF RURAL PLANNING ASSOCIATION	2000-2006	教員室
80		日本造園学会誌	Journal of the Japanese Institute of landscape Architecture	1997-2006	教員室
81		交通工学	Traffic Engineering	1995-2006	教員室
82		環境情報科学	Environmental Information Science	2001-2006	教員室
83		建築雑誌	LOURNAL OF ARCHITECTURE AND BUILDING SCIENCE	2000-2006	教員室
84		土と基礎	Tsuchi-to-Kiso	1984-2007	教員室
85	都市シス テム	日本地すべり学会誌	Journal of the Japan Landslide Society	1989-2007	教員室
86		橋梁と基礎	Bridge and Foundation Engineering	1988-2006	教員室
87		土木構造・材料論文集	Journal of Structures and materials in Civil Engineering	1995-2006	教員室
88		水環境学会誌	Journal of Japan Society on Water Environment	1995-2006	教員室
89		環境毒性学会誌	Japanese Journal of Environmental Toxicology	1998-2006	教員室
90			Water Research	2000-2005	教員室
91			Water Science & Technology	2001-2004	教員室
92			Journal of Water and Health	2004	教員室
93			Nature	1998-1999	教員室
94		日本建築学会構造系論文集	Journal of Structural And Construction Engineering	1997-2005	教員室
95		日本建築学会環境系論文集	Journal of Environmental Engineering	2006-2007	教員室
96		交通工学誌	Traffic Engineering	2006-2007	教員室

(出典：自己点検・評価実施委員会資料 教員保有学術雑誌一覧)





(分析結果とその根拠理由)

図書館は8万冊近くの蔵書や学術雑誌を有し、各専門分野はもとより図書の充実を図っている。新着図書コーナーなど各種コーナーを設けるなど閲覧者の利用を促進する配慮をし、全国高専の中でも有数の貸出冊数を誇っている。視聴覚機器についても十分な機器が用意されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

校内に学生や教職員が共に語り合えるリフレッシュスペースや卒研スペースを設けており、オフィスアワーの設定とあわせて学生と教員の接触が取れるよう工夫している。教室や実験室には液晶プロジェクターとスクリーンを備えており、学生の発表等自己表現能力やコミュニケーション能力の養成に力を入れている。情報ネットワークにはセキュリティ対策を施し、情報検索等に構内いたるところから教職員と学生がアクセスできる。学生には早期にインターネット利用教育をしており、その利用が情報モラルを逸脱しないための対策を行っている。図書館は、全国高専の中でも有数の利用実績と豊富な外国文献や学生の英語力向上教材が整備している。

(改善を要する点)

校内の一部にバリアフリー化されていない場所が残っている点が上げられる。また、図書館の老朽化が進んでおり、耐震強度との関係から早急な改修が望まれる。

## (3) 基準8の自己評価の概要

平成15年度末までに教室、実験・実習室、研究室などの各校舎や体育館の改修が終わり、専攻科設置に伴い総合研究棟や専攻科棟を増設し、準学士課程及び専攻科課程の総合的なカリキュラムを実現するために十分な施設・設備となった。これらの施設・設備の利用規則は、学生便覧で学生に周知している。よって、本校設備は、教育課程にふさわしい設備となっており、その実現のために有効に利用されている。

情報ネットワークは総合情報システム委員会で統合管理され、情報セキュリティが十分配慮されたシステムになっており、学生が積極的かつ有効に、教職員は、教育・研究だけでなく事務連絡等にも有効に活用している。学生に対する「情報モラル教育」も行い、本校の教育課程を実現させる役割を十分果たしている。

図書館は、教育用図書・電子ジャーナルも含めた学術雑誌・文献検索システム・ホームページ上からの蔵書検索等を管理しており、所蔵数、利用方法、利用時間並びに学生の要望等を反映するシステムなどソフトウェアも含め十分整備され活用されている。図書館の利用率は全国高専の中でも有数であり特筆すべきものがある。



**基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム****(1) 観点ごとの分析**

**観点 9-1-①：** 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

講義・実験・実習・卒業研究・特別研究の記録、教科書、定期試験問題・解答例・採点された全答案、レポート・論文等を、教科毎に教育プログラム資料室に保管管理している(資料 9-1-①-1) 他、シラバス、科目系統図、学生便覧、学校要覧、各委員会の議事録、授業アンケート結果、学生アンケート結果、教員による授業点検シート、自己評価点検シート、FD 委員会による評価点検シート、週番日誌等、教育に伴う殆どの記録を遺漏の無いよう保管管理している。また、各委員会の議事録は共有電子ファイルとしても保管している(資料 9-1-①-2)。これらを教育プログラム委員と各科のエビデンス部会員が半期毎にチェックしている(資料 9-1-①-3, 4)。

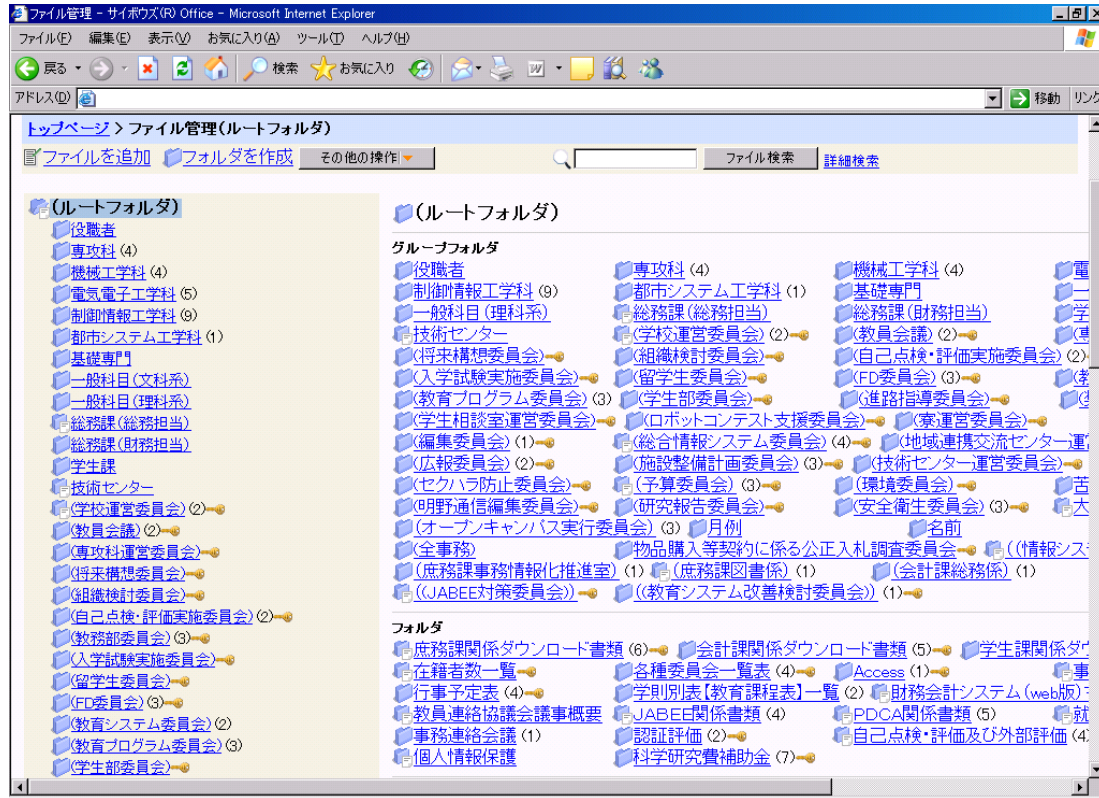
PDCA サイクルに示すように(資料 9-1-①-5)、学校活動全体の点検評価のため教育システム委員会を設置し(資料 9-1-①-6)、教員の教育活動の質の向上を図るため FD 委員会を置いている(資料 9-1-①-7)。自己点検・評価実施委員会が5年に一度自己点検を行い自己点検・評価書にまとめ外部評価委員会に上程する(資料 9-1-①-8)。自己点検・評価実施委員会は、外部評価委員会の指摘(資料 9-1-①-9)も参考に、学校全体の改善計画や点検改善システム自体の改善計画の立案を教育システム委員会に提示し、その結果を学校運営委員会に答申する(資料 9-1-①-5)。

資料 9-1-①-1

現地閲覧資料を参照

(出典：学生課資料)

資料 9 - 1 - ① - 2



(出典：グループウェア 各委員会等議事録の電子ファイル)

資料 9 - 1 - ① - 3

教育プログラム委員会所轄事項

所轄事項：教育プログラムの円滑な実施の促進及び点検・改善を行う。

委員長：（教育プログラム担当）教務主事補

副委員長：

委員：専攻主任，教務主事補，各科代表（教務部委員の兼務可能），学生課長，庶務課長，各部会の長

所轄事務・陪席事務：庶務課と学生課教務係の2者共同（主：教務係，副：庶務課）

審議事項

1. 教育プログラムの実施に関すること。
2. 教育プログラムの点検・改善に関すること。
3. その他教育プログラムの実施に必要な事項に関すること。

実施事項

1. 本委員会は，教育プログラムの円滑な実施を促進するための検討と活動を行う。このために本委員会に部会を置く。部会の作業としては，シラバス，エビデンス，履修の手引き，科目対応表，履修科目系統図，アンケート，情報システム，教科書，非常勤などであるが，各部会の詳細は別に定める。
2. 本委員会は，本校の学習・教育目標の達成度の評価結果，及び各委員会等からの点検結果報告などに基づき，日本技術者教育認定機構の定める認定基準に即して教育プログラムを点検し，改善策を策定する。点検項目については別に定める。
3. 教育プログラムの点検結果は教育システム委員会に報告する。
4. その他校長が必要と認めた事項

(出典：教育プログラム委員会資料)

資料 9 - 1 - ① - 4

平成 18 年度 第 8 回教育プログラム委員会議事概要

日 時 : 平成 18 年 11 月 27 日 (月) 17:00~  
 場 所 : 会議室  
 出 席 者 : 高橋委員長, 清水, 薬師寺, 木本, 嶋田, 高見, 牧野, 藤原, 山田  
 東木, 庶務課長, 梅本  
 欠 席 者 : 福永, 松本, 学生課長 (出張)  
 会議資料 : なし

議 題

1. システムデザイン工学プログラム履修規則の一部改正に向けて
2. 各種会議報告について
3. 総合成績評価表について
4. エビデンスチェック報告について

藤原エビデンス部会長から、前期修了科目及び追認試験のエビデンスについて、10 月 30 日 (月)に開催されたエビデンス最終チェック報告に続き、各科委員からその後の対応について報告があった。エビデンスチェックについては年 1 回年度末に実施でよいのではないかという意見があったが、継続審議となった。

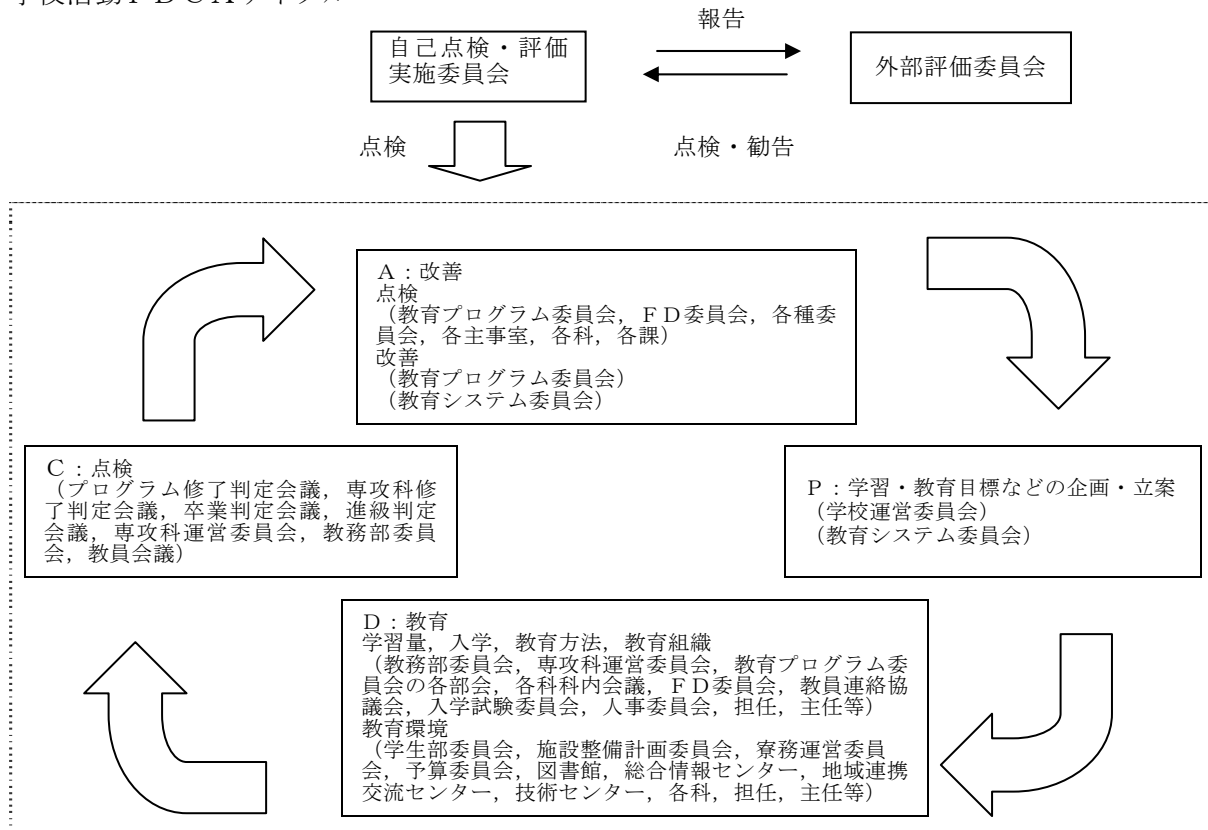
5. その他

- (1) 定期試験のエビデンスについて、「問題用紙、模範解答、各学生 の 答 案」となっているが問題用紙に解答を記入させる場合、空の問題用紙(未記入)のエビデンスが不要でないか提案があり、了承された。

(出典：教育プログラム委員会資料)

資料 9 - 1 - ① - 5

学校活動 P D C A サイクル



(出典：学校運営委員会資料)

## 資料 9-1-①-6

## 教育システム委員会 所轄事項

所轄事項：本委員会は、教育プログラム、教育システムの点検結果に基づいて、その改善策を検討し、教育プログラム、教育システムの継続的改善及び企画立案を行うことを目的とする。また、点検結果に基づき、学習・教育目標の継続的改善を行う。

委員長：教務主事

副委員長：

委員：学生主事、寮務主事、専攻科長、教育プログラム委員会委員長、施設整備計画委員会委員長、予算委員会委員長、教育プログラム委員会の各部会長、各科代表、庶務課長、会計課長、学生課長、その他校長が必要と認めた者

所轄事務・陪席事務：庶務課と学生課教務の2者（主：庶務課、副：教務係）、総務係

## 審議事項

1. 本校の教育全般の点検に関すること。
2. 点検システム自体の機能点検に関すること。
3. 教育全般の改善及び企画立案に関すること。
4. その他教育システムの改善検討に関すること。

## 実施事項

1. 本委員会は、学習・教育目標の達成度の評価結果及び教育プログラム、教育システムの点検結果報告に基づき、本科から専攻科にわたる全ての教育システムの点検を行い、教育プログラム及び教育システムの改善案の検討、企画立案及びその実行を勧告する。
2. 本委員会は、毎年度の教育点検システムの点検・改善の実施にあたり、各種委員会（部会を含む。）、各主事室、各学科等から、教育システムの点検結果の報告を求める。
3. 本委員会は、教育プログラムの点検を教育プログラム委員会に付託する。
4. 本委員会は、取りまとめた点検結果及び改善案を校長に報告し、承認を得なければならない。
5. その他校長が必要と認めた事項

※ 校長より改善を指示された部署は、その実施結果を本委員会に報告しなければならない。

※ 教育プログラム、教育システムの点検と改善のシステム全体は、5年以内に一度、自己点検・評価実施委員会の点検を受け、システム自体の改善に努めなければならない。

（出典：教育システム委員会資料）

## 資料 9-1-①-7

## FD委員会

FD委員会は、教育の質の向上を図るために、中心となって活動する委員会です。FD委員会の所轄事項を以下に示します。

## FD委員会の所轄事項

平成17年3月 FD委員会にて改訂

本委員会は教員の教育の質の向上を図るために以下のことを行う。

1. FD研究会の開催（年に数回）。
2. 学生の授業アンケート、教員による授業点検シート、試験答案などのエビデンス、教育システム改善検討委員会のエビデンス部会による授業点検シートなどに基づき、適切な評価指導を行う。指導の成果も確認する。
3. 教育功労者選考委員会に教員を推薦する。
4. 教員の校務・業績ポイント表および教員自己評価点検表の作成依頼とその評価。
5. FD関連講演会の実施。
6. 他機関の実施するFD関連研究会等への教員の派遣。
7. 教育論文の奨励。
8. 授業公開による授業研究の主催。
9. その他委員長が必要と認める事項。

（出典：Webページ）

資料 9-1-①-8

## 自己点検・評価書



平成19年2月  
大分工業高等専門学校

(出典：自己・点検評価書)

資料 9-1-①-9

## 平成18年度 外部評価報告書



平成19年5月  
大分工業高等専門学校

(出典：外部評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

教育の状況，教育活動の実態を示すデータや資料の殆ど全てが教育プログラム資料室に適切に収集・蓄積・管理され，エビデンス部会により収集・蓄積が定期的にチェックされている。

教育システム委員会と FD 委員会により教育の状況及び教員の教育活動が評価され，自己点検・評価実施委員会作成の自己点検・評価書により外部評価を受け改善する体制を整備している。

観点 9-1-②： 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

学生の意見聴取は、主に学習教育目標・シラバス・学生支援システム及び施設等の教育環境について半期毎（平成 18 年度より年 1 回ごと）に行われる学生アンケート（資料 9-1-②-1）、授業アンケート（資料 9-1-②-2）、学生自身の学習・教育目標達成度チェック表（資料 9-1-②-3）による他、クラス担任による個人面接や日誌（資料 9-1-②-4）、本科 1～3 年生に対して実施される毎日のショートホームルームと週一度の特別教育活動（資料 9-1-②-5）、専攻科生を対象に毎年行われる教員との懇談会等でも行っている（資料 9-1-②-6）。

授業アンケート結果を基に各教員が毎年授業改善に努めており、その改善計画や結果は授業点検シート A（資料 9-1-②-7）及び自己評価点検・校務業績ポイント表に記述され（資料 9-1-②-8）、エビデンス部会メンバー及び FD 委員がチェックしている（資料 9-1-②-9）。

学習・教育目標と達成度評価法、教育環境、シラバスや学生支援に関する学生の意見は、教育プログラム委員会で検討し、学校として取り組む事項の原案を作成、教育システム委員会に提案し、同委員会が当年度の実施項目を決定、各担当部署がその実施体制を整えている。例えば、平成 17 年度学生アンケートで明らかとなった本校 HP への不満は平成 18 年度の重点項目に掲げられ、その改善が一段落したところである（資料 9-1-②-10, 11, 12）。

精神面の問題等については、学内の学生相談室や外部委託した相談員により、学生から問題を吸い上げ、教育点検を行う体制を敷いている（資料 9-1-②-13）。

学生会からの意見や要望は学生主事室で調査し（資料 9-1-②-14）学生部委員会等で審議する。





資料 9-1-②-2

2007年3月1日

**平成 18 年度 授業アンケートのお願い**

このアンケートは、授業の内容や方法を改善するための資料として役立てることを目的としています。次のアンケート項目について、別紙 1 の該当するものに○を付けてください。また、別紙 2 については、感想等を授業評価（コメント）欄に記入してください。

## ▼ アンケート項目

## 「自己評価」

- ① 授業中はまじめに取り組みましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ② 定期試験ごとに理解の度合いをシラバスに記入し、理解度の自己点検を行いましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ③ シラバスの定める到達目標を達成することができましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ④ 自宅学習やオフィスアワーの活用により、理解度の向上に努めましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ⑤ 課題やレポートはすべて提出しましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ⑥ あなたの授業に対する取り組みを総合的に評価してください。  
1. 良い 2. 普通 3. 悪い

## 「授業評価」

- ① 授業の冒頭でシラバスの説明を受けましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ② 学習教育目標におけるこの科目の位置づけは明確でしたか？  
1. はい 2. いいえ
- ③ シラバスの内容に沿った授業が行われましたか？  
1. はい 2. いいえ
- ④ 授業はわかりやすかったですか？  
1. はい 2. 普通 3. いいえ
- ⑤ 黒板や視聴覚教材等の使い方はよかったですか？  
1. はい 2. 普通 3. いいえ
- ⑥ 質問に対する担当教員の対応には満足ですか？  
1. はい 2. 普通 3. いいえ
- ⑦ 試験の内容は授業内容と一致していましたか？  
1. はい 2. 普通 3. いいえ

## 「総合評価」

この授業を総合的に評価してください。

5. 非常に良い 4. よい 3. 普通 2. 不満 1. 非常に不満

(出典：学生課資料)

資料 9 - 1 - ② - 3

## 学習・教育目標達成度チェック表

あなたの現時点での学習・教育目標の達成度をチェックしてください。

クラス \_\_\_\_\_ 学籍番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_ 記入日 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

学習・教育目標 (標 語)	具体目標	達成 度 5 段階	根拠	備考
A 愛の精神	A 1 自ら考える力を身につける			
	A 2 技術者としての倫理を身につける			
B 科学や工学の基礎	B 1 数学, 自然科学の力を身につける			
	B 2 情報技術, 専門工学の基礎を身につける			
C コミュニケーション能力	C 1 表現する力, ディスカッションする力を身につける			
	C 2 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける			
D 技術者としてのセンス	D 1 探求心, 分析力, イメージ力, デザイン能力を身につける			
	D 2 協力して問題を解決する力を身につける			
E 専門工学の活用	E 1 専門工学の知識を獲得する			
	E 2 工学の相互関連性を理解する			
	E 3 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し, 解決する力を身につける			

本人のコメント

-----

担任(指導教員)からのコメント

記入日 \_\_\_\_\_

(担任(指導教員)はコメントを記入後にコピーして, 原物を学生に返却してください)

(出典: 学生課資料)

平成 18年 12月 25日 月曜日 天候 ( 曇 )				
校時	教科名	内容と感想	週番	
1	体育	サッカー	欠席者	
2	材料学	半固溶体型状態図		
3	微分積分Ⅱ	二重積分	遅刻者	
4	機構学	ロータ付カム・摩摺車		
5			早退者	
【伝達・連絡事項】				なし
				黒板 <input type="radio"/>
				ゴミ捨て <input type="radio"/>
				ブラインド確認 <input type="radio"/>
			窓閉め確認 <input type="radio"/>	
<p>【感想・意見】 <u>今年最後の講義状態であった。</u> これまで材料試験や物産実験のレポートにおかれたいの点が、昨日全て終わらせたとゆ、くりとこれからこのことについて考えてみた。例えは五年次の卒業研究のこと。従って卒業までの材料試験が興味深く、もっと材料の奥深さにこのほど知りたいと感じたので、今のうちに材料系の分野を学びたいと考えている。冬休み明けの専攻の分野のことにこのことについて学びてみて、今のうちに卒研で能くやるかということも決める。</p>				
<p>【担任所見】 おおむねと思います。</p> <p>素晴らしい計画ですね。卒業研究は学生が主体的に活躍出来る唯一のやり方な内容となっているから、再考是非、興味の対等な選択し、実践に役立てる。いよいよ明日より冬休みですね。有意義な毎日を！</p> <p>新年 1/9 ~ 1/12 の週番は 名、 名で可</p>				

(出典：学生課資料 週番日誌)

資料 9-1-②-5

2007 年度(平成 19 年度) 前期特活予定表

水曜日: 14:30~15:20

学年 月日	1 年(水) 4 限				2 年(水) 4 限				3 年(水) 4 限				
	M	E	S	C	M	E	S	C	M	E	S	C	
4	11	特活計画	クラス役員 選出	自己紹介	自己紹介	クラス委員選出 特活計画	前期特活 計画立案	クラス役員 選出	各種委員の 選出&都市 システム科賞表彰	特活計画	特活計画 委員決め	特活計画	ポートフォ リオの確認 と整理
	18	教務主事室扱い(合併)				プロジェクト X(女の死を 越えて)	プロジェク トX	前期特活 行事決め	戦争に ついて	校外清掃 活動	寮生活を 紹介します	プロジェク トX	前期特活 計画
	26	図書館オリエンテーション		担任扱い		教務主事室扱い(合併)				クラスマッチ	クラスマッチ	校外清掃 活動	プロジェク トX
5	2	ロボコン 2005 全国大会ビデオ上映&ロボコン 2007 ルール説明(合併講義室、90分)				GWの課題	「砂漠で遭 難したら」 危機にどう 対処する か?	「砂漠で遭 難したら」 ・ ・ ・	生と死を 考える	情熱大陸	校外清掃 活動	クラスマッチ	クラスマッチ
	9	クラスマッチ	私の尊敬 する人物 (6班)1-ウ	クラスマッチ	夢を語ろう	ロボコン 2005 全国大会ビデオ上映 & ロボコン 2007 ルール説明 & 学生主事室関係校則復習 (合併講義室、90分)				自己評価	セクハラと は?	レクリエー ション	校外清掃 活動
	23	数学第 1 回到達度試験				数学第 1 回到達度試験				ロボコン 2005 全国大会ビデオ上映 & ロボコン 2007 ルール説明 & 学生主事室関係校則復習 (合併講義室、90分)			
	30	学生相談室扱い(合併)				校外清掃 活動	クラスマッチ	タグラグビ ーゲーム	クラスマッチ	自分たちの 可能性	図書館へ 行こう	S 科教員 講話	前期中間試 験の対策
6	20	公共の場 でのエチケット	キャッチ商 法に気をつ けよう(5 班)2-ウ	クラブ活動 探検報告	C 科先生へ のインタビ ュー	クラスマッチ	環境汚染を なくそう!	クラスマッチ	家族に ついて(1)	教務主事室扱い(合併)			
	27	校則をもつ と知ろう	クラスマッチ	クラス役員 の役割を知 ろう	クラスマッチ	M 科教員 講話	夏休みの計 画を立てよ う!	定期試験結 果の分析と 反省	家族に ついて(2)	3M 球技大会	プロジェク トX	夏休みの 計画	クラスマッチ の話し合い
7	4	数学第 2 回到達度試験				数学第 2 回到達度試験				先輩の進路 I	クラスマッチ	高専祭 クラス企画	クラスマッチ
	11	携帯電話所 持の是非を 語る	クラス担任 扱い	砂漠で遭難 したら	ポートフォ リオのチェッ ク	たばこの害について (保健室から:合併)	夏休みの 目標発表	人間の絆に ついて	クラスマッチ	高専祭準備	クラスマッチ	今週、印象 に残った新聞 記事の紹介	
9	5	クラスマッチ	アルパカの意 義と問題点 を語る(7 班)1-イ	公共の場 でのエチケット	クラスマッチ	1 分間 スピーチ	校外清掃 活動	たばこの害について (保健室から:合併)	1 分半スピー チ夏休み 報告会	高専祭打ち 合わせ	スーパーコン ピュータと は?	ディベート	
	12	定期試験 対策	能率的な学 習法(4 班)3-ア	交通安全に ついて考え よう	高専祭計画	前期を振り 返って	私の体験を 語る(古里 の自慢しち やいます)	前期末試験 の傾向と対 策	国際感覚と より広い視 野の育成	先輩の進路 II	生と死につ いて	校外研修オ リエンテー ション	前期定期試 験の対策

(出典: 教務主事室資料)

資料 9-1-②-6

専攻科 1 年生 懇談会

日 時: 2007 年 3 月 9 日(金) 15:30-17:00 (第 2 回中間発表会のあと開催)

場 所: 専攻科棟 4 階 アカデミックホール

参加者: 佐藤 専攻科長, 福永 機械・環境システム専攻主任, 清水 電気電子情報専攻主任, 鶴 電気電子情報  
専攻副主任(文責), 小森 専門員

参加学生: 機械・環境システム専攻 13 名  
電気電子情報専攻 8 名

懇談内容(学生の意見)

- 研究について
  - ・管理が厳しくなり、遅くまで実験できなくなった
  - ・研究に時間がかかる
  - ・研究について後輩に教えるようになり、理解が深まった
  - ・テーマを変えたので大変だった
  - ・望んでいた実験結果が出て満足している
  - ・教員が居ないときに高電圧を使う実験ができないため、進行が遅くなった
  - ・教員が忙しく十分に指導を受けることができなかった
  - ・企業と一緒に研究を行って学ぶことが多かった
  - ・発表会の時間が短い。発表 8 分、質問 4 分にして欲しい
  - ・フィールドワークの実験は楽しかった
  - ・授業で学んだことが実験に使えてよかった
  - ・少し慣れが出てきたので、もっとがんばりたい

## 2. 学校や専攻科に対する要望事項

- ・ 外の実験室に行くとき、外灯が少ない
- ・ 研究できる時間を増やして欲しい
- ・ プロジェクト実験Ⅰのテーマ設定の情報が少なすぎる
- ・ 学生への連絡がない（終業式や始業式への参加など）
- ・ 喫煙スペースが欲しい
  - 家を出て、家に帰るまで飲酒喫煙をしないルールがある（佐藤）
  - 専攻科生が守るべきルールを周知して欲しい（学生）
- ・ 休日に学生証でキーロックを借りるのはめんどくさい
- ・ 道路の水はけが悪い（ので危険）
- ・ カリキュラムが大学などに比べて詰まっていて、会社見学などができないので公欠にして欲しい
- ・ 専攻科棟にトイレが欲しい
- ・ 専攻科生に対する自動車通学の規則が厳しい（もっとゆるく）
- ・ ロッカーがないのが不便
- ・ ウォータークーラーを専攻科棟に設置して欲しい
- ・ 専攻科の教室は、机と椅子が使いやすい
- ・ 休日に学校に来ると、学生に割り当てられた駐車スペースに他の人（無許可の学生？）が車をとめている
- ・ 冬に専攻科教室の暖房の電源が入らなかった

以上

(出典：専攻科資料)

## 資料 9 - 1 - ② - 7

## 授業点検シート A (授業担当教員用)

授業科目名		講義・演習・実験
対象学科・専攻名 対象学年		通年・前期・後期
担当者名		
記入日		

以下の質問にお答えください。

1. 本授業科目の到達目標を十分説明しましたか？	はい・いいえ
2. 授業の冒頭でシラバスの内容を説明しましたか？	はい・いいえ
3. 授業はシラバスの内容どおりにできましたか？	はい・いいえ
4. 学生の理解を確認しながら授業をすすめましたか？	はい・いいえ
5. 成績評価はシラバスどおりに行いましたか？	はい・いいえ
6. 成績評価の根拠となる資料は残っていますか？	はい・いいえ
7. 答案を返却し達成度を周知させていますか？	はい・いいえ
8. 学生の興味や理解度を高めるために特別な工夫があれば記入してください。	
9. 学生からのアンケート結果等をどのように授業に反映させましたか？	
10. 来年度に向けた授業改善計画を記入してください。	

(出典：教育プログラム委員会資料)

資料 9-1-②-8

## 自己評価点検・校務業績ポイント表（平成 18 年度）（抜粋）

所属・職名 [ ]  
氏 名 [ ]

## ☆ 基本方針 ☆

大分高専では従来より、研究以上に学生に対する教育に重点が置かれてきましたが、近年の高専に対する要請は、研究面での一層の充実や地域社会への更なる貢献を求めるなど、より多様化・高度化しております。一方、高専でも設置基準が改正され、教育・研究に対する自己評価が義務化され、外部評価も義務化の方向にあります。高等教育機関としての存在がガラス張りで見られることになったわけです。本校が真の高等教育機関として機能するためには、学生の教育ならびにそれを支える研究活動が社会的に認められるものでなくてはなりません。そのため、本校に所属する教員は厳しい外部評価にも耐え得るように「良い学生を育て」、「地域に貢献し」、「そのために日々の研鑽を積む」、これら三つの観点に留意して職務に励むことが必要であります。われわれはこれらの目的に対応する次の3項目の自己評価を行っておく必要があると考えております。すなわち、「学内の活動に対する評価」、「地域等への貢献に対する評価」、「論文等に対する評価」がそれであり、1年間努力した内容を項目ごとに自己評価し、年ごとに向上するよう努力することが重要だと考えております。具体的にポイント表では、学内の活動を、授業、学生指導、学校運営に分けてポイント計算し、これを元に作成した5項目のレーダーチャート上で2ポイントを示す太枠より内側に来る項目には特に次年度の努力を期待するものです。

## I 学内での活動に対する自己評価

## I-A1 授業

今年度に行ったすべての授業（実験実習、卒業研究も含む）について、「学生にどの程度実力をつけることができたか」を判断基準として学生からの授業アンケートも考慮に入れて下さい。概要欄には授業で工夫した点や努力した点等を具体的に示し、また問題点があればそれも記入して下さい。なお欠課時数は90分を2、遅刻・早退は3回で2時間と換算して下さい。

前期, 後期, 通年					
科目名		学科学年クラス	必修・選択	単位数	受講者数
講義回数	学年末平均点	A 取得者数	D 取得者数	学生の総欠課時数	授業アンケートの平均点
概要					

科目名	学 科	単 位 数	指 導 学 生 数
卒 業 研 究			名
概要			

科目名	専 攻	単 位 数	指 導 学 生 数
専攻科特別研究			1年 名 2年 名
概要			

(以下略)

(出典：FD委員会資料)

資料 9-1-②-9

## 授業点検シート B

エビデンスWG：点検年月日

④

FD委員会：点検年月日

④

授業点検シート B (エビデンスWG &amp; FD委員用)

授業科目名	講義・演習・実験
対象学科・専攻名 対象学年	通年・前期・後期
担当者名	

## 【エビデンスWG】

資料チェック (あるもの○, ないもの×, 問題のあるもの△, 該当しないもの斜線)

シラバス	(備考)	総合成績評価表	(備考)
授業点検シート A		授業アンケート	
試験問題		模範解答	
答案, レポート		課題, 小テスト	
教科書, 講義ノート		配布資料	

シラバス (シラバスを見てチェックする)

1. 達成目標と学習・教育目標との対応が明確であるか.
2. 達成目標は社会の要求を反映しているか.
3. 他の科目との関連が明確であるか.
4. 評価方法は適切であるか.

---



---



---



---

試験問題・答案 (試験問題・答案, シラバスの達成目標, 総合成績評価表を見てチェックする)

1. 試験問題や課題のレベルは適切であるか.
2. 達成目標の達成度を評価できるか.
3. プログラムの水準に達した者のみを合格させているか.

---



---



---

## 【FD 委員】

授業方法 (授業公開参観報告, 授業点検シート A をみてチェックする)

1. 授業の方法, 準備状況は適切か.
2. 授業はシラバス通りに行われているか.
3. 答案を返却して達成度を学生に周知させているか.

---



---



---

改善要求事項

担当教員の回答

(出典：FD委員会資料)

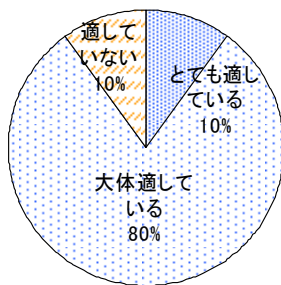


資料 9-1-②-10

平成 17 年度学生アンケート結果の概要

アンケート実施 平成 17 年 9 月  
 アンケート対象 1 年生～専攻科 2 年生 (24 クラス)

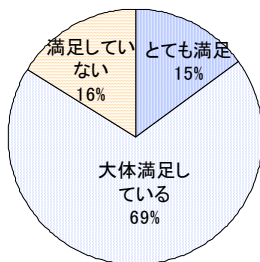
(1-1) 本校の学習・教育目標には、全般的に満足していますか。



学習・教育目標

- (1-2) 得に変更すべき学習・教育目標 { ( ) 内は意見数 }  
 表現が抽象的でわかりにくい (3)  
 愛の精神 (2)  
 理想が高い (2)
- (1-3) カリキュラムに対する要望 { ( ) 内は意見数 }  
 英語の (会話, 演習) 授業を増やして欲しい. (5)  
 体育の授業を増やして欲しい (3)  
 実験実習を増やす (3)  
 選択科目を増やす (2)

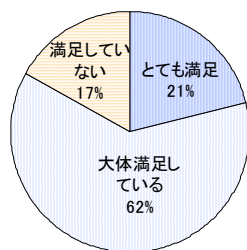
(2-1) 本校の教育支援システムには、全般的に満足していますか。



教育支援システム

- (2-2) 特に改善すべき教育支援システム { ( ) 内は意見数 }  
ホームページの充実と更新 (10)  
 オフィスアワーの充実 (現状は利用しにくい) (5)  
 授業アンケートの活用 (5)  
 シラバスの表現 (3)  
 非常勤教員のオフィスアワー (2)

(3-1) 本校の教育関連施設・設備には、全般的に満足していますか。



教育関連施設・設備

- (3-2) 特に改善すべき施設・設備 { ( ) 内は意見数 }  
 空調設備 (含利用方法) (6)  
 図書館 (6)  
 体育館の設備 (5)  
 総合情報センター (利用方法) (5)  
 ウォータークーラーの増設 (4)  
 実習工場の設備 (2) プール (2)  
 雨漏りの改善 (2)

(4) 教育プログラムを充実させるためのアイデア

- 90分授業の途中で休憩を入れて欲しい. (3)  
 もっと分かりやすい授業をして欲しい. (3)  
 定期試験前のレポートや課題は避けて欲しい (2)  
 取得できる資格についての情報や対策をもっと教えて欲しい (2)

(出典：自己点検・評価書)

## 資料 9 - 1 - ② - 11

## 学校改善重点項目（平成 18 年度）

学習・教育目標の設定と公開	準学士課程の学習教育目標（達成目標）を設定する。
	ホームページWGで学習教育目標の公開について具体的な役割分担を検討する。
学習・教育の量	学修単位導入及び学習時間の保証に向けて相応しい体制・環境を検討する。（教務部委員会，専攻科運営委員会及び教員連絡協議会）
入学および学生受入れ方法	ホームページWGで公開体制を検討する。
教育方法	学生の勉学意欲を増進するための表彰制度を導入する。（今年度試行）
	3年生と5年生が学習・教育目標の達成度を自己点検する仕組みを構築する。（教務部委員会）
	あいさつ運動や美化活動を学校全体として具体的に取り組むことがあるか検討する。（環境委員会，学生部委員会及び教務部委員会）
	学修単位導入に相応しい体制・環境を検討する。（教務部委員会，専攻科運営委員会及び教員連絡協議会）
	次期教務システム・学生支援システムの調査企画に着手する。（教育プログラム委員会情報システム部会）
教育組織	教員の資質向上と役割分担の検討を行い教員組織の充実を図る。（学校運営委員会WG）
施設，設備	寮のエアコン導入については，夏休み時期の変更及び単位互換に伴うサマーセミナー実施の問題と連動しているので，まず夏休み時期の変更を，その是非を含めて検討する。
	外部からの進入を防ぐため寮の門扉の整備と防犯カメラの設置に努力する。
	図書館の書架スペースの狭隘を改善する。
財源	専攻科棟の非常口のドアロックを防犯上の観点から改修する。
	平成 19 年度に現代GPを申請するための準備を行う。
	平成 20 年度概算要求に向けた特別教育研究経費要求を検討する。
学生への支援体制	平成 18 年度図書館閲覧室間仕切り撤去の営繕要求をする。
	総合情報センター開館時間を延長する。
	情報セキュリティポリシーを策定していく。
学習・教育目標の達成	次期教務システム・学生支援システムの調査企画に着手する。（教育プログラム委員会情報システム部会）
	ディベート試験，総合的試験 B1・B2，PBL 関連科目の総合審査会を制度として定着させる。
学習・教育目標の達成	プログラム修了生全員が学習・教育目標をすべて達成していることが確認できる実績を作る。
教育点検及び継続的改善	教育プログラムPDCAサイクルを行うシステムを再検討する。

(出典：教員会議資料)

## 自己点検・評価書（抜粋）

## 12.2 学生・社会からの点検評価

学校活動を改善していく上で学生・社会から点検を受けることは大切な点検活動の一つである。本校では、授業に関するアンケート、学習・教育目標の妥当性や学生支援・施設などの教育環境、担任業務や学生課におけるサービスなど教職員による日頃の学生支援活動など教育活動全般に対するアンケート、卒業生の現在の職種を調査したり要望を聞いたりするための卒業生アンケート、学生が卒業後に就職していく企業への学習・教育目標や教育レベルなどについての企業アンケート、保護者の意見を聞くための後援会総会や保護者会あるいは教員が保護者個々に面談する個別面談やアンケート、および5年に一度に外部有識者に学校活動全般について検討頂く、外部評価、がある。

各種アンケートについて簡単に以下に実施結果を示す。

## (1) 授業アンケート

授業アンケートは本校ではいち早く導入され平成11年より行ってきた。当初は年2回行われていたが、昨年度（H17年度）から年1回とした。全ての授業について、学生に質問項目に選択式で答えてもらう質問項目と、自由なコメントをもらい、これをもとに、各教員が改善を図る仕組みである。昨年度からは、その改善点を授業点検シートAに記入して提出し、これをFD委員がチェックして、FD委員からの指導が必要と思われる教員には個別に指導することとなった。質問項目は毎年、教務部委員会において検討を加えて改善を行ってきた。授業アンケート項目を資料8に、これをもとに各教員の作成する授業点検シートAを資料7に示す。授業アンケートについては毎年統計的に分析されてまとめられ冊子として公開している。平成13年には、それまでの授業アンケートの結果を分析して自己点検書としてまとめている。昨年度の結果の例を資料9に示す。

## (2) 学生アンケート

学生アンケートは、学習教育目標の妥当性や学校の設備や教育環境、学生課やHPなどの学生支援について学生の意見を集約するために一昨年度（H16年度）から実施している。これまでの結果を資料10に示す。次節において示されているように、このアンケートから、本校のHPの不備が判明したため、本年度からHPWGを立ち上げて改善に務めている。

(略)

## 12.3 点検・改善実施

(略)

## (2) 改善項目・実施例

上記の各所での点検結果および改善案を元に、学校全体で取り組むべき改善実施項目を教育システム委員会および学校運営委員会において策定する。H18年度の結果を資料16に示す。以下にそのうちの重要項目についていくつか示す。

(略)

## 3) 学校（教育・研究）機能

図書館の充実や、バリアフリー化、HPの充実などが重要な課題である。また、実験施設の近代化も図っていく必要がある。本校の研究のパフォーマンスはまだまだ高いとは言えない状況であるので、今後も校長裁量経費の有効活用などにより、活性化を促進するシステムを構築していく必要がある。

(出典：自己点検・評価書)

## 平成 18 年度学生相談室活動計画

## 研修会

- 学内 6月28日(水) 講師 本校カウンセラー  
 対象 全クラス担任  
 参加者 20名  
 「大人の発達障害」のタイトルで講演予定であったが、急遽、現在起こっている問題について懇談会形式で話し合った。
- 学外 10月19日～20日 メンタルヘルス研究協議会(九州地区)  
 参加 学生相談室長(瀧川)・河野学生課長  
 場所 鹿児島
- 11月27日～29日 全国学生相談研修会  
 参加 学生相談室長  
 場所 東京
- 1月23日～24日 全国高専メンタルヘルス研究集会  
 参加 学生相談室員(篠田)・岩崎看護師  
 場所 東京

## 委員会

- 第1回 5月1日(月) ・今年度の活動計画  
 ・相談室パンフレット作成
- 第2回 10月17日(火) ・前期活動を振り返って  
 ・後期活動について
- 第3回 2月28日(水) ・後期活動を振り返って  
 ・研修会参加報告  
 ・次年度への提案

## PR活動

- 1) カウンセラーの自己紹介も兼ねて、1年生を対象に心理適性検査を合同で実施し、分析結果は後日、相談室にて(場所も覚えて貰うため)配布。
- 2) 相談室パンフレット配布。  
 1年生 全員に配布  
 2年生以上 各クラスに1枚掲示
- 3) 各月のカウンセラー来校日を、各クラスの掲示板や校内数カ所に掲示。

(出典：学生相談室資料)

資料 9 - 1 - ② - 14

平成 18 年度学生会・体育局・文化局クラブリーダー研修 日程表

期間：平成 19 年 1 月 26 日（金），27 日（土）

場所：大分高専合併講義室 他

第 1 日目 1 月 26 日（金）			
時刻	内 容	場 所	備 考
	授業終了		
16:00	学生集合・資料配布 今後の予定を説明	合併講義室	
16:30	学生会話合 ・今年度行事の反省 ・来年度に向けて①	合併講義室	学生主事 学生主事補 学生会役員 体育局教員 文化局教員 オブザーバー教員
18:00	夕食（弁当）	合併講義室	
18:30	学生会話合 ・今年度行事の反省・ 来年度に向けて②	合併講義室	学生主事 学生主事補 学生会役員 体育局教員 文化局教員 オブザーバー教員
20:00	解 散		

第 2 日目 1 月 27 日（土）			
時刻	内 容	場 所	備 考
9:30	学生集合	合併講義室	
10:00	特別講演会 「リーダーとしての資質」	合併講義室	学生主事講師 紹介 ..... ..... ..... .....
11:30	昼食（弁当）	合併講義室	
12:30			
13:00	体育局・文化局話合	選択教室 I・II	体育局各部長 体育局教員 文化局各部長 文化局教員 オブザーバー教員 学生主事 学生主事補
16:00	解 散		

\* 体育局教員：武口先生，文化局教員：篠田先生  
\* オブザーバー教員：川内谷先生  
\* 学生会役員もオブザーバーとして各局の話合いを見て回る。

\* 学生会役員でない各部長は，26 日の学生会話合いは出席しないものとする。

（出典：学生会資料）

（分析結果とその根拠理由）

学生の意見聴取は，主として授業アンケート，学生アンケート，学習・教育目標達成度チェック表で行っている。結果は，各教員の自己点検・評価に反映され，授業点検シート A，教員の自己申告による自己評価点検・校務業績ポイント表に記される。FD 委員会の指示による教員の教育活動改善事項は授業点検シート B 等に記載され，教育システム全体については，教育システム委員会により学校全体の改善項目が決定され，自己点検・評価実施委員会による自己点検評価に反映される。

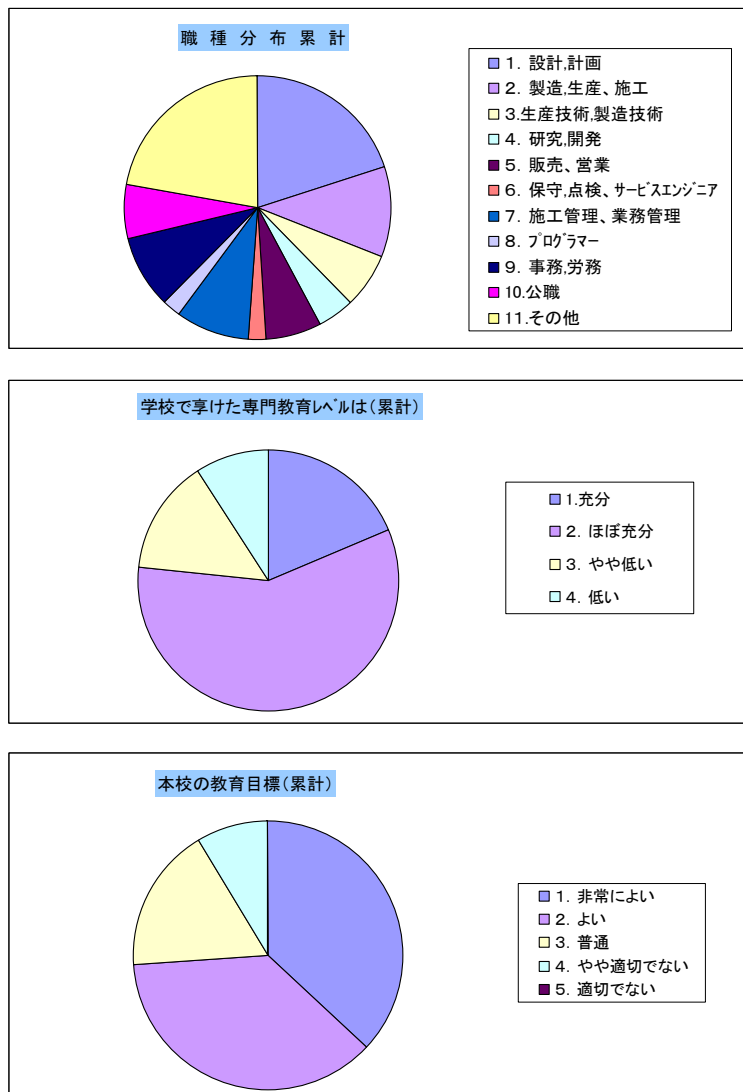
観点 9-1-③： 学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職先等の関係者等が考えられる。）  
の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

（観点に係る状況）

卒業後 5 年及び 10 年の卒業生に対し毎年アンケートを実施し（資料 9-1-③-1）、就職先へのアンケートを数年毎に実施している（資料 9-1-③-2）。また保護者会で保護者から、学校説明会で中学校教員等から意見を収集している（資料 9-1-③-3, 4）。これらのアンケート結果や意見は、教育プログラムアンケート部会がとりまとめ、教育システム委員会が点検・評価を行っている（資料 9-1-③-5）。また 5 年に一度、自己点検・評価実施委員会が自己点検評価書をまとめ、外部評価委員によって点検・評価され外部評価報告書にまとめられる（資料 9-1-③-6, 7）。

資料 9-1-③-1

卒業生アンケート項目と結果（抜粋）



（出典：自己点検・評価書）

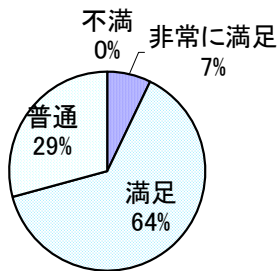
資料 9-1-③-2

企業アンケート項目と結果 (抜粋)

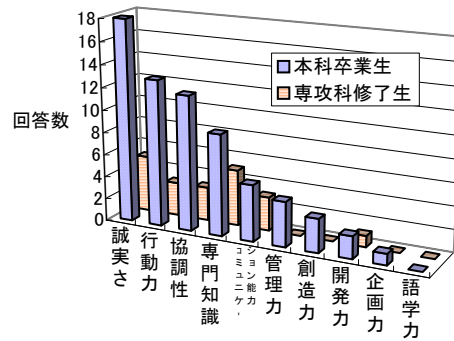
アンケート期間：平成 16 年 8 月 10 日～8 月末  
 対象：平成 5 年度, および 10 年度卒業生就職先企業

回答：44 件

1. 大分高専の本科卒業生に対し、平均的な仕事に対する評価 (勤務成績) について、の質問には良い評価をいただきました (図 1).
2. 大学生と比較して高専生の優れていると思われる点を挙げていただきました (図 2).

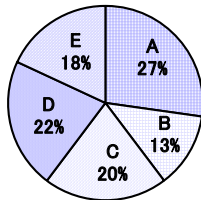


卒業生に対する満足度



高専生が優れている点

3. 大分高専が設定した学習・教育目標について重要度を問う質問に対して、どれも均等に重要であるという良い評価をいただきました. (図 3)



本校学習・教育目標で特に重要と思われるもの

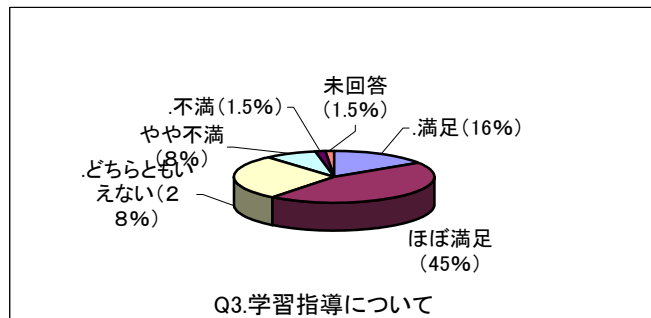
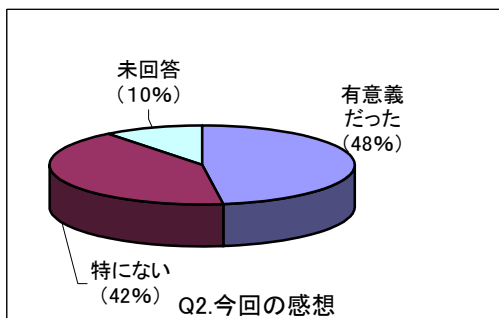
- A 自ら考える力・技術者としての倫理を身につける
- B 科学や工学の基礎を身につける
- C コミュニケーション能力を身につける
- D 技術者としてのセンスを身につける
- E 専門工学を活用する力を身につける

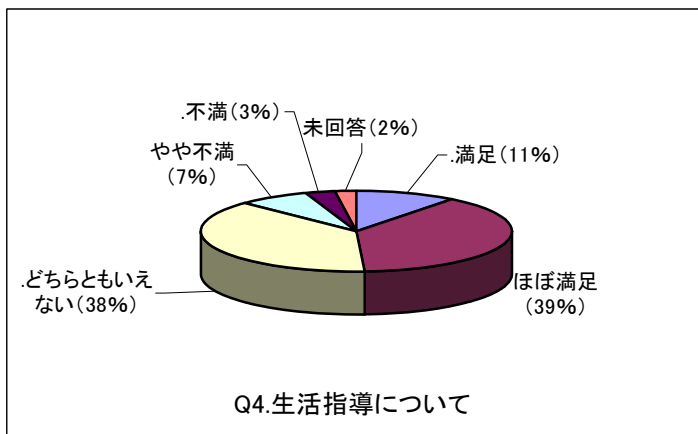
以下略

(出典：自己点検・評価書)

資料 9-1-③-3

保護者会と意見例 (抜粋)





以下略

(出典：自己点検・評価書)

資料 9 - 1 - ③ - 4

大高専教第 92 号  
平成 18 年 9 月 28 日

県内各中学校長 殿

大分工業高等専門学校長  
大 城 桂 作

平成 19 年度地区別入試説明会の開催について (ご案内)

本校の学校運営に関しましては、常々ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。  
さて、毎年実施しています大分教育事務所管内の中学校を対象とした、地区別入試説明会を下記のとおり開催することになりました。  
つきましては、貴校進路指導関係者等のご出席方よろしくお願い申し上げます。  
なお、当日都合が悪く他地区での説明会 (別添説明会実施要領参照) に出席を希望される場合は、その旨ご連絡ください。

記

1. 期 日 平成 18 年 10 月 31 日 (火)
2. 場 所 本校 2 階 合併講義室
3. 日 程 13:30~14:00 受付  
14:00~15:00 校長あいさつ  
学校概要説明等・募集要項説明・質疑応答
4. その他 15:00~15:30 校内施設見学 (希望者のみ)  
資料等の準備の都合がありますので 10 月 24 日 (火) までに同封の出席調を FAX にてご回報くださるようお願いいたします。

(出典：学生課資料 学校説明会の案内例)



資料 9 - 1 - ③ - 5

教育点検結果・改善項目一覧表

区 分	点検結果(H16年度)			改善項目 (H17年度)
	委員会等名	事 項	区分	
学習・教育目標の設定と公開	一般科目文系	幅広い視野に立った社会人として必要な豊かな一般教養を育む指導を充実する必要がある。	低	1) 大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラム履修規則の別表1-2, 別表2, ◎科目, ○科目の設定について更なる改善を行う。(教育システム改善検討委員会) 2) 本科5学年までの達成基準, 低学年3年までの達成基準(細目)の策定を検討する。(教育システム改善検討委員会) 3) E2科目の再検討と充実を図る。(教育システム改善検討委員会, 教務部委員会, 専攻科運営委員会)  【H16年度対策済み】 1) 教育プログラムの充実のため, 履修規則等の改正を行った。 2) A1を含め学習・教育目標の細目化を行い, 具体化した。
	一般科目理系	数学, 物理, 化学, 保健体育の明確な学習目標に沿った指導を充実する必要がある。	低	
	教務部委員会	JABEEに対応したカリキュラムを充実する必要がある。	共	
	専攻科運営委員会	JABEE目標を全員が達成するシステムを構築する必要がある。 E2のつながり工学の充実を行う必要がある	ブ	
	教育システム改善検討委員会アンケート部会	A1が分かりにくい。(学生アンケート) 学習・教育目標のA1とC2の評価が高い。(企業アンケート)	ブ	

(以下 略 )

(出典：教育システム委員会資料)

資料 9 - 1 - ③ - 6

1 2. 2 学生・社会からの点検評価

学校活動を改善していく上で学生・社会から点検を受けることは大切な点検活動の一つである。本校では、授業に関するアンケート、学習・教育目標の妥当性や学生支援・施設などの教育環境、担任業務や学生課におけるサービスなど教職員による日頃の学生支援活動など教育活動全般に対するアンケート、卒業生の現在の職種を調査したり要望を聞いたりするための卒業生アンケート、学生が卒業後に就職していく企業への学習・教育目標や教育レベルなどについての企業アンケート、保護者の意見を聞くための後援会総会や保護者会あるいは教員が保護者個々に面談する個別面談やアンケート、および5年に一度に外部有識者に学校活動全般について検討頂く、外部評価、がある。

各種アンケートについて簡単に以下に実施結果を示す。

(1) 授業アンケート

授業アンケートは本校ではいち早く導入され平成11年より行ってきた。当初は年2回行われていたが、昨年度(H17年度)から年1回とした。全ての授業について、学生に質問項目に選択式で答えてもらう質問項目と、自由なコメントをもらい、これをもとに、各教員が改善を図る仕組みである。昨年度からは、その改善点を授業点検シートAに記入して提出し、これをFD委員がチェックして、FD委員からの指導が必要と思われる教員には個別に指導することとなった。質問項目は毎年、教務部委員会において検討を加えて改善を行ってきた。授業アンケート項目を資料8に、これをもとに各教員の作成する授業点検シートAを資料7に示す。授業アンケートについては毎年統計的に分析されてまとめられ冊子として公開している。平成13年には、それまでの授業アンケートの結果を分析して自己点検書としてまとめている。昨年度の結果の例を資料9に示す。

(略)

(3) 卒業生アンケート

卒業生へのアンケートは昨年度(H17年度)から、卒業から5年後、10年後、15年後の卒業生に対して行うこととなった。アンケート結果の一部を資料11に示す。総じて、本校の教育についての感謝の言葉が多いが、改善すべき事項としては、英語力についての危惧が目立っている。本校の学習教育目標の一つにコミュニケーション力を身につけることがあり、英語力の達成目標として専攻科修了時点でTOEIC400点相当以上としているが、卒業生の中には少なくとも450点以上とすべきとする意見もあり、今後の検討課題である。

(4) 企業アンケート

卒業生が就職する地元企業を中心にアンケートを行っている。その結果の一部を資料12に示す。学習・教育目標のうち「自ら考える力を身につける」という目標への評価が高かった。英語力達成目標のTOEIC400点は妥当な線であることが判明した。

(5) 保護者

後援会総会や保護者会を通して保護者の意見も参考にできるようになっている。今年度実施したアンケート結果を資料13に示す。最近では、低学年における補講の要請が増えてきているように思われる。

(6) 外部評価

5年に一度、外部評価委員会を開いて頂いて、外部有識者の意見も反映するようにしており、前回の平成13年度に実施された外部評価委員会における提言はH14年度発行の外部評価報告書にまとめられている。

(略)

(出典：自己点検・評価書)

## 資料 9 - 1 - ③ - 7

## V 意見（評価できる点、改善を要する点、要望等）（抜粋）

外部評価委員会委員氏名 江 崎 忠 男

- 1 後期中等教育から高等教育にわたって連続的に教育課程を組むことができる利点を活かし、全国高専の学習到達度試験結果できわめて優秀な成績を収めている点等、優れた教育効果を上げておられることを評価いたします。
- 2 また、中学卒業者が減少する中、中学等へのPR活動等、教職員の方の努力で、高い志願率を維持しておられることも評価できます。
- 3 研究活動に関して、科研費の申請数、採択率がやや減少した時期もあるようですが、これも向上しているようですので、学生の教育に時間を割かねばならなくなるとは思いますが、研究活動にも一層の努力をしていただければと思います。
- 4 今年度、貴校本科生と本学学部生を対象に相互の単位互換の協定が成立しましたので、なお一層の教育面における本学部との連携が進めばと思います。
- 5 管理運営について、高専の法人化に際し、所期の目的を達成するため、さらに一層、管理・運営の重要事項である、予算、人事、施設を中心に、校長のリーダーシップを発揮しているような体制が整備されるよう期待します。

外部評価委員会委員氏名 堀 貞 一

- 1 教育目標に沿った教育活動が行われており、施設・整備が整っており理想的な教育環境で学習できるように配慮している。
- 2 資料によると、内部評価は、積極的に実施しており、内容も充実しているようです。
- 3 外部評価については、5年に一度の頻度で行っているが、文科省の学校評価の充実の方向性からも毎年行い、その結果を学校教育に活かすシステムをとったほうがよいと考える。まとめももっと簡単なものにしてもいいのでは。
- 4 以前に比べ、入学時の生徒の学力が低下しているようであるが、要望があるところを中心とした中学校訪問ではなく、さらに積極的な生徒募集も必要ではないだろうか。

(以下省略)

(出典：外部評価報告書)

## (分析結果とその根拠理由)

卒業生及び卒業生就職企業からのアンケートによって学外関係者の意見を収集し、保護者会や学校説明会によって保護者や中学教員の意見を収集し、教育システム委員会による点検・評価に反映している。さらに、5年に一度、自己点検・評価実施委員会がまとめる自己点検・評価書により外部評価委員による点検・評価を受けている。

観点 9-1-④： 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直し等具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

教育システム点検改善シートによる各種委員会、各係等からの点検結果及び改善案（資料 9-1-④-1）、JABEE 受審結果及び自己点検・評価実施委員会による外部評価委員の提言等は、教育プログラム委員会及び教育システム委員会で整理分析を行い（資料 9-1-④-2）、教育システム委員会で、学校全体の検討事項、改善事項案を提案し学校運営委員会で決定し、各担当部署で実施する（資料 9-1-④-3）。例えば、学生アンケート結果等でのホームページの評価から（資料 9-1-④-4）、平成 17 年度に教育システム委員会と学校運営委員会でホームページの改訂を決定し（資料 9-1-④-5）、平成 18 年度に校長自らが WG を組織し改訂作業を行い（資料 9-1-④-6）、平成 19 年度に継続的にホームページを改善できるシステムを構築した（資料 9-1-④-7, 8）。

資料 9-1-④-1

### 教育システム点検改善シート 平成 19 年度（年度当初版）

現状についての点検結果、来年度以降の改善項目などをご記入下さい。  
必要な場合は適宜枠を広げるなどしてご使用下さい。 5月18日（金）までに総務課までご提出下さい。

記入部署： ■■■■■■

記入責任者

役職・氏名： ■■■■ ■■■■ 記入年月日： 平成 19 年 0 5 月 1 1 日

#### （1）現状についての点検結果

本校ではここ数年来、校舎改修、専攻科立上げ、JABEE 受審に取り組んできており、今年の認証評価で今後十数年の基礎作りに一応の終止符が打てるまでできている。また、電気電子工学科ではこれまで 10 年近くに渡って低学年基礎教育として数学に力を入れてきたが、数学科の強力な協力もあって全国の高専でも上位にあることがわかった。また、工学実験では随所に改革の手が入り、動機付けや理解可能な内容となる配慮がなされてきた。一方、制度作りの繁忙により学生への配慮が十分であったかどうか、大いに疑問が残るところであるとも考えている。「人間性に溢れ」、「国際感覚を備え」た技術者を育てるための、具体策を検討し、実施する時期がきたと考える。

#### （2）今年度の改善項目予定、目標など

特に以下の項目について考え方、アイデア、具体案を考え、実施に移していくこととする。

- ①教室の美化
  - ②教職員のコミュニケーションの涵養
  - ③教職員と学生との接触時間増
  - ④専攻科までを含めたさらなるカリキュラムの検討
  - ⑤ジャンク実験室の実現
  - ⑥中学生向け情報発信
- （平成 19 年 04 月 18 日（水）の電気電子工学科科内会議（第 03 回）にて議決）

（出典：総務課資料）

資料 9 - 1 - ④ - 2

教育点検結果・改善項目一覧表（抜粋）

区 分	点検結果(H16年度)			改善項目 (H17年度)
	委員会等名	事 項	区分	
学習・教育目標の設定と公開	一般科目文系	幅広い視野に立った社会人として必要な豊かな一般教養を育む指導を充実する必要がある。	低	1) 大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラム履修規則の別表1-2、別表2、◎科目、○科目の設定について更なる改善を行う。(教育システム改善検討委員会) 2) 本科5学年までの達成基準、低学年3年までの達成基準(細目)の策定を検討する。(教育システム改善検討委員会) 3) E2科目の再検討と充実を図る。(教育システム改善検討委員会、教務部委員会、専攻科運営委員会)
	一般科目理系	数学、物理、化学、保健体育の明確な学習目標に沿った指導を充実する必要がある。	低	
	教務部委員会	JABEEに対応したカリキュラムを充実する必要がある。	共	
	専攻科運営委員会	JABEE目標を全員が達成するシステムを構築する必要がある。 E2のつながり工学の充実を行う必要がある	ブ	
	教育システム改善検討委員会アンケート部会	A1が分かりにくい。(学生アンケート)学習・教育目標のA1とC2の評価が高い。(企業アンケート)	ブ	
学習・教育の量	全学科	CHの時間を利用して、1年次数学を実施した。	低	1) 履修科目の流れ図(系統図)を再検討する。(教育システム改善検討委員会) 2) 自学自習の定着化を図る。(教務部委員会、専攻科運営委員会)
	制御情報工学科	CHの時間を利用して、2年次英語多読と国語を実施した。		
	教務主事室・教務部委員会	英語統一テスト(ACE)を実施した。		
	一般理系科目	数学到達度試験の実施(4回/年)と追試の実施。(3回/年)		
	専攻科	実質的修了生において、学習保証時間未達成者1名生じた。学習保証時間の観点から受講時間が基準値に満たない場合は未修得とする規則改正をした。		
教育手段 入学および学生受入れ方法	機械工学科	入試倍率が増加した。	低	1) 高校学習指導要領との関連から、本科4年への編入学試験の内容とレベルを見直し、入学前後のフォローシステムを構築する。(入学試験委員会、教務部委員会) 2) 本科4年(プログラム1年生)への進級要件の見直しを行う。(教務部委員会) 3) 専攻科入試合格基準のさらなる具体化と統一を行う。(専攻科運営委員会)
	電気電子工学科	大学進学希望者へのPRに努めた。	ブ	
	制御情報工学科	入学者の質が向上した。	低	
	都市システム工学科	推薦入学者が過去最高の人数(・・・)となった。	低	
	専攻科	入学前の学習履歴の点検項目を確認した。専攻科のPRと魅力の増大に努めた。プログラム履修ガイダンスなどきめ細かい学生への対応をシステム化した。専攻科補充科目を設定した。アドミッションポリシーを設定し、選抜基準を明文化した。	ブ	
	教務主事室・教務部委員会	具体的アドミッションポリシーの公開と掲示を行った。入学者選抜方法(推薦制度)を変更した。大分市南地区中学校を重点訪問した。入学者確保のため広報委員会を中心としたPR活動を見直した。	低	
	入学試験委員会	アドミッションポリシーに沿い、選抜方法が分かり易いような入学試験制度に改善した。推薦選抜方法を改善した。	低	
	留学生委員会	留学生の受け入れをより積極的に行うこととした。	低	
	進路指導委員会	「編入学試験・大学院入学試験に関する説明会」に専攻科を加えた。	ブ	

区 分	点検結果(H17年度)			改善項目 (H18年度)
	委員会等名	事 項	区分	
学習・教育目標の達成	JABEE対策委員会	今年度実施した総合的試験などを制度として定着させる。	ブ	・プログラム判定・専攻科修了判定の形態について、現時点では専攻科の授業に携わる教員全員と専攻科運営委員で行うことが望ましいと思われ、その方向で検討する。(専攻科運営委員会) ・技術士一次試験問題(数学)の試験の第3学年による実施(一般科目文系) ・英語力の向上(電気電子工学科) ・本年度の5年生は昨年度に比べ、学力及び学習意欲の低下が4年次より見られ、就職・進学の指導をきめ細かく行い、早期に進路が決まるように指導するように努める。最近の経済状況を反映して昨年度末より求人は増えているが、企業が要求する人材に適合していない学生が増えており、その対応に注力する。(制御情報工学科) ・英語力向上(専攻科) ・外国語科では、1・2年で、全員がACEを受験する。3～5年で、英検・TOEIC・工業英検のどれかを受験する。4・5年～専攻科1年で、JABEEの基準をクリアする。教員は、専攻科を担当できるように準備・努力する。(一般科目文系)

(出典：教育システム委員会資料)

## 資料 9 - 1 - ④ - 3

## 平成18年度第8回 学校運営委員会議事録（議事概要）（抜粋）

日 時 平成 18 年 10 月 25 日（水） 16 : 10 ~ 17 : 30  
 場 所 会 議 室  
 出 席 者 別紙のとおり

## 《議 題》

## 3. 教育点検結果・改善項目一覧表について

高橋教育システム委員会委員より教育システム委員会において学校全体の重点項目について、JABEE 認定基準に沿って検討を行い、資料 3 のとおり設定したと説明があり、それぞれの改善項目の現在の進捗状況について報告の後、次のとおり一部を修正することで了承された。

基準 4.1 施設、設備 学生相談室の配置換えについては、放課後行うことにより解消できたため、削除する。

基準 4.2 財源 概算・特別教育研究経費の申請は既に終了しているため削除する。

また、教育方法の中で学生の勉学意欲を疎外しているため、専攻科に進学が内定している 5 年生に夏休み等休業期間も寮を開放して欲しいという意見があったが、当直の問題や他の学生の理解を得る必要があるため、継続議論としていくこととした。

（以下 略）

## 資料 4

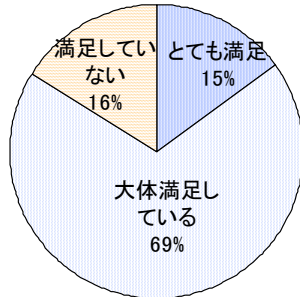
## 学校重点改善項目（平成 18 年度）

改 善 項 目	改 善 項 目
学習・教育目標の設定と公開	進学士課程の学習教育目標（達成目標）を設定する。 ホームページWGで学習教育目標の公開について具体的な役割分担を検討する。
学習・教育の量	学修単位導入及び学習時間の保証に向けて相応しい体制・環境を検討する。（教務部委員会、専攻科運営委員会及び教員連絡協議会）
入学および学生受入れ方法	ホームページWGで公開体制を検討する。
教育方法	学生の勉学意欲を増進するための表彰制度を導入する。（今年度試行） 3年生と5年生が学習・教育目標の達成度を自己点検する仕組みを構築する。（教務部委員会） あいさつ運動や美化活動を学校全体として具体的に取り組むことがあるか検討する。（環境委員会、学生部委員会及び教務部委員会） 学修単位導入に相応しい体制・環境を検討する。（教務部委員会、専攻科運営委員会及び教員連絡協議会） 次期教務システム・学生支援システムの調査企画に着手する。（教育プログラム委員会情報システム部会）
教育組織	教員の資質向上と役割分担の検討を行い教員組織の充実を図る。（学校運営委員会WG）
施設、設備	寮のエアコン導入については、夏休み時期の変更及び単位互換に伴うサマーセミナー実施の問題と連動しているため、まず夏休み時期の変更を、その是非を含めて検討する。 外部からの進入を防ぐため寮の門扉の整備と防犯カメラの設置に努力する。 図書館の書架スペースの狭隘を改善する。 専攻科棟の非常口のドアロックを防犯上の観点から改修する。
財源	平成 19 年度に現代GPを申請するための準備を行う。 平成 20 年度概算要求に向けた特別教育研究経費要求を検討する。 平成 18 年度図書館閲覧室間仕切り撤去の営繕要求をする。
学生への支援体制	総合情報センター開館時間を延長する。 情報セキュリティポリシーを策定していく。 次期教務システム・学生支援システムの調査企画に着手する。（教育プログラム委員会情報システム部会）
学習・教育目標の達成	ディベート試験、総合的試験B1・B2、PBL関連科目の総合審査会を制度として定着させる。 プログラム修了生全員が学習・教育目標をすべて達成していることが確認できる実績を作る。
教育点検及び継続的改善	教育プログラムPDCAサイクルを行うシステムを再検討する。

（出典：学校運営委員会，教員会議資料）

資料 9-1-④-4

H17年度学生アンケート結果（HPについての要望の該当部分抜粋）



教育支援システム

(2-1) 本校の教育支援システムには、全般的に満足していますか。

(2-2) 特に改善すべき教育支援システム { ( ) 内は意見数}

- ホームページの充実と更新 (10)
- オフィスアワーの充実 (現状は利用しにくい) (5)
- 授業アンケートの活用 (5)
- シラバスの表現 (3)
- 非常勤教員のオフィスアワー (2)

(出典：自己点検・評価書)

資料 9-1-④-5

学校改善重点項目（平成18年度）（該当部分抜粋）

学習・教育目標の設定と公開	準学士課程の学習教育目標（達成目標）を設定する。
	ホームページWGで学習教育目標の公開について具体的な役割分担を検討する。
学習・教育の量	学修単位導入及び学習時間の保証に向けて相応しい体制・環境を検討する。 (教務部委員会、専攻科運営委員会及び教員連絡協議会)
入学および学生受け入れ方法	ホームページWGで公開体制を検討する。

(出典：学校運営委員会資料)

資料 9-1-④-6

平成18年度第3回学校運営委員会議事

日 時 平成18年6月13日(火) 15:00~16:25  
場 所 会議室  
出 席 者 別紙のとおり

《議 題》

(略)

《報 告》

(略)

3 ホームページWG設置について

校長より、内外よりホームページの充実について指摘があったことから、ホームページワーキンググループを設置した旨の報告があり、メンバー構成は資料のとおりで、その中からホームページについて企画・実行を担当する「めざせ1000アクセス小委員会」を都市システム工学科の亀野先生を委員長に立ち上げたので、協力をお願いしたいとの依頼があった。

(出典：学校運営委員会資料)

資料 9-1-④-7

大分工業高等専門学校ホームページに関する申合せ

制 定 平成 19 年 4 月 5 日

この申合せは、大分工業高等専門学校のホームページに関する事項について定める。

- 1 本校ホームページは、本校 Web サーバ (www.oita-ct.ac.jp) に作成したページ (以下「トップページ」という。) とそれにリンクする本校が作成したページ (以下「個別のページ」という。) で構成するものとする。
- 2 個別のページは、別表の事項を管理責任者がそれぞれ管理するものとする。
- 3 本校ホームページの各記事の掲載者は、掲載責任組織を明示し、その記事の内容を常に最新の状態に保つように努めるものとする。
- 4 本校ホームページへの記事の掲載は、次のような記事の掲載は禁止するものとする。
  - (1) 公序良俗に反する内容となる情報
  - (2) 個人的な営利を目的とする情報
  - (3) 人権の問題を引き起こすような内容となる情報
  - (4) 個人・団体等に不利益をもたらす内容となる情報
  - (5) 知的所有権 (著作・著作権等) の侵害となるような情報
- 5 ホームページ審査グループを置き、本校のホームページの管理・運営を監視する。
- 6 ホームページ審査グループは、4 各号のいずれかに該当するホームページがある場合は、校長の判断により該当ホームページの排除又は不採用とすることができる。
- 7 ホームページは、Web サーバ管理者が更新する。Web サーバ管理者は、次の者とする。
  - (1) 各学科のホームページ担当教員
  - (2) 校長が指名した者

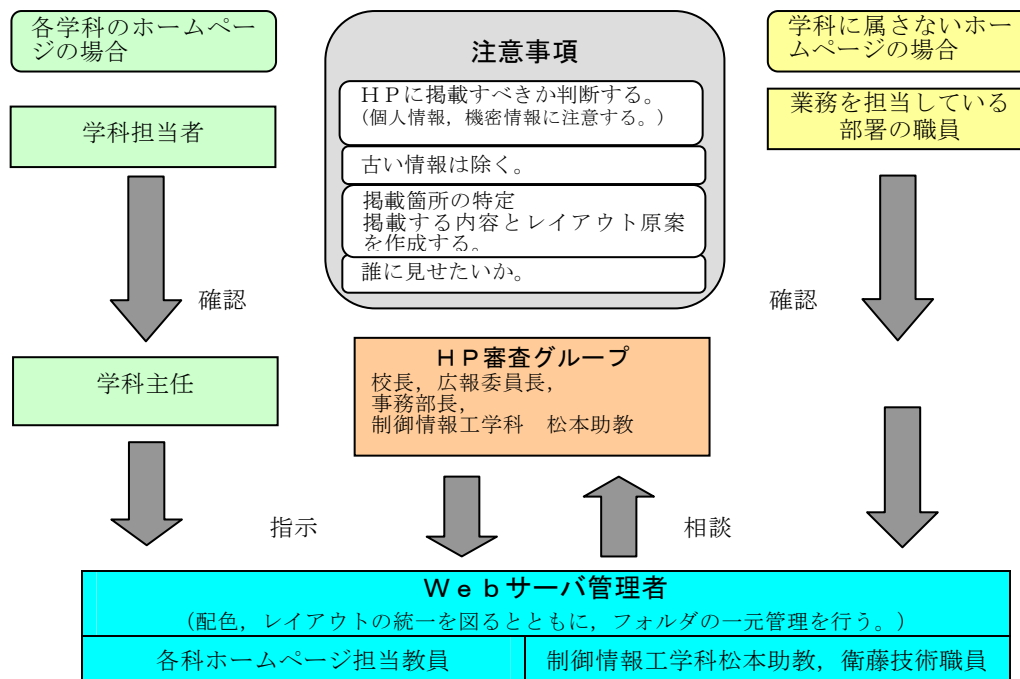
附 則

この申合せは、平成 19 年 4 月 6 日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料 9-1-④-8

ホームページの更新フローチャート



(出典：教員会議資料)

(分析結果とその根拠理由)

各種アンケート，教育システム点検改善シート，教員による自己評価点検・校務業績ポイント表，教育プログラム委員会による分析結果，自己点検・評価実施委員会による自己点検評価結果を基に教育システム委員会で総合的 point 検を行い，その改善案を学校運営委員会で決定し各部署で実施するシステムとなっている。これらは教育課程改訂等の教育活動に止まらず広く学校の活動の具体的・継続的な改善に繋がる仕組みとなっており，教育課程の改訂やHPの改善等の具体的活動として実施されている。



観点 9-1-⑤： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

教員は、授業アンケート、学生アンケート及び自己評価点検・校務業績ポイント表(資料9-1-②-8)、授業点検シートA(資料9-1-②-7)をふまえ、FD講演会等のFD活動や教員連絡協議会の活動、公開授業等を参考にし自身の質の向上を図り、授業内容、教材、教授技術の継続的改善を行っている。

この改善活動状況は、自己評価点検・校務業績ポイント表、授業点検シートAに記される(資料9-1-⑤-1)。FD委員会では、授業アンケート結果(資料9-1-⑤-2)と教育プログラム委員会エビデンス部会による点検結果(授業点検シートB(資料9-1-⑤-3))や授業見学結果等をふまえ、個々の教員の改善活動状況を把握し(資料9-1-①-7)、必要な場合には指導を行い、その結果を授業点検シートBに記入している(資料9-1-⑤-4)。

資料 9-1-⑤-1

授業点検シート A (授業担当教員用)

授業科目名	講義・演習・実験
対象学科・専攻名	通年・前期・後期
対象学年	
担当者名	
記入日	平成17年10月14日

以下の質問にお答えください。

1. 本授業科目の到達目標を十分説明しましたか?  はい  いいえ
2. 授業の冒頭でシラバスの内容を説明しましたか?  はい  いいえ
3. 授業はシラバスの内容どおりにできましたか?  はい  いいえ
4. 学生の理解を確認しながら授業をすすめましたか?  はい  いいえ
5. 成績評価はシラバスどおりに行いましたか?  はい  いいえ
6. 成績評価の根拠となる資料は残していますか?  はい  いいえ
7. 答案を返却し達成度を周知させていますか?  はい  いいえ

8. 学生の興味や理解度を高めるために特別な工夫があれば記入してください。
- 縮約のテーマを選ぶ際に、技術に関わるものや、タイムリーなものを採用した。
9. 学生からのアンケート結果等をどのように授業に反映させましたか?
- 特に改善を求められていた部分で昨年と同様の内容を行った。
10. 来年度に向けた授業改善計画を記入してください。
- ディベート発表会が夏休み明けにあたるため、学生は準備等に困ったようであった。実施時期を再検討したい。

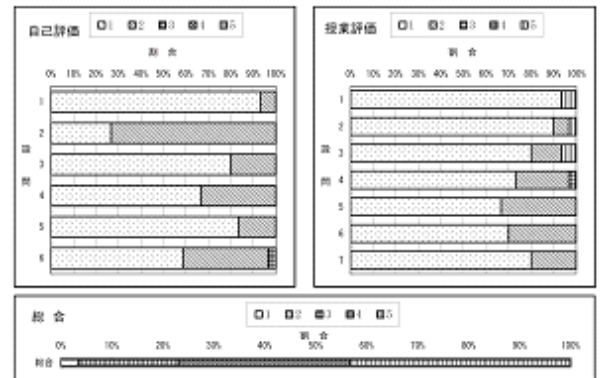
(出典：学生課資料)

資料 9-1-⑤-2

授業アンケート結果例

(科目名)	(必修・選択)	(学年)	(クラス)	(単枚)	(回答数)

段階	評 価					無回答	平均
	1	2	3	4	5		
自己評価	1	28 (93.3%)	2 (6.7%)			0 (0.0%)	1.01
	2	8 (26.7%)	22 (73.3%)			0 (0.0%)	1.72
	3	21 (50.0%)	6 (20.0%)			0 (0.0%)	1.20
	4	20 (56.7%)	10 (28.3%)			0 (0.0%)	1.38
	5	25 (83.3%)	5 (16.7%)			0 (0.0%)	1.11
	6	17 (56.7%)	11 (36.7%)	1 (3.3%)		1 (3.3%)	1.43
	授業評価	1	28 (93.3%)	0 (0.0%)			2 (6.7%)
2		27 (90.0%)	2 (6.7%)			1 (3.3%)	1.01
3		24 (50.0%)	8 (13.3%)			2 (6.7%)	1.14
4		22 (73.3%)	7 (23.3%)	1 (3.3%)		0 (0.0%)	1.30
5		20 (56.7%)	10 (28.3%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)	1.38
6		21 (70.0%)	9 (30.0%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)	1.30
7		24 (50.0%)	6 (20.0%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)	1.20
総合	1 (3.3%)	0 (0.0%)	6 (20.0%)	10 (33.3%)	13 (43.3%)	0 (0.0%)	4.18



(出典：学生課資料)

資料9-1-⑤-3



授業点検シートB (エビデンスWG & FD委員 用)

授業科目名	(講義)・演習・実験
対象学科・専攻名 対象学年	通年・(前期)・後期
担当者名	

18.5.09

資料チェック (あるもの○, ないもの×, 該当しないもの斜線)

シラバス	<input type="radio"/>	総合成績評価表	<input type="radio"/>	授業点検シート	<input type="radio"/>	授業アンケート	
試験問題	<input type="radio"/>	模範解答	<input checked="" type="radio"/>	答案, レポート	<input type="radio"/>	課題など	<input type="radio"/>
配付資料	<input type="radio"/>	教科書 or 講義 ノート					

シラバス

1. 達成目標(到達目標)と学習・教育目標との対応が明確であるか。
2. 他の科目との関連が明確であるか。
3. 合格のレベルは, 社会の要求を反映しているか。
4. 授業はシラバス通りに行われているか。

試験問題・答案

1. 試験とその評価方法は適切であるか。
2. 達成目標(到達目標)の達成度を評価できるか。
3. プログラムの水準に達した者のみを合格させているか。
4. 達成度を学生に周知させているか。

授業方法

1. 授業の方法, 準備状況は適切か。

改善事項

模範解答の代わりに採点基準を示して下さい。 a.k.

担当教官のコメント

(出典: 学生課資料 授業点検シートBの例)



**観点 9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。**

(観点に係る状況)

教育方法の研究は、各教員の努力でなされており、学会誌等に発表し(資料9-1-⑥-1)、研究成果をふまえた授業も実践されている(資料9-1-⑥-2, 3)が、実績は多くない。専門分野における研究成果は積極的に取り入れられ、この事は卒業研究テーマの変遷からも分かる(資料9-1-⑥-4)。準学士課程の卒業研究や、専攻科課程の特別研究においては、教員の専門分野をふまえた研究テーマで指導を行っている。専攻科では、学位授与機構の審査による学士取得を目指し、全員に学外発表を科しているため(資料9-1-⑥-5, 6)、必然的に特別研究は教員の専門分野の研究活動と連携した教育となっている(資料9-1-⑥-7)。

**資料 9-1-⑥-1****自己評価点検・校務業績ポイント表(平成18年度)(抜粋)****I-A2 教育の質の改善への研究活動の寄与**

研究活動(専門分野の研究や教育方法の研究)により得られた知見や成果などを教育内容・方法の改善に活かした具体的事例があれば記入して下さい。

電磁気学および電気回路の学習において学生をつまずくところとその対処法についての研究成果“電気回路・電磁気学の学力向上のための電気数学の設計”, 電気学会論文誌A (IEEJ Trans. FM) Vol.126, No.7, 2006.  
から、「大学1年生のための電気数学」という著書を公にし、電磁気学の講義に役立てた。

(出典:総務課資料)

**資料 9-1-⑥-2****自己評価点検・校務業績ポイント表(平成18年度)(抜粋)****I-A2 教育の質の改善への研究活動の寄与**

研究活動(専門分野の研究や教育方法の研究)により得られた知見や成果などを教育内容・方法の改善に活かした具体的事例があれば記入して下さい。

西洋現代哲学のフッサール現象学に関する研究で平成18年3月に「博士(文学)[筑波大学]」を取得したが、その研究途上で拙著『フッサールの現象学的還元』(晃洋書房,平成15年2月)を刊行し、その研究成果は平成16年~18年度の専攻科2年生の授業科目「哲学特論I・II」で授業用テキストとして活かされた。さらに、研究の進展に伴い拙著『フッサールの脱現実化的現実化』(晃洋書房,平成18年8月)を刊行し、その研究成果は平成19年度の専攻科2年生の授業科目「哲学特論I・II」で授業用テキストとして活かされる予定である。また、共著『哲学・倫理学概論』(学習図書出版社,平成13年1月)は、平成14年度~18年度の本科2年生の授業科目「倫理」の教科書として活かされた。

(出典:総務課資料)

資料 9 - 1 - ⑥ - 3

教科目名 哲学特論 I (Special Lecture on Philosophy I)

専攻名・学年 : 全専攻 2 年 (教育プログラム 第 4 学年 ©科目)  
 単位数など : 必修 2 単位 (前期 1 コマ, 学習保証時間 22.5 時間)  
 担当教員 : 堀 栄造

回	授業項目	内容	理解度の自己点検 【試験の度合い】
1	心理主義的立場	○心理主義的立場について理解できる	【試験の度合い】 【試験の点数】
2	反心理主義的心理学	○現象学的イデア学について理解できる	
3	反心理主義的イデア学	○還元思想の萌芽の生成について理解できる	
4	現象学的イデア学	○表在的次元からの脱却の萌芽について理解できる	
5	還元思想の萌芽の生成	○現象学的反省の可能性について理解できる	
6	表在的次元からの脱却の萌芽	○現象学的還元の着想について理解できる	
7	現象学的反省の可能性	○現象学的還元について理解できる	
8	前期中間試験の解答と解説	○前期中間試験の解答と解説	
9	前期中間試験	○前期中間試験の解答と解説	
10	現象学的還元	○現象学的還元について理解できる	
11	現象学的還元	○現象学的還元について理解できる	
12	現象学的還元	○現象学的還元について理解できる	
13	反省領域全体の非還元化	○反省領域全体の非還元化について理解できる	
14	志向の構成と存在現象	○志向の構成と存在現象について理解できる	
15	前期期末試験	○前期期末試験の解答と解説	
<p>履修上の注意 ノートをしっかり取り、積極的に発言すること。</p> <p>教科書 堀栄造著、『フッサールの現象学的還元』、晃洋書房、2006年。</p> <p>参考図書 堀栄造著、『フッサールの現象学的還元』、晃洋書房、2003年。</p> <p>参考書籍 事前に教科書を読んでおくこと。</p> <p>関連科目 哲学特論 II、哲学概説、倫理。</p> <p>総合評価 定期試験により評価する。評価が 60 点以上を合格とする。</p>			

教科目名 倫理 (Ethics)

専攻名・学年 : 全学科 2 年  
 単位数など : 必修 2 単位 (前期 1 コマ, 後期 1 コマ, 学習保証時間 45 時間)  
 担当教員 : 堀 栄造

回	授業項目	内容	理解度の自己点検 【試験の度合い】
1	哲学・思想とは何か	○ミレトス学派やエレア学派の自然哲学について理解できる	【試験の度合い】 【試験の点数】
2	自然哲学者たち	○知覚合一、イデア論、形相と質料について理解できる	
3	ソフィスト	○ソフィストについて理解できる	
4	ソクラテス	○ソクラテスの教義の基礎について理解できる	
5	プラトン	○プラトンの教義の基礎について理解できる	
6	アリストテレス	○アリストテレスの教義の基礎について理解できる	
7	キリスト教	○キリスト教の教義の基礎について理解できる	
8	前期中間試験	○前期中間試験の解答と解説	
9	前期中間試験	○前期中間試験の解答と解説	
10	キリスト教	○キリスト教の教義の基礎について理解できる	
11	イスラム教	○イスラム教の教義の基礎について理解できる	
12	仏教	○仏教の教義の基礎について理解できる	
13	儒教	○儒教の教義の基礎について理解できる	
14	道教	○道教の教義の基礎について理解できる	
15	近代教	○近代教の教義の基礎について理解できる	
16	デカルト	○デカルトの教義の基礎について理解できる	
17	ペーコン	○ペーコンの教義の基礎について理解できる	
18	ホッブズ	○ホッブズの教義の基礎について理解できる	
19	ロック	○ロックの教義の基礎について理解できる	
20	ルソー	○ルソーの教義の基礎について理解できる	
21	カント	○カントの教義の基礎について理解できる	
22	カント	○カントの教義の基礎について理解できる	
23	後期中間試験	○後期中間試験の解答と解説	
24	後期中間試験	○後期中間試験の解答と解説	
25	実存主義とは	○実存主義について理解できる	
26	キルケゴール	○キルケゴールについて理解できる	
27	ニーチェ	○ニーチェについて理解できる	
28	ハイデガー	○ハイデガーについて理解できる	
29	サルトル	○サルトルについて理解できる	
30	ヤスハース	○ヤスハースについて理解できる	
<p>履修上の注意 しっかりと復習すること。</p> <p>教科書 松島隆裕 編、『哲学・倫理学概論』、学術図書出版社。</p> <p>参考図書 哲学特論 I・II (専攻科 2 年)、哲学概説 (5 年)、思想史 (5 年)。</p> <p>総合評価 定期試験により評価する。評価が 60 点以上を合格とする。</p>			

(出典：シラバス 研究成果を授業に生かしている例)

平成16年度 卒業研究テーマ一覧

機械工学科 研究テーマ 研究員名 学生氏名

電気工学科 研究テーマ 研究員名 学生氏名

制御情報工学科 研究テーマ 研究員名 学生氏名

土木工学科 研究テーマ 研究員名 学生氏名

機械工学科 研究員名 研究員名 研究員名 研究員名 研究員名

電気工学科 研究員名 研究員名 研究員名 研究員名 研究員名

土木工学科 研究員名 研究員名 研究員名 研究員名 研究員名

(出典：明野通信 卒業研究テーマの変遷)

大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラム履修規則

別表

各学習・教育目標の評価方法

学習・教育目標	関連する基準 1(I) (a)～ (h)の項目	評価方法	備考	
(A) 愛の精神  世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養、自ら考える力、いっしょの心を身につける	(A1) 自ら考える力を身につける (1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること (2) 情報を収集し、論理的に自らの考えを構築することができること (3) 事実と自らの考え、他者の考えと自らの考えとを区別できること  (A2) 技術者としての倫理を身につける (1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること	(a)	(i) ◎科目を全て修得していること (ii) (平成14年度以前入学生) ○科目のうち、特別研究、日本語表現法(国語特講I～V)、プロジェクト演習IVのほか1科目以上修得していること (平成15年度以降入学生) ○科目のうち、特別研究、プロジェクト演習IVのほか2科目以上修得していること (iii) プロジェクト演習IVにおけるディベート試験に合格すること	
(B) 科学や工学の基礎  科学の粋を極める技術者に必要な数学、自然科学、情報技術、専門工学の基礎を身につける	(B1) 数学、自然科学の力を身につける (1) 数学の基本的な問題が解けること (2) 自然現象の本質を問う問題が解けること  (B2) 情報技術、専門工学の基礎を身につける (1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること	(c) (g)	(i) ◎科目を全て修得していること (ii) (平成14年度以前入学生) ○科目のうち、宇宙地球科学のほか1科目以上修得していること (平成15年度以降入学生) ○科目のうち、宇宙地球科学のほか2科目以上修得していること (iii) (B1)に関する総合的試験において60点以上とることまたは技術士一次試験に合格していること	
(C) コミュニケーション能力  地域や国際舞台での活躍をめざして、多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける	(C1) 表現する力、ディスカッションする力を身につけることについて (1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき、そのテーマについて議論できること  (C2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける (1) 英語で表現された文章を理解でき、英語による簡単なコミュニケーションができること	(f)	(i) ◎科目及び○科目を修得していること (ii) 学外団体主催による研究会等において発表を行うこと	
(D) 技術者としてのセンス  創造的技術者としてのセンスを磨き、探求心、分析力、イメージ力を身につける	(D1) 探求心、分析力、イメージ力、デザイン能力を身につける (1) 技術的対象に対して、計測測定を行い、問題を分析することができ、そのものやシステムを創造するために結果を得る (2) ものやシステムをデザインし、その結果を得る (3) 果敢とした方法で問題を深く掘り下げる努力ができること  (D2) 協力して問題を解決する力を身につける (1) 問題をチームで解決する体験を得ること (2) 問題解決を分担化し、自らの分担を見定めて行動できること	(d2b) (e) (d1) (d2c) (g) (h)	◎科目を全て修得していること	
(E) 専門工学の活用  専門工学の知識を修得してその相互関連性を理解し、これを活用する力を身につける	(E1) 専門工学の知識を獲得する (1) 自らの専門性に即して、一つの分野を深く掘り下げることで専門工学の知識があること  (E2) 工学の相互関連性を理解する (1) 技術が、ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること (2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること  (E3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し、解決する力を身につける (1) 自らの専門分野において、問題の所在と性質を見極め、その対処法あるいは解決法をデザインし、これを実行することができること	(d2a) (d2a) (d1) (e) (d2c) (d2b) (e) (h) (g)	(i) ○科目のうち、10科目以上修得していること (ii) 専門性に即した小論文試験で、60点以上とること、または学位取得のための小論文試験に合格すること  (i) ◎科目を全て修得していること (ii) (平成12年度入学生) 自らの専門以外の○科目の中から、1科目以上を修得していること (平成13年度以降入学生) ○科目の中から、2科目以上修得していること。ただし、その内1科目以上は、自らの専門以外の科目であること	

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料 9 - 1 - ⑥ - 6

専攻科生の学会発表の履歴

■平成 16 年度入学(2 期生) 学会発表の履歴■

■平成 17 年度入学(3 期生) 学会発表の履歴■

	テーマ	走査型電気化学顕微鏡による Cr 合金の耐食性評価		テーマ	コンジョイント分析を用いた歩道景観の評価に関する研究 (街路樹と歩道デザインを対象として)	
2	MC	学会 第 11 回高専シンポジウム (長岡)		2	MC	学会 第 11 回高専シンポジウム (長岡)
	テーマ	製鉄所副産物を混入した土の強度, 変形特性に関する一考察			テーマ	歩行者空間のデザインが景観評価に及ぼす影響
3	MC	学会 日本機械学会九州学生会第 36 回卒業研究発表講演会		3	MC	学会 平成 18 年度土木学会西部支部研究発表会
	テーマ	非 Pd 系水素透過膜の機械的特性評価			テーマ	底泥内部への乱れの浸透が物質移動に及ぼす影響
4	MC	学会 平成 16 年度土木学会西部支部研究発表会		4	MC	学会 第 12 回高専シンポジウム (三島)
	テーマ	鉄鋼スラグによる温泉噴気中の硫化水素吸着実験			テーマ	製鉄所副産物を用いた火山灰質粘性土の安定処理効果について
5	MC	学会 土木学会第 59 回年次学術講演会		5	MC	学会 平成 17 年度土木学会西部支部研究発表会
	テーマ	橋脚損傷に与える上下動地震波の影響に関する解析的研究			テーマ	共分散構造分析を用いた V S P の評価に関する研究 (企業を対象として)
6	MC	学会 平成 15 年度土木学会西部支部研究発表会		6	MC	学会 平成 17 年度土木学会西部支部研究発表会
	テーマ	幾何学的非線形性を考慮した R C 橋脚の地震応答解析			テーマ	住民グループを対象としたアダプト・プログラムの評価に関する基礎的研究
7	MC	学会 平成 16 年度土木学会西部支部研究発表会		7	MC	学会 日本機械学会 2006 年度年次大会
	テーマ	終局曲率曲面を用いた R C 橋脚の動的耐震照査法に関する研究			テーマ	振動切削における切削速度向上に関する研究
8	MC	学会 コンクリート工学年次論文集 Vol.27, 2005.6		8	MC	学会 精密工学会九州支部第 7 回学生研究発表会
	テーマ	Flexibility 法を用いた長大スパン R C アーチ橋の地震応答の評価			テーマ	振動切削系に生じる動的挙動に関する研究
9	MC	学会 土木学会第 60 回年次学術講演会		9	MC	学会 第 6 回九州地区流体力学研究会トークイン (九重)
	テーマ	コンクリート製アーチ橋に及ぼす地震波入力方向の影響に関する研究			テーマ	廃熱ボイラのダスト酸化効率向上に関する研究
10	MC	学会 平成 15 年度土木学会西部支部研究発表会		10	MC	学会 平成 18 年度土木学会西部支部研究発表会
	テーマ	アユの生態と河川水質との関係について			テーマ	大分県番匠川河口域におけるアサリ漁獲量低下に関する実験的考察
11	MC	学会 日本機械学会九州支部大分地方講演会		11	MC	学会 第 12 回高専シンポジウム
	テーマ	各種材料の回転曲げ疲労寿命に及ぼす繰返し速度の影響 (超高速回転曲げ疲労試験)			テーマ	温泉地すべり地における地下水の水温, p H, 電気伝導率に関する一考察
12	MC	学会 日本機械学会九州学生会第 36 回卒業研究発表講演会		12	MC	学会 平成 18 年度土木学会西部支部研究発表会
	テーマ	超高速回転曲げ疲労試験機の製作			テーマ	別府市明礬地すべり地の地下水性状について
13	MC	学会 第 43 回燃焼シンポジウム		13	MC	学会 日本機械学会九州学生会第 37 回卒業研究講演会
	テーマ	高圧下における P M M A の対向流中の燃え広がり			テーマ	不感性推進薬の熱伝導率および熱拡散率の同時測定
14	MC	学会 第 10 回高専シンポジウム		14	ES	学会 第 1 1 回高専シンポジウム
	テーマ	非日常空間における歩道デザインに関する研究			テーマ	大気揺らぎを通して観測された多数枚の劣化観測像からの像回復
15	MC	学会 平成 16 年度土木学会西部支部研究発表会		15	ES	学会 第 5 回電子情報系高専フォーラム
	テーマ	ポリマーセメントモルタルの最適吹付け方法に関する一考察			テーマ	分散オブジェクトによる分散処理システムの実装
16	MC	学会 平成 17 年度土木学会西部支部研究発表会		16	ES	学会 FIT2006 第 5 回情報科学技術フォーラム
	テーマ	吹付けモルタル工法の締固め度評価に関する研究			テーマ	心理的抵抗感の軽減と利便性の向上を目的としたバ イオメトリック認証
17	MC	学会 M & M 2005 材料力学カンファレンス		17	ES	学会 平成 1 7 年度電気関係学会九州支部連合大会
	テーマ	S U S 3 0 4 鋼の疲労寿命予測 (温度変化を伴う場合)			テーマ	JavaSpaces を用いた並列遺伝的アルゴリズム
18	MC	学会 日本機械学会九州学生会第 36 回卒業研究講演会		18	ES	学会 第 7 回 I E E E 広島支部学生シンポジウム
	テーマ	S U S 3 0 4 鋼における疲労試験中の温度変化と疲労寿命との関係			テーマ	T C R の認識多様性を考慮した免疫的ネットワーク
19	MC	学会 日本機械学会学生会第 36 回卒業研究発表講演会		19	ES	学会 平成 18 年度 第 5 回 電子情報系高専フォーラム
	テーマ	種々の材料に対する振動切削加工面の比較			テーマ	心理聴覚モデルを用いたノイズキャンセラに関する一考察
20	ES	学会 平成 1 7 年度第 4 回「電子情報系高専フォーラム		20	ES	学会 第 1 1 回高専シンポジウム
	テーマ	傷信号の抽出方法に関する一提案			テーマ	位相変調を用いた光波形成法
21	ES	学会 平成 1 7 年度第 4 回「電子情報系高専フォーラム		21	ES	学会 第 5 回電子情報系高専フォーラム
	テーマ	誘導電動機ベクトル制御方式の実験装置の開発			テーマ	携帯電話を用いた Web システムの研究
22	ES	学会 平成 1 7 年度第 4 回「電子情報系高専フォーラム				
	テーマ	局所的分散表現を持つ自己組織化マップ				
23	ES	学会 平成 1 6 年度第 3 回「電子情報系高専フォーラム				
	テーマ	コスト関数と像の拘束条件とを用いたブラインドデコンボリューション法				
24	ES	学会 平成 1 7 年度電気関係学会九州支部連合大会				
	テーマ	抵抗負荷ソフトスイッチング単相 A C レギュレータ				
25	ES	学会 平成 1 6 年度第 3 回「電子情報系高専フォーラム				
	テーマ	相関を持った記憶パターンを学習させた連想記憶モデルの偽記憶				

(出典: 専攻科資料)



資料 9 - 1 - ⑥ - 7

平成 18 年度入学生 特別研究テーマ一覧

専攻	特別研究テーマ	専攻	特別研究テーマ
MC	FC200 製グリース潤滑すべり軸受の潤滑性能	ES	認識多様性と柔軟性を考慮した免疫的ネットワーク
	高速度鋼製フライツールによる高速切削の研究		電磁界解析を用いたRFID用アンテナに関する研究
	大分県番匠川河口干潟におけるアサリの育成阻害要因		ステンレス鋼の外的要因による電磁的性質への影響
	金属材料の疲労強度に及ぼす歪速度と温度の影響		モバイルエージェントを用いた免疫アルゴリズムによる胸部X線写真における腫瘍陰影の検出
	軽合金鋼の応力繰返しに伴う変形量の変化		遺伝的アルゴリズムを用いたノイズ入りボケ画像の復元
	5A族水素透過膜の低水素濃度状態における延性-脆性遷移挙動		プラズマアークジェットを用いたナノ粒子生成に関する研究
	数値シミュレーションによる廃熱ボイラ内気流の可視化		渦電流法による構造用金属材料の疲労評価手法の開発
	高炉セメントB種を用いた寒中コンクリートの強度回復		Web技術を用いたデータ処理の研究
	地球温暖化及び都市化が環境生態系に及ぼす影響に関する研究		局所的分散表現を持つ自己組織化マップ
	振動切削における切削速度向上に関する研究		認識多様性と柔軟性を考慮した免疫的ネットワーク
	河川の水環境と生態系に関する研究		
	都市道路における雨水排除に関する研究		
	道路愛称に関する研究		

平成 17 年度入学生 特別研究テーマ一覧

専攻	特別研究テーマ	専攻	特別研究テーマ
MC	コンジョイント分析を用いた歩道景観の評価に関する研究	ES	大気ゆらぎを通して観測された多数枚の劣化観測像からの像回復
	道床沈下量予測に関する研究の現状と問題点		分散処理システムの研究
	製鉄所副産物を用いた火山灰質粘性土の安定処理効果に関する研究		画像処理を用いたバイオメトリック個人認証
	企業の環境保全活動とボランティア・サポート・プログラム		オブジェクト共有空間を用いた並列免疫アルゴリズムによる胸部X線画像における肺癌陰影の検出
	アダプト・プログラム参加者の評価構造の分析		生体の免疫機能を有する免疫的ネットワークとその工学的応用
	振動切削系の動的挙動に関する研究		心理聴覚特性を利用した Spectrum Subtraction 法に関する研究
	廃熱ボイラのダスト酸化効率向上に関する研究		位相変調による光波形成
	非Pd系水素透過膜の水素透過能及び延性-脆性遷移挙動		携帯電話を用いた Web システム
	河口干潟の物理化学的特性が二枚貝の育成に及ぼす影響に関する研究		
	温泉地すべりの安定性に関する研究		

平成 16 年度入学生 特別研究テーマ一覧

専攻	特別研究テーマ	専攻	特別研究テーマ
MC	走査型電気化学顕微鏡による高純度CaMおよび合金の不動態皮膜の不均一性の可視化	ES	傷信号の抽出方法に関する研究
	製鉄所副産物の地盤改良材としての適用性に関する研究		誘導電動機ベクトル制御方式の実験装置の開発
	非パラジウム系水素透過膜の機械的特性評価		局所的分散表現を持つ自己組織化マップ
	鉄鋼スラグを用いた強酸性温泉地におけるコンクリート構造物の劣化対策		コスト関数と像の拘束条件とを用いたブラインドデコンボリューション法
	コンクリート製長大スパンアーチ橋の地震応答特性に関する基礎的研究		ソフトスイッチング AC レギュレータについて
	各種材料の回転曲げ疲労寿命に及ぼす繰返し速度の影響(超高速回転曲げ疲労試験)		構造を持つ記憶パターンを学習した連想記憶モデルの偽記憶
	高圧下における PMMA の燃焼特性に関する研究		
	PI を活用した歩道デザインの決定とその評価について		
	ポリマーセメントモルタルの最適施工法に関する研究		
	SUS304 鋼の疲労強度に及ぼす温度の影響を考慮したマイナー則に関する研究		

(出典：Web ページ)

(分析結果とその根拠理由)

教育方法の研究は各教員の努力でなされ、この成果をふまえた授業が一部の教員によって実践されているがその数は多くない。

専門分野における研究成果や教員の研究内容は、特に卒業研究や特別研究を通じた教育に強く反映されている。

**観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。**

(観点到に係る状況)

ファカルティ・ディベロップメント(FD)は、FD委員会が計画し実施している(資料9-1-①-7)。カリキュラム、学校運営、学生指導等のバランスに注意しながら、講演会を企画しており(資料9-2-①-1)、原則として全教員が参加することとなっている。外部の研修会等にも多くの教員が参加している(資料9-2-①-2)。年2回授業公開週間を設け、教員は誰でも授業を見学できるが、この期間外にもFD委員を中心に授業チェックを行なっている(資料9-2-①-3)。教員や教育プログラム委員会エビデンス部会による授業点検結果、授業アンケート結果、教員による自己評価点検・校務業績ポイント表等に基づき、FD委員により教員の点検・評価及び指導を行っている。模範となる教員や教育功労者は教育功労者表彰委員会に推薦され(資料9-2-①-4)、資質不足や教育活動に著しく問題のある教員はFD委員または校長が個別に指導する。

資料 9-2-①-1

F D 講演会開催一覧

実施年月日	実施時間	実施形態	テ ー マ 等	講 師 等	出席者数 (人)
H15. 5. 12	16:30 ～17:30	報告	「JABEE 準備状況報告」	大分高専 高 橋 徹	5 6
H15. 5. 22	16:30 ～17:30	報告	教育研究集会報告 「英語が使える日本人」育成の ためのフォーラム報告	大分高専 穴 井 孝 義	5 3
H15. 6. 19	17:30 ～19:00	講演	「学内における JABEE の状況と 検討課題」	大分高専 高 橋 徹	4 3
H15. 7. 9	16:30 ～18:00	報告	国語科の新課程への移行について (1 学年の科目「国語表現」 を中心に)	大分高専 相 本 正 吾	5 6
H15. 9. 18	17:30 ～18:30	報告	海外留学報告 「ミシガン州立大電気コンピュー ター工学科の教育と研究について」	大分高専 岡 茂 八 郎	5 0
H15. 11. 27	17:30 ～19:00	報告	教育研究集会報告 「高専における国語コミュニケー ションスキル教育の評価と改善」	大分高専 相 本 正 吾	5 3
			教育研究集会報告 「高専教育の向上に向けて」	大分高専 武 口 博 文	

H16. 1. 19	16:30 ～18:00	報告	「JABEE 関係について」	大分高専 加 治 俊 夫 高 橋 徹	5 4
H16. 3. 17	13:30 ～15:00	報告	「新学期に向けての教務関係説明及び JABEE 関係について」	大分高専 大 石 隼 人 高 橋 徹	5 1
H16. 7. 7	16:20 ～18:30	報告	「認証評価について」	大分高専 沖 憲 典	5 5
H16. 11. 8	16:15 ～17:30	報告	教育研究集会報告 「高専における進路指導のあり方について」	大分高専 佐 野 博 昭	3 9
H16. 11. 30	16:15 ～18:00	講演	「技術者教育認定制度について—一人ひとりがなすべき事—」	日本工学教育協会 椿 原 治	5 6
H16. 12. 3	16:15 ～17:30	報告	在外研究報告	大分高専 菊 川 裕 規	2 8
H16. 12. 10	16:15 ～18:00	報告	平成 1 6 年度各科各学年の目標の達成状況及び今後の課題	各科主任 各学年主任	5 3
H17. 7. 20	16 : 15 ～17 : 30	講演	「指導が難しい学生の理解と支援」	大分高専カウンセラー 古 賀 精 治	4 4
H17. 12. 14	14 : 30 ～16 : 00	報告	帰朝報告 (アメリカ・ドイツ)	大分高専 松 本 佳 久	4 6
H17. 12. 16	14 : 30 ～16 : 35	報告	P B L 教育について	教員研究集会参加教員 (薬師寺・本田・嶋田・高見)	5 0
			帰朝報告 (シンガポール)	大分高専 佐 藤 秀 則	
H18. 1. 30	16 : 15 ～18 : 15	報告	高専教員研修 (クラス経営・生活指導研修会)	高専教員研修参加者 (靄・高見)	4 3
			碩信高校の入試説明会に出席して	大分高専 一 宮 一 夫	
H18. 3. 3	16 : 20 ～17 : 50	講演	高専と第 3 者評価	茨城高専教務主事 柴 田 尚 志	3 9
H18. 9. 15	14 : 00 ～16 : 10	講演	高等専門学校機関別認証評価について	大学評価・学位授与機構評価研究部 野澤 庸則 教授	6 9
H18. 9. 20	15 : 00 ～17 : 15	報告	PBL 研修会の報告 (於熊本電波高専, TEMASEK)	PBL 研修会参加者 (菊川, 佐藤, 嶋田, 高見)	5 0
H19. 1. 11	16 : 10 ～18 : 00	講演	技術士制度と修習	日本技術士会修習技術者支援実行委員会 坂本恵一 委員長 (日本大学生産工学部助教授)	8 4 (専攻科学生及び専攻科希望学生 39 人を含む。)
H19. 2. 6	13 : 00 ～15 : 00	講演	教育現場における著作権等の配慮について	金沢大学教育学部 加藤隆弘 助教授	3 8

(出典 : F D 委員会資料)

資料 9-2-①-2

## 九州沖縄地区国立工業高等専門学校教員研究集会日程

会 場：北九州工業高等専門学校 4号館1階 合併講義室

日 時	事 項
12月8日(木)	13:00 受 付
	13:15 開会式
	13:20 当番校校長挨拶
	13:30 特別講演 演題『沖縄高専におけるPBL教育について』 講師 沖縄高専 総合科学科 教授(教務主事) 望 月 謙 二
	14:20 質 問
	14:30 休 憩
	14:40 報告1.『専門科目への動機付けを目的とした初年度PBL教育』 八代高専 機械電気工学科 教授 縄 田 豊
	15:05 報告2.『機能するロボットパーツの作成』 大分高専 機械工学科 教授 栗師寺 輝 敏 電気電子工学科 助教授 本 田 久 平 制御情報工学科 助教授 嶋 田 浩 和 都市システム工学科 助教授 高 見 徹
	15:30 報告3.『大分高専都市システム工学科におけるPBL』 大分高専 都市システム工学科 助教授 高 見 徹
	15:55 休 憩
	16:05 報告4.『3個のステッピングモーターを用いたクレーンの設計製作』 北九州高専制御情報工学科 教授 寺 井 久 宣 制御情報工学科 助教授 久池井 茂
	16:30 報告5.『北九州高専電子制御工学科学生実験へのPBL導入の試み』 北九州高専電子制御工学科 教授 吉 野 慶 一 電子制御工学科 助教授 白 濱 成 希
	17:20 会場移動
18:30 情報交換会 コクラセントラルイン 2階 ホール 〒802-802 北九州市小倉北区古船場町1-1 Tel 093-511-6688	

(出典：総務課資料 研修会参加の例)

資料 9 - 2 - ① - 3

## 授業公開参観報告書

報告者氏名： ■ ■ ■ ■

実施日時：平成18年11月14日 水曜日 2限～2限

教科名：■■■■■■■■■■

担当者氏名：■■■■

アンケート項目
① 授業の目的は明確で、全体の構成がよく考えられていましたか。 [全体] よい
② 授業の準備がよくされていきましたか。 [準備] よい
③ 聞きやすい話し方でしたか。 [話し方] よい
④ 板書は読みやすく、スピードは適当でしたか。 [板書] よい
⑤ 授業の開始時間、終了時間は守られていましたか。 [時間] 授業の途中に参観しましたので不明です。
⑥ 学生の理解を確認しながら進められていきましたか。 [理解度の確認] よい
⑦ 課題の指示がありましたか。 [自宅学習] 授業終了前に退室しましたので確認していません。
所見 随時、学生に質問を投げかけるなど授業に興味を引くように工夫をされています。 関連する事例の解説も多く、専攻科の講義として十分な内容と思われま

(出典：学生課資料)

資料 9 - 2 - ① - 4

## 大分工業高等専門学校教育功労者表彰規程

制 定 平成17年3月14日  
改 正 平成19年3月14日

(趣旨)

**第1条** この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則（平成16年4月1日独立行政法人国立高等専門学校機構規則第6号）第43条第3号の規定に基づき大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育、学校運営及び社会貢献に関して、特に顕著な功績を挙げた者（以下「教育功労者」という。）の表彰に関し、必要な事項を定めるものである。  
(表彰候補者)

**第2条** 教育功労者の表彰候補者は、次に掲げる各号の一に該当する者（本校教職員以外の者も含む。）から選考するものとする。

- 一 講義、演習、実験・実習及びクラス運営等において新たな方法を創案し、その実践を行い、特に教育効果を高めた者
- 二 クラス担任等の業務及び学生の課外活動への監督・指導を通して学生への教育に特に功績があった者
- 三 教育に関する研究を通して特に功績があった者
- 四 社会貢献に関し、特に本校の名誉を高めた者
- 五 各種委員会等を通して本校の学校運営に特に功績があった者  
（教育功労者選考委員会の設置）

**第3条** 校長は、前条に掲げる表彰候補者を選考するに当たり、大分工業高等専門学校教育功労者選考委員会（以下「委員会」という。）を設置するものとする。

- 2 委員会は、原則として毎年度6月末日までに開催し、前年度の教育功労者に係る被表彰者を決定するものとする。  
（委員会の構成）

**第4条** 委員会の構成は次のとおりとし、校長を委員長とする。

- 一 校長
  - 二 教務主事
  - 三 学生主事
  - 四 寮務主事
  - 五 専攻科長
  - 六 事務部長
  - 七 その他校長が必要と認めた者
- 2 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名する者がその職務を代行する。  
（候補適任者の推薦）

**第5条** 前条第1号から第6号に掲げる者、各科主任（各学科主任、一般科目文科系主任及び理科系（基礎専門を含む。）代表をいう。）及びFD委員会委員長は、第2条に該当する者がいる場合、別紙様式により候補適任者を委員長あて推薦するものとする。  
（表彰候補者の決定）

**第6条** 校長は、前条により推薦のあった候補適任者から表彰候補者を選考するため、委員会に選考を付託するものとする。

- 2 委員会は、前項により選考した表彰候補者を校長に報告するものとする。
- 3 校長は、前項の報告を受けて被表彰者を決定し、学校運営委員会に報告するものとする。  
（表彰の方法）

**第7条** 表彰は、校長が表彰状を授与して行う。なお、記念品を授与することができる。  
（事務）

**第8条** この規程に関する事務は、総務課人事係において処理する。  
（雑則）

**第9条** この規程に定めるもののほか、必要な事項は、校長が別に定める。

**附 則**

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

（出典：大分工業高等専門学校規則集）

（分析結果とその根拠理由）

FD委員会を中心に、講演会、学習会を企画運営し、毎回多くの教職員が参加しており、組織として適切な方法でファカルティ・ディベロップメントが実施されている。

観点 9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

(観点に係る状況)

FD 講演会や授業公開等を基に教員自身による点検と改善努力がなされ、その結果は毎年自己評価点検・校務業績ポイント表に記される(資料 9-2-②-1)。例えば、平成 17 年度の PBL 教員研究集会に参加して情報交換を行い、授業改善を行った結果が授業アンケート評価に反映された(資料 9-2-②-2, 3)。また、FD 委員会の指導で行った授業改善結果も自己評価点検・校務業績ポイント表に記されている。FD 委員会は改善結果を次年度の FD 講演会や学習会の企画に反映させている(資料 9-2-②-4)。

資料 9-2-②-1

自己評価点検・校務業績ポイント表(平成 18 年度)(抜粋)

I 学内での活動に対する自己評価

I-A1 授業

今年度に行ったすべての授業(実験実習、卒業研究も含む)について、「学生にどの程度実力をつけることができたか」を判断基準として学生からの授業アンケートも考慮に入れて下さい。概要欄には授業で工夫した点や努力した点等を具体的に示し、また問題点があればそれも記入して下さい。なお欠課時数は 90 分を 2、遅刻・早退は 3 回で 2 時間と換算して下さい。

前 期 , 後 期 , 通 年					
科 目 名	学科学年クラス	必修・選択	単 位 数	受 講 者 数	
講義回数	学年末平均点	A 取得者数	D 取得者数	学生の総欠課時数	授業アンケートの平均点
概 要	<p>専攻科の PBL 対応科目である。前期は機械・環境システム工学専攻と電気電子情報工学専攻の学生で構成される 4 グループで、互いの専門を生かし、協力しながら与えられた課題に挑む。課題は“ステッピングモータを使用したクレーンの制作”とする。グループで構想を練った企画を、種々の学問・技術を統合して現実のものとする。いわゆるデザイン能力が要求される。作品の製作過程に入っても実験の始め 15~30 分は教員を含めたグループ討議をする。週ごとに学生は活動記録を教員に提出することとした。各班とも期待以上に完成度の高い作品を制作する事が出来た。また、他学科専門性の理解や、自らの専門分野への自覚を深める事が出来た。前期終了後、学生へのアンケートおよび懇談会で意見を聞いた結果、本格的なものの作りを体験し、目標の達成度と満足度では高い評価が得られた。しかし、問題点として作品制作には時間外にも多大な時間を要したため学生への負担が大きかったことや、土木工学科出身の学生が力を発揮する場がないことなどが挙げられた。</p> <p>授業評価が昨年度より格段に改善した。</p>				

(出典：総務課資料 自己評価点検例)

## 資料 9 - 2 - ② - 2

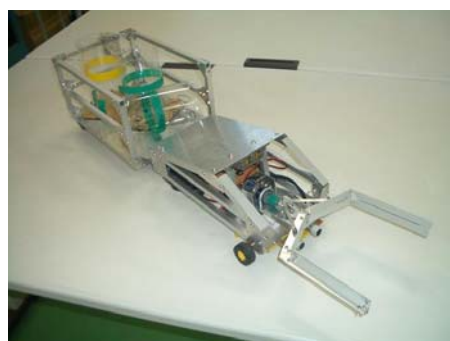
事例報告 2  
「機能するロボットパーツの作成」

大分工業高等専門学校	機械工学科	教授	薬師寺 輝敏
	電気電子工学科	助教授	本田 久平
	制御情報工学科	助教授	嶋田 浩和
	都市システム工学科	助教授	高見 徹

大分高専の学習教育目標 D1（探究心，分析力，イメージ力，デザイン能力を身につける）および D2（協力して問題を解決する力を身につける）を達成するために，専攻科 1 年前期，PBL 科目としてプロジェクト実験を行っている。機械・環境システム工学専攻と電気電子情報工学専攻の学生で構成される 4 グループで，互いの専門を生かし，協力しながら与えられた課題に挑む。課題は“機能するロボットパーツの作成”である。グループは 4～5 名で構成され，機械工学科，電気電子工学科，制御情報工学科および土木工学科出身の学生が均等に振り分けられている。グループで構想を練った企画を，種々の学問・技術を統合して現実のものとする，協調性とともデザイン能力が要求される教科である。4 学科から選出された各 1 名の教員がそれぞれの専門に沿った指導を行い，また，3 名の技術職員も技術的な指導を行う体制がとられている。作品の製作過程に入っても実験の始め 15～30 分間は教員を含めたグループ討議をする。また，週ごとに学生は活動記録を教員に提出し教員に進捗状況を報告する。この教科の達成目標は(1) グループ討議において他人の意見を聞き，自分の意見を他人に理解させることができる。(2) 問題解決を専門性に沿って分担化し，自らの分担を見定めて行動できる。(3) アイデアをイメージして，その結果を得る方法をデザインし，期限内に形にすることができる。(4) 作品の特徴を効果的にアピールできる。となっており，評価は，実験の態度（活動記録より審査）20 点，レポート 20 点，作品 30 点，プレゼンテーション 30 点の配点で，4 名の担当教員が評価する。また，グループのプロジェクトであるので個人評価ではなくグループ単位の評価としている。平成 17 年度は各班とも“機能するロボットパーツの作成”ではなく，単体で動くロボットを企画した。1 班は光の到来方向に対して常に垂直に面を向けるシステムを製作した。2 班はおかたづけクワガタと称し，地面にある物体を認識しそれを捕まえて自身の荷物スペースに収納するロボットを製作した。3 班はライトレースのトランスポーターを製作し，荷物の重さを感じて目的地を選択する機能および，ライン上に障害物がある場合でも一旦それを回避して元のラインに戻る機能をもたせた。4 班は飛距離を調整する機能を持ったfrisbee 投擲マシンを製作した。製作費用は各班 10 万円以内としている。結果として，各班とも期待以上に完成度の高い作品が仕上がった。また，他学科専門性の理解や，自らの専門分野への自覚を深める事が出来たと思われる。前期終了後，学生へのアンケートおよび懇談会で意見を聞いた結果，本格的なもの作りを体験し，目標の達成度と満足度では学生から高い評価が得られた。しかし，問題点として作品製作には時間外にも多大な時間を要したため学生への負担が大きかったことや，土木工学科出身の学生が力を発揮する場が少ないことなどが挙げられた。



仕分け機能付きトランスポーター



おかたづけクワガタ

(出典：平成 17 年度九州沖縄地区国立校長高等専門学校教員研究集会報告書)



資料 9 - 2 - ② - 3

シラバスの改善

平成 17 年度

平成 18 年度

教科目名 プロジェクト実験 I (Project-based Experiment I)			教科目名 プロジェクト実験 I (Project-based Experiment I)				
学科名・学年 : 電気電子情報工学専攻 1年 単位数など : 必修 1単位 (前期2コマ, 学習保証時間39時間) 担当教員 : 本田久平, 嶋田浩和, 薬師寺輝敏, 高見徹			学科名・学年 : 機械・環境システム工学専攻 電気電子情報工学専攻 1年 (教育プログラム 第3学年 ◎科目) 単位数など : 必修 1単位 (前期2コマ, 学習保証時間29.25時間) 担当教員 : 薬師寺輝敏, 本田久平, 嶋田浩和, 高見徹				
<b>授業の概要</b> 専攻科のPBL対応科目である。電気電子情報工学専攻と機械・環境システム工学専攻の学生がグループを作り、互いの専門を生かし、協力しながら与えられた課題に挑む。課題は「3個のモーターを使ったクレーンの製作」である。重量3kgの物体をA地点から高さの違うB地点まで壁を越えて運搬するクレーンを設計製作する。競技会では運搬の速さとクレーン稼働量が競われる。グループで構想を練った企画を、種々の学問・技術を統合して現実のものとする。いわゆるデザイン能力が要求される。作品の製作過程に入っても実験の始め15~30分間は教員を含めたグループ討議をする。進ごとに学生は活動記録を教員に提出することとする。			<b>授業の概要</b> 専攻科のPBL対応科目である。機械・環境システム工学専攻と電気電子情報工学専攻の学生がグループを作り、互いの専門を生かし、協力しながら与えられた課題に挑む。課題は「3個のモーターを使ったクレーンの製作」である。重量3kgの物体をA地点から高さの違うB地点まで壁を越えて運搬するクレーンを設計製作する。競技会では運搬の速さとクレーン稼働量が競われる。グループで構想を練った企画を、種々の学問・技術を統合して現実のものとする。いわゆるデザイン能力が要求される。作品の製作過程に入っても実験の始め15~30分間は教員を含めたグループ討議をする。進ごとに学生は活動記録を教員に提出することとする。				
<b>達成目標と評価方法</b> 大分高専目標 (D1) (D2) (E2), JABEE 目標 (d2a) (d2b) (d2c) (d2d) (e) (h) (i) (1) グループ討議において他人の意見を聞き、自分の意見を他人に理解させることができる。(活動記録, 10%) (2) 問題解決を専門性に沿って分担化し、自らの分担を見定めて行動できる。(活動記録, 10%) (3) アイデアを期限内に形にすることができる。(製作作品, 30%) (4) 作品の特徴を効果的にアピールできる。(プレゼンテーション, 30% レポート, 20%)			<b>達成目標と評価方法</b> 大分高専目標 (D1) (D2) (E2), JABEE 目標 (d2a) (d2b) (d2c) (d2d) (e) (h) (i) (1) グループ討議において他専門分野の意見を聞き、自分の意見を理解させることができる。(活動記録, 10%) (2) 問題解決を専門性に沿って分担化し、自らの分担を見定めて行動できる。(活動記録, 10%) (3) アイデアをイメージして、その結果を得る方法をデザインし、期限内に形にすることができる。(製作作品, 30%) (4) 作品の特徴を効果的にアピールできる。(プレゼンテーション, 30% レポート, 20%)				
回	授業項目	内容	理解度の自己点検	回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1	概要説明 テーマ選定	・実験の進め方の説明を行い、グループ分けを行い、グループが担当するテーマを決める。	【理解の度合い】	1	概要説明 アイデア創出	・実験の進め方の説明を行い、グループ分けを行い、グループで構想を練る。	【理解の度合い】
2	アイデア創出	・テーマに向けてグループで討議、アイデアを発表する。		2	機械実習	・金属の切断、穴あけ、旋削、フライス加工を体験する。	
3	討議、設計、製作	・設計、製作においてはおよそ次のような作業分担当を行う。		3	電気実習	・LED回路、PICプログラミング、ハンダ付け	
4	討議、設計、製作			4	討議、設計、製作		

平成17年度授業アンケート結果

(科目名)	(必修・選択)	(学年)	(クラス)	(単位)	(回答数)
プロジェクト実験	必修	1	AMC	2	11

設問	評 価					無回答	平均
	1	2	3	4	5		
自己評価	1	10 (90.9%)	1 (9.1%)			0 (0.0%)	1.09
	2	2 (18.2%)	9 (81.8%)			0 (0.0%)	1.82
	3	11 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	1.00
	4	9 (81.8%)	2 (18.2%)			0 (0.0%)	1.18
	5	9 (81.8%)	2 (18.2%)			0 (0.0%)	1.18
	6	5 (45.5%)	4 (36.4%)	1 (9.1%)		1 (9.1%)	1.60
授業評価	1	10 (90.9%)	0 (0.0%)			1 (9.1%)	1.00
	2	9 (81.8%)	1 (9.1%)			1 (9.1%)	1.10
	3	9 (81.8%)	1 (9.1%)			1 (9.1%)	1.10
	4	4 (36.4%)	4 (36.4%)	2 (18.2%)		1 (9.1%)	1.80
	5	5 (45.5%)	5 (45.5%)	0 (0.0%)		1 (9.1%)	1.50
	6	4 (36.4%)	5 (45.5%)	1 (9.1%)		1 (9.1%)	1.70
	7	5 (45.5%)	3 (27.3%)	0 (0.0%)		3 (27.3%)	1.38
総合	2 (18.2%)	1 (9.1%)	4 (36.4%)	1 (9.1%)	2 (18.2%)	1 (9.1%)	3.00

(科目名)	(必修・選択)	(学年)	(クラス)	(単位)	(回答数)
プロジェクト実験 I	必修	1	AES	1	8

設問	評 価					無回答	平均
	1	2	3	4	5		
自己評価	1	8 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	1.00
	2	1 (12.5%)	7 (87.5%)			0 (0.0%)	1.88
	3	8 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	1.00
	4	8 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	1.00
	5	8 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	1.00
	6	5 (62.5%)	1 (12.5%)	2 (25.0%)		0 (0.0%)	1.63
授業評価	1	8 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	1.00
	2	6 (75.0%)	2 (25.0%)			0 (0.0%)	1.25
	3	5 (62.5%)	3 (37.5%)			0 (0.0%)	1.38
	4	0 (0.0%)	7 (87.5%)	1 (12.5%)		0 (0.0%)	2.13
	5	1 (12.5%)	6 (75.0%)	1 (12.5%)		0 (0.0%)	2.00
	6	3 (37.5%)	4 (50.0%)	1 (12.5%)		0 (0.0%)	1.75
	7	4 (50.0%)	4 (50.0%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)	1.50
総合	5 (62.5%)	2 (25.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1.50

平成18年度授業アンケート結果

(科目名)	(必修・選択)	(学年)	(クラス)	(単位)	(回答数)
プロジェクト実験 I	必修	1	AMC	1	12

設問	評 価					無回答	平均
	1	2	3	4	5		
自己評価	1	12 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	1.00
	2	1 (8.3%)	10 (83.3%)			1 (8.3%)	1.91
	3	11 (91.7%)	1 (8.3%)			0 (0.0%)	1.08
	4	7 (58.3%)	4 (33.3%)			1 (8.3%)	1.36
	5	11 (91.7%)	0 (0.0%)			1 (8.3%)	1.00
	6	8 (66.7%)	3 (25.0%)	1 (8.3%)		0 (0.0%)	1.42
授業評価	1	12 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	1.00
	2	12 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	1.00
	3	12 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	1.00
	4	5 (41.7%)	6 (50.0%)	0 (0.0%)		1 (8.3%)	1.55
	5	6 (50.0%)	3 (25.0%)	1 (8.3%)		2 (16.7%)	1.50
	6	7 (58.3%)	4 (33.3%)	1 (8.3%)		0 (0.0%)	1.50
	7	7 (58.3%)	1 (8.3%)	0 (0.0%)		4 (33.3%)	1.13
総合	0 (0.0%)	1 (8.3%)	2 (16.7%)	6 (50.0%)	3 (25.0%)	0 (0.0%)	3.92

(科目名)	(必修・選択)	(学年)	(クラス)	(単位)	(回答数)
プロジェクト実験 I	必修	1	AES	1	8

設問	評 価					無回答	平均
	1	2	3	4	5		
自己評価	1	8 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	1.00
	2	4 (50.0%)	4 (50.0%)			0 (0.0%)	1.50
	3	8 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	1.00
	4	6 (75.0%)	2 (25.0%)			0 (0.0%)	1.25
	5	8 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	1.00
	6	7 (87.5%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)	1.13
授業評価	1	8 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	1.00
	2	8 (100.0%)	0 (0.0%)			0 (0.0%)	1.00
	3	7 (87.5%)	1 (12.5%)			0 (0.0%)	1.13
	4	4 (50.0%)	2 (25.0%)	2 (25.0%)		0 (0.0%)	1.75
	5	3 (37.5%)	5 (62.5%)	0 (0.0%)		0 (0.0%)	1.63
	6	1 (12.5%)	6 (75.0%)	1 (12.5%)		0 (0.0%)	2.00
	7	3 (37.5%)	4 (50.0%)	0 (0.0%)		1 (12.5%)	1.57
総合	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (62.5%)	2 (25.0%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	3.50

(出典：学生課資料 研修会参加により授業改善が行われて授業アンケート結果に表れた例)

資料9-2-②-4

平成19年度第2回FD委員会議事概要（抜粋）

日 時 平成19年6月4日16:20～17:25  
場 所 小会議室  
出席者 吉澤教務主事，清水専攻科長，薬師寺機械工学科主任，佐藤（秀）電気電子工学科主任，鶴沢制御  
情報工学科主任，島田都市システム工学科主任，堀一般科目（文系）主任，加治一般科目（理系）  
主任，前田事務部長  
列席者 総務課長，総務課課長補佐（総務担当）  
議 事

（省 略）

議題4 今後のFD活動について  
委員長から，E-learningやメンタルヘルスの重要性が増していることから講演会の提案があり，6月20日  
開催のメンタルヘルス講演会もFD講演会と位置づけて対応することになった。今後のFD活動については，  
昨年度までの活動経験を踏まえ委員長に意見を提案することになった。

（出典：FD委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動が授業や教育システムの改善に結びつくシステムになっており，自己評価点検・校務業績ポイント表の結果や講演会のテーマの変遷から，FDが実際に教育改善に有効に機能している。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

### (優れた点)

FD 委員会、教育システム委員会を中心に点検改善の仕組みが機能しており、学生、教員、学外から情報が収集、分析され、改善案を検討し実施する仕組みが自動的に機能していくシステムとなっている。

### (改善を要する点)

教育方法に関する研究成果の発表を促進する必要がある。

## (3) 基準 9 の自己評価の概要

教育の質の向上及び改善のために必要な情報は、学生による授業アンケート、学習・教育目標達成度チェック表、教員による授業点検シート A、自己評価点検・校務業績ポイント表、教育プログラム委員会エンビデンス部会による授業点検シート B、シラバス等から得ている。学習・教育目標達成度を評価する基準、教育組織、教育方法、教育環境等に関することについては、各種委員会から提出される教育システム点検改善シート、毎年の学生アンケート、卒業生へのアンケート、2年に一度の卒業生就職先へのアンケート等から得ている他、保護者会や学校説明会でも広く意見を収集している。FD 委員会主催の FD 講演会や授業公開によっても相互点検が行われ、その結果を収集している。これらの情報を基に、教員に対しては FD 委員会が検討を行い、カリキュラムの相互関係や学習・教育目標達成を促進するための適正化と改善については、教員連絡協議会、教務部委員会、専攻科運営委員会、教育プログラム委員会が検討を行う。学校全体で取り組む課題については、教育システム委員会で検討を行って改善案を提案し、学校運営委員会の決定を経て、各部署で実施している。このように教育の質の向上と改善が自動的に行われていくシステムになっており、その実績も上がっている。今後は、教員相互の連携をさらに密にして教育に関する情報の共有化を促進することで教育の質の向上の相乗効果を図ると同時に、学生とのコミュニケーションをベースにした改善システムを構築していく必要がある。



## 基準10 財務

## (1) 観点ごとの分析

観点 10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。  
また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

平成 16 年 4 月法人化の際、学校の目的に沿った教育研究活動のための資産は、開校以来の土地、施設、設備等が現物出資財産として出資された(資料 10-1-①-1)。これらは、将来にわたり教育研究活動に資するもので、過去 3 年の年額は、貸借対照表のとおり、車両運搬具及び工具器具備品を含め約 65 億円となっている。

債務は、平成 16 年度計上の長期借入金 712,827 千円(平成 14 年度施設整備資金貸付金)を、平成 17 年度末に施設整備資金貸付金償還時補助金で一括返済しており、長期借入金債務はない(資料 10-1-①-2)。

## 資料 10-1-①-1

## 現物出資財産受渡証書(抜粋)

受渡 平成 16 年 4 月 1 日

所在地	区分	数量	台帳価格	備考
大分県大分市大字 牧 1 6 6 6 番地外	土地	126,579.55 m <sup>2</sup>	5,708,507,428 円	内訳は別表のとおり
	立木竹	1,023 本	10,184,796 円	
	建物	建 15,052.88 m <sup>2</sup> 延 27,946.40 m <sup>2</sup>	2,107,985,918 円	
	工作物	一式	1,255,673,240 円	
	船舶			
	航空機			
	地上権等			
	計		9,082,351,382 円	

(不動産評価額) 6,618,307,633 円

土地	校舎, 宿舎	4,649,839,000 円
	上野	32,272,000 円
立木竹		13,305,625 円
建物	校舎	1,758,380,000 円
	宿舎	2,480,000 円
	上野	1,477,000 円
工作物	校舎	158,489,008 円
	宿舎	1,990,000 円
	上野	75,000 円

(出典：現物出資財産受渡証書)

資料 10-1-①-2

## 平成 16 年度貸借対照表 (抜粋)

## 資産の部

## II 固定資産

## 1 有形固定資産

## 建物

建物 1,271,302,103

建物附属設備 689,001,398 1,960,303,501

建物減価償却累計額 -238,607,298 1,721,696,203

構築物 203,128,578

構築物減価償却累計額 -47,255,556 155,873,022

車両運搬具 5,885,601

車両運搬具減価償却累計額 -1,045,594 4,840,007

工具器具備品 142,847,666

工具器具備品減価償却累計額 -25,207,751 117,639,915

土地 4,682,111,000

その他の有形固定資産 3,299,050

有効固定資産合計 6,685,459,197

## 負債の部

## I 流動負債

預り寄附金 18,728,526

前受受託研究費等 1,780,000

未払金 62,640,458

## 未払費用

給与 4,731,955

法定福利費 174,108

賃借料 716,243

水道光熱費 2,558,957

その他未払い費用 3,427,778 11,609,041

## 預り金

社会保険料 67,240

源泉徴収税等 901,100

その他の預り金 938,400 1,906,740

流動負債合計 96,664,765

## II 固定負債

## 資産見返運営費交付金等

資産見返運営費交付金 27,219,806 27,219,806

資産見返寄附金 838,950

資産見返物品受贈額 58,489,003 86,547,759

長期借入金 712,827,000

長期未払金 12,062,931

固定負債合計 811,437,690

負債の部合計 908,102,455

## 平成17年度貸借対照表 (抜粋)

## 資産の部

## II 固定資産

## 1 有形固定資産

## 建物

建物	1,271,302,10		
----	--------------	--	--

建物附属設備	701,772,193	1,973,074,296	
--------	-------------	---------------	--

建物減価償却累計額		-291,828,277	1,681,246,019
-----------	--	--------------	---------------

構築		206,656,578	
----	--	-------------	--

構築物減価償却累計		-60,027,081	146,629,497
-----------	--	-------------	-------------

車両運搬具		5,885,601	
-------	--	-----------	--

車両運搬具減価償却		-2,091,188	3,794,413
-----------	--	------------	-----------

工具器具備品		151,847,646	
--------	--	-------------	--

工具器具備品減価償却累計額		-64,469,946	87,377,700
---------------	--	-------------	------------

土地			4,682,111,000
----	--	--	---------------

その他の有形固定資産			3,299,050
------------	--	--	-----------

有効固定資産			6,604,457,679
--------	--	--	---------------

## 負債の部

## I 流動負債

預り寄附金			10,430,100
-------	--	--	------------

前受受託研究費等			2,500,000
----------	--	--	-----------

未払			320,394,256
----	--	--	-------------

未払

給与	2,737,044		
----	-----------	--	--

法定福利費	175,293		
-------	---------	--	--

賃借	104,125		
----	---------	--	--

水道光熱費	3,535,801		
-------	-----------	--	--

その他未払い費用	3,627,809	10,180,072	
----------	-----------	------------	--

流動負債合計			343,504,428
--------	--	--	-------------

## II 固定負債

資産見返運営費交付金等

資産見返運営費交付金	35,696,465	35,696,465	
------------	------------	------------	--

資産見返寄附金		4,855,332	
---------	--	-----------	--

資産見返物品受贈額		38,721,117	
-----------	--	------------	--

特許権仮勘定見返運営費交付金等		60,000	79,332,914
-----------------	--	--------	------------

固定負債合計			79,332,914
--------	--	--	------------

負債の部合計			422,837,342
--------	--	--	-------------

## 平成18年度貸借対照表(抜粋)

## 資産の部

## II 固定資産

## 1 有形固定資産

## 建物

建物 1,271,302,103

建物附属設備 701,772,193 1,973,074,296

建物減価償却累計額 -422,580,049 1,550,494,247

## 構築物

211,171,578

構築物減価償却累計額 -78,250,138 132,921,440

## 車両運搬具

5,885,601

車両運搬具減価償却累計額 -3,136,782 2,748,819

## 工具器具備品

163,146,318

工具器具備品減価償却累計額 -79,500,912 83,645,406

## 土地

4,682,111,000

## その他の有形固定資産

3,299,050

有効固定資産合計

6,455,219,962

## 負債の部

## I 流動負債

## 預り寄附金

15,505,636

## 前受受託研究費等

1,000,000

## 未払金

239,241,285

## 未払費用

## 給与

3,447,292

## 法定福利費

170,589

## 賃借料

87,062

## 水道光熱費

5,203,576

## その他未払い費用

3,287,766

12,196,285

## 預り金

## その他の預り金

12,439

## 引当金

## 賞与引当金

1,034,184

流動負債合計

268,989,829

## II 固定負債

## 資産見返運営費交付金等

## 資産見返運営費交付金

33,288,932

## 資産見返授業料

11,434,783

44,723,715

## 資産見返寄附金

5,710,739

## 資産見返物品受贈額

22,528,678

## 特許権仮勘定見返運営費交付金等

60,000

73,023,132

## 引当金

## 退職給付引当金

220,560

固定負債合計

73,243,692

負債の部合計

342,233,521

(出典：貸借対照表)



(分析結果とその根拠理由)

本校の目的に沿う実践的技術者，創造的技術者を育成するための教育研究活動を安定して遂行できる校地（土地），校舎（建物），備品等の資産を有している。固定債務に長期借入金，長期未払金もなく，債務は過大でない。

**観点 10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための，経常的収入が継続的に確保されているか。**

(観点に係る状況)

法人化後の学校運営経費の主な財源は，国立高等専門学校機構より中期目標・中期計画に沿い策定する年度計画の下，事業年度毎に配分される運営費交付金である。授業料，入学料，検定料等の経常的な自己収入（資料 10-1-②-1）の外，科学研究費（資料 10-1-②-2）や受託研究費，共同研究費等の外部資金（資料 10-1-②-3）がある。

資料 10-1-②-1

収入の状況（5年間）

単位：円

区 分	平成 1 4 年度	平成 1 5 年度	平成 1 6 年度	平成 1 7 年度	平成 1 8 年度
運営費交付金			1,035,749,842	1,251,270,229	1,085,308,401
自己収入	176,791,783	202,925,365	204,972,009	206,593,635	209,109,950
（授業料）	154,294,050	175,443,900	174,372,200	180,407,400	182,518,800
（入学料）	13,789,800	17,258,400	15,651,000	15,735,600	15,913,200
（検定料）	5,346,000	6,880,500	6,105,000	5,346,000	6,324,400
（講習料）	120,800	184,000	98,400	0	10,800
（雑収入）	3,241,133	3,158,565	8,745,409	5,104,635	4,342,750
合 計	176,791,783	202,925,365	1,240,721,851	1,457,863,864	1,294,418,351

(出典：総務課資料)

## 資料 10-1-②-2

## 科学研究費採択状況（5年間）

年 度	研究種目 応募 ・採択状況		基 盤 研 究				萌芽 研究	若手研究			
	採択金額 (千円)	応募件数	(A)	(B)	(C)	企画 調査		(A)	(B)	(S)	スタート アップ
		採択件数	一 般	一 般	一 般						
H15	13,100	32(5)		1	19(2)	2	4		6(3)		
		8(5)		0	4(2)		0		4(3)		
H16	8,000	38(4)		3	22(2)	1	4	1	7(2)		
		6(4)		0	3(2)		0	0	3(2)		
H17	12,600	38(3)		1	24(1)	1	3		9(2)		
		10(3)		0	7(1)	0	0		3(2)		
H18	10,300	25(7)			16(6)		2		6(1)		1
		9(7)			6(6)		0		3(1)		0
H19	10,670	33(4)			18(1)		3		9(3)	1	2
		7(4)			3(1)		0		4(3)	-	-

- ※ 継続分は、( ) 内に内数として示す。  
 ※ 本校で応募後、交付決定前に他の研究機関等に転出した研究者の応募件数・採択金額・採択件数は除く。  
 ※ 分担金は除く。  
 ※ 平成19年度若手研究(S)・(スタートアップ)は交付内定前。

(出典：総務課資料)

## 資料 10-1-②-3

## 外部資金獲得状況（5年間）

単位：円

	寄附金		共同研究		受託研究		受託事業		合 計	
	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額	件数	金 額
平成14年度	25	21,560,000	7	3,900,000	2	2,544,000	0	0	34	28,004,000
平成15年度	26	21,044,000	5	3,452,250	1	600,000	0	0	32	25,096,250
平成16年度	18	18,616,925	2	2,500,000	3	2,460,000	0	0	23	23,576,925
平成17年度	12	6,481,000	3	2,500,003	1	1,029,600	1	1,495,420	17	11,506,023
平成18年度	18	12,919,265	1	1,000,000	0	0	0	0	19	13,919,265

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

運営費交付金は、事業年度毎に国立高等専門学校機構から安定的に配分されている。新入生が定員を満たし、授業料・入学金・検定料の自己収入は十分に確保され、教育研究活動を安定して行うための経常的収入が継続的に確保されている。

科学研究費及び共同研究等の外部資金獲得は十分とは言えず、獲得に向けた取組みの必要がある。

観点 10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点到に係る状況)

事業年度の収支計画は、予算委員会で審議される(資料 10-2-①-1, 2)。予算委員会は、前年度学内決算の報告を受け、検証を行い、当該年度予算配分方針を作成する(資料 10-2-①-3)。支出予算案は機構本部から配分される運営費交付金の使途について、年度当初委員会で、各学科、関係委員会等が提出する学内予算要求書を審議の上作成する。

予算案は公聴会での意見聴取を経て、学校運営委員会(資料 10-2-①-4)で決定し、教員会議で教職員に周知される。

資料 10-2-①-1

### 予算委員会開催状況

開催日	議 題
18. 5. 10	1. 平成 18 年度学内予算配分の編成日程案について 2. 平成 18 年度学内予算要求について 3. 各科配分の方針決定について 4. その他
18. 6. 6	1. 平成 17 年度学内予算執行状況について 2. 平成 18 年度学内予算配分(案)について 3. その他
18. 6. 14	1. 平成 18 年度学内予算配分(案)について 2. その他
18. 6. 21	1. 平成 18 年度学内予算配分(案)について 2. その他
18. 6. 29	1. 平成 18 年度学内予算配分(案)について 2. その他
18. 12. 20	1. 来年度予算の検討事項について 2. 平成 18 年度追加予算配分について 3. セキュリティソフトの必要経費について 4. 来年度当初予算の要求について 5. その他
19. 2. 14	1. 平成 19 年度当初に必要な経費について 2. 平成 18 年度予備費、追加配分予算等の執行について 3. その他

(出典：大分工業高等専門学校校報)

資料 10-2-①-2

### 大分工業高等専門学校予算委員会規程

制 定 平成 16 年 4 月 5 日  
改 定 平成 19 年 3 月 14 日

(設置)

第 1 条 大分工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、予算委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(組織)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 校長
- 二 機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科及び都市システム工学科の教員各 1 名
- 三 一般科目の文科系の教員 1 名
- 四 一般科目の理科系及び基礎専門の教員から 1 名
- 五 事務部長
- 六 総務課長

2 前項第二号から第四号までの委員は、校長が指名する。

(委員の任期)

第 3 条 前条第二号から第四号の委員の任期は、2 年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合は、校長が後任者を指名し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。  
 3 委員長に事故あるときは、委員長が指名した者が議長の職務を代行する。  
 (審議事項)

**第5条** 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 予算配分の基本方針に関すること。  
 二 各年度の予算配分(案)の作成に関すること。  
 三 その他予算に関すること

(委員以外の出席)

**第6条** 委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を出席させ意見または説明を求めることができる。

(会議の開催)

**第7条** 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ開催できない。

- 2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長が決するものとする。

(事務)

**第8条** 委員会に関する事務は、総務課財務係において処理する。

**附 則**

この規程は、平成16年4月5日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

### 資料 10-2-①-3

#### 3 その他経費の学内配分方針

##### (1) 機構本部配分方針の尊重 【効率化(・・・%)の反映】

機構の運営費については、高等専門学校設置基準により必要とされる最低限の教員の給与費相当額及び特別教育研究経費並びに特殊要因経費を除き、・・・%の効率化をはかることとされている。

この影響額は機構全体で、平成18年度では・・・百万円(うち人件費相当額・・・百万円、物件費相当額・・・百万円：1高専で約・・・万円)となっている。

この額は、当初配分において反映されるため、学内予算配分においては、機構本部から示された以下の事項別効率化率を基本的に尊重する。

反映に当たっては、教育研究活動への配慮の観点から原則、

- ① 管理運営費職員厚生経費、学生指導費、保健管理費、教務・学生関係研修会経費、外国人留学生教育経費、厚生補導設備充実費、教育改善充実費を除く)については、対前年度・・・%とする。
- ② 学生指導費、保健管理費、教務・学生関係研修会経費、外国人留学生教育経費、厚生補導設備充実費、教育改善充実費、教育経費、学生支援経費、インターンシップ経費、外国人留学生特別指導費については、対前年度同額を確保する。
- ③ 上記①及び②以外の、その他経費は・・・%とする。  
 このことは、①業務の効率化推進のためには、管理運営部門の効率化への対応・工夫が不可欠であること、②教育研究活動の推進には引き続き配慮する必要があること等によるものである。

##### (2) 本委員会の学内予算配分方針

平成16年度発足以来本委員会で検討した方針に基づき平成18年度学内予算の配分方針を以下のとおりとする。

- ① 平成17年度予算配分で採用した、機構の支出内訳事項別配分表に本校独自の工夫を盛り込む方法を継続することにする。このことで予算配分の審議がわかりやすくなるとともに説明もしやすくなると考える。
- ② 平成18年度その他経費の配分にあたり基本的には、前年度予算配分額及び平成17年度実

績額を参考として、前年度実績額が当初配分額内で執行された事項は前年実績額の、前年度当初配分額を超過した事項は当初配分額の・・・%削減予算とする。また、年間契約が決定している事項等はその額を考慮することとする。

- ③ 「4 教育・研究・旅費の各科配分」に充てる財源は、前述にかかわらず機構配分額を基礎とした算出方法で財源となる原資を確保した上で、平成18年度教育・研究旅費各科配分積算表における積算額を確保することとし、原資の算出は次のとおりとする。
  - a. 教育経費（本科，専攻科）は、本年度機構配分額の・・・とし、減額率・・・%を控除した額とする。
  - b. 研究経費は、機構配・・・%とする。この・・・%の根拠については、16年度の研究費配分実績額（校長裁量含む・・・・・・・・）に対して、17年度（・・・%）と18年度（・・・%）の機構配分減額率を適用した。
  - c. 教員研究旅費として、教員一人あたり・・・・円の総額・・・・円を充てる。
  - d. 上記 a, b, c の合計財源から、平成18年度教育・研究旅費各科配分積算表の積算額を差引き、その残額を校長裁量経費に充てることとする。
- ④ 要求に基づき機構から配分される「学生指導費」及び「厚生補導設備充実費」の配分は、事項別内訳額を配分し、減額調整は各々一般分で調整することとする。
- ⑤ 平成18年2月24日開催の委員会で承認した「次年度当初に必要とする経費」の配分方法は、年度当初の運営に有効であったことから、平成18年度もこの方式を採用する。また、今回の各学科等及び各委員会からの特殊要因に係る要求事項は、その緊急度と要求額をヒヤリングのうえ、2月承認事項と合わせて本委員会で配分決定する。
- ⑥ 学内で特別に企画する事業（自己点検評価，外部評価，認証評価，JABEE，ロボコン経費等及び各センター運営経費）は特別教育費（IV学科等教育研究経費）として、各年度で予算化する。
- ⑦ 校長裁量経費は、機構から配分される「高専教育充実設備費（・・・千円）」及び上記で算出した・・・千円とする。なお、高専教育充実設備費の執行内訳は例年機構本部に報告することになる。
- ⑧ 予備費の確保は年1回の予算運営を行っていることからの、緊急財源として纏まった額が望まれるが、配分予算の逼迫で前年比の・・・・千円を確保する。
- ⑨ 教育施設基盤経費に関しては、機構本部施設課から経費の使途に沿った執行が求められ、支出状況を調査する旨通知があることから、学内配分において出来る限り支出科目をこの使途に沿った工夫をする。（本予算を他科目の学内予算としない工夫）
- ⑩ 教育研究設備維持運営費の学内配分は、特別大型設備にかぎられる不平等や科別の配分額の差異等から関係学科に加算することを改め、今年度は校長裁量経費（設備維持管理費）として管理し当該科への加算はしないこととする。必要となる維持費については従来の計算方法による枠内で平成18年12月末までに要求することとし、校長裁量経費（設備維持管理費）から支出し、その残額は校長裁量とする。なお、次年度以降の扱いは継続して審議することとする。
- ⑪ 予算委員会で作成する配分原案は、学内公聴会での意見聴取を経て学校運営委員会に諮ることとする。

（出典：学校運営委員会資料 平成18年度予算配分方針）

資料 10-2-①-4

## 平成 18 年度第 4 回 学校運営委員会議事録（議事概要）（抜粋）

日 時 平成 18 年 7 月 4 日（火） 16：10～18：55  
場 所 会 議 室  
出 席 者 別紙のとおり

《議 題》

( 省 略 )

## 3 平成 18 年度学内予算配分（案）について

予算委員会委員長より資料 10 に基づき平成 18 年度学内予算配分（案）について説明があり、審議の結果原案どおり了承された。

また、以下のような意見及び説明があった。

- ・ 予算状況が非常に厳しいことから来年度以降 NHK 受信料等について受益者負担も検討していく必要がある。

- ・ 教育・研究・旅費の各科積算方法については、主事や各種委員会の委員長で校務に時間をとられ研究ができない状況にある教員もいることを理解して欲しいとの意見があり、今後は別の指標を示すことについても検討する必要がある。

学科別積算配分表については、各科において確認してもらっているが、確定したものを改めて科主任に配布するので、各個人の配分を総務係へ知らせたい。

(出典：学校運営委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

予算委員会において各学科及び関係委員会等の事業計画に関する要求と、前年度の決算及び運営費交付金や自己収入を関連付けて審議し策定することで、適正な収支計画を立案している。予算案は全教職員対象の公聴会を経て、学校運営委員会で決定し、関係者への開示も適正である。

観点 10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

過去3カ年の決算状況は(資料 10-2-②-1)に示すとおり、平成 16, 17 年度に支出超過となっているが、これは主に寄付金事業等によるものである。

資料10-2-②-1

## 平成16・17・18年度 決算

区 分	平成16年度	平成17年度	平成18年度
収 入			
運営費交付金	1,035,749,842	1,251,270,229	1,085,308,401
施設整備費補助金	29,081,400	17,934,000	693,000
施設整備資金貸付金償還時補助金		712,827,000	
国立大学財務・経営センター施設費交付事業費			11,329,500
自己収入	204,972,009	206,593,635	209,183,750
授業料収入	174,470,600	180,407,400	182,518,800
入学料収入	15,651,000	15,735,600	15,997,800
検定料収入	6,105,000	5,346,000	6,324,400
雑収入	8,745,409	5,104,635	4,342,750
産学連携等研究収入	4,960,000	5,025,023	1,000,000
寄付金収入	10,885,000	6,481,000	12,919,265
その他補助金		3,389,000	
目的積立金取崩			15,000,000
計	1,285,648,251	2,203,519,887	1,335,433,916
支 出			
業務費	1,240,816,492	1,457,547,684	1,309,345,438
教育研究経費(教育研究支援経費を含む)	1,165,928,144	1,394,801,668	1,233,160,352
一般管理費	74,888,348	62,746,016	76,185,086
施設整備費	29,081,400	17,934,000	12,022,500
長期借入金償還金		712,827,000	
産学連携等研究経費	3,232,785	5,610,445	1,305,319
寄付金事業費	15,890,008	14,779,426	7,843,729
その他補助金		3,389,000	
計	1,289,020,685	2,212,087,555	1,330,516,986

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

収入及び支出は適正に予算管理され、過大な支出超過となっていない。

観点 10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

平成 18 年度学内予算配分と執行状況を資料 10-2-③-1 に示す。高専教育充実設備費として機構本部から配布される予算は、校長裁量経費として学内で研究題目を公募し、校長室での内容説明を経て採択し、主に大型設備の充実に充てている（資料 10-2-③-2）。

資料10-2-③-1

## 平成18年度 予算配分・執行状況

科目	予算配分額	執行額	備 考
物件費	225,534,827	225,534,827	
(物件費内訳)			
教育研究費	123,964,264	136,102,275	学科等
教育研究支援経費	26,527,274	28,176,410	電算機借料, 図書館, 技術センター
一般管理費	75,043,289	61,256,142	管理運営費
施設整備費	693,000	693,000	災害復旧
施設費交付事業費	11,329,500	11,329,500	学生課内部改修、寮の門
目的積立金	15,000,000	15,000,000	学内 LAN 整備

（出典：総務課資料）

資料10-2-③-2

## 校長裁量経費採択一覧

年度	学科等名	研究 題 目	要求額	採択
平成 16 年	機械工学科	機械実習用 NC 旋盤	10,000,000	
	制御情報工学科	シミュレーション実験システム	10,000,000	◎
平成 17 年	電気電子工学科	デザイン対応科目立上げのための総合環境整備一式	10,000,000	◎
	制御情報工学科	回路設計およびプロトタイプ作成用開発環境	9,450,000	
平成 18 年	機械工学科	高度機械情報計測システム	11,100,000	◎
	電気電子工学科	半導体デバイス関連教育研究環境整備一式	12,300,000	
	都市システム工学科	全有機炭素濃度定量システム	5,000,000	

（出典：総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

物件費の約 67%が教育研究費と教育研究支援経費で予算計上され、執行実績は約 73%である。高専教育充実設備費の学内配分も、校長裁量経費として学内公募による重点的な資金配分を行っており、教育研究活動に対して適切に資源配分している。



観点 10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

設置者である独立行政法人国立高等専門学校機構は、独立行政法人通則法第38条(資料 10-3-①-1)の定めに基づき、国立高等専門学校機構の財務諸表を作成し、機構本部のホームページで公表している(資料 10-3-①-2)。

資料 10-3-①-1

独立行政法人通則法 (抜粋)

(財務諸表等)

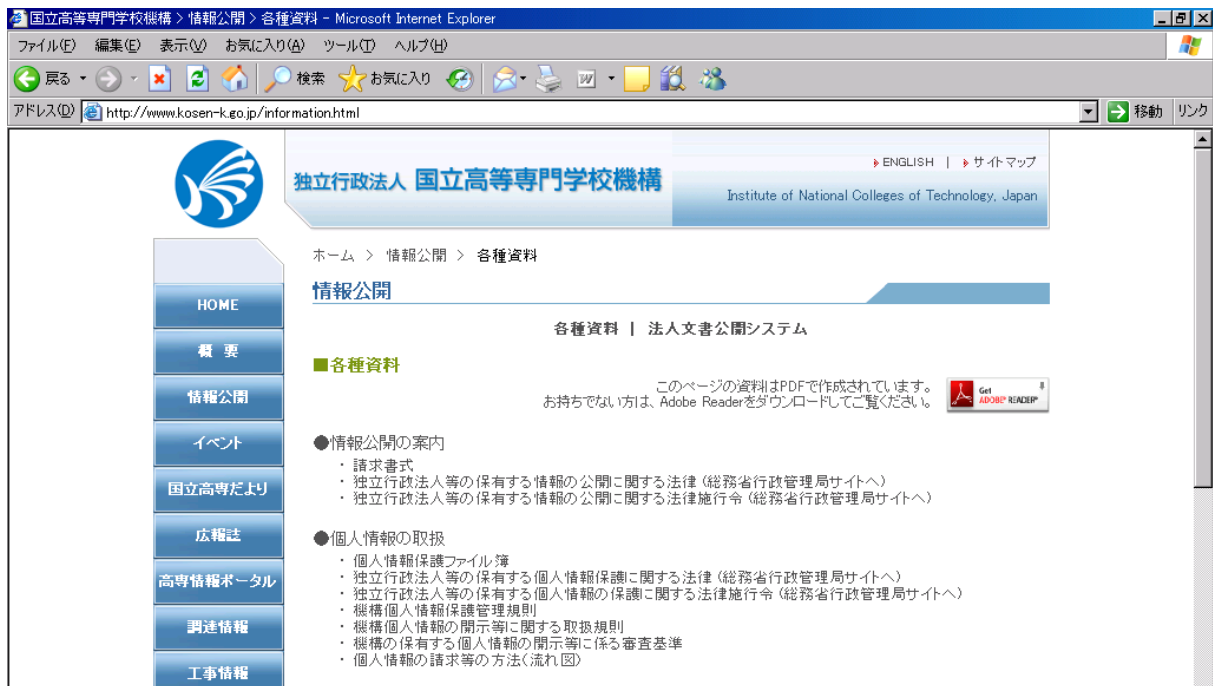
第38条 独立行政法人は、毎事業年度、貸借対照表、損益計算書、利益の処分又は損失の処理に関する書類その他主務省令で定める書類及びこれらの附属明細書(以下「財務諸表」という。)を作成し、当該事業年度の終了後3月以内に主務大臣に提出し、その承認を受けなければならない。

4 独立行政法人は、第1項の規定による主務大臣の承認を受けたときは、遅滞なく、財務諸表を官報に公告し、かつ、財務諸表並びに第2項の事業報告書、決算報告書及び監事の意見を記載した書面を、各事務所に備えて置き、主務省令で定める期間、一般の閲覧に供しなければならない。

(出典：e-Gov 法令データ提供システム)

資料 10-3-①-2

独立行政法人 国立高等専門学校機構 情報公開





(分析結果とその根拠理由)

独立行政法人国立高等専門学校機構として適切に公表されている。

観点 10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況)

会計監査人の監査については、独立行政法人通則法第 39 条で定められており（資料 10-3-②-1）、本校では平成 17 年 12 月及び平成 18 年 2 月の会計監査人による会計監査を受検している。また、平成 18 年 2 月には会計検査院による会計実地検査を受検している。

なお、内部監査実施規程（資料 10-3-②-2）に基づく内部監査（資料 10-3-②-3）や、北九州高専との職員相互派遣による監査立会いも実施し、財政事務の適正化を図っている。

#### 資料 10-3-②-1

#### 独立行政法人通則法（抜粋）

(会計監査人の監査)

第 39 条 独立行政法人（その資本の額その他の経営の規模が政令で定める基準に達しない独立行政法人を除く。）は、財務諸表、事業報告書（会計に関する部分に限る。）及び決算報告書について、監事の監査のほか、会計監査人の監査を受けなければならない。

(出典：e-Gov 法令データ提供システム)

#### 資料 10-3-②-2

#### 大分工業高等専門学校内部監査実施規程

制 定 平成 16 年 4 月 1 日

(目的)

第 1 条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第 45 条の規定に基づき、大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）における内部監査（以下「監査」という。）の実施について、必要な事項を定め、もって会計経理の適正化を図ることを目的とする。

(監査の実施責任者)

第 2 条 監査の実施責任者は、事務部長とする。

(監査員)

第 3 条 校長は、監査を行わせるため、監査実施のつど本校職員のうちから監査員を命ずるものとする。

(監査事項)

第 4 条 監査は、次に掲げる事項について実施するものとする。

- 一 会計経理に関する法令等の適用に関する事項
- 二 予算決算に関する事項
- 三 収入支出に関する事項
- 四 債権に関する事項
- 五 物品に関する事項
- 六 不動産に関する事項
- 七 契約に関する事項
- 八 旅費に関する事項
- 九 預り寄付金及び科学研究費補助金に関する事項
- 十 帳簿及び証拠書類に関する事項
- 十一 その他特に校長が必要と認める事項

(監査の時期)

第 5 条 監査は、毎会計年度に 1 回実施するものとする。ただし、校長が必要と認めるときはその都度実施することができる。

(監査の通知)

第6条 事務部長は、監査を実施しようとするときは、監査の日時、監査員の職位氏名、その他必要な事項をあらかじめ関係者に通知しなければならない。

(監査の実施)

第7条 事務部長は、監査実施細目を定め、これにより監査を実施させなければならない。

(監査の立会等)

第8条 第6条により通知を受けた関係者は、帳簿、証拠書類その他必要な書類等を整備し、監査に立ち合わなければならない。

(監査報告)

第9条 監査員は監査が終了したときは、速やかに書面をもつて、監査の結果を事務部長を経て校長に報告しなければならない。

(是正改善の措置)

第10条 校長は、監査の結果会計経理に関し是正改善の措置をとる必要があると認めたときは、直ちに改善措置をとらなければならない。

(その他)

第11条 この規程に定めるもののほか、監査に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料 10-3-②-3

### 平成18年度会計経理に関する内部監査報告書

監査年月日 平成18年8月30日(水)

監 査 報 告 事 項	検討又は措置状況
○ 「構内建具補修その他工事」において、契約決議書の内訳では納品予定日が7月12日となっているが、完成通知書の完成期限は7月18日となっており、確認を要する。	○ 完成通知書に記載された完成期限に誤りがあったため、業者から記載事項訂正の申し出があり、7月12日へ訂正を行った。
○ 寄附金申込書の様式について、現在も旧国立時代の寄附金申込様式により申込を受けている。また、平成17年度の監査法人による監査において、寄附金申込様式に「用途の種類、金額、使用時期」を明確にするよう指摘されているが、未だに改善されていない。	○ 現在、「寄附金取扱規程」を改正中である。
○ H18年3月退職者の実績報告書の日付が4月となっている。	○ 退職後(4月以降)も実績報告書及び研究成果報告書の提出に関する事務処理を教員とメールで行っており、教員が押印のうえ郵送し本校が受領したものを、各報告書の最終版としている。
○ 土、日等の休日の出張において、休日の振り替えを行っている場合と行っていない場合がある。	○ 基本的には土、日等の休日に用務がある場合は休日の振り替えを行っているが、休日が移動日のみの場合は振り替えを行っていない。ただし、クラブ引率などの場合は移動日も振り替え対象日として処理している。

(出典：内部監査報告書)

(分析結果とその根拠理由)

国立高等専門学校機構の会計監査人及び会計検査院の監査を受け、学内規程に定める内部監査も実施しており、財務に係る会計監査等が適正に行われている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学内予算配分(案)は、学内公聴会での意見聴取を経て作成され透明性及び公平性を確保している。

(改善を要する点)

科学研究費補助金及び共同研究等の外部資金獲得に向けた一層の取組みが必要である。

## (3) 基準 10 の自己評価の概要

目的に沿った教育研究活動を安定して行うための資産として、開校以来の土地、建物、施設、設備、備品等を十分確保している。

資金面では、入学、卒業・修了に至るまで学生数が安定しており、自己収入である授業料、入学料・検定料を安定的に確保し、競争的資金や外部資金の確保に向けた取り組みも行っている。

これらの財務に係る運営は、校長指導の下で予算委員会が決算・予算計画に関して十分審議し、関係者の意見聴取及び運営委員会の議を経て執行している。

財務に係る監査等は、国立高等専門学校機構として会計監査人監査及び会計検査院の監査が実施され、内部監査も実施し公正な執行を行っている。



## 基準11 管理運営

## (1) 観点ごとの分析

観点 11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

(観点到に係る状況)

学校の目的を達成するため校長のリーダーシップの下、管理運営を行い、補佐として教務・学生・寮務の3主事を置いている。3主事は、校長の命を受け、教務関係、学生の厚生補導関係及び学寮での厚生補導関係を掌理している(資料11-1-①-1, 2)。

校長の諮問機関として校長を委員長とする学校運営委員会を設置し、校長が管理運営上必要と認めた重要な規則の制定・改廃、学生の入退学及び卒業等の学籍、概算要求、学内予算配分等に関することを審議する(資料11-1-①-3)。特定課題に関しては、魅力ある高専の構築について企画・検討する第1専門委員会及び研究・国際交流等の推進について企画・検討を行う第2専門委員会を設置して校長がリーダーシップを発揮しやすい体制をとっている(資料11-1-①-4)。

全専任教員及び事務部長で構成し校長が議長の教員会議は、学生の入退学及び卒業等の学籍に関することを最重要審議事項とし(資料11-1-①-5)、専攻科の運営に関しては、専攻科担当教員で構成する専攻科運営委員会で審議する(資料11-1-①-6)。また、教育研究及び管理運営を円滑にするため必要に応じて各種委員会を設置しており、学校運営委員会及び教員会議の下部組織として専門的かつ具体的に審議を行い(資料11-1-①-7)、必要に応じて教員会議、学校運営委員会で意思決定する。

## 資料11-1-①-1

## 大分工業高等専門学校学則(抜粋)

制定 平成16年4月1日  
改正 平成19年2月20日

(教務主事、学生主事及び寮務主事)

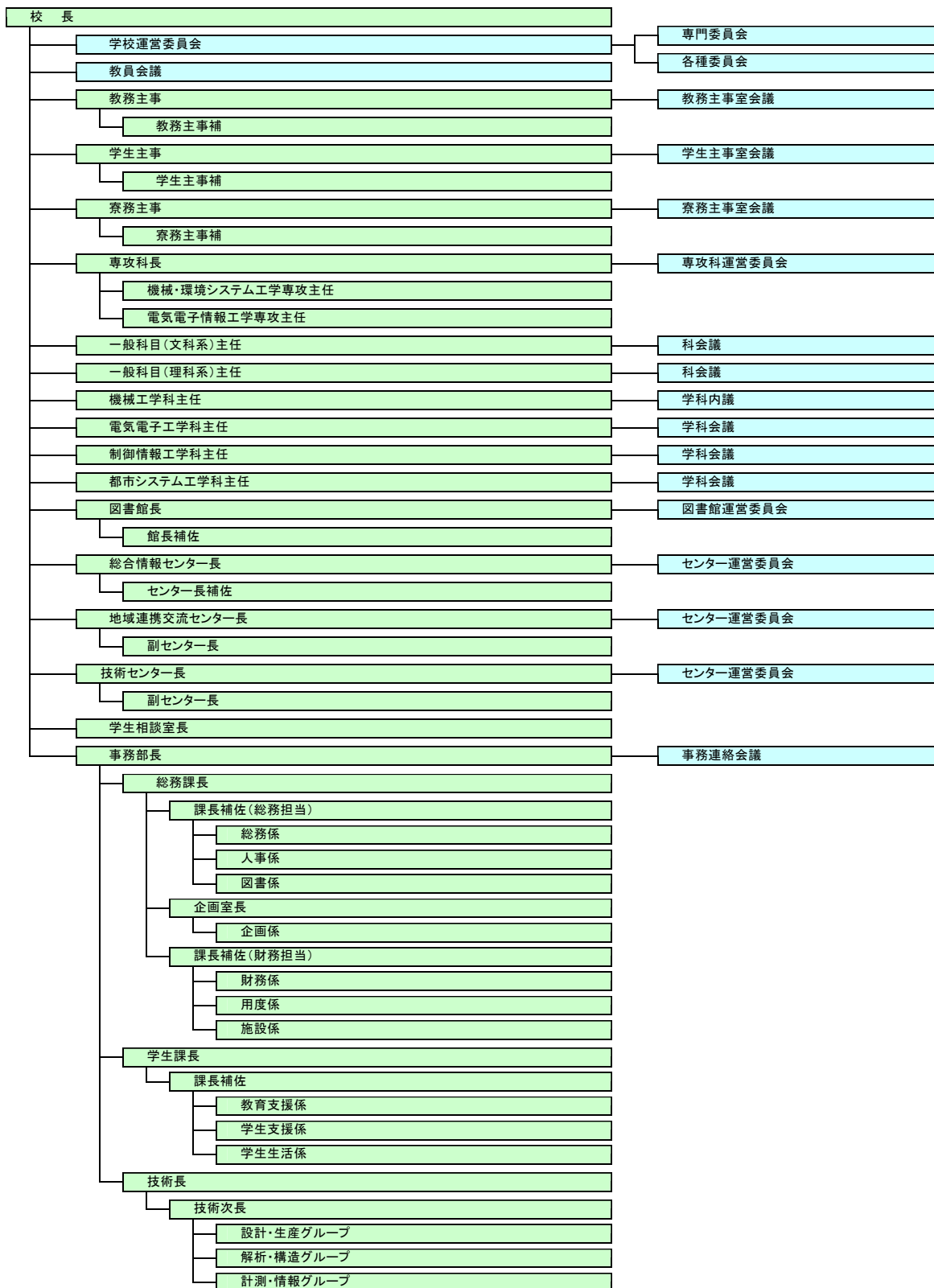
第9条 本校に、教務主事、学生主事及び寮務主事を置く。

- 2 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案その他教務に関することを掌理する。
- 3 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること(寮務主事の所掌に属するものを除く。)を掌理する。
- 4 寮務主事は、校長の命を受け、学寮における学生の厚生補導に関することを掌理する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料 11-1-①-2

管理運営機構図



(出典：総務課資料)



## 資料 11-1-①-3

## 大分工業高等専門学校学校運営委員会規程（抜粋）

制 定 平成 16 年 4 月 1 日

（設置）

**第 1 条** 大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学校運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

（組織）

**第 2 条** 運営委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 校長
- 二 教務主事，学生主事及び寮務主事
- 三 専攻科長
- 四 図書館長，総合情報センター長及び地域連携交流センター長
- 五 機械工学科，電気電子工学科，制御情報工学科及び都市システム工学科の各主任
- 六 一般科目の文科系及び理科系の各主任
- 七 基礎専門の教員 1 名
- 八 事務部長

2 前項第 2 号から第 4 号までの委員が基礎専門所属の場合は、同項第 7 号の委員を兼ねるものとする。

（委員の任期）

**第 3 条** 前条第 1 項第 7 号の委員の任期は 1 年とする。ただし、再任を妨げない。

（委員長）

**第 4 条** 運営委員会に委員長を置き、校長をもつて充てる。

- 2 委員長は運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、教務主事が議長の職務を代行する。

（審議事項）

**第 5 条** 運営委員会は、校長が本校運営上必要と認め諮問した次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 学則等重要な規則の制定及び改廃に関する事。
- 二 学生の入学，退学及び卒業等の学籍に関する事。
- 三 概算要求及び学内の予算配分に関する事。
- 四 教育研究，組織及び施設設備の将来計画に関する事。
- 五 学校行事に関する事。
- 六 その他本校の管理運営に関する事。

（以下 略）

（出典：大分工業高等専門学校規則集）

## 資料 11-1-①-4

## 平成 18 年度第 11 回 学校運営委員会議事録（議事概要）（抜粋）

日	時	平成 19 年 1 月 12 日（金）	16：10 ～ 18：00
場	所	会 議 室	
出	席 者	別紙のとおり	

《議 題》

（略）

## 11. 企画専門委員会の設置について

校長より、本校においては企画を担当する部署が明確に示されていないため、変化の時期に対応できるよう継続的に審議する委員会が必要であることから、当面学校運営委員会の専門委員会として、資料8のとおり2つの専門委員会設置の提案があり、了承された。

なお、11月13日開催の運営委員会では了承された企画WGを第2専門委員会として位置づけ、国際WGにM科 福永、菊川及びS科 嶋田並びに一般科大木教員が、またプロジェクトWGにはM科 小西、E科 清水、C科 高見教員がそれぞれ選出されている旨報告があり、教員会議で発表したいと説明があった。

## 資料8

**第1専門委員会**

## 趣旨

魅力ある高専の構築について（平成18年11月30日付け独立行政法人国立高等専門学校機構理事長通知）の企画・検討のため、大分工業高等専門学校学校運営委員会の専門委員会として設置する。

## 構成

校長，教員若干名（校長指名）  
課題によっては，適任者と思われる者を加える。

## 開催

毎週1回の開催を原則とするが，必要の都度開催する場合もある。

## 事務

庶務課

**第2専門委員会**

## 趣旨

研究・国際交流等の推進に係る企画・検討のため，大分工業高等専門学校学校運営委員会の専門委員会として設置する。

## 組織

専門委員会に次のワーキンググループを置く。  
（1）国際ワーキンググループ  
（2）プロジェクトワーキンググループ

## 構成

校長，教員若干名（校長指名）  
課題によっては，適任者と思われる者を加える。

## 開催

毎週1回の開催を原則とするが，必要の都度開催する場合もある。

## 事務

庶務課。課題によっては他の課が担当する場合もある。

（出典：学校運営委員会資料）

資料 11-1-①-5

## 大分工業高等専門学校教員会議規程

制 定 平成 16 年 4 月 1 日  
改 正 平成 19 年 3 月 14 日

- 第 1 条 大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教員会議をおく。
- 第 2 条 教員会議は、本校教員（非常勤講師を除く。）及び事務部長をもって組織する。  
2 校長が必要と認めた場合は、その他の職員を出席させることができる。
- 第 3 条 校長は、教員会議を召集しその議長となる。  
2 校長に事故あるときは、教務主事はその職務を代行する。
- 第 4 条 教員会議は校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。  
一 各種委員会において審議した事項のうち、校長が特に必要と認めた事項  
二 その他校長が必要と認めた重要な事項
- 第 5 条 教員会議は原則として月 1 回第 3 木曜日に開催するものとする。ただし、緊急の必要があるときは、臨時に開催することがある。
- 第 6 条 議案の整理及び会議の記録は、総務係長がこれに当る。ただし、必要に応じて校長は、総務係長以外の者を指名することがある。
- 附 則  
この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 附 則  
この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料 11-1-①-6

## 大分工業高等専門学校専攻科運営委員会規程

制 定 平成 16 年 4 月 1 日  
改 正 平成 19 年 3 月 14 日

(趣旨)

- 第 1 条 この規程は、大分工業高等専門学校専攻科規則第 4 条の規定に基づき、大分工業高等専門学校専攻科運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

(組織)

- 第 2 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。
- 一 専攻科長
  - 二 教務主事
  - 三 専攻主任
  - 四 各学科教員各 1 名
  - 五 一般科目の文科系，理科系及び基礎専門の教員から 2 名
  - 六 各主事室教員各 1 名
  - 七 学生課長
  - 八 その他校長が必要と認めた者

(委員の任期)

- 第 3 条 前条第 1 項第 4 号から第 6 号までの委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

- 第 4 条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
  - 3 委員長に事故あるときは、あらかじめ委員長の指名した者が議長の職務を代行する。

(審議事項)

- 第 5 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 専攻科の入学者選抜に関する事。
- 二 専攻科の教育課程の編成及び教育計画の立案に関する事。
- 三 専攻科の施設及び設備に関する事。
- 四 学生の学籍に関する事。
- 五 学生の進路に関する事。
- 六 学生の厚生補導に関する事。
- 七 その他専攻科の運営に関する事。

(委員以外の者の出席)

**第6条** 委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者を出席させ意見を求めることができる。

(委員会の運用)

**第7条** 委員会は、他の委員会と密接な関係があり、調整を必要とする場合、又は他の委員会で審議することがふさわしいと判断した場合は、それぞれ調整し、又は審議を依頼することができる。

(報告)

**第8条** 委員長は、委員会で審議された事項を整理し、校長に報告しなければならない。

(事務)

**第9条** 委員会の事務は、学生課において処理する。

**附 則**

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

**附 則**

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料11-1-①-7

### 大分工業高等専門学校各種委員会規程

制 定 平成16年4月1日  
最終改正 平成19年3月14日

(設置)

**第1条** 大分工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、本校の教育研究及び管理運営を円滑に行うため、別表に掲げる委員会を置く。

(審議事項、組織、委員長及び庶務)

**第2条** 委員会の審議事項、組織、委員長及び庶務は、別表のとおりとする。

(委員の委嘱)

**第3条** 委員は、校長が委嘱する。

(委員の任期)

**第4条** 役職指定以外の委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 第1項の委員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

**第5条** 委員会に委員長を置き、別表に定める者をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した者が議長の職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

**第6条** 委員長が必要と認めた場合は、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聞くことができる。

(専門部会)

**第7条** 委員会に専門的な事項の調査・検討を行うため、専門部会を置くことができる。

2 専門部会の組織及び検討事項等については、当該委員会が定める。

(雑則)

**第8条** この規程に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、当該委員会が定める。

## 附 則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

## 附 則

この規程は、平成 17 年 8 月 30 日から施行する。

## 附 則

この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

## 附 則

この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

## 別表

## 大分工業高等専門学校各種委員会

番号	委員会名	審 議 事 項	組 織	委員長	庶務担当
1	組織検討委員会	1 運営委員会より学内諸機構に関し審議を付託された事項に関する事。	1 教務主事, 学生主事及び寮務主事 2 専攻科長 3 図書館長, 総合情報センター長及び地域連携交流センター長 4 機械工学科, 電気電子工学科, 制御情報工学科及び都市システム工学科の各主任 5 一般科目の文科系及び理科系の各主任 6 総務課長及び学生課長	教務主事	総務係
2	自己点検・評価実施委員会	1 自己点検・評価の企画及び実施に関する事。 2 自己点検・評価報告書の編集及び発行に関する事。 3 その他自己点検・評価に関する事。	1 教務主事, 学生主事及び寮務主事 2 専攻科長 3 図書館長, 総合情報センター長及び地域連携交流センター長 4 機械工学科, 電気電子工学科, 制御情報工学科及び都市システム工学科の各主任 5 一般科目の文科系及び理科系の各主任 6 事務部長 7 総務課長及び学生課長 8 その他校長が必要と認めた者	教務主事	総務課
3	教務部委員会	1 教育課程の編成及び改正に関する事。 2 教育計画の企画及び実施に関する事。 3 本校の授業の内容及び方法の改善を図るための研修及び研究の実施に関する事。 4 試験及び学業成績に関する事。 5 学生の学籍に関する事。 6 視聴覚教室及びLL教室の運営に関する事。 7 視聴覚教室及びLL教室の予算に関する事。 8 その他教務, 視聴覚教室及びLL教室の重要事項に関する事。	1 教務主事 2 教務主事補 3 学生主事補 1 名 4 機械工学科, 電気電子工学科, 制御情報工学科, 都市システム工学科の教員各 1 名 5 一般科目の文科系の教員 1 名 6 一般科目の理科系及び基礎専門の教員から 1 名 7 学生課長	教務主事	教育支援係
4	入学試験委員会	1 入学者選抜の企画及び実施に関する事。 2 入学試験合格者の選考に関する事。 3 その他入学者選抜に関する事。	1 教務主事, 学生主事及び寮務主事 2 機械工学科, 電気電子工学科, 制御情報工学科及び都市システム工学科の各主任 3 一般科目の文科系及び理科系	教務主事	教育支援係

			の各主任 4 事務部長 5 学生課長		
5	クラス運営委員会	1 クラス運営に関する事 と。	1 クラス運営委員長 2 クラス運営委員2名 3 1年から3年の学年主任各1 名 4 学生課長	クラス運 営委員長	教育支援 係
6	留学生委員会	1 外国人留学生の受入に 関すること。 2 外国人留学生の厚生補 導に関する事。 3 国際交流に関するこ と。 4 その他外国人留学生に 関すること。	1 留学生担当教員 2 教務主事, 学生主事及び寮務 主事 3 機械工学科, 電気電子工学 科, 制御情報工学科及び都市シ ステム工学科の各主任 4 一般科目の文科系及び理科系 の各主任 5 教務主事補, 学生主事補及び 寮務主事補各1名 6 留学生指導教員及び該当クラ ス担任 7 学生課長	留学生担 当教員	教育支援 係
7	FD委員会	1 教員の資質向上に関す ること。 2 教員の教育方法に関す ること。 3 学生支援に関するこ と。 4 研究に関する事。	1 教務主事 2 専攻科長 3 機械工学科, 電気電子工学 科, 制御情報工学科及び都市シ ステム工学科の各主任 4 一般科目の文科系及び理科系 の各主任 5 事務部長 6 その他校長が必要と認めた者	教務主事	総務係
8	教育システム 委員会	1 本校の教育全般の点検 に関する事。 2 点検システム自体の機 能点検に関する事。 3 教育全般の改善及び企 画立案に関する事。 4 その他教育システムの 改善検討に関する事	1 教務主事, 学生主事及び寮務 主事 2 専攻科長 3 教育プログラム委員会委員長 4 各科代表 5 総務課長及び学生課長 6 その他校長が必要と認めた者	教務主事	総務係
9	教育プログラ ム委員会	1 教育プログラムの実施 に関する事。 2 教育プログラムの点検 ・改善に関する事。 3 その他教育プログラ ムの実施に必要な事項に関 する事。	1 専攻主任 2 教務主事補 3 各科代表(教務部委員の兼務 可能) 4 各部会の長 5 総務課長及び学生課長	教育シス テム特任 教授(教 育シス テム担 当)	教育支援 係
10	学生部委員会	1 学生の課外教育活動に 関すること。 2 学生の体育行事に関す ること。 3 学生会及びその他の学 生団体の指導に関するこ と。 4 学生の福利厚生に関す ること。 5 学生の保健衛生及び生 活指導に関する事。 6 学生の賞罰に関するこ と。 7 その他学生の厚生補導 に関する事。	1 学生主事 2 学生主事補, 体育教員1名 3 教務主事補及び寮務主事補各 1名 4 専攻科運営委員会委員から1 名 5 機械工学科, 電気電子工学 科, 制御情報工学科, 都市シ ステム工学科の教員各1名 6 一般科目の文科系の教員1名 7 一般科目の理科系及び基礎専 門の教員から1名 8 各学年の学級担任1名 9 学生課長	学生主事	学生支援 係
11	進路指導委員 会	1 学生の進路指導に関す ること。	1 学生主事 2 専攻科長	学生主事	学生支援 係

		<ul style="list-style-type: none"> <li>2 学生の進路開拓に関する事。</li> <li>3 その他学生の進路に関する事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 機械・環境システム工学専攻主任及び電気電子情報工学専攻主任</li> <li>4 機械工学科, 電気電子工学科, 制御情報工学科及び都市システム工学科各主任</li> <li>5 一般科目の主任1名</li> <li>6 5年学級担任</li> <li>7 学生課長</li> </ul>		
12	奨学資金等委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 入学料, 授業料の免除に関する事。</li> <li>2 奨学生候補者の選考に関する事。</li> <li>3 その他学生の奨学に関する事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学生主事, 教務主事及び寮務主事</li> <li>2 学生主事補1名</li> <li>3 学級担任</li> <li>4 機械・環境システム工学専攻主任及び電気電子情報工学専攻主任</li> <li>5 総務課長及び学生課長</li> </ul>	学生主事	学生支援係
13	学生相談室運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学生相談室の運営に関する事。</li> <li>2 学生相談についての研修等に関する事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 学生相談室長</li> <li>2 相談員</li> <li>3 学生課長</li> </ul>	学生相談室長	学生支援係
14	ロボットコンテスト支援委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ロボットコンテスト出場ロボットの製作・選考等に関する事。</li> <li>2 その他ロボットコンテストに関する事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 教務主事, 学生主事及び寮務主事</li> <li>2 機械工学科, 電気電子工学科, 制御情報工学科及び都市システム工学科の教員各1名</li> <li>3 一般科目の文科系, 理科系及び基礎専門の教員から2名</li> <li>4 学生主事補1名</li> <li>5 ロボット研究部顧問教員</li> <li>6 ロボット製作指導教員</li> <li>7 総務課長及び学生課長</li> <li>8 技術長及びロボット製作指導技術職員</li> <li>9 その他校長が必要と認めた者</li> </ul>	学生主事	学生支援係
15	寮運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 寮生の教育及び生活指導に関する事。</li> <li>2 寮生の福利厚生に関する事。</li> <li>3 寮生の保健及び安全保持に関する事。</li> <li>4 その他の寮管理運営に関する事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 寮務主事</li> <li>2 寮務主事補</li> <li>3 学生主事補1名</li> <li>4 機械工学科, 電気電子工学科, 制御情報工学科, 都市システム工学科の教員各1名</li> <li>5 一般科目及び基礎専門の教員から1名</li> <li>6 各学年の学級担任の代表1名</li> <li>7 学生課長</li> </ul>	寮務主事	学生生活係
16	図書館運営委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 図書館の管理運営に関する事。</li> <li>2 図書館の規則制定等に関する事。</li> <li>3 図書の予算に関する事。</li> <li>4 図書の選択に関する事。</li> <li>5 学生の読書指導に関する事。</li> <li>6 学生図書委員会の指導に関する事。</li> <li>7 その他図書館の重要事項に関する事。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 図書館長及び図書館長補佐</li> <li>2 教務主事補及び学生主事補各1名</li> <li>3 機械工学科, 電気電子工学科, 制御情報工学科及び都市システム工学科の教員各1名</li> <li>4 一般科目の文科系の教員1名</li> <li>5 一般科目の理科系及び基礎専門の教員から1名</li> <li>6 総務課長及び学生課長</li> </ul>	図書館長	図書係
17	編集委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 図書館報, 明野通信及び紀要の企画・基本方針に関する事。</li> <li>2 図書館報の編集発行に</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 図書館長</li> <li>2 図書館長補佐</li> <li>3 教務主事補, 学生主事補及び寮務主事補各1名</li> </ul>	図書館長	図書係

		<p>関すること。</p> <p>3 明野通信の編集発行に関すること。</p> <p>4 紀要の編集発行に関すること。</p> <p>5 その他紀要に関すること。</p>	<p>4 機械工学科, 電気電子工学科, 制御情報工学科及び都市システム工学科の教員各1名</p> <p>5 一般科目の文科系の教員1名</p> <p>6 一般科目の理科系及び基礎専門の教員から1名</p> <p>7 総務課長及び学生課長</p>		
18	総合情報システム委員会	<p>1 総合情報センター（以下この項において「センター」という。）の管理運営にかかる基本方針及び長期計画に関すること。</p> <p>2 センターの業務計画に関すること。</p> <p>3 センターの施設整備の維持管理及び整備充実に関すること。</p> <p>4 センターの予算に関すること。</p> <p>5 情報処理教育に関すること。</p> <p>6 校内LANの運用及び維持管理に関すること。</p> <p>7 校長から諮問のあったこと。</p> <p>8 その他センターの重要事項に関すること。</p>	<p>1 センター長</p> <p>2 センター長補佐</p> <p>3 機械工学科, 電気電子工学科, 制御情報工学科及び都市システム工学科の教員各1名</p> <p>4 一般科目の文科系の教員1名</p> <p>5 一般科目の理科系及び基礎専門の教員から1名</p> <p>6 総務課長及び学生課長</p> <p>7 技術センター員2名</p> <p>8 その他校長が必要と認めた者</p>	総合情報センター長	総務係
19	地域連携交流センター運営委員会	<p>1 センターの管理運営にかかる基本方針及び長期計画に関すること。</p> <p>2 センターの業務計画に関すること。</p> <p>3 センターの施設設備の維持管理及び整備充実に関すること。</p> <p>4 センターの予算に関すること。</p> <p>5 産学交流及び地域教育連携に関する企画及び開催に関すること。</p> <p>6 その他センターの重要事項に関すること。</p>	<p>1 センター長</p> <p>2 副センター長2名（産学連携担当及び地域教育連携担当）</p> <p>3 専攻科長</p> <p>4 機械工学科, 電気電子工学科, 制御情報工学科及び都市システム工学科の教員各1名</p> <p>5 一般科目の文科系の教員1名</p> <p>6 一般科目の理科系及び基礎専門の教員から1名</p> <p>7 技術センターから若干名</p> <p>8 総務課長及び学生課長</p>	地域連携交流センター長	企画係
20	広報委員会	<p>1 広報誌に関すること。</p> <p>2 学生募集の広報に関すること。</p> <p>3 公開講座の広報に関すること。</p> <p>4 行政機関及び企業への広報に関すること。</p> <p>5 ホームページに関すること。</p> <p>6 その他広報上特に必要なこと。</p>	<p>1 教務主事</p> <p>2 教務主事補, 学生主事補及び寮務主事補各1名</p> <p>3 機械工学科, 電気電子工学科, 制御情報工学科及び都市システム工学科の教員各1名</p> <p>4 一般科目の教員及び基礎専門の教員から1名</p> <p>5 総務課長及び学生課長</p>	教務主事	総務課
21	事務情報化推進委員会	<p>1 情報化の計画, 立案及び利用の推進に関すること。</p> <p>2 情報化を推進するための環境整備に関すること。</p> <p>3 事務用電子計算機及びソフトウェアの運用等重要事項に関すること。</p> <p>4 その他, 情報化を推進</p>	<p>1 事務部長</p> <p>2 総務課長及び学生課長</p> <p>3 その他委員長が必要と認めた者</p>	事務部長	総務課



		するために必要な事項に関すること。			
22	施設整備計画委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学校運営委員会の諮問に基づき、学校施設の整備及びその利用計画等に関すること。</li> <li>2 本校施設の活用状況等の調査・評価に関すること。</li> <li>3 その他施設の利活用に関すること。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 校長</li> <li>2 機械工学科，電気電子工学科，制御情報工学科，都市システム工学科の教員各1名</li> <li>3 一般科目の文科系の教員1名</li> <li>4 一般科目の理科系の教員及び基礎専門の教員から1名</li> <li>5 事務部長</li> <li>6 総務課長及び学生課長</li> <li>7 その他校長が必要と認めた者</li> </ol>	校長	施設係
23	技術センター運営委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 センターの管理運営に関すること。</li> <li>2 センターの業務に関すること。</li> <li>3 センター員の採用計画に関すること。</li> <li>4 その他センターの重要事項に関すること。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 センター長</li> <li>2 副センター長</li> <li>3 機械工学科，電気電子工学科，制御情報工学科及び都市システム工学科の各主任</li> <li>4 一般科目の文科系及び理科系の各主任</li> <li>5 基礎専門の代表者</li> <li>6 技術長</li> <li>7 技術次長</li> <li>8 その他センター長が必要と認めた者</li> </ol>	技術センター長	設計・生産グループ
24	教員人事委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教員の人事計画に関すること。</li> <li>2 その他校長が必要と認めたこと。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 校長</li> <li>2 教務主事</li> <li>3 機械工学科，電気電子工学科，制御情報工学科及び都市システム工学科の教授各1名</li> <li>4 一般科目の文科系の教授1名</li> <li>5 一般科目の理科系の教授及び基礎専門の教授から1名</li> <li>6 その他校長が必要と認めた者</li> </ol>	校長	人事係
25	環境委員会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 本校の環境方針を審議すること。</li> <li>2 環境目的・目標を審議すること。</li> <li>3 環境マネジメントプログラムを審議すること。</li> <li>4 環境目的・目標・プログラムの達成状況の確認とその是正について審議すること。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教務主事</li> <li>2 教員の中から校長が指名する者</li> <li>3 事務部長</li> <li>4 総務課長及び学生課長</li> <li>5 職員の中から校長が特に必要として指名する者</li> </ol>	教務主事	施設係

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

## (分析結果とその根拠理由)

3主事は、校長の命を受けた事項を掌理し、校長を補佐している。校長が管理運営上必要と認めた事項は、学校運営委員会、教員会議、専攻科運営委員会及び各種委員会に付議審議の上、最終的に校長が決定する仕組みとなっている。

校長が緊急または特定の課題への対応を必要とする場合、リーダーシップを発揮し学校運営委員会の専門委員会を活用して機動的に対処する仕組みとなっている。

このように校長、3主事、委員会等の役割は明確であり、校長のリーダーシップの下で効果的な意思決定が行える体制となっている。

11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

(観点に係る状況)

管理運営を円滑に行うため、3主事、専攻科長、センター長、事務部長及び各学科教員等で構成する各種委員会(資料11-1-②-1)において、組織、自己点検・評価、人事、施設、教務、入学試験、教育システム等管理運営に関わる事項を審議している。審議結果等は、学校運営委員会及び教員会議に付議し、審議及び周知される。

事務組織は、平成19年4月より事務部長の下での庶務・会計・学生課の3課から、総務・学生課の2課体制に移行し、合理化・効率化を図った。事務組織及び事務分掌規則に則り、業務を適切に遂行するとともに(資料11-1-②-2, 3), 事務連絡会議を設置し、事務部の諸問題を討議し、結果を周知している(資料11-1-②-4)。

資料 11-1-②-1

### 各種委員会等の役割と運営状況

平成16年度以降各種委員会の見直しを行い現在の委員会は、下記のとおりである。今後は、さらに機動性を上げ効果的な運営になるよう運営委員会に集約できるものは運営委員会でを行い、その下に必要に応じ少人数で行うワーキングの立ち上げ等の改善を行っていく。

#### (1) 管理運営関連

##### 学校運営委員会

審議事項：重要な規則の制定・改廃、学籍、概算要求、学内の予算配分、教育研究組織及び施設整備の将来計画、学校行事に関すること。

構成：校長、3主事、専攻科長、図書館長、センター長(総合情報センター長および地域連携交流センター長)、科主任、事務部長

##### 教員会議

審議事項：入試判定、進級判定、各種委員会において審議した事項のうち校長が特に必要と認めた事項、その他校長が特に必要と認めた事項。

構成：全教員及び事務部長

##### 専攻科運営委員会

審議事項：専攻科の入学者選抜、教育課程の編成及び立案、専攻科の学生の学籍、進路、厚生補導(学生部委員会に付託)に関すること。

構成：専攻科長、教務主事、専攻主任、各学科専攻科担当教員各1名、一般文系1名、一般理系1名、学生課長、その他校長が必要と認めた者

##### 学科会議

##### 将来構想委員会

##### 組織検討委員会

##### 自己点検・評価実施委員会

##### 外部評価委員会

##### 予算委員会

##### 施設整備計画委員会

##### 教育システム委員会

##### 技術センター運営委員会

審議事項：技術職員の管理運営、業務、採用計画に関すること

(出典：自己点検・評価書)

## 大分工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程

制 定 平成 16 年 4 月 1 日  
改 正 平成 19 年 3 月 14 日

## 第 1 章 総則

第 1 条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則（平成 16 年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第 4 号）第 9 条及び大分工業高等専門学校学則第 11 条の規定に基づき、大分工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び事務分掌を定めることを目的とする。

## 第 2 章 事務組織

第 2 条 本校に事務部を置く。

第 3 条 事務部に総務課及び学生課を置く。

2 総務課に企画室を置く。

第 4 条 事務部に、事務部長を置き、事務職員をもって充てる。

2 事務部長は、校長の監督の下に、事務部の事務を掌理する。

第 5 条 課に課長を置き、事務職員をもって充てる。

2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理する。

第 6 条 課に課長補佐を置き、事務職員をもって充てる。

2 課長補佐は、課長を補佐し、課の事務を調整する。

第 7 条 企画室に企画室長を置き、課長補佐（総務担当）をもって充てる。

2 企画室長は、企画室の事務を調整する。

第 8 条 係に係長を置き、事務職員又は技術職員をもって充てる。

2 係長は上司の命を受け、係の事務を処理する。

3 係に主任を置くことができる。

4 主任は、事務職員又は技術職員をもって充て、高度の知識又は経験を必要とする事務に従事する。

第 9 条 事務部に技術専門員を置くことができる。

2 技術専門員は、技術職員をもって充て、極めて高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき、教育研究の支援のための技術開発及び技術業務並びに学生の技術指導を行うとともに、技術の継承及び保存並びに技術研修に関する企画及び連絡調整を行う。

3 技術専門員に関する選考基準は、別に定める。

第 10 条 事務部に技術専門職員及び技術職員を置く。

2 技術専門職員は、技術職員をもって充て、高度の専門的な技術を有し、その技術に基づき技術に関する業務を処理する。

3 技術専門職員に関する選考基準は別に定める。

## 第 3 章 所掌事務

第 11 条 総務課においては、次の事務をつかさどる。

- 一 諸規則の整備に関すること。
- 二 事務部の所掌事務に関し、連絡調整すること。
- 三 公文書類を接受し、発送し、編集し、及び保存すること。
- 四 公印を管守すること。
- 五 教職員の人事に関すること。
- 六 教職員の衛生・医療及び福利厚生に関すること。
- 七 図書館に関すること。
- 八 校内の警備に関すること。
- 九 予算に関すること。
- 十 収入・支出及び決算その他会計経理に関すること。
- 十一 不動産、物品及び債権の管理に関すること。
- 十二 奨学を目的とする寄附金の委任経理に関すること。
- 十三 共済組合に関すること。
- 十四 日本スポーツ振興センターの経理に関すること。
- 十五 施設・設備の維持及び管理に関すること。
- 十六 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しないこと。

第 12 条 学生課においては、次の事務をつかさどる。

- 一 教務に関すること。
- 二 学生の厚生補導に関すること。
- 三 寄宿舎に関すること。

#### 第4章 事務分掌

第13条 総務課に、その事務を処理させるため次の係を置く。

- 一 総務係
  - 二 人事係
  - 三 図書係
  - 四 企画係
  - 五 財務係
  - 六 用度係
  - 七 施設係
- 2 課長補佐（総務担当）は、次の事務をつかさどる。
- 一 総務課の所掌事務のうち総務に関する事務の総括及び連絡調整に関する事。
  - 二 評価に関する事。
- 3 課長補佐（財務担当）は、次の事務をつかさどる。
- 一 総務課の所掌事務のうち財務に関する事務の総括及び連絡調整に関する事。
  - 二 予算の要求及び決算の総括に関する事。
  - 三 外部監査に関する事。
  - 四 宿舍の管理に関する事。
- 6 総務係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 本校の事務に関し、総括及び連絡調整する事。
  - 二 組織及び機構に関する事。
  - 三 儀式、会議その他諸行事に関する事。
  - 四 渉外及び秘書事務に関する事。
  - 五 本校の規則等の法制に関する事。
  - 六 校長印、校印等公印の管守に関する事。
  - 七 文書の処理に関する事。
  - 八 学校広報、学校要覧等刊行物に関する事。
  - 九 科学研究費等の申請及び報告に関する事。
  - 十 教職員の出張に関する事。
  - 十一 内地研究員及び在外研究員に関する事。
  - 十二 情報開示に関する事。
  - 十三 事務情報化推進及び情報管理に関する事。
  - 十四 校内の警備及び取締に関する事。
  - 十五 電話の交換業務に関する事。
  - 十六 所掌事務の調査報告に関する事。
  - 十七 その他、他の課係の所掌に属さない事。
- 5 人事係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 教職員の任免、懲戒及び服務等に関する事。
  - 二 教職員の給与に関する事。（財務係の業務を除く。）
  - 三 教職員の人員管理に関する事。
  - 四 教職員の勤務評価に関する事。
  - 五 教職員の研修に関する事。
  - 六 教職員の勤務時間及び休暇に関する事。
  - 七 教職員の災害補償に関する事。
  - 八 退職手当に関する事。
  - 九 共済組合に関する事。
  - 十 教職員及び退職者の栄典及び表彰に関する事。
  - 十一 教職員の福利厚生及び健康管理に関する事。
  - 十二 労働組合に関する事。
  - 十三 人事記録に関する事。
  - 十四 教職員の身分証発行に関する事。
  - 十五 所掌事務の調査報告に関する事。
  - 十六 その他人事に関する事。
- 6 図書係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 図書・雑誌等の購入企画に関する事。
  - 二 図書の発注及び検収に関する事。
  - 三 図書の受入れ・整理及び保管に関する事。
  - 四 図書の閲覧、貸出に関する事。
  - 五 購入・寄贈その他による図書の受入れに関する事。
  - 六 図書目録の作成に関する事。
  - 七 図書予算の経理に関する事。
  - 八 図書の契約に関する事。
  - 九 文献、資料の収集に関する事。

- 十 文献の複写と相互利用に関する事。
  - 十一 図書広報及び紀要に関する事。
  - 十二 その他図書に関する事。
  - 7 企画係においては、次の事務をつかさどる。
    - 一 産学連携の受入れに関する事。
    - 二 外部資金の受け入れに関する事。
    - 三 公開講座に関する事。
    - 四 所掌事務の調査報告に関する事。
    - 五 その他地域連携に関する事。
  - 8 財務係においては、次の事務をつかさどる。
    - 一 財務事務の連絡調整に関する事。
    - 二 予算に関する事。
    - 三 収入、支出及び決算に関する事。
    - 四 会計の監査に関する事。
    - 五 会計の諸規程に関する事。
    - 六 会計機関の公印の管守に関する事。
    - 七 収入・支出の監査事務に関する事。
    - 八 会計機関の任免に関する事。
    - 九 資産の管理、処分及び計算証明に関する事。
    - 十 資金の管理に関する事。
    - 十一 計算証明（合計残高試算表等）に関する事。
    - 十二 現金及び有価証券の出納保管に関する事。
    - 十三 諸謝金に関する事。
    - 十四 科学研究費の経理及び委任経理に関する事。
    - 十五 日本スポーツ振興センターの給付金の支払に関する事。
    - 十六 旅費の経理に関する事。
    - 十七 給与等の支給及び所得税等の徴収に関する事。
    - 十八 退職手当の支出に関する事。
    - 十九 所掌事務の調査報告に関する事。
    - 二十 その他財務に関する事。
  - 9 用度係においては、次の事務をつかさどる。
    - 一 物品の管理に関する事。
    - 二 物品の調達及び修理に関する事。
    - 三 役務の契約等に関する事。
    - 四 寄付物品の受入れに関する事。
    - 五 防火管理に関する事。
    - 六 教職員の安全管理に関する事。
    - 七 構内の清掃及びその他の用務に関する事。
    - 八 自動車の運行、配車計画及び管理に関する事。
    - 九 所掌事務の調査報告に関する事。
    - 十 その他用度に関する事。
  - 10 施設係においては、次の事務をつかさどる。
    - 一 施設全般の企画設計及び営繕に関する事。
    - 二 工事の請負契約等に関する事。
    - 三 設計及び監理業務の委託に関する事。
    - 四 電気、電話、暖房、ガス等の設備及び管理保全に関する事。
    - 五 土地、建物、工作物及びその他の施設の維持保全に関する事。
    - 六 環境整備に関する事。
    - 七 施設台帳に関する事。
    - 八 所掌事務の調査報告に関する事。
    - 九 その他施設に関する事。
- 第14条** 学生課に、その事務を処理させるため、課長補佐及び次の3係を置く。
- 一 教育支援係
  - 二 学生支援係
  - 三 学生生活係
- 2 課長補佐は、次の事務をつかさどる。
- 一 学生課の所掌事務の総括及び連絡調整に関する事。
  - 二 教育課程の編成及び実施に係る専門的事項に関する事。
  - 三 入学者選抜方法に係る専門的事項に関する事。
  - 四 学生の修学指導に係る専門的事項に関する事。
  - 五 学生の学籍に係る専門的事項に関する事。
  - 六 外国人留学生の受入れに係る企画及び立案に関する事。

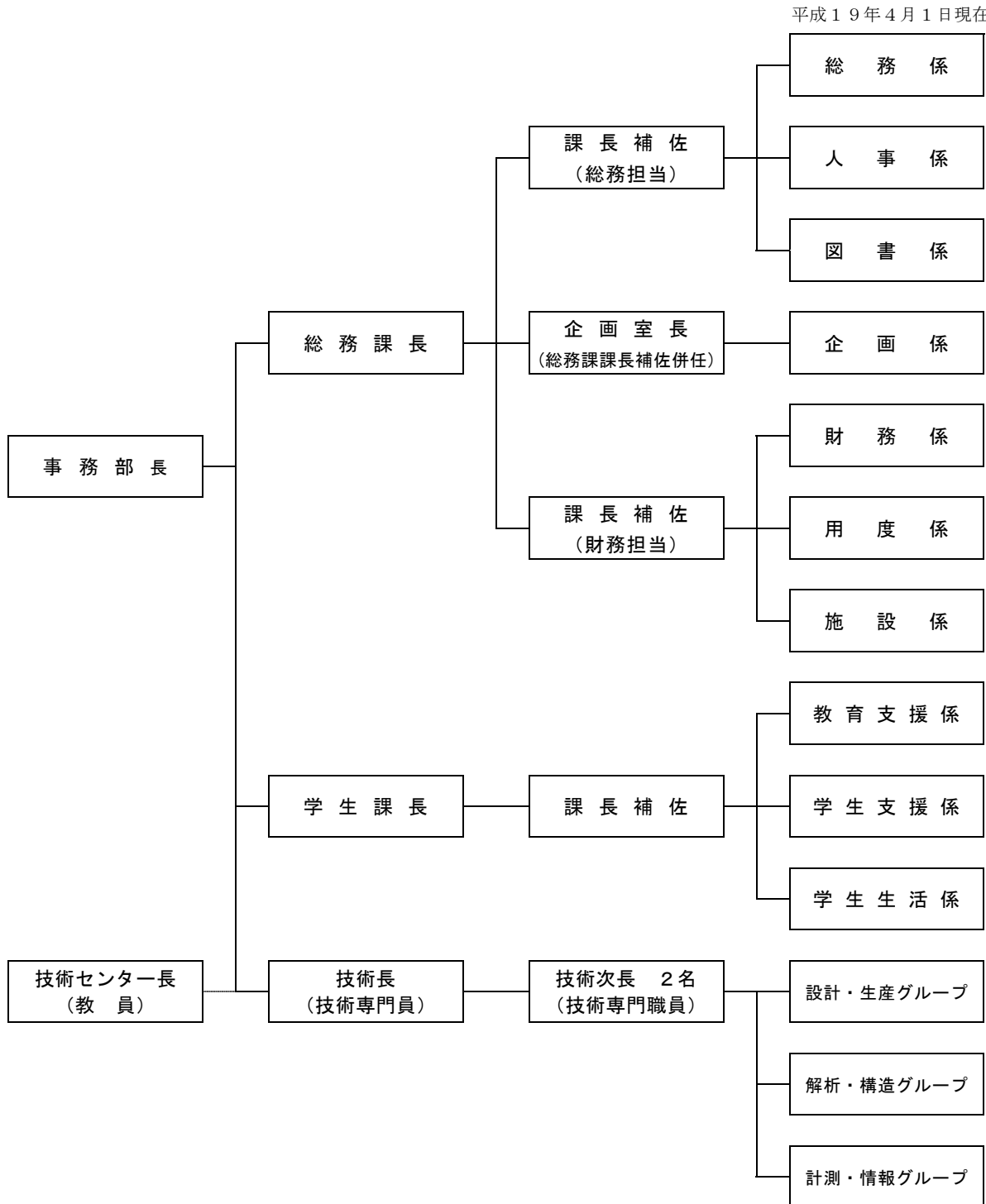
- 七 その他学務関係事務のうち重要な企画、調査並びに連絡調整に関する事。
- 3 教育支援係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 学生課の事務に関し、総括及び連絡調整すること。
  - 二 学生課の公印の管守に関する事。
  - 三 学生の募集及び入学者の選抜に関する事。
  - 四 教育課程の編成及び授業に関する事。
  - 五 試験及び成績に関する事。
  - 六 学生の入学、転科、進級及び卒業に関する事。
  - 七 学生の休学、復学、留学、転学及び退学に関する事。
  - 八 学業成績及び学生指導要録の管理に関する事。
  - 九 学生の欠席及び欠課等に関する事。
  - 十 大学への編入学に関する事。
  - 十一 外国人留学生の受入れに関する事。
  - 十二 聴講生、研究生及び科目等履修生に関する事。
  - 十三 視聴覚教室及びLL教室等教室の管理に関する事。
  - 十四 本校への編入学に関する事。
  - 十五 一般教科の事務に関する事。
  - 十六 教科書及び教材、教具に関する事。
  - 十七 学生の工場見学及び校外実習に関する事。
  - 十八 学業成績及び卒業等の証明に関する事。
  - 十九 所掌事務の調査報告に関する事。
  - 二十 その他、他の係の所掌に属さない事。
- 4 学生支援係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 学生の福利厚生に関する事。
  - 二 学生の保健管理に関する事。
  - 三 学生の課外活動に関する事。
  - 四 学生のオリエンテーションに関する事。
  - 五 校内の体育大会等の諸行事に関する事。
  - 六 学生の連合行事に関する事。
  - 七 学生の団体、集会、掲示及び出版物に関する事。
  - 八 学生の賞罰に関する事。
  - 九 福利施設及び合宿研修所に関する事。
  - 十 日本学生支援機構及びその他育英奨学に関する事。
  - 十一 入学料及び授業料等の免除及び徴収猶予に関する事。
  - 十二 学生の旅客運賃割引証に関する事。
  - 十三 学生の就職及びアルバイトに関する事。
  - 十四 日本スポーツ振興センターに関する事。
  - 十五 学生の諸証明（教育支援係及び生活支援係に関するものを除く。）に関する事。
  - 十六 所掌事務の調査報告に関する事。
  - 十七 その他学生の厚生補導に関する事。
- 5 学生生活係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 学寮の管理・運営に関する事。
  - 二 学生の入寮及び退寮に関する事。
  - 三 教員の学寮宿日直に関する事。
  - 四 寮生の生活指導に関する事。
  - 五 寮生の保健管理に関する事。
  - 六 寮生の福利厚生に関する事。
  - 七 学寮の諸経費の経理に関する事。
  - 八 寮生の給食に関する事。
  - 九 所掌事務の調査報告に関する事。
  - 十 その他寮務に関する事。
- 第15条** 第9条に定める技術専門員及び第10条に定める技術専門職員及び技術職員においては、技術センターの業務をつかさどる。
- 2 技術センターの業務については別に定める。
- 附 則**  
この規程は、平成16年4月1日から施行する。
- 附 則**  
この規程は、平成19年4月1日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料 11-1-②-3

事務機構図

平成19年4月1日現在



(出典：総務課資料)

資料 11-1-②-4

## 大分工業高等専門学校事務連絡会議要項

制 定 平成 16 年 4 月 1 日  
改 正 平成 19 年 3 月 14 日

- 1 大分工業高等専門学校の事務部における諸問題を討議し、各課・係間の意思の疎通と事務能率の向上をはかるために事務連絡会議（以下「会議」という。）を置く。
- 2 会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
  - 一 事務部長
  - 二 各課長
  - 三 各課課長補佐
  - 四 専門職員
  - 五 各係長
  - 六 技術次長の内 1 名
- 3 会議は、事務部長が招集しその議長となる。ただし、事務部長不在のときは、総務課長がその職務を代行する。
- 4 会議開催の通知は、原則として開催日の前日までに構成員に通知するものとする。
- 5 会議は原則として毎月 1 回、教員会議の翌日に開催するものとする。ただし、緊急の必要があるときは、臨時に開催することができる。
- 6 会議の事務は、総務課総務係で処理する。

## 附 則

この要項は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

## 附 則

この要項は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

管理運営に関する各種委員会の役割は、明確に規定され、分掌された事項毎に適切に活動している。審議結果は、学校運営委員会または教員会議に付議され、学校の意思決定となる。

事務組織及び事務分掌についても、事務部長の掌理の下、規定に従い適切に処理している。事務職員も、各種委員会の構成員や陪席者として、意思決定に参画している。

以上、管理運営に関する各種委員会及び事務組織は適切に役割を分担し、効果的に活動している。



観点 11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点に係る状況)

管理運営に必要な諸規定を制定しており、グループウェアに掲載し全教職員が閲覧できるように整備している(資料 11-1-③-1)。また、施設整備計画委員会、教員人事委員会及び予算委員会は、校長を委員長とするよう平成 19 年度に規程改正を行ったが、校長がリーダーシップをとり必要に応じた諸規定の改廃を行っている(資料 11-1-③-2)。

資料 11-1-③-1



(出典：グループウェア)

## 資料 11-1-③-2

## 規則等制定改廃一覧（平成 18・19 年）

年	番号	制定年月日	規則等番号	規 則 等 名 称
18	1	平成 18 年 01 月 12 日	細則 第 1 号	大分工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了等に関する内規
18	2	平成 18 年 01 月 12 日	細則 第 2 号	大分工業高等専門学校学生準則
18	3	平成 18 年 01 月 12 日	細則 第 3 号	大分工業高等専門学校学生の車両等使用に関する内規
18	4	平成 18 年 02 月 07 日	規則 第 1 号	大分工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則
18	5	平成 18 年 02 月 07 日	規程 第 1 号	大分工業高等専門学校各種委員会規程
18	6	平成 18 年 03 月 14 日	規則 第 2 号	大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラム履修規則
18	7	平成 18 年 03 月 14 日	規程 第 2 号	大分工業高等専門学校各種委員会規程
18	8	平成 18 年 03 月 14 日	細則 第 4 号	大分工業高等専門学校教務に関する申し合せ
18	9	平成 18 年 09 月 11 日	規則 第 3 号	大分工業高等専門学校地域連携交流センター規則
18	10	平成 18 年 09 月 11 日	規程 第 3 号	大分工業高等専門学校学校運営委員会規程
18	11	平成 18 年 09 月 11 日	規程 第 4 号	大分工業高等専門学校文書管理規程
18	12	平成 18 年 09 月 11 日	規程 第 5 号	大分工業高等専門学校知的財産取扱規程
18	13	平成 18 年 09 月 11 日	規程 第 6 号	大分工業高等専門学校名誉教授称号授与規程
18	14	平成 18 年 09 月 11 日	細則 第 5 号	大分工業高等専門学校地域連携交流センター利用内規
18	15	平成 18 年 09 月 11 日	細則 第 6 号	大分工業高等専門学校情報セキュリティーポリシー基本方針
18	16	平成 18 年 09 月 13 日	規則 第 4 号	大分工業高等専門学校学則
18	17	平成 18 年 10 月 25 日	規程 第 7 号	大分工業高等専門学校寄附金取扱規程
18	18	平成 18 年 09 月 13 日		大分工業高等専門学校における文部科学省電子入札システム官職証明書要項
18	19	平成 18 年 09 月 13 日		大分工業高等専門学校における文部科学省電子入札システムの運用要項
18	20	平成 18 年 10 月 31 日		日本学生支援機構高等専門学校奨学生大分工業高等専門学校推薦内規
19	1	平成 19 年 01 月 12 日	規則 第 1 号	大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラム履修規則
19	2	平成 19 年 01 月 12 日	規則 第 2 号	大分工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修等に関する規則
19	3	平成 19 年 01 月 12 日	細則 第 1 号	公欠に関する内規
19	4	平成 19 年 01 月 12 日	細則 第 2 号	公欠に関する申しあわせ
19	5	平成 19 年 01 月 18 日	規則 第 3 号	大分工業高等専門学校学則
19	6	平成 19 年 02 月 16 日	規則 第 4 号	大分工業高等専門学校総合情報センター規則
19	7	平成 19 年 02 月 16 日	細則 第 3 号	大分工業高等専門学校学生準則
19	8	平成 19 年 02 月 16 日	細則 第 4 号	大分工業高等専門学校総合情報センター利用内規
19	9	平成 19 年 02 月 20 日	規則 第 5 号	大分工業高等専門学校学則
19	10	平成 19 年 03 月 14 日	規則 第 6 号	大分工業高等専門学校専攻科規則
19	11	平成 19 年 03 月 14 日	規程 第 1 号	大分工業高等専門学校名誉教授称号授与規程
19	12	〃	〃	大分工業高等専門学校教員選考規程
19	13	〃	〃	大分工業高等専門学校技術センター規程
19	14	平成 19 年 03 月 14 日	規程 第 2 号	大分工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規程
19	15	平成 19 年 03 月 14 日	規程 第 3 号	大分工業高等専門学校各種委員会規程
19	16	〃	〃	大分工業高等専門学校予算委員会規程
19	17	平成 19 年 03 月 14 日	規程 第 4 号	大分工業高等専門学校学校運営委員会規程
19	18	〃	〃	大分工業高等専門学校教員会議規程
19	19	〃	〃	大分工業高等専門学校将来構想委員会規程
19	20	〃	〃	大分工業高等専門学校文書管理規程
19	21	〃	〃	大分工業高等専門学校文書処理規程
19	22	〃	〃	大分工業高等専門学校文書決裁規程
19	23	〃	〃	大分工業高等専門学校公印規程
19	24	〃	〃	大分工業高等専門学校規則等の制定改廃に関する規程
19	25	〃	〃	大分工業高等専門学校職員会館の運営等に関する規程
19	26	〃	〃	大分工業高等専門学校知的財産権取扱規程
19	27	〃	〃	大分工業高等専門学校安全衛生管理規程
19	28	〃	〃	大分工業高等専門学校教育功労者表彰規程
19	29	〃	〃	大分工業高等専門学校における会計機関の補助者の指定に関する規程
19	30	〃	〃	大分工業高等専門学校不動産管理規程
19	31	〃	〃	大分工業高等専門学校自家用電気工作物保安規程
19	32	〃	〃	大分工業高等専門学校防火管理規程
19	33	〃	〃	大分工業高等専門学校自衛消防隊組織規程
19	34	〃	〃	大分工業高等専門学校毒物及び劇物取扱規程
19	35	〃	〃	大分工業高等専門学校物品管理事務取扱規程
19	36	〃	〃	大分工業高等専門学校授業料等免除及び徴収猶予取扱規程
19	37	〃	〃	大分工業高等専門学校入学科免除及び徴収猶予取扱規程

19	39	平成19年03月14日	細則 第5号	大分工業高等専門学校福祉施設利用細則
19	40	"	"	大分工業高等専門学校における校外実習、課題学修及び特別学修に関する細則
19	41	"	"	大分工業高等専門学校部課長会議内規
19	42	"	"	大分工業高等専門学校におけるセクシュアル・ハラスメントの防止等に関する内規
19	43	"	"	大分工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了等に関する内規
19	44	"	"	大分工業高等専門学校公欠に関する内規
19	45	"	"	大分工業高等専門学校合宿研修所使用内規
19	46	"	"	大分工業高等専門学校学生の車両等使用に関する内規
19	47	"	"	大分工業高等専門学校非常勤講師雇用基準の一部を改正する基準
19	48	"	"	大分工業高等専門学校懇話会要項
19	49	"	"	大分工業高等専門学校外部評価委員会要項
19	50	"	"	大分工業高等専門学校事務連絡会議要項
19	51	"	"	大分工業高等専門学校校報発行に関する要項
19	52	"	"	大分工業高等専門学校ホームページ運用要項
19	53	"	"	大分工業高等専門学校職員の財形貯蓄等関係事務取扱要項
19	54	"	"	大分工業高等専門学校内地研究員制度実施要項
19	55	"	"	大分工業高等専門学校図書館一般利用者利用要項
19	56	"	"	大分工業高等専門学校図書館運営委員会図書部会要項
19	57	"	"	大分工業高等専門学校不動産貸付取扱要項
19	58	"	"	大分工業高等専門学校科学研究費補助金経理事務取扱要項
19	59	"	"	大分工業高等専門学校競争参加資格等審査委員会要項
19	60	"	"	大分工業高等専門学校公正入札調査委員会要項
19	61	"	"	大分工業高等専門学校建設コンサルタント選定委員会要項
19	62	"	"	大分工業高等専門学校における寄付金に係る管理運営経費取扱要項
19	63	"	"	大分工業高等専門学校における文部科学省電子入札システム官職証明書要項
19	64	"	"	大分工業高等専門学校における文部科学省電子入札システム運用要項
19	65	"	"	学術雑誌への投稿取扱要領
19	66	"	"	大分工業高等専門学校教員連絡協議会要項
19	67	"	"	大分工業高等専門学校学生準則
19	68	"	"	大分工業高等専門学校債権の発生等通知事務取扱要領
19	69	"	"	大分工業高等専門学校教務に関する申し合わせ
19	70	"	"	学生の施設設備使用に関する申し合わせ
19	71	"	"	制服及び徽章の制式
19	72	"	"	大分工業高等専門学校水泳プール使用心得
19	73	"	細則 第6号	大分工業高等専門学校苦情相談に関する申し合わせ
19	74	"	細則 第7号	大分工業高等専門学校就職斡旋内規
19	75	"	細則 第8号	大分工業高等専門学校学寮宿日直細則
19	76	"	"	大分工業高等専門学校学寮内規
19	77	平成19年03月14日	細則 第9号	大分工業高等専門学校における危機管理に関する要項の制定
19	78	平成19年03月14日	細則 第10号	大分工業高等専門学校情報セキュリティポリシー対策基準の制定
19	79	平成19年03月14日	細則 第11号	大分工業高等専門学校事務情報化推進室内規の廃止
19	80	"	"	大分工業高等専門学校事務情報化推進部会要項の廃止
19	81	"	"	文部科学省共済組合大分工業高等専門学校支部事務取扱要項の廃止
19	82	平成19年04月05日	規程 第3号	大分工業高等専門学校自動車運用管理規程
19	83	平成19年04月05日	細則 第12号	大分工業高等専門学校特任教授設置要項の制定
19	84	平成19年04月05日	細則 第13号	大分工業高等専門学校ホームページに関する申合せの制定
19	85	平成19年04月05日	細則 第14号	大分工業高等専門学校ホームページ運用要項の廃止
19	86	平成19年05月08日	細則 第15号	大分工業高等専門学校学業成績の評価及び課程修了等に関する内規
19	87	平成19年05月08日	細則 第16号	大分工業高等専門学校教務に関する申合せ

(出典：総務課資料)

(分析結果とその根拠理由)

管理運営に必要な委員会規則や事務組織及び事務分掌規程等を整備しており、校長がリーダーシップを取れるよう必要に応じた改廃を行っている。

**観点 11-2-①：** 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

教育研究活動と学校運営に対する評価、助言を受けるため外部有識者による外部評価委員会(資料 11-2-①-1)を5年毎に実施している。

平成19年3月に実施された外部評価委員会で各委員から提出された意見のうち、改善指摘事項(資料 11-2-①-2)については、対応に着手し管理運営に反映させている。校長のリーダーシップに対する指摘から重要委員会の委員長を校長に変更した他(資料 11-2-①-3)、ホームページのリニューアルも行い、委員会の見直しも今年度中に行う予定である。

外部評価結果は、自己点検・評価実施委員会で総括し、結果を校長に報告後、関係委員会に付議することとした。さらに、管理運営上の改善点については、学校運営委員会の専門委員会に付議し、検討を始めている(資料 11-2-①-4)。

### 資料 11-2-①-1

#### 大分工業高等専門学校外部評価委員会要項

制 定 平成16年 4月 1日  
改 正 平成19年 3月 14日

(設置及び目的)

**第1条** 大分工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、本校の自己点検及び評価の結果について、職員以外の者による検証を行うため大分工業高等専門学校外部評価委員会(以下「外部評価委員会」という。)を置く。

(組織)

**第2条** 外部評価委員会は、次の各号の委員をもって組織する。

- 一 大分大学工学部長
- 二 大分県中学校長会から若干名
- 三 大学等高等教育機関から若干名
- 四 産業界から若干名

(委員の委嘱)

**第3条** 委員は、校長が委嘱する。

(学内出席者)

**第4条** 外部評価委員会への学内出席者は、次の各号による。

- 一 校長
- 二 自己点検・評価実施委員会委員
- 三 校長が指名する者

(事務)

**第5条** 外部評価委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(その他)

**第6条** この要項に定めるもののほか、外部評価委員会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

**附 則**

この要項は、平成16年 4月 1日から実施する。

**附 則**

この要項は、平成19年 4月 1日から実施する。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

資料 11-2-①-2

外部評価委員の意見（抜粋）

○「管理運営について、高専の法人化に際し、所期の目的を達成するため、さらに一層、管理運営の重要事項である、予算、人事、施設を中心に、校長のリーダーシップを発揮しているような体制が整備されるよう期待します。」

（江崎 忠男委員（大分大学工学部長）の意見）

○「教員数に比して委員会の数が多い。教員の管理運営業務の負担を軽減するためにも、各委員会の位置づけを明らかにするとともに、委員会の統合、廃止も含めた委員会システムの見直しが必要と思われる。」

（小林 敏弘委員（九州工業大学工学部長）の意見）

○「メディア（新聞・テレビ）等をもっと利用して、知名度のUP、研究・成果の報告を積極的にPR・広報活動することを提案する。」

（石井 四郎委員（株式会社デンケン代表取締役社長）の意見）

（出典：外部評価報告書）

資料 11-2-①-3

大分工業高等専門学校各種委員会規程及び大分工業高等専門学校予算委員会規程一部改正新旧対照表

新						旧					
大分工業高等専門学校各種委員会規程 (略)						大分工業高等専門学校各種委員会規程 (略)					
別表 大分工業高等専門学校各種委員会						別表 大分工業高等専門学校各種委員会					
番号	委員会名	審議事項	組織	委員長	庶務担当	番号	委員会名	審議事項	組織	委員長	庶務担当
(略)						(略)					
22	施設整備計画委員会	1 学校運営委員会の諮問に基づき、学校施設の整備及びその利用計画等に関すること。 2 本校施設の活用状況等の調査・評価に関すること。 3 その他施設の利活用に関すること。	1 校長 2 機械工学科，電気電子工学科，制御情報工学科，都市システム工学科の教員各1名 3 一般科目の文科系の教員1名 4 一般科目の理科系の教員及び基礎専門の教員から1名 5 事務部長 6 総務課長及び学生課長 7 その他校長が必要と認めた者	校長	施設係	24	施設整備計画委員会	1 学校運営委員会の諮問に基づき、学校施設の整備及びその利用計画等に関すること。 2 本校施設の活用状況等の調査・評価に関すること。 3 その他施設の利活用に関すること。	1 機械工学科，電気電子工学科，制御情報工学科，都市システム工学科の教員各1名 2 一般科目の文科系の教員1名 3 一般科目の理科系の教員及び基礎専門の教員から1名 4 事務部長 5 会計課長 6 その他校長が必要と認めた者	校長が指名する者	総務係
(略)						(略)					
24	教員人事委員	1 教員の人事計画に関すること。	1 校長 2 教務主事 3 機械工学科，	校長	人事係	26	教員人事委員	1 教員の人事計画に関すること。	1 教務主事 2 機械工学科，電気電子工学	教務主事	人事係

会	2 その他校長が必要と認めたこと。	電気電子工学科、制御情報工学科及び都市システム工学科の教授各1名 4 一般科目の文科系の教授1名 5 一般科目の理科系の教授及び基礎専門の教授から1名 6 その他校長が必要と認めた者		
(略)				

会	2 その他校長が必要と認めたこと。	科、制御情報工学科及び都市システム工学科の教授各1名 3 一般科目の文科系の教授1名 4 一般科目の理科系の教授及び基礎専門の教授から1名 5 校長（必要に応じ） 6 その他校長が必要と認めた者		
(略)				

大分工業高等専門学校予算委員会規程

(略)

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

一 校長

二 機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科及び都市システム工学科の教員各1名

三 一般科目の文科系の教員1名

四 一般科目の理科系及び基礎専門の教員から1名

五 事務部長

六 総務課長

2 前項第二号から第四号までの委員は、校長が指名する。

(委員の任期)

第3条 前条第二号から第四号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合は、校長が後任者を指名し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長が指名した者が議長の職務を代行する。

(審議事項)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

一 予算配分の基本方針に関すること。

二 各年度の予算配分(案)の作成に関すること。

三 その他予算に関すること

(略)

(削る)

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、総務課財務係において処理する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

大分工業高等専門学校予算委員会規程

(略)

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

一 機械工学科、電気電子工学科、制御情報工学科及び都市システム工学科の教員各1名

二 一般科目の文科系の教員1名

三 一般科目の理科系及び基礎専門の教員から1名

四 事務部長

五 会計課長

2 前項第一号から第三号までの委員は、校長が指名する。

(委員の任期)

第3条 前条第一号から第三号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じた場合は、校長が後任者を指名し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員長は、校長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長が指名した者が議長の職務を代行する。

(審議事項)

第5条 委員会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項について審議する。

一 予算配分の基本方針に関すること。

二 各年度の予算配分(案)の作成に関すること。

三 その他予算に関すること

(略)

(報告)

第8条 委員長は、委員会の審議結果を校長に報告するものとする。

(事務)

第9条 委員会に関する事務は、会計課総務係において処理する。

(出典：学校運営委員会資料)

## 資料 11-2-①-4

## 平成19年度第1回第1専門委員会議事概要

日 時 平成19年4月19日（木）午後4時20分～午後6時5分  
 場 所 会議室  
 出席者 大城校長，吉澤教務主事，清水専攻科長，福永地域連携交流センター長，高橋特任教授，佐藤（秀）教授，前田事務部長  
 列席者 総務課長，総務課課長補佐（総務担当），総務係長

## 議題1 機構本部による校長ヒアリングへの対応について

校長から，次のことについて説明があった。

- ・ヒアリングが5月14日（月）に決まったこと。
- ・魅力ある高専の構築に向けて（平成18年11月30日付け高専機構本部理事長通知）での3つのケースのうち，従来どおりケース③の改革でもってヒアリングに臨むこと。
- ・本校の教員と地域社会や企業が双方向で連携すること。特に，企業から本校へのベクトルが重要であること。
- ・斬新な改革案が必要なこと。
- ・質の高い学生の確保と産学官の連携も必要なこと。

続いて改革の構想について委員から次のような提案があった。

- ・卒業生とのネットワーク（交流）  
卒業生は，自分の技術力の説明機会を探している者が多い。これらの卒業生を組織化して本校のために協力してもらおう。
- ・長期インターンシップ  
長期インターンシップは，カリキュラムの改革が不可欠となる。次期中期計画での実施の可能性を探る必要がある。
- ・大学との連携  
豊橋技術科学大学や長岡技術科学大学だけでなく，他の大学の単位互換も含めた協定が必要である。
- ・テクノロジーカフェ  
企業の技術者が学生に講演する。ただし，講演時間は短くし，ディスカッションを長くする。定期的に実施し，学生とのコミュニケーションを高める。第2の非常勤講師群として位置づける。
- ・専攻科の充実  
2専攻を1専攻にし，4つのコースに区分する。土木系と機械系を関連付けた専攻科設置時の無理を解消できる。  
高専全体の大学進学率は45%，本校の大学進学率は40%弱。本校専攻科志望者の増加が必要である。よって，教育内容の充実は不可欠である。  
専攻科生と本科生の教育環境等の区別を明確にし，教育効果を高める。  
ケース③でも専攻科の充実を図る。
- ・その他  
経済格差が教育格差に連動しない教育を目指す。

## 議題2 管理運営上検討すべき課題について

外部評価委員会委員からの意見を今後の管理運営に反映させることを確認し，今後，本委員会で検討することとした。特に，企画力の強化を図ることになった。ただし，既存の委員会等の役割分担が不明確にならないよう配慮することになった。

## 議題3 平成20年度概算要求（特別教育研究費）申請について

第2専門委員会プロジェクトワーキンググループが作成した平成20年度概算要求申請書（特別教育研究費）は，図書館の改修計画と場所が競合していることから，高専機構本部に問い合わせ，その上で要求を判断することになった。

## その他

次回は，4月25日（水）午後4時20分からの開催とした。

（出典：第1専門委員会資料）

## （分析結果とその根拠理由）

外部評価委員会を開催し，指摘事項の改善に直ちに着手しており，外部有識者の意見を管理運営に反映させている。

観点 11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の現状と取組みに対して学校の目的、学生の受入及び進路、教育方法、管理運営等について総合的に点検評価し、自己点検・評価書を作成した（資料 11-3-①-1）。外部評価委員会では、これを基に点検評価を行い、評価結果は外部評価報告書（資料 11-3-①-2）としてまとめ、自己点検・評価書とともに全教職員及び関係機関に配布し、広く一般社会にも公表した（資料 11-3-①-3）。

平成 17 年には日本技術者教育認定機構（JABEE）認定を受けるための自己点検を実施し、所定の第三者による認定審査が実施され、平成 17 年度からシステムデザイン工学プログラムが JABEE に認定され、この状況は Web 上に公表している（資料 11-3-①-4）。

平成 18 年 2 月には、今後の技術教育のあり方についての提言を受ける目的で、大分高専技術教育推進会議を開催し、外部有識者から意見を聞き、概要を冊子（資料 11-3-①-5）にまとめ、全教職員及び関係機関に配布した。

資料 11-3-①-1

## 自己点検・評価書

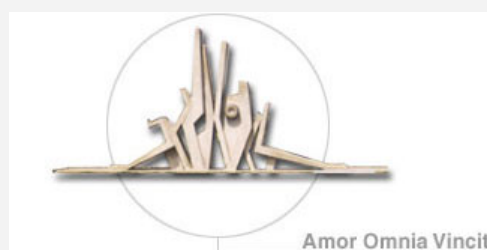


平成 19 年 2 月  
大分工業高等専門学校

（出典：自己・点検評価書）

資料 11-3-①-2

## 平成 18 年度 外部評価報告書



平成 19 年 5 月  
大分工業高等専門学校

（出典：外部評価報告書）

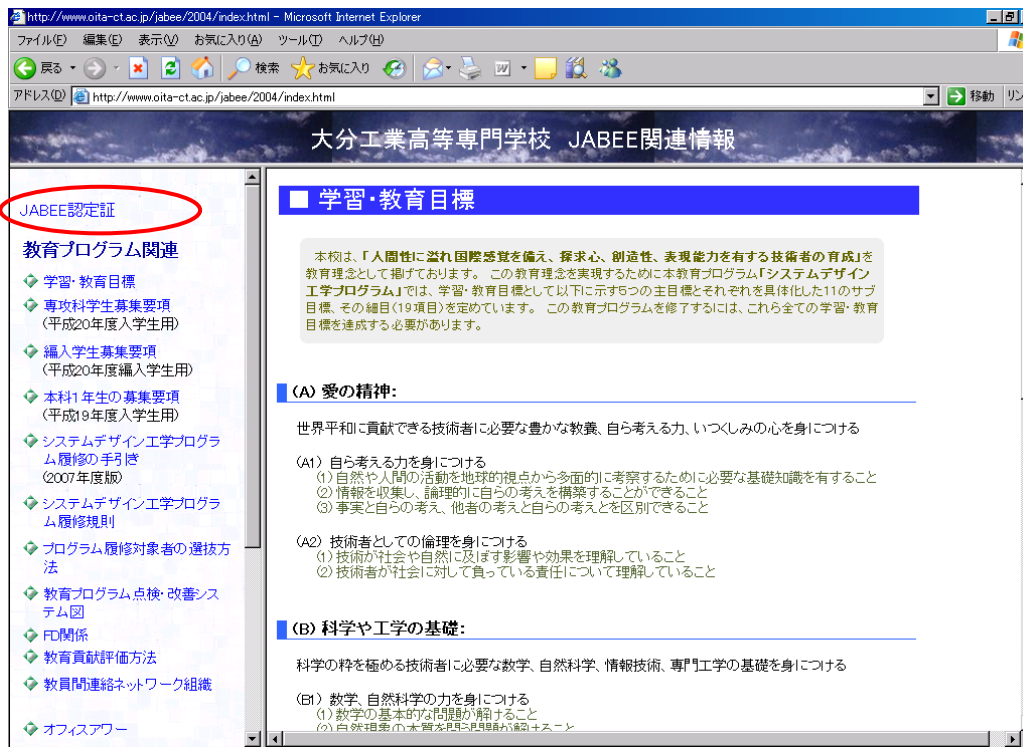


資料 11-3-①-3



(出典：Web ページ)

資料 11-3-①-4



(出典：Web ページ)

資料 11-3-①-5

「技術教育に関する卒業生アンケート」調査報告書

2006年3月

大分工業高等専門学校

(出典：「技術教育に関する卒業生アンケート」調査報告書)

(分析結果とその根拠理由)

運営上の総合的項目について行った自己点検・評価書を基に外部評価がなされ、結果を印刷物やWebで公表していることから、自己点検・評価（や第三者評価）が学校活動の総合的な状況に対して行われ、それらの評価結果が公表されている。

観点 11-3-②： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況)

学校運営委員会、教員会議及び各種委員会は、校長の諮問に応じ各事項についての審議を行うこととなっている(資料 11-3-②-1)。

外部評価結果は、自己点検・評価実施委員会で総括し、結果は即座に校長に報告され、校長の発意により関係の各種委員会に指摘事項を付議することとした。管理運営上の改善点については、学校運営委員会の専門委員会に付議し(資料 11-2-①-4)、直ちに改善に向けた検討を始め、その結果は、校長のリーダーシップ発揮のための委員会規程改正やホームページのリニューアル等として現れている。

#### 資料 11-3-②-1

#### 大分工業高等専門学校学校運営委員会規程 (抜粋)

制 定 平成 16 年 4 月 1 日

第 5 条 運営委員会は、校長が本校運営上必要と認め諮問した次の各号に掲げる事項について審議する。

- 一 学則等重要な規則の制定及び改廃に関すること。
- 二 学生の入学、退学及び卒業等の学籍に関すること。
- 三 概算要求及び学内の予算配分に関すること。
- 四 教育研究、組織及び施設設備の将来計画に関すること。
- 五 学校行事に関すること。
- 六 その他本校の管理運営に関すること。

(省略)

(専門委員会)

- 第 8 条 運営委員会に、特定の事項を調査・検討するため、専門委員会を置くことができる。
- 2 専門委員会は、担当する事項について調査研究を行い、その具体案について検討し運営委員会に報告するものとする。
  - 3 専門委員会委員は校長が指名する。
  - 4 その他、専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

#### 大分工業高等専門学校教員会議規程 (抜粋)

制 定 平成 16 年 4 月 1 日

- 第 4 条 教員会議は校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項を審議する。
- 一 各種委員会において審議した事項のうち、校長が特に必要と認めた事項
  - 二 その他校長が必要と認めた重要な事項

#### 大分工業高等専門学校各種委員会規程 (抜粋)

制 定 平成 16 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 大分工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、本校の教育研究及び管理運営を円滑に行うため、別表に掲げる委員会を置く。

(審議事項、組織、委員長及び庶務)

第 2 条 委員会の審議事項、組織、委員長及び庶務は、別表のとおりとする。

(出典：大分工業高等専門学校規則集)

(分析結果とその根拠理由)

評価結果を受けて改善が可能なものは既の実施し、他の指摘事項についても早急に検討を開始しており、評価結果がフィードバックされている。従って学校の目的達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

外部評価委員からの改善事項について早急な改善と検討を行っており、校長のリーダーシップの下、対応策を各種委員会で速やかに検討し、実施する体制になっている。

(改善を要する点)

個々の懸案事項に対して各種委員会は、十分機能しているが、各委員会を有機的に連携し、学校全体として企画立案する機能がやや弱く、総合的企画立案力を強化する必要がある。

## (3) 基準11の自己評価の概要

3主事は、分掌事項を処理し、校長を補佐している。管理運営に関する学校運営委員会、教員会議、専攻科運営委員会及び各種委員会の役割が明確であり、効果的に機能している。

事務組織についても規則に則り事務を司っており、学校の円滑な運営に貢献している。

さらに5年毎に自己点検評価を行い、外部評価委員会を開催しており、評価結果を広く公表し、速やかな改善に努力し、実行している。このように、外部有識者の意見を管理運営にフィードバックする体制が整い有効に運営されている。